

大原堀遺跡発掘調査報告

—第2・3次調査—

2008(平成20)年3月

三重県埋蔵文化財センター



AⅢ地区 全景(上層)(北から)



AⅢ地区 全景(下層)(北から)



S X50 (北から)



S X44 (北から)



S X38 (北から)



出土縄文土器



朱付着の石



下呂石使用石器

序

本書で報告する大原堀遺跡は、県下有数の大河である櫛田川の流域に所在します。櫛田川の流域は、人々の生活の場として長らく利用され、その営為の跡は旧石器時代にまで遡ります。中でも大原堀遺跡が所在する中流域は、縄文遺跡の分布密度が高い地域として知られ、この度の調査でも、晩期の土器棺墓を中心とした埋葬遺構がまとまって確認されました。また、活発な地域間交流を示す遠隔地からの搬入土器や、赤色顔料の付着した土器や石器も出土しています。この時期は、1万年以上続いたと考えられている縄文時代の終末期にあたり、採集社会から農耕社会へと社会構造が変化していく転換期でもあります。このような転換期の社会動向や精神生活・文化を僅かながらも復元できる資料がこの度の調査によって得られました。これらの資料は、我々の祖先が辿った長い歴史のほんの1コマを表しているに過ぎないかもしれませんが、しかし、この1コマの積み重ねが歴史であり、どれ1つ欠くことのできない、かけがえの無い歴史遺産と言えましょう。

今回報告するのは、松阪市に所在する大原堀遺跡の第2次・第3次調査の記録であります。本書が、今後の縄文時代研究、ひいては郷土に残された貴重な歴史遺産を未来に伝える一助となれば幸いと存じます。なお、末筆ながら、現地調査や報告書作成に際し、ひとかたならぬご理解とご協力をいただいた多くの関係者の方々に心から深謝し、厚くお礼申し上げます。

2008(平成20)年3月

三重県埋蔵文化財センター

所長 吉水康夫

例 言

- 1 本書は、三重県松阪市広瀬町字大原堀・西大原堀・山ノ下に所在する大原堀（おはらぼり）遺跡の第2・3次発掘調査報告書である。
- 2 本書が扱う発掘調査の原因事業は、平成14・15年度中山間事業（茅江地区）広瀬工区下茅原ほ場整備事業である。
- 3 調査は下記の体制で実施した。

第2次調査	調査主体	三重県教育委員会
	調査担当	三重県埋蔵文化財センター
		調査研究グループ 小山憲一 川崎志乃 小倉 整（研修員）
	作業委託	安西工業株式会社
第3次調査	調査主体	三重県教育委員会
	調査担当	三重県埋蔵文化財センター
		調査研究Ⅱグループ 小山憲一 大村伸一（研修員）
	作業委託	株式会社中部日本鉱業研究所

- 4 本書が対象とした実調査面積は、以下のとおりである。
第2次調査：3,820㎡（内、下層1,630㎡） 第3次調査：800㎡（内、下層400㎡）
- 5 本書が対象とした現地調査期間は、以下のとおりである。
第2次調査：平成14年7月9日～平成14年12月24日
第3次調査：平成15年6月16日～平成15年8月11日
- 6 調査にかかる諸費用は、三重県農林水産商工部が負担した。
- 7 本書が扱う発掘調査の資料並びに出土遺物等は、三重県埋蔵文化財センターが保管している。
- 8 本書の執筆は小山憲一・川崎志乃・小瀨 学・大下 明・久保勝正が行い、編集は小瀨が行った。執筆の分担は目次と文末に明記している。遺構の写真撮影は小山・川崎が、遺物の写真撮影は、小瀨・酒井巳紀子が行った。なお、剥片石器の実測については、鯛アルカに委託した。
- 9 本書で使用した地図類は、国土地理院発行の1/25,000地形図、松阪市都市計画図、三重県農林水産商工部作成の事業計画図である。
- 10 本書で示す方位は、座標北を用いた。座標は国土調査法の日本測地系による座標第VI系（日本測地系）を用いた。この座標北は磁針方位が西偏6度54分、真北方位は西偏0度16分である（平成10年）。
- 11 本書では、下記の遺構表示略記号を用いた。なお、算用数字のみで表記した遺構は掲載遺物が出土したピット番号を示している。また、遺構図版中で「S」と表記した部分は石を示している。
S H：壁穴住居 S B：掘立柱建物 S X：土器棺墓・土壙墓 SK：土坑・集石土坑 S D：溝
S Z：落ち込み S S：立石・配石 SA：柱列 Pit：柱穴・小穴
- 12 本書で使用する用語は、以下に統一している。
どこうぼ：土壙墓 どこう：土坑 つぼ：壺 わん：碗 なべ：鍋
- 13 本書で表記する色調は、小山正忠・竹原秀雄編「新版標準土色帖」（21版、日本色研事業株式会社、1998年）に準拠した。
- 14 挿図と写真図版の遺物番号は相互に対応している。なお、遺物の写真図版は縮尺不同である。
- 15 石器・石製品の石材鑑定は、津村善博氏及び鯛アルカによる。
- 16 発掘調査及び本書の作成に際しては、下記の方々にご指導・ご協力をいただいた（敬称略・五十音順）。
大下 明・奥 義次・川添和暁・久保勝正・津村善博

本文目次

I	前 言	(小山憲一)	1
II	位置と環境	(小山憲一)	6
III	遺 構		
1	A I 地区	(川崎志乃)	10
2	A II 地区	(川崎志乃)	11
3	A IV 地区	(川崎志乃)	11
4	A III 地区	(小山憲一)	13
5	B I 地区	(小山憲一)	32
6	B II 地区	(小山憲一)	40
7	C I 地区	(川崎志乃)	41
8	C II 地区	(川崎志乃)	41
9	D 地区	(川崎志乃)	41
IV	遺 物		
1	土器・土製品・陶磁器		
(1)	A I 地区	(川崎志乃)	45
(2~4)	A III 地区	(小瀨 学)	45
(5)	B I 地区	(小瀨 学)	85
(6)	B II 地区	(小瀨 学)	95
2	石器・石製品	(大下明・久保勝正)	124
V	自然科学分析	(バリノ・サーヴェイ株式会社)	196
VI	結 語		
1	大原堀遺跡の検出遺構群と縄文時代晩期の埋葬遺構	(小山憲一)	200
2	大原堀遺跡出土縄文土器群の様相と傾向	(小瀨 学)	207
3	大原堀遺跡出土石器群の傾向と分析	(大下明・久保勝正)	209
4	自然科学分析結果からえられた知見	(小瀨 学)	223
5	総括	(小瀨 学)	223

插图目次

第1图 調査区周辺地形図	2	第51图 AⅡ地区第1 検出面 S K12・13・16・23・51・57 出土遺物実測図	59
第2图 調査区位置図	4	第52图 AⅡ地区第1 検出面 S K17・18・19・20・22・24・26・ 27・36・49・53・55・56・S X25出土遺物実測図	60
第3图 遺跡位置図	8	第53图 AⅡ地区第1 検出面 S H11・P1・t 出土遺物実測図	61
第4图 AⅠ地区平面図	10	第54图 AⅡ地区第1 検出面 P1・t 出土遺物実測図	62
第5图 AⅠ地区西壁土層断面図	11	第55图 AⅡ地区第1 検出面 上包含層出土遺物実測図1	63
第6图 S BⅠ平面図・断面図	11	第56图 AⅡ地区第1 検出面 上包含層出土遺物実測図2	64
第7图 AⅡ地区トレンチ配置図・土層断面図	12	第57图 AⅡ地区第1 検出面 上包含層出土遺物実測図3	65
第8图 AⅣ地区平面図・土層断面図	12	第58图 AⅡ地区第1 検出面 上包含層出土遺物実測図4	66
第9图 AⅡ地区第1 検出面遺構平面図	14	第59图 AⅡ地区第1 検出面 上包含層出土遺物実測図5	67
第10图 AⅡ地区第2 検出面遺構平面図	15	第60图 AⅡ地区第1 検出面 上包含層出土遺物実測図6	68
第11图 AⅡ地区第3 検出面遺構平面図	16	第61图 AⅡ地区第1 検出面 上包含層出土遺物実測図7	69
第12图 AⅡ地区土層断面図	17	第62图 AⅡ地区第1 検出面 S K66・68・69・71・ 73・74・76・77・83・84・86・S X85出土遺物 実測図	78
第13图 S X25・28平面図・断面図	18	第71图 AⅡ地区第2・3 検出面 P1・t 出土遺物実測図	79
第14图 S X29・30・31・46・59平面図・断面図	19	第72图 AⅡ地区第2・3 検出面 上包含層出土遺物実測図1	80
第15图 S X38・39・40・41・平面図・断面図	20	第73图 AⅡ地区第2・3 検出面 上包含層出土遺物実測図2	81
第16图 S X42・43・44平面図・断面図	21	第74图 AⅡ地区第2・3 検出面 上包含層出土遺物実測図3	82
第17图 S X14・37・50平面図・断面図	22	第75图 BⅠ地区 S K98・100出土遺物実測図	83
第18图 S X15・32・33・45・48・54・60平面図・断面図	23	第76图 BⅠ地区 S Z104・106出土遺物実測図1	84
第19图 S K56, S S61~65平面図・断面図	24	第77图 BⅠ地区 S Z104・106出土遺物実測図2	85
第20图 S H11平面図・断面図	25	第78图 BⅠ地区 S Z104・106出土遺物実測図3	86
第21图 S K83平面図・断面図	26	第79图 BⅠ地区 S K105出土遺物実測図	87
第22图 S K84平面図・断面図	27	第80图 BⅠ地区包含層出土遺物実測図1	88
第23图 S X70・81・82・85平面図・断面図	28	第81图 BⅠ地区包含層出土遺物実測図2	89
第24图 S K73・77平面図・断面図	29	第82图 BⅠ地区包含層出土遺物実測図3	90
第25图 BⅠ地区第1 検出面遺構平面図	33	第83图 BⅡ地区出土遺物実測図1	91
第26图 BⅠ地区第2 検出面遺構平面図	34	第84图 BⅡ地区出土遺物実測図2	92
第27图 BⅠ地区土層断面図	35	第85图 BⅡ地区出土遺物実測図3	94
第28图 S K100平面図・断面図	35	第86图 出土石器・石製品実測図1	128
第29图 S B108平面図・断面図	36	第87图 出土石器・石製品実測図2	129
第30图 S K91・95平面図・断面図	36	第88图 出土石器・石製品実測図3	130
第31图 BⅡ地区第1 検出面遺構平面図	37	第89图 出土石器・石製品実測図4	131
第32图 BⅡ地区第2 検出面遺構平面図	38	第90图 出土石器・石製品実測図5	132
第33图 BⅡ地区土層断面図	39	第91图 出土石器・石製品実測図6	134
第34图 S A128平面図・断面図	40	第92图 出土石器・石製品実測図7	135
第35图 C地区平面図・土層断面図	41	第93图 出土石器・石製品実測図8	136
第36图 D地区平面図・土層断面図	41	第94图 出土石器・石製品実測図9	137
第37图 AⅠ地区出土遺物実測図	45	第95图 出土石器・石製品実測図10	138
第38图 AⅡ地区第1 検出面 S X30・31出土遺物実測図	46	第96图 出土石器・石製品実測図11	139
第39图 AⅡ地区第1 検出面 S X39・42出土遺物実測図	47	第97图 出土石器・石製品実測図12	140
第40图 AⅡ地区第1 検出面 S X29出土遺物実測図	48	第98图 出土石器・石製品実測図13	141
第41图 AⅡ地区第1 検出面 S X38出土遺物実測図1	49		
第42图 AⅡ地区第1 検出面 S X38出土遺物実測図2	50		
第43图 AⅡ地区第1 検出面 S X40出土遺物実測図	51		
第44图 AⅡ地区第1 検出面 S X44出土遺物実測図	52		
第45图 AⅡ地区第1 検出面 S X43出土遺物実測図	53		
第46图 AⅡ地区第1 検出面 S X25・28出土遺物実測図	54		
第47图 AⅡ地区第1 検出面 S X41・46出土遺物実測図	55		
第48图 AⅡ地区第1 検出面 S X59出土遺物実測図	56		
第49图 AⅡ地区第1 検出面 S X50出土遺物実測図	57		
第50图 AⅡ地区第1 検出面 S X14・32・33・37・45出土 遺物実測図	58		

第99図	出土石器・石製品実測図14	142	第122図	出土石器・石製品実測図37	166
第100図	出土石器・石製品実測図15	143	第123図	出土石器・石製品実測図38	167
第101図	出土石器・石製品実測図16	144	第124図	出土石器・石製品実測図39	168
第102図	出土石器・石製品実測図17	145	第125図	出土石器・石製品実測図40	169
第103図	出土石器・石製品実測図18	146	第126図	出土石器・石製品実測図41	170
第104図	出土石器・石製品実測図19	147	第127図	出土石器・石製品実測図42	171
第105図	出土石器・石製品実測図20	148	第128図	出土石器・石製品実測図43	172
第106図	出土石器・石製品実測図21	149	第129図	出土石器・石製品実測図44	173
第107図	出土石器・石製品実測図22	150	第130図	出土石器・石製品実測図45	174
第108図	出土石器・石製品実測図23	151	第131図	出土石器・石製品実測図46	175
第109図	出土石器・石製品実測図24	152	第132図	出土石器・石製品実測図47	176
第110図	出土石器・石製品実測図25	153	第133図	大原塚遺跡周辺の遺跡位置図	200
第111図	出土石器・石製品実測図26	154	第134図	AⅢ地区縄文晩期墓域推定図	205
第112図	出土石器・石製品実測図27	155	第135図	器種認定概念図	208
第113図	出土石器・石製品実測図28	156	第136図	縄文時代晩期土器群の器種構成	208
第114図	出土石器・石製品実測図29	157	第137図	縄文時代晩期土器群の時期別器種構成	208
第115図	出土石器・石製品実測図30	159	第138図	縄文時代晩期土器群の出土量	208
第116図	出土石器・石製品実測図31	160	第139図	近畿地方における晩期の特徴的な石鏃	211
第117図	出土石器・石製品実測図32	161	第140図	磨製石斧転用粗石・「榎」	217
第118図	出土石器・石製品実測図33	162	第141図	佐藤由紀男氏による磨製石斧分類と各地の磨製石斧	219
第119図	出土石器・石製品実測図34	163	第142図	三重県の後期後葉～晩期の石剣形石製品実測表(試案)	222
第120図	出土石器・石製品実測図35	164			
第121図	出土石器・石製品実測図36	165			

写真図版目次

巻頭写真1	AⅢ地区全景(上層)		写真図版11	AⅢ地区SX50遺物出土状況	241
	AⅢ地区全景(下層)			AⅢ地区SX50遺物出土状況近景	241
巻頭写真2	SX50		写真図版12	AⅢ地区SX50遺物出土状況近景	242
	SX44			AⅢ地区SX50上部土器小片取上後状況近景	242
巻頭写真3	SX39		写真図版13	AⅢ地区SX50上部土器小片取上後状況近景	243
	出土縄文土器			AⅢ地区SX37遺物出土状況	243
巻頭写真4	朱付着の石		写真図版14	AⅢ地区SX32	244
	下呂石使用石器			AⅢ地区SX56	244
写真図版1	AⅠ地区調査前状況	231	写真図版15	AⅢ地区SX61	245
	AⅠ地区調査区全景	231		AⅢ地区SX61	245
写真図版2	AⅠ地区SB1	232	写真図版16	AⅢ地区SX62	246
	AⅠ地区A5グリップFit1遺物出土状況	232		AⅢ地区SX64	246
写真図版3	AⅢ・AⅣ地区調査前状況	233	写真図版17	AⅢ地区SX65	247
	AⅢ地区第1検出面調査区全景	233		AⅢ地区SH11	247
写真図版4	AⅢ地区SX25土器棺出土状況	234	写真図版18	AⅢ地区SH11カマド痕跡	248
	AⅢ地区SX28土器棺出土状況	234		AⅢ地区SH11カマド痕跡遺物出土状況	248
写真図版5	AⅢ地区SX29土器棺出土状況	235	写真図版19	AⅢ地区SH11完掘状況	249
	AⅢ地区SX46土器棺出土状況	235		AⅢ地区第2・3検出面調査区全景	249
写真図版6	AⅢ地区SX59土器棺出土状況	236	写真図版20	AⅢ地区SK83遺物出土状況	250
	AⅢ地区SX39土器棺出土状況	236		AⅢ地区SK84遺物出土状況	250
写真図版7	AⅢ地区SX29土器棺出土状況	237	写真図版21	AⅢ地区SX85	251
	AⅢ地区SX40土器棺出土状況	237		AⅢ地区SX70	251
写真図版8	AⅢ地区SX41土器棺出土状況	238	写真図版22	AⅢ地区SK77	252
	AⅢ地区SX44土器棺出土状況	238		AⅢ地区SK73	252
写真図版9	AⅢ地区SX43土器棺出土状況	239	写真図版23	BⅠ・BⅡ地区調査前状況遠景	253
	AⅢ地区SX43土器棺上半部取上後状況	239		BⅠ地区第1検出面調査区全景	253
写真図版10	AⅢ地区SX42土器棺出土状況	240	写真図版24	BⅠ地区第2検出面調査区全景	254
	AⅢ地区SX50遺物出土状況	240		BⅠ地区SK100遺物出土状況	254

写真図版25 B1地区SK91	255	写真図版44 出土遺物18	274
B1地区SK95	255	写真図版45 出土遺物19	275
写真図版26 B1地区SK105遺物出土状況	256	写真図版46 出土遺物20	276
工事完成後	256	写真図版47 出土遺物21	277
写真図版27 出土遺物1	257	写真図版48 出土遺物22	278
写真図版28 出土遺物2	258	写真図版49 出土遺物23	279
写真図版29 出土遺物3	259	写真図版50 出土遺物24	280
写真図版30 出土遺物4	260	写真図版51 出土遺物25	281
写真図版31 出土遺物5	261	写真図版52 出土遺物26	282
写真図版32 出土遺物6	262	写真図版53 出土遺物27	283
写真図版33 出土遺物7	263	写真図版54 出土遺物28	284
写真図版34 出土遺物8	264	写真図版55 出土遺物29	285
写真図版35 出土遺物9	265	写真図版56 出土遺物30	286
写真図版36 出土遺物10	266	写真図版57 出土遺物31	287
写真図版37 出土遺物11	267	写真図版58 出土遺物32	288
写真図版38 出土遺物12	268	写真図版59 出土遺物33	289
写真図版39 出土遺物13	269	写真図版60 出土遺物34	290
写真図版40 出土遺物14	270	写真図版61 出土遺物35	291
写真図版41 出土遺物15	271	写真図版62 出土遺物36	292
写真図版42 出土遺物16	272	写真図版63 出土遺物37	293
写真図版43 出土遺物17	273	写真図版64 花粉化石写真	294

表目次

第1表 土器植草一覧表	31	第31表 土器・土製品観察表26	121
第2表 土墳墓一覧表	31	第32表 土器・土製品観察表27	122
第3表 集石土坑一覧表	32	第33表 土器・土製品観察表28	123
第4表 遺構一覧表1	43	第34表 石器器種別・出土地点一覧表1	125
第5表 遺構一覧表2	44	第35表 石器器種別・出土地点一覧表2	126
第6表 土器・土製品観察表1	96	第36表 石器器種別・出土地点一覧表3	127
第7表 土器・土製品観察表2	97	第37表 石器・石製品一覧表1	179
第8表 土器・土製品観察表3	98	第38表 石器・石製品一覧表2	180
第9表 土器・土製品観察表4	99	第39表 石器・石製品一覧表3	181
第10表 土器・土製品観察表5	100	第40表 石器・石製品一覧表4	182
第11表 土器・土製品観察表6	101	第41表 石器・石製品一覧表5	183
第12表 土器・土製品観察表7	102	第42表 石器・石製品一覧表6	184
第13表 土器・土製品観察表8	103	第43表 石器・石製品一覧表7	185
第14表 土器・土製品観察表9	104	第44表 石器・石製品一覧表8	186
第15表 土器・土製品観察表10	105	第45表 石器・石製品一覧表9	187
第16表 土器・土製品観察表11	106	第46表 石器・石製品一覧表10	188
第17表 土器・土製品観察表12	107	第47表 石器・石製品一覧表11	189
第18表 土器・土製品観察表13	108	第48表 石器・石製品一覧表12	190
第19表 土器・土製品観察表14	109	第49表 石器・石製品一覧表13	191
第20表 土器・土製品観察表15	110	第50表 石器・石製品一覧表14	192
第21表 土器・土製品観察表16	111	第51表 石器・石製品一覧表15	193
第22表 土器・土製品観察表17	112	第52表 石器・石製品一覧表16	194
第23表 土器・土製品観察表18	113	第53表 石器・石製品一覧表17	195
第24表 土器・土製品観察表19	114	第54表 花粉分析結果	199
第25表 土器・土製品観察表20	115	第55表 微細遺物分析結果	199
第26表 土器・土製品観察表21	116	第56表 検出動物分類群	199
第27表 土器・土製品観察表22	117	第57表 骨同定結果	199
第28表 土器・土製品観察表23	118	第58表 リン酸分析結果	199
第29表 土器・土製品観察表24	119	第59表 縄文時代晩期土器併行関係	208
第30表 土器・土製品観察表25	120		

I 前 言

1 調査に至る経過

大原塚遺跡の発見の契機は、昭和49年に行われた畑地の整地の際に、遺物の散布を確認したことによる。また、昭和51年には遺跡のすぐ西側に道路の拡幅工事が行われ、遺物に加え、道路の切通し断面で遺構も確認された。採集された遺物は、大半が縄文時代の遺物で、早期の押型文土器を中心に、少量の後～晩期土器、石鏃などの石器類も採集された^①。以後、大原塚遺跡は、早期を中心とした縄文時代遺跡として周知された。

大原塚遺跡が初めて発掘調査の対象となったのは、昭和60年の近畿自動車道（久居～勢和）建設に伴う範囲確認調査で、本遺跡の第1次調査にあたる。事業地は遺跡の南西端部にあり、事業地内に遺跡の広がりが見込まれたが、調査の結果、少量の遺物出土にとどまり、遺構は確認されなかったため、本調査には至らなかった。

本書で報告するのは、第1次調査に次ぐ第2次・第3次調査にあたり、ほ場整備事業に伴い実施されたものである。平成13年度に行われた範囲確認調査では、周知の遺跡範囲の南方に遺跡の広がりが見られたため、事業に伴い削平される部分について発掘調査が実施されることとなった。

2 調査の経過

(1) 調査経過の概要

第2次調査（平成14年度）

現地調査は、7月9日にBⅡ地区から開始した。

台風の影響を若干受けたものの、全般的に好天に恵まれ、調査は順調に進行した。しかし、盛夏の折には猛暑による作業員の体調不良や、遺構面の極度の乾燥により、作業に支障をきたすこともあった。BⅡ地区では遺構密度は低いものの、平安時代の後半期を中心とした遺構を確認した。調査終了後、下層遺構の確認調査を行ったところ、縄文時代中期末～後期初頭の土器を伴う包含層が確認されたため、調査工程の都合上、AⅢ地区の調査終了後、全面的

に下層調査を行うこととなった。

AⅢ地区は、8月29日に包含層掘削に着手したが、当初より縄文土器や石器類が多量に出土した。遺構検出面と遺構埋土のコントラストが不明瞭で、検出は困難を極めたが、最終的には、縄文時代晩期の墓域を確認するに至った。墓域を形成する土器棺墓の検出数は14基を数え、県内では名張市の下川原遺跡に次ぐ規模となった。出土遺物では、赤彩土器や県内では出土が稀な浮線文系土器も出土した。これらの調査成果を受けて実施した現地説明会では、80名の参加を得ることができた。

AⅢ地区もBⅡ地区同様、検出面に遺物がおお包含し、下層に文化層が認められるため、下層遺構の確認調査を行ったところ、2層の遺構検出面が認められた。これを受け、開発部局との協議を行ったが、下層遺構の現状保存は不可能となったため、11月12日に下層調査を開始した。調査の結果、縄文時代晩期の土壇墓及び中期の土坑などを検出した。遺構検出面は調査区の北半部で2面あり、当地区の調査面積は当初の約2.5倍となった。

相次ぐ下層遺構の発見による調査面積の増大により、事業の進捗に影響が及んできたため、AⅢ地区の下層調査の開始にあわせ、調査を2班体制とし、調査期間の短縮を図った。10月30日に調査を開始したAⅠ地区では、12世紀末～13世紀初頭の掘立柱建物1棟などを検出した。AⅡ・AⅣ・CⅠ・CⅡ・Dの5地区では、近世陶磁器片が僅かに出土したのみで、遺構はいずれも検出できず、短期で調査は終了した。

BⅡ地区の下層調査は、11月28日に開始した。包含層掘削は、遺物が希薄であったことから重機によって行った。12月12日に人力による遺構検出・掘削を開始したが、明確な下層遺構は検出できず、同月24日に調査を終了した。

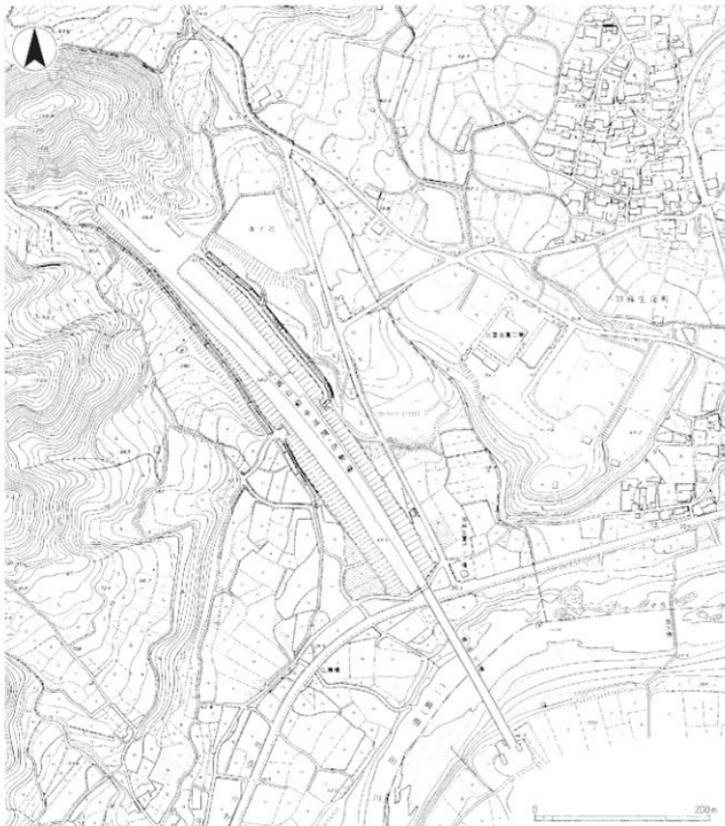
下層遺構の発見による大幅な面積増で、予定期間内に全地区の調査を完了できなくなったことから、工事施工が猶予できるBⅠ地区を次年度送りとし、BⅡ地区の下層調査完了をもって14年度調査を終了

した。

第3次調査（平成15年度）

BⅡ地区の現地調査は6月16日に開始した。南接のBⅡ地区を2面調査した経緯から、重機による表土掘削後、調査区際際に土層観察用トレンチを設定し、予め下層遺構の確認調査を行った。調査の結果、BⅡ地区同様、下層調査が必要と判断し、当初から2面の予定で調査に着手した。

第1面では、調査区北半に安定した包含層があり、縄文中～晩期土器や石鍾などの石器、平安時代の土器器や山茶碗、ロクロ土器器、製塩土器などのほか、搬入自然礫も多数出土した。調査区南半では、集石土坑2基などを検出した。下層では、調査区北半で落ち込みを検出し、縄文中～晩期土器や磨製石斧などの石器が出土した。落ち込み底部で検出した平安期の土坑からは、完形の墨書土器器杯と鉄製紡錘車



第1図 調査区周辺地形図(1:5,000)

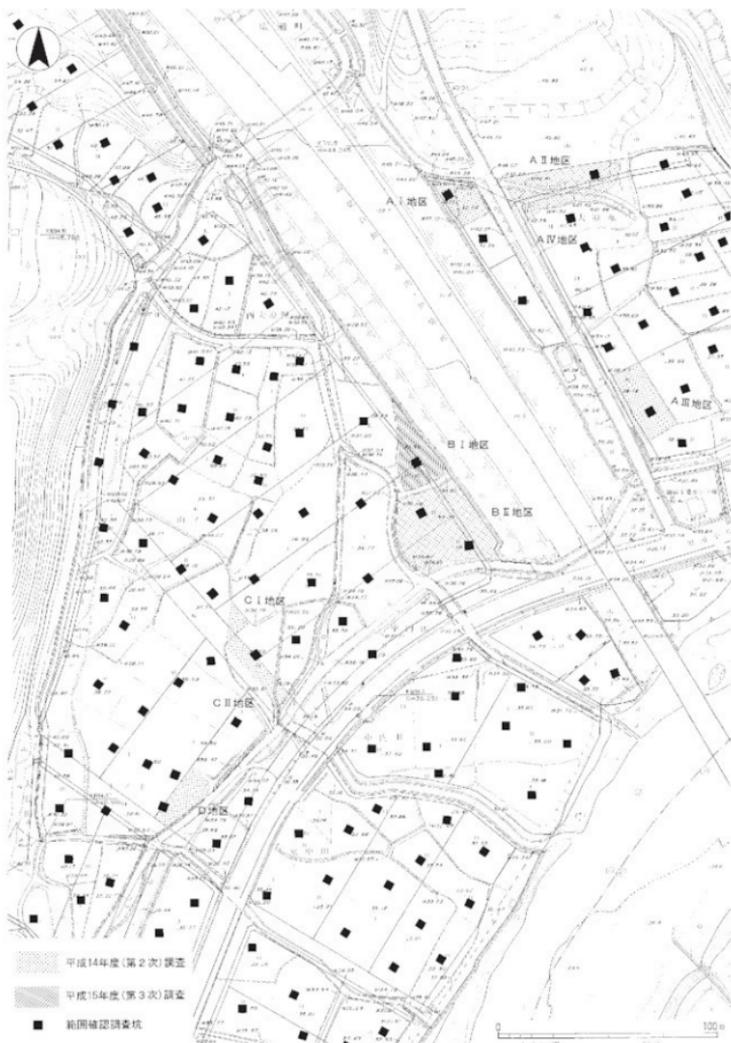
が出土した。開始時期が梅雨入りと重なったため、天候不順によって調査は遅延したが、8月11日には全工程を終了した。

(2) 調査日誌(抄)

第2次調査(平成14年度)

7月9日 BⅡ地区表土掘削開始。
7月22日 調査区南側から人力掘削開始。調査区東壁土層図作成。
7月24日 遺構検出開始。
7月30日 SK3より浮線文系土器出土。
8月1日 調査区北東隅でビット群検出。
8月6日 掘削作業終了。
8月7日 調査区全景・個別遺構の写真撮影。
8月8日 BⅡ地区遺構実測。AⅢ地区表土掘削開始。縄文土器・石織など出土。
8月9日 BⅡ地区遺構実測終了。
8月12日 AⅢ地区表土掘削終了。
8月20日 BⅡ地区下層確認調査開始。東トレンチで中期末～後期初頭の土器がまとまって出土。
8月26日 上層遺構検出層を下層包含層と判断。直下の層で検出を試みるが明確な遺構は検出できず。
8月29日 AⅢ地区南側から包含層掘削開始。縄文土器・石器が多量に出土。
8月30日 天候不良のため現場作業中止。グループリーダーとの協議でBⅡ地区全面の下層調査実施を決定。
9月4日 AⅢ地区包含層掘削。B8グリッドで土器棺墓2基確認。
9月5日 松阪市立射和小学校の現場見学。調査区南壁土層観察及び分層。
9月9日 7グリッドラインの包含層掘削。晩期中心の縄文土器・石器多量に出土。9グリッドラインの遺構検出。竪穴住居・土坑等検出。
9月12日 竪穴住居SH1は奈良時代の遺構と判明。B8グリッド土器棺墓SX20・21出土状況図作成。
9月13日 6グリッドラインの包含層より浮線文系土器出土。SH1床面で焼土痕跡確認。

9月19日 5グリッドラインの包含層掘削。土器棺墓3基確認。土器・石器が多量に出土。SH1遺物出土状況写真撮影・実測図作成。
9月24日 4グリッドラインの包含層掘削。土器棺墓3基確認。
9月25日 3グリッドラインの包含層掘削。土器棺墓2基確認。
10月3日 1～2グリッドラインの包含層掘削。
10月4日 土器棺墓SX27・18出土状況写真撮影・実測図作成後取り上げ。
10月7日 1～3グリッドラインの精査。土器棺墓SX28～34の埋設土坑検出・掘削。埋設土坑ライン不明瞭のものが多い。
10月9日 SX28～34出土状況写真撮影。SX31・32実測図作成。
10月10日 SX31土器取り上げ。SX27～30・33・34実測図作成。
10月15日 1～4グリッドラインの再検出。C4グリッドで土墳墓(SK38・40)検出。SX33土器取り上げ。
10月16日 1～4グリッドラインの遺構掘削。SK38・40の分析用土壌サンプル採取。集石土坑(SK46)確認。
10月17日 調査区全景写真撮影。SX33・34土器取り上げ。
10月18日 個別遺構写真撮影。SX19・30土器取り上げ。
10月22日 遺構実測(23日終了)。
10月25日 下層遺構確認調査開始。土器・石器多量に出土。
10月30日 中期の土坑検出。その他ビット等多量の遺構を検出。AⅠ地区表土掘削開始。
11月3日 現地説明会開催。
11月6日 AⅠ地区人力掘削開始。
11月11日 AⅢ地区下層調査についての現地協議。下層調査実施決定。
11月12日 AⅢ地区下層調査開始。
11月13日 AⅢ地区で立石を伴う土墳墓2基検出。AⅠ地区調査区西壁土層図作成。
11月14日 AⅠ地区遺構検出・掘削。



第2図 調査区位置図(1:2,000)

- 11月18日 AⅣ地区表土掘削。
- 11月19日 AⅢ地区で縄文時代中期の土坑（SK18）検出。下層2層目の掘削開始。AⅠ地区調査区全景写真撮影。AⅡ地区機械掘削。
- 11月20日 AⅠ地区遺構実測（21日終了）。AⅡ地区トレンチ調査にて終了。AⅣ地区土層図作成・完掘写真撮影。
- 11月21日 AⅣ地区平面図作成。
- 11月22日 CⅠ・Ⅱ地区機械掘削開始。
- 11月26日 AⅢ地区下層調査区全景写真撮影。AⅠ地区下層確認調査。
- 11月27日 AⅢ地区下層個別遺構写真撮影。
- 11月28日 AⅢ地区下層遺構実測（29日終了）。BⅡ地区下層調査機械掘削開始。CⅠ・Ⅱ地区土層図作成。
- 11月29日 CⅠ・Ⅱ地区遺構検出・完掘写真撮影。
- 12月2日 AⅢ地区土壌サンプル採取。CⅠ・Ⅱ地区平面図作成。
- 12月5日 AⅢ地区西壁の遺物採集中に土器棺墓を新たに1基発見。
- 12月6日 AⅢ地区全調査終了。
- 12月10日 D地区表土掘削。
- 12月11日 D地区調査終了。
- 12月12日 BⅡ地区下層調査人力掘削開始。
- 12月13日 SK1～3検出。
- 12月16日 SK2・3掘削。ビット検出。
- 12月18日 SK1完掘。ビット検出・掘削。
- 12月20日 調査区全景写真撮影。
- 12月24日 遺構実測。全調査終了。

第3次調査（平成15年度）

- 6月16日 BⅠ地区表土掘削開始（19日終了）。
- 6月26日 人力掘削開始。
- 6月27日 土層観察用トレンチ掘削。
- 7月3日 土層図作成。
- 7月4日 包含層掘削。縄文土器・石器・土師器等多数出土。搬入自然礫多数検出。
- 7月16日 遺構検出。土坑・ビットなど検出。
- 7月18日 集石土坑SK1・SK5写真撮影後実測。掘削作業終了。
- 7月22日 調査区全景写真撮影。

- 7月24日 遺構実測（25日終了）。
- 7月29日 下層調査開始。落ち込み検出。
- 8月4日 落ち込み埋土から縄文中～晩期土器、石器などが出土。
- 8月5日 落ち込み底部で検出した土坑より、完形の墨書土師器杯・鉄製紡錘車出土。
- 8月6日 掘削作業終了
- 8月7日 調査区全景写真撮影。遺構実測。
- 8月11日 下層確認調査。全調査終了。

(3) 文化財保護法等による諸通知

文化財保護法等にかかる諸通知は、以下によって行っている。

第2次調査

- ・三重県文化財保護条例第48条第1項にかかる発掘通知（県教育長宛県知事通知）
- 平成14年6月3日付農商第20-76号
- ・文化財保護法第58条の2第1項にかかる発掘調査実施報告（県教育長宛埋蔵文化財センター所長通知）
- 平成14年6月28日付教理第95号
- ・遺失物法にかかる文化財発見・認定通知（松阪警察署長宛県教育長通知）
- 平成15年2月3日付教委第12-6-14号

第3次調査

- ・三重県文化財保護条例第48条第1項にかかる発掘通知（県教育長宛県知事通知）
- 平成15年5月28日付農商第20-80号
- ・文化財保護法第58条の2第1項にかかる発掘調査実施報告（県教育長宛埋蔵文化財センター所長通知）
- 平成15年5月20日付教理第48号
- ・遺失物法にかかる文化財発見・認定通知（松阪警察署長宛県教育長通知）
- 平成16年2月3日付教委第12-9-5号

3 調査の方法

(1) 調査区の設定について

調査区は、近畿自動車道を挟んで東西9地区に点在するため、第2図のように自動車道の東側をAⅠ～AⅣの4地区に、西側をBⅠ・BⅡ、CⅠ・CⅡ、Dの5地区に設定した。各調査区では、概ね調査区

長辺に沿った任意の基準を設定し、4m方眼の地区杭を設置した。従って、この小地区方眼は国土座標と合致していない。地区杭には、北～南に算用数字、西～東にアルファベットを付与し、各地区の北西杭を当該地区名とした。

(2) 遺構番号について

現地調査の段階では、地区毎に遺構番号を1から付与したため、報告書作成段階で遺構番号の整理を次のように行った。前述の9地区の内、AⅡ・AⅣ・CⅠ・CⅡ・Dの5地区では遺構が検出されなかったため、AⅠ・AⅢ・BⅠ・BⅡの4地区で遺構番号の整理を行い、基本的にAⅠ→AⅢ→BⅠ→BⅡの順に通し番号を付与したが、一部欠番も存在する。詳細は第4・5表の遺構一覧表を参照されたい。

(3) 掘削の方法

掘削は、基本的に耕作土及び床土を重機で行い、包含層及び遺構を人力で行ったが、包含層掘削の一部は重機で行った。

(4) 遺構図面の作成について

遺構図面の作成は、すべて手書きによる。各国の作成時の縮尺は以下の通りである。

- ・平面図(全図)…1:20
- ・遺物出土状況図…1:10
- ・土層断面図…1:20

(5) 遺構写真について

調査区全景写真は、ローリングタワーを設置して撮影した。個別の遺物出土状況及び遺構写真は、一部脚立を利用し撮影した。フィルムは、6×7cm版(モノクロ・カラーポジ)に加え、35mm版(モノクロ・カラーポジ)を使用した。カメラは、アサヒペンタックス6×7、ニコンFM2を使用した。

(小山憲一)

【註】

- ①松阪市史編纂委員会「松阪市史 第二巻史料篇考古」(1978年)
- ②三重県教育委員会「大原堀遺跡」(「近畿自動車道(久居～勢和)埋蔵文化財発掘調査報告-第1分冊1-」1989年)

II 位置と環境

1 位置と地理的環境

大原堀遺跡(1)は、県下有数の大河である榑田川の中流域左岸に位置する。榑田川は、台高山脈の国見山・高見山付近に源を発し、三重県のほぼ中央部を東流して伊勢湾に流入するが、当遺跡が位置する中流域では大きく曲流を繰り返し、河岸段丘を発達させている。このような曲流部に形成された段丘上に立地する大原堀遺跡は、背後に松阪丘陵を控え、南に臨む榑田川を眼下に収めている。遺跡の行政上の所在地は、三重県松阪市広瀬町字大原堀、西大原堀、山ノ下である。

2 歴史的環境

榑田川流域における先人の営みの跡は、旧石器時代まで遡る。遺跡の分布は中流域からその密度を増し、旧石器～中近世に至るまで展開している。以下、当遺跡の所属時期を中心に周辺遺跡の分布状況を概観していきたい。

主にナイフ形石器の存在で認知される旧石器時代の遺跡は、榑田川流域ではあまり確認されていないが、松阪市上寺遺跡(2)や多気町上世古遺跡(3)でナイフ形石器が出土あるいは表採されている。南方に並流する宮川及び外城田川流域では、県下で確認されている旧石器時代遺跡の約半数が分布しており、対照的な様相を呈する。

旧石器時代末葉～縄文時代初期の木葉形尖頭器や有茎尖頭器の段階に入ると、榑田川流域においても遺跡の確認例は増加する。当遺跡の東西に隣接する松阪市上ノ広遺跡(4)や同市王子広遺跡(5)では、当該期の石器がまとまって出土しており、上ノ広遺跡では、神子柴型石斧や異形部分磨製石器(通称トロト石器)も出土している。また、右岸側の多気町内では、高皿遺跡(6)で縄文時代草創期の一括資料となる石器群が出土し、牟山遺跡(7)でも同様の石器群が出土している。

この地域で土器の使用が開始されたのは、縄文時代早期からと考えられる。松阪市浦ノ木遺跡(8)

では、大川式と鴻ノ木Ⅳ式を中心とした押型文土器が多数出土し、当該期の竪穴住居や煙道付炉穴が検出された。また、多気町坂倉遺跡でも同様の炉穴が検出され、大鼻式・大川式の土器も出土している。柳田川流域は、このような早期押型文土器の出土が顕著な地域として知られ、松阪市鐘突遺跡(9)、同市射原内遺跡、上寺遺跡(2)、牟山遺跡(7)などの他、大原堀遺跡(1)においても大川・神宮寺式の押型文土器が多数採集されている。

縄文時代前期は、全県的に遺跡の確認例が少ないが、柳田川中流域では比較的確認例が多い。右岸側に位置する多気町(旧勢和村)アカリ遺跡は、柳田川流域における拠点集落であったと推定されている。下流域にほど近い左岸側に位置する松阪市山添遺跡では、発掘調査によって集落跡が確認され、竪穴住居や土坑が検出された。また、北白川下層Ⅱc式・諸磯式系・寺崎Ⅱ1式系の土器や多量の石器類も出土している。

続く中期には遺跡数が増加し、分布範囲も拡大するが、遺跡の規模は概して小規模で、断片的なものが多いようである。また、前半は関東系・北陸系・東海系・瀬戸内系などの土器が出土しており、活発な地域間交流が窺える一方、後半には地域色の濃い土器が出土するようになる。この地域では、松阪市新殿木戸遺跡(10)や大台町浜井場遺跡(11)が代表的な遺跡として挙げられる。

後期は、県下では縄文時代の中で最も多くの遺跡が確認されている時期である。王子広遺跡(5)や多気町(旧勢和村)宮切遺跡、多気町新徳寺遺跡(12)、射原内遺跡などは、この地域を代表する後期前葉の遺跡として挙げられる。中でも国内最古級の朱彩土器が出土した王子広遺跡や、朱彩土器に加え、辰砂原石も出土した新徳寺遺跡は、朱の生産関連遺跡として注目される。後期後葉になると、遺跡数が減少する反面、大規模で安定した遺跡が主要な河川流域に形成される。この地域では、柳田川左岸の多気町(旧勢和村)新神馬場遺跡(13)が確認されており、土器の他、多数の石器が出土している。なお、この時期の遺跡では、石錘の出土が顕著となり、柳田川河畔における網漁の発達がおうかがえる。また、石畿を主にした剥片石器の石材として、二上山産出のサ

ヌカイト利用が一般化していく。このことは、柳田川流域がサヌカイトをはじめとした交易・交流の動脈であったことを示している。

晩期の遺跡は、その分布が希薄となる傾向にある。そうした中、この地域では多気町(旧勢和村)池ノ谷遺跡(14)が数少ない代表的な遺跡として挙げられる。池ノ谷遺跡では、朱の付着した磨石や辰砂原石、石棒の未製品や破損品が多数出土しており、呪術的な色彩の濃い朱や石棒の生産遺跡としての性格を有した点で、注目される。

柳田川流域では、縄文時代の遺跡分布が主に中流域であるのに対し、弥生時代に入ると、下流域へ徐々に広がり始める。前期の遺跡は中流域では多気町(旧勢和村)北新木遺跡などが確認されているが、断片的出土の小遺跡にとどまる。下流域では、上寺遺跡(2)や竪穴住居跡が1棟検出された鐘突遺跡(9)などが挙げられるが、分布状況は希薄である。

中期になると遺跡の分布数はやや増加する。中流域では大型の竈を納めた土器塚墓1基が検出された多気町(旧勢和村)松葉遺跡や、竪穴住居跡2棟及び方形周溝墓1基などが検出された多気町花ノ木遺跡(15)が知られ、下流域では上寺遺跡(2)が代表的な遺跡として挙げられる。

下流域への進出が一層顕著となる後期では、上寺遺跡(2)や射原内遺跡で竪穴住居跡が検出された。また、多気町相可高校校庭遺跡(16)では、いわゆるバレス・スタイルの土器が出土している。

古墳時代の当遺跡周辺の様相は不明部分が多い。柳田川流域の古墳の分布状況は、下流域では平地を見下ろす丘陵上に後期の群集墳が多数分布し、河田古墳群など、特に右岸側で顕著である。一方、中流域の分布は希薄で、当遺跡付近より上流側では、今のところ明確な古墳は確認されていない。当該期の集落跡については発掘調査の事例が少なく、詳細は不明であるが、下流域の射原内遺跡では前期、鴻ノ木遺跡(8)では中～後期の竪穴住居が各2棟検出されている。

奈良～平安時代には仏教の流布に従い、当遺跡周辺でも寺院の建立がなされた。松阪市御麻生園庵寺(17)では、早くから多数の古瓦が採集されており、その文様から白鳳期～奈良時代後期まで連続したと



第3図 遺跡位置図(1:50,000)『国土地理院発行、2万5千分の1地形図(大河内・松阪・横野・国東山)より』

推定されている。また、平安時代初期から前期にかけて多気町(旧勢和村)丹生成院院神宮寺(18)や、国指定重要文化財の本造十一面観音菩薩立像を所蔵する多気町近長谷寺(19)などが建立された。中でも丹生の神宮寺は、周辺で盛んに採掘された水銀によって繁栄し、人々の信仰も高かったとされる。奈良時代中頃の東大寺盧舎那仏造営の際に使用された大量の水銀は丹生産のものと考えられ、以後、近世にかけて継続された水銀生産は、この地域に繁栄をもたらした。丹生における水銀生産の起源は不明であるが、前述の池ノ谷遺跡(14)にみられるように、縄文時代にまで遡る可能性がある。水銀の採掘坑跡は、今なお丹生の山間部に無数に残されており、往時の隆盛を今に伝えている。

棚田川の中～下流域は、古代に条里制が施行されたところとしても知られる。当時の条里制に因む地名が右岸側に位置する多気町大字「三疋田」・「四疋田」として現存しており、地割りの名残も今なお観察できる。さらにこれらの地域は、古来より神三郎と呼ばれる伊勢神宮の支配地域に属し、多くの御厨・御薮が設置された。当遺跡周辺では、広瀬御薮や茅原田御厨があり、神宮への貢納が行われたとされる。また、近年の発掘調査によって、当該期の集落跡も確認されている。鴻ノ木遺跡(8)では、奈良～平安時代の竪穴住居や掘立柱建物、井戸等が検出された。松阪市朱中遺跡(20)では、奈良時代の竪穴住居や掘立柱建物も確認されている。さらに、多気町五佐奈遺跡では、平安時代の掘立柱建物や寄串を伴う井戸が検出されており、この地域の古代集落の一端が明らかにされている。(小山憲一)

【註】

- ①松阪市教育委員会「上寺遺跡発掘調査報告書」(1981年)
- ②多気町史編纂委員会「多気町史 通史」(1992年)
- ③三重県教育委員会「上ノ広遺跡」〔近畿自動車道(久居～勢和) 埋蔵文化財発掘調査報告-第1分冊1-〕(1989年)
- ④三重県埋蔵文化財センター「高血遺跡発掘調査概報」(1996年)
- ⑤前掲註②
- ⑥三重県埋蔵文化財センター「一般国道42号松阪・多気バイパス建設地内埋蔵文化財発掘調査報告IV 鴻ノ木遺跡(下層編)」(1998年)
- ⑦前掲註②

⑧松阪市教育委員会「熊突遺跡発掘調査報告書」(1981年)

⑨松阪市教育委員会「射野内環状発掘調査概報」(1980年)

⑩前掲註①

⑪前掲註②

⑫松阪市史編さん委員会「松阪市史 第二巻史料篇考古」(1978年)

⑬三重県埋蔵文化財センター「山添遺跡(第4次)発掘調査報告」(2007年)

⑭勢和村史編纂委員会「勢和村史 通史編」(1999年)

⑮三重県埋蔵文化財センター「一般国道42号松阪・多気バイパス建設地内埋蔵文化財発掘調査報告III 新徳寺遺跡」(1997年)

⑯三重県立津高等学校地歴部「新神馬場遺跡発掘調査報告」(1972年)

⑰勢和村教育委員会「池ノ谷遺跡範囲確認調査報告」〔三重県勢和村遺跡地図 1995年〕

⑱前掲註⑧

⑲前掲註⑩

⑳三重県教育委員会「花ノ木遺跡」〔近畿自動車道(久居～勢和) 埋蔵文化財発掘調査報告-第1分冊1-〕(1989年)

㉑前掲註①

㉒前掲註⑨

㉓三重県埋蔵文化財センター「一般国道42号松阪・多気バイパス建設地内埋蔵文化財発掘調査報告IV 鴻ノ木遺跡(上層編)」(1998年)

㉔前掲註⑩

㉕前掲註⑩

㉖三重県埋蔵文化財センター「Ⅲ. 朱中遺跡」〔一般国道42号松阪・多気バイパス建設地内埋蔵文化財発掘調査報告V 朱中遺跡・朱中古墳群 1996年〕

㉗三重県教育委員会「三重県埋蔵文化財年報7」(1977年)

【参考文献】

松阪市史編さん委員会「松阪市史 第二巻 史料篇考古」(1978年)

多気町史編纂委員会「多気町史 通史」(1992年)

勢和村史編纂委員会「勢和村史 通史編」(1999年)

平凡社「日本歴史地名大系第24巻 三重県の地名」(1983年)

Ⅲ 遺 構

1 AI地区

(1) 地形と層序

本調査区は、北側の丘陵縁部から南方へ土砂が押し出されて形成された段丘上に位置する。基本層序は自然堆積層を指標とすると、表土・旧表土・6～8層・9～12層・13～17層に大別される。9層下部にて検出し、下記のとおり掘立柱建物等を確認した。また、更に下層にて遺物が出土したことから、下層確認として重機による検出を行ったが遺構は確認されなかった。

(2) 検出遺構

SB1 (第6図) 調査区西寄りのA3～B5グリッドの9層下部にて検出した。東西2間(一間約2.4m)以上南北3間(南から約2.4+2.1+2.1m)の東西棟である。主軸はN10°Wである。また、建物南東部には、東西1間南北2間分の

範囲に土坑SK2が確認された。柱痕跡埋土とSK2埋土は極めて類似する土壌であり、SK2は柱筋を意識した形態をとることから、SK2はSB1に伴ういわゆる南東隅土坑と考えられる。柱場所は南面するものが隅丸方形で、一辺約20cm程度である。

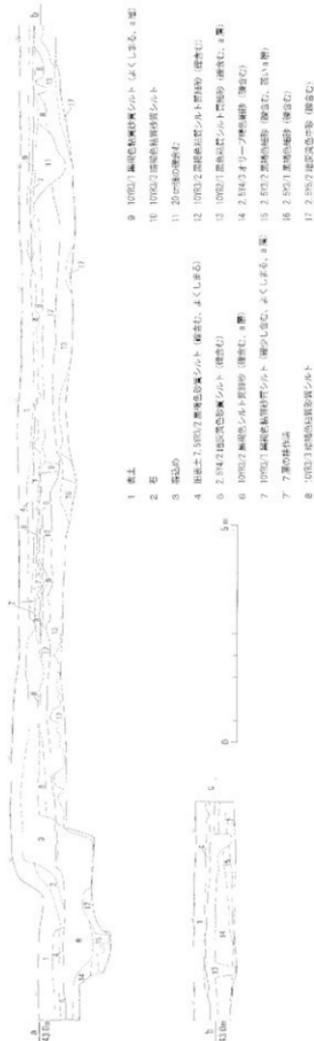
時的には、出土遺物が伊藤裕偉氏による南伊勢系銅の編年¹⁾(以下、南伊勢系銅編年と省略)の1段階に相当することから、12世紀末から13世紀初頭頃のものと考えられる。

SK2 (第6図) 前述のようにSB1の南東隅土坑と考えられる。東西2.1m南北4.2m深さ25cmを計る。埋土は上下2層に分かれ、2層には焼土ブロックや約10cmのすず入りの粘土塊などが含まれていた。時的にはSB1と同様に12世紀末から13世紀初頭頃のものと考えられる。

SD4 (第4図) 調査区東寄りのD～E6グ



第4図 AI地区平面図(1:200)



第5図 A I地区西壁土層断面図(1:100)

リッドの6層下部にて検出した。埋土には陶器
破片が含まれていた。(川崎志乃)

2 A II地区

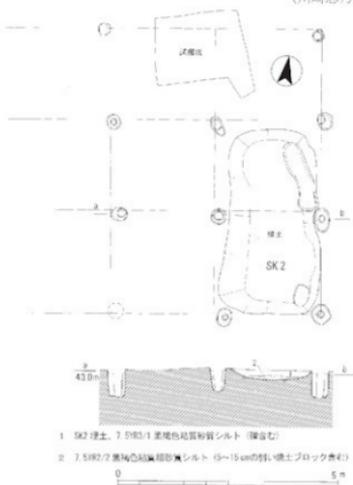
本調査区は、北側の丘陵部から南方へ張り出
す台地縁辺部に相当したと考えられる。昭和49
年に整地された直後に縄文早期の遺物がまと
まって確認されていることから、調査対象とされ
た。しかし、盛り土は3m以上に達し、すでに包
含層は削平されていた。また、表土下の自然堆積
層では遺構・遺物とも確認されなかった。

(川崎志乃)

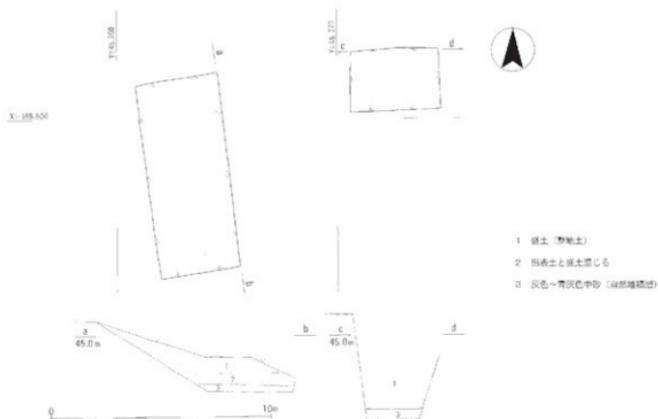
3 A IV地区

本調査区は、北側の丘陵部から南方へ土砂が
迫り出した谷部に相当し、調査前は狭い谷水田
が営まれていた。基本層序は、表土を除くと調
査区南方へと土砂を押し出す11層を境として、
表土・2~10層・11層・12~14層の4層に大別さ
れる。遺物は3層から近世陶磁器片が出土した。

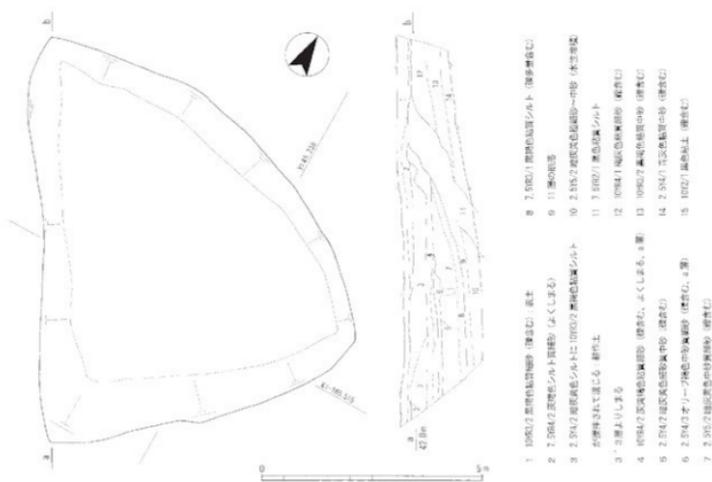
(川崎志乃)



第6図 SB 1平面図・断面図(1:100)



第7図 A II地区トレンチ配置図・土層断面図(1:200)



第8図 A IV地区平面図・土層断面図(1:100)

4 AⅢ地区

(1) 基本層序と検出遺構

近畿自動車道の東側に位置する当調査区は、北側の丘陵部から南東方向へ張り出す低位段丘面に位置する。

基本層序は1～3層（現代の耕作土・床土）、4層・5層・6層（遺物包含層）、7層、8・9層、10層（地山）に大別される。

調査当初は5・6層下面を遺構検出面と判断し、調査区南側から調査を開始した。しかし、5・6層掘削途上で土器棺が検出されたため、5・6層上面にて検出を試みたが、土色のコントラストが判然とせず、全く検出できなかったことから、土器棺の出土に注意を払いながら5・6層下面の検出を続行した。5・6層下面での検出後、さらに下層に遺物が包含していることが確認されたため、8・9・10層上面にて検出を行った。

検出作業は、5・6層下面の検出面を第1検出面、8・9・10層上面の検出面を第2検出面、調査区北端部の9層上面単独の検出面を第3検出面として行った。遺構平面図はこれに従って第9～11図の通り検出面毎に表現している。第1検出面では縄文時代晩期の土器棺墓14基・土壇墓10基・集石土坑1基・土坑19基・立石・配石遺構5基、奈良時代の竪穴住居1棟などを検出した。第2・3検出面では縄文時代中期の集石土坑2基・同晩期の土壇墓4基・集石土坑2基・土坑6基などを検出した。層位と検出遺構の時期に齟齬が生じているものがあるが、5・6層下面での検出においても土色のコントラストが判然としなかったため、下層に至るまで検出できなかったことに起因する。以下、上層から検出面毎に主な遺構のみ詳述していくが、その他の遺構については第4・5表の遺構一覧表を参照されたい。なお、土器棺墓・土壇墓・集石土坑・配石・立石の認定基準は以下による。

土器棺墓：土器を基本的に横位または斜位に埋置したと考えられるものを土器棺墓と判断した。土器棺がほぼ完存しているものもあるが、遺存状態には差があり、後世の削平が原因と考えられる上半部の欠失や、痕跡程度にしか遺存していないものもあるた

め認定に躊躇するものもあるが、総数で14基を認定した。また、前述の通り土色のコントラストが極めて不明瞭で、埋設土坑が判然としにくいものが多く、埋設土坑が検出できなかったものは第9図の遺構平面図では破線で表現している。

土壇墓：遺構の形状・法量や石のあり方、出土遺物、遺物の出土状況から土壇墓と判断した。いずれも埋葬人骨は出土しておらず、認定根拠が脆弱あるいは曖昧なものが少なくないが、第1～3検出面で総数14基の土坑を土壇墓と推定した。

集石土坑：土坑内に相当数の礫が存在するものを集石土坑とした。第1・2検出面で総数5基の土坑を集石土坑と認定した。

配石・立石：人為的に石材が地表（遺構）面に設置されたと考えられるものを遺構と認定し、そのあり方から配石・立石と判断した。なお、地上標識的な遺構であることから遺構出土の遺物が無いため時期特定は困難であるが、包含層出土遺物や他の検出遺構との関係から縄文時代晩期の遺構と推定した。

(2) 第1検出面

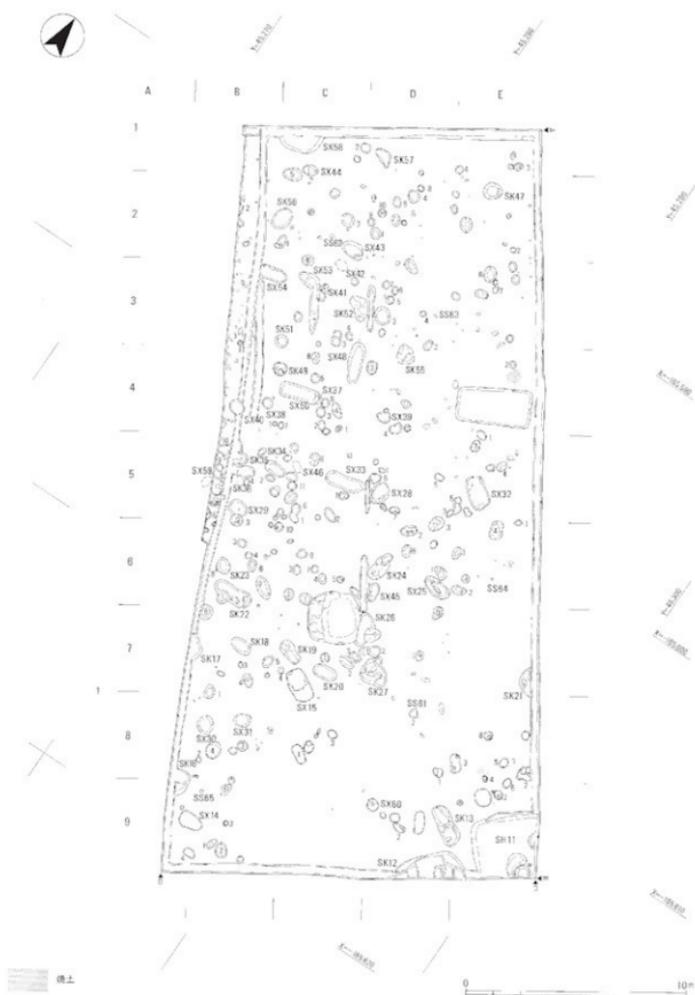
①縄文時代晩期の遺構

土器棺墓（第13～16図・第1表）

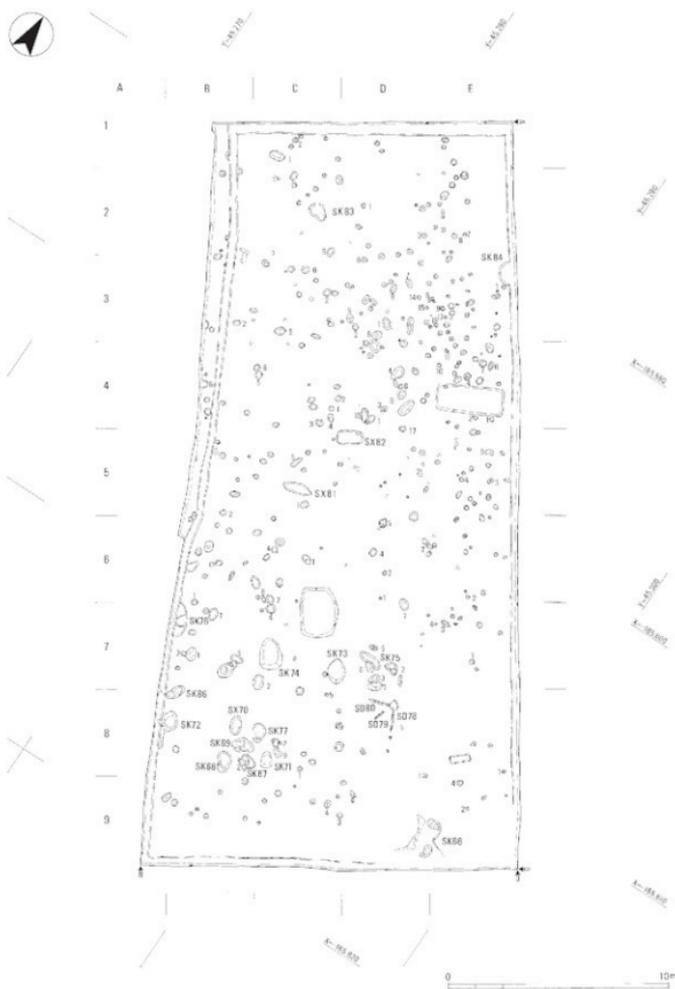
S X 25（第13図） 調査区中央部付近に位置する。土器棺の残存状況は不良で、上半部が欠失しているが、ほぼ横位に埋置された単棺と考えられる。埋設土坑は土器棺との接地部に痕跡程度に認識されたが、平面的には確認できなかった。下部の土坑は別遺構と考えられる。土器棺（26）は口縁部及び底部が欠損しているため器形の全容は不明であるが、口頸部を二枚片による横位変換、体部をケズリ調整した深鉢と推定される。

S X 28（第13図） 調査区のほぼ中央部に位置する。土器棺の残存状況は不良で、上半部が欠失しているが、ほぼ横位に埋置された単棺と考えられる。埋設土坑は平面的には検出できなかった。下部の土坑は別遺構と考えられる。土器棺（25）は刻目突帯が貼付され、口唇部にキザミが施された深鉢である。

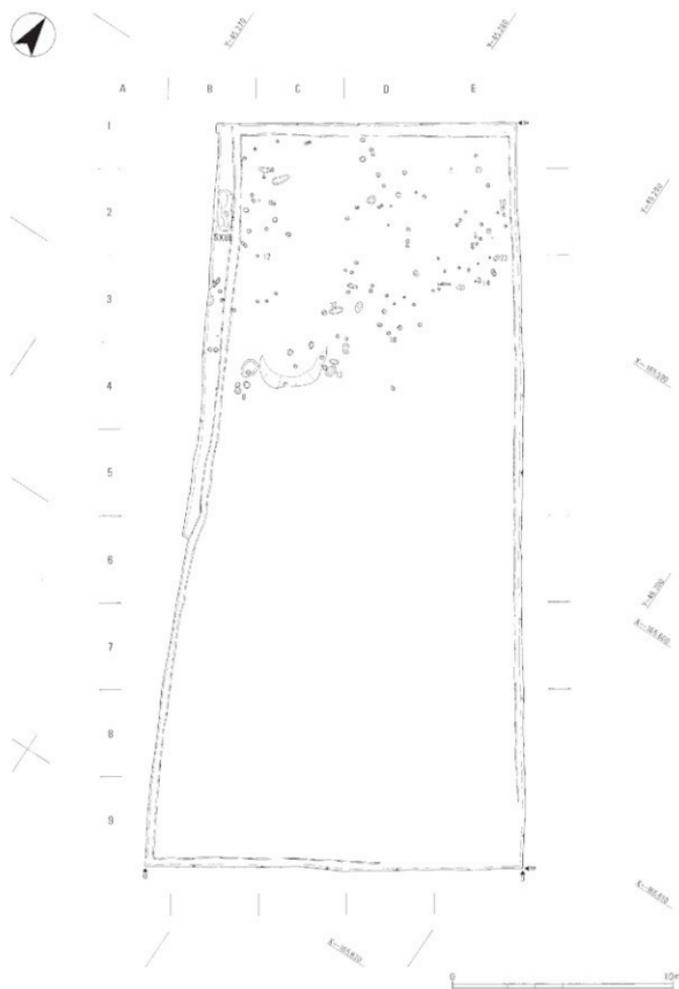
S X 29（第14図） 調査区中央西壁際に位置する。土器棺上半部は破砕しているが、残存状況は比較的良好でほぼ横位に埋置された単棺と考えられる。埋設土坑は検出段階では非常に不鮮明であったが、長軸



第9图 AⅢ地区第1坑出面遺構平面図(1:200)



第10图 AⅢ地区第2次出土面遗构平面图(1:200)



第11图 AⅢ地区第3号出土面遗构平面图(1:200)

約0.9mの不整楕円形と判断した。土器棺の口縁部と土坑底部との間で径10cmほどの自然礫が1個体出土しており、これは棺の固定・安定を目的に設置されたものと推定される。土器棺内に残存していた土の微細遺物分析及びリン酸分析を行ったところ、前者では微細な炭化材や骨片が検出されたがいずれも同定はできなかった。後者ではリン酸含有量が高く、骨の埋納が推測される結果が得られている。土器棺(16)は無突帯で、口唇部にキザミが施された深鉢である。

S X 46 (第14図) 調査区中央部付近に位置する。土器棺の残存状況は不良で、上半部が欠失して痕跡程度にしか残存していないが、ほぼ横位に埋置された単棺と考えられる。埋設土坑は平面的には全く検出できず、6層(包含層)掘削時に土器棺のみ検出した。土器棺(28)は体部のみの残存の残存したため器形の全容は不明であるが、尖底の深鉢と推定される。

S X 31 (第14図) 調査区の南側に位置する。土器棺上半部は破砕しているが、残存状況は比較的良好でほぼ横位に埋置された単棺と考えられる。埋設土坑は検出段階では非常に不鮮明であったが、長軸約0.8mの不整楕円形と判断した。土器棺内に残存していた土の微細遺物分析及びリン酸分析を行ったところ、前者では微細な炭化材が検出されたが同定はできなかった。後者ではリン酸含有量が高く、骨の埋納が推測される結果が得られている。土器棺(13)は粗製の無文深鉢である。

S X 30 (第14図) 調査区の南側に位置し、S X 31に隣接する。土器棺の残存状況は不良で、上半部が欠失して痕跡程度にしか残存していないが、ほぼ横位に埋置されたと考えられる。埋設土坑は検出段階では非常に不鮮明であったが、長軸約0.9mの不整楕円形と判断した。土器棺(10)は条痕調整を施した深鉢で補修孔が認められる。また、埋設土坑内からは



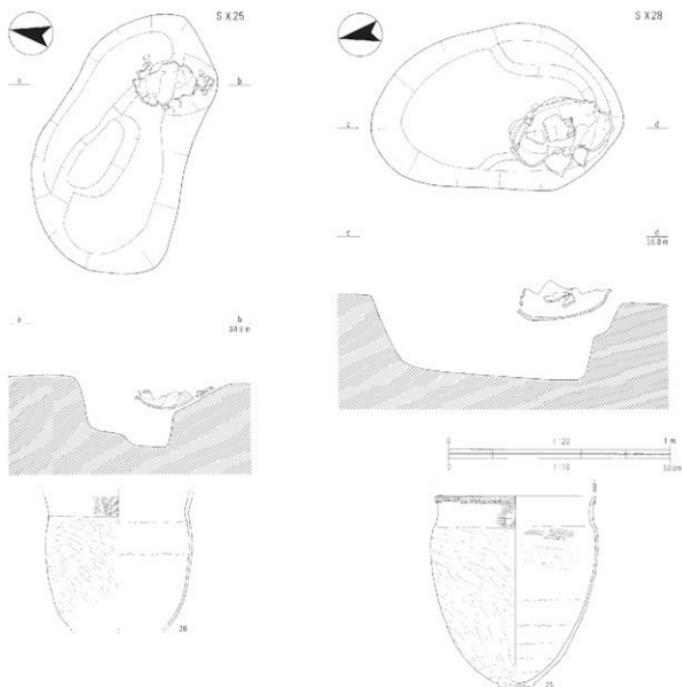
第12図 A III地区土層断面図(1:100)

波状口縁の深鉢口縁部片(11)も出土している。両者の口縁部はそれぞれ土坑の外側に向いており、組み合わせの構造を持つ土器棺を想定しづらいが、2個体の土器が存在するため、底部同士^あの接合等、何らかの組み合わせがなされていたのかもしれない。さらに、埋設土坑内からは長さ1.4cm、幅0.6cm、孔径0.1cmの管状土製品(12)も出土している。形状から土錘とも考えられるが、土錘としては小さすぎるため、装身具の一種が想定される。土器棺の破砕が著しく、また、埋設土坑も不明確であるため、土器棺に伴うものと断定しえないが、後述の土壙墓S X 33で形状が類似した玉が出土していることから、被

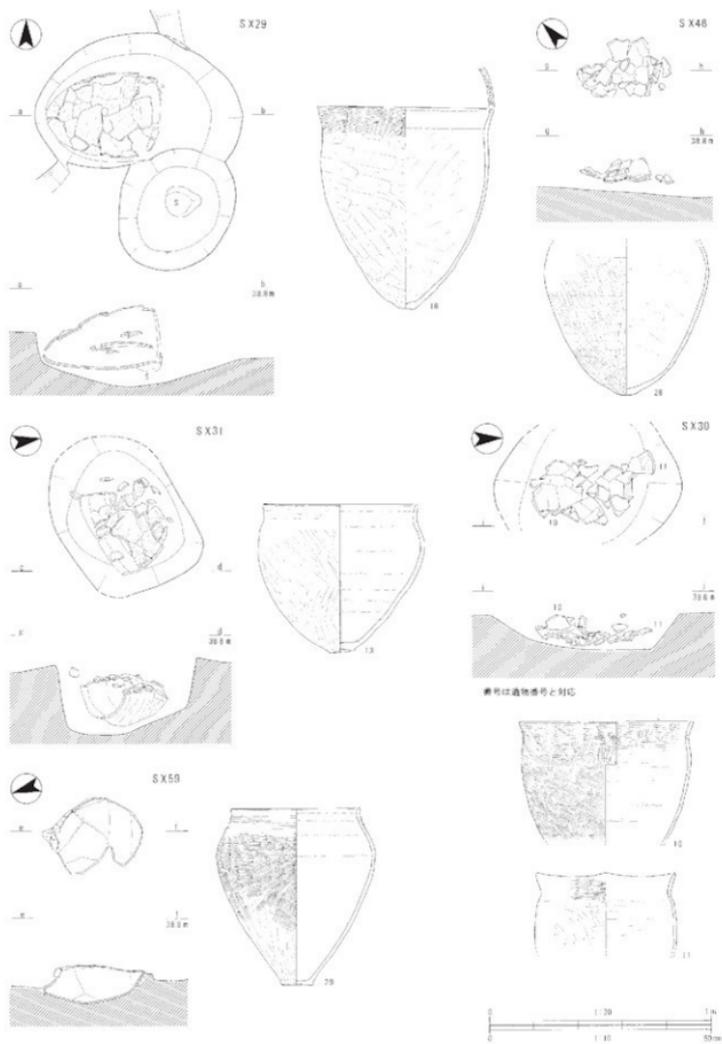
葬者の装身具の可能性は残しておきたい。

S X 59 (第14図) 調査区中央部西側の拡張部に位置する。当遺構は、調査区西側に隣接する軌道との控えとしていた部分に位置し、調査終了後の埋め直し直前に控えとした範囲を駄目押しの掘削した際に検出したものである。土器棺の残存状況は上半部が欠失しているが、横位に埋置された単棺と考えられる。埋設土坑はやはり全く検出できなかった。土器棺(29)は口縁部下に3条の素文突起が付された深鉢である。

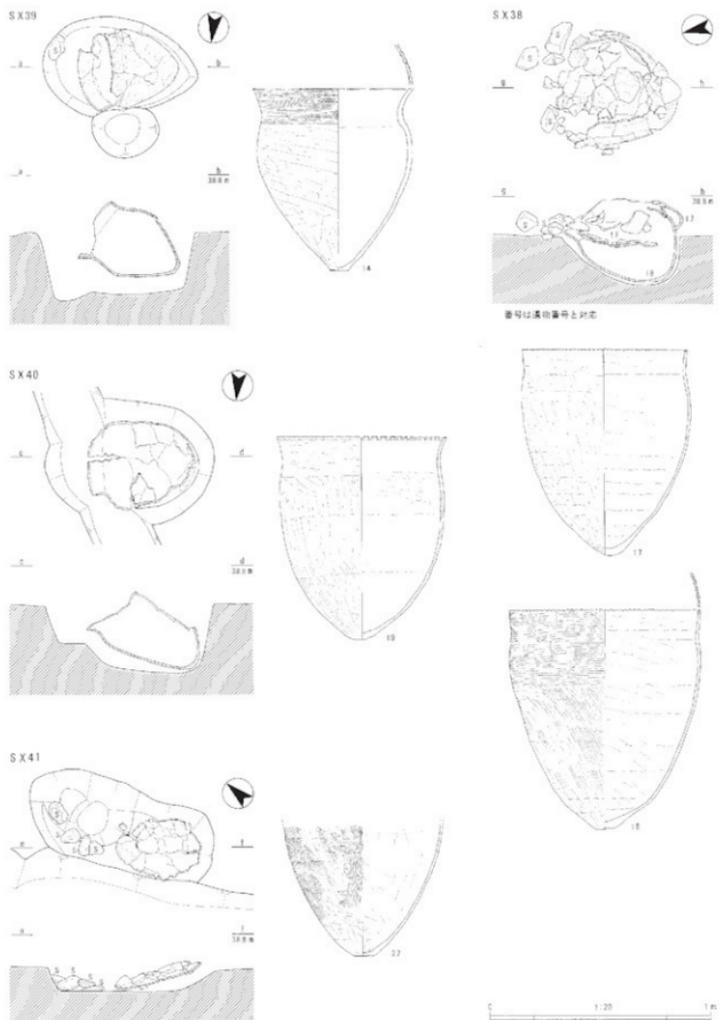
S X 39 (第15図) 調査区中央部付近に位置する。土器棺の残存状況は良好で、ほぼ完存していた。斜位



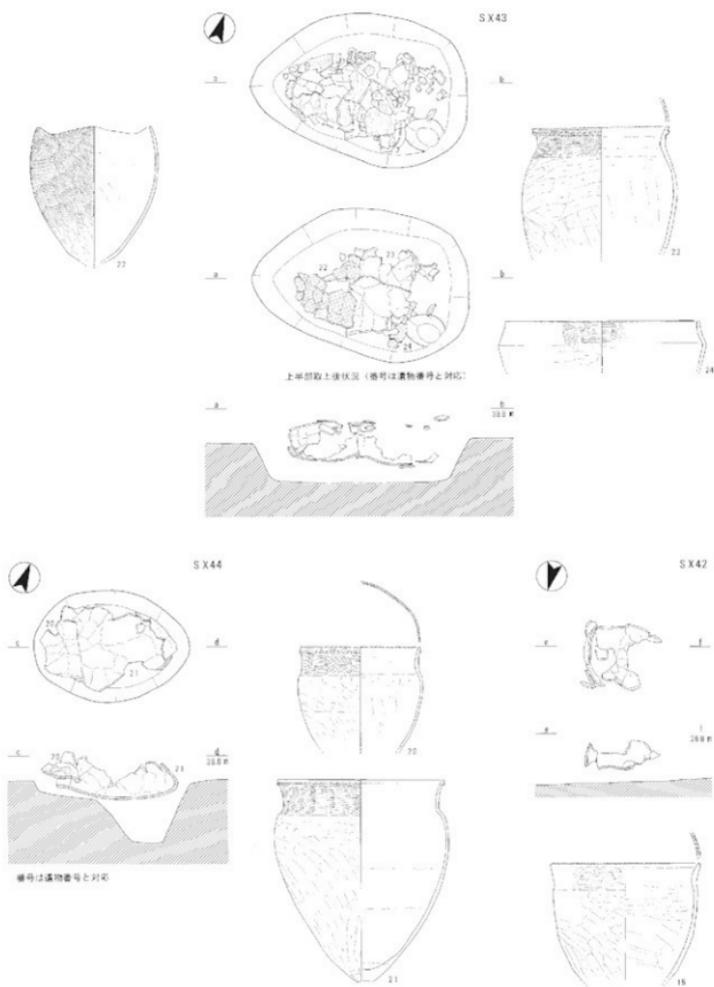
第13図 S X 25・28 平面図・断面図(1:20・土器実測図は1:10)



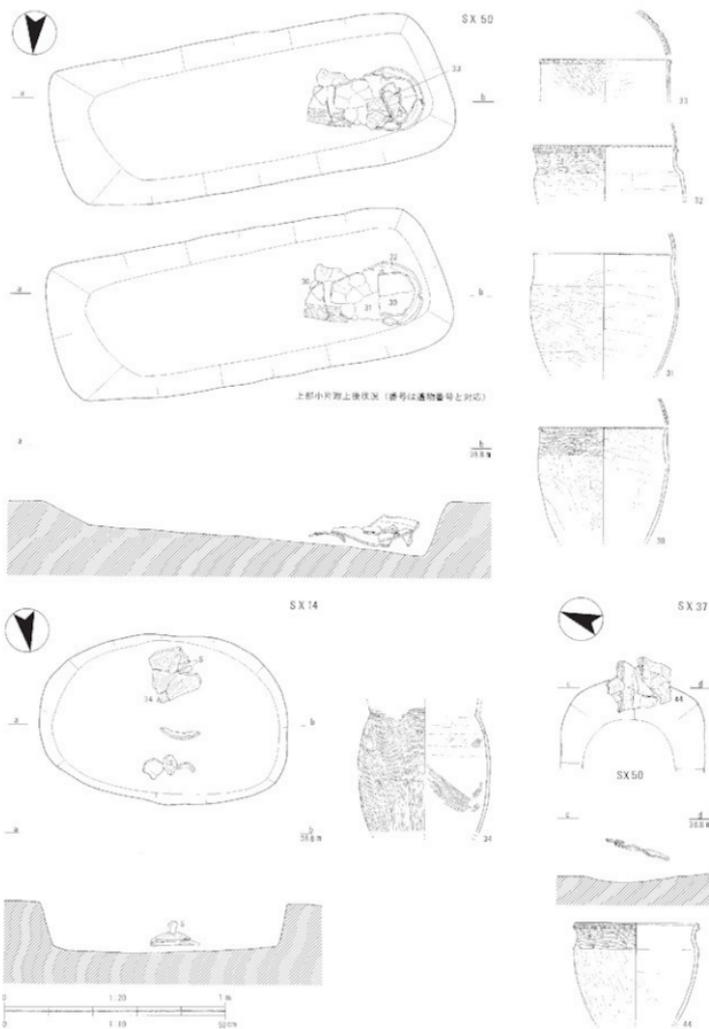
第14図 S X 29・30・31・46・59 平面・断面図(1:20・土器実測図は1:10)



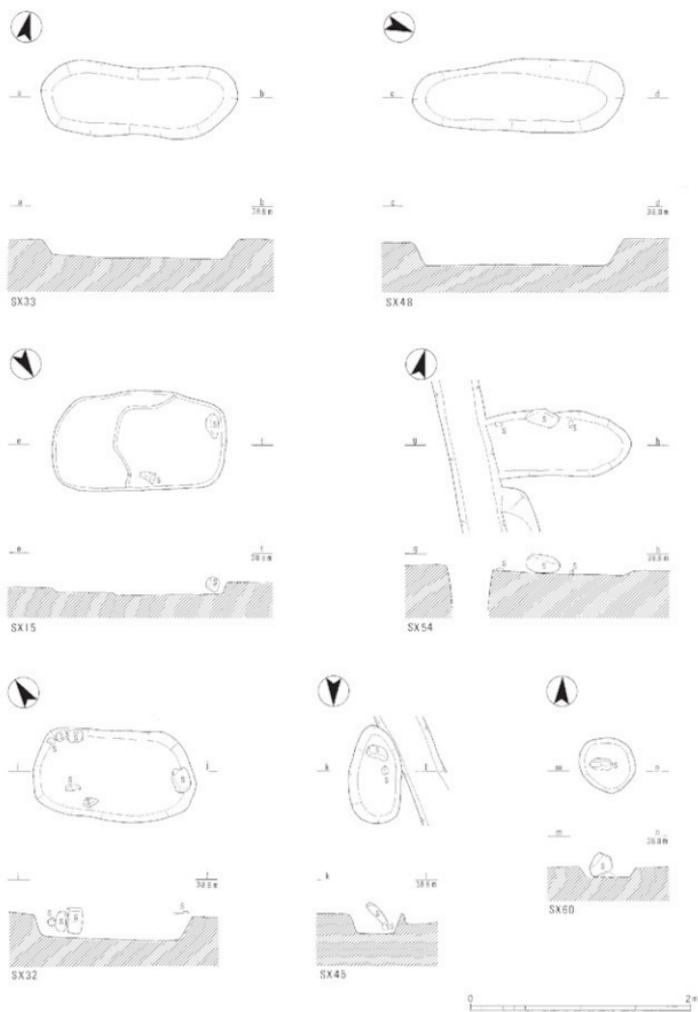
第15図 S X38・39・40・41・平面図・断面図(1:20・土器実測図は1:10)



第16図 S X 42・43・44平面図・断面図(1:20・土器実測図は1:10)



第17図 SX 14・37・50平面図・断面図(1:20・土器実測図は1:10)



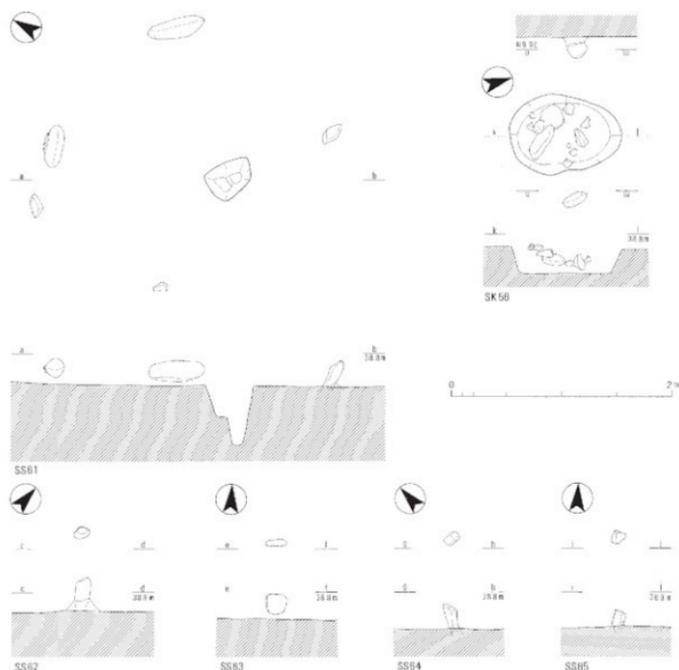
第18图 SX15·32·33·45·48·54·60平面图·断面图(1:40)

に埋設された単棺で、埋設土坑は長軸約0.7mの楕円形を呈する。土器棺内に残存していた土の微細遺物分析及びリン酸分析を行ったところ、前者では微細な炭化材や骨片が検出されたがいずれも同定はできなかった。後者ではリン酸含有量が高く、骨の埋納が推測される結果が得られている。土器棺(14)は突帯の付かない口唇部にキザミが施文された深鉢である。

S X 40 (第15図) 調査区中央部西側の壁際に位置する。土器棺上半部は破砕しているが、残存状況は比較的良好で斜位に埋設された単棺である。埋設土坑は長軸約0.8mの楕円形を呈する。土器棺内に残存していた土から検出された骨片の同定を行ったと

ころ、獣類の焼骨という結果が示されている。また残存土の微細遺物分析及びリン酸分析を行ったところ、前者では微細な炭化材や骨片が検出されたが同定はできなかった。後者ではリン酸含有量が高く、骨の埋納が推測される結果が得られている。土器棺(19)は突帯の付かない口唇部にキザミが施文された深鉢である。

S X 38 (第15図) 調査区中央部西側に位置し、S X 40に隣接する。土器棺上半部の破砕が著しかったため、検出当初は単独の土器棺と認識していたが、土器の取り上げ及び接合の過程で2個体が重複したものと判明した。出土状況から、口径・器高とも一まわり大きい18の土器棺は下部に斜位に埋置され、



第19図 SK 56、SS 61～65平面図・断面図(1:40)

著しく破砕した17の土器棺は上部で横位に埋置されたと推定される。口縁部の向きが同一方向で、土器のサイズも異なっていたため、「入子」構造とも思われたが、17の底部が18の外側で出土しており、その他の破片の出土位置からも「入子」構造は考えにくい。従って、当遺構のあり方については解釈がたいが、可能性として以下のような解釈を挙げておきたい。

- ・時期を違えて同一地点に埋置
- ・個々の土器棺を同時に同一地点に埋置
- ・破損した18上半部の閉塞目的で17を設置

なお、口縁部付近で拳大の礫が複数検出されているため、どちらに伴うものかは決しがたいが、土器棺の開口部を閉塞するために置かれた礫の可能性がある。また、土器棺内に残存していた土から検出された骨片の同定を行ったところ、獣類の焼骨という結果が示されている。土器棺(17・18)は、共に突帯の付かない口唇部にキズミが施文された深鉢である。

SX41(第15図) 調査区の北側に位置する。土器棺の残存状況は不良で、上半部が欠失しているが、斜位に埋置された単棺と考えられる。埋設土坑は長軸

約0.9mの不整楕円形で、土坑北側はビット状に落ち込み、その周囲で径10cm程の自然礫が4個体出土した。土器棺の口縁部は南側を向いており、出土した自然礫は土器棺の底部側となるため、開口部の閉塞に関わるものとは考えられない。判断材料が無いが、土器棺に付随して何かが埋置されていたのであろうか。土器棺(27)は体部下半のみの残存のため器形の全容は不明であるが、尖底に近い小径平底の深鉢と考えられる。

SX43(第16図) 調査区の北側に位置する。遺構上部が近年掘削されたと考えられる溝によって覆乱されていたため、土器棺上半部の破砕が著しい。土器棺は波状口縁深鉢(22)、突帯文の深鉢(23)、黒色磨研系の深鉢(24)の3個体で構成され、出土状況から22の鉢と23の深鉢を合口とし、さらに24の浅鉢を23の底部に連結させていることが確認できた。埋位は横位埋設である。埋設土坑は長軸約1.0mの不整楕円形を呈する。土器棺内に残存していた土の微細遺物分析及びリン酸分析を行ったところ、前者では微細な炭化材や骨片が検出されたが同定はできなかった。後者ではリン酸含有量が高く、骨の埋納が

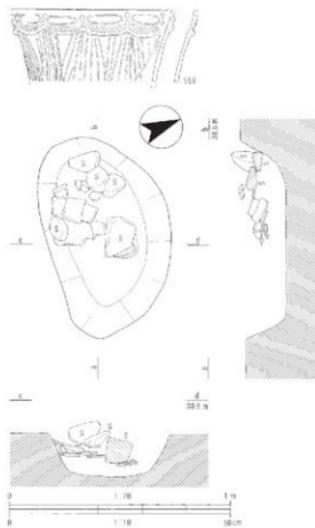


第20図 SH11平面図・断面図(1:40)

推測される結果が得られている。

S X 44 (第16図) 調査区の北側に位置する。土器棺の残存状況は不良で、上半部が欠失しているが、ほぼ横位に埋置されたと考えられる。土器棺は突帯文の深鉢2個体(20・21)で構成され、出土状況から合口構造と考えられる。埋設土坑は、長軸約0.7mの楕円形土坑として検出したが、検出段階において非常に不鮮明で、土器棺の大きさから考えると、本来はもう少し西側に広がるものと考えられる。また、土坑底部は段を呈し、一部が深くなっている。この底部の形状は不自然であるため、調査時の判断ミスで掘りすぎた結果とも考えられ、有段形状に意味は無いと考えられる。

S X 42 (第16図) 調査区の北側に位置し、S X 41・43に隣接する。土器棺の残存状況は不良で、上半部が欠失しているが、ほぼ横位に埋置されたと考えられる。埋設土坑は平面的には全く検出できず、包含層掘削時に土器棺のみ検出した。土器棺(15)は無突帯で口唇部にキザミが施された深鉢による単槽で



第21図 S K 83平面図・断面図(1:20・土器実測図は1:10)

あるが、別個体の土器片が口縁部に接して立った状態で検出されていることから、土器棺開口部を土器片で閉塞したものと推定される。

土壇墓 (第17・18図・第2表)

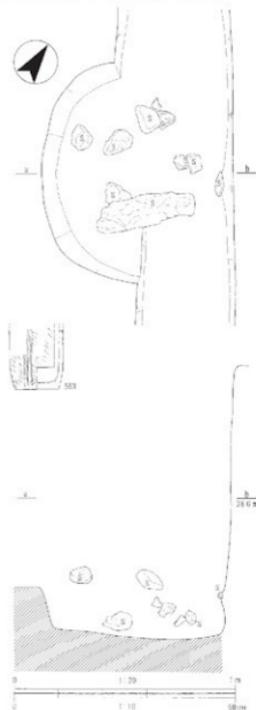
S X 50 (第17図) 調査区の北側に位置する。主軸は概ね東西方向で、平面形態が長軸約1.8m・短軸約0.7mの隅丸長方形を呈する。検出面からの深さは、深いところで0.25m程度あり、東側が浅くなっている。埋土は褐色土の単層である。西側で集中的に土器が出土しており、中央から東側ではほとんど出土していない。土器の出土状況は、口縁部～体部の口縁部1/2分の深鉢(32)が倒立状態に置かれ、その内面側に下から口縁部～体部の口縁部1/4分の深鉢(30・外面が上)、口縁部～体部の口縁部1/4分の深鉢(31・内面が上)、再び口縁部～体部の口縁部1/4分の深鉢(30・内面が上)が順に重ねて置かれ、最後に深鉢の口縁部小片(33)他が置かれている。以上のような出土状況から、人為的に土器片が組まれたことは確実であり、そのあり方から何かを載せることを意図した組み方と考えられる。出土位置が西側に偏在していることから、被葬者の頭部がここに置かれ、東側に脚部を向けた状態で埋葬された蓋然性が高いと考えられる。上部に位置する土器小片は規則性が感じられず、他よりも若干浮いた状態で出土していることから、全くの推測に過ぎないが、被葬者の顔面に置かれていたものかもしれない。埋土の微細遺物分析では、同定はできなかったものの微細な炭化材や骨片が検出された。リン酸分析でもリン酸含有量が高く、骨の埋納が推測される結果が得られている。さらに遺構外で採取した対照試料においてもリン酸含有量が高い数値を示したことから、遺構内への多量の骨の投棄、若しくは遺構外への投棄も可能性として示されている。

S X 14 (第17図) 調査区の南端西側壁際に位置する。主軸は概ね東西方向で、長軸約1.1m・短軸約0.8mの不整楕円形を呈する。検出面からの深さは0.22mで、埋土は褐色土の単層である。底部中央南寄りに口縁部と底部が欠失した深鉢体部片(34)の1/3分が外面を上にして伏せたような状態で出土した。その他の出土遺物(35～38)は埋土上面で浮いた状態で出土しているため、混入遺物の可能性が高い。

当遺構は埋土の科学分析は行っておらず、骨片も検出されていないため、土壌墓としての根拠にかけるが、土器の出土状況がS X 50に類似するため土壌墓と推定した。

S X 37 (第17図) 調査区の北側に位置し、S X 50の東端部と重複する。包含層掘削時に口縁部1/4分の底部を欠失した深鉢片(44)が外面を上にして横位の状態で出土した。墓嚢は検出していないため土壌墓とは認めたいが、土器のあり方がS X 14・50に類似するため、土壌墓と推定した。

S X 33 (第18図) 調査区の中央部に位置する。主軸は概ね東西方向で、平面形態が長軸約1.8m・短



第22図 S K 84平面図・断面図(1:20・土器実測図は1:10)

軸約0.6mの不整長楕円形を呈する。検出面からの深さは0.17m程度で、埋土は灰褐色土の単層である。当遺構は埋土の科学分析を行っておらず、骨片も検出されていないが、S X 50と類似の遺構形状や出土状況を確認できなかったものの玉(1364)が出土しているため、土壌墓の傍証になると考えられる。土器は条痕調整された深鉢口縁部片(43)が1点出土した。

S X 48 (第18図) 調査区の北側に位置する。主軸は概ね南北方向で、平面形態が長軸約2.0m・短軸約0.7mの不整長楕円形を呈する。検出面からの深さは0.24m程度で、埋土は褐色土の単層である。埋土の微細遺物分析から、同定はできなかったものの、微細な炭化材や骨片が検出されている。また、リン酸分析の結果から、リン酸含有量が高く、骨の埋納が推測される結果が得られている。さらに遺構外で採取した対照試料においてもリン酸含有量が高い数値を示したことから、遺構内への多量の骨の投棄、若しくは遺構外への投棄も可能性として示されている。条痕調整が施された土器小片と下呂石裂と考えられる石鏃(1064)、ササカイト製石核(1352)が出土した。

S X 15 (第18図) 調査区の南側に位置する。主軸は北西～南東方向で、平面形態が長軸約1.6m・短軸約0.9mの不整隅丸長方形を呈する。検出面からの深さは0.1m程度、埋土は黒褐色土の単層で、炭化物の混入が認められた。遺構の北半部で径20cm程の礎を2個体検出しており、墓嚢を想定した。当遺構は埋土の科学分析を行っておらず、骨片も検出されていないが、遺構の形状及び墓嚢を想定した礎から土壌墓と推定した。条痕調整が施された深鉢片とササカイト製の石鏃(1409)が出土している。

S X 54 (第18図) 調査区の北側に位置する。主軸は概ね東西方向で、西端が混乱により残存していないが、平面形態が推定長軸約1.6m・短軸約0.6mの不整長楕円形を呈する。検出面からの深さは僅かに0.04mで、埋土は黒褐色土の単層である。中央北隅で径30cm程の礎を検出しており、墓嚢を想定した。当遺構も埋土の科学分析を行っておらず、骨片も検出されていないが、遺構の形状及び墓嚢を想定した礎から土壌墓と推定した。出土遺物は条痕調整が施

された土器小片のみである。

S X 32 (第18図) 調査区中央部東よりに位置する。主軸は北西～南東方向で、平面形態が長軸約1.5m・短軸約0.8mの不整楕円形を呈する。検出面からの深さは0.23m程度で、埋土は黒褐色土の単層である。遺構端部で径30cm以下の礫が複数検出され、北端部の2個体は立石状を呈するため、墓標を想定した。当遺構も埋土の科学分析を行っておらず、骨片も検出されていないが、遺構の形状及び墓標を想定した礫から土壌墓と推定した。出土遺物は深鉢片4個体(39～42)やサヌカイト製石鐵木製品(1464)、下呂石製使用痕有剥片(1501)等である。

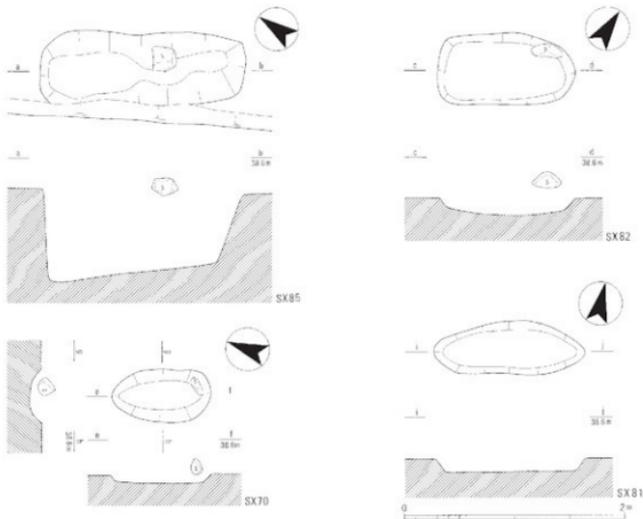
S X 45 (第18図) 調査区の中央付近に位置する。主軸は概ね南北方向で、平面形態が長軸約0.9m・短軸約0.5mの不整楕円形を呈する。検出面からの深さは、0.21mで、埋土は褐色土の単層である。南側で立石が検出されたため、墓標を想定した。当遺構からは骨片が出土しており、骨同定の結果、現在ではみられない大形のイノシシの焼かれた右距骨と判明している。深鉢の口縁部片が2片(45・46)と

サヌカイト製の石鐵2点(1047・1071)、下呂石製楔形石器(1482)、砂岩製鐵石(1610)が出土している。

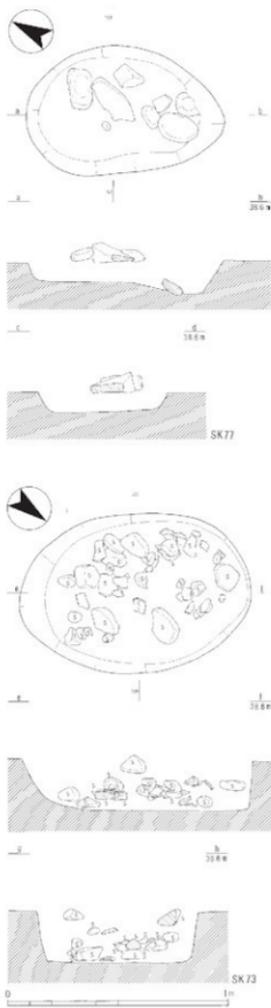
S X 60 (第18図) 調査区の南側に位置する。平面形態が径0.5mの不整円形を呈し、検出面からの深さは0.1m程度で、埋土は褐色土の単層である。中央部で立石が検出されたため、墓標を想定した。当遺構も埋土の科学分析を行っておらず、骨片も検出されていないが、遺構の形状及び墓標を想定した礫から土壌墓と推定した。出土遺物は土器小片のみである。

集石土坑 (第19図・第3表)

S K 56 調査区の北側西寄りに位置する。主軸は概ね南北方向で、平面形態が長軸約1.1m・短軸約0.7mの不整楕円形を呈する。検出面からの深さは、0.26m程度で、埋土は黒褐色土の単層である。土坑内で径30cm以下の礫が複数検出され、一部は石皿等の石器と認められるものである。埋土の微細遺物分析からは、炭化材は検出されていない。当遺構からは骨片が出土しており、骨同定の結果、ニホンジカ鹿角



第23図 S X 70・81・82・85平面図・断面図(1:40)



第24図 SK73・77平面図・断面図(1:20)

片と中肋骨遠位端片と判明している。また、リン酸分析では含有量が極端に高い値を示している。土器片が4個体(92~95)出土しているが、この内の1個体は異系統(大洞系)の体部片(94)である。また、前述の花崗岩製石皿(1172)に加え、サヌカイト製石皿3点(1103・1104・1434)、硬砂岩製粗製剥片石器(1163)等の石器やサヌカイト・下呂石の剥片も22片出土している。遺構の性格は判断し難いが、石器や剥片類が多数出土していることから、石器製作に関わる遺構の可能性も考えられる。なお、土坑東側に近接する位置で立石が検出されたため、当遺構に伴うものと判断した。地上標識的なものと推定される。

配石・立石遺構(第19図)

SS61(配石) 波紋岩素材の楕円体礫2個体と砂岩素材の不整楕円体の立石が弧状に配置されることにより、平面的に半円形を形成する。半円の中央部付近に径0.4m程のピットが所在するが、これらの配石と関係するかは不明である。

SS62(立石) デイサイト素材の長楕円体の石材が利用され、地面にほぼ垂直に立てられている。

SS63(立石) チャート素材の円盤状の石材が利用され、地面にほぼ垂直に立てられている。これは台石(1755)として使用されたもので、表面には赤色顔料(水銀朱)が付着している。

SS64(立石) 花崗岩素材の不整柱状の石材が利用され、やや傾斜した状態で地面に立てられている。

SS65(立石) 砂岩素材の不整柱状の石材が利用され、やや傾斜した状態で地面に立てられている。これは石皿破損品(1178)に敲打を加えて柱状に整形したものが使用されている。

②奈良時代の遺構

SH11(第20図) 調査区の南東隅に位置する。調査区外に延長するため全体の規模は不明であるが、検出した範囲では南北2.5m、東西2.9mの平面方形を呈する。調査区壁際で0.1~0.5m大の礫が弧状に検出され、これらの中央は被熱により焼土化していた。礫及び焼土面を除去したところ、小土坑2基・ピット2基が検出され、壁際の小土坑内から破砕した土器器壁(104)が出土した。これらはカマドの痕跡と考えられ、焼土の周囲の礫はカマドの芯材と

推定される。西側床面では須恵器杯蓋(103)も出土している。

(3) 第2・第3検出面

①縄文時代中期の遺構

集石土坑 (第21・22図・第3表)

S K 83 調査区の北側に位置する。主軸は概ね東西方向で、平面形態が長軸約0.9m・短軸約0.6mの不整楕円形を呈する。検出面からの深さは0.2m程度で、埋土は褐色土の単層である。土坑内で径20cm以下の礫が6個体検出され、中期末葉の深鉢片(559・560)が出土した。

S K 84 調査区北側東壁際に位置する。調査区外に延長するため、全体の規模・形態は不詳であるが、検出の範囲内では長軸約1.0m・短軸約0.5mで、平面形態は楕円形を呈すると推定される。検出面からの深さは0.21m程度、埋土は赤褐色土の単層で、炭化物及び焼土粒が認められた。土坑内で長さ50cm程度の楕円体状の礫や拳大程度の礫が7個体検出され、中期以降の深鉢片(561～563)が出土した。

②縄文時代晩期の遺構

土墳墓 (第23図)

S X 85 調査区北側西壁際に位置する。主軸は概ね南北方向で、平面形態が長軸約1.8m・短軸約0.6mの不整隅丸長方形を呈する。検出面からの深さは0.83mあり、埋土は黒褐色粘土の単層である。埋土上面中央部に径30cm程度の礫が据え置かれたような状態で検出されたため、墓標を想定した。当遺構も埋土の科学分析を行ってならず、骨片も検出されていないが、遺構の形状及び墓標を想定した礫から土壌墓と推定した。深鉢片(589～593)及び砂岩製の磨石(1235)、チャート製使用痕有剥片(1524)が出土している。

S X 82 調査区中央部に位置する。主軸は概ね東西方向で、平面形態が長軸約1.2m・短軸約0.7mの不整楕円形を呈する。検出面からの深さは0.17m程度、埋土は褐色土の単層で、炭化物や焼土が認められた。埋土上面の北隅で径30cm程度の礫が据え置かれたような状態で検出されたため、墓標を想定した。当遺構も埋土の科学分析を行ってならず、骨片も検出されていないが、遺構の形状及び墓標を想定した礫から土壌墓と推定した。出土遺物は土器小片のみである。

S X 70 調査区の南側に位置する。主軸は概ね南北方向で、平面形態が長軸約0.9m・短軸約0.5mの不整楕円形を呈する。検出面からの深さは0.08m程度である。遺構の南端で一部が打割された残存径15cm程度の扁平礫が埋土上面で立てられたような状態で検出されたため、墓標を想定した。当遺構は埋土の科学分析を行ってならず、骨片も検出されていないが、遺構の形状及び墓標を想定した礫から土壌墓と推定した。条痕調整が施された土器小片とササカイト製石鏝(1471)が出土している。

S X 81 調査区中央部に位置する。主軸は概ね東西方向で、平面形態が長軸約1.3m・短軸約0.5mの不整長楕円形を呈する。検出面からの深さは0.1m程度で、埋土は暗褐色土の単層である。当遺構も埋土の科学分析を行ってならず、骨片も検出されていないが、遺構の形状から土壌墓と推定した。出土遺物は土器小片のみである。

集石土坑 (第24図・第3表)

S K 77 調査区南側に位置する。主軸は概ね南北方向で、平面形態が長軸約0.8m・短軸約0.6mの不整楕円形を呈する。検出面からの深さは0.09m程度である。5～25cm程度の比較的扁平な礫が7個体土坑底部～上面で検出された。黒色磨研系と思われる浅鉢片(588)とササカイト製石鏝(1097)及びササカイト剥片10片が出土している。遺構の性格は判断し難いが、当遺構も石器製作に関わる遺構の可能性が考えられる。

S K 73 調査区南側に位置する。主軸は北西～南東方向で、平面形態が長軸約1.0m・短軸約0.7mの楕円形を呈する。検出面からの深さは0.34m程度で、埋土は褐色土の単層である。土坑内で拳大程度の礫が多数検出され、その内の一点は砥石(1632)と認められるものである。深鉢等の土器片(574～583)の他、ササカイト製石鏝(1085)、ササカイト製楔形石器(1491)、ササカイト製二次加工痕有剥片(1542)、ササカイト剥片118片、粘土塊、軽石、炭化物、骨片など多様な遺物が出土した。遺構の性格は判断し難いが、出土遺物から石器等の製作に関わる遺構の可能性が考えられる。なお、出土した骨片の骨同定を行ったところ、獣類の骨との結果が得られている。

(小山憲一)

遺構番号	グランド	用途構造	方位	主軸 (N基準)	埋設土厚の規模 (m)	土層の層形	出土遺物	
1	SX25	D6	単層	横位	N10° W (口縁部方向)	不明	深鉢	—
2	SX28	D5	単層	横位	N100° W (口縁部方向)	不明	深鉢	—
3	SX29	B5	単層	横位	N80° E (口縁部方向)	長軸 1.9 短軸 0.6 深さ 0.26	深鉢	炭化物・不明骨片
4	SX30	B8	単層小	横位	N135° E (口縁部方向)	長軸 0.9 短軸 不明 深さ 0.15	深鉢	—
5	SX31	B8	単層	横位	N135° E (口縁部方向)	長軸 0.7 短軸 0.6 深さ 0.20	深鉢	炭化物
6	SX38	B4	複合層小	斜位	N11° E (口縁部方向)	径 0.5 深さ 0.22	深鉢2個体	銅骨片
7	SX39	D4	単層	斜位	N70° E (口縁部方向)	長軸 0.7 短軸 0.5 深さ 0.28	深鉢	炭化物・不明骨片
8	SX40	B4	単層	斜位	N80° E (口縁部方向)	長軸 0.8 短軸 0.6 深さ 0.31	深鉢	炭化物・銅骨片
9	SX41	C3	単層	斜位	N137° E (口縁部方向)	長軸 0.8 短軸 0.4 深さ 0.37	深鉢	—
10	SX42	C3	単層+土器片産	横位	N77° E (口縁部方向)	不明	深鉢	—
11	SX43	C2	合口+底蓋連結	横位	N60° E (主軸)	長軸 1.9 短軸 0.7 深さ 0.17	深鉢+深鉢+深鉢	炭化物・不明骨片
12	SX44	C1	合口	横位	N60° E (主軸)	長軸 0.7 短軸 0.5 深さ 0.06	深鉢+深鉢	—
13	SX46	C5	単層	横位	N135° E (口縁部方向)	不明	深鉢	—
14	SX50	B5	単層	横位	N130° W (口縁部方向)	不明	深鉢	—

第1表 土器棺墓一覧表

遺構番号	グランド	平面形態	規模 (m)	長幅出	付随物	主軸 (N基準)	出土遺物			備考
							土 器	石器・石製品等	そ の 他	
1	SX14	B9	不整形円形 長軸 1.1 短軸 0.8 深さ 0.22	0.73	土器片	N82° W	深鉢片4個体 褐色磨研片或鉢片1個体	付片1・割片20 (ヤマガイイ)	—	
2	SX15	C7	不整形大長方形 長軸 1.6 短軸 0.9 深さ 0.1	0.56	銅元石	N60° W	深鉢片1個体	石鏡1・割片17 (ヤマガイイ)	—	
3	SX22	E5	不整形円形 長軸 1.3 短軸 0.8 深さ 0.23	0.53	正石	N50° W	深鉢片4個体	石鏡木製品1・使用痕有割片3・割片5 (ヤマガイイ) 7・ヤマガイイ)	—	
4	SX33	C5	不整形円形 長軸 1.8 短軸 0.6 深さ 0.17	0.33	—	N76° E	深鉢片1個体	有孔木製品1・使用痕有割片3・割片5 (ヤマガイイ) 3・4・5長径)	—	
5	SX37	C4	不明	—	土器片	不明	深鉢片1個体	—	炭化物	
6	SX45	D6	不整形円形 長軸 0.9 短軸 0.5 深さ 0.23	0.56	正石	N3° W	深鉢片2個体	石鏡2・割片4割片1・木器1・割片13 (ヤマガイイ)	イノシシ右肋骨	
7	SX48	C4	不整形長円形 長軸 2.9 短軸 0.7 深さ 0.24	0.55	—	N21° W	小片のみ	石鏡1・石鏡1 (ヤマガイイ)	炭化物・不明骨片	
8	SX50	C4	不整形大長方形 長軸 1.8 短軸 0.7 深さ 0.25	0.39	土器片	N73° E	深鉢片4個体	—	炭化物・不明骨片	健康標小
9	SX54	B+C3	不整形長円形 長軸 1.6(測定) 短軸 0.6 深さ 0.04	0.38	銅元石	N17° E	小片のみ	—	—	
10	SX60	D9	不整形円形 径 0.5 深さ 0.1	—	正石	—	小片のみ	—	—	
11	SX76	B8	不整形円形 長軸 0.9 短軸 0.5 深さ 0.08	0.56	正石	N23° W	小片のみ	石鏡木製品1・割片7 (ヤマガイイ)	—	
12	SX81	C5	不整形長円形 長軸 1.3 短軸 0.5 深さ 0.1	0.38	—	N76° E	小片のみ	—	—	
13	SX82	C+D5	不整形円形 長軸 1.7 短軸 0.7 深さ 0.17	0.58	銅元石	N36° E	小片のみ	—	—	
14	SX85	B2	不整形大長方形 長軸 1.8 短軸 0.6 深さ 0.85	0.33	銅元石	N34° W	深鉢片4個体	磨石1・割片8 (ヤマガイイ)	—	

第2表 土壌墓一覧表

遺構番号	グリッド	時期	平面形態	規模 (m)	出土遺物			備考	
					土器	石器	その他		
1	SK96	CⅡ	晩期	不整楕円形	長軸 1.1 短軸 0.7 深さ 0.26	深鉢片3個体 黒土系土器(大淵式器) 1個体	石鏝3・柳製削片石器 1・石皿1・石石1・割 刀2(サヌカイト)・手 鏡1	ホホソシノ中砂層露出部 陶片・鹿角片	底面に点石
2	SK73	C7	晩期	楕円形	長軸 1.0 短軸 0.7 深さ 0.34	深鉢片10個体 浅鉢片1個体	石鏝1・柳製削片1・磨 石1・二次加工黒有洞削 片1・割片118(サヌカイ ト)	粘土土・炭化物・軟骨 片・鹿角	
3	SK77	C8	晩期	不整楕円形	長軸 0.8 短軸 0.6 深さ 0.09	黒色磨研系浅鉢1個体	石鏝1・割片16(サヌカ イト)	—	
4	SK83	C2	中期末	不整楕円形	長軸 0.9 短軸 0.6 深さ 0.2	深鉢片2個体	割片1(サヌカイト)	—	
5	SK84	E3	中期末	楕円形	長軸 1.0(横径) 短軸 0.5(縦径) 深さ 0.21	深鉢片3個体	—	—	

第3表 集石土坑一覽表

5 BI地区

(1) 基本層序と検出遺構

近畿自動車道の西側に位置する当調査区は、北側の丘陵部から南西方向へ張り出す低位段丘面に位置する。

基本層序は1～5層(盛土・耕作土・床土)、6・19・22・28層(遺物包含層)。7・23・24層(地山)に大別される。調査当初は4・6層下面で検出し、掘立柱建物・土坑・ピット等を検出したが、調査区の北半部を中心に検出層に遺物が含まれていたため、記録作業終了後、7・23層上面で再度検出作業を行った。調査の結果、縄文時代の落ち込み等を検出した。以下、時代順に主な遺構のみ詳述するが、その他の遺構については第4・5表の遺構一覽表を参照されたい。なお、検出した遺構は、第25・26図の通り、検出面毎に第1検出面・第2検出面と表現している。

(2) 縄文時代の遺構

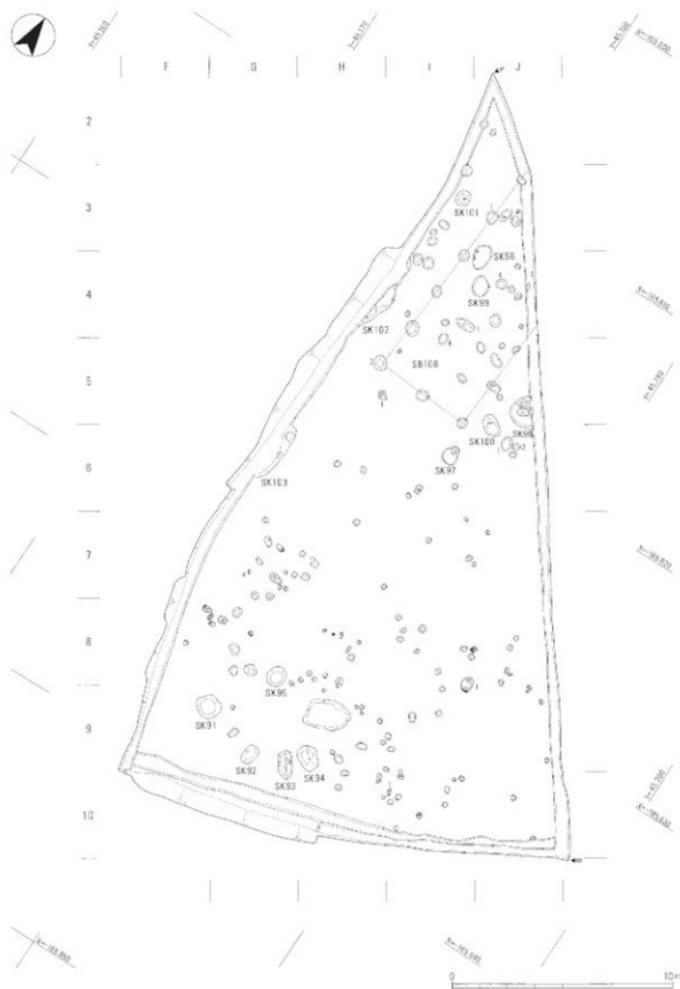
SK98 調査区北側に位置する。長軸約1.2m、短軸約0.8m、検出面からの深さが0.1m程度の不整楕円形を呈する土坑である。埋土は褐色土の単層で、中期末葉～後期初頭の深鉢片(717・718)が出土した。

SK100 (第28図) 調査区中央付近に位置する。長軸約1.1m、短軸約0.7mの不整楕円形を呈する。検出面からの深さは0.24m程度であるが、底部北側が

大きく落ち込み、段を持つ。埋土は黒褐色土の単層で、中央部で径20cm程の自然礫2個体とともに中期末葉～後期初頭の深鉢片(719～724)と壺体部片(725)が出土した。

SZ104 調査区中央部やや北寄りに位置する落ち込みである。南北幅が12m程度で、検出面からの深さが最も深いところで0.49mを測る。埋土は暗褐色土の単層である。埋土からは中期前半・中期末葉・後期前半・晩期後半の土器片(726～734・736～780・782～815)や、サヌカイト製石鏝2点(1053・1394)、サヌカイト製削器2点(1285・1477)、硬砂岩製及び片岩製楔形石器2点(1309・1311)、片岩製及び硬砂岩製礮器3点(1342・1343・1572)、砂岩製及び片岩製粗製削片石器2点(1165・1166)、珩岩製磨製石斧(1247)、片岩製・緑色片岩製・緑色岩製・火砕岩製・砂岩製打欠石鍾5点(1117・1131・1135・1150・1151)・チャート製使用痕有剥片(1527)・斑レイ岩製磨石(1641)・砂岩素村の受熱礫等の石器他が出土している。

SZ106 SZ104に重複し、調査区西側に位置する南北に長い落ち込みである。検出面からの深さは最も深いところで0.47mを測る。調査及び報告時にも一応単独遺構としたが、SZ104と一連の落ち込み地形と考えても差し支えないと思われる。埋土から中期末葉及び後期前半の深鉢片(735・781)とサヌカイト製使用痕有剥片(1513)が出土している。



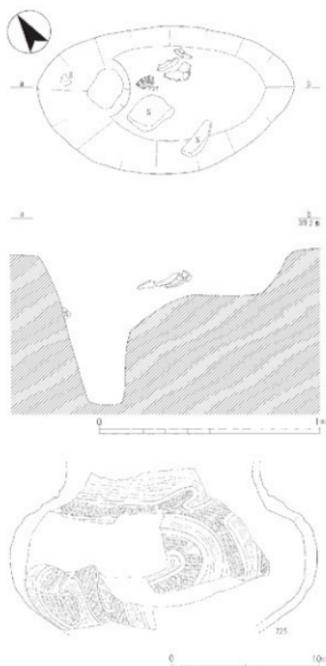
第25图 BI地区第1号出土面遺構平面図(1:200)



第26图 BI地区第2次出土面遺構平面図(1:200)



第27図 BI地区土層断面図(1:100)



第28図 SK100平面図・断面図(1:20・土器実測図は1:3)

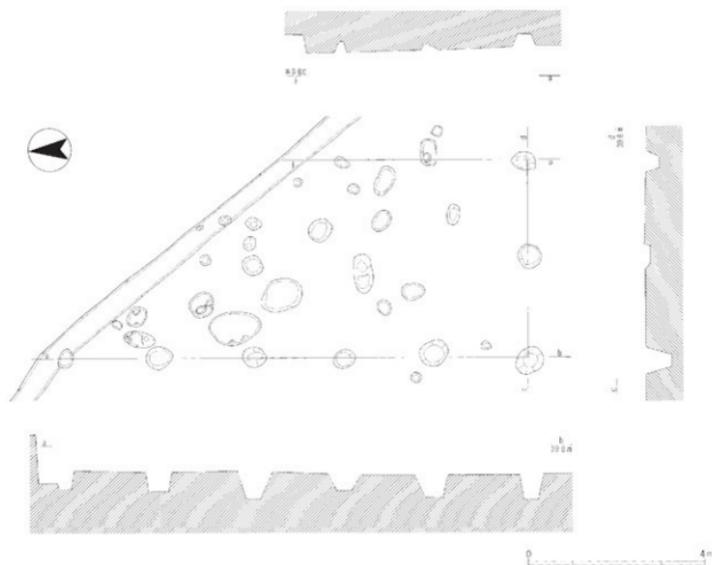
(3) 平安時代の遺構

SB108 (第29図) 調査区北端部に位置する。5間以上×2間の南北棟で、主軸が4度東に振っているもの、ほぼ方位に沿って構築されている。柱間は桁行各2.1m、梁行各2.3mの等間である。土器器小片のみの出土のため時期判断の材料に乏しいが、概ね平安時代の後半期の建物跡と思われる。

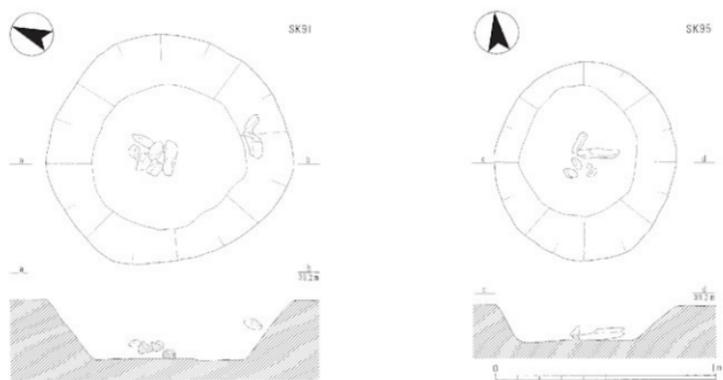
SK105 調査区の中央西側部に位置し、径0.9m、検出面からの深さ0.2m程度の円形土坑で、埋土は黒色粘土の単層である。底部外面に「東」と墨書された完形の土器器杯(816)が土坑底部東よりに伏せた状態で出土し、併せてほぼ完形の鉄製紡錘車(817)も出土した。当遺構は、第2検出面で検出した縄文期の落ち込みS Z104の埋土掘削途上で鉄製紡錘車が出土したことにより初めて認識できたもので、掘削作業中の不注意により紡錘車を取り上げてしまったため、出土状況は不明である。しかしながら、土器器杯との共伴は確実であり、意図的な埋納土坑と考えられる。遺構の時期は、土器器杯が富宮Ⅱ期第3段階に相当することから、10世紀代と考えられる。

(4) 時期不明の遺構

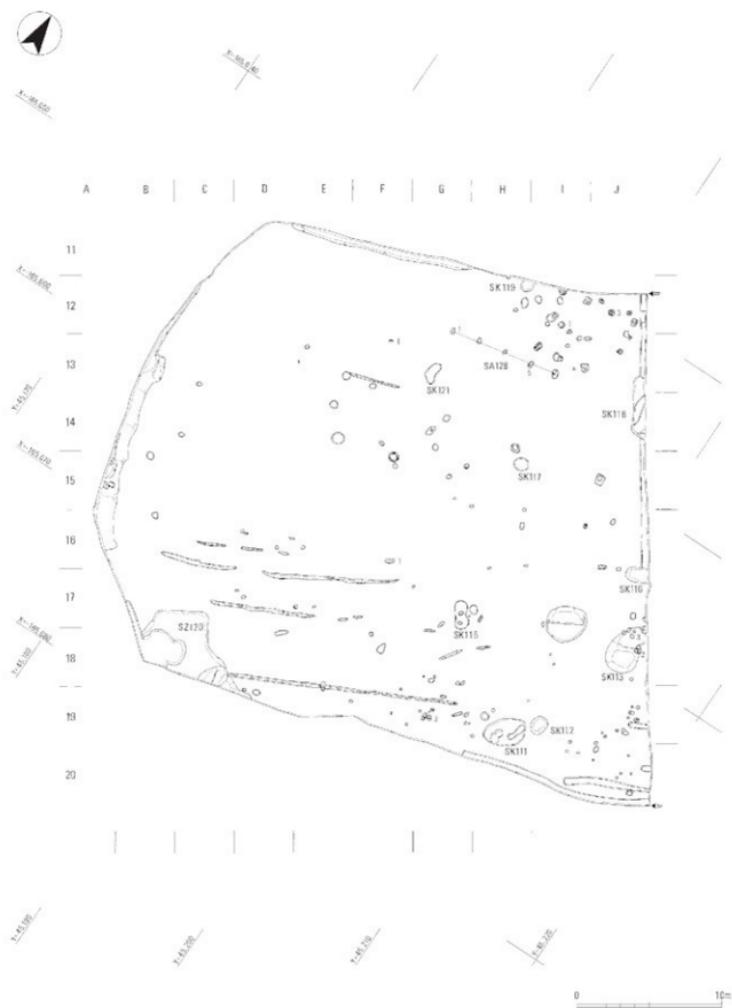
SK91 (第30図) 調査区の南端付近に位置する径約1.1m、検出面からの深さが0.28m程の不整形土坑である。底部中央に棒状及び拳大程度の自然礎が6個体、据え置かれたような状態で出土している。埋土は暗褐色土の単層で、焼土粒や炭化物が混入していた。出土遺物は皆無で時期は不明である。



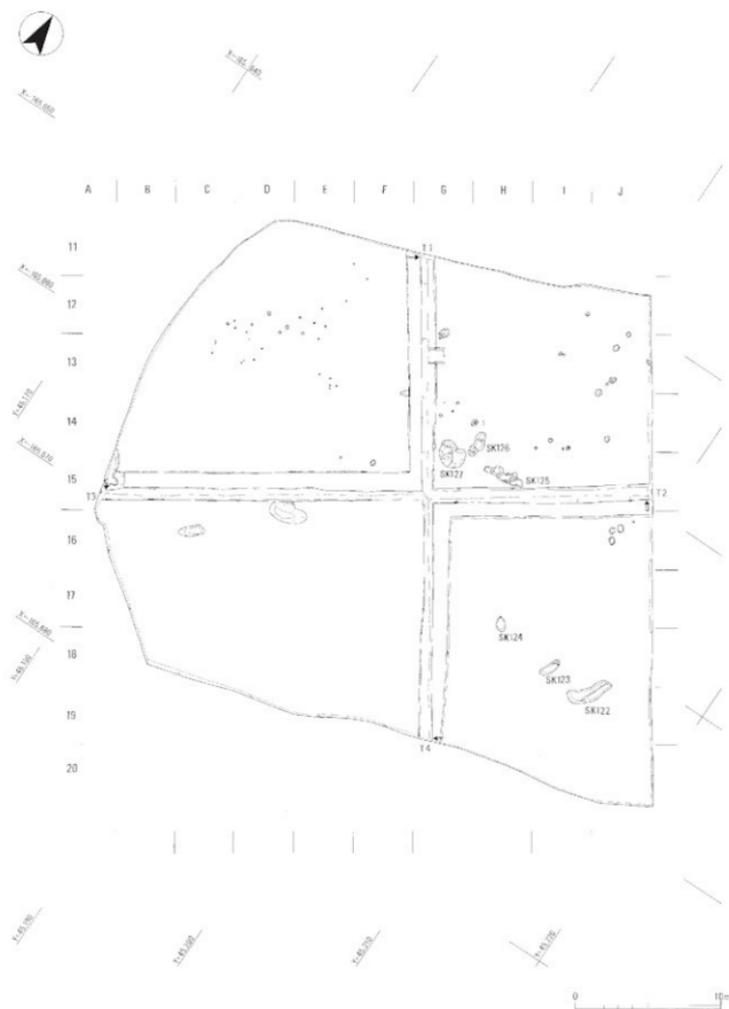
第29圖 SB108平面圖・断面圖(1:100)



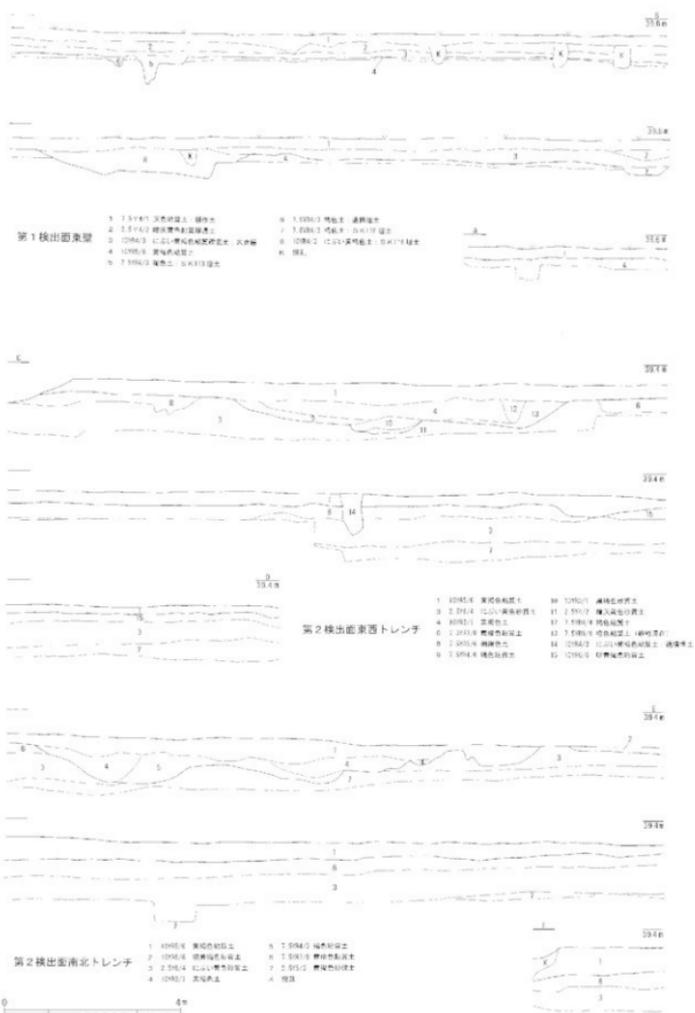
第30圖 SK91・95平面圖・断面圖(1:20)



第31图 B II地区第1号出土面遗构平面图(1:300)



第32图 B II地区第2核出面遗构平面图(1:300)



第33図 B II地区土層断面図(1:100)

S K 95 (第30図) 調査区の南端付近に位置する径0.9m、検出面からの深さ0.19m程の不整形土坑である。底部中央に棒状及び拳程度の自然礫が6個体、据え置かれたような状態で出土している。埋土は黒褐色土の単層で、焼土粒や炭化物が混入していた。遺物は全く出土していない。遺構の規模や形態、自然礫の出土状況、埋土の状況がS K 91と酷似しており、両者は同様の性格を持った遺構と考えられる。ともに出土遺物が皆無のため時期は不明であるが、当遺跡の西方約100mに位置する上ノ広遺跡で検出された平安時代の火葬墓と、遺構の規模や形態、出土礫の有様、埋土の状況などが類似していることから、S K 91・S K 95は平安時代の火葬墓もしくはその関連遺構の可能性がある。(小山憲一)

6 B II 地区

(1) 基本層序と検出遺構

B I 地区の南側に隣接する調査区である。B I 地区と同様、北側の丘陵部から南西方向へ張り出す低段丘陵縁部に位置する。

基本層序は1・2層(耕作土)、3層(遺物包含層)、4層に大別される。4層上面で検出し、土坑・ピット等を確認した。記録作業終了後、調査区内に十字トレンチを設定して下層の確認調査を行ったところ、土坑等を検出した層に遺物の包含が認められたため、下層調査を行った。1層(=上層の4層に相当)が遺物包含層、2層以下は無遺物層であるため、1層下面で検出を行った。検出の結果、土坑やピットが検出されたが、不定形の性格不明遺構がほとんどである。以下、時代順に主な遺構のみ詳述するが、

その他の遺構については第4・5表の遺構一覧表を参照されたい。また、検出した遺構は、第31・32図の通り、検出面毎に第1検出面・第2検出面と表現した。なお、下層調査で設定した十字トレンチの土層観察から畦畔状の土層断面が観察できたため、水田遺構等の存在が想定されたが、平面的にはまったく検出することができなかった。

(2) 縄文時代の遺構

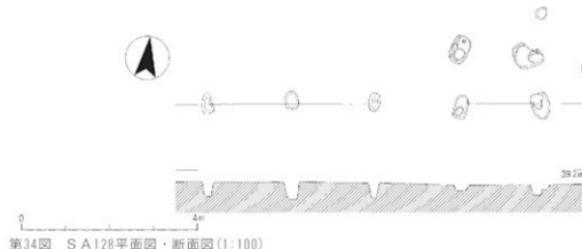
S K 119 調査区北壁際に位置する。調査区外に延長するため遺構の全容は不明であるが、検出範囲から径0.9m程の円形を呈すると推定される。埋土は茶褐色礫混土の単層で、検出面からの深さが0.14m程度である。縄文中期末葉～後期初頭の所産と考えられる沈線文系の土器片(960)が出土した。

S K 127 調査区中央部付近に位置する。径1.8m、検出面からの深さが0.28m程度の不整形形を呈する土坑である。底部にピット状の落ち込みがあり、不定形の形状を呈する。埋土は暗褐色粘質土の単層で、炭化物の混入が認められた。縄文中期末葉～後期初頭の所産と考えられる沈線文系の土器片が出土した。

(3) 平安時代の遺構

S K 111 調査区南端部に位置する。長軸2.8m、検出面からの深さが0.29m程度の不整形円形を呈する。底部には不定形の小土坑が2基認められた。埋土は淡褐色土の単層である。土師器甕(1031)が出土している。

S K 113 調査区東壁際に位置する。調査区外に延長するため遺構の全容は不明であるが、検出範囲内では長軸3.3m程の不整形円形を呈する。遺構の南半部が一段深くなり、検出面からの深さが0.29mを



第34図 S A 128平面図・断面図(1:100)



第35図 C地区平面図・土層断面図(1:400・横
1:100・縦1:200)



第36図 D地区平面図・土層断面図(1:200)

測る。灰褐色土の単層埋土から完形のロクロ土師器皿(1014)が出土しているため、平安時代末期の遺構と判断される。なお、当遺構では混入遺物であるが浮線文系の縄文土器(994)と珉岩製小型磨製石斧(1243)・チャート製の打欠き石錐(1116)も出土している。

SA128(第34図) 調査区北端に位置するピット列である。北端部にはこれら以外にピットが比較的集中しているが、建物としてまとまらなかったため、柱列と判断した。軸はN9°Eで、柱間は4間、各柱間が1.9mの等間である。各ピットからは土師器の杯皿類や甕、山茶碗等が出土している。出土遺物はいずれも小片で詳細な時期は不明であるが、平安期の遺構と推定される。(小山憲一)

7 C I地区

本調査区は、北西の丘陵部から南東方向へ張り出す段丘縁辺部に相当する。

基本層序は4層が自然堆積層であることから、表土・床土・3~4層・5~7層に大別される。

3層下面にて検出LpI:1カ所を確認したが、断面形態が不定形であり植物由来の痕跡である可能性が高い。また、3層からは近世陶磁器片が出土した。(川崎志乃)

8 C II地区

本調査区は、西側のD地区および東側のB II地区の位置する段丘の合間の谷部に相当する。

基本層序は、調査区南方へと土砂を押し出す4層を境に、表土・床土・畦・4層・5~7層に大別される。

4層上面にて検出したが、遺構は確認できなかった。遺物は近世陶磁器片が出土した。(川崎志乃)

9 D地区

本調査区は、北西の丘陵部から南東方向へ張り出す段丘縁辺部に相当する。

基本層序は、1表土(現代の耕作土)・2床土・3淡褐色中砂~細砂(レキの堆積が部分的に入る)・4締まりの悪いレキ層である。4は調査区南端で堆積

が厚く、丘陵寄りの北部ほど堆積が薄い。

現在の調査区南端付近には、榑田川に沿う形で、水田の区画として石垣が高く積まれており、河川に則した地形の傾斜を利用している可能性を想定していたが、断面で確認できた4の堆積の厚さからは4が榑田川の埋没自然堤防と考えられる。また、3はその上に北部の丘陵から流れ出た土砂が堆積し、後背低地を埋積したと判断できる。(川崎志乃)

【註】

- ①伊藤裕偉「中世南伊勢系の土師器に関する一試論」(『Wie history』Vol.1 三重歴史文化研究会 1990年)
- ②松阪市史編さん委員会『松阪市史 第二巻資料篇考古』(1978年)
- ③後掲の「V 自然科学分析」参照。以下、土壌等の分析にかかる記述は前記に拠る。
- ④滋賀県志那湖底遺跡では2個体の土師の底部を打ち欠き、打ち欠いた底同士を合わせた土器棺が検出されており、中村健二氏はこれを近畿地方における土器棺使用法の一分類としている(中村健二「土器棺よりみた近畿地方縄文晩期後半の地域色について」(『滋賀考古』第10号 1993年 滋賀考古学研究会)。S X30の土器棺残存状況からは不自然さも否めず、混入遺物の可能性もある。
- ⑤斎宮歴史博物館「斎宮跡の土器様相」(記念シンポジウム「斎宮の土器・みやこの土器」資料 2000年)
- ⑥上ノ広遺跡の当該土壇墓S X 1は、一辺約1mの隅丸方形で、壁面が焼け締まり焼土帯を形成している点は異なるが、近隣地であり、規模や埋土の状況が類似する点を重視した(三重県教育委員会「上ノ広遺跡」(近畿自動車道(久居～勢和)埋蔵文化財発掘調査報告-第1分冊1-』1989年)。

報告書 遺構番号	調査時 遺構番号	調査 高さ	地区	ゾニッド	性 格	規 模 (m)	時 期	備 考
S B 1	S B 1	2	A 1	A 3～B 5	独立柱建物	2階以上×3階の東西棟	平安末～鎌倉初期	南東隅土坑を伴う
S K 2	S K 2	2	A 1	B 4・5	土坑	長軸1.2 短軸1.2 深さ0.25	平安末～鎌倉初期	S B 1の南東隅土坑
欠 奉	S B 3	2	A 1	A 2～B 3	—	—	—	—
S D 4	S D 4	2	A 1	D・E 6	溝	延長1.9 幅 0.3 深さ0.13	中世前期	—
S H11	S H11	2	A 照	E 9	炬燵住居	溝女区内2.9×2.5 深さ0.29	奈良	南東隅に土・礎集中（カマド痕跡）
S K12	S K 2	2	A 照	D・E 9	土坑	長軸1.6 短軸1.2 深さ0.85	講文晩期	S K13・66と同一遺構の可能性あり
S K13	S K 3	2	A 照	D・E 9	土坑	長軸2.0 短軸0.8 深さ0.54	講文晩期	S K12・66と同一遺構の可能性あり
S X14	S K 4	2	A 照	B 9	土壌墓	長軸1.1 短軸0.8 深さ0.22	講文晩期	土器片埋設
S X15	S K 5	2	A 照	C 7	土壌墓	長軸1.6 短軸0.9 深さ0.1	講文晩期	礎え石あり
S K16	S K 6	2	A 照	A 8・9	土坑	長軸1.2 短軸0.6 深さ0.19	講文晩期	—
S K17	S K 7	2	A 照	B 7	土坑	長軸1.2 短軸0.5 深さ0.1	講文晩期	—
S K18	S K 8	2	A 照	B 7	土坑	長軸1.0 短軸0.6 深さ0.22	講文晩期	—
S K19	S K 9	2	A 照	C 7	土坑	長軸1.2 短軸0.6 深さ0.3	講文晩期	—
S K20	S K10	2	A 照	C 7	土坑	長軸1.1 短軸0.6 深さ0.25	講文晩期	—
S K21	S K11	2	A 照	E 7	土坑	長軸1.4 短軸0.6 深さ0.22	講文晩期か	—
S K22	S K12	2	A 照	B 6	土坑	長軸1.8 短軸0.8 深さ0.15	講文晩期か	—
S K23	S K13	2	A 照	B 6	土坑	長軸0.8 短軸0.6 深さ0.38	講文晩期	—
S K24	S K14	2	A 照	D 6	土坑	長軸1.4 短軸0.7 深さ0.41	講文晩期	—
S X25	S X15	2	A 照	D 6	土器陪葬	不明	講文晩期	—
S K26	S K16	2	A 照	D 7	土坑	長軸1.5 短軸1.2 深さ0.29	講文晩期	—
S K27	S K17	2	A 照	D 7	土坑	長軸1.3 短軸1.2 深さ0.31	講文晩期	—
S X28	S X18	2	A 照	D 5	土器陪葬	不明	講文晩期	—
S X29	S X19	2	A 照	B 5	土器陪葬	長軸1.0 短軸0.6 深さ0.26	講文晩期	規模は土器埋設土坑の規模を示す
S X30	S X20	2	A 照	B 8	土器陪葬	長軸0.9 短軸不明 深さ0.15	講文晩期	規模は土器埋設土坑の規模を示す
S X31	S X21	2	A 照	B 8	土器陪葬	長軸0.7 短軸0.6 深さ0.33	講文晩期	規模は土器埋設土坑の規模を示す
S X32	S K22	2	A 照	E 5	土壌墓	長軸1.5 短軸0.8 深さ0.23	講文晩期	立石あり
S X33	S K23	2	A 照	C 5	土壌墓	長軸1.8 短軸0.6 深さ0.17	講文晩期	有孔集積出土
S K34	S K24	2	A 照	C 5	土坑	長軸1.0 短軸0.5 深さ0.15	講文晩期	—
S K35	S K25	2	A 照	B 5	土坑	長軸1.1 短軸0.8 深さ0.25	講文晩期小	—
S K36	S K26	2	A 照	B 5	土坑	長軸1.0 短軸0.5 深さ0.21	講文晩期	—
S X37	S X27	2	A 照	C 4	土壌墓	不明	講文晩期	土器片埋設
S X38	S X28	2	A 照	B 4	土器陪葬	径 0.5 深さ0.22	講文晩期	規模は土器埋設土坑の規模を示す
S X39	S X29	2	A 照	D 4	土器陪葬	長軸0.7 短軸0.5 深さ0.28	講文晩期	規模は土器埋設土坑の規模を示す
S X40	S X30	2	A 照	B 4	土器陪葬	長軸0.8 短軸0.6 深さ0.31	講文晩期	規模は土器埋設土坑の規模を示す
S X41	S X31	2	A 照	C 3	土器陪葬	長軸0.8 短軸0.4 深さ0.37	講文晩期	規模は土器埋設土坑の規模を示す
S X42	S X32	2	A 照	C 3	土器陪葬	不明	講文晩期	—
S X43	S X33	2	A 照	C 2	土器陪葬	長軸1.0 短軸0.7 深さ0.17	講文晩期	規模は土器埋設土坑の規模を示す
S X44	S X34	2	A 照	C 1	土器陪葬	長軸0.7 短軸0.5 深さ0.08	講文晩期	規模は土器埋設土坑の規模を示す
S X45	S K35	2	A 照	D 6	土壌墓	長軸0.9 短軸0.5 深さ0.21	講文晩期	立石あり
S X46	S X36	2	A 照	C 5	土器陪葬	不明	講文晩期	—
S K47	S K37	2	A 照	E 2	土坑	長軸0.9 短軸0.7 深さ0.26	講文晩期小	—
S X48	S K38	2	A 照	C 4	土壌墓	長軸2.0 短軸0.7 深さ0.24	講文晩期	—
S K49	S K39	2	A 照	B・C 4	土坑	径 0.6 深さ0.42	講文晩期	—
S X50	S K40	2	A 照	C 4	土壌墓	長軸1.8 短軸0.7 深さ0.25	講文晩期	溝埋設か
S K51	S K41	2	A 照	B・C 3	土坑	径 0.6 深さ0.35	講文晩期	—
S K52	S K42	2	A 照	C 3	土坑	長軸1.2 短軸0.7 深さ0.26	講文晩期	—
S K53	S K43	2	A 照	C 3	土坑	長軸1.0 短軸0.6 深さ0.3	講文晩期	—
S X54	S K44	2	A 照	B・C 3	土壌墓	長軸1.6 短軸0.6 深さ0.04	講文晩期	—
S K55	S K45	2	A 照	D 4	土坑	長軸0.9 短軸0.8 深さ0.27	講文晩期	—
S K56	S K46	2	A 照	C 2	基石土坑	長軸1.1 短軸0.7 深さ0.26	講文晩期	—
S K57	S K47	2	A 照	D 1	土坑	長軸1.0 短軸0.5 深さ0.27	講文晩期	—
S K58	S K48	2	A 照	C 1	土坑	長軸2.0 短軸0.8 深さ0.14	講文晩期小	—
S X59	S X49	2	A 照	B 5	土器陪葬	不明	講文晩期	—
S X60	F1:5	2	A 照	D 9	土壌墓	径 0.5 深さ0.1	講文晩期小	立石あり
S S61	—	2	A 照	D 7・8	基石	—	—	半円状に礎を配置
S S62	—	2	A 照	C 2	立石	—	—	講文晩期小
S S63	—	2	A 照	D 3	立石	—	—	講文晩期小
S S64	—	2	A 照	E 6	立石	—	—	講文晩期小

第4表 遺構一覧表1

報告書 遺構番号	調査時 遺構番号	調査 高さ	地区	ゾニッド	性 格	規 模 (m)	時 期	備 考
S K65	—	2	AⅡ	B 9	土石	—	—	講文時期か
S K66	下層 S K 1	2	AⅡ	B 9	土坑	—	—	講文時期
S K67	下層 S K 2	2	AⅡ	B 8	土坑	長軸0.7 短軸0.4 深さ0.12	講文中期末5か	S K12・13と同一遺構の可能性あり 土器碎片のみ
S K68	下層 S K 3	2	AⅡ	B 8	土坑	長軸1.0 短軸0.6 深さ0.19	講文時期	
S K69	下層 S K 4	2	AⅡ	B 8	土坑	長軸1.0 短軸0.6 深さ0.27	講文時期	
S X70	下層 S K 5	2	AⅡ	B 8	土壘墓	長軸0.9 短軸0.5 深さ0.08	講文時期	左右あり
S K71	下層 S K 6	2	AⅡ	C 8	土坑	長軸0.7 短軸0.5 深さ0.05	講文時期か	
S K72	下層 S K 7	2	AⅡ	B 8	土坑	長軸1.8 短軸0.7 深さ0.3	講文時期か	
S K73	下層 S K 8	2	AⅡ	C 7	築石土坑	長軸1.0 短軸0.7 深さ0.34	講文時期	
S K74	下層 S K 9	2	AⅡ	C 7	土坑	長軸1.5 短軸1.0 深さ0.38	講文時期	
S K75	下層 S K10	2	AⅡ	D 7	土坑	長軸1.2 短軸0.4 深さ0.15	不明	出土遺物なし
S K76	下層 S K11	2	AⅡ	B 7	土坑	長軸1.6 短軸0.5 深さ0.18	講文時期	
S K77	下層 S K12	2	AⅡ	C 8	築石土坑	長軸0.8 短軸0.6 深さ0.09	講文時期	
S D78	下層 S D13	2	AⅡ	D 8	溝	延長1.0 幅 0.2 深さ0.04	不明	埋没の可能性あり・出土遺物なし
S D79	下層 S D14	2	AⅡ	D 8	溝	延長0.6 幅 0.1 深さ0.03	不明	埋没の可能性あり・出土遺物なし
S D80	下層 S D15	2	AⅡ	D 8	溝	延長1.0 幅 0.2 深さ0.1	講文か	埋没の可能性あり
S X81	下層 S K16	2	AⅡ	C 5	土壘墓	長軸1.3 短軸0.5 深さ0.1	講文時期か	
S X82	下層 S K17	2	AⅡ	C・D 5	土壘墓	長軸1.2 短軸0.7 深さ0.17	不明	跡え石あり
S K83	下層 S K18	2	AⅡ	C 2	築石土坑	長軸0.9 短軸0.6 深さ0.2	講文中期	
S K84	下層 S K19	2	AⅡ	E 3	築石土坑	長軸1.0 短軸0.5 深さ0.21	講文中期	
S X85	下層 S K20	2	AⅡ	B 2	土壘墓	長軸1.8 短軸0.6 深さ0.83	講文時期	跡え石あり
S K86	下層 S K21	2	AⅡ	B 7・8	土坑	長軸0.9 短軸0.4 深さ0.18	講文時期	
S K91	S K 1	3	B 1	F・G 9	土坑	径 1.1 深さ0.28	不明	底部中央に準大の礎集中・出土遺物なし
S K92	S K 2	3	B 1	G 9	土坑	長軸0.9 短軸0.6 深さ0.17	不明	出土遺物無し
S K93	S K 3	3	B 1	G 9・10	土坑	長軸1.3 短軸0.6 深さ0.26	講文か	チャート製片1点出土
S K94	S K 4	3	B 1	H 9	土坑	長軸1.2 短軸0.9 深さ0.27	不明	出土遺物なし
S K95	S K 5	3	B 1	G 8	土坑	径 0.9 深さ0.19	不明	底部中央に準大の礎集中・出土遺物なし
S K96	S K 6	3	B 1	J 5・6	土坑	長軸1.5 短軸1.0 深さ0.4	平安か	
S K97	S K 7	3	B 1	I 6	土坑	長軸0.9 短軸0.7 深さ0.19	講文か	
S K98	S K 8	3	B 1	J 3・4	土坑	長軸1.2 短軸0.8 深さ0.1	講文中期末～後期初頭	
S K99	S K 9	3	B 1	J 4	土坑	長軸1.0 短軸0.7 深さ0.14	不明	土器碎片のみ出土
S K100	S K10	3	B 1	J 5・6	土坑	長軸1.1 短軸0.7 深さ0.24	講文中期末～後期初頭	
S K101	S K11	3	B 1	I 3	土坑	径 0.7 深さ0.33	平安	
S K102	S K12	3	B 1	H・I 4	土坑	長軸2.8 短軸0.6 深さ0.27	平安	
S K103	S K13	3	B 1	G 6	土坑	長軸0.5 短軸0.6 深さ0.4	平安	
S Z104	S Z14	3	B 1	J 3～J 6	溝・土坑	幅 12.5 深さ0.49	講文中期～晩期	
S K105	S K15	3	B 1	H 5	土坑	径 0.9 深さ0.2	平安	「東」の築墓土師器杯・鉄製紡車出土
S Z106	S Z16	3	B 1	H 4・5	溝・土坑	長軸7.7 短軸0.7 深さ0.47	講文中期末以降	
S K107	S K17	3	B 1	J 4	土坑	長軸1.9 短軸0.7 深さ0.22	平安か	
S B108	S B18	3	B 1	H 5～J 3	掘立柱建物	5間以上×2間の南北棟	平安	
S K111	S K 1	2	BⅡ	H19・20	土坑	長軸2.8 短軸1.8 深さ0.29	平安	
S K112	S K 2	2	BⅡ	H1・19	土坑	長軸1.3 短軸1.0 深さ0.46	平安か	
S K113	S K 3	2	BⅡ	J18	土坑	長軸3.3 短軸2.1 深さ0.29	平安末	
欠 番	S K 4	2	BⅡ	I17・18	掘立柱	—	—	風倒木跡
S K115	S K 5	2	BⅡ	G17	土坑	長軸2.0 短軸0.9 深さ0.05	平安か	
S K116	S K 6	2	BⅡ	J16・17	土坑	長軸1.5 短軸1.0 深さ0.12	平安	
S K117	S K 7	2	BⅡ	H15	土坑	長軸1.0 短軸0.9 深さ0.11	平安か	
S K118	S K 8	2	BⅡ	J13・14	土坑	長軸4.2 短軸0.8 深さ0.46	平安か	
S K119	S K 9	2	BⅡ	H・I12	土坑	径 0.9 深さ0.14	講文中期末～後期初頭	
S Z120	S Z10	2	BⅡ	H17～D19	溝・土坑	南北4.5 東西0.5 深さ0.46	平安末～鎌倉初期	
S K121	S K11	2	BⅡ	G13	土坑	長軸1.5 短軸0.7 深さ0.07	不明	出土遺物なし
S K122	下層 S K 1	2	BⅡ	I19～J18	土坑	長軸3.0 短軸0.9 深さ0.54	平安	
S K123	下層 S K 2	2	BⅡ	I18	土坑	長軸1.5 短軸0.6 深さ0.72	講文中期末～後期初頭	
S K124	下層 S K 3	2	BⅡ	H18	土坑	長軸1.0 短軸0.6 深さ0.39	不明	土器碎片のみ出土
S K125	下層 S K 4	2	BⅡ	H15	土坑	長軸2.8 短軸0.6 深さ0.32	不明	土器碎片のみ出土
S K126	下層 S K 5	2	BⅡ	H14	土坑	長軸1.8 短軸0.7 深さ0.29	平安	
S K127	下層 S K 6	2	BⅡ	G14・15	土坑	径 1.8 深さ0.28	講文中期末～後期初頭	
S A128	—	2	BⅡ	G12～J13	柱列	柱間4間	平安	

第5表 遺構一覧表2

IV 遺物

1 土器・土製品

詳細については、土器・土製品観察表を参照願いたい。なお、この項については、挿図作成は小山、川崎、文章及び編集は小濱が担当した。

なお、縄文土器については、縄文時代〇期、〇式あるいは縄文時代〇期と報告する。但し、当道跡の中心時期である縄文時代晩期の土器群の所属時期については、Ⅰ期、Ⅱ期、Ⅲ期、Ⅳ期、Ⅴ期と表記する。Ⅰ期は元刈谷式及び晩期縁帯文と呼称されるものに、Ⅱ期は船荷山式・板井式に、Ⅲ期は西之山式及び山田編年Ⅲ期に、Ⅳ期は五貫森式及び山田編年Ⅱa・a2・b期に、Ⅴ期は馬見塚式及び山田編年Ⅲa・b期に相当するものと考えている²⁾。

(1) AⅠ地区

S B 1 出土遺物 (第37図 1~3) 1は土器器小皿である。口縁部は強いヨコナデで仕上げられる。2は土器器南伊勢系銅である。時期的には、南伊勢系銅編年のⅠ段階に相当する。3は混和材を多く含む土器質の粘土塊であるが、内面には植物圧痕がみられる。S K 2から鉄滓や同様の粘土塊片が出土していることから、鍛冶作業に関わる遺物の可能性がある。

S K 2 出土遺物 (第37図 4~7) 4・5は土器器皿である。6はクロコ土器器碗である。7は2と同様の土器器南伊勢系銅である。

A 5 P i t 1 掘方出土遺物 (第37図 8・9) 8・

9は美産の陶器碗である。時期的には、藤澤良祐氏による山茶碗編年³⁾(以下、山茶碗編年と省略)のⅢ段階5型式に相当する。(川崎志乃)

(2) AⅢ地区第1検出面

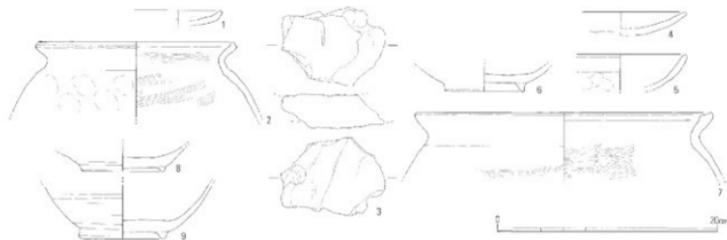
S X 30 出土遺物 (第38図 10~12) 10は縄文土器深鉢上半部である。平縁の口縁部が若干反し、底部が窄む器形。口縁部に穿孔がみられる。11は縄文土器深鉢上半部。波状の口縁が若干反し、底部が窄む器形。口縁部には肥厚がみられる。縄文時代晩期、Ⅱ期のものであろう。時期的に遡る可能性もあろう。12は管状土製品。新しい時期の混入遺物か。

S X 31 出土遺物 (第38図 13) 13は縄文土器深鉢。平縁の口縁部がほぼ直立し底部が窄む器形である。縄文時代晩期、Ⅱ期のものと考えられる。

S X 39 出土遺物 (第39図 14) 14は縄文土器深鉢である。口縁端部に工具による押圧が施された平縁の口縁部が若干反し、底部が窄む器形である。縄文時代晩期、Ⅱ期のものと思われる。

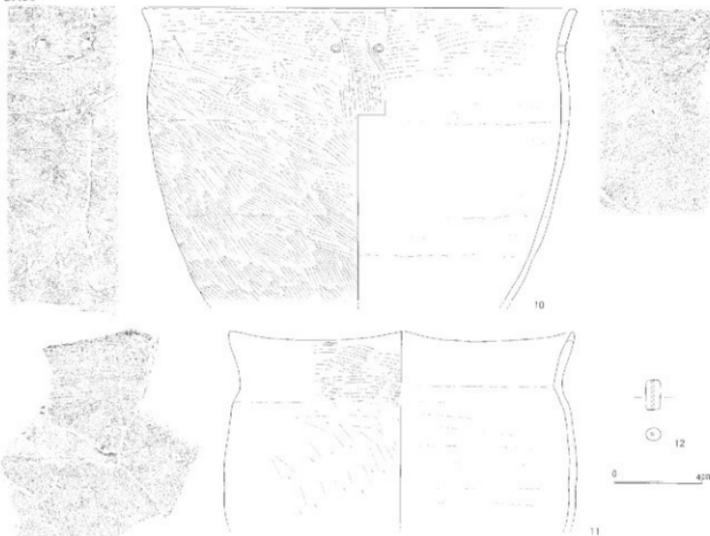
S X 42 出土遺物 (第39図 15) 15は縄文土器深鉢で、底部は欠失。口縁端部に工具による刻みが施された平縁の口縁部が若干反し、底部が窄む器形。縄文時代晩期、Ⅱ期のものと考えられる。

S X 29 出土遺物 (第40図 16、第63図 388) 16は縄文土器深鉢である。底部は欠失している。口縁端部に工具による刻みが施され、口縁部が若干反し底

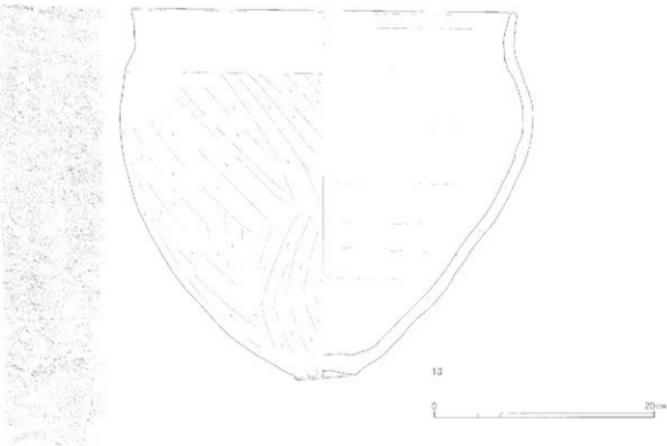


第37図 AⅠ地区出土遺物実測図(1:4)

SX30

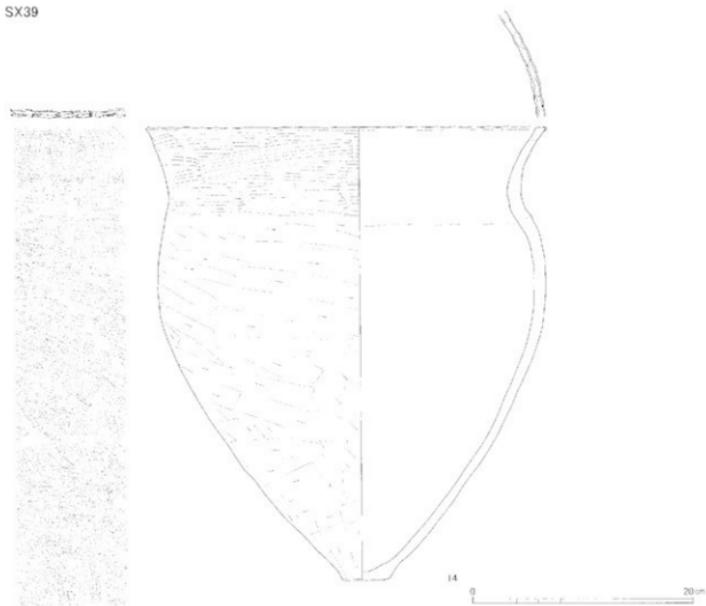


SX31

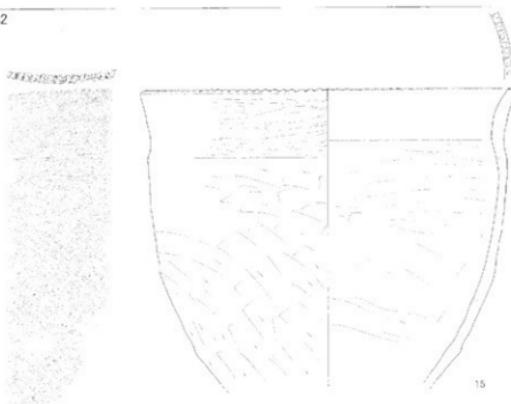


第38图 AⅢ地区第1検出面S X30・31出土遺物実測図(1:4, 12は1:2)

SX39



SX42



第39图 AⅢ地区第1 核出面 S X 39 · 42出土遗物实测图(1:4)

部が窄む。縄文時代晩期、Ⅱ期のもと思われる。388は縄文土器深鉢口縁部片で、口縁端部や外面には加飾があまりみられない。縄文時代晩期のもので、16とは時期差がみられる。

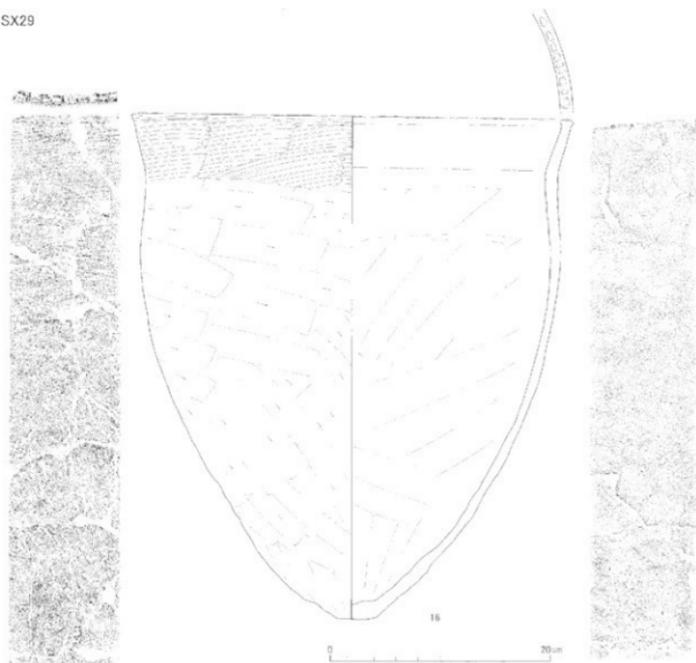
S X 38出土遺物 (第41・42図 17・18) 17・18は縄文土器深鉢。平縁の口縁端部に工具による刻みが施され、小波状にみえる。口縁部が外反し、底部が窄み尖底のような器形である。縄文時代晩期、Ⅱ期のもと考えられる。

S X 40出土遺物 (第43図 19) 19は縄文土器深鉢。平縁の口縁端部内面に工具による刻みが施され、小波状にみえる。口縁部が若干外反し、底部が窄み尖底のような器形である。縄文時代晩期、Ⅱ期のもと思われる。

S X 44出土遺物 (第44図 20・21、第68図 554) 20は縄文土器深鉢で、底部は欠失。平縁の口縁端部に工具による刻みが施され、小波状にみえる。口縁部が若干外反し、底部が窄み尖底のような器形である。21は縄文土器深鉢である。口縁部に1条の刻みのある突帯が巡る。底部が窄む器形である。これらは、縄文時代晩期、Ⅳ期のもと考えられる。20については、時期が遡る可能性もあろう。554は縄文土器底部片で、丸底を呈する。

S X 43出土遺物 (第45図 22~24、第58図 237、第59図 262、第64図 408、第68図 550) 22は波状口縁の縄文土器深鉢である。口縁部が内弯し、底部が窄む。23は縄文土器深鉢である。口縁端部には工具による刻みが施され、小波状にみえる。口縁部には刻みの

SX29



第40図 AⅢ地区第1検出面SX29出土遺物実測図(1:4)

ある突帯が1条巡る。底部が窄む器形である。24は平縁である口縁部が内折する縄文土器深鉢である。これらは、縄文時代晩期、Ⅲ期のものと考えられる。237は口縁部に刻みのある突帯が1条巡り、口縁端にも刻みがみられる縄文土器深鉢片。262は口縁部に刻みのある突帯が1条巡る縄文土器深鉢片。408は縄文土器深鉢口縁部片。加飾がみられない。550は縄文土器底部片である。加飾があまりみられないものである。これらは縄文時代晩期のもので、24とは時期差がみられる。

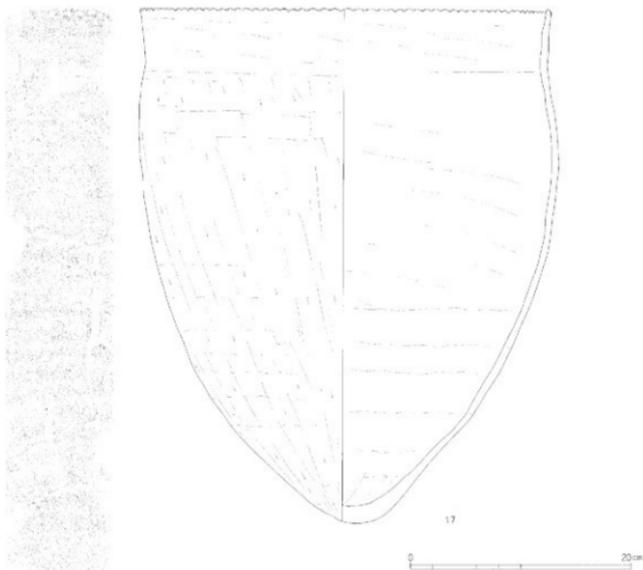
S X 28出土遺物 (第46図 25、第62図 344、第64図 412、第65図 458) 25は縄文土器深鉢である。口縁端部に工具による刻みが施され、小波状にみえる。口縁部に刻みのある突帯が1条巡る。底部付近に近づくに従い窄んでいく器形で、底部外面は凹底である。縄文時代晩期、Ⅲ期のものといえよう。土器

棺ではないが、口縁端部に刻みが施された縄文土器口縁部片である344、412は縄文土器深鉢口縁部片で、加飾がみられない。458は縄文土器深鉢。これらは、縄文時代晩期のものと考えられ、25とは時期差があると思われる。

S X 25出土遺物 (第46図 26、第52図 80~83) 26は縄文土器深鉢である。口縁部が外反し、底部に近づくに従い窄んでいく。縄文時代晩期、Ⅱ期のものと思われる。80~82は外反する口縁部をもつ縄文土器深鉢である。平縁の口縁端部には、工具による刻みが施され、小波状にみえるものである。83は文様といった加飾がみられない縄文土器深鉢口縁部片である。これらは、縄文時代晩期、Ⅰ~Ⅱ期のものと考えられる。

S X 41出土遺物 (第47図 27、第62図 357、第63図 387) 27は縄文土器深鉢である。底部に近づくに従

SX38



第41図 AⅢ地区第1検出面SX38出土遺物実測図I(1/4)

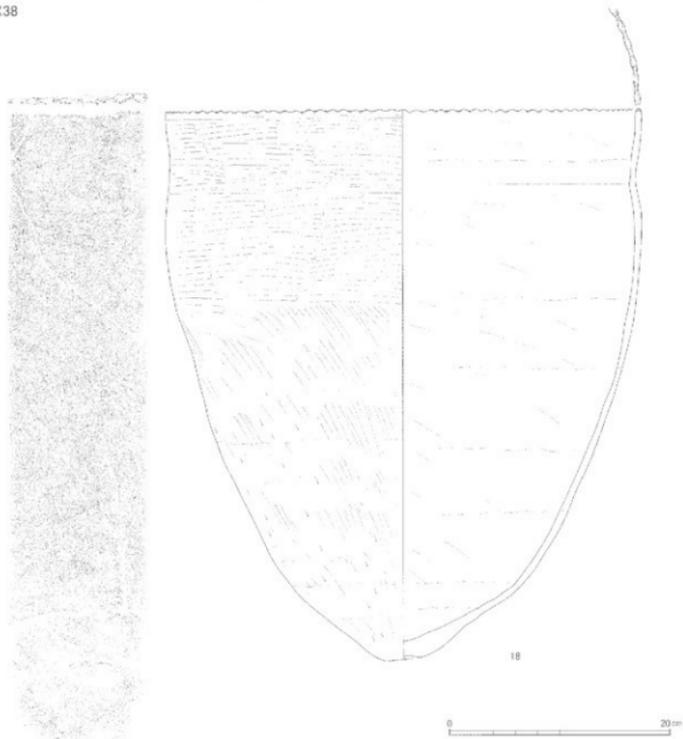
い傘んでいく。縄文時代晩期、IV期のものと考えられる。357は縄文土器口縁部片で、口縁端部に刻みが施され、小波状にみえる。387は縄文土器口縁部片で、口縁端部や外面には加飾があまりみられない。これらは縄文時代晩期のものであるが、27とは時期差が感じられる。

S X 46出土遺物 (第47図 28) 28は縄文土器深鉢。底部に近づくに従い傘んでいく器形である。縄文時代晩期、IV期のものと思われる。

S X 59出土遺物 (第48図 29) 29は縄文土器深鉢である。平縁である口縁部が内折し、3条の素文突起 SX38

が施されている。底部に近づくに従い傘んでいく。底部外面は凹底である。伊勢タイプと呼称されているものである。縄文時代晩期、V期のものと考えられる。

S X 50出土遺物 (第49図 30~33) 30は縄文土器深鉢である。口縁端部に工具による刻みが施され小波状のような形状にみえ、口縁部から頭部にかけて横位に条痕が施されている。底部については欠失している。31は縄文土器深鉢である。口縁端部に工具による刻みが施され小波状のような形状にみえ、口縁部から頭部にかけては丁寧なナデである。底部につ



第42図 AⅢ地区第1検出面 SX38出土遺物実測図2(1:4)

いては欠失している。32は縄文土器深鉢である。口縁端部に工具による刻みが施され小波状のような形状にみえ、口縁部から頭部にかけて横位に条痕が施されている。口縁部に刻みのある突帯が1条巡る。底部が窄み尖底のような器形である。33は縄文土器深鉢。口縁端部に工具による刻みが施され小波状のようにみえ、口縁部に刻みのある突帯が1条巡る。これらは、縄文時代晩期、Ⅲ期のもと考えられる。なお、30・31は時期が遡る可能性がある。

S X14出土遺物 (第50図 34~38) 34~38は縄文土器深鉢である。34は頭部が若干外反する体部片である。口縁部・底部は欠失している。35~37は口縁部片である。縄文時代晩期、Ⅲ期に属するものと考えられる。38は底部片。凹底である。縄文時代晩期後半に属するものといえる。

S X32出土遺物 (第50図 39~42) 39~42は縄文土器深鉢口縁部片である。39は口縁端部の肥厚、40はSX40

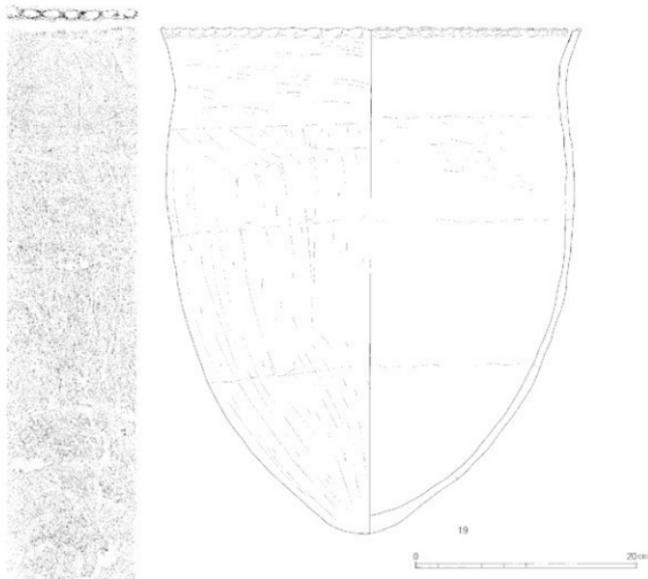
内面に段がみられる。縄文時代晩期、Ⅳ期のもと考えられる。

S X33出土遺物 (第50図 43) 43は直立気味の縄文土器深鉢口縁部片である。縄文時代晩期、Ⅲ期のもと考えられる。

S X37出土遺物 (第50図 44) 44は縄文土器深鉢。口縁端部に工具による刻みが施され小波状のようにみえる。口縁部から頭部にかけて横位に条痕が施され、口縁部に刻みのある突帯が1条巡る。底部は欠失。縄文時代晩期、Ⅳ期のもと考えられる。

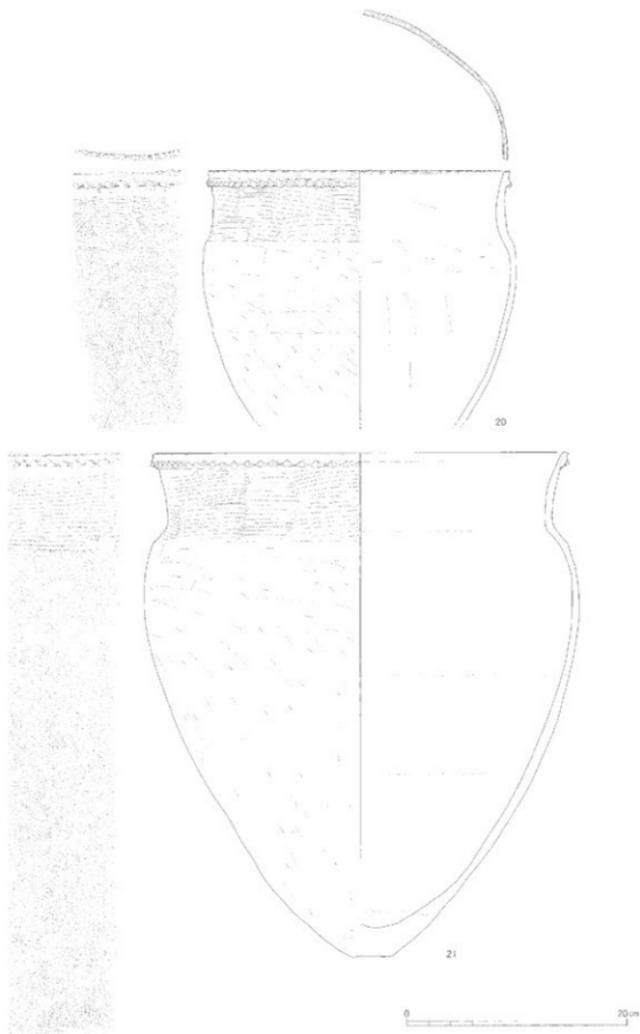
S X45出土遺物 (第50図 45・46) 45・46は縄文土器深鉢口縁部片である。45は口縁端部に工具による刻みが施され小波状にみえる。縄文時代晩期、Ⅱ期のもと思われる。

S K13出土遺物 (第51図 47~53) 47は縄文土器深鉢。口縁端部に工具による刻みが施され小波状のような形状にみえ、口縁部から頭部にかけて斜格

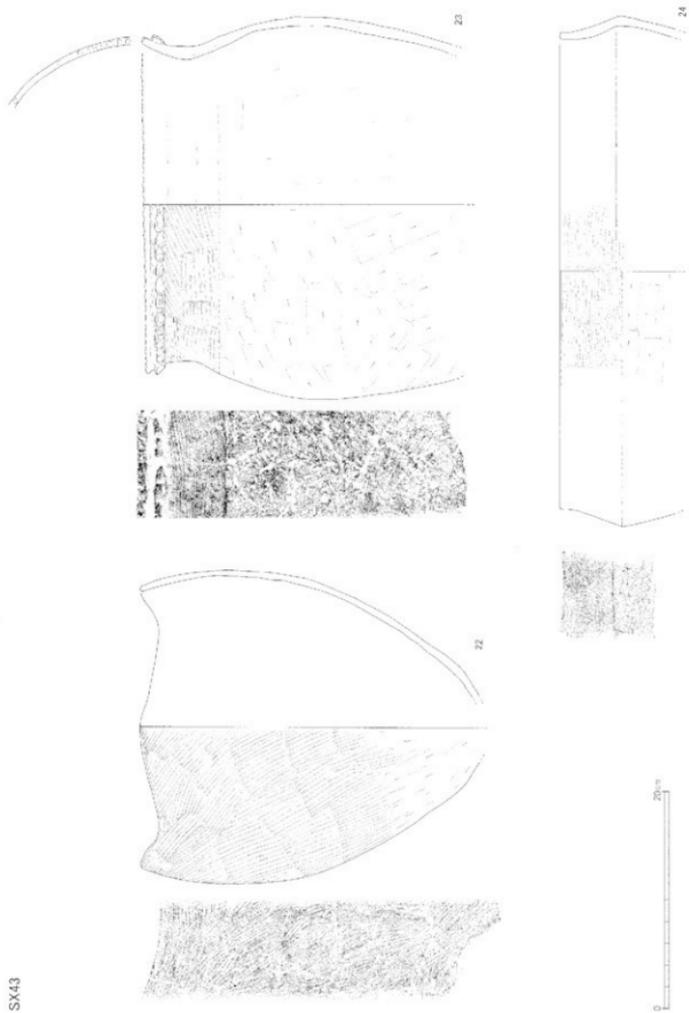


第43図 AⅢ地区第1検出面SX40出土遺物実測図(1:4)

SX44



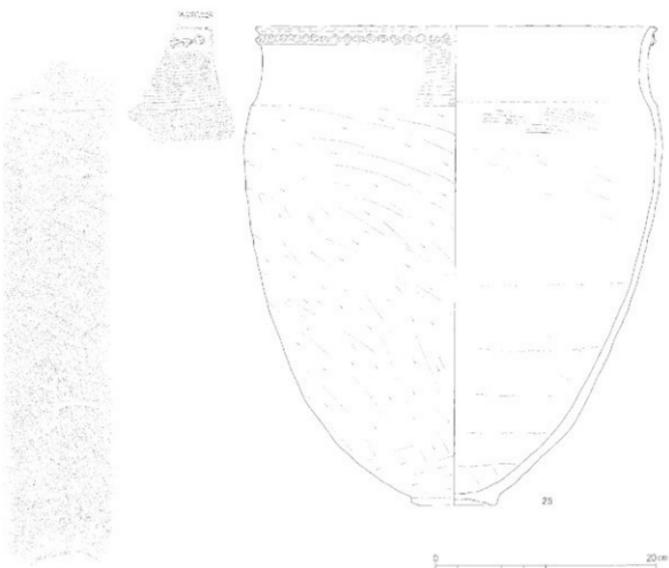
第44图 AⅢ地区第1号出土面SX44出土遗物实测图(1:4)



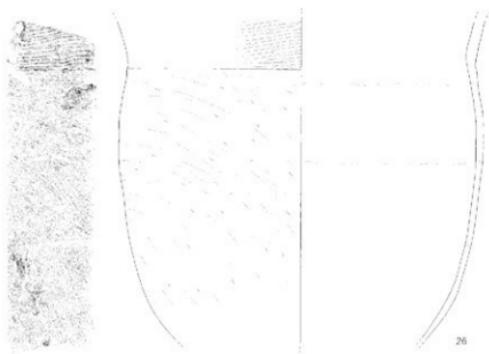
SX43

第45图 AⅢ地区第1号剖面SX43出土遗物实测图(1:4)

SX28

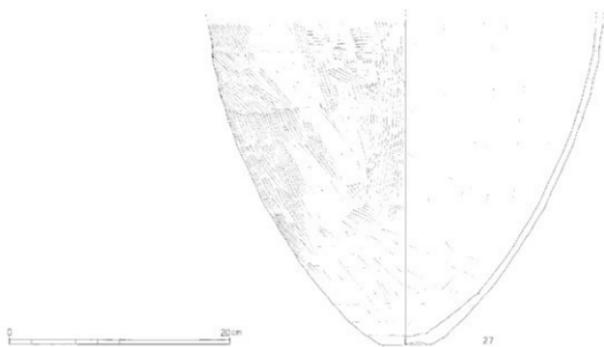


SX25

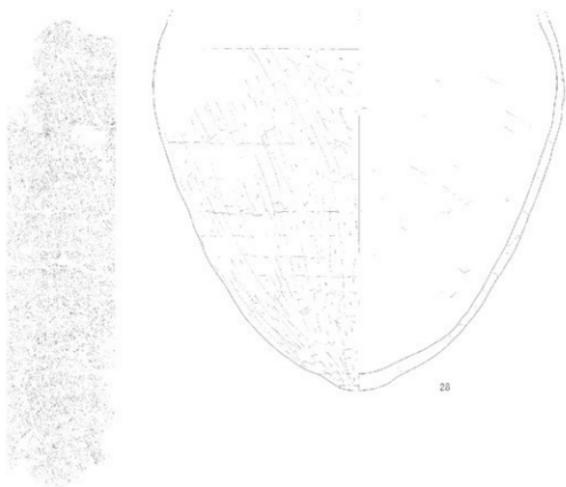


第46图 AⅢ地区第1核出面SX25·28出土遗物实测图(1:4)

SX41



SX46



第47图 AⅢ地区第1核出面SX41·46出土遗物实测图(1:4)

子状の条線が施されている。48は縄文土器深鉢。口縁端部に工具による刻みが施され小波状のような形状で、加飾がみられない。49は縄文土器深鉢。口縁端部に工具による刻みが施され小波状のような形状で、加飾のないものである。内面に1条の沈線が巡る。50～52は縄文土器深鉢で、文様等の加飾がなく、口縁部が外反する。53は縄文土器浅鉢であろうか。低い突帯状の隆起が見られる体部片である。これらは縄文時代晩期、Ⅱ期のものといえよう。47は時期が通り、53は時期が下る可能性がある。

SK51出土遺物 (第51図 54・55) 54・55は縄文土器深鉢である。口縁端部に工具による刻みが施され小波状にみえる。口縁部から頸部にかけて横位に条痕が施されている。これらは、縄文時代晩期、Ⅱ期のものと考えられる。

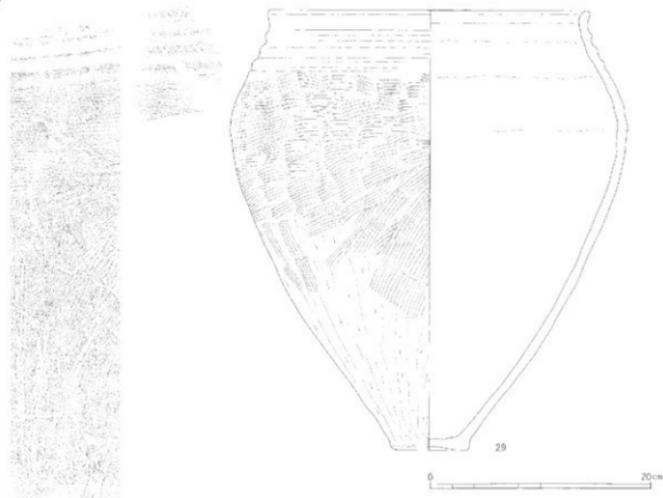
SK16出土遺物 (第51図 56) 56は縄文土器深鉢底部片である。凹底の形状である。縄文時代晩期後半のものと考えられる。

SK57出土遺物 (第51図 57～61) 57・58は縄文土器深鉢口縁部片である。口縁端部に工具による刻みがSX59

施され小波状にみえるものである。59は口縁部外面の上端に低い突帯が1条めぐる縄文土器深鉢の口縁部片である。これらは、縄文時代晩期、Ⅱ期のものと考えられる。60は口縁部外面の上端に低い突帯が1条めぐる縄文土器深鉢の口縁部片である。61は縄文土器深鉢であろうか。口縁部内面に突帯が1条巡る。これらは、縄文時代晩期、Ⅳ期のものと考えられる。

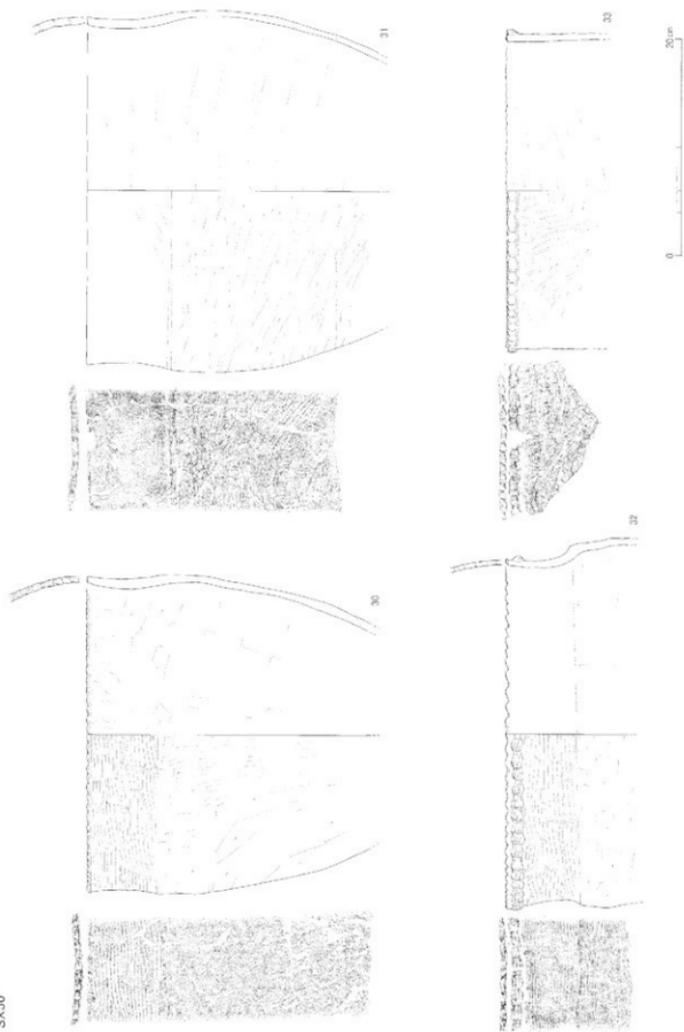
SK23出土遺物 (第51図 62～65) 62は縄文土器深鉢口縁部片。口縁端部に工具による刻みが施され小波状にみえるものである。口縁部直下には1条の刻目突帯が巡る。63は口縁部端部に沈線が1条巡る縄文土器深鉢口縁部片。64・65は縄文土器深鉢口縁部片である。これらは、縄文時代晩期、Ⅲ期のものと考えられる。

SK12出土遺物 (第51図 66～70、第56図 171) 66は縄文土器深鉢口縁部片である。2条の突帯が確認できる。67は縄文土器深鉢である。口縁部上端に1条の突帯が施されている。68・70は縄文土器深鉢で、文様等の加飾がなく、口縁部が外反するものである。



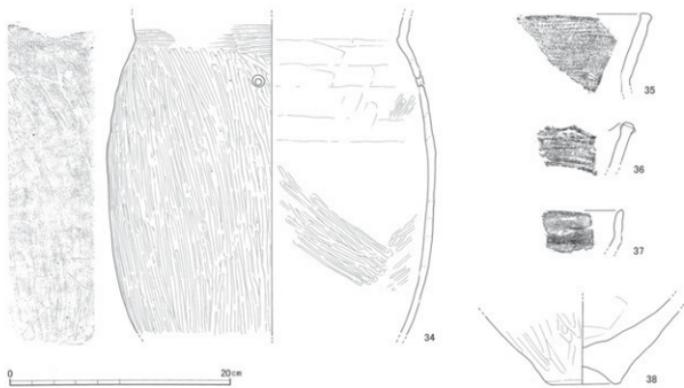
第48図 AⅢ地区第1検出面SX59出土遺物実測図(1:4)

SX50

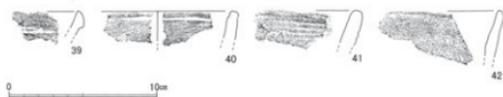


第49图 A III地区第1 楼出面 S X 50出土遗物实测图(1:4)

SX14



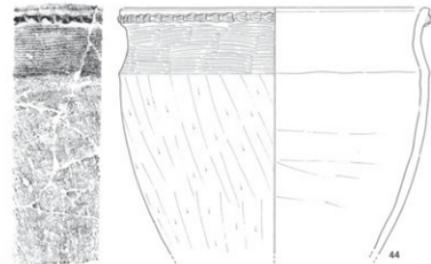
SX32



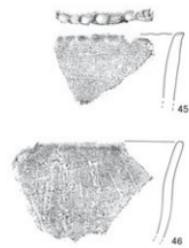
SX33



SX37



SX45



第50图 AⅢ地区第1核出面SX14·32·33·37·45出土文物实测图(35~43·45は1:3、34·44は1:4)

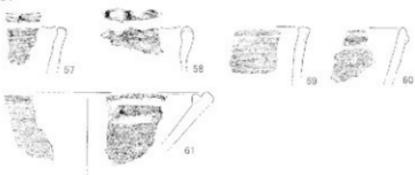
SK13



SK51



SK57



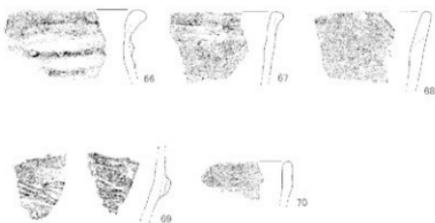
SK23



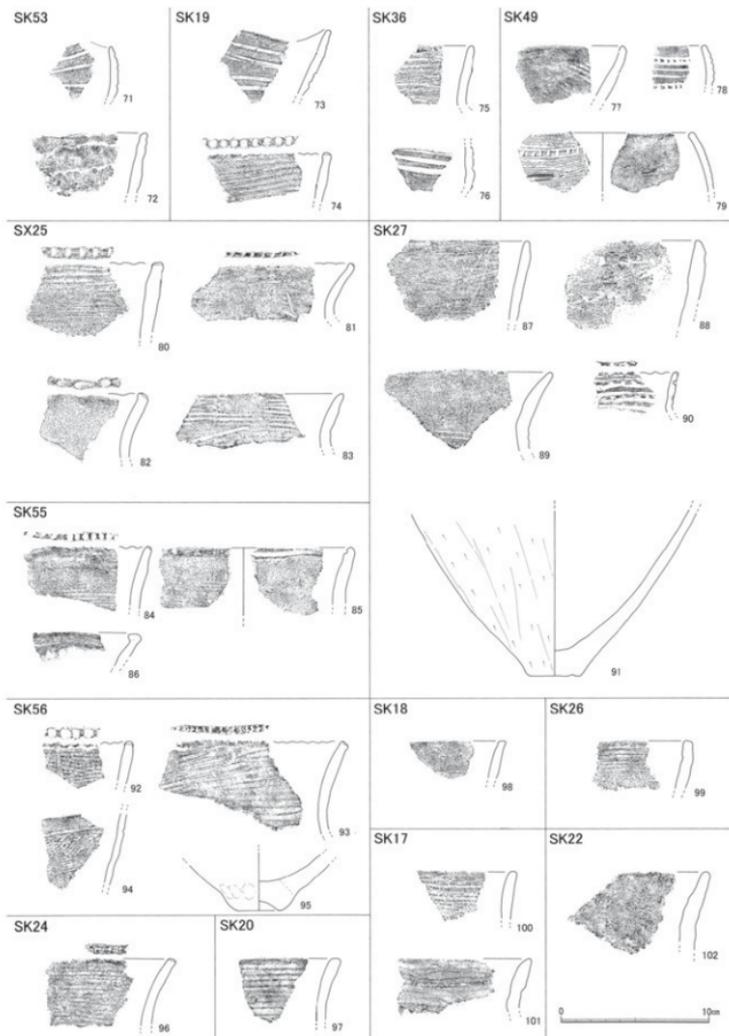
SK16



SK12

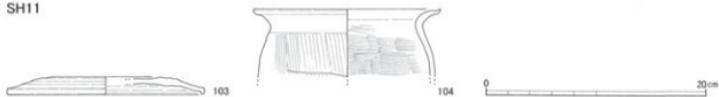


第51图 AⅢ地区第1号出土物SK12·13·16·23·51·57出土物实测图(1:3)

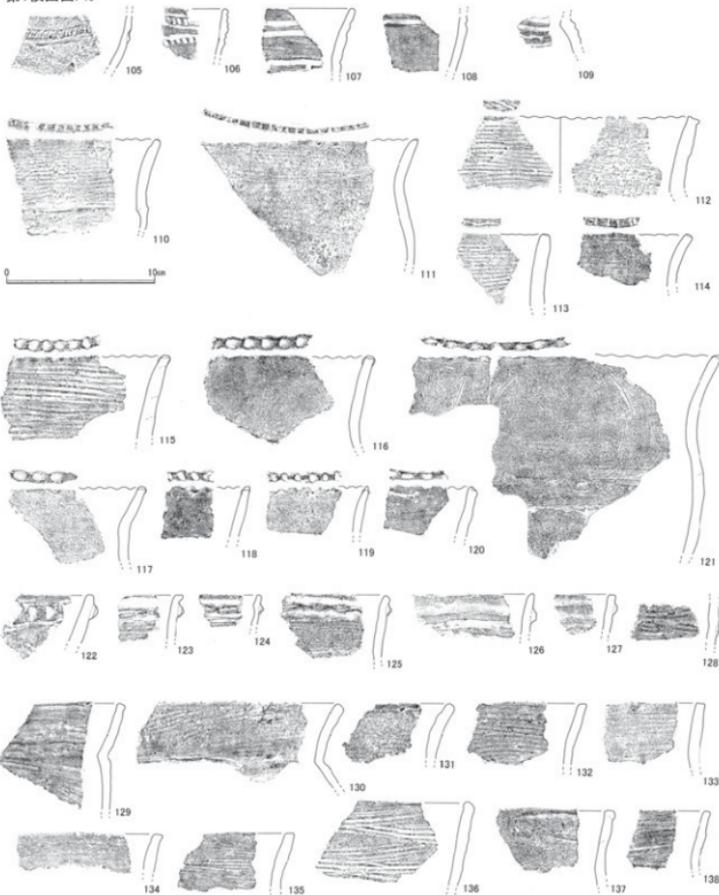


第52图 A III地区第1号出土面SK17·18·19·20·22·24·26·27·36·49·53·55·56·SX25出土文物实测图(1:3)

SH11



第1検出面Pit



第53图 AⅢ地区第1検出面SH11・Pit出土遺物実測図(1:3、103・104は1:4)

69は縄文土器深鉢で、刻みがみられる1条の突帯が施された体部片である。これらは、縄文時代晩期、V期のものと考えられる。171は同心円状の沈線による文様がみられる口縁部片、縄文時代中期のものと思われる。

SK53出土遺物 (第52図 71・72) 71は波状の口縁部から頸部にかけて横位の沈線が施されている縄文土器口縁部片である。72は縄文土器深鉢と思われる。文様といった加飾がみられないものである。これらは縄文時代晩期、I期に属するものか。

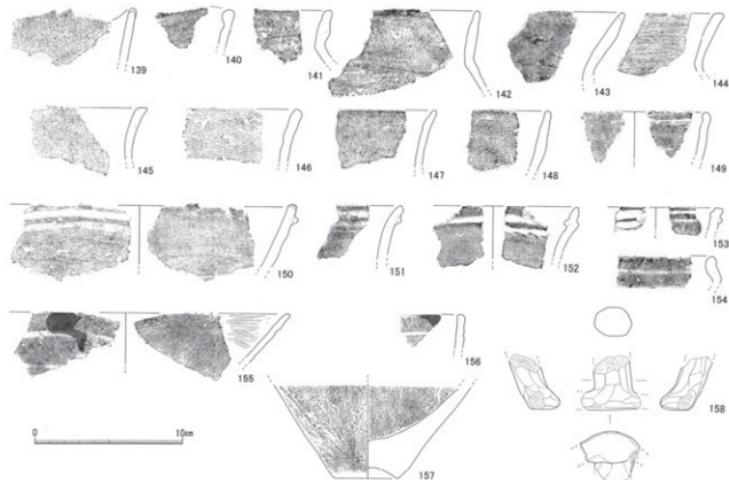
SK19出土遺物 (第52図 73・74、第69図 558) 73は波状の口縁部から頸部にかけて横位の沈線が施されている縄文土器深鉢口縁部片である。縄文時代晩期、I期に属するものか。74は縄文土器深鉢、平縁の口縁端部に工具による刻みが施され小波状のようである。縄文時代晩期、II期のものといえよう。558は、縄文時代晩期の土偶の一部分であろうか。

SK36出土遺物 (第52図 75・76) 75は文様といった加飾のない、縄文土器深鉢口縁部片である。76は横位の2条沈線がみられる縄文土器深鉢体部片。これらは縄文時代晩期、I期のものと思われる。

SK49出土遺物 (第52図 77~79) 77は文様といった加飾のない縄文土器深鉢口縁部片。縄文時代晩期のものであろうか。78は内傾する口縁部をもつ縄文土器深鉢である。横位の沈線間に刺突列が2条見られる。79は内傾する口縁部をもつ縄文土器深鉢である。横位の沈線間に刺突列が1条確認できる。これらは、縄文時代晩期、V期のものと考えられる。

SK55出土遺物 (第52図 84~86) 84は口縁端部に、工具等による刻みが施され、小波状にみえる縄文土器深鉢口縁部片である。85は口縁端部直下の内面に1条の沈線が巡る縄文土器深鉢である。86は縄文土器深鉢で、口縁端部が肥厚し内側に膨らむ。これらは、縄文時代晩期、II期のものと考えられる。

SK27出土遺物 (第52図 87~91、第57図 209) 87・88は外傾する口縁部の縄文土器深鉢である。文様といった加飾がみられないものである。89は縄文土器深鉢口縁部片である。文様等の加飾がなく、口縁部が大きく外反する。90は平縁の口縁端部には、工具による刻みが施され、小波状にみえる縄文土器深鉢口縁部片である。沈線と刺突が外面に確認できる。大洞C1式に併行するものか。91は底部に近づくほ



第54図 AⅢ地区第1検出面Pit出土遺物実測図(1:3) ※網点は赤色顔料

ど窄まっていく。これらは、縄文時代晩期、Ⅲ期のものと考えられる。209は混入遺物であろう。縄文土器深鉢口縁部片で、縄文時代後期前半期のものと思われる。

SK56出土遺物 (第52図 92～95) 92は外傾する口縁部の縄文土器深鉢である。文様といった加飾がみられない。93は縄文土器深鉢口縁部片である。文様等の加飾がなく、口縁部が大きく外反する。これらは、縄文時代晩期、Ⅱ期のものと考えられる。94は1条の沈線と縄文が施された縄文土器深鉢の体部片である。95は縄文土器で、凹底の底部片である。縄文時代晩期のものと思われる。

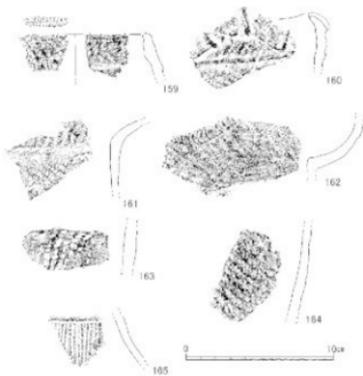
SK24出土遺物 (第52図 96) 96は文様等の加飾がなく、口縁部が外反する縄文土器深鉢である。縄文時代晩期、Ⅱ期のものと考えられる。

SK20出土遺物 (第52図 97) 97は文様等の加飾がなく、口縁部が外反する縄文土器深鉢である。縄文時代晩期のものと考えられる。

SK18出土遺物 (第52図 98) 98は文様等の加飾がなく、口縁部が外反する縄文土器深鉢である。縄文時代晩期のものと思われる。

SK26出土遺物 (第52図 99) 99は文様等の加飾がなく、口縁部が内湾する縄文土器深鉢である。縄文時代晩期のものと思われる。

SK17出土遺物 (第52図 100・101) 100・101は文様



第55図 AⅢ地区第7検出面上包含層出土遺物実測図1(1:3)

等の加飾がなく、口縁部が外反する縄文土器深鉢である。縄文時代晩期のものと思われる。

SK22出土遺物 (第52図 102) 102は文様等の加飾がなく、口縁部が外反する縄文土器深鉢である。縄文時代晩期のものと思われる。

SH11出土遺物 (第53図 103・104, 第57図 204, 第68図 540) 103は須恵器杯蓋である。ツマミは確認することができなかった。104は口縁端部が面取りされ、大きく外反する口縁部を持つ土器器壁である。外面にはハケメが施されている。これらは、青宮編年第1期第3～4段階、奈良時代後半期(8世紀代)のものと思われる。また、縄文時代後期の深鉢204や縄文時代晩期の底部片540も出土している。

Pit出土遺物 (第53・54図 105～158) 出土位置やそれ以外の情報については土器・土製品等観察表を参照願いたい。105・106は半載竹管状工具よる刺突列がみられる縄文土器体部片である。縄文時代前期大歳山式併行のものと考えられる。107は沈線が施されている縄文土器口縁部片、108・109は沈線が施されている縄文土器体部片である。これらは、縄文時代後期後半に属するものであろう。109の土器外面には赤色顔料が施されている。110～115は口縁端部に工具による刻みが施され小波状のような形状にみえ、口縁部から頸部にかけて横位の条痕が施された縄文土器深鉢口縁部片である。116～121は口縁端部に工具による刻みが施され小波状のような形状にみえ、文様といった加飾が施されていない縄文土器口縁部片である。口縁部の傾きはバラエティに富んでいるようである。これらは、縄文時代晩期、Ⅱ期のものと考えられる。122は口縁部に1条の刻みのある突帯がみられる縄文土器口縁部片である。123～127は口縁部に1条の突帯が施された縄文土器口縁部片である。これらは、縄文時代晩期、Ⅳ期のものといえよう。128は1条の突帯が施された縄文土器体部片である。129～149は文様等の加飾がなく、口縁部が外反及び外傾する縄文土器深鉢である。140・141は西日本系土器といえなくもない。これらは縄文時代晩期に属するものと考えられる。150～152は口縁部に1条の突帯が施された縄文土器浅鉢口縁部片である。153は口縁部内外面に1条の突帯が施された縄文土器鉢口縁部片である。154は逆

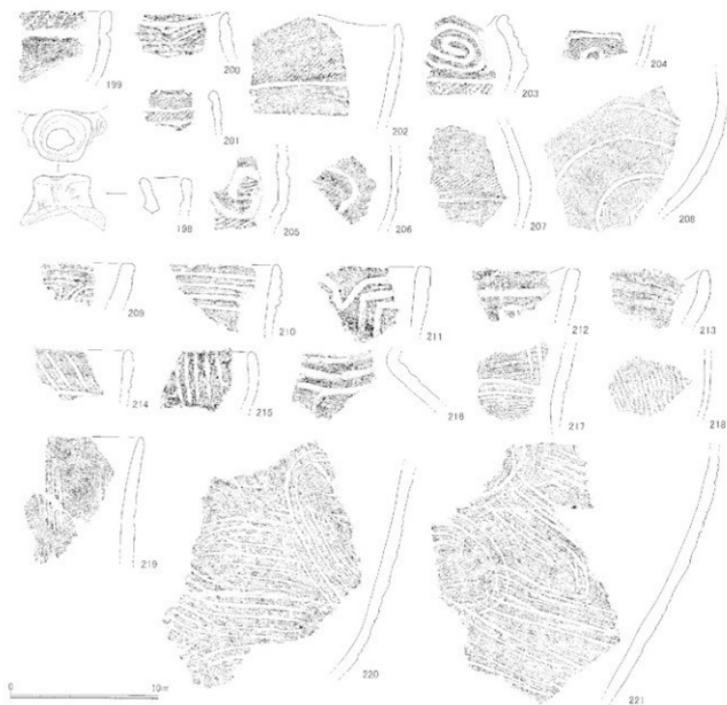


第56图 A III地区第1 核出面上包含层出土物实测图2(1:3)

く字状口縁をもつ縄文土器浅鉢であろう。151～153は西日本系土器と思われる。これらは縄文時代晩期、IV期に属するものであろう。155・156は沈線と縄文の文様構成である縄文土器浅鉢口縁部片である。土器外面に赤色顔料がみられる。これらは、縄文時代晩期、IV期のものと考えられる。157は縄文土器深鉢底部である。158は土製品。土偶の一部分である可能性もある。これらは縄文時代晩期に属するものであろう。

包含層出土遺物 (第55～69図 159～557, 171・204・209・237・262・343・344・357・387・388・399・408・412・458・540・550・554は除く) 159～161

は縄文土器深鉢口縁部片である縄文時代前期後半、北白川下層Ⅱc式併行の深鉢口縁部片である。162は縄文土器深鉢口縁部片である。縄文時代中期、船元Ⅰ式併行のキャリパー形口縁部を呈するものである。163・164は縄文施文がみられる縄文土器体部片。165は縄文土器体部片である。外面には半截竹管状工具による文様構成がみられる。これらは、縄文時代中期末葉に属するものであろうか。166～185は縄文土器深鉢。166～170, 172～185は口縁部片である。166・168・169は葱杵状文の中に短沈線が施された口縁部片。167は同心円状の沈線による文様がみられる口縁部片、172は2ヶ所上下に配置された盲孔と貫孔が



第57図 AⅢ地区第1検出面上包含層出土遺物実測図3(1:3)



第58図 A III地区第1検出面上包含層出土遺物実測図4(1:3) ※網点は赤色顔料



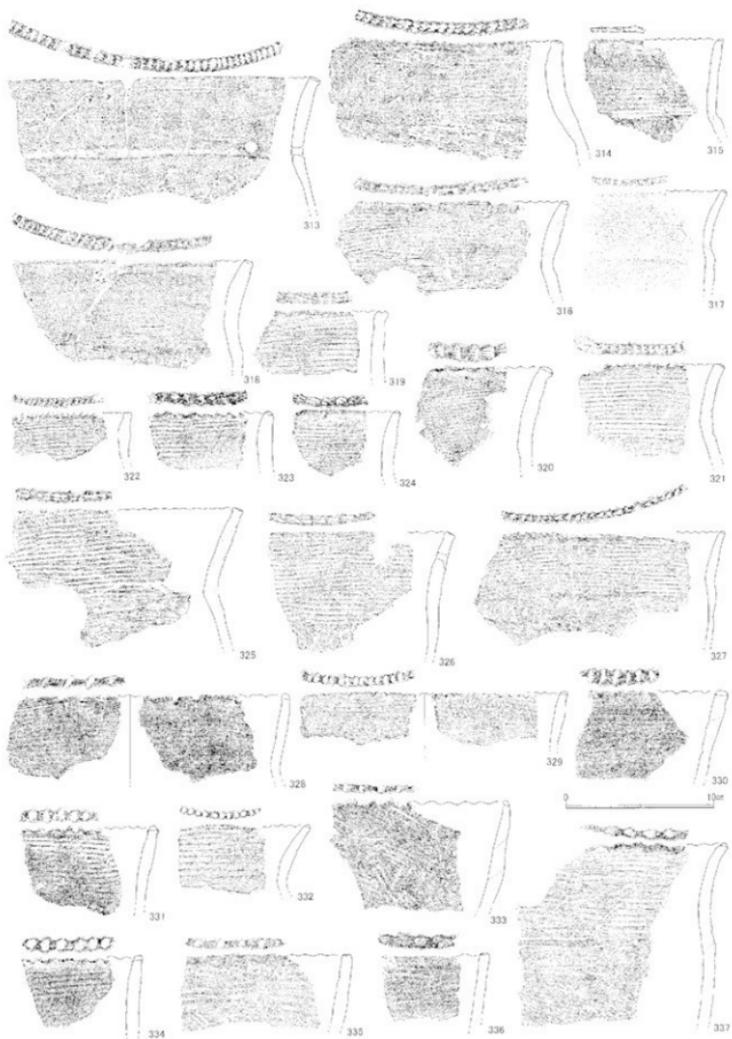
第59图 A III地区第1 楼出面上包含层出土物实测图5(1:3)

みられる口縁部片、173・174は波頂部に1ヶ所盲孔がみられ沈線による文様構成が確認できる口縁部片、175～185は口縁波頂部が富士山状に延びるものの破片と考えられる。186～197は縄文土器体部片である。186～188・192は隆帯による文様構成がみられるものである。189～191、195～197は沈線による文様構成が主となるものである。193・194は沈線と縄文が施されたものである。これらは、縄文時代中期末葉に属するもので、北白川C式併行するものと考えられる。198～203は縄文土器深鉢口縁部片である。198は口縁波頂部に延びる筒状突起といえよう。199～203は沈線と縄文による文様が施されたものである。205～207は沈線と縄文による文様が施された縄文土器深鉢体部片である。208は沈線と縄文による文様が施された縄文土器浅鉢体部片である。これらは縄文時代後期初頭中津式の範疇のものと考えられる。210～215は緑帯化した沈線文の文様がみられる

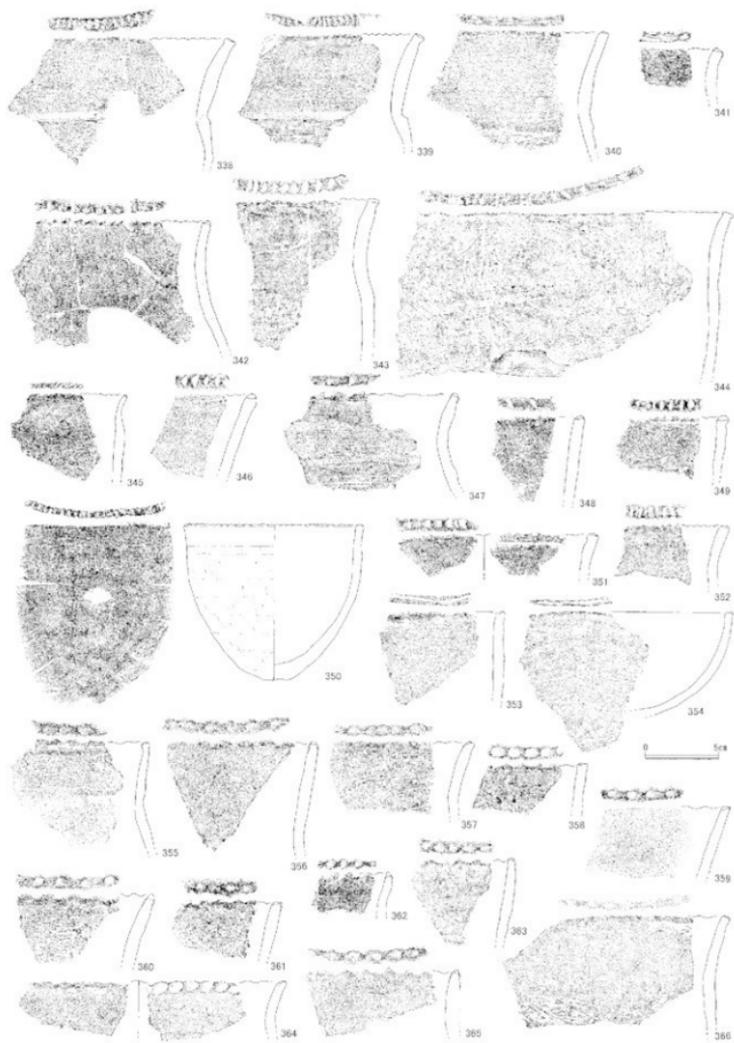
縄文土器深鉢口縁部片である。これらは、縄文時代後期前半、北白川上層式期のものと思われる。216は沈線による文様構成が確認できる縄文土器体部片である。文様や器形から鉢あるいは注口土器である可能性がある。概ね縄文時代後期前半、北白川上層式期に属するものといえよう。217・220・221は沈線文がみられる縄文土器深鉢体部片、218は縄文が全面に見られる縄文土器深鉢体部片、219は一部分に条線の単位が確認できる縄文土器深鉢口縁部片である。これらは、縄文時代後期前半、北白川上層式期のものと思われる。222・223は直線的な沈線文がみられる縄文土器鉢口縁部片と思われる。224は複数の条線が施された縄文土器浅鉢口縁部片である。225は直線的な沈線文がみられる縄文土器鉢口縁部片と思われる。226は横位に展開する沈線が複数施された縄文土器浅鉢体部片である。土器外面には赤色顔料が施されている。227は横位の半截竹管文と



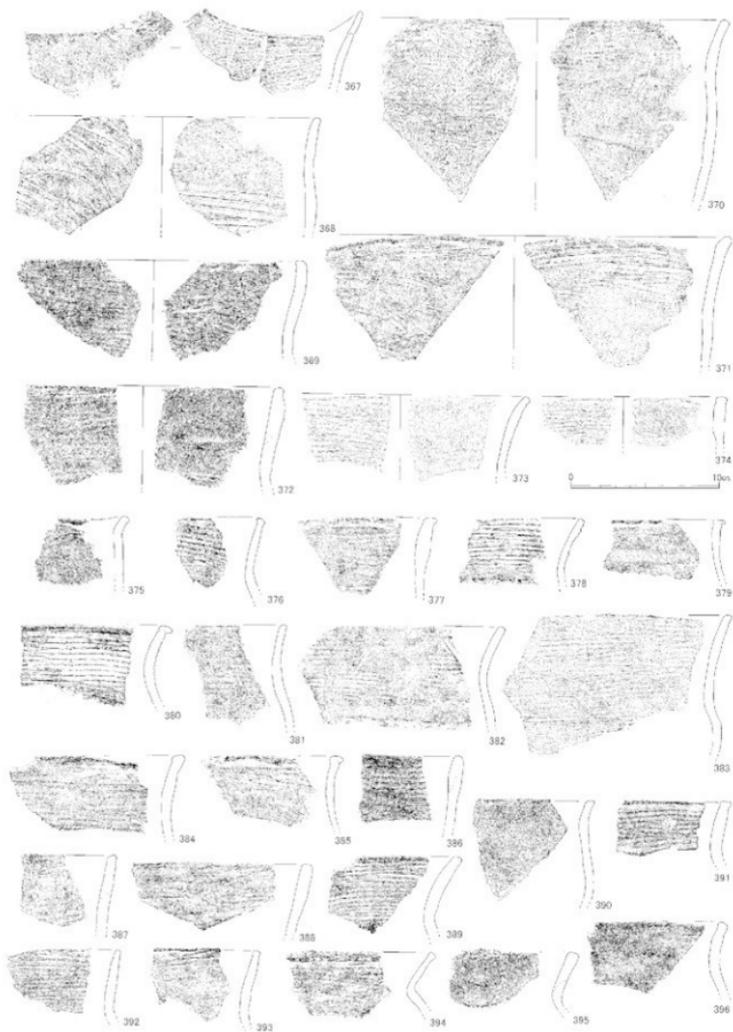
第60図 AⅢ地区第1検出面上包含層出土遺物実測図6(1:3)



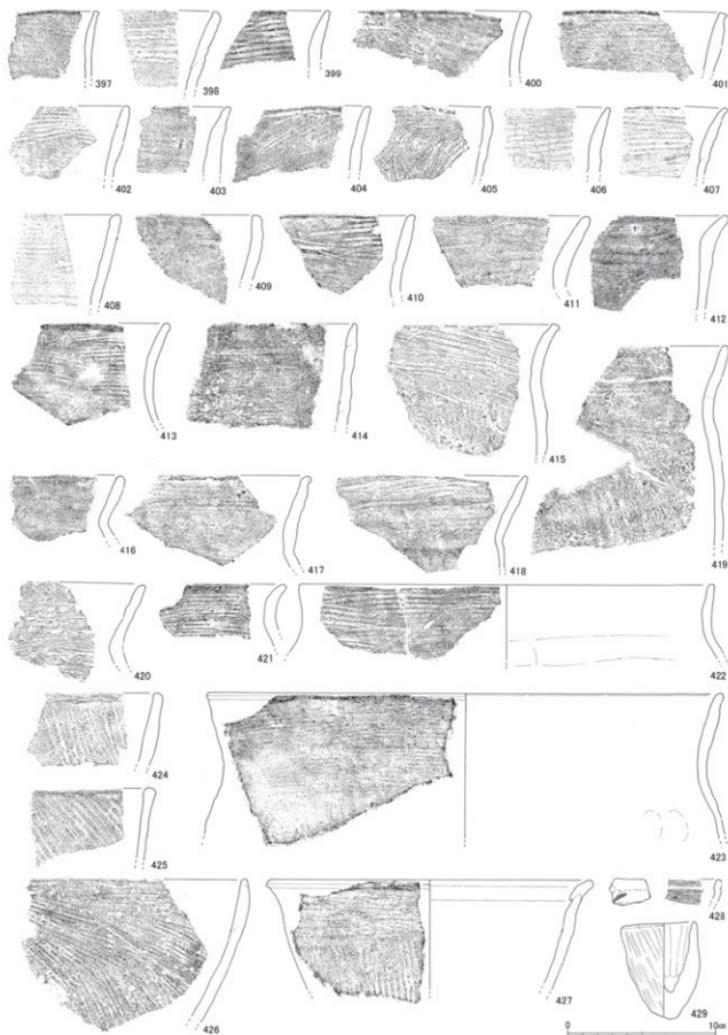
第61图 AⅢ地区第1坑出面上包含层出土遗物实测图7(1:3)



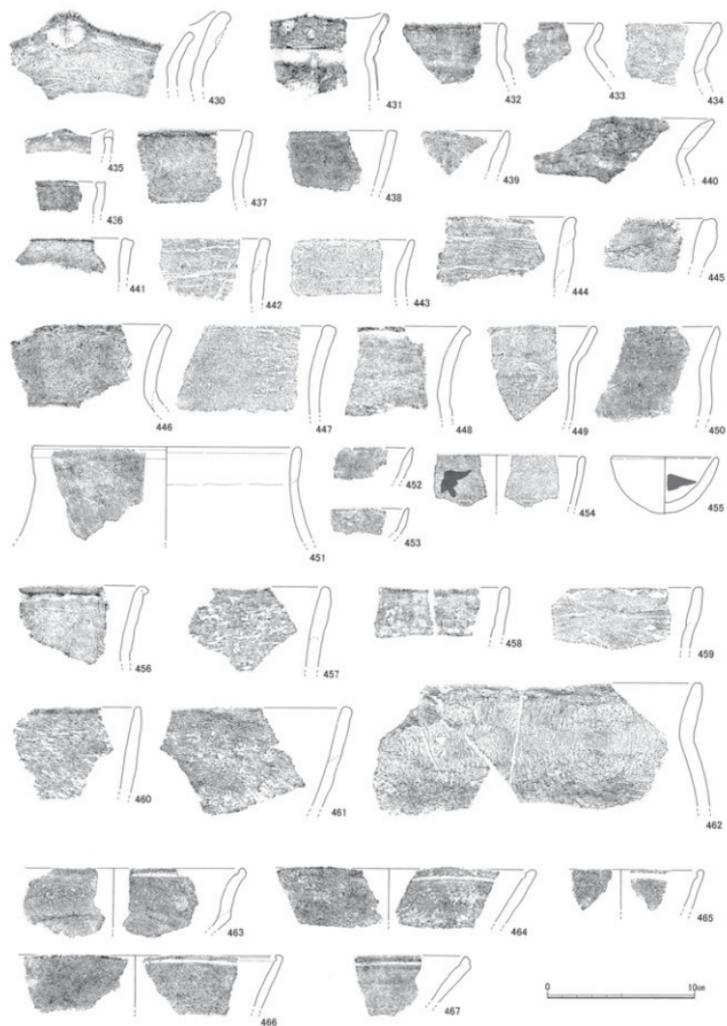
第62图 AⅢ地区第1号出土面上包含层出土物实测图8(1:3)



第63图 AⅢ地区第1核出面上包含层出土物实测图0(1:3)



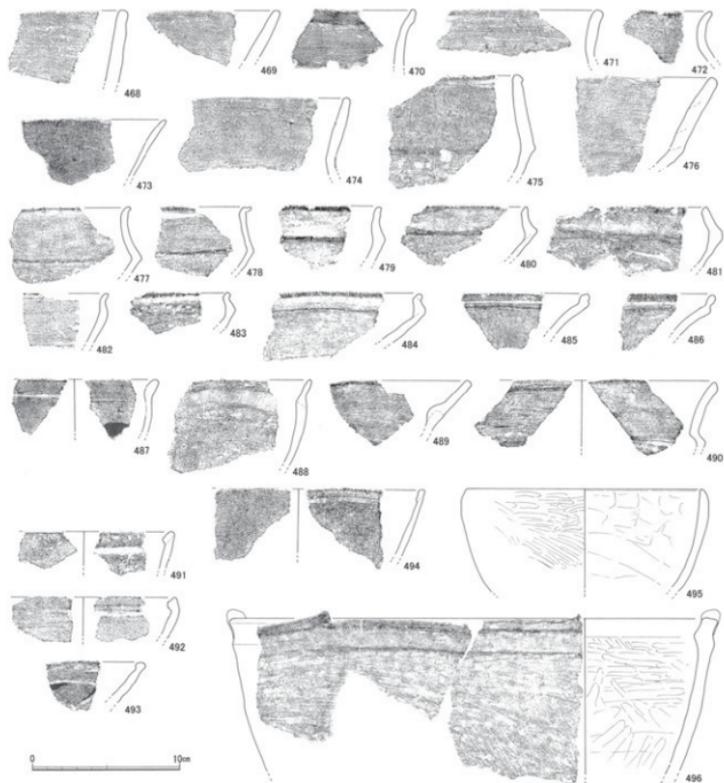
第64図 AⅢ地区第1検出面上包含層出土遺物実測図10(1:3) ※網点は赤色顔料



第65図 A III地区第1検出面面上包含層出土遺物実測図11(1:3) ※網点は赤色顔料

沈線が施された縄文土器浅鉢口縁部片である。228～233は横位に展開する半截竹管文と沈線が施された縄文土器浅鉢体部片である。いわゆる権原文系の土器といえよう。これらは縄文時代晩期、IV期に属するものといえよう。234～236、238～250は口縁部には刻みのある突帯が1条巡り、口縁端部にも刻みがみられ、突帯以下の頸部には横位に条痕が施された縄文土器深鉢片である。器形に古い要素を残す。これらは縄文時代晩期、III期に属するものと考

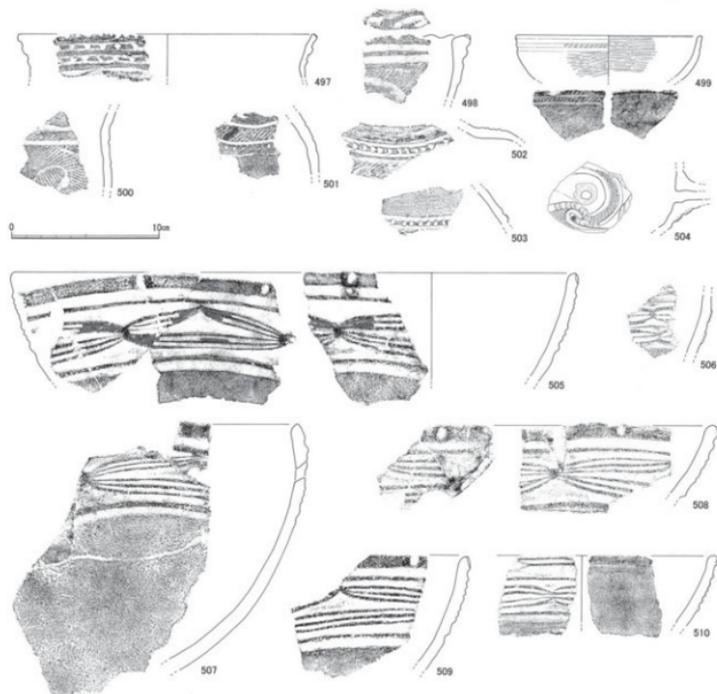
えられる。251～261、263～277は口縁部には刻みのある突帯が1条巡り、突帯以下の頸部には横位に条痕やナデが施された縄文土器深鉢片である。これらは縄文時代晩期前半、IV期に属するものと考えられる。278～282は口縁部には幅広の刻みのある突帯が1条巡る、縄文土器深鉢片である。これらは縄文時代晩期、V期に属するものと考えられる。283～286は刻みのある突帯がみられる縄文土器深鉢体部片である。これらは縄文時代晩期、V期のものと思われ



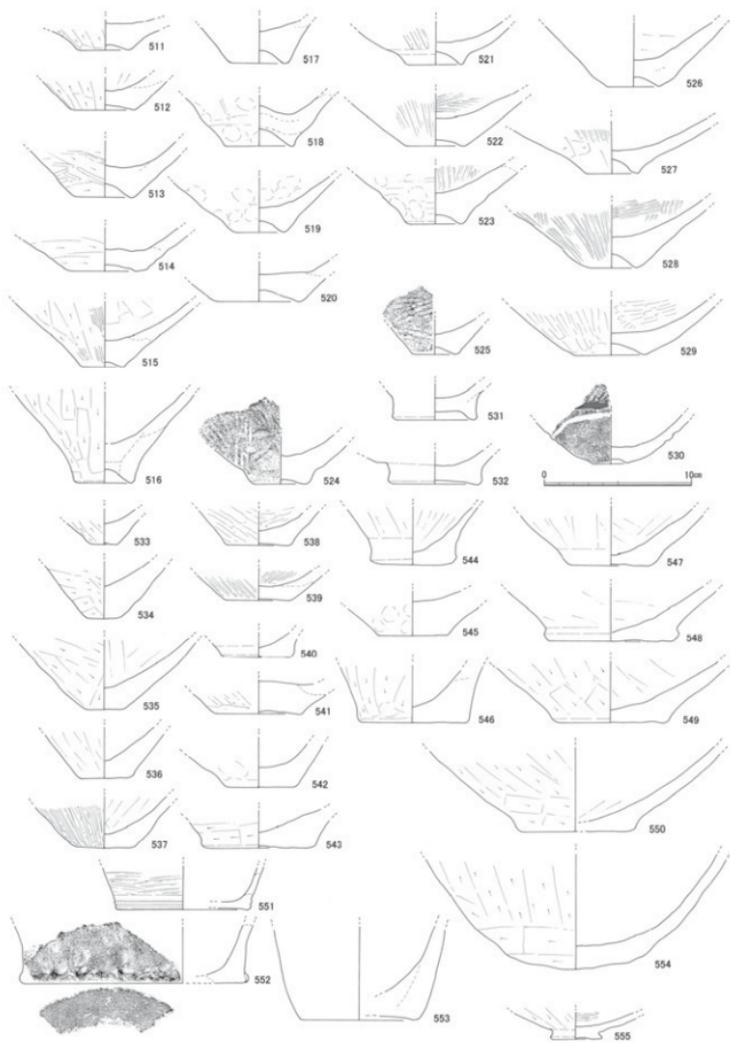
第66図 AⅢ地区第1検出面上包含層出土遺物実測図12(1:3) ※網点は赤色顔料

る。287は口縁部には素文の突帯が1条巡る縄文土器深鉢口縁部片である。縄文時代晩期、V期のものと思われる。288～295は口縁部には素文の突帯が1条巡る縄文土器深鉢口縁部片である。口縁部から頸部にかけての屈曲のバラエティに富むようである。これらは縄文時代晩期、IV期に属するものと考えられる。296～299は外面には素文の突帯が1条巡り、内面には沈線が1条巡る縄文土器深鉢口縁部片である。これらは縄文時代晩期前半、IV期に属するものと考えられる。300～310は口縁部あるいは口縁部上端が大きく屈曲し、口縁部には素文の突帯が1条ないし2条巡る縄文土器深鉢口縁部片である。311は

素文の突帯が1条施された縄文土器体部片である。312は外面には素文の突帯が1条巡り、内面には凹線が1条巡る縄文土器深鉢口縁部片である。これらは縄文時代晩期、V期に属するものと考えられる。313～337は縄文土器深鉢口縁部片である。平縁の口縁端部に工具による刻みが施され、小波状にみえる。口縁部が若干外反する。313と326には穿孔がみられ、313・315～317には頸部と体部の境界に沈線と見間違えるような強い屈曲がみられるものもある。縄文時代晩期、II期に属するものと考えられる。338～342、345～356・358～366は縄文土器口縁部片である。平縁の口縁端部に工具による刻みが施され、



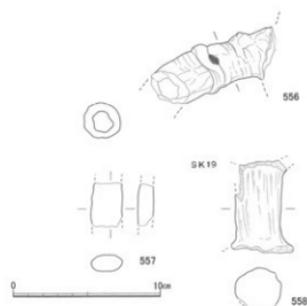
第67図 AⅢ地区第1検出面上包含層出土遺物実測図13(1:3) ※網点は赤色顔料



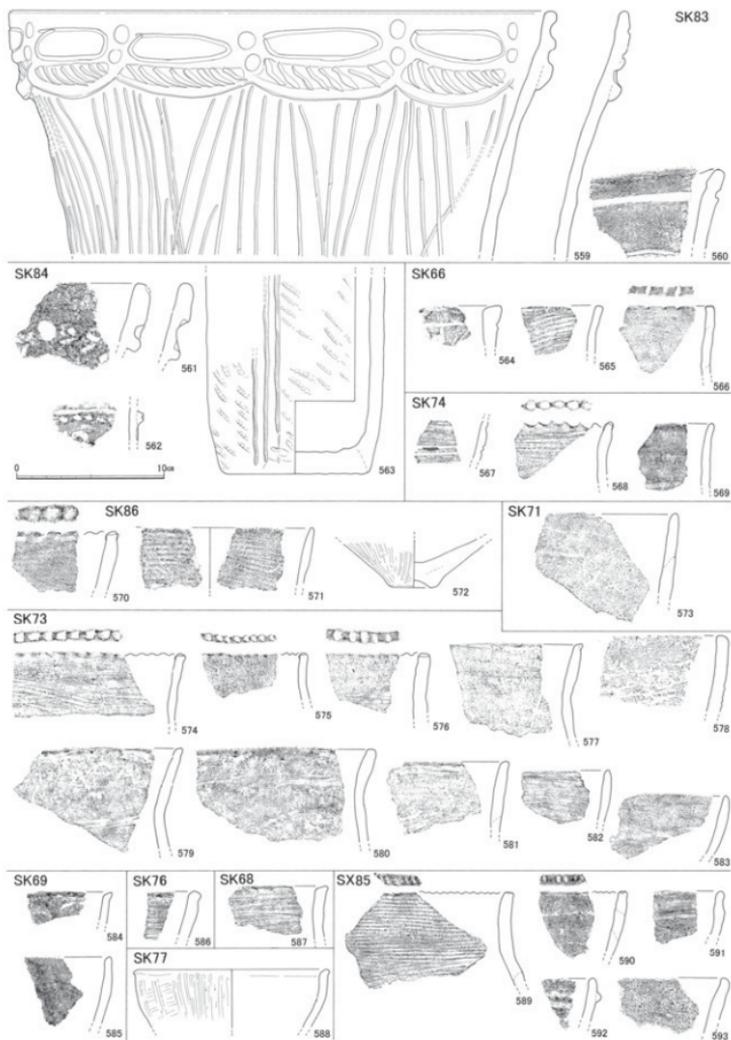
第68図 AⅢ地区第1検出面上包含層出土遺物実測図14(1:3) ※網点は赤色顔料

小波状にみえる。外面への加飾はあまりみられないものである。350は鉢、354は浅鉢と思われる。これらは、縄文時代晩期、Ⅱ期に属するものと考えられる。367~386、389~396は縄文土器口縁部片である。面取りしたかのような口縁端部や外面には加飾があまりみられない。367は波状口縁の形状となろう。器形としては概ね深鉢となるものがほとんどといえよう。しかし、一部には壺と考えられるものも存在する。ここでは深鉢として報告する。縄文時代晩期、Ⅲ期に属するものと考えられる。397、398、400~407、409~411、413~425は縄文土器深鉢口縁部片。外面には加飾がみられない。口縁端部の断面形状が丸みを帯びるものである。縄文時代晩期、Ⅳ期に属するものと考えられる。426・427は縄文土器浅鉢口縁部片と思われる。外面には条痕がみられる。428・429は呼称に問題はあろうかと思うが、小形土器と呼んでも差し支えないものと思われる。428の土器内面には、赤色顔料が施されている。縄文時代晩期、Ⅳ期に属するものと考えられる。430は波状口縁である。縄文時代後期末のものと思われる。431~457、459~462は縄文土器深鉢口縁部片と考えられる。431は波状口縁である。これ以外は平縁のものと思われる。概ね器種については深鉢と考えられるが、一部には器形が壺形である可能性もある。これらは、縄文時代晩期、Ⅳ期に属するものと考えられる。454は土器外面に、赤色顔料がみられるものである。455は小形土器の鉢といっても差し支え

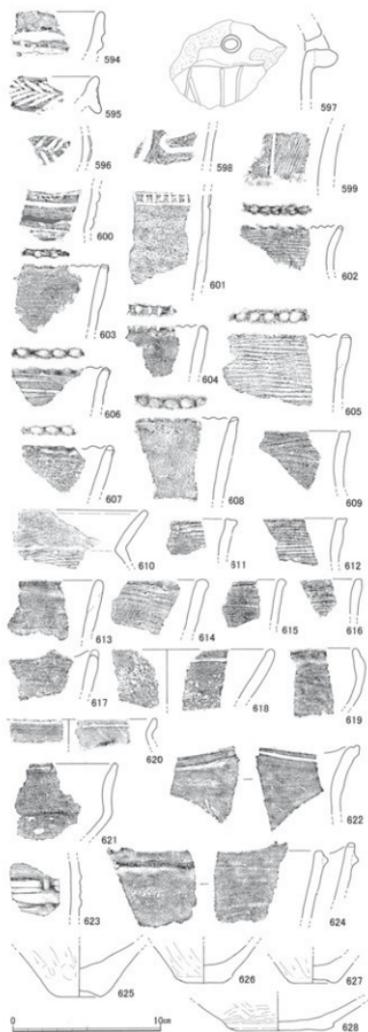
はなからう。朱精製に使用された可能性のあるものと思われる。463~467は縄文土器浅鉢口縁部片である。口縁部内面に沈線がみえるものである。これらは、縄文時代晩期、Ⅳ期に属するものと考えられる。468~474は縄文土器深鉢口縁部片である。口縁部が直線的に外傾するものや曲線状に外反するものが見られる。476は縄文土器浅鉢口縁部片と思われる。口縁部末端部に屈曲がみられる。これらは、縄文時代晩期、Ⅳ期のものと考えられる。477~481は縄文土器浅鉢口縁部片で、口縁部下端でく字状に屈曲する。482~486は縄文土器浅鉢口縁部片で、口縁部上端が外反しその直下から大きく屈曲するものである。487・488は縄文土器深鉢口縁部片で、口縁部先端部分が若干外反するものである。なお487については、土器内面に、赤色顔料が施されている。489は縄文土器浅鉢口縁部片で直線的に大きく外傾し、内面には隆起がみられる。490は口縁部直下で段がつくほどの屈曲がみられる縄文土器浅鉢片である。これらは、縄文時代晩期、Ⅳ期のものと考えられる。491~494は口縁端部内面が肥厚し内側に屈折がみられるものである。縄文土器浅鉢片である。493には土器外面に赤色顔料がみられる。これらは、縄文時代晩期、Ⅳ期のものと考えられる。495は加飾のないボウル状の器形のものである。これらは、縄文時代晩期、Ⅳ期のものと考えられる。縄文時代後期前半土器群が多く確認された多気町新徳寺遺跡においても時期が古くはなるものこのような器形のものを確認している。496は4単位の突起状の隆起がみられる縄文土器浅鉢片である。西日本系土器と思われる。これらは、縄文時代晩期、Ⅳ期のものと考えられる。497~504は大洞式土器と考えられる。縄文時代晩期、Ⅴ期のものである。497は口縁端部に刺突、以下横位に展開する羊歯状文帯が見られる。497は深鉢、498~500・501・503は浅鉢、502・504は注口土器であろう。501の土器外面には朱と考えられるものの付着がみられる。504の土器外面には赤色顔料がみられる。505~510は浮線網状文系土器。水1式土器に併行するもの。これらは、縄文時代晩期、Ⅴ期のものと考えられる。511~539、541~549・551~553・555は底部片を一括した。511~529・532は凹底の範疇のものである。530・531は上



第69図 AⅢ地区第1検出面上包含層出土遺物実測図15(1:3) ※網点は赤色顔料



第70图 AⅢ地区第2·3号出土面SK66·68·69·71·73·74·76·77·83·84·86、SX85出土遗物实测图(1:3)



第71図 AⅢ地区第2・3検出面Pit出土遺物実測図(1:3)
※網文は赤色顔料

げ底である。530には赤色顔料の付着がみられる。533～539・541～549・551・552は接地面がほぼ平らとなるものである。553は凹底気味のもの。555は接地面がボタン状になるものである。縄文時代晩期のものと思われる。556・557は土製品である。土偶の一部分である可能性がある。556には一部に朱と考えられるものがみられる。縄文時代晩期のものと思われる。

(3) AⅢ地区第2・3検出面

SK83出土遺物 (第70図 559・560) 559は窓枠状文により区画された口縁部である。北白川C式に併用するものであろう。津市大石遺跡に出土例がみられる。560は口縁部下に横位展開する沈線がみられる。縄文時代中期のものと思われる。

SK84出土遺物 (第70図 561～563) 561は窓枠状に区画された文様がみられ、刺突が施されている口縁部片である。562は隆帯上に刺突がみられる体部片、563は縄文と垂下する3条の沈線がみられる底部片である。これらは概ね縄文時代中期のものと考えられる。

SK66出土遺物 (第70図 564～566) 564は口縁部直下に沈線文による文様がみられるものである。565は外面に条痕がみられる。566は口縁端部に刻みが施されている。これらは縄文土器深鉢と考えられ、縄文時代晩期、Ⅱ期に属するものであろう。

SK74出土遺物 (第70図 567～569) 567は口縁部直下に沈線文による文様がみられる体部片である。568は口縁端部に刻みが施され、外面には条痕がみられる。569は加飾のないものである。これらは縄文土器深鉢である。縄文時代晩期、Ⅱ期のものと考えられる。

SK66出土遺物 (第70図 570～572) 570は口縁端部に刻みが施され、外面には条痕がみられる。571は内外面に条痕がみられる。これらは縄文土器深鉢と考えられ、縄文時代晩期、Ⅱ期のものと思われる。572は凹底の底部片である。縄文時代晩期のものと思われる。

SK71出土遺物 (第70図 573) 573は加飾のない無文系土器で、これらは縄文土器深鉢である。概ね縄文時代晩期のものと考えられる。

SK73出土遺物 (第70図 574～583) 574～576は口

縁部に刻みが、外面には条痕がみられる。577～583は加飾のないものである。これらは縄文土器深鉢で、縄文時代晩期、Ⅱ期に属するものであろう。

S K 69出土遺物 (第70図 584・585) 584・585は加飾のない無文系土器で、これらは縄文土器深鉢である。概ね縄文時代晩期のもと考えられる。

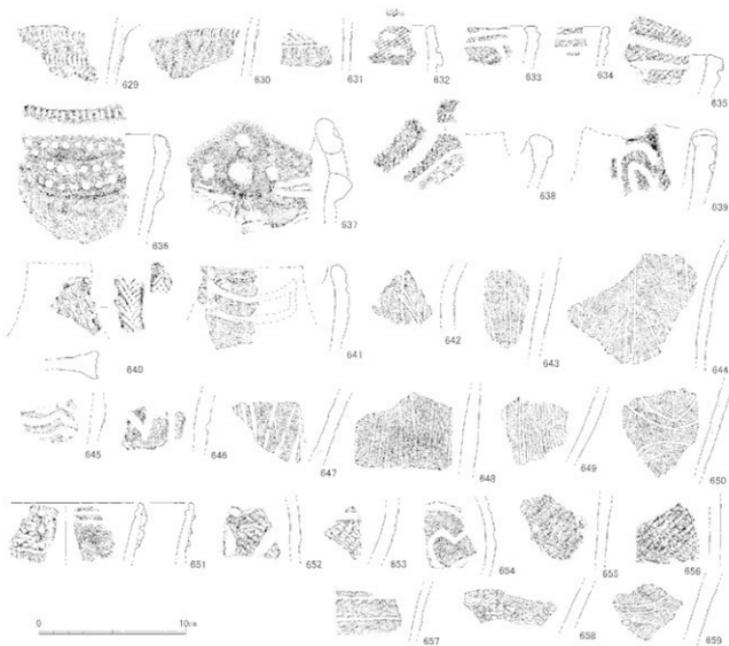
S K 76出土遺物 (第70図 586) 586は加飾のない無文系土器で、条痕がみられる。縄文土器深鉢、縄文時代晩期のもと思われる。

S K 68出土遺物 (第70図 587) 587は加飾のない無文系土器で、条痕が施されている。縄文土器深鉢、縄文時代晩期のもと考えられる。

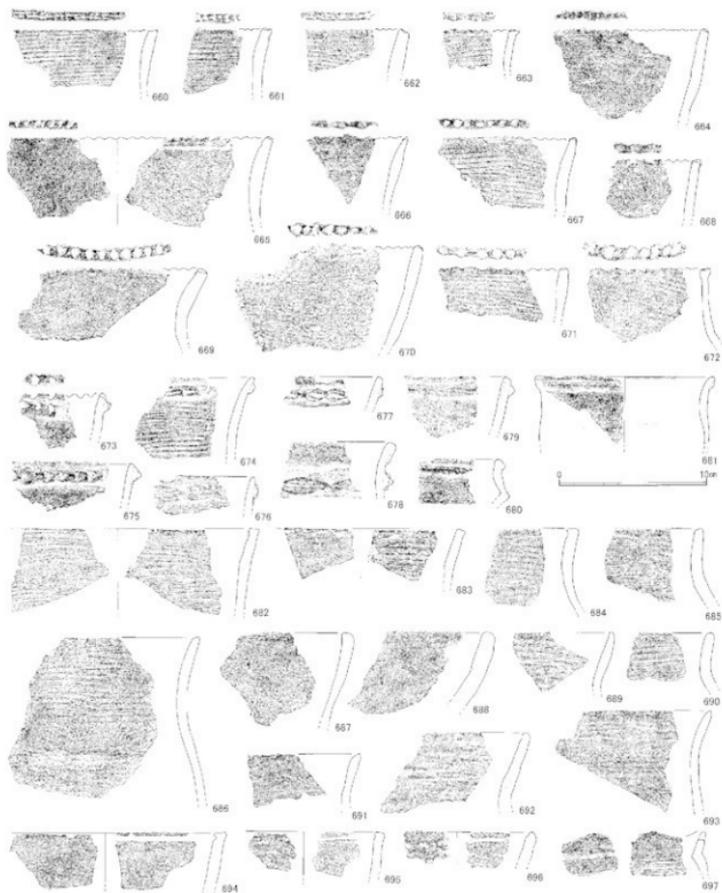
S K 77出土遺物 (第70図 588) 588は縄文土器浅鉢。碗状である。縄文時代晩期、Ⅳ期に属するものである。

S X 85出土遺物 (第70図 589～593) 589は口縁部に刻みが施され、外面には条痕がみられる。590は口縁部に刻みが施されたものである。591は加飾のないものである。これらは縄文土器深鉢で、概ね縄文時代晩期、Ⅱ期に属するものであろう。592は低めの突帯がみられるものである。593は加飾のないものである。これらは縄文土器深鉢で、概ね縄文時代晩期、Ⅳ期に属するものであろう。

P i t 出土遺物 (第71図 594～628) 594は口縁部下に沈線による文様帯がみられる。595・596は矢羽根状の文様帯が施された口縁部片である。597は沈線による文様帯がみられる口縁部片である。598は沈線文が施された体部片である。599は沈線により区画しその中に条線が施されている。これらは縄文土器深鉢で、概ね縄文時代中期、北白川C式に併行するもの



第72図 AⅢ地区第2・3検出面上包含層出土遺物実測図1(1:3)



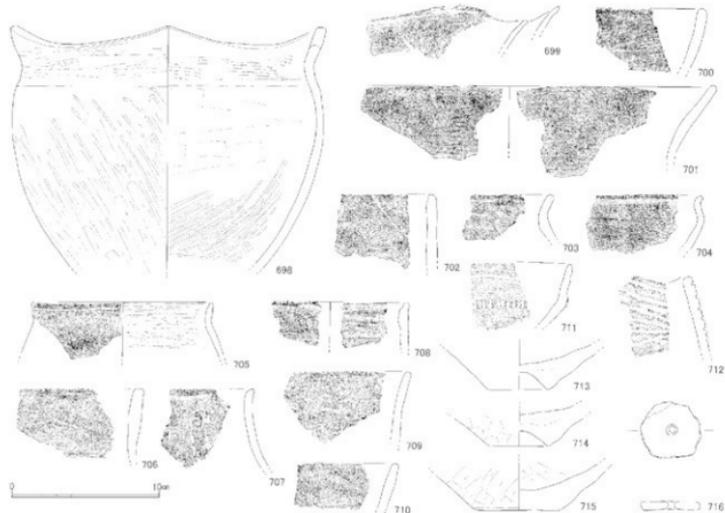
第73图 AⅢ地区第2·3坑出面上包含层出土遗物实测图2(1/3)

と思われる。600は沈線文が施された深鉢体部片。赤色顔料が内外面にみられる。601は沈線と刻みが施された体部片である。これらは縄文時代後期に属するものであろう。602～608は口縁端部に刻みがみられ、以下に条痕あるいはナデが施される縄文土器深鉢である。縄文時代晩期、Ⅱ期に属するものであろう。609は口縁端部が若干凹む縄文土器深鉢である。610は頸部が屈曲し、以下に条痕がみられる縄文土器深鉢である。611・612は口縁端部が若干凹み、外面には貝殻条痕がみられる縄文土器深鉢。613～616は加飾があまりみられない縄文土器深鉢である。617は小波状となる形状の縄文土器深鉢口縁部片である。618は口縁部内面に1条の凹線がみられる。浅鉢であろうか。619は内湾する口縁部を持つ縄文土器深鉢である。620は肥厚する口縁部が屈曲し、内面には1条の沈線がみられるものである。壺であろうか。621は屈曲する口縁部をもつ縄文土器浅鉢である。622は口縁部の外面に面が見られ、内面に1条の沈線が走る縄文土器深鉢である。623は浮線網状文系浅鉢と思われる。624は口縁部外面に1条の素文突帯が走り、口縁

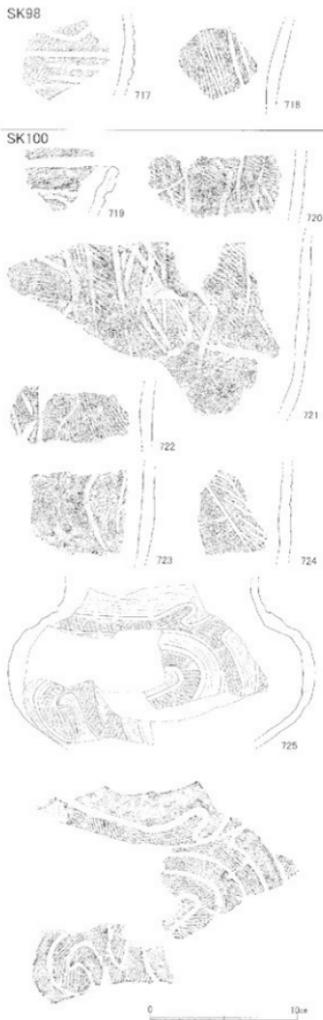
端部には小突起が施されている。これらは、縄文時代晩期、Ⅳ期に属するものと考えられる。625～628は縄文土器底部片である。628の土器外面には赤色顔料がみられる。

(4) AⅢ地区下層第2・3検出面上

包含層出土遺物 (第72～74図 629～716) 629・630は縄文に連続する刺突が施されている縄文土器体部片。631は条線地に連続する刺突がみられる縄文土器体部片である。これらは、縄文時代中期、船元式の範疇のものと思われる。632～635は縄文地に刺突あるいは沈線による文様帯が施された縄文土器深鉢口縁部片である。636は口縁端部に刻み、低い隆帯に区画された中に連続する刺突列がみられる縄文土器口縁部片である。637は波頂部下に貫孔と刺突が施され、以下に沈線文による文様がみられる縄文土器口縁部片。638～641は富士山状に口縁部突起が大きく延びるものと考えられる。638は縄文地に沈線が施されている。639～641は沈線文による文様構成であろう。これらは縄文時代中期、北白川C式に属するものと考えられる。642～644は綾杉状の沈

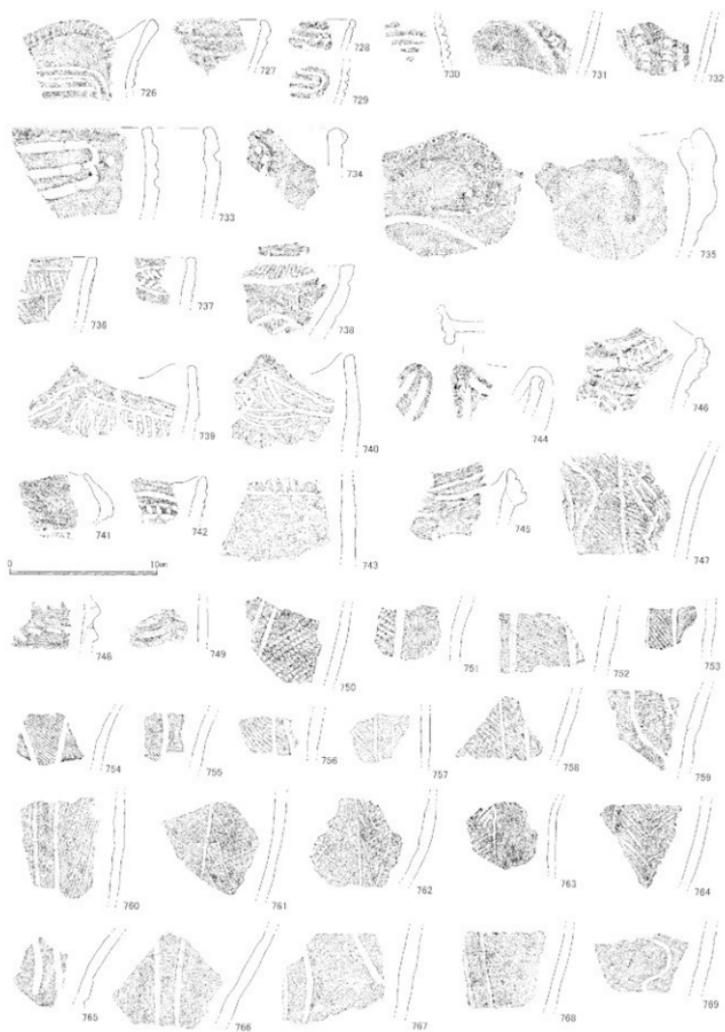


第74図 AⅢ地区第2・3検出面上包含層出土遺物実測図3(1:3)



第75図 B I 地区 S K 98・100出土遺物実測図(1:3)

線による文様が施された縄文土器体部片である。これらは縄文時代中期、北白川C式期のものと思われる。645・646は沈線による幾何学的な文様が施された縄文土器体部片である。647・648は垂下する沈線がみられる縄文土器体部片である。649は垂下する条線がみられる縄文土器体部片である。650は沈線により区画されたものの中に条線が施された縄文土器体部片である。これらは縄文時代中期、北白川C式期のものと考えられる。651は口縁部内面には2条の凹線がみられ、外面は細い刻まれた隆帯による文様が施された縄文土器深鉢である。縄文時代後期前半、堀之内Ⅱ式に併行するものであろうか。652～654は磨消縄文系の縄文土器体部片と思われる。縄文時代後期、中津式の範疇に属するものといえよう。655・656・658は縄文土器の体部片である。657は縄文地に沈線が縄文土器体部片であろうか。659は条線がみられる縄文土器体部片である。これは概ね縄文時代後期、北白川上層式期に属するものと考えられる。660～672は口縁部に刺突が施され、口縁部の形状が小波状にみえる縄文土器深鉢口縁部片である。660～663、667、671、672は土器外面に横位の条痕が施されているもの、665は上縁部内面に1条の沈線が巡るものである。これらは、縄文時代晩期、Ⅱ期と考えられる。673は口縁端部に刻み、1条の刻みのある突帯が巡る。縄文時代晩期、Ⅲ期に属するものと考えられる。674・675・677は1条の刻みのある突帯が巡る縄文土器深鉢口縁部片。縄文時代晩期、Ⅳ期に属するものと考えられる。676・678は貝殻による押圧が施された1条の突帯が巡る縄文土器深鉢口縁部片である。縄文時代晩期、Ⅴ期に属するものと考えられる。679～681は1条の素文突帯が巡る縄文土器深鉢口縁部片である。縄文時代晩期、Ⅳ期に属するものであろうか。682～693は加飾のないいわゆる無文系土器である。縄文土器深鉢口縁部片である。682～686、689、690、692、693は外面に横位の条痕が施されているものである。694～696は口縁部内面に1条の沈線が巡るものである。697は波状口縁を呈し、屈曲する頸部下に横位に条痕がみられる。縄文時代晩期のものと考えられる。698は4単位波状の口縁部をもつ縄文土器深鉢である。699は波状口縁を持つ縄文土器深鉢口縁部



第76图 B I地区S-Z 104·106出土文物实测图(1:3)

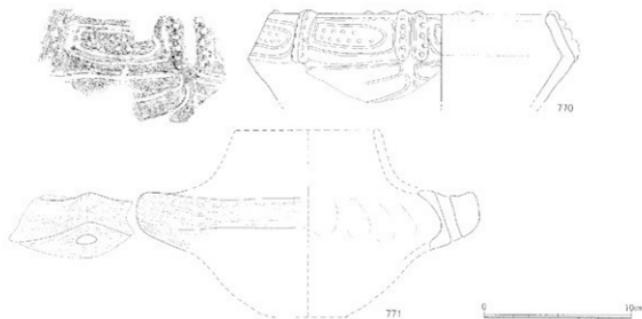
片である。700～702は加飾のない縄文土器深鉢口縁部片である。703・705は加飾がなく頸部が屈曲する縄文土器壺口縁部片である。704は口縁部が内傾する縄文土器浅鉢口縁部片である。706～710は加飾のない縄文土器深鉢口縁部片である。これらは、西日本系土器の範疇のものであろう。711は口縁部に沈線、屈曲部分に連続する刻みが施されている縄文土器浅鉢である。712は波状口縁の外面に多条の沈線が施された縄文土器浅鉢口縁部片である。これらは、縄文土器晩期、IV期に属するものであろうか。713～715は縄文土器底部片である。713・714は凹底である。716は穿孔がみられる土器片である。土器片錘である可能性があるもの。

(5) B I 地区

SK98出土遺物 (第75図 717・718) 717は地文縄文に沈線が施されている縄文土器体部片である。718は沈線と条痕が施されている縄文土器体部片である。縄文時代中期後半に属するものと考えられる。

SK100出土遺物 (第75図 719～725) 719は縄文と沈線が施された縄文土器口縁部片である。720～722は縄文と垂下する沈線に斜行する沈線が施された縄文土器体部片である。723・724は垂下する沈線に斜行する沈線が施された縄文土器体部片である。これらは縄文時代中期後半、北白川C式の範疇のものと思われる。725は頸部以下に磨滑縄文による幾何学的な文様帯が施された縄文土器双耳壺と考えられる。縄文時代後期、中津式期のものと考えられる。

SZ104・106出土遺物 (第76～78図 726～815, 743を除く、第80図 821, 第82図 934) 726～728は口縁端部に連続する刺突、以下に断面カマボコ状となる隆帯による文様帯がみられる縄文土器深鉢口縁部片である。729・730は断面カマボコ状となる隆帯による文様帯がみられる縄文土器深鉢体部片。731・732は沈線による区画の中に連続する刺突が施された縄文土器深鉢体部片。これらは、縄文時代中期前半、山田平式に併行するものと思われる。733は口縁部下に盲孔、沈線による意杓状の文様帯がみられる縄文土器口縁部片である。縄文時代中期、北白川C式に併行するものであろうか。734・735は低い隆帯で区画された内に連続する刺突列が円形に展開する文様帯が施された縄文土器深鉢口縁部片である。縄文時代中期、加曾利E式の範疇のものであろうか。736・737は沈線による区画が口縁にみられる縄文土器深鉢口縁部片である。縄文時代中期末に属するものと考えられる。738は沈線と縄文による文様帯が確認できる縄文土器口縁部片である。縄文時代中期末のものと思われる。後続する磨滑縄文系土器群の萌芽ともとれるものであろうか。739～742は縄文土器口縁部片である。口縁部下に沈線による区画文が施されたものである。743は沈線に区画された文様帯がみられる縄文土器体部片である。これらは、縄文時代中期に属するものであろうか。744～746は沈線による区画等の文様構成がみられる縄文土器口縁部片である。747は縄文と垂下する沈線間に斜行す



第77図 B I 地区SZ104・106出土遺物実測図2(1:3)

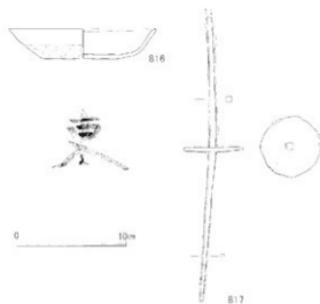


第78图 B I地区S Z 104·106出土遗物实测图3(1:3)

る沈線が施された縄文土器体部片である。748は縄文土器体部片。隆帯と刺突による文様であろうか。749は多条の曲線的な沈線文が施された縄文土器体部片である。750～759は縄文土器体部片。縄文と垂下する沈線が施されたものである。760は垂下する沈線間に斜行する条線が施された縄文土器体部片である。761～764は垂下する沈線間に斜行する沈線が施された縄文土器体部片である。765～768は縄文土器体部片。垂下する沈線が施されたものである。769は蛇行する沈線が施された縄文土器体部片である。蕨手文の一部分であろうか。これらは縄文時代中期後半、北白川C式の範疇と考えられる。770は縄文土器口縁部片。屈曲する口縁部に垂下隆帯と沈線による意杵状文には刺突列がみられ、以下には沈線による文様帯が施されたものである。771は加飾のない縄文土器双耳壺と考えられる。これらは縄文時代中期末、北白川C式の範疇のものと思われる。772・773は沈線による文様が施された縄文土器口縁部片である。774～777は沈線文が施された縄文土器体部片。これらは縄文時代中期末から後期初頭にかけてのものと考えられる。778・784・785は縄文土器口縁部片である。磨消縄文の文様帯が施されているものか。縄文時代後期、中津式併行のものと考えられる。779・780～783・786は磨消縄文による文様帯が施された縄文土器口縁部片である。786は口縁部内外面に縄文による文様帯がみられる。いわゆる緑帯文土器の特徴を示している。787～792は磨消縄文による文様帯が施された縄文土器体部片であ

る。これらは、北白川上層式期に属するものと考えられる。793は縄文土器口縁部片である。土器外面に縄文が施されたものであろうか。794は縄文が外面にみられる縄文土器体部片である。795は縄文土器口縁部片である。土器外面に条線が施されたものである。796は条線が施された縄文土器体部片である。これらは無文系土器と呼称できるものである。概ね、北白川上層式期のものと思われる。797は口縁端部が工具の押圧により刻まれ、小波状のような形状となっている縄文土器口縁部片である。縄文時代後期、Ⅱ期のものと思われる。798は縄文土器口縁部片である。外面には口縁端部に刻みが施され1条の刻目突帯が巡る。内面には1条の沈線が巡る。これらは、縄文時代後期、Ⅲ期のものと考えられる。799・800は貝殻押圧による連続する刻みのある突帯が口縁部に巡る縄文土器口縁部片である。801・803は1条ないし2条の素文突帯が巡る縄文土器口縁部片である。これらは、縄文時代後期、Ⅳ期のものと考えられる。802は1条の素文突帯が巡る縄文土器口縁部片である。縄文時代後期、Ⅴ期のものと考えられる。804～807は縄文土器体部片。貝殻による押圧で刻まれた突帯がみられる。これらは、縄文時代後期、Ⅴ期に属するものと考えられる。808は口縁部内面に1条の沈線が巡る縄文土器深鉢口縁部片である。809は波状口縁を呈する浅鉢口縁部片である。口縁部下の屈曲部に1条の沈線が巡る。810は直線的に外傾する口縁をもつ縄文土器深鉢片である。加飾はみられない。811は内湾気味の口縁を持つ縄文土器鉢口縁部片である。加飾の見られないものである。これらは、縄文時代後期、Ⅳ期のものと思われる。812～815は接地面が扁平な縄文土器底部片である。これらは、縄文時代後期に属するもの。821は縄文土器深鉢体部片で、縄文時代中期前半、子種式に併行するもの。822は土師器甕。奈良時代（8世紀代）のものと思われる。

S K105出土遺物 (第79図 816・817) 816は土師器杯である。底部外面に「東」の墨書がみられる。平安時代、斎宮Ⅱ期第3段階(10世紀代)に属するものと考えられる。817は鉄製紡錘車である。一部に木質が残存している。



第79図 B1地区SK105出土遺物実測図(1:4)



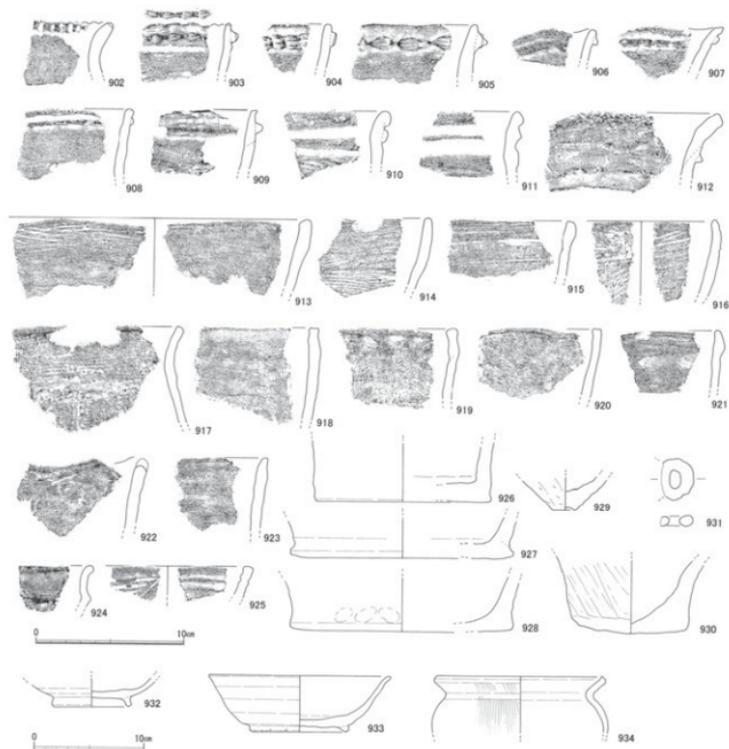
第80图 BI地区包含层出土物实测图(1:3)



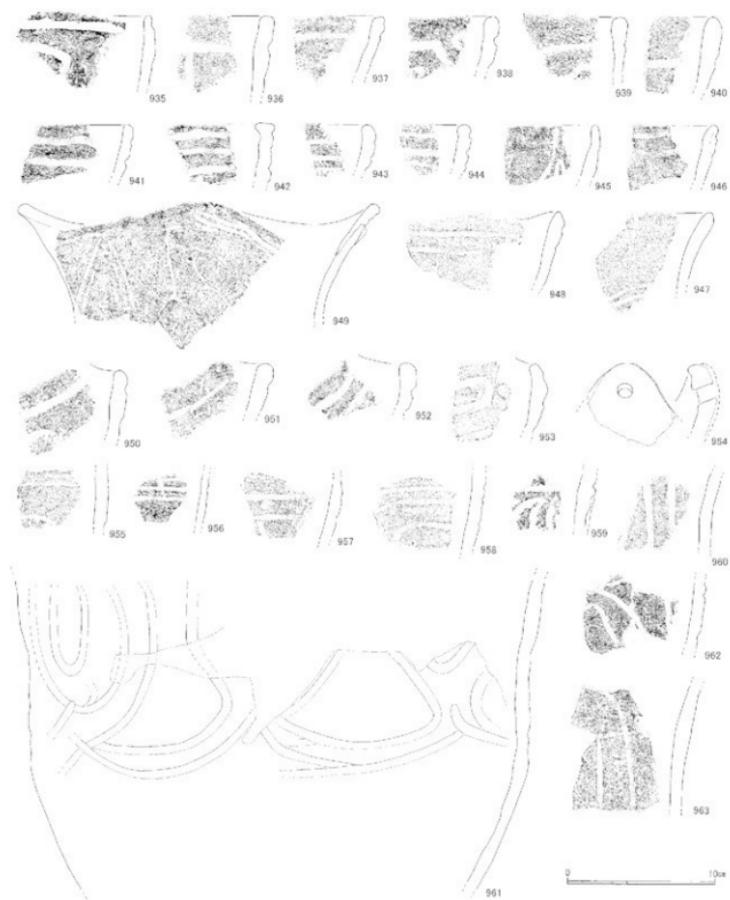
第81图 B I地区包含层出土物实测图2(1:3)

Pit・包含層出土遺物（第76・80～82図 743・818～820、822～933） 818は口縁端部に連続する刺突、以下に断面カマボコ状の隆帯による文様帯がみられる縄文土器深鉢口縁部片である。縄文時代中期前半、山田平式に併行するものと思われる。いわゆる東海系土器と呼称されているもの。819・820・822は屈曲する頸部付近に垂下及び波状の沈線による文様帯が確認できる縄文土器深鉢体部片。これらは、縄文時代中期前半、子種式に併行するものと思われる。いわゆる東海系土器と呼称されているものである。

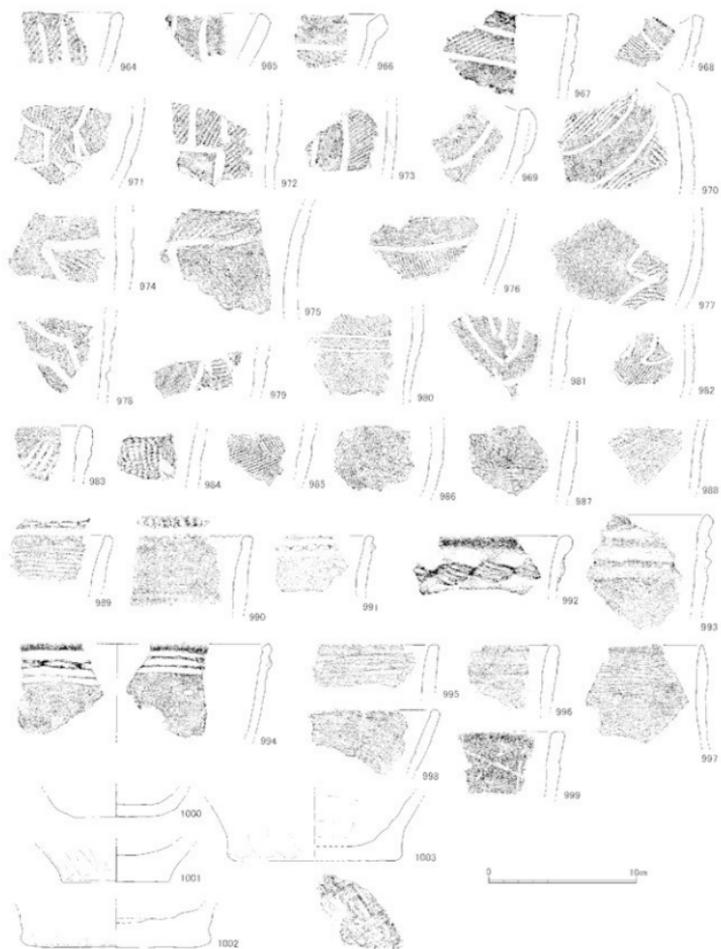
823～825は縄文土器深鉢口縁部片である。沈線による幾何学的な文様帯が施されている。これらは、縄文時代中期後半、北白川C式に併行するものと思われる。826は内弯する口縁部に沈線による区画と条線がみられる縄文土器深鉢口縁部片である。827～829は肥厚する口縁部に細かい縄文が施され、以下に沈線及び刺突の文様が施されたものである。これらは、縄文時代中期後半、北白川C式に併行するものと思われる。830・831・834は、肥厚する口縁に縄文が端部に至るまで施され、以下には沈線による



第82図 B I地区包含層出土遺物実測図3(902～931は1:3、932～934は1:4)



第83图 B II地区出土遗物实测图1(1:3)



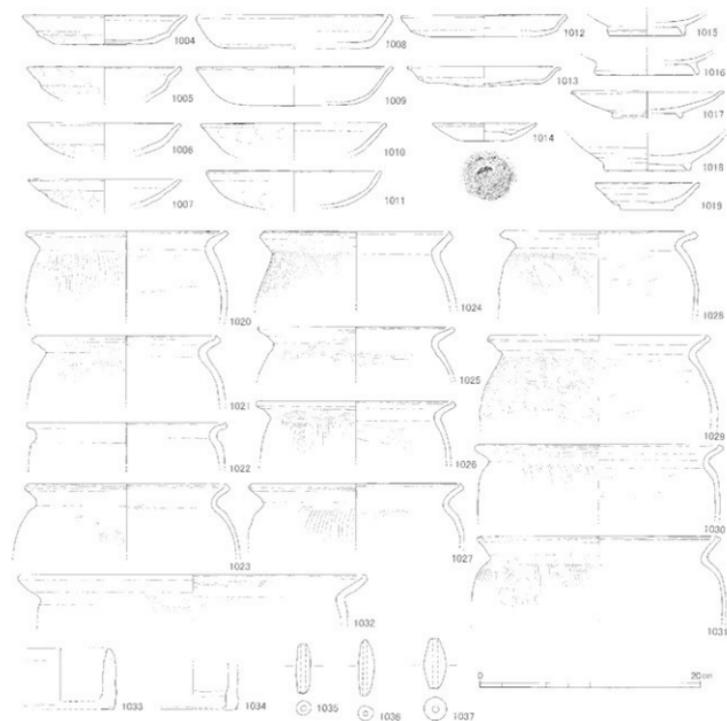
第84图 B II地区出土遗物实测图2(1:3)

長槽円状の区画内には横位の刺突列がみられる縄文土器深鉢口縁部片である。832・833・835・836は縄文土器深鉢体部片。垂下する沈線間には綾杉状に沈線が配されている。830～836は同一固体の可能性はあるが、ここでは破片ごとに報告する。838は低い隆帯による窓枠状文に条線が施された縄文土器口縁部片である。839は波頂部に貫孔、それを囲う刺突が3箇所、沈線による窓枠状文と斜行する沈線文が施された縄文土器口縁部片である。840は縄文土器深鉢口縁部片である。口縁端部に刻みが施され、以下沈線による文様構成であろうか。841は隆帯上に連続する沈線文が施された縄文土器深鉢口縁部片である。842は841と同様の文様帯であろうか。843・844・845は縄文土器深鉢口縁部片である。肥厚する部分に沈線による文様が施されている。846・847は工具による浅めの押圧が波状に施された縄文土器体部片である。848は縦位の刺突列がみられる縄文土器深鉢体部片である。849・850は隆帯と沈線による文様が施された縄文土器深鉢体部片である。851は沈線文による文様がみられる縄文土器深鉢体部片である。852は沈線による区画内に、綾杉状の条線、以下連続する途切れた短沈線が横位に展開する縄文土器深鉢体部片である。これらは、縄文時代中期末、北白川C式に比定できるものと思われる。853～855は縄文土器深鉢口縁部片である。平線の口縁部に沈線による直線的な文様が施されている。858は内湾する口縁部に沈線による幾何学的な文様が施されている縄文土器深鉢口縁部片である。859・860は縄文土器深鉢口縁部片である。波状の口縁部に沈線による直線的な文様が施されている。861・862は波状の口縁部に沈線による渦巻状文がみられる縄文土器深鉢口縁部片である。863～869は沈線による幾何学的な文様が施された縄文土器深鉢体部片である。これらは縄文時代後期初頭、中津式併行のものと考えられる。856・857は沈線による文様がみられる縄文土器深鉢口縁部片である。これらは、縄文時代後期前半、北白川上層式の範疇のものと思われる。870・871は縄文土器深鉢口縁部片である。沈線と縄文による文様構成である磨消縄文土器系と考えられる。これは縄文時代後期初頭、中津式の範疇であろう。872～878は縄文土器深鉢口縁部片。872は口縁端部

から2条の垂下する沈線と縄文がみられる。873は短沈線と縄文が施されている。874・875は沈線と縄文による文様帯が施されたもの。876は地文縄文が見られる口縁部に3条の沈線が横位に展開している。877・878は口縁部に平行する沈線と縄文の文様帯が施されたものである。これらは概ね縄文時代後期前半、北白川上層式に属するものと考えられる。879～890は沈線と縄文による磨消縄文に文様帯が見られる縄文土器深鉢体部片である。これらは概ね縄文時代後期前半、北白川上層式に属するものと考えられる。891は口縁部に沈線による文様帯の集約がみられる縄文土器深鉢口縁部片である。これらは概ね縄文時代後期前半、北白川上層式のものと思われる。892～895は縄文土器深鉢体部片である。磨消縄文の文様帯が施されている。896・897は条線が施された縄文土器深鉢口縁部片である。898は口縁端部に1条の沈線が走る縄文土器深鉢口縁部片である。これらは、これらは概ね縄文時代後期前半、北白川上層式に属するものといえよう。899・900は縄文土器注口土器と考えられる。899は注口の部分が欠失している。900は注口部分が残存している。縄文時代後期に属するものであろうか。901は台形の縄文土器深鉢の台部分と考えられる。縄文時代中期のものといえよう。902は外反する口縁端部に刻みが施された縄文土器深鉢口縁部片である。縄文時代晩期、Ⅱ期のもと思われる。903は口縁端部に刻みがみられ、それによる押圧で小波状のようにみえ、1条の突帯が巡っている縄文土器深鉢口縁部片である。縄文時代晩期、Ⅲ期のもと考えられる。904は突帯に貝殻による刻みが施された縄文土器深鉢口縁部片である。これらは、縄文時代晩期、Ⅳ期に属するものと考えられる。905は突帯に貝殻による刻みが施された縄文土器深鉢口縁部片である。これらは、縄文時代晩期Ⅴ期に属するものと考えられる。906は縄文土器深鉢口縁部片。波状口縁である。縄文時代晩期、Ⅳ期のものであろうか。907・908は縄文土器深鉢口縁部片。低い素文突帯が1条口縁部に巡るものである。これらは、縄文時代晩期、Ⅴ期に属するものであろう。909は素文突帯が1条口縁部に巡る縄文土器深鉢口縁部片である。910・911は口縁部の上部に1条の低い素文突帯がみられる縄文土器深

鉢口縁部片である。912は大きく外反する口縁部下に断面三角形の素文突帯が巡る縄文土器深鉢口縁部片である。これらは、縄文時代晩期、V期に属するものであろう。913~915は若干外傾する口縁部をもつ縄文土器深鉢片である。加飾はみられない、いわゆる無文系土器である。916は内弯気味の口縁を持つ縄文土器深鉢口縁部片である。加飾のみられないものである。917は口縁部が大きく外に屈曲する縄文土器深鉢口縁部片である。加飾がみられないものである。918~920は口縁端部に面がみられ、若干口縁部が屈曲気味の縄文土器深鉢口縁部片である。加飾がみられないものである。921は口縁部の肥厚が

みられる縄文土器深鉢口縁部片である。加飾がみられないものである。922は口縁部が波状となる縄文土器深鉢口縁部片である。加飾がみられないものである。923は加飾がみられない縄文土器深鉢口縁部片である。924は口縁部が外反し頸部が屈曲する縄文土器浅鉢口縁部片である。925は口縁部外面には横位の多条沈線が施され、内面には低い突帯状のものが1条巡る縄文土器深鉢口縁部片である。これらは、縄文時代晩期、V期に属するものであろう。926~928は接地面が扁平な縄文土器底部片である。これらは縄文時代晩期前半に属するものといえよう。929は接地面が凹底の縄文土器底部片である。930



第85図 BⅡ地区出土遺物実測図3(1/4)

は接地面の径が小さい縄文土器底部片である。これらは、概ね縄文時代晩期前半に属するものと考えられる。931は把手部分であろうか。縄文土器と思われる。これらは、概ね縄文時代晩期前半に属するものであろう。932は灰釉陶器碗底部片である。平安時代後期のものと思われる。933は底部に板敷痕がみられる陶器碗である。通称山茶碗と呼称されているものである。13世紀代のもと考えられる。

(6) BⅡ地区

遺構・包含層出土遺物 (第83～85図 935～1037)

994・1014はS K113出土である。935～954は縄文土器深鉢口縁部片である。935～946は沈線による幾何学的な文様帯が施されている。これらは、縄文時代中期末、北白川C式に併行するものと思われる。947～953は縄文土器深鉢口縁部片である。947・949は口縁部下に沈線による文様が施されたものである。948は外反する口縁部下に沈線による幾何学的な文様がみられるものである。950・951は直線的に外反する口縁部に沈線による文様がみられる。952・953は内湾気味の口縁部に沈線による文様帯が施されたものである。これらは、縄文時代後期初頭、中津式併行のものと考えられる。953は口縁波頂部に貫孔が見られる縄文土器深鉢口縁部片である。縄文時代後期前半のものと思われる。955は縄文土器深鉢体部片である。磨消縄文による文様構成のものであろうか。957～963は沈線による文様が施された縄文土器深鉢体部片である。961は沈線によるO字状の文様とそれを繋ぐ文様がみられる。これらは、縄文時代後期初頭、中津式に併行するものと考えられる。964～970は縄文土器深鉢口縁部片である。沈線と縄文による磨消縄文による文様構成のものと考えられる。971～977は縄文土器深鉢体部片である。沈線と縄文による磨消縄文による文様構成のものと思われる。これらは、縄文時代後期初頭、中津式に併行に比定できよう。978～982は磨消縄文による幾何学的な文様を構成する縄文土器深鉢体部片である。これらは、縄文時代後期前半、北白川上層式期に属するものと考えられる。983は肥厚する口縁部に縄文と3本沈線による文様が施された縄文土器深鉢口縁部片である。984～986は縄文が施された縄文土器深鉢体部片であらう。987・988は口縁のない縄文土

器深鉢体部片と考えられる。これらは、概ね縄文時代後期前半、北白川上層式期に比定できよう。989は口縁端部が刻まれ、口縁部に横位の条痕が見られる縄文土器深鉢口縁部片である。990は口縁端部に貝殻による刺突列がみられ、小波状のようにみえる縄文土器深鉢口縁部片である。これらは縄文時代晩期、Ⅱ期のものと考えられる。991は低く細い突帯上に刻みが施された縄文土器深鉢口縁部片である。縄文時代晩期、Ⅳ期のものであろうか。992は突帯上に貝殻に押圧による刻みが施された縄文土器深鉢口縁部片である。993は低い2条の素文突帯が巡る縄文土器深鉢口縁部片である。これらは、縄文時代晩期、Ⅴ期のものと思われる。994は浮線網状文が施された縄文土器深鉢口縁部片である。これらは、縄文時代晩期、Ⅴ期に比定できよう。995～999は加飾がみられない縄文土器深鉢口縁部片である。条痕が土器外面にみられるものである。1000～1003は縄文土器底部片である。1000は丸底気味。1001～1003は接地面が平らなものである。1003は底部外面に網代が見られる。これらは、縄文時代晩期のものと思われる。1004～1007は土師器皿である。口縁部が若干外反し、底部付近の調整が粗い。平安時代前半期、斎宮福年Ⅱ期1～2段階(9世紀代)に比定できよう。1008～1011は土師器杯である。平安時代前半期、斎宮福年Ⅱ期1～2段階に比定できよう。1012・1013は浅い土師器皿である。口縁部が若干外反し、底部付近の調整が粗い。平安時代、斎宮福年Ⅱ期1～2段階に比定できよう。1014はロクロ土師器皿。底部に糸切痕がみられる。1015～1017は灰釉陶器碗底部片である。平安時代、斎宮福年Ⅱ期3段階(11世紀代)のものと思われる。1020～1031は土師器甕、小形のものである。調整については粗い。平安時代、斎宮福年Ⅱ期1～2段階に比定できよう。1032は大形の土師器甕である。平安時代前半期、斎宮福年Ⅱ期1～2段階に比定できよう。1033・1034は志摩式製塩土器底部片である。平安時代に属するものと考えられる。1035～1037は円筒状の土錘である。

(小瀬 学・小山 憲一)

報告 番号	種別 番号	実測 番号	部 種	出土位置		法要 (m)		成形・調整・文様の種類			胎土	焼成	色 調	残存	備考	時期		
				調査 区	グリッド 位置	口徑	器高	底径	外 面	内 面							口縁部	
1	37	008-02	土師器小皿	A1	B4	S81 P11	—	—	ナデ	ナデ	ヨコナデ	密	良	1.5YR6/4	口縁部 小片	柱状方		
2	37	007-02	土師器鉢	A1	B4	S81 P11	15.4	—	オサエ	ハケメ	ヨコナデ	やや密	良	10YR8/3	口縁部 2/12	柱状方		
3	37	008-04	粘土塊	A1	B4	S81 P11	—	—	ナデ	—	—	やや密	良	7.5YR7/4	体 小 片	柱状方		
4	37	007-06	土師器皿	A1	B4	SK2	—	—	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ	やや密	良	7.5YR7/4	口縁部 小片			
5	37	008-01	土師器皿	A1	B4	SK2	—	—	オサエ	ナデ	ヨコナデ	密	良	10YR6/4	口縁部 小片			
6	37	007-05	土師器碗	A1	B4	SK2	—	7.0	口コナデ、貼 付け高台、糸切 痕	口コナデ	—	やや密	良	10YR6/4	高台部 6/12			
7	37	007-01	土師器鉢	A1	B4	SK2	26.6	—	ナデ、ハケメ	ハケメ	ヨコナデ	やや密	良	7.5YR6/4	口縁部 1/12			
8	37	007-04	陶器碗	A1	A5	P11	—	7.4	口コナデ、貼 付け高台、糸切 痕	口コナデ	—	密	良	N8/1	高台部 10/12	柱状方 P2		
9	37	007-03	陶器碗	A1	A5	P11	—	8.0	口コナデ、貼 付け高台、糸切 痕	口コナデ	—	密	やや良	2.5YR/1	高台部 実存	柱状方 P1		
10	38	021-01	縄文土器深鉢	AⅡ	B8	SK30	38.6	—	染傷、補修孔	染傷、ナデ	ナデ	やや密	並	黄 7.5YR5/1 内 2.5Y/1	口縁部 3/12		Ⅱ	
11	38	030-01	縄文土器深鉢	AⅡ	B8	SK30	31.0	—	染傷、ケズリ	ナデ	ヨコナデ	やや密	並	黄 10YR4/2 内 10YR5/3	口縁部 1/12		Ⅱ	
12	38	044-07	管状土製品	AⅡ	B8	SK30	長さ 1.4	幅 0.6	穴径 0.1	—	—	—	密	良	10YR6/4	実存		
13	38	013-01	縄文土器深鉢	AⅡ	B8	SK31	34.7	34.0	5.5	ケズリ、ナデ	ナデ、オサエ	ヨコナデ	粗	並	黄 10YR6/3 内 7.5YR4/1	口縁部 6/12		Ⅱ
14	38	009-01	縄文土器深鉢	AⅡ	B4	SK30	36.0	41.8	—	染傷、ケズリ、 ナデ	ナデ	調整	粗	並	黄 10YR6/3 内 2.5YR4/1	口縁部 一部欠		Ⅱ
15	39	021-01	縄文土器深鉢	AⅡ	C3	SK42	33.0	—	ケズリ、ナデ、 ケズリ	ナデ	キザミ	粗	並	10YR7/3	口縁部 2/12		Ⅱ	
16	40	020-01	縄文土器深鉢	AⅡ	B5	SK29	39.6	46.3	3.6	染傷、ケズリ	ナデ、染傷	キザミ	粗	良	10YR8/2	口縁部 6/12		Ⅱ
17	41	010-01	縄文土器深鉢	AⅡ	B4	SK38	37.0	47.5	—	ケズリ	ナデ	キザミ、ヨ コナデ	やや密	並	7.5YR6/1	口縁部 6/12		Ⅱ
18	42	011-01	縄文土器深鉢	AⅡ	B4	SK38	43.0	50.8	—	染傷、ケズリ	ナデ	キザミ、ヨ コナデ	やや密	並	2.5YR7/6	口縁部 2/12		Ⅱ
19	43	012-01	縄文土器深鉢	AⅡ	B4	SK40	38.0	46.7	—	染傷、ナデ、ケ ズリ	ナデ	キザミ、ヨ コナデ	粗	並	黄 7.5YR7/2 内 10YR3/1	口縁部 8/12		Ⅱ
20	44	015-01	縄文土器深鉢	AⅡ	C1.2	SK44	27.5	—	染傷、ヘラケズ リ	ケズリ、工具 ナデ	キザミ	やや密	やや良	10YR8/3	口縁部 4/12		Ⅲ	
21	44	014-01	縄文土器深鉢	AⅡ	C1.2	SK44	37.0	46.5	—	染傷、ケズリ、 ナデ	ナデ	実帯・キザ ミ	やや密	やや良	黄 10YR3/2 内 10YR2/2	口縁部 4/12		Ⅲ
22	45	017-02	縄文土器深鉢	AⅡ	C2	SK43	体部 径 21.9	—	染傷、ケズリ	ナデ	ナデ	やや密	やや良	10YR8/3	体部 5/12		Ⅲ	
23	45	016-01	縄文土器深鉢	AⅡ	C2	SK43	31.0	—	染傷、ケズリ	ナデ	実帯・キザ ミ	粗	良	10YR8/3	口縁部 10/12		Ⅲ	
24	45	017-01	縄文土器深鉢	AⅡ	C2	SK43	43.6	—	ミガキ、ヘラケ ズリ	ミガキ、ナデ	ナデ	やや密	やや良	10YR7/3	口縁部 5/12		Ⅲ	
25	46	029-01	縄文土器深鉢	AⅡ	B6	SK28	35.6	44.3	—	実帯、染傷、ケ ズリ、ナデ	ヨコナデ、 割突	粗	やや良	黄 10YR8/3 内 10YR2/1	口縁部 小片		Ⅲ	
26	46	028-01	縄文土器深鉢	AⅡ	B6	SK28	体部 径 33.0	—	染傷、ケズリ	ナデ	—	粗	並	黄 10YR7/3 内 10YR7/3	体部 4/12		Ⅲ	
27	47	022-01	縄文土器深鉢	AⅡ	C3	SK41	体部 径 35.6	—	染傷、ケズリ	ナデ、工具ナ デ	—	粗	不良	黄 10YR7/2 内 2.5Y/2	底 部 残 存		Ⅳ	
28	47	018-01	縄文土器深鉢	AⅡ	C5	SK46	体部 径 37.0	—	ヨコナデ、ケズ リ、ナデ	—	—	粗	並	黄 10YR4/1 内 10YR6/1	体 部 2/12		Ⅳ	
29	48	019-01	縄文土器深鉢	AⅡ	西2	SK59	29.0	40.5	7.0	ヨ染実帯、染 傷、ケズリ、ナ デ	ナデ	ヨコナデ	粗	並	黄 10YR3/3 内 10YR6/1	口縁部 小片		V
30	49	026-01	縄文土器深鉢	AⅡ	C4	SK50	29.0	—	染傷、ケズリ	ケズリ、ナデ	キザミ	粗	並	10YR7/3	口縁部 6/12		Ⅲ	
31	49	023-01	縄文土器深鉢	AⅡ	C4	SK50	31.9	—	ヨコナデ、ケズ リ	ナデ	キザミ	やや密	並	10YR7/2	口縁部 3/12		Ⅲ	
32	49	025-01	縄文土器深鉢	AⅡ	C4	SK50	32.0	—	実帯・キザミ、 染傷、ケズリ	ヨコナデ	キザミ	粗	並	10YR8/3	口縁部 6/12		Ⅲ	
33	49	024-01	縄文土器深鉢	AⅡ	C4	SK50	28.8	—	ケズリ、ミガキ	ヨコナデ	キザミ	粗	並	10YR4/2	口縁部 2/12		Ⅲ	
34	50	035-01	縄文土器深鉢	AⅡ	B9	SK14	体部 径 30.0	—	染傷、ミガキ	ヨコナデ、 ケズリ、 ミガキ	—	粗	並	10YR6/2	体 部 4/12	補修3ヶ所		

第6表 土器・土製品観察表1

報告 番号	種別 番号	実用 番号	種 類	出土位置		法量 (g)		成形・装飾・文様の種類			胎土	焼成	色 調	残存	備考	時期
				調査 区	グリッド 座標・ 深度	口徑	器高	底径	外 面	内 面						
35	50	036-02	縄文土器深鉢	AⅡE	B9 SX14	—	—	—	染織	ナデ	ヨコナデ	やや粗	並	2.5Y5/1	口縁部 小片	Ⅲ
36	50	036-04	縄文土器深鉢	AⅡE	B9 SX14	—	—	—	染織	ナデ	ナデ	やや粗	並	2.5Y6/1	口縁部 小片	Ⅲ
37	50	036-03	縄文土器深鉢	AⅡE	B9 SX14	—	—	—	三方牛	三方牛	三方牛	やや粗	並	外 10Y86/1 内 2.5Y7/1	口縁部 小片	Ⅲ
38	50	036-01	縄文土器深鉢	AⅡE	B9 SX14	—	—	5.1	三方牛、オサ エ、ナデ	ナデ	—	粗	並	外 10Y86/2 内 2.5Y5/1	底 部 6/12	Ⅲ
39	50	039-08	縄文土器深鉢	AⅡE	E5 SX32	—	—	—	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	やや粗	やや良	ND/	口縁部 小片	Ⅳ
40	50	040-02	縄文土器深鉢	AⅡE	E5 SX32	—	—	—	ナデ	波線、ナデ	ナデ	やや粗	やや良	10Y87/2	口縁部 小片	Ⅳ
41	50	039-07	縄文土器深鉢	AⅡE	E5 SX32	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	やや粗	やや良	10Y88/2	口縁部 小片	Ⅳ
42	50	040-01	縄文土器深鉢	AⅡE	E5 SX32	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	やや粗	やや良	7.5Y87/4	口縁部 小片	Ⅳ
43	50	040-03	縄文土器深鉢	AⅡE	E5 SX33	—	—	—	染織	ナデ	ナデ	やや粗	やや良	7.5Y87/6	口縁部 小片	Ⅲ
44	50	027-01	縄文土器深鉢	AⅡE	G4 SX37	27.5	—	—	染織、キズミ、 染織、ケズリ	ナデ	ヨコナデ	粗	並	外 5Y87/6 内 10Y86/2	口縁部 小片	Ⅳ
45	50	040-07	縄文土器深鉢	AⅡE	D6 SX45	—	—	—	ケズリ	ナデ	キズミ	やや粗	やや良	外 10Y87/3 内 10Y88/3	口縁部 小片	Ⅱ
46	50	040-06	縄文土器深鉢	AⅡE	D6 SX45	—	—	—	ケズリ	ナデ	ナデ	やや粗	やや良	7.5Y82/1	口縁部 小片	Ⅱ
47	51	032-07	縄文土器深鉢	AⅡE	E9 SX13	—	—	—	染織	ナデ	キズミ	粗	並	外 2.5 Y8/2 内 2.5Y6/1	口縁部 小片	Ⅱ
48	51	033-06	縄文土器深鉢	AⅡE	E9 SX13	—	—	—	染織	ナデ	キズミ	やや粗	並	10Y87/3	口縁部 小片	Ⅱ
49	51	033-07	縄文土器深鉢	AⅡE	E9 SX13	—	—	—	染織	波線、ナデ	キズミ	粗	並	外 10Y87/3 内 2.5Y7/3	口縁部 小片	Ⅱ
50	51	033-04	縄文土器深鉢	AⅡE	E9 SX13	—	—	—	染織	ナデ	ナデ	やや粗	並	外 10Y84/1 内 10Y82/2	口縁部 小片	Ⅱ
51	51	033-03	縄文土器深鉢	AⅡE	E9 SX13	—	—	—	染織	ナデ	ナデ	やや粗	並	外 10Y87/3 内 7.5Y86/4	口縁部 小片	Ⅱ
52	51	034-01	縄文土器深鉢	AⅡE	E9 SX13	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	粗	並	10Y86/3	口縁部 小片	Ⅱ
53	51	033-01	縄文土器浅鉢	AⅡE	E9 SX13	—	—	—	ナデ、突帯、ケ ズリ	ナデ	—	粗	並	7.5Y87/4	体 部 小片	Ⅱ
54	51	041-02	縄文土器深鉢	AⅡE	C3 SK51	—	—	—	染織、ケズリ	ヨコナデ、ナ デ	キズミ	粗	良	10Y88/2	口縁部 小片	Ⅱ
55	51	043-01	縄文土器深鉢	AⅡE	C3 SK51	—	—	—	染織、ケズリ	ナデ	キズミ	粗	良	10Y88/3	口縁部 小片	Ⅱ
56	51	032-08	縄文土器深鉢	AⅡE	B8.9 SX16	—	—	5.3	染織、ナデ	ナデ	—	やや粗	並	外 2.5Y87/4 内 10Y87/1	底 部 小片	Ⅱ
57	51	042-08	縄文土器深鉢	AⅡE	D1 SK57	—	—	—	染織	ナデ	キズミ	粗	良	10Y84/2	口縁部 小片	I
58	51	043-06	縄文土器深鉢	AⅡE	D1 SK57	—	—	—	三方牛	ナデ、オサエ 照オサエ	ナデ	粗	良	7.5Y87/4	口縁部 小片	Ⅱ
59	51	042-04	縄文土器深鉢	AⅡE	D1 SK57	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	粗	良	10Y87/4	口縁部 小片	Ⅱ
60	51	042-03	縄文土器深鉢	AⅡE	D1 SK57	—	—	—	突帯、ナデ	ナデ	ナデ	粗	良	10Y84/1	口縁部 小片	Ⅳ
61	51	042-02	縄文土器深鉢	AⅡE	D1 SK57	—	—	—	ナデ、一部割裂	突帯、ナデ	ナデ	粗	良	7.5Y85/3	口縁部 小片	Ⅳ
62	51	037-04	縄文土器深鉢	AⅡE	B6 SK23	—	—	—	染織、キズミ、 ケズリ	ナデ	キズミ	粗	並	外 10Y85/2 内 10Y87/2	口縁部 小片	Ⅲ
63	51	037-03	縄文土器深鉢	AⅡE	B6 SK23	—	—	—	三方牛、ナデ	ナデ	凹線	粗	並	外 7.5Y84/1 内 10Y86/2	口縁部 小片	Ⅲ
64	51	037-02	縄文土器深鉢	AⅡE	B6 SK23	—	—	—	三方牛	ナデ	ナデ	粗	並	10Y87/1	口縁部 小片	Ⅲ
65	51	036-08	縄文土器深鉢	AⅡE	B6 SK23	—	—	—	染織	染織	ヨコナデ	粗	並	外 10Y88/3 内 10Y84/1	口縁部 小片	Ⅲ
66	51	034-06	縄文土器深鉢	AⅡE	D9 SK12	—	—	—	貼付付突帯2条	ナデ	ヨコナデ	粗	並	2.5Y8/2	口縁部 小片	V
67	51	034-04	縄文土器深鉢	AⅡE	D9 SK12	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	やや粗	並	7.5Y82/2	口縁部 小片	V
68	51	034-05	縄文土器深鉢	AⅡE	D9 SK12	—	—	—	染織、ナデ	ナデ	ナデ	やや粗	並	外 10Y86/2 内 2.5Y2/1	口縁部 小片	V
69	51	034-03	縄文土器深鉢	AⅡE	D9 SK12	—	—	—	ナデ、突帯、キ ズミ	染織	—	やや粗	並	10Y86/3	体 部 小片	V
70	51	033-05	縄文土器深鉢	AⅡE	D9 SK12	—	—	—	染織	ナデ	ナデ	やや粗	並	外 10Y88/3 内 5Y87/6	口縁部 小片	V
71	52	043-03	縄文土器深鉢	AⅡE	C3 SK53	—	—	—	波線、ナデ	ナデ	ナデ	やや粗	良	10Y84/1	口縁部 小片	I
72	52	042-06	縄文土器深鉢	AⅡE	C3 SK53	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	粗	良	10Y83/1	口縁部 小片	I
73	52	032-03	縄文土器深鉢	AⅡE	Q7 SK19	—	—	—	波線、ナデ	ナデ	ナデ	粗	並	2.5Y6/2	口縁部 小片	I

第7表 土器・土製品観察表2

報告 番号	種別 番号	実測 番号	器 種	出土位置		法量 (cm)			成形・装飾・文様の種類			胎土	構成	色 調	残存	備考	時期	
				調査 区	調査 区	口径	器高	底径	外 面	内 面	口縁装飾							
74	52	022-02	縄文土器深鉢	AⅡ	C7	SK19	—	—	—	象痕	ナデ	キザミ	やや粗	並	2.516/1	口縁部 小片		Ⅱ
75	52	040-05	縄文土器深鉢	AⅡ	B5	SK36	—	—	—	象痕	ナデ	ナデ	やや粗	やや良	外 1.0197/2 内 1.0198/2	口縁部 小片		I
76	52	040-04	縄文土器深鉢	AⅡ	B5	SK36	—	—	—	ナデ	ナデ	—	やや密	やや良	1.0194/1	体 部 小片		I
77	52	042-05	縄文土器深鉢	AⅡ	G4	SK49	—	—	—	ワズリ、ナデ	ナデ	ナデ	粗	良	1.0197/2	口縁部 小片		V
78	52	042-07	縄文土器浅鉢	AⅡ	G4	SK49	—	—	—	沈線、割突	ナデ	ナデ	やや粗	良	1.0194/1	口縁部 小片		V
79	52	043-04	縄文土器浅鉢	AⅡ	G4	SK49	—	—	—	沈線、割突	ナデ	ナデ	粗	良	1.0195/1	口縁部 小片		V
80	52	038-05	縄文土器深鉢	AⅡ	D6	SK25	—	—	—	象痕	ナデ	キザミ	やや粗	やや良	1.0197/2	口縁部 小片		I
81	52	038-03	縄文土器深鉢	AⅡ	D6	SK25	—	—	—	ナデ	ナデ	キザミ	やや粗	やや良	1.0197/3	口縁部 小片		I
82	52	038-04	縄文土器深鉢	AⅡ	D6	SK25	—	—	—	ナデ	ナデ	キザミ	やや粗	やや良	1.0195/1	口縁部 小片		I
83	52	038-02	縄文土器深鉢	AⅡ	D6	SK25	—	—	—	象痕、ナデ	ナデ	ナデ	粗	やや良	外 7.5194/1 内 7.5197/2	口縁部 小片		I
84	52	041-04	縄文土器深鉢	AⅡ	D4	SK55	—	—	—	ナデ、象痕	ナデ	キザミ	粗	良	1.0197/2	口縁部 小片		Ⅱ
85	52	042-01	縄文土器深鉢	AⅡ	D4	SK55	—	—	—	象痕	沈線、ナデ	ナデ	粗	良	1.0198/1	口縁部 小片		Ⅱ
86	52	043-05	縄文土器深鉢	AⅡ	D4	SK55	—	—	—	ミガキカ	ミガキカ	ミガキカ	やや粗	良	1.0196/2	口縁部 小片		Ⅱ
87	52	039-03	縄文土器深鉢	AⅡ	D7	SK27	—	—	—	象痕	ナデ	ナデ	やや粗	やや良	7.5196/4	口縁部 小片		Ⅲ
88	52	039-02	縄文土器深鉢	AⅡ	D7	SK27	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	粗	やや良	1.0197/3	口縁部 小片		Ⅲ
89	52	039-06	縄文土器深鉢	AⅡ	D7	SK27	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	やや粗	やや良	1.0197/4	口縁部 小片		Ⅲ
90	52	039-05	縄文土器深鉢	AⅡ	D7	SK27	—	—	—	沈線、割突	ナデ	キザミ	やや密	やや良	7.5193/1	口縁部 小片		Ⅲ
91	52	038-01	縄文土器深鉢	AⅡ	D7	SK27	—	—	3.1	ワズリ、ナデ	ナデ	—	粗	やや良	外 1.0198/1 内 1.0197/2	底 部 8/6		Ⅲ
92	52	043-02	縄文土器深鉢	AⅡ	C2	SK56	—	—	—	象痕	ナデ	キザミ	粗	良	1.0197/4	口縁部 小片		Ⅱ
93	52	041-03	縄文土器深鉢	AⅡ	C2	SK56	—	—	—	象痕	ナデ	キザミ	粗	良	1.0198/2	口縁部 小片		Ⅱ
94	52	041-05	縄文土器深鉢	AⅡ	C2	SK56	—	—	—	ナデ、沈線、縄 文	ナデ	—	やや粗	良	1.0197/3	体 部 小片		
95	52	041-01	縄文土器	AⅡ	C2	SK56	—	—	3.0	ナデ	ナデ	—	粗	良	5197/4	底 部 6/12		
96	52	027-01	縄文土器深鉢	AⅡ	D6	SK24	—	—	—	象痕	ナデ	割突・キザ ミ	粗	並	外 7.5197/2 内 7.5197/3	口縁部 小片		Ⅱ
97	52	036-05	縄文土器深鉢	AⅡ	C7	SK26	—	—	—	象痕	ナデ	ナデ	粗	並	1.0198/2	口縁部 小片		
98	52	032-04	縄文土器深鉢	AⅡ	B7	SK18	—	—	—	ナデ、象痕	ナデ	ナデ	粗	並	外 1.0193/1 内 1.0196/2	口縁部 小片		
99	52	039-01	縄文土器深鉢	AⅡ	D7	SK26	—	—	—	象痕	ナデ	ナデ	やや粗	やや良	外 1.0195/2 内 7.5198/4	口縁部 小片		
100	52	032-05	縄文土器深鉢	AⅡ	B7	SK17	—	—	—	象痕	ナデ	ナデ	粗	並	外 2.519/1 内 5198/1	口縁部 小片		
101	52	032-06	縄文土器深鉢	AⅡ	B7	SK17	—	—	—	象痕	ナデ	ナデ	粗	並	外 1.0194/2 内 1.0197/1	口縁部 小片		
102	52	036-06	縄文土器深鉢	AⅡ	B6	SK22	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	粗	並	外 1.0196/3 内 7.5197/2	口縁部 小片		
103	53	063-01	浪意器片蓋	AⅡ	E9	SH11	—	1.6	17.7	ロウロナデ	ロウロナデ	ロウロナデ	やや粗	やや良	外 2.5196/2 内 5195/1	底 部 5/12		
104	53	064-01	土器器蓋	AⅡ	E9	SH11	16.8	—	—	ハケメ	ハケメ	口コナデ	やや良	粗	外 1.0198/3 内 1.0195/2	口縁部 2/12		
105	53	049-06	縄文土器深鉢	AⅡ	D3	P15	—	—	—	ナデ、割突	ナデ	—	粗	やや良	外 7.5198/4 内 7.5197/4	体 部 小片		
106	53	053-01	縄文土器深鉢	AⅡ	E5	P11	—	—	—	沈線、割突、ナ デ	ナデ	ナデ	やや粗	並	外 7.5194/1 内 7.5194/2	口縁部 小片		
107	53	052-02	縄文土器	AⅡ	B5	P12	—	—	—	沈線、象痕	ナデ	ナデ	やや粗	並	外 2.517/1 内 1.0195/1	口縁部 小片		
108	53	050-04	縄文土器	AⅡ	G4	P13	—	—	—	沈線、ミガキ	ミガキ	—	やや密	並	外 1.0196/2 内 7.5195/2	体 部 小片		
109	53	048-04	縄文土器	AⅡ	C2	P13	—	—	—	沈線、ナデ	ナデ	—	やや粗	やや良	NA/	体 部 小片		
110	53	049-01	縄文土器深鉢	AⅡ	D2	P14	—	—	—	象痕	ナデ、象痕	キザミ	やや粗	やや良	外 7.5194/2 内 7.5193/1	口縁部 小片		Ⅱ

第 8 表 土器・土製品観察表3

報告 番号	種別 番号	実測 番号	器 種	出土位置		法量 (cm)			成形・装飾・文様の種類		胎土	構成	色 調	保存	備考	時期	
				原産 区	層位 シット	口径	器高	底径	外 面	内 面							口縁装飾
111	53	047-04	縄文土器深鉢	AⅡ	C2	Pi13	—	—	—	条痕	ナデ	キザミ	やや粗	やや粗	1.SYR4/2	口縁部 小片	Ⅱ
112	53	048-05	縄文土器深鉢	AⅡ	E1	Pi13	—	—	—	条痕	ケズリ	キザミ	やや粗	やや粗	7.SYR8/4	口縁部 小片	Ⅱ
113	53	047-06	縄文土器深鉢	AⅡ	C1	Pi12	—	—	—	条痕	ナデ	ナデ	やや粗	やや粗		口縁部 小片	Ⅱ
114	53	050-08	縄文土器深鉢	AⅡ	B4	Pi14	—	—	—	条痕	ナデ	キザミ	粗	粗	Ⅱ.SYR4/1 内.0YR8/2	口縁部 小片	Ⅱ
115	53	051-01	縄文土器深鉢	AⅡ	E4	Pi11	—	—	—	条痕	ナデ	キザミ	粗	粗	Ⅱ.SYR5/2 内.0YR7/2	口縁部 小片	Ⅱ
116	53	054-05	縄文土器深鉢	AⅡ	D6	Pi13	—	—	—	条痕	ナデ	キザミ	粗	粗	7.SYR5/1	口縁部 小片	Ⅱ
117	53	047-05	縄文土器深鉢	AⅡ	C1	Pi12	—	—	—	ナデ	ナデ	キザミ	やや粗	やや粗	Ⅱ.0YR2/1 内.7.SYR4/2	口縁部 小片	Ⅱ
118	53	054-03	縄文土器深鉢	AⅡ	B7	Pi15	—	—	—	ナデ	ナデ	キザミ	やや粗	粗	7.SYR4/1	口縁部 小片	Ⅱ
119	53	053-04	縄文土器深鉢	AⅡ	O6	Pi10	—	—	—	ナデ	ナデ	キザミ	やや粗	粗	Ⅱ.0YR5/1 内.0YR8/2	口縁部 小片	Ⅱ
120	53	050-05	縄文土器深鉢	AⅡ	D6	Pi16	—	—	—	ケズリ	ナデ	キザミ	粗	粗	Ⅱ.2.SYR1/1 内.2.SY7/1	口縁部 小片	Ⅱ
121	53	052-01	縄文土器深鉢	AⅡ	B5	Pi15	—	—	—	条痕、ナデ、ケ ズリ	ナデ	キザミ	やや粗	粗	Ⅱ.0YR5/3 内.0YR6/3	口縁部 小片	Ⅱ
122	53	048-06	縄文土器深鉢	AⅡ	O3	Pi11	—	—	—	突帯・キザミ、 ナデ	ナデ	ナデ	やや粗	やや粗	Ⅱ.0YR6/3 内.0YR8/2	口縁部 小片	Ⅳ
123	53	049-07	縄文土器深鉢	AⅡ	O2	Pi15	—	—	—	突帯・キザミ、 ナデ	ナデ	ナデ	やや粗	やや粗	7.SYR7/4	口縁部 小片	Ⅳ
124	53	050-03	縄文土器深鉢	AⅡ	C4	Pi11	—	—	—	突帯・キザミ、 ナデ	—	ナデ	やや粗	粗	2.SY7/1	口縁部 小片	Ⅳ
125	53	053-02	縄文土器深鉢	AⅡ	B6	Pi16	—	—	—	突帯・キザミ、 ナデ	ナデ	ナデ	やや粗	粗	Ⅱ.2.SYR1/1 内.0YR8/2	口縁部 小片	Ⅳ
126	53	048-01	縄文土器深鉢	AⅡ	B2	Pi13	—	—	—	突帯、ナデ	ナデ	ナデ	やや粗	やや粗	Ⅱ.0YR4/1 内.0YR7/4	口縁部 小片	Ⅳ
127	53	049-03	縄文土器深鉢	AⅡ	O3	Pi14	—	—	—	突帯、ナデ	ナデ	ナデ	やや粗	やや粗	0YR8/1	口縁部 小片	Ⅳ
128	53	053-05	縄文土器深鉢	AⅡ	O6	Pi10	—	—	—	条痕、突帯・キ ザミ	ナデ	—	やや粗	粗	0YR7/3	体 部 小片	
129	53	051-05	縄文土器深鉢	AⅡ	B5	Pi16	—	—	—	条痕、ヨコナデ	ナデ	ナデ	粗	粗	Ⅱ.0YR7/3 内.2.SYR1/1	口縁部 小片	
130	53	054-07	縄文土器深鉢	AⅡ	B6	Pi16	—	—	—	条痕	ナデ	ナデ	やや粗	粗	2.SY7/2	口縁部 小片	
131	53	051-03	縄文土器深鉢	AⅡ	B4	Pi14	—	—	—	条痕	ヒガキ	ナデ	粗	粗	Ⅱ.0YR5/3 内.2.SYR6/3	口縁部 小片	
132	53	054-01	縄文土器深鉢	AⅡ	B7	Pi11	—	—	—	条痕	ナデ	ナデ	やや粗	粗	2.SY7/1	口縁部 小片	
133	53	048-03	縄文土器深鉢	AⅡ	C2	Pi13	—	—	—	条痕	ナデ	ナデ	やや粗	やや粗	Ⅱ.0YR4/1 内.0YR6/1	口縁部 小片	
134	53	049-04	縄文土器深鉢	AⅡ	O2	Pi16	—	—	—	条痕	ナデ	ナデ	やや粗	やや粗	0YR8/2	口縁部 小片	
135	53	051-02	縄文土器深鉢	AⅡ	O4	Pi16	—	—	—	条痕	ナデ	ナデ	やや粗	粗	0YR7/4	口縁部 小片	
136	53	051-07	縄文土器深鉢	AⅡ	D5	Pi16	—	—	—	条痕	ナデ	ナデ	粗	粗	Ⅱ.2.SYR4/1 内.0YR7/2	口縁部 小片	
137	53	053-03	縄文土器深鉢	AⅡ	B6	Pi12	—	—	—	条痕	ナデ	ナデ	やや粗	粗	Ⅱ.0YR6/2 内.0YR8/2	口縁部 小片	
138	53	054-04	縄文土器深鉢	AⅡ	C7	Pi12	—	—	—	条痕	ナデ	ナデ	やや粗	粗	Ⅱ.0YR7/4 内.N2	口縁部 小片	
139	54	048-02	縄文土器深鉢	AⅡ	O3	Pi13	—	—	—	ヒガキ	ヒガキ	ナデ	やや粗	やや粗	N2	口縁部 小片	
140	54	051-04	縄文土器深鉢	AⅡ	B5	Pi13	—	—	—	ヒガキ	ナデ	ナデ	粗	粗	0YR8/2	口縁部 小片	
141	54	052-04	縄文土器深鉢	AⅡ	O5	Pi11	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	やや粗	粗	0YR7/1	口縁部 小片	
142	54	052-02	縄文土器深鉢	AⅡ	B5	Pi12	—	—	—	ナデ、ケズリ	ナデ	ナデ	やや粗	粗	Ⅱ.2.SYR6/4 内.0YR8/4	口縁部 小片	
143	54	053-07	縄文土器深鉢	AⅡ	B7	Pi15	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	やや粗	粗	Ⅱ.0YR7/2 内.2.SY7/1	口縁部 小片	
144	54	048-07	縄文土器深鉢	AⅡ	O3	Pi12	—	—	—	ヒガキ	ナデ	ナデ	やや粗	やや粗	1.SYR5/1	口縁部 小片	
145	54	049-05	縄文土器深鉢	AⅡ	O2	Pi16	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	やや粗	やや粗	0YR4/1	口縁部 小片	
146	54	047-02	縄文土器深鉢	AⅡ	B2	Pi12	—	—	—	ケズリ	ナデ	ナデ	やや粗	やや粗	0YR8/2	口縁部 小片	
147	54	051-08	縄文土器深鉢	AⅡ	O3	Pi16	—	—	—	—	—	ナデ	粗	粗	7.SYR7/6	口縁部 小片	

第9表 土器・土製品観察表4

報告番号	種別番号	実測番号	器種	出土位置		法量 (cm)			成形・装飾・文様の科類		胎土	構成	色調	残存	備考	時期		
				原産地	出土層	口径	器高	底径	外面	内面							口縁形状	
148	54	051-06	縄文土器深鉢	AⅡE	C5	Pi111	—	—	—	土方キ	ケズリ、ナ ズ、土方キ	ナデ	やや粗	黒	PH 10YR6/3 内 10YR7/3	口縁部 小片		
149	54	050-02	縄文土器深鉢	AⅡE	E3	Pi16	—	—	—	ナデ	沈線、ヨコ ナデ	ナデ	粗	黒	PH 10YR6/3 内 2.5YR6/2	口縁部 小片		
150	54	049-02	縄文土器浅鉢	AⅡE	D7	Pi14	—	—	—	実帯、土方キ	土方キ	ナデ	やや粗	やや良	7.5YR3/1	口縁部 小片		IV
151	54	053-06	縄文土器浅鉢	AⅡE	E8	Pi14	—	—	—	実帯、土方キ	土方キ、ナ ズ、土方キ	ナデ	やや粗	黒	10YR4/1	口縁部 小片		IV
152	54	050-07	縄文土器浅鉢	AⅡE	B4	Pi10	—	—	—	ナデ、土方キ	ナデ、土方 キ	ナデ	やや粗	黒	10YR4/1	口縁部 小片		IV
153	54	050-06	縄文土器鉢	AⅡE	C5	Pi11	—	—	—	ナデ、土方キ	ナデ	ナデ	やや粗	黒	10YR4/1	口縁部 小片		IV
154	54	053-08	縄文土器浅鉢	AⅡE	E6	Pi12	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	やや粗	黒	7.5YR6/2	口縁部 小片		IV
155	54	054-06	縄文土器浅鉢	AⅡE	O6	Pi10	—	—	—	縄文、沈線、土 方キ	土方キ	縄文	密	良	PH 10YR4/1 内 10YR3/1	口縁部 小片	赤色顔料	IV
156	54	047-03	縄文土器浅鉢	AⅡE	B3	Pi12	—	—	—	縄文、沈線、ナ デ	ナデ	ナデ	やや粗	やや良	10YR7/2	口縁部 小片	赤色顔料	IV
157	54	053-09	縄文土器深鉢	AⅡE	E8	Pi13	—	—	4.3	ケズリ、条痕	ナデ	—	やや粗	黒	10YR6/2	底部完 存		
158	54	052-05	土製品	AⅡE	C5	Pi11	—	—	—	ナデ	—	—	粗	黒	10YR4/1	小片		
159	55	120-07	縄文土器深鉢	AⅡE	E3	包含層	—	—	—	縄文	ナデ	キザミ	粗	良	10YR7/3	口縁部 小片		
160	55	120-03	縄文土器深鉢	AⅡE	D1	包含層	—	—	—	縄文、実帯	ナデ	ナデ	粗	良	7.5YR7/3	口縁部 小片		
161	55	121-05	縄文土器深鉢	AⅡE	D1	包含層	—	—	—	縄文、ナデ	ナデ	—	やや粗	良	10YR7/3	体部 小片		
162	55	122-02	縄文土器深鉢	AⅡE	D1	包含層	—	—	—	縄文	ナデ	—	粗	良	7.5YR5/3	体部 小片		
163	55	121-04	縄文土器	AⅡE	E4	包含層	—	—	—	縄文	ナデ	—	粗	良	10YR6/2	体部 小片		
164	55	121-08	縄文土器	AⅡE	E2	包含層	—	—	—	縄文	ナデ	—	やや粗	良	10YR4/1	体部 小片		
165	55	123-03	縄文土器	AⅡE	E2	包含層	—	—	—	沈線、ナデ	ナデ	—	やや粗	やや良	7.5YR4/3	体部 小片		
166	56	061-06	縄文土器深鉢	AⅡE	B1	澄乱溝	—	—	—	沈線、刺突	ナデ	ナデ	粗	やや良	10YR7/2	口縁部 小片		
167	56	121-06	縄文土器深鉢	AⅡE	D2	包含層	—	—	—	ナデ、沈線	ナデ	ナデ	やや粗	良	10YR7/3	口縁部 小片		
168	56	004-02	縄文土器深鉢	AⅡE	E7	包含層	—	—	—	キザミ、ナデ	ナデ	ナデ	不良	良	PH 2.5Y7/1 内 10YR6/2	口縁部 小片		
169	56	120-02	縄文土器深鉢	AⅡE	E6	包含層	—	—	—	沈線、キザミ	ナデ	ナデ	粗	良	10YR6/3	口縁部 小片		
170	56	061-05	縄文土器深鉢	AⅡE	D3	澄乱溝	—	—	—	ナデ、刺突	ナデ	キザミ	やや粗	やや良	10YR7/3	口縁部 小片		
171	56	003-02	縄文土器深鉢	AⅡE	D9	IX12	—	—	—	縄文、沈線	ナデ	ナデ	やや粗	黒	PH 7.5YR6/2 内 7.5YR6/4	口縁部 小片		
172	56	005-04	縄文土器深鉢	AⅡE	E6	包含層	—	—	—	ナデ、穿孔	ナデ	ナデ	やや良	良	7.5YR7/4	口縁部 小片		
173	56	061-01	縄文土器深鉢	AⅡE	—	東壁	—	—	—	ナデ	ケズリ	ナデ	やや粗	やや良	7.5YR7/4	口縁部 小片		
174	56	121-01	縄文土器深鉢	AⅡE	G2	包含層	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	粗	良	10YR7/2	口縁部 小片		
175	56	122-05	縄文土器深鉢	AⅡE	E2	包含層	—	—	—	縄文、沈線	ナデ	ナデ	やや粗	良	7.5YR6/4	口縁部 小片		
176	56	122-08	縄文土器深鉢	AⅡE	G2	包含層	—	—	—	沈線、ナデ	ナデ	ナデ	粗	良	10YR4/2	口縁部 小片		
177	56	122-04	縄文土器深鉢	AⅡE	C3	包含層	—	—	—	縄文、沈線、ナ デ	ナデ	—	粗	良	5YR7/6	口縁部 小片		
178	56	121-03	縄文土器深鉢	AⅡE	B4	包含層	—	—	—	ナデ、刺突	ナデ	ナデ	粗	良	7.5YR5/4	口縁部 小片		
179	56	120-05	縄文土器深鉢	AⅡE	G2	包含層	—	—	—	ナデ、沈線	ナデ	沈線	粗	良	5YR6/6	口縁部 小片		
180	56	120-09	縄文土器深鉢	AⅡE	B4	包含層	—	—	—	ナデ、沈線	ナデ	ナデ	粗	良	10YR3/2	口縁部 小片		
181	56	122-03	縄文土器深鉢	AⅡE	O4	包含層	—	—	—	隆帯、沈線、ナ デ	ナデ	ナデ	粗	良	10YR7/3	口縁部 小片		
182	56	120-04	縄文土器深鉢	AⅡE	G2	包含層	—	—	—	隆帯、刺突	ナデ	ナデ	粗	良	5YR7/4	口縁部 小片		
183	56	122-06	縄文土器深鉢	AⅡE	D3	包含層	—	—	—	沈線、ナデ	ナデ	ナデ	粗	良	10YR7/2	口縁部 小片		
184	56	120-01	縄文土器深鉢	AⅡE	E3	包含層	—	—	—	沈線、ナデ	ナデ	ナデ	粗	良	10YR6/3	口縁部 小片		

第10表 土器・土製品観察表5

報告番号	種別番号	実測番号	器種	出土位置		法量 (cm)		成形・装飾・文様の種類			胎土	構成	色調	残存	備考	時期	
				調査区	層位	口径	器高	底径	外面	内面							口縁形状
105	56	122-01	縄文土器深鉢	AⅡE	B2	包含筒	—	—	—	沈線、ナデ	ナデ	ナデ	期	良	10YR7/3	口縁部 小片	
106	56	123-08	縄文土器	AⅡE	B4	包含筒	—	—	—	縄文、磨等、沈線	ナデ	—	期	やや良	5Y 10P86/3 10YR7/3	体部 小片	
107	56	121-07	縄文土器	AⅡE	C4	包含筒	—	—	—	磨等、ナデ	ナデ	—	期	良	5YR7/6	体部 小片	
108	56	121-09	縄文土器	AⅡE	B2	包含筒	—	—	—	磨等、割突、ナデ	ナデ	—	期	良	7.5YR6/2	体部 小片	
109	56	123-04	縄文土器	AⅡE	B9	包含筒	—	—	—	磨等、沈線	ナデ	—	やや中期	やや良	7.5YR7/4	体部 小片	
190	56	061-03	縄文土器	AⅡE	—	東壁	—	—	—	縄文、沈線	ナデ	—	やや中期	やや良	5Y 10YR7/3 10YR6/3	体部 小片	
191	56	124-06	縄文土器	AⅡE	C1	包含筒	—	—	—	沈線、ナデ	ナデ	—	期	やや良	5Y 10YR7/1 10YR6/2	体部 小片	
192	56	121-02	縄文土器	AⅡE	E2	包含筒	—	—	—	磨等、沈線	ナデ	—	やや中期	良	10YR7/3	体部 小片	
193	56	120-06	縄文土器	AⅡE	C4	包含筒	—	—	—	沈線	ナデ	—	期	良	10YR6/3	体部 小片	
194	56	125-08	縄文土器	AⅡE	C1	包含筒	—	—	—	沈線、ナデ	ナデ	—	やや中期	やや良	5Y 10YR7/4 10YR6/3	体部 小片	
195	56	124-01	縄文土器	AⅡE	C4	包含筒	—	—	—	沈線、ナデ	ナデ	—	やや中期	やや良	5Y 7.5YR4/3 10YR6/2	体部 小片	
196	56	124-05	縄文土器	AⅡE	B4	包含筒	—	—	—	沈線、ナデ	ナデ	—	やや中期	やや良	7.5YR7/4	体部 小片	
197	56	061-04	縄文土器	AⅡE	—	東壁	—	—	—	沈線、ナデ	ナデ	—	やや中期	やや良	5Y 10YR7/2 10YR6/3	体部 小片	
198	57	123-01	縄文土器深鉢	AⅡE	C1	包含筒	—	—	—	ナデ、縄文	ナデ	—	やや中期	やや良	10YR7/3	体部 小片	
199	57	125-04	縄文土器深鉢	AⅡE	E3	包含筒	—	—	—	縄文、沈線、 3方弁	ナデ	ナデ	やや中期	やや良	5YR6/4	口縁部 小片	
200	57	125-07	縄文土器深鉢	AⅡE	B3	包含筒	—	—	—	沈線、縄文	ナデ	ナデ	やや中期	やや良	7.5YR6/4	口縁部 小片	
201	57	126-03	縄文土器深鉢	AⅡE	B4	包含筒	—	—	—	ナデ、沈線、縄文	ナデ	ナデ	密	やや良	10YR7/3	口縁部 小片	
202	57	094-07	縄文土器深鉢	AⅡE	D7	包含筒	—	—	—	縄文、沈線、 3方弁	ナデ、3方弁	ナデ	やや中期	良	5Y 10YR6/2 10YR6/1	口縁部 小片	第3層
203	57	125-05	縄文土器深鉢	AⅡE	E6	包含筒	—	—	—	沈線、縄文	3方弁	ナデ	やや中期	やや良	5YR7/6	口縁部 小片	
204	57	034-02	縄文土器深鉢	AⅡE	E9	DH1	—	—	—	沈線、縄文	ナデ	—	やや中期	差	N5/	体部 小片	
205	57	123-02	縄文土器深鉢	AⅡE	E8	包含筒	—	—	—	沈線、縄文	ナデ	—	やや中期	やや良	5Y 7.5YR4/1 10YR6/2	体部 小片	
206	57	124-02	縄文土器深鉢	AⅡE	E7	包含筒	—	—	—	縄文、沈線	3方弁、ナデ	—	やや中期	やや良	5Y 7.5YR7/6 10YR7/4	体部 小片	
207	57	126-01	縄文土器深鉢	AⅡE	D6	包含筒	—	—	—	3方弁、縄文、 沈線	ナデ、オサ 工、工具跡	—	密	良	5Y 10YR5/1 10YR7/3	体部 小片	
208	57	061-02	縄文土器浅鉢	AⅡE	—	東壁	—	—	—	沈線、縄文、 ナデ	ナデ	—	やや中期	やや良	10YR7/4	体部 小片	
209	57	039-04	縄文土器深鉢	AⅡE	D7	K27	—	—	—	沈線、ナデ	ナデ	ナデ	やや中期	やや良	10YR6/3	口縁部 小片	
210	57	125-02	縄文土器深鉢	AⅡE	E5	包含筒	—	—	—	沈線、ナデ	ナデ	ナデ	やや中期	やや良	10YR6/3	口縁部 小片	
211	57	124-03	縄文土器深鉢	AⅡE	G2	包含筒	—	—	—	沈線、ナデ	ナデ	ナデ	やや中期	やや良	5YR6/2 10YR6/1	口縁部 小片	
212	57	124-04	縄文土器深鉢	AⅡE	E8	包含筒	—	—	—	沈線、ナデ	ナデ	ナデ	やや中期	やや良	7.5YR7/4	口縁部 小片	
213	57	125-03	縄文土器深鉢	AⅡE	C4	包含筒	—	—	—	ナデ、ケズリ	ナデ	ナデ	期	やや良	10YR7/4	口縁部 小片	
214	57	125-01	縄文土器深鉢	AⅡE	E5	包含筒	—	—	—	沈線、ナデ	ナデ	ナデ	やや中期	やや良	5Y 7.5YR5/1 10YR6/3	口縁部 小片	
215	57	125-06	縄文土器深鉢	AⅡE	E3	包含筒	—	—	—	沈線、ナデ	ナデ	ナデ	やや中期	やや良	7.5YR6/4	口縁部 小片	
216	57	124-07	縄文土器	AⅡE	B2	包含筒	—	—	—	沈線、ナデ	3方弁	—	期	やや良	5Y 10YR5/1 10YR6/2	体部 小片	
217	57	124-08	縄文土器深鉢	AⅡE	C5	包含筒	—	—	—	磨等、沈線	ナデ	—	やや中期	やや良	5Y 7.5YR7/4 10YR6/4	体部 小片	
218	57	126-02	縄文土器深鉢	AⅡE	D1	包含筒	—	—	—	縄文	ナデ	—	密	やや良	2.5Y2/1 10YR4/1	体部 小片	
219	57	123-05	縄文土器深鉢	AⅡE	C3	包含筒	—	—	—	磨等、ナデ	ナデ	ナデ	やや中期	やや良	5YR7/6 10YR6/1	口縁部 小片	
220	57	127-01	縄文土器深鉢	AⅡE	E6	包含筒	—	—	—	沈線、ナデ	ナデ	—	やや中期	やや良	5Y 10YR4/1 10YR7/4	体部 小片	
221	57	127-02	縄文土器深鉢	AⅡE	E6	包含筒	—	—	—	沈線、ナデ	ナデ	—	やや中期	やや良	5Y 10YR3/1	体部 小片	

第11表 土器・土製品観察表6

報告 番号	種別 番号	実用 番号	器 種	出土位置		法量 (cm)			成形・装飾・文様の種類		胎土	構成	色 調	残存	備考	時期	
				調査 区 区	品類・ 部位	口径	器高	底径	外 面	口縁装飾							
222	50	103-04	縄文土器鉢	AⅡE	C4	包含層	—	—	—	波線、ナデ	ナデ	—	やや中	やや良	1.5196/3	口縁部 小片	IV
223	50	103-05	縄文土器鉢	AⅡE	E6	包含層	—	—	—	波線、ナデ	ナデ	ナデ	やや中	やや良	Ⅱ 1.0184/1 2.5192/2	口縁部 小片	IV
224	50	103-02	縄文土器浅鉢	AⅡE	B3	包含層	—	—	—	波線、ナデ	ナデ	ナデ	やや中	やや良	Ⅱ 1.0180/1 2.5192/1	口縁部 小片	IV
225	50	103-06	縄文土器鉢	AⅡE	C4	包含層	—	—	—	波線、2方弁 3方弁	ナデ	ナデ	やや中	やや中	Ⅱ 2.5194/1 1.0180/2	口縁部 小片	IV
226	50	101-03	縄文土器浅鉢	AⅡE	B7	包含層	—	—	—	波線、2方弁 ¹⁾ 3方弁	ナデ	ナデ	やや中	やや良	Ⅱ 1.0187/3 1.0187/1	口縁部 小片	IV
227	50	102-07	縄文土器浅鉢	AⅡE	B7	包含層	—	—	—	割突、ナデ	ナデ	ナデ	やや中	やや良	Ⅱ 2.5175/1 1.0184/1	口縁部 小片	IV
228	50	102-08	縄文土器浅鉢	AⅡE	E5	包含層	—	—	—	割突、ナデ	ナデ	ナデ	やや中	やや良	Ⅱ 1.0185/2 1.0187/3	口縁部 小片	IV
229	50	102-06	縄文土器浅鉢	AⅡE	B4	包含層	—	—	—	波線、割突	ナデ	ナデ	やや中	やや良	Ⅱ 5.0185/4 1.0184/1	口縁部 小片	IV
230	50	102-04	縄文土器浅鉢	AⅡE	C4	包含層	—	—	—	波線、割突	ナデ	—	やや中	やや良	Ⅱ 2.5194/2 1.0184/1	体部 小片	IV
231	50	004-04	縄文土器浅鉢	AⅡE	B8	包含層	—	—	—	波線、割突	ナデ	—	やや良	良	Ⅱ 2.5194/2 1.0180/2	体部 小片	IV
232	50	102-02	縄文土器浅鉢	AⅡE	D6	包含層	—	—	—	波線、割突	ナデ	—	やや中	やや良	Ⅱ 1.0180/3 1.0180/3	体部 小片	IV
233	50	102-09	縄文土器浅鉢	AⅡE	B5	包含層	—	—	—	波線、割突	ナデ	—	やや中	やや良	Ⅱ 1.0184/1 2.5177/1	体部 小片	IV
234	50	059-01	縄文土器深鉢	AⅡE	B6	埋乱層	—	—	—	突帯・キザミ、 条傷、ナデ	ナデ	キザミ	やや中	差	Ⅱ 1.0186/2 1.0187/3	口縁部 小片	III
235	50	091-05	縄文土器深鉢	AⅡE	B6	包含層	—	—	—	突帯・キザミ、 条傷、ナデ	ナデ	キザミ	やや中	やや中	Ⅱ 2.5196/2 1.0180/3	口縁部 小片	III
236	50	094-05	縄文土器深鉢	AⅡE	E1	包含層	—	—	—	突帯・キザミ、 条傷、ナデ	ナデ	キザミ	粗	差	Ⅱ 2.516/1 1.0184/1	口縁部 小片	III
237	50	045-04	縄文土器深鉢	AⅡE	C2	3K43	—	—	—	突帯・キザミ、 条傷、ナデ	ナデ	ヨコナデ	粗	差	Ⅱ 1.0180/2 2.516/1	口縁部 小片	III
238	50	090-01	縄文土器深鉢	AⅡE	C2	包含層	—	—	—	突帯・キザミ、 条傷、ナデ	ナデ	キザミ	やや中	やや中	Ⅱ 1.0187/2 1.0184/1	口縁部 小片	III
239	50	089-01	縄文土器深鉢	AⅡE	B2	包含層	—	—	—	突帯・キザミ、 条傷、ナデ	ナデ	キザミ	粗	やや 不良	Ⅱ 1.0180/3 1.0187/2	口縁部 小片	III
240	50	058-01	縄文土器深鉢	AⅡE	D6	埋乱層	—	—	—	突帯・キザミ、 条傷、ナデ	ナデ	キザミ	粗	差	Ⅱ 1.0185/1 2.5165/1	口縁部 小片	III
241	50	091-01	縄文土器深鉢	AⅡE	C5	包含層	—	—	—	突帯・キザミ、 条傷、ナデ	ナデ	キザミ	やや中	やや中	Ⅱ 2.5187/3 2.5194/1	口縁部 小片	III
242	50	092-04	縄文土器深鉢	AⅡE	C5	包含層	—	—	—	突帯・キザミ、 条傷、ナデ	ナデ	キザミ	やや中	やや中	Ⅱ 5.0184/1 2.5193/1	口縁部 小片	III
243	50	058-02	縄文土器深鉢	AⅡE	C5	埋乱層	—	—	—	突帯・キザミ、 条傷、ナデ	ナデ	キザミ	粗	差	Ⅱ 1.0186/3 1.0184/1	口縁部 小片	III
244	50	091-03	縄文土器深鉢	AⅡE	E3	包含層	—	—	—	突帯・キザミ、 条傷、ナデ	ナデ	キザミ	やや中	やや中	Ⅱ 0.983/3 1.085/6	口縁部 小片	III
245	50	091-02	縄文土器深鉢	AⅡE	D5	包含層	—	—	—	突帯・キザミ、 条傷、ナデ	ナデ	キザミ	やや中	やや中	Ⅱ 1.0184/1 2.5194/2	口縁部 小片	III
246	50	092-05	縄文土器深鉢	AⅡE	G4	包含層	—	—	—	突帯・キザミ、 条傷、ナデ	ナデ	キザミ	やや中	やや中	Ⅱ 7.5193/1	口縁部 小片	III
247	50	091-04	縄文土器深鉢	AⅡE	E3	包含層	—	—	—	突帯・キザミ、 条傷、ナデ	ナデ	キザミ	やや中	やや中	Ⅱ 1.0180/2 1.0180/3	口縁部 小片	III
248	50	094-01	縄文土器深鉢	AⅡE	E6	包含層	—	—	—	突帯・キザミ、 条傷、ナデ	ナデ	キザミ	やや中	差	Ⅱ 0.985/2	口縁部 小片	III
249	50	094-08	縄文土器深鉢	AⅡE	B4	包含層	—	—	—	突帯・キザミ、 ナデ	ナデ	キザミ	やや中	差	Ⅱ 0.978/3	口縁部 小片	III
250	50	094-06	縄文土器深鉢	AⅡE	E5	包含層	—	—	—	突帯・キザミ、 ナデ	ナデ	キザミ	粗	差	Ⅱ 2.517/1	口縁部 小片	III
251	50	001-04	縄文土器深鉢	AⅡE	B7	包含層	—	—	—	突帯・キザミ、 条傷	ナデ	ナデ	粗	やや中	Ⅱ 1.0180/2 2.514/1	口縁部 小片	IV
252	50	001-01	縄文土器深鉢	AⅡE	C7	包含層	—	—	—	突帯・キザミ、 条傷	ナデ	ナデ	粗	やや中	Ⅱ 1.0180/2 1.0180/2	口縁部 小片	IV
253	50	059-04	縄文土器深鉢	AⅡE	B6	埋乱層	—	—	—	突帯・キザミ、 条傷	ナデ	ナデ	粗	やや中	Ⅱ 1.0185/1 1.0180/2	口縁部 小片	IV
254	50	093-04	縄文土器深鉢	AⅡE	C1	包含層	—	—	—	突帯・キザミ、 条傷	ナデ	ナデ	やや中	差	Ⅱ 2.516/1 2.514/1	口縁部 小片	IV
255	50	093-01	縄文土器深鉢	AⅡE	C4	包含層	29.6	—	—	突帯・キザミ、 条傷	ナデ	ナデ	粗	差	Ⅱ 1.0187/3 1.0186/2	口縁部 小片	IV
256	50	093-02	縄文土器深鉢	AⅡE	G4	包含層	—	—	—	突帯・キザミ、 条傷	ナデ	ナデ	粗	差	Ⅱ 0.978/2	口縁部 小片	IV
257	50	089-02	縄文土器深鉢	AⅡE	B4	包含層	—	—	—	突帯・キザミ、 条傷	ナデ	ナデ	やや中	やや 不良	Ⅱ 1.0180/2 2.516/1	口縁部 小片	IV
258	50	093-06	縄文土器深鉢	AⅡE	D3	包含層	—	—	—	突帯・キザミ、 条傷	ナデ	ナデ	やや中	差	Ⅱ 1.0185/2 1.0186/2	口縁部 小片	IV

第12表 土器・土製品観察表7

報告番号	種別番号	実測番号	器種	出土位置		法量 (cm)		成形・装飾・文様の科類			胎土	構成	色調	残存	備考	時期	
				調査区	層位	口径	器高	底径	外	内							面
259	59	090-02	縄文土器深鉢	AⅡE	B3	包含層	—	—	—	突帯・キザミ、 条痕	ナデ	ナデ	やや粗	やや良	H・10984/1 H・10986/2	口縁部 小片	IV
260	59	094-09	縄文土器深鉢	AⅡE	B2	包含層	—	—	—	突帯・キザミ、 条痕	ナデ	ナデ	やや粗	並	H10973/3	口縁部 小片	IV
261	59	092-02	縄文土器深鉢	AⅡE	B6	包含層	—	—	—	突帯・キザミ、 条痕	ナデ	ナデ	やや粗	やや良	H・10987/2 内・N1	口縁部 小片	IV
262	59	045-02	縄文土器深鉢	AⅡE	G2	045	—	—	—	突帯・キザミ、 条痕	ナデ	ナデ	やや粗	並	H・10986/2 内・10984/1	口縁部 小片	IV
263	59	092-01	縄文土器深鉢	AⅡE	G5	包含層	—	—	—	突帯・キザミ、 条痕	ナデ	ナデ	やや粗	やや良	H・10988/3 内・2.5194/2	口縁部 小片	IV
264	59	058-06	縄文土器深鉢	AⅡE	—	西壁	—	—	—	突帯・キザミ、 ナデ	ナデ	ナデ	やや粗	並	H・10987/2 内・2.514/1	口縁部 小片	IV
265	59	090-02	縄文土器深鉢	AⅡE	B6	包含層	—	—	—	突帯・キザミ、 ナデ	ナデ	ナデ	やや粗	やや良	H・10986/2 内・10985/1	口縁部 小片	IV
266	59	090-04	縄文土器深鉢	AⅡE	D6	包含層	—	—	—	突帯・キザミ、 ナデ	ナデ	ナデ	やや粗	やや良	N1	口縁部 小片	IV
267	59	001-02	縄文土器深鉢	AⅡE	D7	包含層	—	—	—	突帯・キザミ、 条痕	ナデ	粗	やや良	H・10986/2 内・2.5198/3	口縁部 小片	IV	
268	59	094-02	縄文土器深鉢	AⅡE	D0	包含層	—	—	—	突帯・キザミ、 ナデ	ナデ	ナデ	やや粗	並	H・10986/3 内・10987/3	口縁部 小片	IV
269	59	094-07	縄文土器深鉢	AⅡE	C5	包含層	—	—	—	突帯・キザミ、 ナデ	ナデ	ナデ	やや粗	並	H・2.5197/4 内・2.517/2	口縁部 小片	IV
270	59	093-05	縄文土器深鉢	AⅡE	O6	包含層	—	—	—	突帯・キザミ、 ナデ	ナデ	ナデ	粗	並	H・2.5194/1 内・10986/1	口縁部 小片	IV
271	59	092-03	縄文土器深鉢	AⅡE	D3	包含層	—	—	—	突帯・キザミ、 ナデ	ナデ	ナデ	やや粗	やや良	H・2.5198/3 内・2.5195/3	口縁部 小片	IV
272	59	058-04	縄文土器深鉢	AⅡE	B6	埋乱層	—	—	—	突帯・キザミ、 ナデ	ナデ	粗	並	H・2.5194/2 内・10987/3	口縁部 小片	IV	
273	59	094-03	縄文土器深鉢	AⅡE	B7	包含層	—	—	—	突帯・キザミ、 ナデ	ナデ	ナデ	やや粗	並	H・2.515/1 小片	口縁部 小片	IV
274	59	058-05	縄文土器深鉢	AⅡE	—	西壁	—	—	—	突帯・キザミ、 ナデ	ナデ	粗	並	H・10986/2 内・10986/2	口縁部 小片	IV	
275	59	059-02	縄文土器深鉢	AⅡE	C3	埋乱層	—	—	—	突帯・キザミ、 ナデ	ナデ	ナデ	やや粗	並	H・10987/3 内・10988/3	口縁部 小片	IV
276	59	093-03	縄文土器深鉢	AⅡE	E5	包含層	—	—	—	突帯・キザミ、 ナデ	ナデ	ナデ	やや粗	並	H・10988/3 内・10988/2	口縁部 小片	IV
277	59	058-03	縄文土器深鉢	AⅡE	D6	埋乱層	—	—	—	突帯・キザミ、 ナデ	ナデ	ナデ	やや粗	並	H・10987/1 内・10986/3	口縁部 小片	IV
278	59	059-05	縄文土器深鉢	AⅡE	B6	埋乱層	—	—	—	突帯・キザミ、 ナデ	ナデ	ナデ	やや粗	並	H・2.517/1 内・N1	口縁部 小片	V
279	59	093-07	縄文土器深鉢	AⅡE	C2	包含層	—	—	—	突帯・キザミ、 ナデ	ナデ	ナデ	やや粗	並	H・2.516/1 内・2.514/1	口縁部 小片	V
280	59	094-04	縄文土器深鉢	AⅡE	E1	包含層	—	—	—	突帯・キザミ、 ナデ	ナデ	ナデ	やや粗	並	H・10986/1 内・2.5197/4	口縁部 小片	V
281	59	058-07	縄文土器深鉢	AⅡE	—	南壁	—	—	—	突帯・キザミ、 ナデ	ナデ	ナデ	やや粗	並	H・10988/3 内・10987/2	口縁部 小片	V
282	59	059-02	縄文土器深鉢	AⅡE	B7	埋乱層	—	—	—	突帯・キザミ、 ナデ	ナデ	ナデ	粗	並	H・10986/2 内・10986/1	口縁部 小片	V
283	59	095-02	縄文土器深鉢	AⅡE	B8	包含層	—	—	—	突帯・キザミ、 ナデ	ナデ	—	粗	並	H10984/2	体部 小片	V
284	59	123-07	縄文土器深鉢	AⅡE	C3	包含層	—	—	—	突帯・キザミ、 ナデ	ナデ	—	やや粗	やや良	H・2.5192/1 内・10987/3	体部 小片	V
285	59	095-01	縄文土器深鉢	AⅡE	B8	包含層	—	—	—	突帯・キザミ、 ナデ	ナデ、2.514キ	—	粗	並	H・10986/2 内・2.5195/1	体部 小片	V
286	59	094-10	縄文土器深鉢	AⅡE	G4	包含層	—	—	—	突帯・キザミ、 ナデ	ナデ	—	やや粗	並	H・2.5196/4	体部 小片	V
287	60	007-01	縄文土器深鉢	AⅡE	B6	包含層	—	—	—	突帯、条痕	ナデ	ナデ	粗	並	H10972/2	口縁部 小片	V
288	60	095-06	縄文土器深鉢	AⅡE	B5	包含層	—	—	—	突帯、ナデ	ナデ	ナデ	やや粗	並	H・10986/1 内・2.513/1	口縁部 小片	IV
289	60	057-04	縄文土器深鉢	AⅡE	G5	埋乱層	—	—	—	突帯、ナデ	ナデ	ナデ	やや粗	やや良	H・10984/1 内・10985/2	口縁部 小片	IV
290	60	057-05	縄文土器深鉢	AⅡE	C7	埋乱層	—	—	—	突帯、ナデ	ナデ	ナデ	やや粗	並	H・S15/1 内・2.5197/5	口縁部 小片	IV
291	60	095-07	縄文土器深鉢	AⅡE	E3	包含層	—	—	—	突帯、ナデ	ナデ	ナデ	粗	並	H・513/1	口縁部 小片	IV
292	60	096-06	縄文土器深鉢	AⅡE	D0	包含層	—	—	—	突帯、2.514キ	2.514キ	ナデ	やや粗	並	H・10986/3 内・10986/2	口縁部 小片	IV
293	60	057-03	縄文土器深鉢	AⅡE	O6	埋乱層	—	—	—	突帯、2.514キ	2.514キ	ナデ	粗	並	H・10985/2 内・2.515/3	口縁部 小片	IV
294	60	095-05	縄文土器深鉢	AⅡE	D7	包含層	—	—	—	突帯、2.514キ	条痕	ヨコナデ	粗	並	H・S15/2 内・10984/1	口縁部 小片	IV
295	60	097-07	縄文土器深鉢	AⅡE	D2	包含層	—	—	—	突帯、2.514キ	ナデ	ヨコナデ	粗	並	H10972/2	口縁部 小片	IV

第13表 土器・土製品観察表⑧

報告番号	検出番号	実測番号	器種	出土位置		法量 (cm)			成形・装飾・文様の種類			胎土	構成	色調	保存	備考	時期		
				調査区	層位	口径	器高	底径	外	内	面							口縁	線刻
296	60	096-02	縄文土器深鉢	AⅡE	E4	包含層	—	—	—	—	突帯、ミガキ	波線、ミガキ	ヨコナデ	粗	並	Ⅱ	10YR4/2 内 2.5Y3/1	口縁部 小片	IV
297	60	096-01	縄文土器深鉢	AⅡE	G5	包含層	—	—	—	—	突帯、ミガキ	波線、ミガキ	ミガキ	やや粗	並	Ⅱ	10YR4/1	口縁部 小片	IV
298	60	096-07	縄文土器深鉢	AⅡE	B6	包含層	—	—	—	—	突帯、ミガキ	波線、ミガキ	ミガキ	やや粗	並	Ⅱ	10YR3/1	口縁部 小片	IV
299	60	096-08	縄文土器深鉢	AⅡE	E4	包含層	—	—	—	—	突帯、ミガキ	波線、ナデ	ヨコナデ	粗	並	Ⅱ	5YR5/4	口縁部 小片	IV
300	60	099-10	縄文土器深鉢	AⅡE	B4	包含層	—	—	—	—	突帯、ナデ	ナデ	ヨコナデ	粗	並	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ
301	60	100-03	縄文土器深鉢	AⅡE	B6	包含層	—	—	—	—	突帯、ナデ	ナデ、オサエ	ナデ・オサエ	やや粗	やや良	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ
302	60	095-04	縄文土器深鉢	AⅡE	G2	包含層	—	—	—	—	突帯、ナデ	ミガキ	ナデ	やや粗	並	Ⅱ	7.5YR6/2	口縁部 小片	V
303	60	097-05	縄文土器深鉢	AⅡE	B6	包含層	—	—	—	—	ナデ、突帯1 条、条痕	ナデ	ナデ	粗	並	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ
304	60	091-05	縄文土器深鉢	AⅡE	B5	包含層	—	—	—	—	ナデ、突帯1 条、条痕	ナデ	ナデ	粗	やや良	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ
305	60	095-03	縄文土器深鉢	AⅡE	E5	包含層	—	—	—	—	突帯2条、ナデ	ナデ	ナデ	やや粗	並	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ
306	60	099-06	縄文土器深鉢	AⅡE	E6	包含層	—	—	—	—	突帯2条、条 痕、ナデ	ナデ	ナデ	やや粗	並	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ
307	60	099-07	縄文土器深鉢	AⅡE	G2	包含層	—	—	—	—	突帯2条、条 痕、ナデ	ナデ	ナデ	やや粗	並	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ
308	60	097-03	縄文土器深鉢	AⅡE	B6	包含層	—	—	—	—	突帯2条、条 痕、ナデ	ナデ	ナデ	粗	並	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ
309	60	091-06	縄文土器深鉢	AⅡE	E7	包含層	—	—	—	—	突帯2条、ナデ	ナデ	ナデ	粗	やや良	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ
310	60	099-09	縄文土器深鉢	AⅡE	B4	包含層	—	—	—	—	突帯2条、ナデ	ナデ	ナデ	やや粗	やや良	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ
311	60	097-06	縄文土器深鉢	AⅡE	B3	包含層	—	—	—	—	突帯、ナデ	ナデ	—	粗	並	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ
312	60	096-04	縄文土器深鉢	AⅡE	E6	包含層	—	—	—	—	ミガキ	ミガキ	ミガキ	やや粗	並	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ
313	61	095-01	縄文土器深鉢	AⅡE	B4	包含層	—	—	—	—	条痕状ナデ、穿 孔(穿修孔)、 ケズリ	ナデ	キザミ	粗	並	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ
314	61	094-03	縄文土器深鉢	AⅡE	B1	包含層	—	—	—	—	条痕状ミガキ、 ケズリ	ナデ	キザミ	粗	並	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ
315	61	070-06	縄文土器深鉢	AⅡE	E3	包含層	—	—	—	—	ナデ、条痕	ナデ	キザミ	やや粗	並	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ
316	61	096-03	縄文土器深鉢	AⅡE	E5	包含層	—	—	—	—	条痕、ナデ、ケ ズリ	ナデ	キザミ	粗	並	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ
317	61	098-05	縄文土器深鉢	AⅡE	E5	包含層	—	—	—	—	条痕、ケズリ	ナデ	キザミ	やや粗	並	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ
318	61	095-05	縄文土器深鉢	AⅡE	G3	包含層	—	—	—	—	条痕、ケズリ	ナデ、ケズリ	キザミ	粗	並	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ
319	61	097-01	縄文土器深鉢	AⅡE	E8	包含層	—	—	—	—	条痕	ナデ	キザミ	やや粗	並	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ
320	61	098-02	縄文土器深鉢	AⅡE	E6	包含層	—	—	—	—	条痕	ナデ	キザミ	やや粗	並	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ
321	61	097-04	縄文土器深鉢	AⅡE	G2	包含層	—	—	—	—	条痕、ケズリ	ナデ	キザミ	やや粗	並	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ
322	61	097-02	縄文土器深鉢	AⅡE	G1	包含層	—	—	—	—	条痕	ナデ	キザミ	やや粗	並	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ
323	61	098-07	縄文土器深鉢	AⅡE	E1	包含層	—	—	—	—	条痕	ナデ	キザミ	やや粗	並	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ
324	61	098-02	縄文土器深鉢	AⅡE	C1	包含層	—	—	—	—	条痕	ナデ	キザミ	やや粗	並	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ
325	61	094-02	縄文土器深鉢	AⅡE	B6	包含層	—	—	—	—	条痕、ケズリ	ナデ	キザミ	粗	並	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ
326	61	094-01	縄文土器深鉢	AⅡE	B5	包含層	—	—	—	—	条痕、ケズリ	ナデ	キザミ	粗	並	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ
327	61	096-04	縄文土器深鉢	AⅡE	E7	包含層	—	—	—	—	条痕、ケズリ	ナデ	キザミ	粗	並	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ
328	61	091-03	縄文土器深鉢	AⅡE	B4	包含層	—	—	—	—	条痕	条痕	キザミ	粗	不良	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ
329	61	096-05	縄文土器深鉢	AⅡE	B3	包含層	—	—	—	—	条痕	条痕	キザミ	やや粗	並	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ
330	61	093-04	縄文土器深鉢	AⅡE	E6	包含層	—	—	—	—	条痕	ナデ	キザミ	粗	不良	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ
331	61	091-06	縄文土器深鉢	AⅡE	B6	包含層	—	—	—	—	条痕	ナデ	キザミ	粗	並	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ
332	61	095-03	縄文土器深鉢	AⅡE	G1	包含層	—	—	—	—	条痕、ナデ	ナデ	キザミ	やや粗	並	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ

第14表 土器・土製品観察表

報告番号	種別番号	実測番号	器種	出土位置		法量 (cm)			成形・装飾・文様の種類			胎土	焼成	色調	残存	備考	時期	
				原産地	位置	口径	器高	底径	外面	内面	口縁装飾							
333	61	081-03	縄文土器深鉢	AⅡ	C3	包含筒	—	—	—	条痕	ナデ	キズミ	粗	やや不長	ⅡR96/2 ⅡR92/4	口縁部小片		Ⅱ
334	61	089-05	縄文土器深鉢	AⅡ	E5	包含筒	—	—	—	条痕	ナデ	キズミ	粗	並	ⅡR95/2 ⅡR96/2	口縁部小片		Ⅱ
335	61	056-03	縄文土器深鉢	AⅡ	—	埴土	—	—	—	条痕	ナデ	キズミ	密	不長	ⅡR96/2 ⅡR96/4	口縁部小片		Ⅱ
336	61	080-01	縄文土器深鉢	AⅡ	E2	包含筒	—	—	—	条痕	ナデ	キズミ	やや粗	並	ⅡR96/2 ⅡR96/2	口縁部小片		Ⅱ
337	61	056-04	縄文土器深鉢	AⅡ	—	西壁	—	—	—	条痕、ケズリ	ナデ	キズミ	並	並	ⅡR95/2 ⅡR97/3	口縁部小片		Ⅱ
338	62	084-04	縄文土器深鉢	AⅡ	D4	包含筒	—	—	—	ナデ、ケズリ	ナデ	キズミ	粗	並	Ⅱ 2.577/2 Ⅱ 2.576/1	口縁部小片		Ⅱ
339	62	085-02	縄文土器深鉢	AⅡ	D4	包含筒	—	—	—	ナデ、ケズリ	ナデ、ケズリ	キズミ	粗	並	ⅡR97/2 ⅡR95/1	口縁部小片		Ⅱ
340	62	056-01	縄文土器深鉢	AⅡ	—	東壁	—	—	—	ナデ、ケズリ	ナデ	キズミ	やや粗	やや不長	ⅡR97/4 Ⅱ 2.5797/6	口縁部小片	裏面粘土?	Ⅱ
341	62	088-08	縄文土器深鉢	AⅡ	D3	包含筒	—	—	—	ナデ	ナデ	キズミ	やや粗	並	Ⅱ 2.575/1 ⅡR95/2	口縁部小片		Ⅱ
342	62	082-07	縄文土器深鉢	AⅡ	D6	包含筒	—	—	—	ナデ	ナデ	キズミ	粗	良	ⅡR94/1 Ⅱ 2.5785/2	口縁部小片		Ⅱ
343	62	046-01	縄文土器深鉢	AⅡ	C3	IX42	—	—	—	ナデ、ケズリ	ナデ	キズミ	やや粗	並	ⅡR98/2 Ⅱ 2.575/1	口縁部小片		Ⅱ
344	62	044-01	縄文土器深鉢	AⅡ	D5	IX28	—	—	—	ナデ、ケズリ	ナデ	キズミ	粗	並	ⅡR95/1	口縁部小片		Ⅱ
345	62	083-03	縄文土器深鉢	AⅡ	E6	包含筒	—	—	—	ナデ、ケズリ	ナデ	キズミ	やや粗	良	Ⅱ 2.573/1	口縁部小片		Ⅱ
346	62	085-04	縄文土器深鉢	AⅡ	D6	包含筒	—	—	—	ナデ、ケズリ	ミガキ	キズミ	粗	並	ⅡR94/1	口縁部小片		Ⅱ
347	62	088-04	縄文土器深鉢	AⅡ	E2	包含筒	—	—	—	ナデ、ケズリ	ナデ	キズミ	やや粗	並	ⅡR96/2 ⅡR97/2	口縁部小片		Ⅱ
348	62	081-01	縄文土器深鉢	AⅡ	D3	包含筒	—	—	—	ナデ	ナデ	キズミ	粗	不長	ⅡR98/2	口縁部小片		Ⅱ
349	62	081-05	縄文土器深鉢	AⅡ	S7	包含筒	—	—	—	ナデ	ヨコナデ	キズミ	粗	不長	ⅡR97/2 Ⅱ 2.577/1	口縁部小片		Ⅱ
350	62	083-01	縄文土器鉢	AⅡ	E5	包含筒	11.9	10.6	—	ケズリ後ナデ	ナデ	キズミ	やや不長	やや粗	Ⅱ 2.578/1 ⅡR97/3	口縁部小片	褐色粘土	Ⅱ
351	62	082-06	縄文土器深鉢	AⅡ	D6	包含筒	—	—	—	ナデ	沈線文、ナデ	キズミ	粗	並	Ⅱ 2.578/2	口縁部小片		Ⅱ
352	62	086-01	縄文土器深鉢	AⅡ	E2	包含筒	—	—	—	ナデ	ヨコナデ	キズミ	粗	並	ⅡR95/2 Ⅱ 2.5786/3	口縁部小片		Ⅱ
353	62	055-07	縄文土器深鉢	AⅡ	D5	攪乱層	—	—	—	ナデ	ナデ	ヨコナデ 沈線文	やや粗	不長	ⅡR93/1 Ⅱ 2.573/1	口縁部小片		Ⅱ
354	62	089-02	縄文土器浅鉢	AⅡ	E7	包含筒	—	—	—	ナデ	ナデ	沈線	やや粗	並	Ⅱ R7 ⅡR92/1	口縁部小片		Ⅱ
355	62	087-03	縄文土器深鉢	AⅡ	C1	包含筒	—	—	—	ナデ、ケズリ	ナデ	キズミ	やや粗	並	Ⅱ 2.574/1 Ⅱ 2.575/1	口縁部小片		Ⅱ
356	62	087-05	縄文土器深鉢	AⅡ	C5	包含筒	—	—	—	ナデ	ナデ	キズミ	粗	並	ⅡR97/3 ⅡR97/3	口縁部小片		Ⅱ
357	62	046-05	縄文土器深鉢	AⅡ	C3	IX41	—	—	—	ケズリ	ヨコナデ	キズミ	やや粗	並	Ⅱ 2.574/1	口縁部小片		Ⅱ
358	62	089-03	縄文土器深鉢	AⅡ	D7	包含筒	—	—	—	ナデ	ナデ	キズミ	やや粗	並	ⅡR97/2 Ⅱ 2.5787/3	口縁部小片		Ⅱ
359	62	087-07	縄文土器深鉢	AⅡ	E5	包含筒	—	—	—	ナデ	ナデ	キズミ	やや粗	並	ⅡR94/1 ⅡR95/1	口縁部小片		Ⅱ
360	62	089-04	縄文土器深鉢	AⅡ	D5	包含筒	—	—	—	ナデ、ケズリ	ナデ	キズミ	粗	やや不長	ⅡR96/3 ⅡR97/2	口縁部小片		Ⅱ
361	62	088-06	縄文土器深鉢	AⅡ	E6	包含筒	—	—	—	ナデ	ナデ	キズミ	やや粗	並	ⅡR96/2 ⅡR95/1	口縁部小片		Ⅱ
362	62	081-07	縄文土器深鉢	AⅡ	D8	包含筒	—	—	—	ナデ	ナデ	キズミ	やや粗	良	ⅡR95/2 ⅡR93/1	口縁部小片		Ⅱ
363	62	087-08	縄文土器深鉢	AⅡ	E5	包含筒	—	—	—	ナデ	ナデ	キズミ	やや粗	並	Ⅱ 2.5786/4 ⅡR94/1	口縁部小片		Ⅱ
364	62	056-05	縄文土器深鉢	AⅡ	—	西壁	—	—	—	ナデ	ナデ	キズミ	密	やや粗	ⅡR94/1 ⅡR95/1	口縁部小片		Ⅱ
365	62	087-06	縄文土器深鉢	AⅡ	C1.2	包含筒	—	—	—	ナデ	ナデ	キズミ	やや粗	並	ⅡR97/3 Ⅱ 2.575/1	口縁部小片		Ⅱ
366	62	056-02	縄文土器深鉢	AⅡ	—	東壁	—	—	—	ナデ、ケズリ	ナデ	キズミ	やや粗	並	ⅡR97/3 Ⅱ 2.578/2	口縁部小片		Ⅱ
367	63	103-01	縄文土器深鉢	AⅡ	E2	包含筒	—	—	—	ナデ	条痕	ナデ	やや粗	やや粗	ⅡR93/1 Ⅱ 2.5784/1	口縁部小片		Ⅲ
368	63	078-02	縄文土器深鉢	AⅡ	E7	包含筒	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	粗	良	ⅡR94/1	口縁部小片		Ⅲ
369	63	082-02	縄文土器深鉢	AⅡ	C7	包含筒	—	—	—	条痕	条痕	ナデ	粗	不長	ⅡR97/3	口縁部小片		Ⅲ

第15表 土器・土製品観察表10

報告 番号	種別 番号	実測 番号	器 種	出土位置		法量 (cm)			成形・装飾・文様の種類			胎土	構成	色 調	残存	備考	時期	
				調査 区	穴ノ口 品様・ 位	口径	器高	底径	外 面	内 面	口縁 装飾							
370	63	067-02	縄文土器深鉢	AⅡE	D5	包含筒	—	—	—	条痕	条痕、ナデ	ナデ	やや粗	並	H・10/R5/2 内・2.5/R2	口縁部 小片		Ⅲ
371	63	078-01	縄文土器深鉢	AⅡE	B8	包含筒	—	—	—	条痕、ナデ	条痕、ナデ	ナデ	粗	良	10/R5/1	口縁部 小片		Ⅲ
372	63	082-05	縄文土器深鉢	AⅡE	D6	包含筒	—	—	—	条痕	条痕、ナデ	ナデ	粗	不良	H・2.5/R2 内・2.5/R3	口縁部 小片		Ⅲ
373	63	083-05	縄文土器深鉢	AⅡE	E6	包含筒	—	—	—	条痕	条痕痕ナデ	ナデ	粗	並	2.5/R2/1	口縁部 小片		Ⅲ
374	63	081-04	縄文土器深鉢	AⅡE	B5	包含筒	—	—	—	条痕	ヨコナデ、条 痕	ナデ	粗	並	2.5/R3/1	口縁部 小片		Ⅲ
375	63	068-02	縄文土器深鉢	AⅡE	C4	包含筒	—	—	—	条痕	ナデ	ナデ	やや粗	並	2.5/R3	口縁部 小片		Ⅲ
376	63	079-06	縄文土器深鉢	AⅡE	B5	包含筒	—	—	—	条痕	ナデ	ナデ	粗	良	10/R3/2	口縁部 小片		Ⅲ
377	63	079-03	縄文土器深鉢	AⅡE	C4	包含筒	—	—	—	条痕	ナデ	ナデ	粗	良	5/R7/6	口縁部 小片		Ⅲ
378	63	079-04	縄文土器深鉢	AⅡE	C5	包含筒	—	—	—	条痕	ナデ	ナデ	粗	良	10/R8/2	口縁部 小片		Ⅲ
379	63	073-02	縄文土器深鉢	AⅡE	D6	包含筒	—	—	—	条痕	ナデ	ナデ	やや密	やや良	2.5/R2/2	口縁部 小片		Ⅲ
380	63	080-05	縄文土器深鉢	AⅡE	B5	包含筒	—	—	—	条痕	ナデ	ナデ	粗	良	10/R7/2	口縁部 小片		Ⅲ
381	63	079-07	縄文土器深鉢	AⅡE	B7	包含筒	—	—	—	条痕	ナデ	ナデ	粗	良	10/R7/3	口縁部 小片		Ⅲ
382	63	080-01	縄文土器深鉢	AⅡE	B6	包含筒	—	—	—	条痕	ナデ	ナデ	粗	良	10/R8/3	口縁部 小片		Ⅲ
383	63	075-01	縄文土器深鉢	AⅡE	E5	包含筒	—	—	—	条痕、ケズリ	ナデ	ナデ	やや粗	やや良	10/R8/3	口縁部 小片		Ⅲ
384	63	080-04	縄文土器深鉢	AⅡE	E7	包含筒	—	—	—	条痕	ナデ	ナデ	やや粗	良	10/R4/1	口縁部 小片		Ⅲ
385	63	072-02	縄文土器深鉢	AⅡE	E2	包含筒	—	—	—	条痕	ナデ	ナデ	密	並	H・10/R2/3 内・10/R8/4	口縁部 小片		Ⅲ
386	63	082-03	縄文土器深鉢	AⅡE	D1	包含筒	—	—	—	条痕	ナデ	ナデ	やや粗	やや良	10/R5/3	口縁部 小片		Ⅲ
387	63	046-06	縄文土器深鉢	AⅡE	C3	SX41	—	—	—	条痕	ナデ	ナデ	やや粗	並	10/R7/3	口縁部 小片		Ⅲ
388	63	044-06	縄文土器深鉢	AⅡE	B5	SX29	—	—	—	条痕	ナデ	ナデ	やや粗	並	H・7.5/R8/4 内・10/R2/3	口縁部 小片		Ⅲ
389	63	061-02	縄文土器深鉢	AⅡE	B3	包含筒	—	—	—	条痕	ナデ	ナデ	粗	並	2.5/R2/1	口縁部 小片		Ⅲ
390	63	068-05	縄文土器深鉢	AⅡE	C4	包含筒	—	—	—	条痕	ナデ	ナデ	粗	並	H・10/R3/1 内・10/R3/2	口縁部 小片		Ⅲ
391	63	078-05	縄文土器深鉢	AⅡE	C4	包含筒	—	—	—	条痕	ナデ	ナデ	粗	良	7.5/R9/1	口縁部 小片		Ⅲ
392	63	055-02	縄文土器深鉢	AⅡE	—	西壁	—	—	—	条痕	ナデ	ナデ	やや密	良	H・R2/ 内・2.5/R4/1	口縁部 小片		Ⅲ
393	63	072-04	縄文土器深鉢	AⅡE	D6	包含筒	—	—	—	条痕、ナデ	ナデ	ナデ	密	良	H・5/R5/1 内・R4/	口縁部 小片		Ⅲ
394	63	078-03	縄文土器深鉢	AⅡE	D7	包含筒	—	—	—	条痕	ナデ	ナデ	粗	良	7.5/R8/4	口縁部 小片		Ⅲ
395	63	068-01	縄文土器深鉢	AⅡE	E5	包含筒	—	—	—	条痕	ナデ	ナデ	やや粗	並	H・2.5/R1/ 内・2.5/R1/	口縁部 小片		Ⅲ
396	63	074-03	縄文土器深鉢	AⅡE	E6	包含筒	—	—	—	条痕	ナデ	ナデ	やや密	並	H・7.5/R2/1 内・2.5/R4/4	口縁部 小片		Ⅲ
397	64	074-06	縄文土器深鉢	AⅡE	E5	包含筒	—	—	—	条痕	ナデ	ナデ	密	並	H・2.5/R4/1 内・2.5/R1/	口縁部 小片		Ⅳ
398	64	083-02	縄文土器深鉢	AⅡE	E8	包含筒	—	—	—	条痕、ナデ	ナデ	ナデ	粗	並	10/R6/3	口縁部 小片		Ⅳ
399	64	046-03	縄文土器深鉢	AⅡE	C3	SX42	—	—	—	条痕	ヨコナデ	ナデ	やや密	並	H・10/R5/2 内・2.5/R1/	口縁部 小片		Ⅳ
400	64	074-07	縄文土器深鉢	AⅡE	C7	包含筒	—	—	—	条痕	ナデ	ナデ	密	並	H・10/R4/2 内・7.5/R6/6	口縁部 小片		Ⅳ
401	64	072-03	縄文土器深鉢	AⅡE	E5	包含筒	—	—	—	条痕	ナデ	ナデ	密	並	H・10/R7/3 内・10/R8/2	口縁部 小片		Ⅳ
402	64	082-04	縄文土器深鉢	AⅡE	D0	包含筒	—	—	—	条痕	ナデ	ナデ	やや密	並	H・10/R7/2 内・2.5/R7/2	口縁部 小片		Ⅳ
403	64	077-02	縄文土器深鉢	AⅡE	E8	包含筒	—	—	—	条痕、ナデ	ナデ	ナデ	やや粗	やや良	H・7.5/R4/3 内・10/R7/3	口縁部 小片		Ⅳ
404	64	074-04	縄文土器深鉢	AⅡE	A8	包含筒	—	—	—	条痕	ナデ	ナデ	密	並	H・10/R5/2 内・10/R6/3	口縁部 小片		Ⅳ
405	64	077-03	縄文土器深鉢	AⅡE	B4	包含筒	—	—	—	条痕	ナデ	ナデ	やや粗	やや良	7.5/R7/3	口縁部 小片		Ⅳ
406	64	082-01	縄文土器深鉢	AⅡE	C3	包含筒	—	—	—	条痕	ナデ	ナデ	粗	並	10/R8/2	口縁部 小片		Ⅳ

第16表 土器・土製品観察表11

報告番号	種別番号	実用番号	器種	出土位置		法量 (cm)			成形・装飾・文様の種類			胎土	構成	色調	保存	備考	時期	
				調査区	層位	口径	器高	底径	外面	内面	口縁形状							
407	64	074-05	縄文土器深鉢	AⅡE	C8	包含筒	—	—	—	条痕	ナデ	ナデ	ナデ	密	やや良	3/3/1	口縁部 小片	IV
408	64	045-03	縄文土器深鉢	AⅡE	C2	3X43	—	—	—	条痕	ナデ	ナデ	ナデ	やや密	良	10YR7/2	口縁部 小片	IV
409	64	074-01	縄文土器深鉢	AⅡE	E3	包含筒	—	—	—	条痕	ナデ	ナデ	ナデ	やや密	差	外 2.5Y4/1 内 10YR5/2	口縁部 小片	IV
410	64	080-06	縄文土器深鉢	AⅡE	D6	包含筒	—	—	—	条痕	ナデ	ナデ	ナデ	粗	良	2.5Y8/2	口縁部 小片	IV
411	64	076-04	縄文土器深鉢	AⅡE	E7	包含筒	—	—	—	条痕	ナデ	ナデ	ナデ	粗	やや良	10YR8/2	口縁部 小片	IV
412	64	044-04	縄文土器深鉢	AⅡE	D5	3X20	—	—	—	条痕	ナデ	ナデ	ナデ	粗	差	外 10YR7/2 内 10YR8/3	口縁部 小片	IV
413	64	080-02	縄文土器深鉢	AⅡE	E6	包含筒	—	—	—	条痕	ナデ	ナデ	ナデ	粗	良	2.5Y8/2	口縁部 小片	IV
414	64	070-03	縄文土器深鉢	AⅡE	B7	包含筒	—	—	—	条痕	ナデ	ナデ	ナデ	やや粗	差	10YR7/3	口縁部 小片	IV
415	64	075-02	縄文土器深鉢	AⅡE	D7	包含筒	—	—	—	条痕	ケズリ	ナデ	ナデ	やや粗	やや良	10YR6/2	口縁部 小片	IV
416	64	073-05	縄文土器深鉢	AⅡE	B9	包含筒	—	—	—	条痕 ¹ 、ナデ	条痕、ナデ	ナデ	ナデ	密	やや良	外 10YR6/3 内 10YR7/3	口縁部 小片	IV
417	64	055-04	縄文土器深鉢	AⅡE	—	西壁	—	—	—	条痕	ナデ	ナデ	ナデ	やや密	差	外 2.5Y8/2 内 10YR7/4	口縁部 小片	IV
418	64	055-01	縄文土器深鉢	AⅡE	D5	埋乱筒	—	—	—	条痕後ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	密	良	外 2.5Y4/1 内 3/2/1	口縁部 小片	IV
419	64	071-01	縄文土器深鉢	AⅡE	E7	包含筒	—	—	—	条痕、ケズリ	条痕、ナデ	条痕	やや粗	差	外 10YR6/3 内 2.5Y7/2	口縁部 小片	IV	
420	64	076-07	縄文土器深鉢	AⅡE	E6	包含筒	—	—	—	条痕、ケズリ	ナデ	ナデ	ナデ	やや粗	やや良	外 7.5Y8/1 内 10YR7/3	口縁部 小片	IV
421	64	078-04	縄文土器深鉢	AⅡE	C3	包含筒	—	—	—	条痕	ナデ	ナデ	ナデ	粗	良	10YR8/2	口縁部 小片	IV
422	64	079-01	縄文土器深鉢	AⅡE	D6	包含筒	28.0	—	—	条痕	ナデ	ナデ	ナデ	粗	良	10YR8/2	口縁部 2/12	IV
423	64	082-01	縄文土器深鉢	AⅡE	E8	包含筒	34.6	—	—	条痕、ケズリ	ナデ	ナデ	ナデ	粗	やや良	外 2.5Y7/1 内 4E	口縁部 2/12	IV
424	64	076-08	縄文土器深鉢	AⅡE	D6	包含筒	—	—	—	条痕	ナデ	ナデ	ナデ	やや粗	やや良	10YR7/2	口縁部 小片	IV
425	64	055-05	縄文土器深鉢	AⅡE	C5	埋乱筒	—	—	—	条痕	ナデ	ナデ	ナデ	密	差	外 10YR7/3 内 10YR8/2	口縁部 小片	IV
426	64	079-02	縄文土器浅鉢	AⅡE	E7	包含筒	—	—	—	条痕	ナデ	ナデ	ナデ	粗	良	2.5Y3/2	口縁部 小片	IV
427	64	082-02	縄文土器浅鉢	AⅡE	D7	包含筒	21.6	—	—	条痕	ナデ	ナデ	ナデ	やや粗	やや良	外 10YR7/2 内 10YR7/2	口縁部 1/12	IV
428	64	057-06	縄文土器小形	AⅡE	—	西壁	—	—	—	沈積、条痕	ナデ	ナデ	ナデ	密	やや良	外 10YR5/1 内 10YR4/1	—	赤色顔料
429	64	067-04	縄文土器小形	AⅡE	C2	包含筒	5.1	6.7	—	条痕	ナデ	ナデ	ナデ	粗	差	外 2.5Y5/1 内 10YR7/3	口縁部 11/12	IV
430	65	099-05	縄文土器深鉢	AⅡE	D7	包含筒	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	やや密	差	外 10YR3/1 内 10YR8/3	口縁部 小片	IV
431	65	005-03	縄文土器深鉢	AⅡE	B3	包含筒	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	良	良	外 10YR8/3 内 10YR7/1	口縁部 小片	IV
432	65	073-06	縄文土器深鉢	AⅡE	B3	包含筒	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	密	やや良	外 10YR3/1 内 4E	口縁部 小片	IV
433	65	073-07	縄文土器深鉢	AⅡE	D6	包含筒	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	やや密	差	外 10YR7/3 内 10YR5/2	口縁部 小片	IV
434	65	076-06	縄文土器深鉢	AⅡE	E5	包含筒	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	粗	やや良	10YR7/4	口縁部 小片	IV
435	65	099-08	縄文土器深鉢	AⅡE	D4	包含筒	—	—	—	ナデ	ナデ	—	—	密	やや良	外 7.5Y8/4 内 2.5Y7/2	口縁部 小片	IV
436	65	073-04	縄文土器深鉢	AⅡE	D0	包含筒	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	やや密	差	外 10YR8/2 内 2.5Y8/2	口縁部 小片	IV
437	65	072-05	縄文土器深鉢	AⅡE	B8	包含筒	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	やや密	差	外 2.5Y8/2 内 2.5Y8/2	口縁部 小片	IV
438	65	088-04	縄文土器深鉢	AⅡE	B3	包含筒	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	やや粗	差	7.5YR5/1	口縁部 小片	IV
439	65	075-04	縄文土器深鉢	AⅡE	B9	包含筒	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	やや密	やや良	外 7.5Y8/1 内 7.5Y8/4	口縁部 小片	IV
440	65	070-04	縄文土器深鉢	AⅡE	B3	包含筒	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	やや密	差	外 10YR4/1 内 10YR7/2	口縁部 小片	IV
441	65	072-06	縄文土器深鉢	AⅡE	E1	包含筒	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	密	やや良	外 7.5YR5/4 内 7.5YR6/4	口縁部 小片	IV
442	65	077-07	縄文土器深鉢	AⅡE	C7	包含筒	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	やや粗	やや良	2.5Y4/1	口縁部 小片	IV
443	65	077-06	縄文土器深鉢	AⅡE	C1	包含筒	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	やや粗	やや良	10YR4/1	口縁部 小片	IV

第17表 土器・土製品観察表12

報告 番号	種目 番号	実測 番号	器 種	出土位置		法量 (cm)		成形・調整・文様の移植			胎土	焼成	色 調	残存	備考	時期
				段安 定	グリ ケツ	遺構・ 遺物	口徑	器高	底径	外 面						
444	65	077-08	縄文土器深鉢	AⅡE	E9	包含層	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	やや粗	やや良	7.5YR7/4	口縁部 小片	IV
445	65	123-06	縄文土器深鉢	AⅡE	C4	包含層	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	やや粗	やや良	2.5YR/1	口縁部 小片	IV
446	65	068-06	縄文土器深鉢	AⅡE	D6	包含層	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	粗	並	H 10YR7/3 内 10YR7/2	口縁部 小片	IV
447	65	076-03	縄文土器深鉢	AⅡE	E5	包含層	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	粗	やや良	10YR8/2	口縁部 小片	IV
448	65	072-01	縄文土器深鉢	AⅡE	D3	包含層	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	並	並	H 10YR0/3 内 10YR7/6	口縁部 小片	IV
449	65	077-04	縄文土器深鉢	AⅡE	C4	包含層	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	やや粗	やや良	H 10YR4/1 内 10YR8/3	口縁部 小片	IV
450	65	068-08	縄文土器深鉢	AⅡE	D3	包含層	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	やや密	並	2.5Y7/2	口縁部 小片	IV
451	65	070-01	縄文土器深鉢	AⅡE	E8	包含層	18.0	—	ナデ	ナデ	ナデ	やや粗	並	10YR6/1	口縁部 2/12	IV
452	65	075-06	縄文土器深鉢	AⅡE	C7	包含層	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	やや密	やや良	7.5YR7/4	口縁部 小片	IV
453	65	075-05	縄文土器深鉢	AⅡE	B5	包含層	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	やや粗	やや良	7.5YR7/6	口縁部 小片	IV
454	65	056-06	縄文土器深鉢	AⅡE	—	西壁	—	—	ナデ	ミガキ	ナデ	並	やや良	H 10YR6/3 内 10YR4/1	口縁部 小片	赤色胎料 IV
455	65	002-03	縄文土器小形	AⅡE	B9	包含層	7.0	4.0	ナデ	ナデ	ナデ	やや粗	やや良	H 7.5YR6/2 内 10YR7/1	口縁部 2/12	赤色胎料 IV
456	65	073-01	縄文土器深鉢	AⅡE	B7	包含層	—	—	ナデ、ケズリ	ナデ	ナデ	やや密	並	10YR7/4	口縁部 小片	IV
457	65	055-06	縄文土器深鉢	AⅡE	—	東壁	—	—	ナデ、ケズリ	ナデ	ナデ	並	やや不 良	10YR6/3	口縁部 小片	IV
458	65	044-02	縄文土器深鉢	AⅡE	B5	IX2	—	—	ナデ、ケズリ	ナデ	ナデ	粗	並	10YR7/3	口縁部 小片	IV
459	65	077-01	縄文土器深鉢	AⅡE	B3	包含層	—	—	ナデ、ケズリ	染織	ナデ	やや粗	やや良	H 10YR0/2 内 2.5YR/1	口縁部 小片	IV
460	65	074-08	縄文土器深鉢	AⅡE	B2	包含層	—	—	ナデ、ケズリ	ナデ	ナデ	やや密	良	H 10YR5/2 内 10YR5/1	口縁部 小片	IV
461	65	069-05	縄文土器深鉢	AⅡE	B5	包含層	—	—	ナデ、ケズリ	ナデ	ナデ	やや粗	並	2.5Y5/1	口縁部 小片	IV
462	65	067-01	縄文土器深鉢	AⅡE	B8	包含層	—	—	ナデ、ケズリ	ナデ	ナデ	やや粗	並	10YR6/2	口縁部 小片	IV
463	65	069-02	縄文土器浅鉢	AⅡE	E	包含層	—	—	ナデ	沈線、ナデ	ナデ	やや粗	並	10YR6/1	口縁部 小片	IV
464	65	069-04	縄文土器浅鉢	AⅡE	D7	包含層	—	—	ナデ	沈線、ナデ	ナデ	やや粗	並	H 7.5YR5/1 内 2.5YR6/3	口縁部 小片	第3層 IV
465	65	069-01	縄文土器浅鉢	AⅡE	D7	包含層	—	—	ナデ	沈線、ナデ	ナデ	やや粗	並	H 10YR5/2 内 NC	口縁部 小片	IV
466	65	069-03	縄文土器浅鉢	AⅡE	D6	包含層	—	—	ナデ	沈線、ナデ	ナデ	やや密	並	2.5Y7/2	口縁部 小片	IV
467	65	098-03	縄文土器浅鉢	AⅡE	D2	包含層	—	—	ナデ	ナデ	沈線	並	やや良	H 10YR0/3 内 10YR4/1	口縁部 小片	IV
468	65	077-05	縄文土器深鉢	AⅡE	D7	包含層	—	—	ミガキ	ミガキ	ミガキ	やや粗	やや良	H 7.5YR5/1 内 10YR6/2	口縁部 小片	IV
469	65	076-02	縄文土器深鉢	AⅡE	C4	包含層	—	—	ミガキ	ミガキ	ナデ	やや密	やや良	10YR8/4	口縁部 小片	IV
470	65	097-08	縄文土器深鉢	AⅡE	C6	包含層	—	—	ミガキ	ミガキ	ミガキ	粗	並	H 10YR5/1 内 10YR7/3	口縁部 小片	IV
471	65	076-01	縄文土器深鉢	AⅡE	E5	包含層	—	—	ミガキ	ミガキ	ナデ	やや密	やや良	7.5YR4/1	口縁部 小片	IV
472	65	073-08	縄文土器深鉢	AⅡE	B5	包含層	—	—	ナデ、ミガキ	ナデ	ナデ	密	並	H 10YR5/1 内 2.5YR/1	口縁部 小片	IV
473	65	068-07	縄文土器深鉢	AⅡE	E7	包含層	—	—	ミガキ	ナデ	ナデ	やや密	並	H 9A 内 10YR5/1	口縁部 小片	IV
474	65	075-03	縄文土器深鉢	AⅡE	E7	包含層	—	—	ミガキ	ミガキ	ナデ	やや粗	やや良	H 10YR7/2 内 10YR4/2	口縁部 小片	IV
475	65	098-05	縄文土器浅鉢	AⅡE	C1	包含層	—	—	ミガキ、ケズリ	ミガキ	ナデ	密	やや良	H 9C 内 10YR6/4	口縁部 小片	IV
476	65	076-05	縄文土器浅鉢	AⅡE	E8	包含層	—	—	ミガキ	ミガキ	ナデ	やや密	やや良	H 10YR7/3 内 7.5YR3/1	口縁部 小片	IV
477	65	057-01	縄文土器浅鉢	AⅡE	D6	埋乱層	—	—	ミガキ	ナデ	ナデ	並	並	H 2.5Y4/1 内 2.5Y7/3	口縁部 小片	IV
478	65	057-02	縄文土器浅鉢	AⅡE	B4	埋乱層	—	—	ミガキ	ナデ	ナデ	並	やや良	H 10YR5/2 内 NC	口縁部 小片	IV
479	65	004-03	縄文土器浅鉢	AⅡE	B8	包含層	—	—	ミガキ、ケズリ	ナデ	ナデ	不良	良	H 3.5YR4/1 内 10YR3/1	口縁部 小片	IV
480	65	099-01	縄文土器浅鉢	AⅡE	C1	包含層	—	—	ミガキ	オウエ、ナデ	ヨコナデ	密	やや良	H 2.5Y3/1 内 10YR4/1	口縁部 小片	IV
481	65	098-07	縄文土器浅鉢	AⅡE	B4	包含層	—	—	ミガキ	ナデ	ナデ	密	やや良	H 7.5Y3/1 内 10YR4/1	口縁部 小片	IV

第18表 土器・土製品観察表13

報告 番号	種目 番号	実測 番号	器 種	出土位置		法量 (cm)			成形、調整、文様の種類			胎土	焼成	色 調	残存	備考	時期	
				段安 深	グリ ケリ	造機・ 器種	口径	器高	底径	外 面	内 面							口縁形状
402	66	103-07	縄文土器透鉢	AⅡE	B3	包含層	—	—	—	ナデ	ミガキ	ナデ	やや密	やや良	H 7.5196/4 内 10/98/3	口縁部 小片		IV
403	66	098-01	縄文土器透鉢	AⅡE	B4	包含層	—	—	—	ナデ、ミガキ	ナデ	ナデ	やや密	良	H 10/97/3 内 2.515/1	口縁部 小片		IV
404	66	098-06	縄文土器透鉢	AⅡE	B2	包含層	—	—	—	ナデ、ミガキ	ナデ	ナデ	密	H 9/2 内 2.515/1	口縁部 小片		IV	
405	66	098-02	縄文土器透鉢	AⅡE	E3	包含層	—	—	—	沈線、ナデ	ナデ	ナデ	密	やや良	H 9/4 内 10/95/1	口縁部 小片		IV
406	66	098-04	縄文土器透鉢	AⅡE	D4	包含層	—	—	—	沈線、ナデ	ナデ	ナデ	密	やや良	H 2.514/1 内 2.516/2	口縁部 小片		IV
407	66	103-04	縄文土器深鉢	AⅡE	B4	包含層	—	—	—	ミガキ	ミガキ	ミガキ	やや密	やや良	7.5194/2	口縁部 小片	赤色顔料	IV
408	66	070-05	縄文土器深鉢	AⅡE	C4	包含層	—	—	—	ナデ、ケズリ	ナデ、ケズリ	ナデ	やや密	並	2.516/1	口縁部 小片		IV
409	66	072-07	縄文土器透鉢	AⅡE	E6	包含層	—	—	—	ミガキ	ナデ	ナデ	密	良	H 10/97/3 内 10/98/2	口縁部 小片		IV
400	66	090-03	縄文土器透鉢	AⅡE	C5	包含層	—	—	—	ミガキ	ミガキ	ミガキ	密	良	10/94/1	口縁部 小片		IV
491	66	096-03	縄文土器透鉢	AⅡE	B3	包含層	—	—	—	ミガキ	ミガキ	ミガキ	やや密	並	10/93/1	口縁部 小片		IV
402	66	103-08	縄文土器透鉢	AⅡE	B5	包含層	—	—	—	ナデ、ケズリ	ナデ	ナデ	やや密	やや良	H 7.5198/6 内 10/98/2	口縁部 小片		IV
403	66	073-03	縄文土器透鉢	AⅡE	B4	包含層	—	—	—	ミガキ、沈線	ナデ	ナデ	密	良	H 2.515/1 内 2.514/1	口縁部 小片		IV
404	66	070-02	縄文土器透鉢	AⅡE	B5	包含層	—	—	—	ミガキ、ナデ	ミガキ	ナデ	やや密	並	H 10/95/1 内 NA	口縁部 小片		IV
495	66	093-02	縄文土器透鉢	AⅡE	E7	包含層	16.0	—	—	ミガキ	ナデ	ナデ	やや密	やや良	H 10/97/1 内 10/97/1	口縁部 小片		IV
496	66	100-01	縄文土器透鉢	AⅡE	C4	包含層	33.4	—	—	ケズリ、ミガキ	ミガキ	ナデ	やや密	やや良	H 10/94/1 内 NA	口縁部 小片		IV
497	66	004-06	縄文土器深鉢	AⅡE	C7	包含層	20.2	—	—	割突、沈線	ナデ	ナデ	やや不 良	良	7.5194/2	口縁部 小片		第3層 V
498	67	099-03	縄文土器透鉢	AⅡE	E5	包含層	—	—	—	沈線、縄文	ナデ	ナデ	密	やや良	H 10/94/1 内 2.514/1	口縁部 小片		V
499	67	004-06	縄文土器透鉢	AⅡE	D7	包含層	12.5	—	—	沈線、縄文、ミ ガキ	ミガキ	ナデ	やや不 良	良	H 7.5197/1 内 7.5194/1	口縁部 小片		第2層 V
500	67	101-06	縄文土器透鉢	AⅡE	B4	包含層	—	—	—	沈線、縄文	ナデ	ナデ	やや密	やや良	7.5194/1	体 部 小片		V
501	67	102-01	縄文土器透鉢	AⅡE	C3	包含層	—	—	—	ナデ、縄文、割 突	ケズリ	—	やや密	やや良	H 10/98/4 内 NA	体 部 小片	赤色顔料	V
502	67	101-03	縄文土器注口	AⅡE	C4	包含層	—	—	—	ナデ、割突、割 突、縄文	ナデ	—	やや密	やや良	7.5194/1	体 部 小片		V
503	67	102-03	縄文土器透鉢	AⅡE	E5	包含層	—	—	—	ナデ、沈線、キ ザレ	ナデ	—	やや密	やや良	H 10/98/2 内 10/94/1	体 部 小片		V
504	67	101-02	縄文土器注口	AⅡE	B3	包含層	—	—	—	ナデ、縄文	ナデ	—	やや密	やや良	H 9/3 内 NA	体 部 小片		V
505	67	006-01	縄文土器透鉢	AⅡE	B6	包含層	38.6	—	—	浮線、ミガキ	ナデ	ナデ	良	良	H 5/94/1 内 7.5195/1	口縁部 小片		穿孔 V
506	67	101-04	縄文土器透鉢	AⅡE	C4	包含層	—	—	—	浮線、ミガキ	ナデ	—	やや密	やや良	10/94/1	体 部 小片		V
507	67	125-09	縄文土器透鉢	AⅡE	B6	浮乱層	—	—	—	浮線、ミガキ	ナデ	ナデ	やや密	やや良	7.5196/6	口縁部 小片		V
508	67	101-01	縄文土器透鉢	AⅡE	B4	包含層	—	—	—	浮線、ミガキ	ミガキ	ナデ	やや密	やや良	10/97/4	口縁部 小片		V
509	67	005-05	縄文土器透鉢	AⅡE	B4	包含層	—	—	—	浮線、ミガキ	ナデ	ナデ	良	良	H 7.5197/3 内 7.5197/4	口縁部 小片		V
510	67	101-05	縄文土器透鉢	AⅡE	E3	包含層	—	—	—	浮線、ミガキ	ミガキ	ミガキ	やや密	やや良	H 7.5197/4 内 10/97/3	口縁部 小片		V
511	68	063-05	縄文土器	AⅡE	C4	包含層	—	—	3.5	ケズリ、ナデ	ナデ	—	やや密	並	H 2.5197/4 内 10/95/1	底 部 小片		6/12
512	68	063-08	縄文土器	AⅡE	D2	包含層	—	—	4.1	ケズリ	ナデ	—	粗	並	H 7.5198/3 内 10/98/2	底 部 瓦片		
513	68	064-06	縄文土器	AⅡE	E7	包含層	—	—	3.9	ケズリ	ナデ、ケズリ	—	粗	並	H 10/97/2 内 10/95/1	底 部 瓦片		
514	68	064-01	縄文土器	AⅡE	D0	包含層	—	—	4.3	ケズリ	ナデ	—	粗	並	H 10/97/4 内 10/96/1	底 部 瓦片		
515	68	063-04	縄文土器	AⅡE	C4	包含層	—	—	2.6	ケズリ	ナデ	—	やや密	並	H 5/98/4 内 10/97/1	底 部 瓦片		
516	68	064-03	縄文土器	AⅡE	D5	包含層	—	—	3.8	ナズリ	ナデ	—	粗	並	H 7.5197/1 内 7.5197/3	底 部 瓦片		6/12
517	68	063-03	縄文土器	AⅡE	C4	包含層	—	—	3.9	ナデ	ナデ	—	粗	並	H 7.5198/3 内 7.5198/1	底 部 瓦片		
518	68	064-07	縄文土器	AⅡE	E8	包含層	—	—	4.2	ナデ	ナデ	—	粗	並	H 5/98/4 内 NA	底 部 瓦片		6/12

第19表 土器・土製品観察表14

報告 番号	種別 番号	実測 番号	部 種	出土位置		法量 (cm)			成形・装飾・文様の種類			胎土	構成	色 調	保存	備考	時期
				調査 区 区	調査 区 区	口径	器高	底径	外 面	内 面	口縁装飾						
519	60	062-06	縄文土器	AⅡ	B7	包含筒	—	—	3.2	ナデ	オサエ、ナデ	—	順 直	10R7/3	底 部 残 存		
520	60	064-02	縄文土器	AⅡ	D5	包含筒	—	—	5.0	—	—	—	順 直	7.5YR7/4	底 部 残 存		
521	60	063-02	縄文土器	AⅡ	C2	包含筒	—	—	3.6	条痕、ナデ、 ミガキ	ナデ	—	順 直	H* 10R7/3 内 2.5YR/2	底 部 残 存 7/12		
522	60	063-06	縄文土器	AⅡ	C5	包含筒	—	—	3.9	条痕、ナデ	条痕、ナデ	—	順 直	H* 10R7/4 内 10R6/1	底 部 残 存 8/12		
523	60	063-07	縄文土器	AⅡ	G8	包含筒	—	—	3.6	ナズリ、ナデ	条痕、ナデ	—	順 直	H* 10R6/2 内 10R5/1	底 部 残 存 6/12		
524	60	060-01	縄文土器	AⅡ	B6	環状筒	—	—	3.6	ナデ	条痕、ナデ	—	順 直	H* 7.5YR7/4 内 10R7/3	底 部 残 存 6/12		
525	60	059-06	縄文土器	AⅡ	—	黄塗	—	—	3.0	ナデ	条痕	—	順 直	H* 7.5YR7/4 内 10R7/3	底 部 残 存 6/12		
526	60	064-04	縄文土器	AⅡ	D6	包含筒	—	—	3.6	ナデ	オサエ、ナデ	—	順 直	H* 7.5YR6/3 内 10R5/2	底 部 残 存 4/12		
527	60	063-01	縄文土器	AⅡ	B7	包含筒	—	—	3.4	条痕、ナデ	ナデ	—	順 直	H* 10R7/3 内 2.5YR/1	底 部 残 存 10/12		
528	60	062-05	縄文土器	AⅡ	B6	包含筒	—	—	3.2	条痕、ナデ	条痕	—	順 直	H* 10R7/3 内 10R3/1	底 部 残 存 8/12		
529	60	062-02	縄文土器	AⅡ	B8	包含筒	—	—	5.0	ミガキ、ナデ	ミガキ、ナデ	—	順 直	H* 7.5YR6/4 内 2.5YR/1	底 部 残 存 6/12		
530	60	062-03	縄文土器	AⅡ	B7	包含筒	—	—	2.3	縄文、波線、 ミガキ	ナデ	—	順 直	H* 7.5YR6/1	底 部 残 存	赤色顔料	
531	60	062-04	縄文土器	AⅡ	B7	包含筒	—	—	5.4	ナデ	ナデ	—	順 直	H* 2.5YR7/3 内 2.5Y4/1	底 部 残 存 6/12		
532	60	065-05	縄文土器	AⅡ	C1	包含筒	—	—	6.3	ナデ、ケズリ	ナデ	—	やや傾 直	H* 10R7/4 内 2.5Y6/1	底 部 残 存 8/12		
533	60	066-04	縄文土器	AⅡ	D2	包含筒	—	—	1.8	ケズリ、ナデ	ナデ	—	やや傾 直	H* 10R8/3 内 10R5/1	底 部 残 存 9/12		
534	60	066-02	縄文土器	AⅡ	C2	包含筒	—	—	2.3	ケズリ、ナデ	ナデ	—	やや傾 直	10R5/1	底 部 残 存 6/12		
535	60	066-01	縄文土器	AⅡ	C3	包含筒	—	—	2.4	ケズリ、ナデ	ナデ	—	順 直	H* 10R7/3 内 2.5Y7/1	底 部 残 存 6/12		
536	60	066-03	縄文土器	AⅡ	D7	包含筒	—	—	3.7	ナズリ、ナデ	ナデ	—	順 直	H* 10R6/3 内 7.5YR4/1	底 部 残 存 4/12		
537	60	066-05	縄文土器	AⅡ	D6	包含筒	—	—	4.2	ケズリ、ミガキ	ナデ	—	順 直	H* 10R6/4 内 2.5Y5/1	底 部 残 存 4/12		
538	60	066-07	縄文土器	AⅡ	B6	包含筒	—	—	4.3	ミガキ、ナデ	ミガキ	—	やや傾 直	H* 7.5YR7/6 内 10R8/3	底 部 残 存 6/12		
539	60	065-07	縄文土器	AⅡ	B5	包含筒	—	—	4.3	ミガキ	ミガキ	—	やや傾 直	H* 10R8/3 内 10R8/2	底 部 残 存		
540	60	024-06	縄文土器	AⅡ	E9	SH1	—	—	4.5	ナデ	ナデ	—	やや傾 直	2.5Y7/2	底 部 残 存		
541	60	065-01	縄文土器	AⅡ	D4	包含筒	—	—	5.8	ミガキ、ナデ	ナデ	—	やや傾 直	H* 10R6/2 内 2.5Y6/1	底 部 残 存		
542	60	060-05	縄文土器	AⅡ	—	黄塗	—	—	4.6	ナデ	ナデ	—	順 直	H* 10R6/3 内 10R5/2	底 部 残 存 4/12		
543	60	065-02	縄文土器	AⅡ	E6	包含筒	—	—	7.7	ケズリ、ナデ	ナデ	—	やや傾 直	H* 10R6/3 内 10R5/1	底 部 残 存 6/12		
544	60	065-04	縄文土器	AⅡ	E6	包含筒	—	—	5.8	ナデ	ナデ	—	順 直	10R6/3	底 部 残 存		
545	60	060-03	縄文土器	AⅡ	D5	環状筒	—	—	4.6	ナデ	ナデ	—	順 直	H* 10R6/2 内 2.5Y6/2	底 部 残 存 5/12		
546	60	050-04	縄文土器	AⅡ	B6	環状筒	—	—	7.1	ケズリ、ナデ	ナデ	—	順 直	H* 10R7/3 内 7.5YR7/4	底 部 残 存 8/12		
547	60	066-06	縄文土器	AⅡ	E5	包含筒	—	—	5.2	ケズリ、ナデ	ナデ	—	やや傾 直	H* 10R6/2 内 2.5Y6/1	底 部 残 存 3/12		
548	60	065-01	縄文土器	AⅡ	E7	包含筒	—	—	8.5	ナデ、オサエ	ナデ	—	順 直	H* 10R7/2 内 10R7/1	底 部 残 存 4/12		
549	60	065-03	縄文土器	AⅡ	D6	包含筒	—	—	8.0	ナズリ、ナデ	ナデ	—	順 直	H* 10R7/3 内 10R5/1	底 部 残 存 3/12		
550	60	045-01	縄文土器	AⅡ	C2	IX43	—	—	7.3	ケズリ	ナデ	—	順 直	10R6/3	底 部 残 存		
551	60	062-02	縄文土器	AⅡ	B3	包含筒	—	—	9.0	条痕、ナデ	ナデ	—	順 直	H* 10R7/3 内 7.5YR5/1	底 部 残 存 4/12		
552	60	062-01	縄文土器	AⅡ	B2	包含筒	—	—	13.0	ナデ	ナデ	—	順 直	H* 10R5/3 内 2.5YR6/3	底 部 残 存 2/12		
553	60	060-02	縄文土器	AⅡ	D5	環状筒	—	—	7.8	ナデ	ナデ	—	順 直	H* 10R7/3 内 10R7/3	底 部 残 存 3/12		
554	60	047-01	縄文土器	AⅡ	C1.2	IX44	—	—	—	ケズリ	ナデ	—	やや傾 直	H* 10R8/3 内 2.5Y7/1	底 部 残 存 少 量		
555	60	064-05	縄文土器	AⅡ	E5	包含筒	—	—	3.3	ケズリ、ナデ	条痕	—	順 直	8/2	底 部 残 存 少 量		

第20表 土器・土製品観察表15

報告番号	種別番号	実測番号	器種	出土位置		法量 (cm)			成形・装飾・文様の種類			胎土	構成	色調	残存	備考	時期
				原産地	区	口径	器高	底径	外面	内面	口縁装飾						
556	60	126-04	土製品	AⅡE	D6	包含層	外径 2.4 内径 1.3 高さ 1.5	—	ナデ	ナデ	—	密	やや黄緑	N3/	赤色顔料		
557	60	126-05	土製品	AⅡE	E5	包含層	幅 2.15 高さ 1.1	—	ナデ	—	—	密	黄	7.5YR6/6			
558	69	022-01	土製品	AⅡE	C7	SK19	—	—	ナデ、染織	—	—	粗	黄	2.5YR/2	体部小片		
559	70	112-01	縄文土器深鉢	AⅡE	C2	SK83	36.2	—	沈線、キズミ、ナデ	ナデ	ナデ	粗	黄	10YR6/3	口縁部小片		
560	70	113-05	縄文土器深鉢	AⅡE	C2	SK83	—	—	ナデ、沈線	ナデ	ナデ	粗	黄	10YR6/3	口縁部小片		
561	70	113-06	縄文土器深鉢	AⅡE	SK84	—	—	—	ナデ、キズミ	ナデ	ナデ	やや粗	黄	10YR6/3 10YR7/3	口縁部小片		
562	70	113-09	縄文土器	AⅡE	E3	SK84	—	—	貼付け実帯	ナデ	—	やや粗	黄	7.5YR6/4 10YR6/2	体部小片		
563	70	113-01	縄文土器	AⅡE	E3	SK84	—	—	9.7 縞帯、キズミ、ナデ	ナデ	—	粗	黄	2.5Y5/4	底部小片		
564	70	105-04	縄文土器深鉢	AⅡE	D.19	SK66	—	—	沈線、ナデ	ナデ	ナデ	粗	黄	7.5YR6/4	口縁部小片		Ⅱ
565	70	105-07	縄文土器深鉢	AⅡE	D.18	SK66	—	—	染織	ナデ	ナデ	粗	黄	10YR3/2	口縁部小片		Ⅱ
566	70	106-02	縄文土器深鉢	AⅡE	D.19	SK66	—	—	ナデ	ナデ	キズミ	粗	黄	10YR7/3	口縁部小片		Ⅱ
567	70	105-08	縄文土器深鉢	AⅡE	C7	SK74	—	—	沈線、ミガキ	ナデ	—	粗	黄	7.5YR5/1	体部小片	赤色顔料	
568	70	106-03	縄文土器深鉢	AⅡE	C7	SK74	—	—	染織	ナデ	キズミ	やや粗	黄	10YR6/2	口縁部小片		
569	70	104-06	縄文土器深鉢	AⅡE	C7	SK74	—	—	染織	ナデ	ナデ	やや粗	黄	10YR6/2	口縁部小片		
570	70	107-03	縄文土器深鉢	AⅡE	B8	SK96	—	—	染織	ナデ	キズミ	粗	黄	10YR2/2 10YR6/3	口縁部小片		Ⅱ
571	70	107-02	縄文土器深鉢	AⅡE	B8	SK96	—	—	染織	染織	ナデ	やや粗	黄	10YR6/2 7.5YR4/2	口縁部小片		Ⅱ
572	70	107-01	縄文土器	AⅡE	B8	SK96	—	—	2.2 染織	ナデ	—	粗	黄	10YR7/4 2.5YR6/1	底部小片		
573	70	105-05	縄文土器深鉢	AⅡE	C8	SK71	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	粗	黄	10YR5/2	口縁部小片		
574	70	106-01	縄文土器深鉢	AⅡE	C7	SK73	—	—	染織	ナデ	キズミ	粗	黄	7.5YR6/2	口縁部小片		Ⅱ
575	70	106-04	縄文土器深鉢	AⅡE	C7	SK73	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	粗	黄	7.5YR7/6	口縁部小片		
576	70	106-05	縄文土器深鉢	AⅡE	C7	SK73	—	—	ナデ、染織	ナデ	キズミ	粗	黄	10YR7/4	口縁部小片		Ⅱ
577	70	105-02	縄文土器深鉢	AⅡE	C7	SK73	—	—	ナデ、ケズリ	ナデ	ナデ	粗	黄	10YR7/2	口縁部小片		Ⅱ
578	70	104-03	縄文土器深鉢	AⅡE	C7	SK73	—	—	ナデ、ケズリ	ケズリ	ナデ	粗	黄	10YR6/2	口縁部小片		Ⅱ
579	70	105-01	縄文土器深鉢	AⅡE	C7	SK73	—	—	染織、ナデ	ナデ	ナデ	粗	黄	7.5YR7/4	口縁部小片		Ⅱ
580	70	104-02	縄文土器深鉢	AⅡE	C7	SK73	—	—	ナデ	ナデ、ケズリ	ナデ	粗	黄	10YR7/3	口縁部小片		Ⅱ
581	70	104-05	縄文土器深鉢	AⅡE	C7	SK73	—	—	染織、ナデ、ケズリ	ナデ	ナデ	粗	黄	7.5YR6/1	口縁部小片		
582	70	104-07	縄文土器深鉢	AⅡE	C7	SK73	—	—	染織	ナデ	ナデ	粗	黄	7.5YR6/3	口縁部小片		Ⅱ
583	70	106-06	縄文土器深鉢	AⅡE	C7	SK73	—	—	染織、ナデ	ナデ	ナデ	粗	黄	7.5YR7/4	口縁部小片		Ⅱ
584	70	105-03	縄文土器深鉢	AⅡE	B8	SK69	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	粗	黄	N1.5/	口縁部小片		
585	70	104-08	縄文土器深鉢	AⅡE	B8	SK69	—	—	染織、ナデ	ナデ	ナデ	粗	黄	10YR5/2	口縁部小片		
586	70	107-04	縄文土器深鉢	AⅡE	B7	SK76	—	—	染織	ナデ	ナデ	やや粗	黄	N2/	口縁部小片		
587	70	105-06	縄文土器深鉢	AⅡE	B8	SK66	—	—	染織	ナデ	ナデ	粗	やや粗	10YR6/2	口縁部小片		
588	70	104-01	縄文土器浅鉢	AⅡE	C8	SK77	12.8	—	ミガキ、ナデ	ナデ	ナデ	粗	黄	7.5YR6/2	口縁部小片		Ⅳ
589	70	113-02	縄文土器深鉢	AⅡE	B2	SK85	—	—	染織、ナデ	ナデ	キズミ	やや粗	黄	7.5YR6/3 2.5Y5/1	口縁部小片		Ⅱ
590	70	113-06	縄文土器深鉢	AⅡE	B2	SK85	—	—	染織、ナデ	ナデ	キズミ	粗	黄	10YR6/2 10YR6/3	口縁部小片		Ⅱ
591	70	113-03	縄文土器深鉢	AⅡE	B2	SK85	—	—	染織、ナデ	ナデ	ナデ	やや粗	黄	10YR6/2	口縁部小片		Ⅱ
592	70	113-04	縄文土器深鉢	AⅡE	B2	SK85	—	—	実帯、ナデ	ナデ	ナデ	やや粗	黄	10YR7/2	口縁部小片		Ⅳ

第21表 土器・土製品観察表16

報告番号	種別番号	実測番号	器種	出土位置		法量(cm)			成形・装飾・文様の種類			胎土	構成	色調	残存	備考	時期	
				原産地	出土層	口径	器高	底径	外面	内面	口縁装飾							
593	70	113-07	縄文土器深鉢	AⅡE	E2	XS05	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	やや粗	黒	10YR7/2 10YR5/2	口縁部 小片		IV
594	71	109-06	縄文土器深鉢	AⅡE	E2	下層 P115	—	—	—	ナデ、沈線	ナデ	ナデ	粗	黒	10YR7/3	口縁部 小片		
595	71	109-02	縄文土器深鉢	AⅡE	C3	下層 P115	—	—	—	キザミ、ナデ	ナデ	ナデ	やや粗	黒	7.5YR7/4	口縁部 小片	2層目	
596	71	134-06	縄文土器深鉢	AⅡE	B4	下層 P115	—	—	—	滑溜・キザミ、 沈線	ナデ	—	やや粗	黒	10YR5/2	体部 小片	2層目	
597	71	110-04	縄文土器深鉢	AⅡE	D7	下層 P115	—	—	—	ナデ、沈線	ナデ	—	粗	黒	7.5YR7/4 7.5YR7/3	体部 小片		
598	71	134-07	縄文土器深鉢	AⅡE	C3	下層 P112	—	—	—	—	ナデ	—	やや粗	黒	10YR6/3 2.5Y1/1	体部 小片	2層目	
599	71	108-02	縄文土器深鉢	AⅡE	C1	下層 P113	—	—	—	条線、沈線、ナ デ	ナデ	—	粗	黒	10YR7/3	体部 小片		
600	71	108-05	縄文土器深鉢	AⅡE	B3	下層 P112	—	—	—	ミナギ、沈線	ミナギ	—	やや粗	黒	10YR2/1 10YR4/1	体部 小片	赤色顔料	
601	71	109-03	縄文土器深鉢	AⅡE	C3	下層 P116	—	—	—	沈線、割突、ナ デ	ナデ	—	粗	黒	7.5YR4/1 7.5YR5/2	体部 小片		
602	71	054-02	縄文土器深鉢	AⅡE	D7	P111	—	—	—	条線	ナデ	キザミ	やや粗	黒	7.5YR7/3 10YR4/1	口縁部 小片		II
603	71	111-02	縄文土器深鉢	AⅡE	E6	下層 P112	—	—	—	条線	ナデ	キザミ	やや粗	黒	10YR6/2 10YR7/2	口縁部 小片		II
604	71	109-05	縄文土器深鉢	AⅡE	O6	下層 P112	—	—	—	条線	ナデ	キザミ	やや粗	黒	2.5Y4/1	口縁部 小片		II
605	71	109-08	縄文土器深鉢	AⅡE	D4	下層 P117	—	—	—	条線	ナデ	キザミ	粗	黒	10YR8/3	口縁部 小片		II
606	71	108-01	縄文土器深鉢	AⅡE	D4	下層 P111	—	—	—	条線	ナデ	キザミ	やや粗	黒	10YR8/2	口縁部 小片		II
607	71	110-06	縄文土器深鉢	AⅡE	E6	下層 P113	—	—	—	条線	ナデ	キザミ	やや粗	黒	10YR4/1 10YR4/1	口縁部 小片		II
608	71	107-05	縄文土器深鉢	AⅡE	D0	下層 P111	—	—	—	条線、ナデ	ナデ	キザミ	粗	黒	10YR6/3 7.5YR6/4	口縁部 小片		II
609	71	133-05	縄文土器深鉢	AⅡE	O3	下層 P118	—	—	—	条線	ナデ	ナデ	やや粗	黒	2.5Y6/1	口縁部 小片	2層目	IV
610	71	111-07	縄文土器深鉢	AⅡE	D7	下層 P112	—	—	—	条線、ナデ	ナデ	ナデ	やや粗	黒	10YR6/2 10YR6/1	口縁部 小片		IV
611	71	108-03	縄文土器深鉢	AⅡE	O4	下層 P113	—	—	—	条線	ナデ	ナデ	やや粗	黒	10YR7/4	口縁部 小片		IV
612	71	108-07	縄文土器深鉢	AⅡE	O4	下層 P113	—	—	—	条線	ナデ	ナデ	やや粗	黒	7.5YR6/4 7.5YR5/2	口縁部 小片		IV
613	71	108-08	縄文土器深鉢	AⅡE	E5	下層 P113	—	—	—	条線	ナデ	ナデ	粗	黒	10YR3/1 10YR6/3	口縁部 小片		IV
614	71	107-06	縄文土器深鉢	AⅡE	O3	下層 P113	—	—	—	条線	ナデ	ナデ	粗	黒	10YR5/3 10YR5/1	口縁部 小片		IV
615	71	133-02	縄文土器深鉢	AⅡE	E3	下層 P114	—	—	—	条線	ナデ	ナデ	やや粗	黒	10YR8/3 2.5Y4/1	口縁部 小片	2層目	IV
616	71	134-05	縄文土器深鉢	AⅡE	B4	下層 P115	—	—	—	条線	ナデ	ナデ	やや粗	黒	10YR7/2	口縁部 小片	2層目	IV
617	71	109-01	縄文土器深鉢	AⅡE	B5	下層 P112	—	—	—	条線	ナデ	ナデ	やや粗	黒	10YR5/3 7.5YR6/3	口縁部 小片		IV
618	71	111-04	縄文土器浅鉢	AⅡE	D7	下層 P112	—	—	—	ナデ	沈線、ミナギ	ナデ	やや粗	黒	7.5YR5/2 7.5YR7/4	口縁部 小片		IV
619	71	111-05	縄文土器浅鉢	AⅡE	D7	下層 P115	—	—	—	ミナギ	ナデ	ナデ	やや粗	黒	10YR7/2 10YR7/3	口縁部 小片		IV
620	71	110-05	縄文土器浅鉢	AⅡE	D7	下層 P115	—	—	—	沈線、ナデ	沈線、ナデ	ナデ	やや粗	黒	7.5YR4/1 5YR4/1	口縁部 小片		IV
621	71	111-06	縄文土器浅鉢	AⅡE	E6	下層 P112	—	—	—	ミナギ	ミナギ	ミナギ	やや粗	黒	10YR5/2	口縁部 小片		IV
622	71	108-08	縄文土器深鉢	AⅡE	O6	下層 P113	—	—	—	ミナギ	ミナギ	沈線	やや粗	黒	10YR3/1	口縁部 小片		IV
623	71	107-07	縄文土器浅鉢	AⅡE	C1	下層 P111	—	—	—	浮線、ミナギ	ミナギ	—	粗	黒	10YR5/3	体部 小片		IV
624	71	107-08	縄文土器深鉢	AⅡE	O1	下層 P111	—	—	—	突帯、ミナギ	条線	ナデ	粗	黒	10YR6/3	口縁部 小片		IV
625	71	110-01	縄文土器	AⅡE	O6	下層 P114	—	—	3.0	ケズリ、ナデ	ナデ	—	粗	黒	10YR7/3 10YR4/1	底部 6/12		
626	71	110-02	縄文土器	AⅡE	O7	下層 P112	—	—	2.5	ケズリ、ナデ	ナデ	—	粗	黒	10YR6/2 7.5YR6/3	底部 6/12		
627	71	110-03	縄文土器	AⅡE	O7	下層 P112	—	—	3.0	ケズリ、ナデ	ナデ	—	粗	やや 平灰	10YR6/3 10YR6/1	底部 6/12		
628	71	109-07	縄文土器	AⅡE	O4	下層 P113	—	—	7.0	ミナギ、ケズリ	ナデ	—	粗	黒	10YR5/1	底部 4/12	赤色顔料	
629	72	128-02	縄文土器	AⅡE	E2	下部 削倉層	—	—	—	成形、縄文	ナデ	—	粗	黒	7.5YR6/6	体部 小片		

第22表 土器・土製品観察表17

報告番号	種別番号	実用番号	器種	出土位置		法量 (cm)			成形・装飾・文様の種類			胎土	構成	色調	残存	備考	時期
				調査区	層位	口径	器高	底径	外 面	内 面	口縁装飾						
630	72	128-01	縄文土器	AⅡE D3	下層 包含層	—	—	—	彫刻、縄文	ナズ	—	やや粗	並	黄 5YR6/4 内 7.5YR5/2	体部 小片		
631	72	128-04	縄文土器深鉢	AⅡE E2	下層 包含層	—	—	—	沈線?、キザミ	ナズ	—	粗	並	黄 7.5YR5/4 内 10YR6/4	体部 小片		
632	72	132-07	縄文土器深鉢	AⅡE E3	下層 包含層	—	—	—	縄文、刺突	ナズ	縄文	やや粗	並	2.5YR2	口縁部 小片	2期目	
633	72	133-08	縄文土器深鉢	AⅡE E3	下層 包含層	—	—	—	沈線、縄文	ナズ	ヨコナズ	粗	並	7.5Y5/4	口縁部 小片	2期目	
634	72	131-02	縄文土器深鉢	AⅡE E3	下層 包含層	—	—	—	縄文、沈線	ナズ	ヨコナズ	やや粗	並	黄 10YR5/3 内 5YR5/4	口縁部 小片		
635	72	128-07	縄文土器深鉢	AⅡE E3	下層 包含層	—	—	—	横目、沈線	ナズ	横目	粗	並	5YR5/4	口縁部 小片		
636	72	129-02	縄文土器	AⅡE C3	下層 包含層	—	—	—	帯帯・刺突、ナ ズ	ナズ	キザミ	粗	並	10YR6/4	口縁部 小片		
637	72	129-01	縄文土器	AⅡE D6	下層 包含層	—	—	—	ナズ、刺突、沈 線	ナズ	ナズ	粗	並	黄 7.5YR6/4 内 10YR7/3	口縁部 小片	破孔	
638	72	134-02	縄文土器	AⅡE E3	下層 包含層	—	—	—	縄文、沈線	ナズ	縄文	粗	並	黄 7.5YR5/2 内 5YR5/4	口縁部 小片	2期目	
639	72	134-01	縄文土器	AⅡE E2	下層 包含層	—	—	—	ナズ	ナズ	ナズ	粗	並	10YR6/4	口縁部 小片	2期目	
640	72	128-06	縄文土器	AⅡE C2	下層 包含層	—	—	—	ナズ、沈線	オウエ	キザミ	粗	並	黄 7.5YR7/4 内 10YR8/3	口縁部 小片		
641	72	128-05	縄文土器	AⅡE C2	下層 包含層	—	—	—	ナズ、沈線	ナズ	ナズ	やや粗	並	黄 7.5YR6/4 内 10YR8/3	口縁部 小片		
642	72	129-06	縄文土器	AⅡE C3	下層 包含層	—	—	—	ナズ、沈線	ナズ	—	粗	並	黄 5YR7/4 内 10YR5/1	体部 小片		
643	72	129-03	縄文土器	AⅡE C4	下層 包含層	—	—	—	ナズ、沈線	ナズ	—	やや粗	並	黄 5YR7/6 内 10YR7/4	体部 小片		
644	72	128-03	縄文土器	AⅡE B2	下層 包含層	—	—	—	ナズ、沈線	ナズ	—	粗	並	7.5YR7/4	体部 小片		
645	72	131-01	縄文土器	AⅡE E6	下層 包含層	—	—	—	沈線	ナズ	—	やや密	並	黄 10YR7/6 内 7.5YR6/5	体部 小片		
646	72	130-02	縄文土器	AⅡE E3	下層 包含層	—	—	—	ナズ、沈線	ナズ	—	粗	並	7.5YR6/4	体部 小片		
647	72	129-07	縄文土器	AⅡE C2	下層 包含層	—	—	—	ナズ、沈線	ナズ	—	粗	並	黄 10YR4/1 内 10YR6/3	体部 小片		
648	72	132-02	縄文土器	AⅡE B2	下層 包含層	—	—	—	ナズ、沈線	ナズ	—	やや粗	並	黄 10YR6/2 内 10YR7/3	体部 小片	2期目	
649	72	129-05	縄文土器	AⅡE D0	下層 包含層	—	—	—	条痕	ナズ	—	粗	並	黄 7.5YR5/4 内 10YR7/3	体部 小片		
650	72	130-07	縄文土器	AⅡE D1	下層 包含層	—	—	—	ナズ、沈線	ナズ	—	粗	並	黄 10YR7/2 内 10YR8/3	体部 小片		
651	72	128-08	縄文土器深鉢	AⅡE E5	下層 包含層	—	—	—	帯帯・キザミ、 ナズ	ナズ	ナズ	粗	並	黄 10YR8/3 内 7.5YR6/5	体部 小片		
652	72	130-01	縄文土器	AⅡE E2	下層 包含層	—	—	—	縄文、沈線	ナズ	—	やや粗	並	10YR6/2	体部 小片		
653	72	130-08	縄文土器	AⅡE D0	下層 包含層	—	—	—	ナズ、沈線、縄 文	ナズ	—	粗	並	5YR5/4	体部 小片		
654	72	130-05	縄文土器	AⅡE B3	下層 包含層	—	—	—	沈線、縄文、ナ ズ	ナズ	—	やや粗	並	10YR6/4	体部 小片		
655	72	130-03	縄文土器	AⅡE E3	下層 包含層	—	—	—	縄文	ナズ	—	粗	並	黄 10YR4/1 内 10YR6/4	体部 小片		
656	72	134-03	縄文土器	AⅡE E3	下層 包含層	—	—	—	縄文	ナズ	—	やや粗	並	黄 10YR2/2 内 7.5YR7/4	体部 小片	2期目	
657	72	129-08	縄文土器	AⅡE E6	下層 包含層	—	—	—	ナズ、沈線、縄 文	ナズ	—	やや粗	並	黄 7.5YR8/4 内 2.5YR1	体部 小片		
658	72	130-06	縄文土器	AⅡE C3	下層 包含層	—	—	—	縄文	ナズ	—	粗	並	黄 7.5YR4/2 内 10YR5/2	体部 小片		
659	72	129-04	縄文土器	AⅡE C3	下層 包含層	—	—	—	条痕、ナズ	ナズ	—	粗	並	7.5YR6/4	体部 小片		
660	73	118-06	縄文土器深鉢	AⅡE D4	下層 包含層	—	—	—	条痕	ナズ	キザミ	やや粗	並	黄 10YR5/3 内 N4	口縁部 小片		Ⅱ
661	73	118-03	縄文土器深鉢	AⅡE E7	下層 包含層	—	—	—	条痕	ナズ	キザミ	粗	並	黄 2.5Y1/1 内 2.5Y2/1	口縁部 小片		Ⅱ
662	73	116-08	縄文土器深鉢	AⅡE C2	下層 包含層	—	—	—	条痕	ナズ	キザミ	粗	並	7.5YR5/2	口縁部 小片		Ⅱ
663	73	132-06	縄文土器深鉢	AⅡE E1	下層 包含層	—	—	—	条痕	ナズ	キザミ	やや粗	並	黄 7.5YR7/4 内 2.5Y1/1	口縁部 小片	2期目	Ⅱ
664	73	117-09	縄文土器深鉢	AⅡE E6	下層 包含層	—	—	—	条痕	ナズ	キザミ	やや密	並	10YR2/1	口縁部 小片		Ⅱ
665	73	119-01	縄文土器深鉢	AⅡE D9	下層 包含層	—	—	—	条痕	ナズ、沈線	キザミ	やや粗	並	黄 10YR7/2 内 5Y2/1	口縁部 小片		Ⅱ
666	73	118-02	縄文土器深鉢	AⅡE E5	下層 包含層	—	—	—	条痕、ナズ	ナズ	キザミ	やや粗	並	黄 10YR7/1 内 N6	口縁部 小片		Ⅱ

第23表 土器・土製品観察表18

報告 番号	検出 番号	実測 番号	器 種	出土位置		法量 (cm)			成形・装飾・文様の種類			胎土	状況	色 調	残存	備考	時期	
				調査 区	グリ ッド	口縁 位置	口径	器高	底径	外 径	内 径							口縁端部
667	73	117-10	縄文土器深鉢	AⅡ	C2	下層 包含層	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	Ⅱ
668	73	118-05	縄文土器深鉢	AⅡ	E2	下層 包含層	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	Ⅱ
669	73	118-08	縄文土器深鉢	AⅡ	E3	下層 包含層	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	Ⅱ
670	73	118-07	縄文土器深鉢	AⅡ	B5	下層 包含層	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	Ⅱ
671	73	132-04	縄文土器深鉢	AⅡ	B2	下層 包含層	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2期目	Ⅱ
672	73	132-05	縄文土器深鉢	AⅡ	B2	下層 包含層	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2期目	Ⅱ
673	73	118-04	縄文土器深鉢	AⅡ	C3	下層 包含層	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	Ⅲ
674	73	117-06	縄文土器深鉢	AⅡ	B3	下層 包含層	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	Ⅳ
675	73	117-06	縄文土器深鉢	AⅡ	D6	下層 包含層	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	Ⅳ
676	73	134-04	縄文土器深鉢	AⅡ	B3	下層 包含層	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2期目	V
677	73	117-03	縄文土器深鉢	AⅡ	B2	下層 包含層	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	Ⅳ
678	73	117-05	縄文土器深鉢	AⅡ	D9	下層 包含層	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	V
679	73	117-04	縄文土器深鉢	AⅡ	C4	下層 包含層	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	Ⅳ
680	73	117-02	縄文土器深鉢	AⅡ	E2	下層 包含層	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	Ⅳ
681	73	119-05	縄文土器深鉢	AⅡ	C2	下層 包含層	12.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	Ⅳ
682	73	116-02	縄文土器深鉢	AⅡ	B2	下層 包含層	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	Ⅳ
683	73	116-07	縄文土器深鉢	AⅡ	C1	下層 包含層	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	Ⅳ
684	73	133-01	縄文土器深鉢	AⅡ	B2	下層 包含層	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2期目	Ⅳ
685	73	116-03	縄文土器深鉢	AⅡ	C8	下層 包含層	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	Ⅳ
686	73	119-04	縄文土器深鉢	AⅡ	E4	下層 包含層	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	Ⅳ
687	73	115-04	縄文土器深鉢	AⅡ	B3	下層 包含層	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	Ⅳ
688	73	115-06	縄文土器深鉢	AⅡ	C7	下層 包含層	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	Ⅳ
689	73	115-08	縄文土器深鉢	AⅡ	D6	下層 包含層	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	Ⅳ
690	73	133-03	縄文土器深鉢	AⅡ	G4	下層 包含層	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2期目	Ⅳ
691	73	115-01	縄文土器深鉢	AⅡ	B3	下層 包含層	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	Ⅳ
692	73	115-07	縄文土器深鉢	AⅡ	D6	下層 包含層	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	Ⅳ
693	73	132-01	縄文土器深鉢	AⅡ	B2	下層 包含層	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2期目	Ⅳ
694	73	115-05	縄文土器深鉢	AⅡ	E2	下層 包含層	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	Ⅳ
695	73	132-08	縄文土器深鉢	AⅡ	D3	下層 包含層	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2期目	Ⅳ
696	73	133-06	縄文土器深鉢	AⅡ	B2	下層 包含層	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	Ⅳ
697	73	133-07	縄文土器深鉢	AⅡ	B2	下層 包含層	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2期目	Ⅳ
698	74	114-01	縄文土器深鉢	AⅡ	E3	下層 包含層	20.5	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	Ⅳ
699	74	117-07	縄文土器深鉢	AⅡ	G6	下層 包含層	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	Ⅳ
700	74	117-01	縄文土器深鉢	AⅡ	B6	下層 包含層	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	Ⅳ
701	74	119-02	縄文土器深鉢	AⅡ	C3	下層 包含層	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	Ⅳ
702	74	116-05	縄文土器深鉢	AⅡ	D5	下層 包含層	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	Ⅳ
703	74	115-02	縄文土器深鉢	AⅡ	C5	下層 包含層	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	Ⅳ

第24表 土器・土製品観察表15

報告 番号	検出 番号	実測 番号	器 種	出土位置		法量 (cm)			成形・装飾・文様の種類			胎土	焼成	色 調	残存	備考	時期
				調査 区	グリ ッド 座標・ 方位	口径	器高	底径	外 径	内 径	口縁部部						
704	74	118-01	縄文土器浅鉢	AⅡ	C1	—	—	—	3.7方キ	3.7方キ	ナデ	や中密	並	H・10R4/1 内・10R6/1	口縁部 小片		IV
705	74	119-03	縄文土器壺	AⅡ	C4	12.0	—	—	1.7線、3.7方キ	1.7線、3.7方キ	ナデ	や中密	並	H・2.5Y/1 内・M4/1	口縁部 小片		IV
706	74	115-03	縄文土器深鉢	AⅡ	E6	—	—	—	ケズリ、ナデ	ナデ	ナデ	粗	並	H・2.5Y/1 内・2.5Y6/1	口縁部 小片		IV
707	74	116-06	縄文土器深鉢	AⅡ	E8	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	粗	並	H・2.5Y/1 内・2.5Y6/1	口縁部 小片		IV
708	74	116-04	縄文土器深鉢	AⅡ	E5	—	—	—	3.7方キ	ナデ	ナデ	粗	並	H・5Y6/3 内・10R7/3	口縁部 小片		IV
709	74	132-03	縄文土器深鉢	AⅡ	E2	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	や中密	並	H・10R4/2 内・10R7/3	口縁部 小片	2期目	
710	74	116-01	縄文土器深鉢	AⅡ	D9	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	や中密	並	H・10R6/3 内・2.5Y6/2	口縁部 小片		IV
711	74	131-03	縄文土器浅鉢	AⅡ	E3	—	—	—	1.7線、キザミ、 3.7方キ	ナデ	ナデ	密	並	H・10R7/3 内・10R7/3	口縁部 小片		
712	74	131-04	縄文土器浅鉢	AⅡ	E7	—	—	—	1.7線	ナデ	ナデ	密	並	H・10R7/6 内・10R7/4	口縁部 小片		IV
713	74	114-02	縄文土器	AⅡ	B3	—	—	—	4.0	ナデ	ナデ	—	粗	並	H・5Y7/4	底 部	
714	74	114-04	縄文土器	AⅡ	C5	—	—	—	4.0	ナデ、ケズリ	ナデ、ケズリ	—	粗	並	10Y6/2	底 部 6.12	
715	74	114-02	縄文土器	AⅡ	C8	—	—	—	5.3	ケズリ、ナデ	ケズリ、ナデ	—	粗	並	H・10R7/3 内・10R6/1	底 部	
716	74	131-06	土製品	AⅡ	C3	残存 長 4.0	厚み 0.5~ 0.55	円孔 径 0.45	ナデ	ナデ	—	密	並	H・10R4/1 内・M3/1		土器片	
717	75	164-04	縄文土器	BⅠ	J4	3K96	—	—	縄文、1.7線	3.7方キ	—	や中密	並	2.5Y6/2	体 小 片		
718	75	166-09	縄文土器	BⅠ	J4	3K96	—	—	1.7線、垂流	ナデ	—	粗	並	10R7/4	体 小 片		
719	75	174-04	縄文土器	BⅠ	J5.4	3K100	—	—	縄文、1.7線、ナ デ	ココナデ、ナ デ	縄文	粗	並	10Y6/3	口縁部 小片		
720	75	170-04	縄文土器	BⅠ	J6	3K100	—	—	縄文	ナデ	—	や中密	やや良	H・10R7/4 内・2.5R7/6	体 小 片		
721	75	171-01	縄文土器	BⅠ	J5.6	3K100	—	—	縄文、ナデ	ナデ	—	や中密	やや良	H・M3 内・2.5Y6/4	体 小 片		
722	75	170-05	縄文土器	BⅠ	J6	3K100	—	—	縄文	ナデ	—	や中密	やや良	H・2.5Y6/4 内・2.5Y7/6	体 小 片		
723	75	170-03	縄文土器	BⅠ	J6	3K100	—	—	ナデ	ナデ	—	や中密	やや良	H・10R6/3 内・10R7/2	体 小 片		
724	75	171-03	縄文土器	BⅠ	J6	3K100	—	—	ナデ、1.7線	ナデ	—	や中密	やや良	H・2.5Y7/2 内・10R3/1	体 小 片		
725	75	181-01	縄文土器双耳 壺	BⅠ	J6.5	3K100	—	—	3.7方キ、縄文	ナデ	—	粗	良	10R3/1 2.5Y4/1	体 小 片		
726	76	173-05	縄文土器深鉢	BⅠ	J5	3Z104	—	—	垂流、ナデ	ナデ	キザミ	や中密	並	10Y6/3	口縁部 小片		
727	76	176-02	縄文土器深鉢	BⅠ	J4	3Z104	—	—	割突	ナデ	ナデ	密	やや不 良	H・2.5Y4/2 内・2.5Y7/4	口縁部 小片		
728	76	175-02	縄文土器深鉢	BⅠ	J3	3Z104	—	—	1.7線、ナデ	ナデ	ナデ	や中密	並	10Y5/2	口縁部 小片		
729	76	175-01	縄文土器深鉢	BⅠ	J5	3Z104	—	—	1.7線、ナデ	ナデ	—	密	やや不 良	10Y5/3	体 小 片		
730	76	175-03	縄文土器深鉢	BⅠ	I5	3Z104	—	—	1.7線、ナデ	ナデ	—	密	やや不 良	H・10R6/4 内・10R5/3	体 小 片		
731	76	180-07	縄文土器深鉢	BⅠ	I5	3Z104	—	—	垂流、キザミ、 ナデ	ナデ	—	や中密	並	H・2.5Y6/2 内・10R5/2	体 小 片		
732	76	180-08	縄文土器深鉢	BⅠ	I5	3Z104	—	—	垂流、キザミ、 ナデ	ナデ	—	や中密	並	H・10R6/3 内・10R5/2	体 小 片		
733	76	173-02	縄文土器深鉢	BⅠ	H6	3Z104	—	—	1.7線、割突、ナ デ	ナデ	ナデ	や中密	並	H・10R7/3 内・10R7/3	口縁部 小片		
734	76	174-06	縄文土器深鉢	BⅠ	H6	3Z104	—	—	垂流、割突、ナ デ	ナデ	ナデ	粗	並	H・10R6/2 内・2.5Y6/3	口縁部 小片		
735	76	182-02	縄文土器深鉢	BⅠ	H14	3Z106	—	—	垂流、割突、縄 文、1.7線	ナデ	ナデ	粗	良	2.5Y7/3	口縁部 小片		
736	76	178-05	縄文土器深鉢	BⅠ	I3	3Z104	—	—	1.7線	3.7方キ	ナデ	や中密	並	H・10R7/3 内・2.5Y7/4	口縁部 小片		
737	76	175-06	縄文土器深鉢	BⅠ	I5	3Z104	—	—	ナデ、1.7線、キ ザミ	ナデ	ナデ	や中密	並	H・10R6/4 内・10R4/2	口縁部 小片		
738	76	159-04	縄文土器	BⅠ	I5	3Z104	—	—	縄文、1.7線、ナ デ	ナデ	ナデ	や中密	並	2.5Y7/3	口縁部 小片		
739	76	177-07	縄文土器	BⅠ	I5 16	3Z104	—	—	1.7線	ナデ	ナデ	や中密	やや良	1Y6/4	口縁部 小片		
740	76	177-06	縄文土器	BⅠ	H6	3Z104	—	—	1.7線	ナデ	ナデ	や中密	やや良	H・5Y6/4 内・2.5Y6/1	口縁部 小片		

第25表 土器・土製品観察表20

報告 番号	種別 番号	実用 番号	器 種	出土位置		法量 (cm)			成形・装飾・文様の種類			胎土	構成	色 調	残存	備考	時期	
				調査 区	子目・品類・ 部位	口径	器高	底径	外 面	内 面	口縁種類							
741	76	180-01	縄文土器	B1	H5	32/104	—	—	—	ナデ、沈線	ナデ	ナデ	やや密	並	外 2.5/3/1 内 2.5/7/3	口縁部 小片		
742	76	175-08	縄文土器	B1	H6	32/104	—	—	—	沈線、キザミ	ナデ	ナデ	密	並	10/96/4	口縁部 小片		
743	76	177-04	縄文土器	B1	H5	32/104	—	—	—	沈線、3方キ	ナデ	—	やや密	やや良	5/95/4	体部 小片		
744	76	172-03	縄文土器	B1	H5	32/104	—	—	—	ナデ、沈線	ナデ	ナデ	粗	並	10/96/3	口縁部 小片		
745	76	172-02	縄文土器	B1	H5	32/104	—	—	—	ナデ、沈線	ナデ	ナデ	粗	並	外 10/97/3 内 2.5/97/4	口縁部 小片		
746	76	171-04	縄文土器	B1	H5	32/104	—	—	—	磨帯・キザミ、 沈線	ナデ	ナデ	やや粗	やや良	外 10/97/2 内 10/95/1	口縁部 小片		
747	76	168-01	縄文土器	B1	H5	32/104	—	—	—	縄文、沈線	ナデ	—	粗	やや良	外 10/98/3 内 10/97/4	体部 小片		
748	76	175-07	縄文土器	B1	H3	32/104	—	—	—	磨帯・削突	ナデ	—	密	並	1.5/97/6	体部 小片		
749	76	180-06	縄文土器	B1	H4	32/104	—	—	—	ナデ、沈線	ナデ	—	やや密	並	7.5/96/4	体部 小片		
750	76	168-06	縄文土器	B1	H3	32/104	—	—	—	縄文、沈線	ナデ	—	粗	並	外 7.5/96/4 内 7.5/96/4	体部 小片		
751	76	161-02	縄文土器	B1	H5	32/104	—	—	—	縄文、沈線、 打キ	ナデ	—	やや粗	並	外 10/96/2 内 2.5/95/1	体部 小片		
752	76	161-07	縄文土器	B1	H5	32/104	—	—	—	縄文、沈線	ナデ	—	やや粗	並	外 7.5/96/4 内 5/95/6	体部 小片		
753	76	180-04	縄文土器	B1	H5	32/104	—	—	—	縄文、沈線、 打キ	ナデ	—	やや密	並	外 7.5/94/1 内 10/97/3	体部 小片		
754	76	159-05	縄文土器	B1	H4	32/104	—	—	—	縄文、沈線、 打キ	ナデ	—	やや密	並	外 10/98/3 内 10/94/1	体部 小片		
755	76	159-08	縄文土器	B1	H5	32/104	—	—	—	縄文、沈線、 打キ	ナデ	—	やや粗	並	2.5/95/1	体部 小片		
756	76	161-03	縄文土器	B1	H5	32/104	—	—	—	縄文、沈線	ナデ	—	やや粗	並	外 10/94/1 内 10/96/3	体部 小片		
757	76	164-05	縄文土器	B1	H5	32/104	—	—	—	ナデ	ナデ	—	やや粗	並	外 2.5/94/1 内 10/98/3	体部 小片		
758	76	161-08	縄文土器	B1	H5	32/104	—	—	—	縄文、沈線	ナデ	—	やや粗	並	外 7.5/94/1 内 10/96/4	体部 小片		
759	76	180-07	縄文土器	B1	H5	32/104	—	—	—	縄文、沈線、 3方キ	ナデ	—	粗	並	10/97/3	体部 小片		
760	76	177-02	縄文土器	B1	H5	32/104	—	—	—	磨帯、沈線	ナデ	—	やや密	並	外 5/95/4 内 2.5/96/4	体部 小片		
761	76	169-02	縄文土器	B1	H5	32/104	—	—	—	磨帯、沈線	ナデ	—	粗	並	10/97/3	体部 小片		
762	76	179-02	縄文土器	B1	H5	32/104	—	—	—	沈線、磨帯	ナデ	—	やや密	並	外 10/97/3 内 2.5/96/2	体部 小片		
763	76	179-06	縄文土器	B1	H5	32/104	—	—	—	沈線、ナデ	ナデ	—	やや密	並	外 10/97/4 内 2.5/97/2	体部 小片		
764	76	169-06	縄文土器	B1	H5	32/104	—	—	—	沈線	3方キ	—	粗	並	外 2.5/96/2 内 2.5/95/1	体部 小片		
765	76	185-04	縄文土器	B1	H5	32/104	—	—	—	ナデ、沈線	ナデ	—	やや密	不良	2.5/96/2	体部 小片		
766	76	185-07	縄文土器	B1	H5	32/104	—	—	—	ナデ、沈線	ナデ	—	粗	不良	2.5/95/2	体部 小片		
767	76	166-01	縄文土器	B1	H5	32/104	—	—	—	ナデ、沈線	ナデ	—	粗	やや 不良	外 7.5/93/1 内 10/97/4	体部 小片		
768	76	168-05	縄文土器	B1	H5	32/104	—	—	—	ナデ、沈線	ナデ	—	粗	並	外 5/94/3 内 3/96/4	体部 小片		
769	76	165-02	縄文土器	B1	H5	32/104	—	—	—	ナデ、沈線	ナデ	—	粗	やや良	外 5/96/6 内 2.5/95/2	体部 小片		
770	77	178-01	縄文土器深鉢	B1	H5	32/104	—	—	—	磨帯・削突、沈 線、ナデ	ナデ	ナデ	粗	並	10/95/3	口縁部 小片		
771	77	183-01	縄文土器双耳 缶	B1	H5	32/104	—	—	—	3方キ	オサエ	—	粗	良	10/97/4 2.5/96/2	体部 小片		
772	78	168-08	縄文土器深鉢	B1	H4	32/104	—	—	—	ナデ、沈線	ナデ	ナデ	やや粗	並	10/96/4	口縁部 小片		
773	78	169-01	縄文土器深鉢	B1	H4	32/104	—	—	—	ナデ、沈線	ナデ	ナデ	やや密	並	10/96/3	口縁部 小片		
774	78	168-02	縄文土器	B1	H5	32/104	—	—	—	ナデ、沈線	ナデ	—	やや粗	並	外 2.5/94/1 内 2.5/95/1	体部 小片		
775	78	185-03	縄文土器	B1	H5	32/104	—	—	—	ナデ、沈線	ナデ	—	粗	不良	外 10/95/1 内 10/97/4	体部 小片		
776	78	168-07	縄文土器	B1	H5	32/104	—	—	—	縄文、沈線	ナデ	—	やや粗	不良	外 7.5/94/1 内 10/95/1	体部 小片		
777	78	185-06	縄文土器	B1	H5	32/104	—	—	—	ナデ、磨帯、沈 線	ナデ	—	粗	不良	外 10/97/4 内 10/97/4	体部 小片		

第26表 土器・土製品観察表21

報告 番号	種別 番号	実測 番号	器 種	出土位置		法量 (cm)		成形・装飾・文様の種類			胎土	構成	色 調	残存	備考	時期	
				調査 区	層位 / 品目・ シド	口径	器高	底径	外 面	内 面							口縁装飾
778	70	163-06	縄文土器深鉢	B1	15	52/104	—	—	—	ナデ、沈線、縄文	ナデ	ナデ	粗	並	1.5/3.1	口縁部 小片	
779	70	163-02	縄文土器深鉢	B1	13	52/104	—	—	—	ナデ、沈線、縄文	ナデ	ナデ	やや粗	並	外 10/96/4 内 2.5/5.2	口縁部 小片	
780	70	162-03	縄文土器深鉢	B1	13	52/104	—	—	—	縄文、沈線	ナデ	ナデ	やや粗	並	2.5/6.2	口縁部 小片	
781	70	163-07	縄文土器深鉢	B1	165	52/104	—	—	—	縄文、沈線	ナデ	—	やや粗	並	2.5/7.3	体 部 小片	
782	70	162-01	縄文土器深鉢	B1	13	52/104	—	—	—	縄文、沈線	ナデ	ナデ	やや粗	並	外 10/96/3 内 10/95/1	口縁部 小片	
783	70	165-05	縄文土器深鉢	B1	165	52/104	—	—	—	縄文、沈線	ナデ	ナデ	粗	不良	外 5/41/1 内 10/98/3	口縁部 小片	
784	70	162-06	縄文土器深鉢	B1	165	52/104	—	—	—	縄文	3方キ	ナデ	やや粗	並	2.5/7.3	口縁部 小片	
785	70	162-04	縄文土器深鉢	B1	165	52/104	—	—	—	沈線、縄文	ナデ	ナデ	やや粗	並	外 2.5/6.2 内 2.5/5.2	口縁部 小片	
786	70	162-05	縄文土器深鉢	B1	165	52/104	—	—	—	縄文、3方キ	縄文、3方キ	縄文	やや粗	並	10/94/1	口縁部 小片	
787	70	160-02	縄文土器	B1	15	52/104	—	—	—	3方キ、縄文、沈線	3方キ	—	密	並	10/96/1	体 部 小片	
788	70	160-01	縄文土器	B1	164	52/104	—	—	—	3方キ、縄文、沈線	3方キ	—	密	並	10/96/1	体 部 小片	
789	70	180-02	縄文土器	B1	15	52/104	—	—	—	ナデ、沈線	ナデ	—	やや粗	並	外 10/96/3 内 10/94/1	体 部 小片	
790	70	161-05	縄文土器	B1	164	52/104	—	—	—	縄文、沈線、3方キ	ナデ	—	粗	並	外 10/97/4 内 2.5/6.3	体 部 小片	
791	70	165-08	縄文土器	B1	15	52/104	—	—	—	縄文、沈線、ナデ	ナデ	—	粗	並	外 2.5/4.1 内 10/96/4	体 部 小片	
792	70	165-01	縄文土器	B1	164	52/104	—	—	—	縄文、沈線	ナデ	—	粗	やや不良	外 2.5/6.2 内 10/97/4	体 部 小片	
793	70	178-08	縄文土器深鉢	B1	165	52/104	—	—	—	縄文	ナデ	ナデ	やや粗	並	10/98/3	口縁部 小片	
794	70	180-04	縄文土器深鉢	B1	165	52/104	—	—	—	縄文	ナデ	—	やや粗	並	10/97/4	体 部 小片	
795	70	178-02	縄文土器深鉢	B1	165	52/104	—	—	—	3方キ、沈線	3方キ	ナデ	やや粗	並	1.5/9/4	口縁部 小片	
796	70	179-03	縄文土器	B1	165	52/104	—	—	—	ナデ、垂線	ナデ	—	やや粗	並	10/97/3	体 部 小片	
797	70	158-07	縄文土器深鉢	B1	15	52/104	—	—	—	垂線	ナデ	キザミ	やや粗	良	10/98/2	口縁部 小片	II
798	70	157-06	縄文土器深鉢	B1	14	52/104	—	—	—	突帯・キザミ、垂線	沈線、ナデ	キザミ	やや粗	良	10/97/4	口縁部 小片	III
799	70	158-04	縄文土器深鉢	B1	15	52/104	—	—	—	突帯・キザミ、垂線	ナデ	ナデ	粗	良	10/98/3	口縁部 小片	IV
800	70	158-08	縄文土器深鉢	B1	165	52/104	—	—	—	突帯・キザミ、ナデ	ナデ	ナデ	やや粗	良	2.5/7.3	口縁部 小片	IV
801	70	158-06	縄文土器深鉢	B1	15	52/104	—	—	—	突帯、ナデ	ナデ	ナデ	やや粗	良	10/98/4	口縁部 小片	IV
802	70	157-02	縄文土器深鉢	B1	165	52/104	—	—	—	突帯、ナデ	ナデ	ナデ	粗	良	10/97/4	口縁部 小片	V
803	70	176-06	縄文土器深鉢	B1	165	52/104	—	—	—	突帯、ナデ	ナデ	ナデ	やや粗	良	外 10/ 内 2.5/7.4	口縁部 小片	IV
804	70	158-05	縄文土器深鉢	B1	164	52/104	—	—	—	突帯・キザミ、垂線	ナデ	—	粗	良	2.5/7.4	体 部 小片	V
805	70	157-08	縄文土器深鉢	B1	14	52/104	—	—	—	突帯・キザミ、垂線	ナデ	—	粗	良	1.5/9/4	体 部 小片	V
806	70	158-02	縄文土器深鉢	B1	164	52/104	—	—	—	突帯・キザミ、垂線	ナデ	—	粗	良	10/97/3	体 部 小片	V
807	70	158-01	縄文土器深鉢	B1	14	52/104	—	—	—	突帯・キザミ、垂線	ナデ	—	粗	良	10/98/4	体 部 小片	V
808	70	158-03	縄文土器深鉢	B1	165	52/104	—	—	—	ナデ、垂線	ナデ	ナデ	粗	良	10/98/4	口縁部 小片	IV
809	70	156-03	縄文土器浅鉢	B1	15	52/104	—	—	—	3方キ、沈線	3方キ	3方キ	やや粗	良	外 10/97/4 内 2.5/4.1	口縁部 小片	IV
810	70	155-01	縄文土器深鉢	B1	165	52/104	—	—	—	ナデ、オウエ	ナデ	ナデ	やや粗	並	外 2.5/97/6 内 5/96.6	口縁部 小片	IV
811	70	155-02	縄文土器鉢	B1	15	52/104	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	やや粗	並	外 10/94/1 内 10/95/1	口縁部 小片	IV
812	70	153-03	縄文土器	B1	15	52/104	—	—	10.8	ナデ	ナデ	—	粗	並	外 2.5/97/6 内 10/98/4	底 部 4.1/2	
813	70	153-02	縄文土器	B1	15	52/104	—	—	9.2	ナデ	ナデ	—	やや粗	並	外 2.5/7.3 内 2.5/6.3	底 部 9/12	
814	70	153-04	縄文土器	B1	15	52/104	—	—	9.8	ナデ	ナデ	—	やや粗	やや良	外 2.5/7.4 内 2.5/6.4	底 部 4/12	

第27表 土器・土製品観察表22

報告番号	種別番号	実用番号	器種	出土位置		法量 (cm)			成形・装飾・文様の種類		胎土	構成	色調	残存	備考	時期			
				調査区	層位	口径	器高	底径	外面	内面							口縁装飾		
815	78	152-05	縄文土器	B1	15	32/104	—	—	2.6	ナデ	ナデ	—	黒	中良	PS 5YR7/4 内 2.5Y4/1	底部	3/12		
816	79	152-04	土師器杯	B1	H6	3X105	13.0	2.7	—	ナデ	ナデ	ナデ	中良	良	10YR7/4	口縁部	残存		
817	79	151-01	鉄製紡車車	B1	H6	3X105	長 26.0	幅 5.4	重さ 30.5g	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
818	80	172-04	縄文土器深鉢	B1	H5	包含筒	—	—	—	隆帯・刺突	ナデ	ナデ	中良	黒	PS 10YR6/3 内 10YR5/2	口縁部	小片		
819	80	172-06	縄文土器深鉢	B1	J5	包含筒	—	—	—	ナデ	ナデ	—	中良	黒	PS 10YR5/3 内 10Y4/2	体部	小片		
820	80	172-08	縄文土器深鉢	B1	15	包含筒	—	—	—	ナデ	ナデ	—	中良	黒	10YR5/2	体部	小片		
821	80	172-07	縄文土器深鉢	B1	15	32/104	—	—	—	ナデ	ナデ	—	中良	黒	PS 10YR5/3 内 10Y4/2	体部	小片		
822	80	180-05	縄文土器深鉢	B1	H6	Pt11	—	—	—	沈線	ナデ	—	中良	黒	PS 10YR6/2 内 2.5Y6/2	体部	小片		
823	80	178-07	縄文土器深鉢	B1	16	包含筒	—	—	—	沈線	ナデ	ナデ	中良	黒	PS 10YR5/2 内 10YR7/2	口縁部	小片		
824	80	178-04	縄文土器深鉢	B1	J6	包含筒	—	—	—	2方弁・沈線文	ナデ	ナデ	黒	黒	7.5YR7/4	口縁部	小片		
825	80	175-05	縄文土器深鉢	B1	16	包含筒	—	—	—	沈線	ナデ	ナデ	中良	黒	PS 10YR6/4 内 2.5YR7/6	口縁部	小片		
826	80	176-05	縄文土器深鉢	B1	14	包含筒	—	—	—	沈線	ナデ	ナデ	赤	赤	PS 2.5YR/4 内 5YR/2	口縁部	小片		
827	80	174-01	縄文土器深鉢	B1	J5	包含筒	—	—	—	縄文・ナデ	縄文・ナデ ウズリ	縄文	黒	黒	10YR6/3	口縁部	小片		
828	80	174-02	縄文土器深鉢	B1	J6	包含筒	—	—	—	縄文・ナデ	縄文・ナデ	縄文	黒	黒	PS 10YR4/1 内 10YR5/3	口縁部	小片		
829	80	173-03	縄文土器深鉢	B1	J5	包含筒	—	—	—	縄文・ナデ	ナデ	ナデ	黒	黒	7.5YR6/4	口縁部	小片		
830	80	171-02	縄文土器深鉢	B1	J6	Pt11	—	—	—	縄文	ナデ	縄文	中良	中良	PS 7.5YR7/4 内 10YR3/2	口縁部	小片		
831	80	174-03	縄文土器深鉢	B1	J4	包含筒	—	—	—	縄文・刺突	ナデ	縄文	黒	黒	10YR7/4	口縁部	小片		
832	80	174-07	縄文土器深鉢	B1	J5	包含筒	—	—	—	縄文・沈線	縄文・ナデ	縄文	黒	黒	10YR6/3	口縁部	小片		
833	80	170-01	縄文土器深鉢	B1	J6	包含筒	—	—	—	縄文・沈線	ナデ	—	中良	中良	PS 10YR7/4 内 7.5YR7/4	体部	小片		
834	80	170-02	縄文土器深鉢	B1	J6	包含筒	—	—	—	縄文・沈線	ナデ	—	中良	中良	PS 7.5YR4/1 内 7.5YR6/4	体部	小片		
835	80	169-07	縄文土器深鉢	B1	J6	Pt12	—	—	—	縄文・沈線	ナデ	—	黒	黒	PS 10YR6/4 内 10YR7/4	体部	小片		
836	80	169-05	縄文土器深鉢	B1	J6	Pt12	—	—	—	沈線	ナデ	—	黒	黒	PS 10YR5/2 内 2.5YR7/4	体部	小片		
837	80	172-05	縄文土器深鉢	B1	J6	包含筒	—	—	—	縄文・沈線	ナデ	ナデ	黒	黒	PS 10YR5/3 内 10YR5/1	口縁部	小片		
838	80	173-01	縄文土器深鉢	B1	J5	包含筒	—	—	—	ナデ・沈線・隆帯・キザミ	ナデ	ナデ	黒	黒	10YR7/4	口縁部	小片		
839	80	177-05	縄文土器深鉢	B1	16	包含筒	—	—	—	刺突・沈線	ナデ	ナデ	中良	中良	PS 5YR5/4 内 5YR5/6	口縁部	小片		
840	80	175-04	縄文土器深鉢	B1	J5	包含筒	—	—	—	沈線	ナデ	キザミ	中良	中良	7.5YR6/6	口縁部	小片		
841	80	171-05	縄文土器深鉢	B1	J5	包含筒	—	—	—	隆帯・キザミ・沈線	ナデ	ナデ	中良	中良	10YR7/3	口縁部	小片		
842	80	171-06	縄文土器深鉢	B1	J5	包含筒	—	—	—	沈線・ナデ	ナデ	—	中良	中良	10YR7/2	体部	小片		
843	80	172-01	縄文土器深鉢	B1	J6	包含筒	—	—	—	沈線・ナデ	ナデ	ナデ	黒	黒	7.5YR6/4	口縁部	小片		
844	80	174-05	縄文土器深鉢	B1	H5	包含筒	—	—	—	ナデ・沈線	ナデ	ナデ	黒	黒	2.5Y7/3	口縁部	小片		
845	80	172-04	縄文土器深鉢	B1	15	包含筒	—	—	—	ナデ・沈線	ナデ	ナデ	中良	黒	PS 10YR7/4 内 10YR4/2	口縁部	小片		
846	80	179-05	縄文土器	B1	J5	包含筒	—	—	—	ナデ	ナデ	—	中良	黒	5YR6/4	体部	小片		
847	80	179-04	縄文土器	B1	J4	包含筒	—	—	—	ナデ	ナデ	—	中良	黒	5YR6/4	体部	小片		
848	80	173-06	縄文土器	B1	J5	包含筒	—	—	—	刺突・ナデ	ナデ	—	中良	黒	PS 10YR5/2 内 2.5YR7/4	体部	小片		
849	80	177-01	縄文土器	B1	J5	包含筒	—	—	—	縄文・沈線	ナデ	—	中良	中良	2.5YR5/6	体部	小片		
850	80	166-06	縄文土器	B1	16	包含筒	—	—	—	隆帯・沈線	ナデ	—	中良	中良	PS 2.5Y3/2 内 7.5YR6/6	体部	小片		
851	80	166-07	縄文土器	B1	16	包含筒	—	—	—	ナデ・沈線	ナデ	—	中良	中良	PS 10YR5/2 内 10YR7/3	体部	小片		

第28表 土器・土製品観察表23

報告 番号	種別 番号	実測 番号	器 種	出土位置		法量 (cm)			成形・装飾・文様の種類			胎土	構成	色 調	残存	備考	時期	
				調査 区	子目・品名・ 部位	口径	器高	底径	外 面	内 面	口縁装飾							口
852	80	161-01	縄文土器	B1	H6	包含層	—	—	—	沈線、条線	ナデ	—	期	並	H 2.5194/2 内 2.5198/3	体部 小片		
853	81	166-05	縄文土器深鉢	B1	J5	包含層	—	—	—	ナデ、沈線	ナデ	ナデ	期	良	H 2.515/2 内 10197/3	口縁部 小片		
854	81	167-03	縄文土器深鉢	B1	J4	包含層	—	—	—	ナデ、沈線	ナデ	ナデ	期	不良	2.516/2	体部 小片		
855	81	166-08	縄文土器深鉢	B1	J5	包含層	—	—	—	ナデ、沈線	ナデ	ナデ	期	良	H 10196/3 内 514/1	口縁部 小片		
856	81	176-03	縄文土器深鉢	B1	J4	下層 P11	—	—	—	沈線、ナデ	ナデ	3口ナデ	期	やや 不良	H 2.515/3 内 514/1	口縁部 小片		
857	81	166-04	縄文土器深鉢	B1	H6	包含層	—	—	—	ナデ、沈線	ナデ	ナデ	期	やや 不良	10195/2	口縁部 小片		
858	81	166-03	縄文土器深鉢	B1	J6	P13	—	—	—	ナデ、沈線	ナデ	ナデ	期	不良	H 10192/2 内 10196/3	口縁部 小片		
859	81	167-06	縄文土器深鉢	B1	J10	包含層	—	—	—	ナデ、沈線	ナデ	ナデ	期	良	5196/6	口縁部 小片		
860	81	169-08	縄文土器深鉢	B1	—	表土	—	—	—	ナデ、沈線	ナデ	ナデ	期	並	H 10197/3 内 10197/2	口縁部 小片		
861	81	167-01	縄文土器深鉢	B1	J4	包含層	—	—	—	ナデ、沈線	ナデ	キザミ	期	良	H 5196/4 内 10196/4	口縁部 小片		
862	81	167-05	縄文土器深鉢	B1	J6	包含層	—	—	—	沈線	ナデ	ナデ	期	良	H 10195/3 内 514/1	口縁部 小片		
863	81	167-04	縄文土器深鉢	B1	J5	包含層	—	—	—	ナデ、沈線	ミガキ	—	期	やや 不良	10197/3	体部 小片		
864	81	166-02	縄文土器深鉢	B1	H6	P11	—	—	—	沈線	ナデ	—	期	不良	H 10196/2 内 10196/3	体部 小片		
865	81	169-04	縄文土器深鉢	B1	J6	包含層	—	—	—	ナデ、沈線	ナデ	—	期	やや 不良	H 10190/3 内 10197/3	体部 小片		
866	81	169-03	縄文土器深鉢	B1	H6	P11	—	—	—	縄文、沈線	ナデ	—	期	やや 不良	H 10196/2 内 10197/4	体部 小片		
867	81	168-04	縄文土器深鉢	B1	J5	下層 P11	—	—	—	ナデ、沈線	ナデ	—	期	やや 不良	H 10196/3 内 10196/4	体部 小片		
868	81	167-07	縄文土器深鉢	B1	—	表土	—	—	—	ナデ、沈線	ナデ	—	期	やや 不良	H 2.517/3 内 10198/4	体部 小片		
869	81	167-02	縄文土器深鉢	B1	J4	包含層	—	—	—	ナデ、沈線	ミガキ	—	期	不良	10196/3	体部 小片		
870	81	176-04	縄文土器深鉢	B1	—	表土	—	—	—	沈線	ナデ	ナデ	期	やや 不良	10197/4	口縁部 小片		
871	81	159-03	縄文土器深鉢	B1	J5	包含層	—	—	—	縄文、沈線、ナ デ	ミガキ	縄文	期	やや 不良	10196/2	口縁部 小片		
872	81	163-03	縄文土器深鉢	B1	J5	包含層	—	—	—	縄文	ナデ	ナデ	期	やや 不良	2.516/2	口縁部 小片		
873	81	163-04	縄文土器深鉢	B1	J3	包含層	—	—	—	ナデ、縄文	ナデ	ナデ	期	やや 不良	H 2.517/3 内 2.515/2	口縁部 小片		
874	81	163-01	縄文土器深鉢	B1	—	表土	—	—	—	ナデ、沈線、縄 文	ナデ	ナデ	期	並	10195/2	口縁部 小片		
875	81	162-06	縄文土器深鉢	B1	J6	P11	—	—	—	縄文	ナデ	ナデ	期	並	10197/2	口縁部 小片		
876	81	168-02	縄文土器深鉢	B1	J6	P12	—	—	—	縄文、沈線	ナデ	ナデ	期	並	H 10196/2 内 10195/2	口縁部 小片		
877	81	162-02	縄文土器深鉢	B1	J6	包含層	—	—	—	ナデ、沈線、縄 文	ナデ	ナデ	期	やや 不良	H 10197/3 内 10194/1	口縁部 小片		
878	81	162-07	縄文土器深鉢	B1	—	表土	—	—	—	縄文、沈線、ミ ガキ	ナデ	ナデ	期	やや 不良	H 10195/2 内 2.5195/3	口縁部 小片		
879	81	160-05	縄文土器	B1	J6	包含層	—	—	—	ミガキ、沈線、 縄文	ナデ	—	期	並	10196/2	体部 小片		
880	81	160-06	縄文土器	B1	J5	包含層	—	—	—	沈線、ミガキ、 縄文	ミガキ	—	期	やや 不良	H 10196/3 内 10197/3	体部 小片		
881	81	161-04	縄文土器	B1	—	表土	—	—	—	縄文、沈線	ナデ	—	期	並	10196/2	体部 小片		
882	81	161-06	縄文土器	B1	J5	包含層	—	—	—	沈線、縄文	ナデ	—	期	やや 不良	10196/2	体部 小片		
883	81	159-07	縄文土器	B1	J10	包含層	—	—	—	沈線、ミガキ、 縄文	ナデ	—	期	やや 不良	H 2.5195/2 内 10194/1	体部 小片		
884	81	163-08	縄文土器	B1	J5	包含層	—	—	—	ミガキ、沈線	ミガキ	—	期	並	H 10196/2 内 10197/3	体部 小片		
885	81	164-01	縄文土器	B1	J5	包含層	—	—	—	縄文、沈線、ミ ガキ	ナデ	—	期	やや 不良	2.516/2	体部 小片		
886	81	159-06	縄文土器	B1	J5	包含層	—	—	—	ミガキ、沈線、 縄文	ナデ・ミガキ	—	期	並	H 10195/1 内 10197/3	体部 小片		
887	81	164-07	縄文土器	B1	J4	包含層	—	—	—	沈線、縄文	ナデ・ケズリ	—	期	並	H 2.5196/4 内 2.5194/2	体部 小片		
888	81	164-06	縄文土器	B1	H6	下層 P11	—	—	—	ミガキ	ナデ	—	期	やや 不良	H 10195/3 内 10195/2	体部 小片		

第29表 土器・土製品観察表24

報告番号	検出番号	実測番号	器種	出土位置		法量 (cm)			成形・装飾・文様の種類			胎土	焼成	色調	残存	備考	時期		
				調査区	グリッド	口徑	器高	底径	外 面	内 面	口縁部								
889	81	190-03	縄文土器	B1	14	包含層	—	—	—	ミガキ、縄文、 波線	ミガキ	—	密	黒	7.5YR/4	体 部 小			
890	81	190-08	縄文土器	B1	13	包含層	—	—	—	縄文、ミガキ、 波線	ミガキ	—	密	黒	10YR/2	体 部 小			
891	81	179-07	縄文土器深鉢	B1	14	包含層	—	—	—	ナデ、波線	ミガキ	ナデ	やや密	黒	10YR/3	口縁部 小			
892	81	183-05	縄文土器	B1	14	包含層	—	—	—	ナデ、縄文、波 線	ナデ	—	やや密	黒	7.5YR/4	体 部 小			
893	81	184-03	縄文土器	B1	15	包含層	—	—	—	波線、ミガキ、 縄文	ミガキ	—	やや密	黒	7.5YR/3 内 10YR/3	体 部 小			
894	81	184-02	縄文土器	B1	16	包含層	—	—	—	縄文、波線、ミ ガキ	ミガキ	—	やや密	黒	10YR/3	体 部 小			
895	81	180-03	縄文土器	B1	15	包含層	—	—	—	縄文	ナデ	—	粗	黒	7.5YR/4	体 部 小			
896	81	179-01	縄文土器深鉢	B1	18	包含層	—	—	—	ナデ、波線	ナデ	ナデ	やや密	黒	10YR/2 内 10YR/3	口縁部 小			
897	81	178-02	縄文土器深鉢	B1	15	包含層	—	—	—	ナデ、波線	ナデ	ナデ	やや密	黒	7.5YR/3	口縁部 小			
898	81	176-07	縄文土器深鉢	B1	14	包含層	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ、波線	密	やや密	黒	10YR/6 内 2.5YR/3	口縁部 小		
899	81	182-01	縄文土器注口	B1	15	Pt14	—	—	—	ミガキ	ナデ	—	粗	黒	2.5Y/1	体 部 小			
900	81	181-03	縄文土器注口	B1	16	包含層	—	—	—	ナデ、ミガキ	ナデ	—	粗	黒	10YR/4	体 部 小			
901	81	181-02	縄文土器深鉢	B1	16	包含層	—	—	—	実帯、ナデ	ナデ	—	粗	黒	10YR/4	胴部片 穿孔			
902	82	157-07	縄文土器深鉢	B1	14	包含層	—	—	—	ナデ	ナデ	キヤミ	粗	黒	10YR/3	口縁部 小		Ⅱ	
903	82	157-01	縄文土器深鉢	B1	14	包含層	—	—	—	実帯、キヤミ、 ナデ	ナデ	キヤミ	粗	黒	10YR/2	口縁部 小		Ⅲ	
904	82	156-04	縄文土器深鉢	B1	15	包含層	—	—	—	実帯、キヤミ、 ナデ	ナデ	ナデ	粗	黒	10YR/4	口縁部 小		Ⅳ	
905	82	156-02	縄文土器深鉢	B1	—	表土	—	—	—	実帯、キヤミ、 ナデ	ナデ	ナデ	粗	黒	10YR/6 内 10YR/2	口縁部 小		Ⅴ	
906	82	176-01	縄文土器深鉢	B1	16	包含層	—	—	—	実帯、ナデ	ナデ	ナデ	密	やや密	10YR/2 内 10YR/2	口縁部 小		Ⅳ	
907	82	156-06	縄文土器深鉢	B1	14	包含層	—	—	—	実帯、ナデ	ナデ	ナデ	粗	黒	10YR/3 10YR/2	口縁部 小		Ⅴ	
908	82	156-07	縄文土器深鉢	B1	15	包含層	—	—	—	実帯、ナデ	ナデ	ナデ	粗	黒	10YR/3	口縁部 小		Ⅴ	
909	82	157-04	縄文土器深鉢	B1	14	包含層	—	—	—	実帯、ナデ	ナデ	ナデ	粗	黒	5YR/4	口縁部 小		Ⅴ	
910	82	156-05	縄文土器深鉢	B1	15	包含層	—	—	—	実帯、ナデ	ナデ	ナデ	やや密	黒	10YR/3 10YR/4	口縁部 小		Ⅴ	
911	82	156-08	縄文土器深鉢	B1	14	包含層	—	—	—	実帯?実、ナデ	ナデ	ナデ	粗	黒	10YR/4	口縁部 小		Ⅴ	
912	82	157-05	縄文土器深鉢	B1	13	包含層	—	—	—	実帯、ナデ	ナデ	ナデ	粗	黒	7.5YR/4	口縁部 小		Ⅴ	
913	82	155-05	縄文土器深鉢	B1	16	包含層	—	—	—	実帯	ナデ	ナデ	密	やや密	10YR/1 内 7.5YR/4	口縁部 小		Ⅴ	
914	82	176-08	縄文土器深鉢	B1	14	包含層	—	—	—	実帯	ナデ	ナデ	密	やや密	5YR/6 内 5YR/6	口縁部 小		Ⅴ	
915	82	177-03	縄文土器深鉢	B1	—	表土	—	—	—	実帯	ナデ	ナデ	密	黒	5YR/6	口縁部 小		Ⅴ	
916	82	155-06	縄文土器深鉢	B1	110	包含層	—	—	—	実帯	ナデ	ナデ	やや密	黒	10YR/2 内 5YR/4	口縁部 小		東室 Ⅴ	
917	82	154-02	縄文土器深鉢	B1	110	包含層	—	—	—	実帯	ナデ	ナデ	やや密	黒	7.5Y/1 内 2.5Y/1	口縁部 小		Ⅴ	
918	82	154-03	縄文土器深鉢	B1	14	包含層	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	やや密	黒	10YR/1 内 2.5Y/1	口縁部 小		Ⅴ	
919	82	154-04	縄文土器深鉢	B1	—	表土	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	密	やや密	10YR/4 内 5YR/6	口縁部 小		Ⅴ	
920	82	154-05	縄文土器深鉢	B1	15	包含層	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	やや密	黒	2.5Y/3 内 10YR/4	口縁部 小		Ⅴ	
921	82	154-06	縄文土器深鉢	B1	15	包含層	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	密	やや密	7.5YR/4	口縁部 小		Ⅴ	
922	82	155-02	縄文土器深鉢	B1	16	包含層	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	やや密	黒	10YR/3 内 10YR/3	口縁部 小		Ⅴ	
923	82	155-04	縄文土器深鉢	B1	15	包含層	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	密	黒	10YR/3 内 10YR/3	口縁部 小		Ⅴ	
924	82	159-01	縄文土器浅鉢	B1	110	包含層	—	—	—	ミガキ	ナデ	ナデ	やや密	黒	2.5Y/3 内 10YR/3	口縁部 小		Ⅴ	
925	82	178-06	縄文土器深鉢	B1	—	表土	—	—	—	ミガキ、波線	ナデ	ナデ	やや密	黒	10YR/4	口縁部 小		Ⅴ	

第30表 土器・土製品観察表25

報告 番号	種別 番号	実測 番号	器 種	出土位置		法量 (cm)				成形・装飾・文様の種類			胎土	焼成	色 調	残存	備考	時期
				調査 区	グリ ット 番号	口徑	器 高	底 径	外 径	内 径	口縁傾斜							
926	02	153-06	縄文土器	B1	H6	包含層	—	—	12.0	ナデ	ナデ	—	やや密	良	H: 2.5/96.6 内: 1/96.4	底 3/12		
927	02	153-01	縄文土器	B1	J6	包含層	—	—	15.0	ナデ	ナデ	—	やや密	やや不良	H: 2.5/97.6	底 3/12		
928	02	154-01	縄文土器	B1	H6	包含層	—	—	15.0	ナデ	ナデ	—	やや密	不良	H: 2.5/97.6 内: 2.5/97.6	底 3/12		
929	02	156-01	縄文土器	B1	H4	包含層	—	—	1.6	ケズリ、ナデ	ナデ	—	粗	良	1/98.3	底 厚		
930	02	153-07	縄文土器	B1	H6	包含層	—	—	7.0	ケズリ、ナデ	ナデ	—	やや密	やや不良	H: 2.5/74.4 内: 2.5/6.4	底 厚		
931	02	161-04	縄文土器	B1	J5	包含層	—	—	—	ナデ	—	—	やや粗	良	1/97.4	体 小片		
932	02	152-02	民権陶磁器	B1	H4	包含層	—	—	7.0	ロウロナデ、粘 付け高台、糸切 口底	ロウロナデ	—	やや粗	数	H: 1/98.3 内: 2.5/6.4	高台部 残存		
933	02	152-01	陶磁器	B1	—	包含層	16.4	5.1	8.9	ロウロナデ、粘 付け高台、糸切 口底	ロウロナデ	ロウロナデ	密	良	5/77.1	口縁部 4/12	西壁崩落土 中	
934	02	152-03	土師器	B1	H4	5/104	14.8	—	—	ヨコナデ、ハケ テ	ヨコナデ、ナ デ	ヨコナデ	やや密	並	2.5/73.3	口縁部 2/12		
935	03	905-02	縄文土器深鉢	B2	J14	包含層	—	—	—	波線、ナデ	ナデ	ヨコナデ	やや良	良	H: 2.5/95.1 内: 2.5/98.2	口縁部 小片		
936	03	142-07	縄文土器深鉢	B2	G15	包含層	—	—	—	波線、ナデ	ナデ	ナデ	粗	やや良	H: 2.5/96.4 内: 2.5/96.4	口縁部 小片		
937	03	143-03	縄文土器深鉢	B2	E13	包含層	—	—	—	波線、ナデ	ナデ	ナデ	やや粗	やや良	1/98.3	口縁部 小片		
938	03	147-05	縄文土器深鉢	B2	—	1-3 層1層	—	—	—	ナデ、波線	ナデ	ナデ	粗	並	1/96.3	口縁部 小片		
939	03	147-03	縄文土器深鉢	B2	C15	下層 包含層	—	—	—	ナデ、波線	ナデ	ナデ	粗	並	1/97.4	口縁部 小片		
940	03	142-08	縄文土器深鉢	B2	G16	包含層	—	—	—	ナデ、波線	ナデ	ナデ	粗	やや良	H: 1/98.4 内: 2.5/97.4	口縁部 小片		
941	03	147-06	縄文土器深鉢	B2	E14	下層 包含層	—	—	—	ナデ、波線	ナデ	ナデ	粗	並	H: 2.5/96.6 内: 2.5/94.1	口縁部 小片		
942	03	146-07	縄文土器深鉢	B2	D16	下層 包含層	—	—	—	ナデ、波線	ナデ	ナデ	粗	並	1/96.3	口縁部 小片		
943	03	147-08	縄文土器深鉢	B2	—	下層 包含層	—	—	—	ナデ、波線	ナデ	ナデ	やや粗	並	H: 2.5/95.3 内: 2.5/96.4	口縁部 小片	S e o II	
944	03	143-08	縄文土器深鉢	B2	F13	P11	—	—	—	ナデ、波線	ナデ	ナデ	やや粗	やや良	H: 5/96.6 内: 1/95.3	口縁部 小片		
945	03	147-07	縄文土器深鉢	B2	—	1-3 層1層	—	—	—	ナデ、波線	ナデ	ナデ	やや粗	並	1/95.2	口縁部 小片		
946	03	146-04	縄文土器深鉢	B2	C16	下層 包含層	—	—	—	波線、ミ刀キ	ナデ	ナデ	粗	並	H: 2.5/98.4 内: 1/96.2	口縁部 小片		
947	03	143-05	縄文土器深鉢	B2	H7	包含層	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	粗	やや良	5/96.6	口縁部 小片		
948	03	150-02	縄文土器深鉢	B2	—	1-3 層1層	—	—	—	ナデ、波線	ナデ	ナデ	粗	並	H: 1/97.4 内: 1/95.2	口縁部 小片		
949	03	144-03	縄文土器深鉢	B2	E16 F16	下層 包含層	—	—	—	波線、ナデ	ナデ	ナデ	粗	並	H: 1/95.2 内: 1/97.2	口縁部 小片		
950	03	143-04	縄文土器深鉢	B2	H7	包含層	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	やや粗	やや良	1/98.3	口縁部 小片		
951	03	142-06	縄文土器深鉢	B2	F16	包含層	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	やや粗	やや良	H: 2.5/7.4 内: 1/97.4	口縁部 小片		
952	03	145-03	縄文土器深鉢	B2	B14	下層 包含層	—	—	—	ナデ、波線	ナデ	ナデ	粗	並	1/96.4	口縁部 小片		
953	03	146-01	縄文土器深鉢	B2	—	1-3 層1層	—	—	—	波線、ナデ	ナデ	ナデ	やや粗	並	H: 1/98.2 内: 2.5/96.4	口縁部 小片		
954	03	145-08	縄文土器深鉢	B2	C14	下層 包含層	—	—	—	ナデ?	ナデ	ナデ	粗	並	1/97.2	口縁部 小片	穿孔	
955	03	142-04	縄文土器深鉢	B2	F16	P11	—	—	—	ナデ	ナデ	—	やや粗	やや良	1/97.4	体 小片		
956	03	148-03	縄文土器深鉢	B2	E16	下層 包含層	—	—	—	波線	ナデ	—	やや粗	並	H: 1/95.2 内: 1/98.3	体 小片		
957	03	142-02	縄文土器深鉢	B2	G17	包含層	—	—	—	ナデ、波線	ナデ	—	粗	やや良	2.5/96.6	体 小片		
958	03	148-05	縄文土器深鉢	B2	—	1-3 層1層	—	—	—	ナデ、波線	ナデ	—	やや粗	並	H: 1/96.2 内: 2.5/96.4	体 小片		
959	03	149-04	縄文土器深鉢	B2	—	1-3 層1層	—	—	—	ナデ、波線	ナデ	—	粗	並	1/97.4	体 小片		
960	03	142-02	縄文土器深鉢	B2	H12	SK19	—	—	—	ナデ、波線	ナデ	—	粗	やや良	H: 2.5/94.2 内: 5/97.6	体 小片		
961	03	150-01	縄文土器深鉢	B2	—	1-3 層1層	—	—	—	ナデ、波線	ナデ	—	粗	不良	H: 1/97.3 内: 1/97.3	体 小片		
962	03	148-07	縄文土器深鉢	B2	B14	下層 包含層	—	—	—	ナデ、波線	ナデ	—	粗	並	H: 1/93.1 内: 2.5/5.2	体 小片		

第31表 土器・土製品観察表26

報告 番号	種別 番号	実用 番号	品 種	出土位置		法要 (m)		成形・装飾・文様の種類				胎土	焼成	色 調	残存	備考	時期		
				調査 区	グ リ ド	遺構・ 層位	口徑	器高	底径	外 面	内 面							口縁部	
963	83	149-01	縄文土器深鉢	B	E16	包含層	—	—	—	波線	ナデ	—	順	並	10YR6/3	体部 口縁部 小片			
964	84	145-05	縄文土器深鉢	B	E14	包含層	—	—	—	縄文・波線	ナデ	ナデ	順	並	Hs 2.5Y4/1 10YR6/3	口縁部 小片			
965	84	145-07	縄文土器深鉢	B	E15	包含層	—	—	—	縄文・波線	ナデ	ナデ	順	並	10YR5/2	口縁部 小片			
966	84	145-01	縄文土器深鉢	B	E14	包含層	—	—	—	縄文・波線	ナデ	ナデ	順	並	10YR6/2	口縁部 小片			
967	84	004-05	縄文土器深鉢	B	G15	包含層	—	—	—	縄文・波線・ナ デ	ナデ	ナデ	不良	良	Hs 7.5YR4/1 10YR6/3	口縁部 小片			
968	84	145-02	縄文土器深鉢	B	D16	包含層	—	—	—	縄文・波線・ナ デ	ナデ	ナデ	やや順	並	10YR7/3	口縁部 小片			
969	84	145-06	縄文土器深鉢	B	E	包含層	—	1-2 層1層	—	縄文・波線・ナ デ	ナデ	ナデ	順	並	10YR6/3	口縁部 小片			
970	84	142-01	縄文土器深鉢	B	J15	包含層	—	—	—	縄文・波線・ナ デ	ナデ	ナデ	順	やや良	Hs 10YR7/4 10YR7/3	口縁部 小片			
971	84	145-04	縄文土器深鉢	B	D16	包含層	—	—	—	縄文・波線・ナ デ	ナデ	—	順	並	10YR5/2	体部 小片			
972	84	144-05	縄文土器深鉢	B	E14	包含層	—	—	—	縄文・波線・ナ デ	ナデ	ニガキ	—	順	並	Hs 10YR5/2 10YR7/3	体部 口縁部 小片		
973	84	146-02	縄文土器深鉢	B	D15	包含層	—	—	—	縄文・波線・ナ デ	ナデ	—	順	並	Hs 10YR2/2 10YR7/3	体部 口縁部 小片			
974	84	141-07	縄文土器深鉢	B	G15	包含層	—	—	—	縄文・波線・ナ デ	ナデ	—	順	やや良	Hs 2.5Y4/1 内 2.5Y7/2	体部 小片			
975	84	149-02	縄文土器深鉢	B	E14	包含層	—	—	—	縄文・波線・ナ デ	ナデ	—	順	並	10YR7/3	体部 小片			
976	84	141-05	縄文土器深鉢	B	D16	包含層	—	—	—	縄文・波線・ナ デ	ナデ	—	やや順	やや良	10YR8/3	体部 小片			
977	84	141-08	縄文土器深鉢	B	D14	包含層	—	—	—	縄文・波線・ナ デ	ナデ	—	順	やや良	7.5YR7/4	体部 小片			
978	84	148-01	縄文土器深鉢	B	G15	包含層	—	—	—	縄文・波線・ナ デ	ナデ	—	順	並	7.5YR4/2	体部 小片			
979	84	148-04	縄文土器深鉢	B	C16	包含層	—	—	—	縄文・波線・ナ デ	ナデ	—	やや密	並	10YR6/3	体部 小片			
980	84	141-03	縄文土器深鉢	B	I17	包含層	—	—	—	縄文・波線・ナ デ	ナデ	—	やや順	やや良	Hs 7.5YR3/2 内 5YR6.6	体部 小片			
981	84	142-05	縄文土器深鉢	B	C14	包含層	—	—	—	縄文・波線・ナ デ	ナデ	ニガキ	—	やや順	やや良	10YR7/2	体部 小片		
982	84	141-06	縄文土器深鉢	B	G16	包含層	—	—	—	縄文・波線・ナ デ	ナデ	—	やや順	やや良	Hs 7.5YR7/4 内 2.5YR/2	体部 小片			
983	84	147-02	縄文土器深鉢	B	I18	包含層	—	—	—	縄文・波線	ナデ	ナデ	やや順	並	Hs 10YR5/2 内 5YR6.6	口縁部 小片			
984	84	149-05	縄文土器深鉢	B	D15	包含層	—	—	—	縄文	ナデ	—	順	並	10YR6.4	体部 小片			
985	84	141-04	縄文土器深鉢	B	J16	包含層	—	—	—	縄文	ナデ	—	やや順	やや良	Hs 7.5YR5/3 10YR7/3	体部 小片			
986	84	148-06	縄文土器深鉢	B	B15	包含層	—	—	—	条痕・ナデ	ナデ	—	順	並	Hs 10YR6/3 10YR7/2	体部 小片			
987	84	149-03	縄文土器深鉢	B	D16	包含層	—	—	—	条痕・ナデ	ナデ	—	やや順	並	Hs 10YR4/2 10YR7/3	体部 口縁部 小片			
988	84	141-02	縄文土器深鉢	B	E	包含層	—	—	—	条痕・ナデ	ナデ	—	やや順	やや良	Hs 7.5YR7/6 内 5YR7.6	体部 小片			
989	84	143-02	縄文土器深鉢	B	F16	包含層	—	—	—	条痕	ナデ	キヤミ	順	やや良	5YR6.6	口縁部 小片		II	
990	84	143-01	縄文土器深鉢	B	H19	包含層	—	—	—	条痕	ナデ	キヤミ	やや順	やや良	Hs 7.5YR4/3 10YR8/3	口縁部 小片		II	
991	84	146-05	縄文土器深鉢	B	E16	包含層	—	—	—	突帯・キヤミ・ ナデ	ナデ	ナデ	順	並	10YR6/2	口縁部 小片		IV	
992	84	005-01	縄文土器深鉢	B	J16	包含層	—	—	—	突帯・キヤミ・ ナデ	ナデ	ナデ	やや不 良	良	Hs 5YR7/6 内 5YR6.6	口縁部 小片		V	
993	84	144-04	縄文土器深鉢	B	C15	包含層	—	—	—	突帯2条・ナ デ	ナデ	ナデ	順	並	10YR5/2	口縁部 小片		V	
994	84	006-02	縄文土器深鉢	B	J18	SK13	包含層	—	—	浮線・ニガキ	ニガキ・波線	ナデ	やや良	良	Hs 10YR5/2 10YR6/3	口縁部 小片		V	
995	84	143-07	縄文土器深鉢	B	E16	包含層	—	—	—	条痕	ナデ	ナデ	やや順	やや良	Hs 7.5YR4/1 10YR7/3	口縁部 小片			
996	84	143-06	縄文土器深鉢	B	J16	包含層	—	—	—	条痕	ナデ	ナデ	やや順	やや良	7.5YR4/1	口縁部 小片			
997	84	144-01	縄文土器深鉢	B	E17	包含層	—	—	—	条痕	ナデ	ナデ	やや順	並	Hs 7.5YR7/4 内 2.5YR5/1	口縁部 小片			
998	84	144-02	縄文土器深鉢	B	E	包含層	—	1-4 層1層	—	条痕	ナデ	ヨコナデ	—	順	並	7.5YR5.4	口縁部 小片		
999	84	147-01	縄文土器深鉢	B	E14	包含層	—	—	—	ナデ	ナデ	顕著不明	順	並	10YR7/3	口縁部 小片			
1000	84	141-01	縄文土器	B	G15	包含層	—	6.0~ 6.4	—	ナデ	ナデ	—	順	やや良	2.5Y7/2	底面 残存			
1001	84	149-06	縄文土器	B	E16	包含層	—	7.4	—	ナデ	ナデ	—	順	並	2.5Y7/3	底面 6.12			

第32表 土器・土製品観察表27

報告番号	種別番号	実測番号	種 類	出土位置		法要 (m)		成形・装飾・文様の種類			胎土	構成	色 調	残存	備考	時期
				調査区	グリ模様・印色	口径	器高	底径	外 面	内 面						
1002	84	149-06	縄文土器	B	—	T-3 第1層	—	12.7	ナデ	ナデ	—	粗 造	外 2.5/7.2 内 10/87.3	底 部 4/12		
1003	84	149-07	縄文土器	B	—	T-3 第1層	—	11.8	ナデ	ナデ	—	粗 造	外 10/87.3	底 部 4/12	納代	
1004	85	139-02	土師器	B	F18	下層 包含層	14.8	2.7	ナデ	ナデ	ナデ	密 造	外 5/87.6	口縁部 2/12		
1005	85	139-01	土師器	B	F18	包含層	13.8	—	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	密 造	外 7.5/87.6 内 5/87.6	口縁部 小片		
1006	85	138-06	土師器	B	F18	包含層	13.7	—	ヨコナデ、ナデ、オサエ	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ	密 造	外 5/87.6	口縁部 2/12		
1007	85	138-07	土師器	B	F20	包含層	13.6	—	ヨコナデ、ナデ、オサエ	ヨコナデ、ナデ、オサエ	ヨコナデ	密 造	外 5/87.6	口縁部 2/12		
1008	85	138-02	土師器	B	H19	包含層	17.4	3.1	ヨコナデ、クズリ	ヨコナデ、ナデ、オサエ	ヨコナデ	密 造	外 5/86.6	口縁部 2/12		
1009	85	139-03	土師器	B	F18	包含層	17.6	—	ヨコナデ、ナデ、オサエ	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ	密 造	外 7.5/87.4 内 7.5/87.4	口縁部 2/12		
1010	85	138-03	土師器	B	F19	包含層	16.8	—	ナデ、オサエ	ナデ	ヨコナデ	密 造	外 8/86.6	口縁部 2/12		
1011	85	138-05	土師器	B	F18	包含層	15.8	—	ヨコナデ、ナデ、オサエ	風化により顔面不明	ヨコナデ	密 造	外 5/86.6 内 7.5/87.6	口縁部 2/12		
1012	85	138-01	土師器	B	J12	P13	15.0	2.0	ヨコナデ、ナデ、オサエ	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ	密 造	外 5/86.6	口縁部 2/12		
1013	85	138-04	土師器	B	F19	包含層	13.8	1.6	ヨコナデ、オサエ	風化により顔面不明	ヨコナデ	密 造	外 10/87.4	口縁部 3/12		
1014	85	140-07	ロクロ土師器	B	J18	SK13	9.3	1.7	ロクロナデ、糸切り痕	ロクロナデ	ロクロナデ	やや密	外 10/80.3	口縁部 法廷実		
1015	85	139-05	反輪陶器類	B	—	表土	—	7.0	ロクロナデ、ナデ	ロクロナデ	—	やや密	外 2.5/7.1	底 部 3/12		
1016	85	139-04	反輪陶器類	B	F19	包含層	—	9.3	ナデ、ロクロナデ	ロクロナデ	—	密 造	外 2.5/7.2	底 部 2/12		
1017	85	140-01	反輪陶器類	B	G12	P11	13.6	2.5	6.0	ロクロナデ、ナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	外 2.5/7.1 内 2.5/8.1	口縁部 2/12		
1018	85	139-06	陶器類	B	J17	包含層	—	7.8	ロクロナデ、ナデ、糸切り痕	ロクロナデ	—	やや密	外 2.5/8.1	底 部 5/12		
1019	85	139-07	陶器小皿	B	—	表土	9.3	2.5	4.3	ロクロナデ、糸切り痕	ロクロナデ	やや密	外 2.5/8.1	口縁部 2/12		
1020	85	135-06	土師器	B	J15	包含層	18.0	—	ヨコナデ、ハケナデ	ヨコナデ、ハケナデ	ヨコナデ	密 造	外 5/87.4 内 2.5/8.2	口縁部 1/12		
1021	85	135-01	土師器	B	J16	包含層	16.2	—	ヨコナデ、ハケナデ	ヨコナデ、ハケナデ	ヨコナデ	密 造	外 10/86.3 内 10/86.3	口縁部 1/12		
1022	85	135-04	土師器	B	J18	P12	17.8	—	ヨコナデ、厚化粧しい	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ	密 造	外 5/88.3 内 7.5/84.3	口縁部 2/12		
1023	85	135-05	土師器	B	F12	P11	18.0	—	ヨコナデ、ハケナデ	ヨコナデ、ハケナデ	ヨコナデ	密 造	外 10/87.1 内 2.5/7.3	口縁部 3/12		
1024	85	136-05	土師器	B	H19	包含層	16.8	—	ヨコナデ、ハケナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	密 造	外 10/87.4 内 7.5/87.4	口縁部 3/12		
1025	85	137-01	土師器	B	E19	包含層	17.4	—	ヨコナデ、ハケナデ	ヨコナデ、ハケナデ	ヨコナデ	密 良	外 1.5/86.4 内 4/12			
1026	85	135-02	土師器	B	H20	包含層	17.6	—	ヨコナデ、ハケナデ	ヨコナデ、ハケナデ	ヨコナデ	密 やや良	外 2.5/7.3 内 2.5/7.4	口縁部 2/12		
1027	85	135-03	土師器	B	F19	下層 包含層	19.0	—	ヨコナデ、ハケナデ	ヨコナデ、ハケナデ	ヨコナデ	密 造	外 7.5/87.6 内 10/85.2	口縁部 1/12		
1028	85	136-02	土師器	B	H19	包含層	17.0	—	ヨコナデ、ハケナデ	ヨコナデ、ハケナデ	ヨコナデ	密 造	外 2.5/7.3	口縁部 3/12		
1029	85	137-02	土師器	B	H14	P11	19.5	—	ヨコナデ、ハケナデ	ヨコナデ、ハケナデ	ヨコナデ	密 造	外 10/84.2 内 10/88.4	口縁部 2/12		
1030	85	136-01	土師器	B	H19	包含層	22.0	—	ヨコナデ、ハケナデ	ヨコナデ、ハケナデ	ヨコナデ	密 造	外 5/87.4 内 7.5/88.4	口縁部 1/12		
1031	85	136-03	土師器	B	H19	SK11	21.0	—	ヨコナデ、ハケナデ	ヨコナデ、ハケナデ	ヨコナデ	密 造	外 10/88.3 内 10/88.4	口縁部 2/12		
1032	85	136-04	土師器	B	G19	P12	31.0	—	ヨコナデ、ハケナデ	ヨコナデ、ハケナデ	ヨコナデ	密 造	外 10/86.3 内 10/87.3	口縁部 1/12		
1033	85	140-02	埴埴土器	B	H19	包含層	—	5.6	ナデ	ナデ	ナデ	粗 造	外 5/86.4 内 2.5/86.8	小片		
1034	85	140-03	埴埴土器	B	F18	包含層	—	—	ナデ	ナデ	—	粗 造	外 5/86.4 内 5/86.6	体 部 小片		
1035	85	140-04	土師	B	J18	P12	最大長 4.5 最大幅 1.3	—	—	—	—	密 造	外 10/88.2	完 存		
1036	85	140-05	土師	B	—	包含層	最大長 5.2 最大幅 1.4	—	—	—	—	密 やや良	外 10/88.2	完 存		
1037	85	140-06	土師	B	F18	包含層	最大長 4.7 最大幅 2.1	—	—	—	—	密 造	外 10/87.3	完 存		

第33表 土器・土製品観察表28

2 石器・石製品

(1) 概要

本遺跡で出土した土器群の主体は、晩期後半である。しかし、それ以外に中期末葉から後期前葉の土器が約3分の1出土している。石器群も一部がこの時期に属すると考えられる。出土状況を見るとAⅢ区下層とそれに伴う遺構が中期末葉から後期前葉に概ね該当するが、この時期を更に細分して検討することは難しい。AⅢ区下層出土の石器・石製品は石器器種別・出土地別一覧表に示したが、下層出土に「石刀1点」が含まれるなど、上層遺構による擾乱その他を原因とする浮き上がり・沈み込みが一定数考えられる。調査区全体としても、中期末葉から後期前葉と晩期後半の石器・石製品を明確に分離することはできない。そのため定量的な検討は行わず、形態的特徴から明らかに中へ後期に属すると考えられるものは適宜判断して、以下の記述を進めていく。石器・石製品は2964点ある。石器は2956点で、その内訳は、石鏃203点(未成品54点含む)、打欠き石鏃42点、切目石鏃2点、有溝石鏃1点、打製石斧8点、石皿11点、台石46点、嵌石104点(うち礎石15点)、磨石36点、磨製石斧18点(うち礎石2点)、砥石4点、石鏃18点、石匙2点、刮器16点、楔形石器64点、礫器57点、異形石器1点、粗製剥片石器13点、二次加工痕有剥片29点、使用痕有剥片49点、剥片・砕片2201点、石核32点、石核素材1点である。石製品は8点で、その内訳は、石刀7点(未成品3点含む)、玉1点となる。一覧表で「礫剥片」としたものは石器・石製品製作との有意な関係を積極的に見いだせない剥片ともいうべきものを一括した。なお、整理最終段階で石器認定に漏れがあったため、一部の石器について一覧表に掲載されていない。

(大下明・久保勝正)

(2) 石鏃 (第86～88図 1038～1112)

加工により先端部を作り出したもので、矢柄の先につける鏃と考えられるものを本器種とした。茎の有無・基部形態(I類～V類)と側縁形態(A類～D類)の組み合わせで全体形を大略表すこととする。この組み合わせ分類は、かつて関西地方の後・晩期の石鏃を概観した際に用いたものである。本遺跡の

みに限ってみると、存在しない組み合わせもあるが、他遺跡との比較・検討や旧稿との整合性を考え、組み合わせ分類はそのままとした。未成品54点と欠損により組み合わせ分類不能な29点(I類15点、IV類1点、V類2点、A類3点、B類2点、D類5点、不明1点)を除く120点の分類内訳は、I A類37点、I B類8点、I C類6点、I D類41点、II A類3点、II B類1点、II D類7点、III B類1点、IV A類1点、V A類4点、V C類3点、V D類8点となる。出土状況は約半数が包含層出土、約半数が土坑・ピット等の遺構出土である。

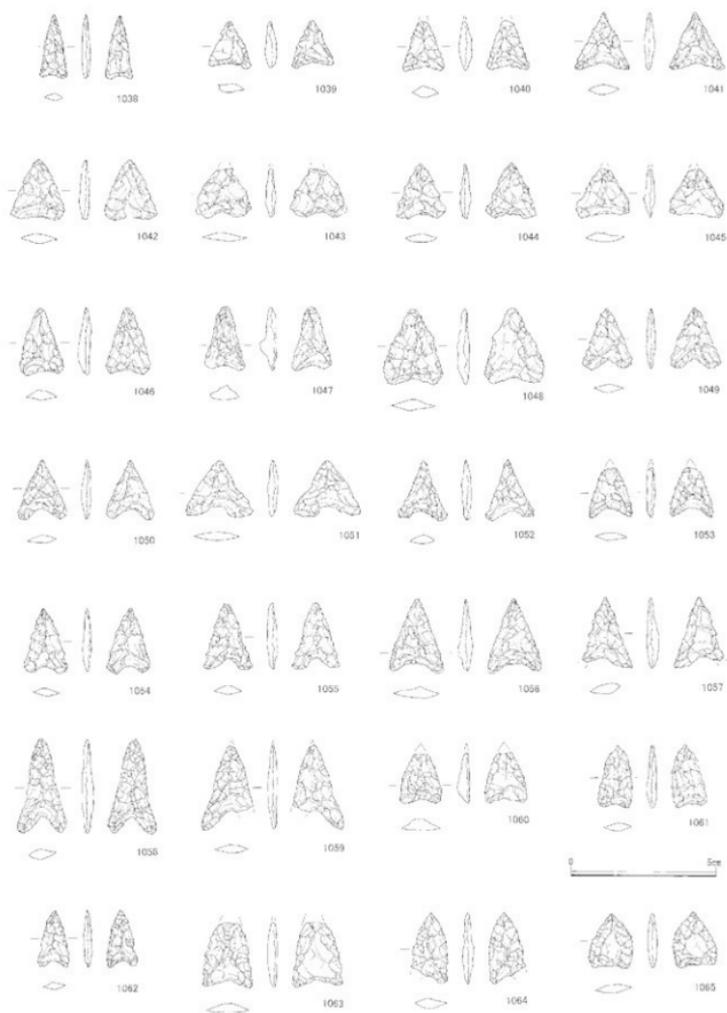
【茎の有無・基部形態】

- I類……凹基無茎鏃。
- II類……平基無茎鏃。
- III類……凹基鏃。
- IV類……尖基鏃。
- V類……有茎鏃。

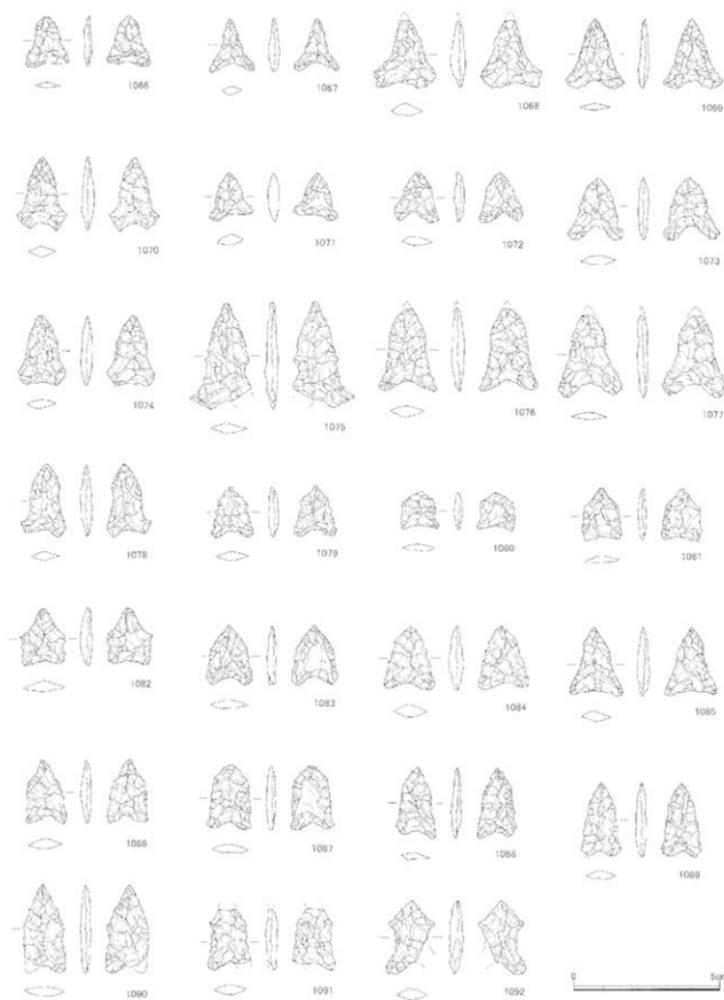
【側縁形態】

- A類……側縁が直線的なもの。
- B類……側縁が緩やかに外に張る(膨らむ)もの。
- C類……側縁が緩やかに内に張る(膨らむ)もの。
- D類……側縁が屈曲するもの。

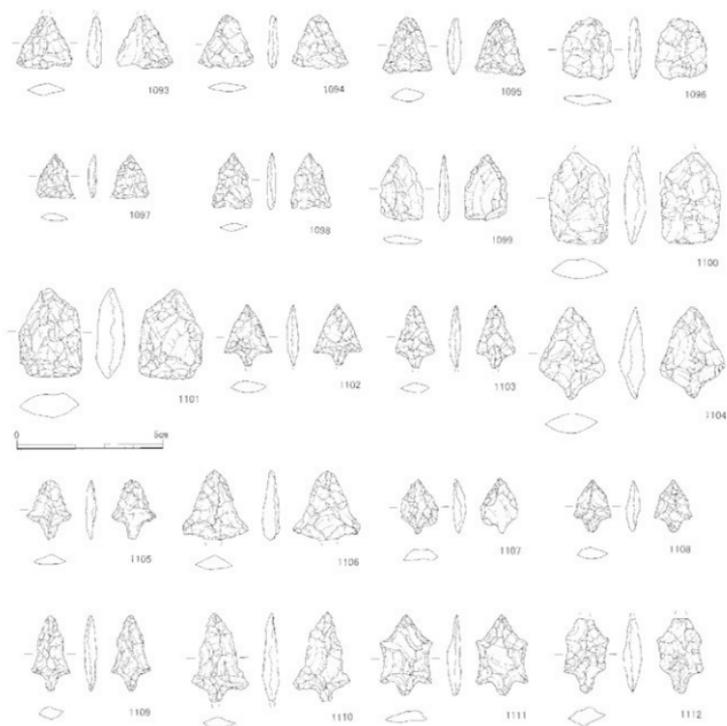
I A類 (1038～1059) ……抉りは明瞭・不明瞭があるが全体的に浅い。細身で抉りが不明瞭な1038、正三角形状で片面もしくは両面に一次面を残す1039・1044・1045、側縁がやや鋸歯状となる1049・1055、二等辺三角形状を呈し、抉りが明瞭で丁寧な整形を行う1054・1056～1059などがある。石材は1056が下呂石、1058がチャート、それ以外がサヌカイトである。I B類 (1060～1065) ……表裏面の中央に一次面を残し、抉りの浅い1060・1065、裏面に大きく一次面を残す1063、抉りが明瞭で丁寧な整形の1064などがある。石材は1064が下呂石、他はサヌカイトである。I C類 (1066～1069) ……先端部・脚部を細く仕上げる1067、ぼつてりとした感じで脚端部が角張る1068、側縁が細かな鋸歯状を呈し脚端部が角張る1069などがある。石材は図示した4点ともサヌカイトである。I D類 (1070～1092) ……1070～1078は側縁の屈



第86圖 出土石器・石製品実測圖1(2:3)



第87圖 出土石器・石製品実測圖2(2:3)



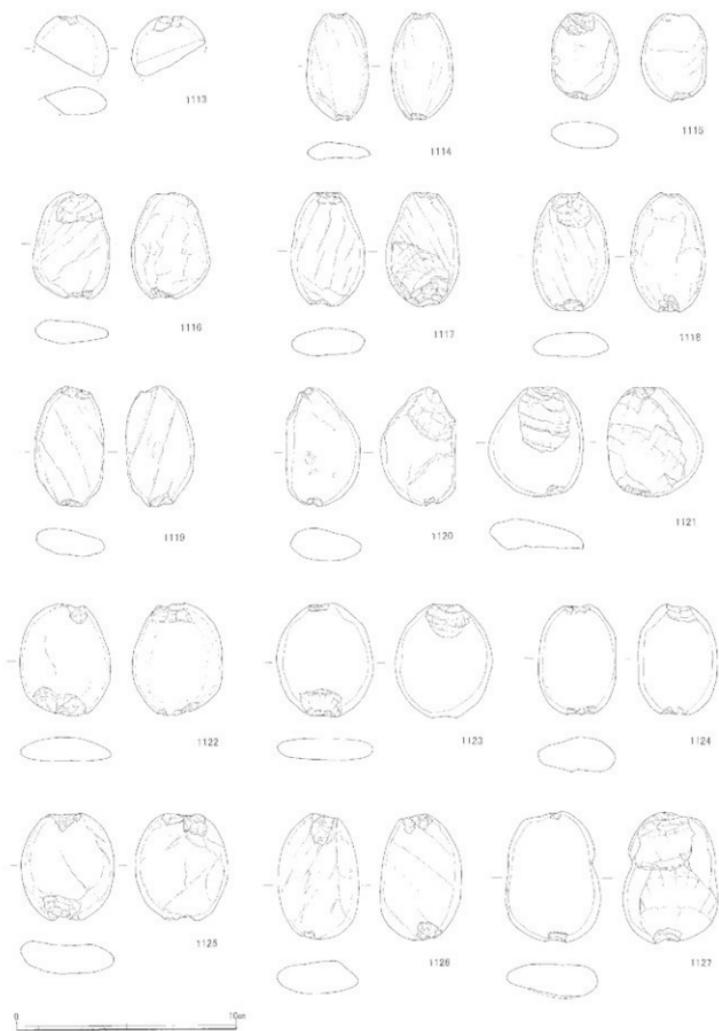
第88図 出土石器・石製品実測図3(2/3)

曲が不明瞭で、屈曲点から脚部にかけて側縁が内に反り、脚部が跳ねた感じとなり、端部が角張る。ただし、1071・1072・1076は左右の脚部形態に違いがありアンバランスな感じがするものである。1079～1084・1086・1087は屈曲点から脚部にかけて側縁が直線的で将棋駒形に近いものである。なかでも1082は屈曲点位置が最大幅となる。1088～1090は将棋駒形を細くした形態である。1085・1091は屈曲点が明瞭で、そこから脚部にかけて緩やかに側縁が内に反る。1092は屈曲点とそこから脚部にかけてのくびれが明瞭である。

Ⅱ A 類 (1093～1095) ……1093・1094は正三角形状でサマカイト製、1095は二等辺三角形状でチャート製である。

Ⅱ B 類 (1096) ……基部はいびつであるが平基に含めた。先端部をわずかに折損しているが、おそらく細く作り出すものであったと考えられる。

Ⅱ D 類 (1097～1101) ……1097は小型で側縁の一方の屈曲が不明瞭である。1098は屈曲が明瞭で基部をわずかに新しく欠損する。1099は周縁加工を施し表裏面に一次面を大きく残す。1100・1101はともに厚みがあり未成品の可能性を残すが周縁に調整



第89圖 出土石器・石製品実測圖4(1:2)



第90図 出土石器・石製品実測図5(1:2)

が及ぶことから完成品として扱った。石材は1101がチャート、それ以外がサヌカイトである。

V A類 (1102~1104) ……1102は身部が正三角形状、基部が平基、1103は身部が二等辺三角形状、基部が凸基となる。1104は厚みがあり調整は全体的に粗い。石材はすべてサヌカイトである

V C類 (1105・1106) ……1105は側縁が鋸歯状を呈し、裏面下半に一次面を残す。基部は凸基である。1106は裏面に一次面を残すもので、基部は凸基、茎は折損している。石材はともにサヌカイトである。

V D類 (1107~1112) ……1107は表表面に一次面を残す。表面の剥離は急角度となり、裏面は先端部付近中心の調整である。基部は凸基で茎は小さい。1108も1107同様に小型で基部は凸基である。1109・1110はともに身部が縦長で、側縁が屈曲点から基部にかけて内に反るもので、基部は1109が凸基、1110が平基である。1111・1112はともに側縁の屈曲点の幅と基部の幅がほぼ同じで、側縁が屈曲点と基部にかけて内に反るもので、基部は1111が凹基、1112が凸基となる。石材は1111・1112が下呂石、他が

サマカイトである。

(久保勝正)

(3) 打欠き石錘 (第89図 1113~1119・1121~1127, 第90~92図 1128~1153)

43点が出土した。うち41点を図示した。重量は最軽19.60g、最重134.80gで、完形品の平均重量は、56.10gとなるが、分布の中心は30~50g台である。組掛けのための凹部の剝離は、大半が両端の両面に形成され、両極打法によって形成されたと考えられる。浅く形成されたものが多く、後述するように楔形石器の上・下縁に類似した直線状を為すものも一定数みられる。石材は片岩が最も多く半数以上を占め、それについて泥岩・砂岩が多く、他に流紋岩・緑色岩・細粒花崗岩・チャート・礫岩・火砕岩(高見石)もみられる。

出土状況は大半が包含層出土だが、遺構内複数出土例として、S Z104からの1117・1131・1150・1151の4点と、S K16からの1119・S K71出土の1146の2点が挙げられる。第91・92図に示したものは、長さが幅の2倍以下となるやや幅広の平面形をもつ一群である。石材は泥岩が多く、砂岩・片岩がこれに次ぐ。但し、50g以上となると流紋岩が砂岩・片岩と並んで多数となる。重さは、30~40g代が主体となる。

1113は半欠品だが、ほぼ正円形の平面形を呈する例として図示した。復元重は35g前後になると思われる。1114~1119・1121~1125は、20g前後から40g強までの重量をもち、形態的には斉一性の高い形態を呈するものである。1121は、図右面では剝離が器体のほぼ全面に及んでいる。1126~1131は、重さ50g前後から60g代までのもので一群である。1127は、図右面の剝離が上下とも器体中央まで大きく突き抜けている。1132~1134は、重さ100gを超える大型の一群である。1131は緑色片岩、1132は流紋岩、1134は砂岩を用いる。形態は軽量のものとは大差ない。

1147~1153は、上下端に剝離痕が形成されるものの縁辺がほぼ直線になるものを集めた。これらは石錘として用いられた可能性も否定されるものではないが、円礫を素材とした楔形石器であることも考慮される一群である。1147は、両丸方形の平面形をもち、上下端の縁辺は潰れ状となり、凹部を全く形成していない。1148は、重複が等しい扁平自然礫を

用いる。上下端には剝離が形成されるが、やはり凹部は形成されない。図左面の中央付近には擦痕が残る。1149~1150は、1148とほぼ同様の平面形をもつ。1151の上下端の縁辺は、完全に潰れ状の痕跡のみによって構成されている。1152は、緑色片岩を用いた縦長品である。1153の縁辺もほぼ潰れ痕のみによって構成される。

第91図は、長さが幅の2倍を超える縦長品の一群である。石材は、緑色片岩ないし片岩が圧倒的多数を占め、他は図示したものでは細流花崗岩・砂岩・緑色岩が1点ずつみられるのみである。重さは1135の16.6gから1146の109.15gまで幅広いが、40g代と60g代にまとまりがみられる。凹部の形成などに幅広品との相違などはみられない。

(4) 切目石錘 (第89図 1120・第92図 1154)

1120と1154の2点のみである。1120は、レイアウト時は打欠き石錘としていたが、一見打欠き石錘にみえる器体の上下端に、不明瞭ながら擦り切りを施すもので、本器種として記述する。図上端は、切目とは呼べないほどのわずかな擦り切りによる縁状痕がみられる。下端には切目状の部分形成される。1154は、両端の両面に擦り切りによる組付け部が形成されていたと推定されるが、図右面に示したように剝離によって片面の約半分が欠落し、一方の端部も失われているが、図左面上部に示したように、わずかに切目の末端が残存している。

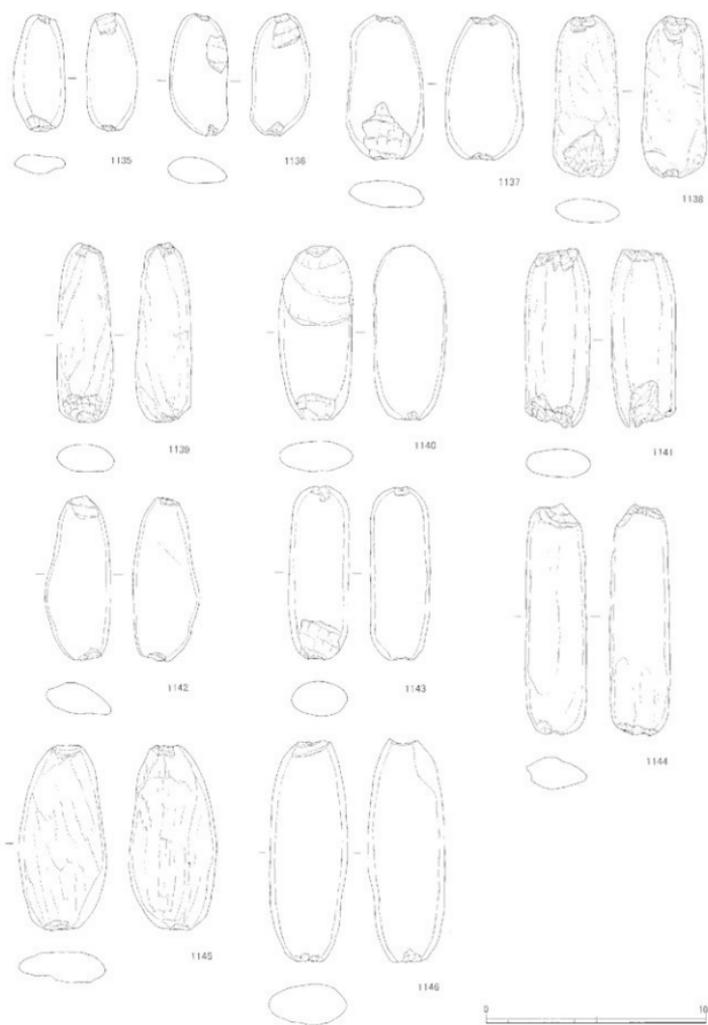
(5) 有溝石錘 (第92図 1155)

1155は、特徴的な形態をもつ。片岩製で、両端がやや尖る狭長な楕円礫を使用し、両端に近い部分にそれぞれ全周する細い施溝を行っている。他に類例をみない形態を呈していることから、垂飾や小型の石棒状石製品といった器種とすることも考えたが、ここでは溝を組付け部と理解し、有溝石錘の一種として記述した。

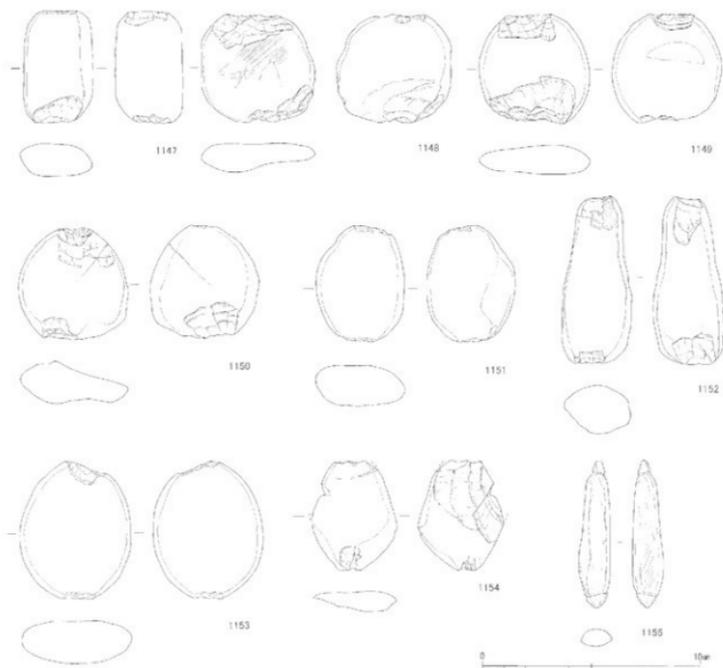
(6) 打製石斧 (第93・94図 1156~1162)

破片を含め8点を本器種とした。うち完形品7点を図示した。1157~1161は、いずれも背面の一部に原礫表や一次剝離面を、腹面には主剝離面を大きく残し、周縁の調整加工によって器器器作出している。

1156・1157は、柄部と身部によって構成される形態をもつ。1156は、長さ10cmに満たない小型品だ



第91圖 出土石器・石製品実測図6(1:2)



第92図 出土石器・石製品実測図7(1・2)

が使用による刃部の摩耗は著しく、刃縁の周辺には両面ともに線状痕が明瞭に観察される。1157は、柄部の作出が明瞭で平面形は比較的整っているが、器厚はやや厚手である。刃部の背面側には使用による線状痕が多数残り、柄部下半の側縁には結縛によると考えられる潰れ痕が観察される。

1158・1159の2点は、基部端から刃部にかけて徐々に器幅を増す平面形を呈する一群である。1158は、長さ5cm強の小型品だが、背面刃部周辺には明瞭な線状痕がみられ、腹部側にも潰れ状の小剝離が連続して形成されている。

1160・1161は、ほぼ短冊形を呈する。1160は、他に比して全体に厚手、石材は砂岩を用いることから、磨製石斧の未成品とも考えられる。1161は、

ほぼ長方形の平面形を呈する。刃部の使用痕は明瞭ではない。

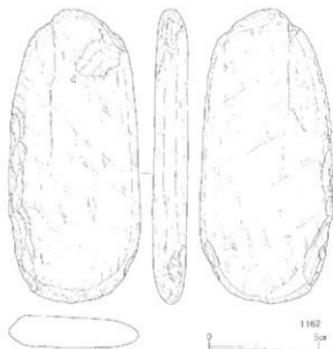
1162は、特徴的な形態をもつ、もともと扁平な楕円形を用い、周縁の一部にのみ剝離が施される。両面は平滑な平坦面だが、研磨によるものではなく、本来の礫表と考えられる。両端に使用痕はみられない。磨製石斧の未成品とも考えたが、違和感がある。本器種ないしはその未成品と考へて、ここで記述した。

(7) 粗製剥片石器 (第95図 1163~1168)

円礫から剥取した剥片をそのまま二次加工を加えずに、あるいはわずかに加えて、何かを切るために用いられたと推定される石器をここでは「粗製剥片石器」と仮称している。



第93圖 出土石器・石製品実測図8(1:2)



第94図 出土石器・石製品実測図9(1:2)

1163・1164の2点は、刃部の周縁に連続する小剥離と縦方向の線状痕を伴う摩耗が形成される。

1165～1168は、前二者のような明瞭な摩耗はみられないが、小剥離痕などの使用痕がみられるものである。

(8) 台石・石皿 (第96～100図 1169～1183・1755)

合わせて記述する。台石としたものは、手に持って使用するのではなく、据え置きで使用した石器のうち、敲打痕を残すものを台石とした。それに対して磨面が形成される石器のうち、使用面の性状から砥石と判断した以外の手で持って製粉具の上石として使用できない大きさのものを石皿とした。これらの機能については、第一に堅果類の製粉具として使用されたと推定される。但し、台石に関しては石器製作に寄与するものも一部含まれるが、抽出することは難しい。また、台石・石皿共に赤色顔料の付着したものがあり、赤色顔料＝水銀朱の精製に用いられたものも確実に含まれている。石材の使用傾向に大きな差異はなく、安山岩を主体として、砂岩がこれに次ぎ、他に閃緑岩・花崗閃緑岩・花崗岩・波紋岩・片岩などがみられる。レイアウトは一括して為されているため、両者が混在しており煩雑だが、器種別に進めていくこととした。

台石は46点ある。うち14点を図示した。

1169は、片面の中央にわずかに敲打痕が残る。1173は、図右面上部の破損部付近に敲打痕が観察さ

れる。1175は、約3分の1を残す破片である。図左面の中央に敲打痕が広く残る。1177は、両面に敲打痕の残る破片である。敲打痕の位置が偏っていることから、破損後に敲石として使用された可能性も考慮される。1182も1177と同様の破片である。但し、周囲に礮器の刃部としても機能し得る剥離痕が形成されることから、ここにレイアウトした。1755は、「立石」として取り上げられたものを、整理の段階で台石と器種認定した。隅丸方形の平面形を呈する整った自然礮を素材とし、表面の中央に広く赤色顔料の付着が確認される。後述の朱付着磨石と共に水銀朱の精製に用いられたものと考えられる。

石皿は11点ある。うち9点を図示した。

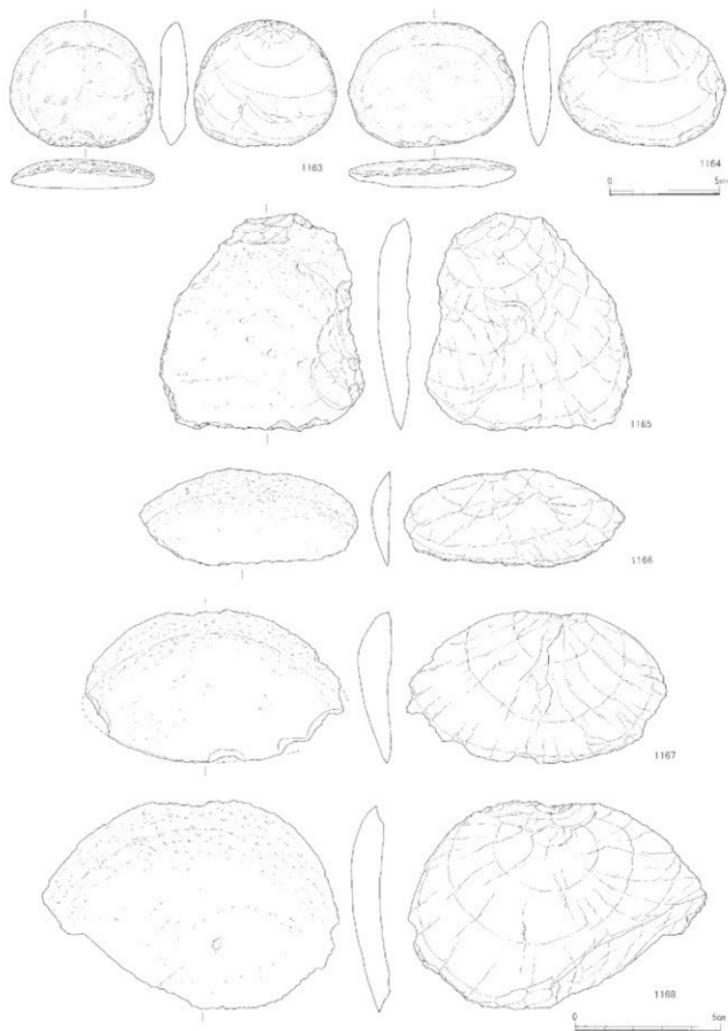
1170は整った楕円形を呈する両面に使用痕がみられるが、横断面をみると上面が凹面となっており、下面は凸面となることから、図左面が製粉のための機能面であり、図右面がいわゆる床擦れと考えられる。

1171も同様の整った形態の自然礮を素材とする。やはり両面に使用面が残るが、一方を床擦れと判断すべきであろう。側縁の一部に剥離面が形成されるが、その意味は不明である。1172は、一部を欠損する。断面形或使用面の性状から判断して図右面が機能面、図左面が床擦れである。1174は、1171・72と同様の形態をもつものの破損品である。半欠後に周囲に剥離面が形成されるが、その意味は不明である。礮器とするには刃部形成が不十分である。

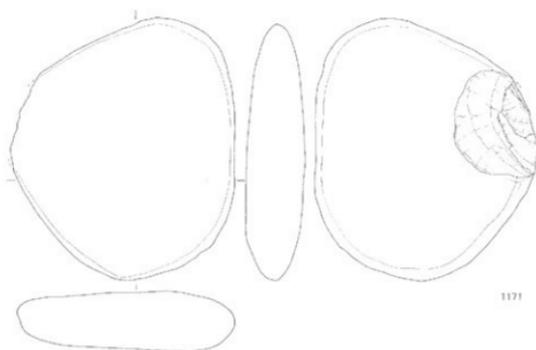
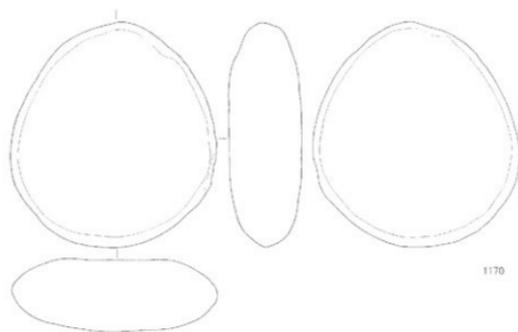
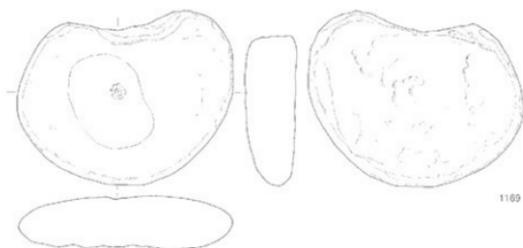
1176は、緑色を呈する薄い板状の片岩礮を素材とし、図左面の一部に広く赤色顔料が付着している。

1178は、肌理の細かい砂岩製の石皿片である。図左面は極めて平滑な使用面となっているが、他の面は大きな分割面となっている。1179は、1171・72と同様の形態をもつものの周縁を大きく破損した事例である。図右面が機能面、図左面が床擦れであろう。1180は、約4分の1を残す破片である。図左面が機能面である。1181は、大きく破損面が覆う破片である。1183は、約2分の1を残す破片である。図左面が機能面、右面が床ずれである。図下部に剥離痕をもつが、両面共に一面で構成されており、礮器の刃部を意図したものではないであろう。

(9) 敲石 (第101～104図 1184～1219)・礮石 (第105図 1221～1234)



第95図 出土石器・石製品実測図10(1165~1168は2/3、1163・1164は1/2)



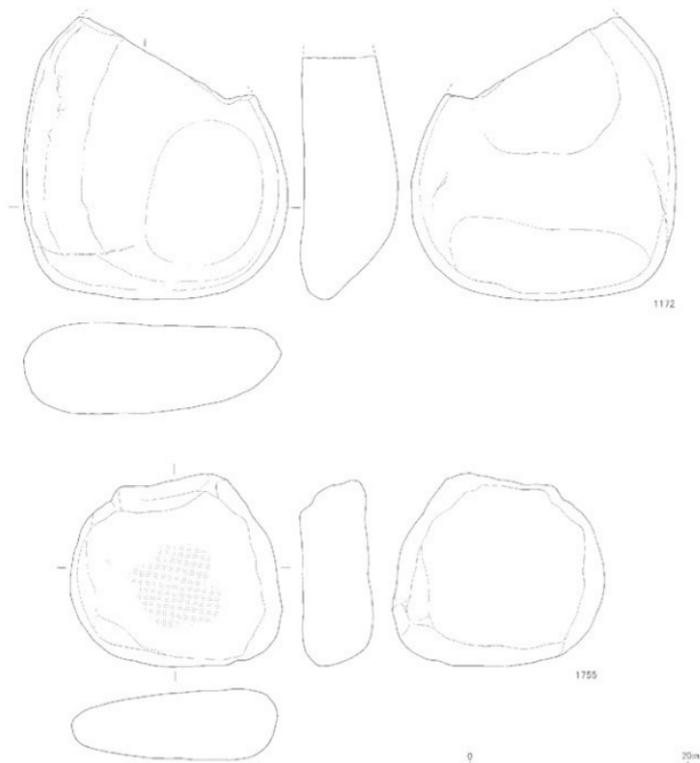
第96圖 出土石器・石製品実測図11(1:4)

楕円形の自然礫を素材とし、器面に敲打痕を残すものを本器種とした。一部に赤色顔料の付着したのもみられる。組成上は区分して検討する。敲打痕が形成される位置によって細分が可能だが、ここでは一括して記述する。なお、第105図に挙げたものは、石器製作の「礎石」として理解すべきものだが、ここで続けて記述する。組成上は、植物質食料の加工具と推定されるものとは区分して、別途検討する。石材については、安山岩と砂岩がほぼ拮抗して存在し、花崗岩・デイサイトがそれに次ぐ。他に、

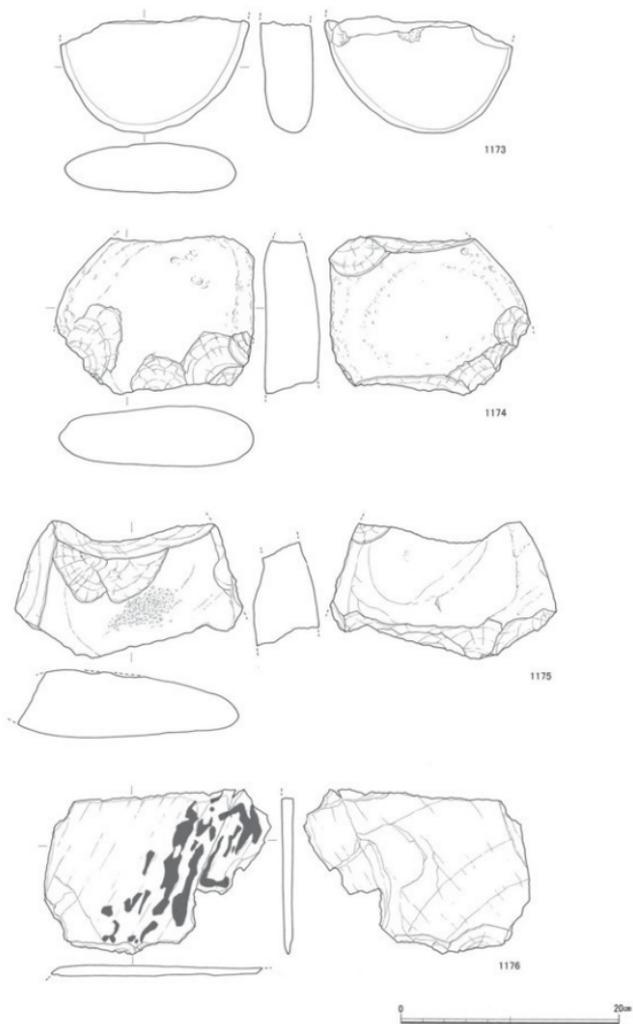
閃緑岩・花崗閃緑岩・火砕岩（高見石）がある。植石には、砂岩が多く用いられ、特徴的な用材としては棒状の片岩礫を用いて一端に敲打痕の形成されるものが、まとまってみられる。

まず、植物質食料の調理・加工具として推定される一群について記述する。敲打痕のみのものもあるが、基本的には磨面の複合するものは、すべてここに含まれると理解される。

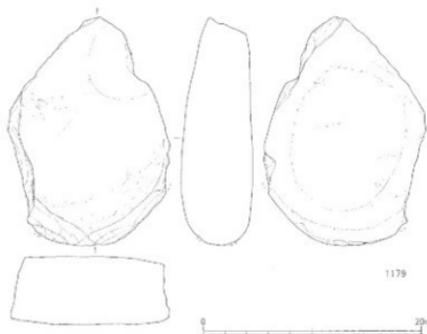
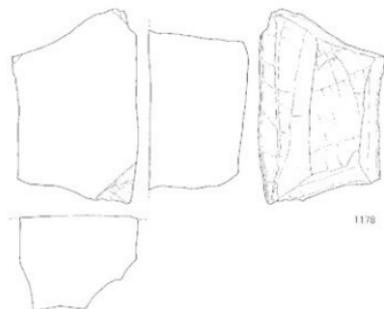
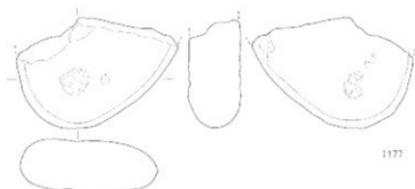
1184・1185は、両面のほぼ中央にのみ敲打痕による凹みをもつ。1184は、図右面が磨面となっている。



第97図 出土石器・石製品実測図12(1:4) ※網点は赤色顔料



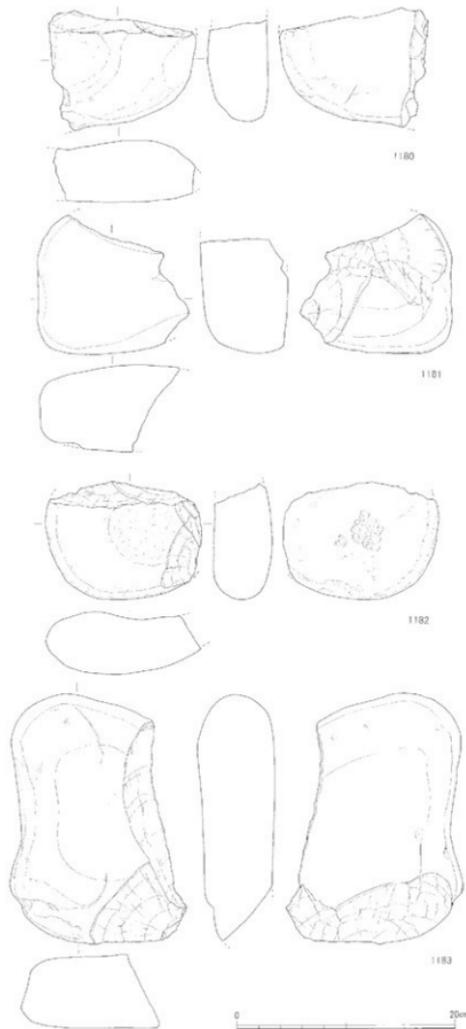
第98図 出土石器・石製品実測図13(1:4) ※網点は赤色顔料



第99図 出土石器・石製品実測図14(1:4)

受熱による変色がみられる。1185は表面は極めて平滑だが、磨面ではなく、本来の礫表である。1190は、同様のものの破片だが、敲打痕の形成はわずかである。両面の磨面は明瞭ではない。1186~1189、1191・1192は、両面に加えて側縁の一部にも敲打痕をもつ

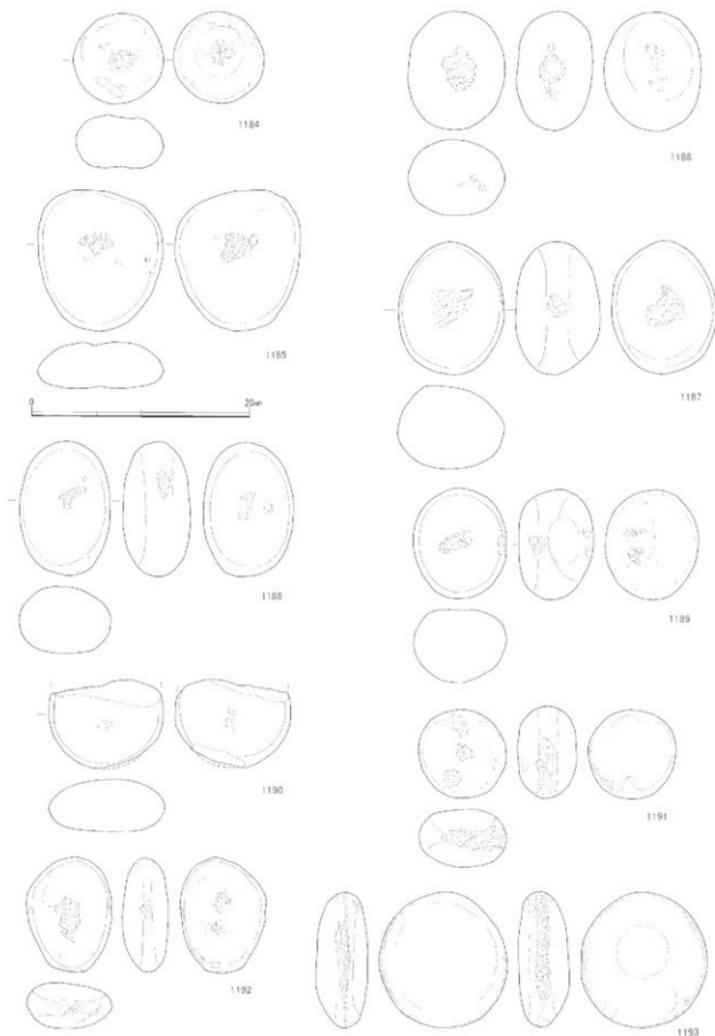
ものである。1186~1189は、側縁のごく一部だけに敲打痕が形成される。1186は、両面共に敲打による回みの周辺にスベスベとした磨面が広く形成されている。1191は、周縁の約半分に敲打痕が帯状に形成されている。1192は側縁に加えて一方の端部にも敲



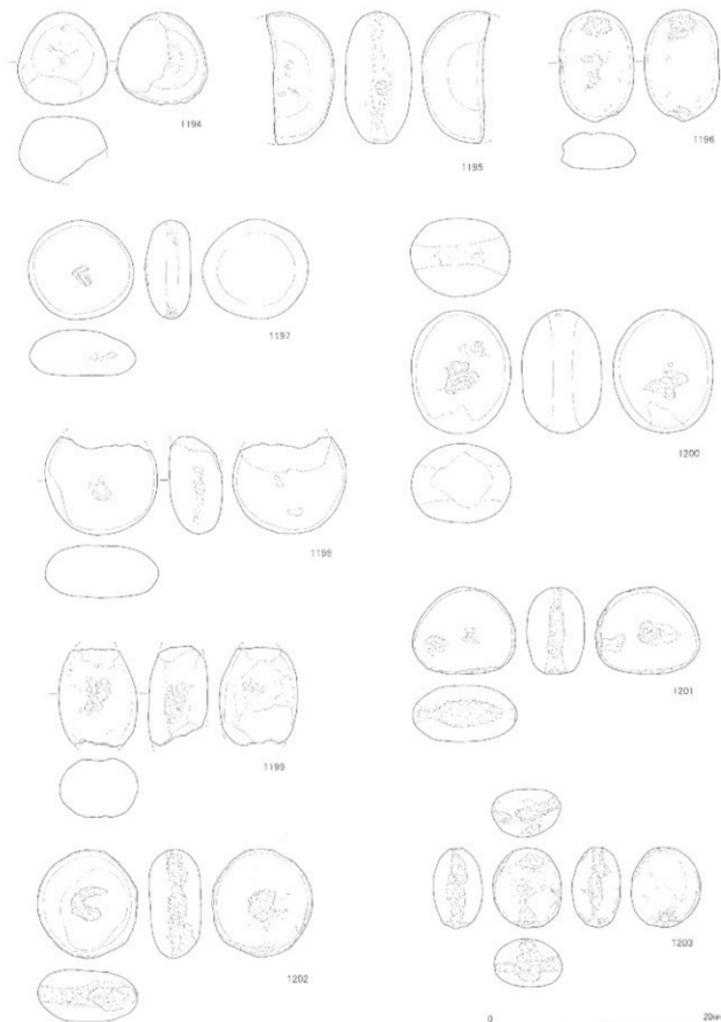
第100図 出土石器・石製品実測図15(1:4)

打痕が形成される。1193は、両面に敲打痕をもたず、周縁のほぼ全周に敲打痕が帯状に形成されている。両面は磨面となっており、特に図左面では磨面が明瞭に形成されている。

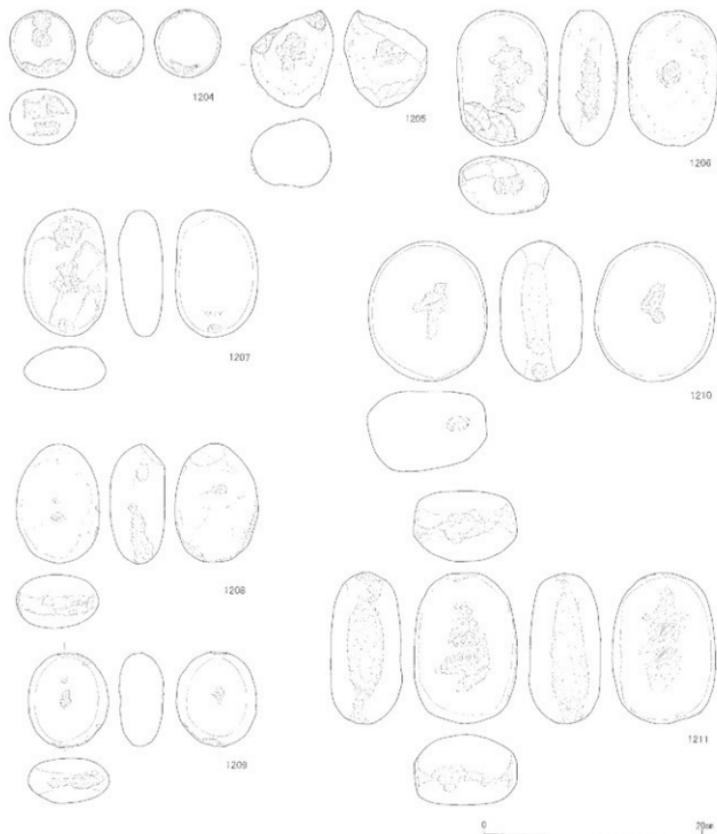
1194は、一部を欠損する小型品である。両面の中央に弱い敲打痕の集中がみられる。1195は、半欠品で両面とも滑らかな磨面となっている。周縁にも敲打痕がみられる。1196は、両端に近い平坦面側に敲打痕が形成される。敲打痕の位置と磨面を複合しないことから、槌石と判断すべきか。1197は、図左面の中央と側縁の一部に敲打痕が残る。図右面は明瞭な磨面となっている。1198は、約3分の1を欠損する。正円形に近い整った自然礫を用い、図左面中央と周縁に敲打痕が形成される。図右面には自然の凹みが2ヶ所ある。現存部の約2分の1にわたる変色部分がみられる。1199は、厚手の楕円礫を用い、両面中央と側面に敲打痕をもつ。両端の欠損は受熱による破砕で、全体も変色している。1200は、厚手の整った楕円礫を用いる。両面の中央に深い敲打痕の集中部が形成されている。長軸の一端に広く炭化物の付着が認められる。1201は、両面の複数箇所と周縁に敲打痕を残す。特に周縁では、図示のように幅広い面を形成する部分がみられる。図右面の敲打痕付近には炭化物の付着がみられる。1202では、両面の中央の敲打痕は深く明瞭で、周縁の全周に幅広い帯状の敲打痕が形成されている。1203もやや小型ながら同様に明瞭な敲打痕がみられる。1204は、球状の自然礫を用い、周縁を中心に明瞭な敲打痕が形成される。1205は、両面の中央に深い敲打痕が形成される。両端を欠損する。1206は、図左面では広く敲打痕が形成され、右面でも中央付近にみられる。両端面と両側縁にも敲打痕が形成される。一部を破損する。1207は、図左面の3ヶ所、右面下の1ヶ所に敲打痕が残る。1208は、両面の中



第101図 出土石器・石製品実測図16(1・4) ※網点は赤色顔料



第102图 出土石器·石製品実測図17(1:4)



第103図 出土石器・石製品実測図18(1・4)

央と周縁に敲打痕が形成される。図上端の平坦面は自然面である。1209は、整った槽凹礫の両面と長軸端部の広い範囲に敲打痕が形成される。1210は、大型・厚手の槽凹礫を用い、両面中央と側縁に敲打痕が形成され、側縁では面を為す。両面は明瞭な磨面となっている。1211は、両面に複数の回みと面的な敲打が形成されている。さらに周縁のほぼ全周にも広く敲打

痕が形成され、長具端部と両側縁の4ヶ所には面が形成されている。両面は磨面となっている。全体に受熱による赤化がみられ、図左面から右側縁にかけて炭化物の付着がみられる。

1212～1219は、礫器状の刃部をもつもの及び分割礫を使用したものである。

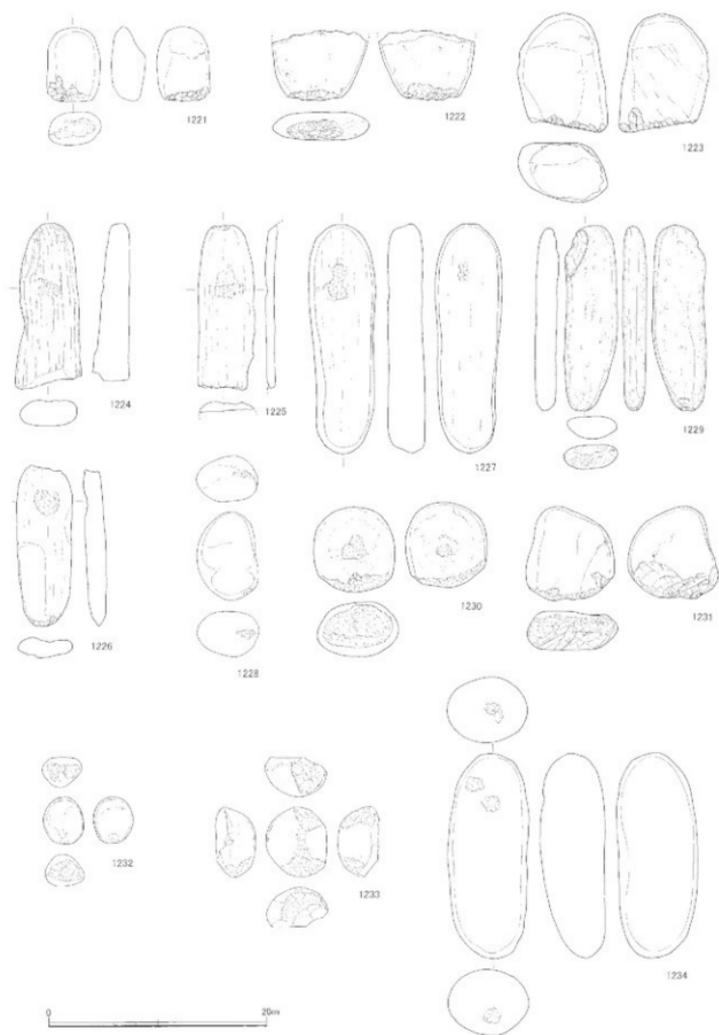
1212は、両面の中央に敲打による弱い回みが形成



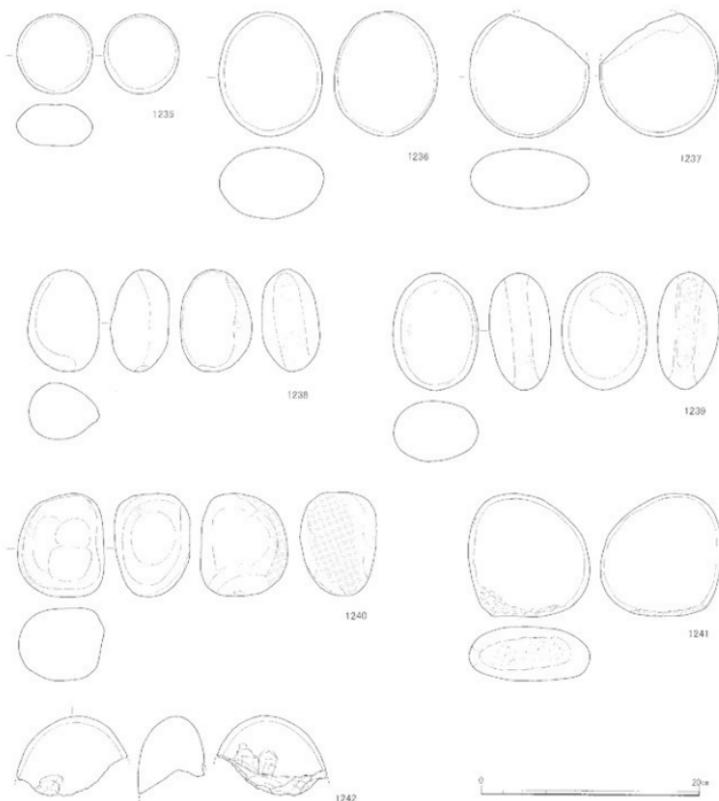
第104図 出土石器・石製品実測図19(1:4)

され、図左面は磨面となっている。右面の一部に複数の剝離が残されるが意図的な刃部形成か否かは判断できない。1213は、周縁に広く剝離面が形成され、一見機器状を呈するが、刃部としては安定したものではない。1214は、厚手・円柱状の礫を用い、残存する平坦面中央と一端に敲打による凹みが残る。1215は、不整形な楕円礫を用い、両面には敲打による

凹みが形成されるが、図下端には剝離痕が形成され、縁辺は弱い潰れ状となっている。何らかの加撃に使用されたと考えられ、敲石からの転用、あるいは槌石として分類すべきか。1216は、一見機器状を呈する分割礫の残存する周縁に敲打痕が残る。分割後に敲石として使用されたと考えられる。1217は、残存する平坦面と周縁に敲打痕が形成される。図右



第105圖 出土石器・石製品実測圖20(1:4)



第106図 出土石器・石製品実測図21(1:4) ※網点は赤色顔料

面は多方向からの剝離面で構成されている。1218は、長楕円・扁平な自然礫を用い、一端に剝離面が構成される。1219は、本来は不整形な多角柱状を呈する礫の中央部の破片を礫石と使用したものと考えられる。各面及び稜の一部に敲打痕が残る。

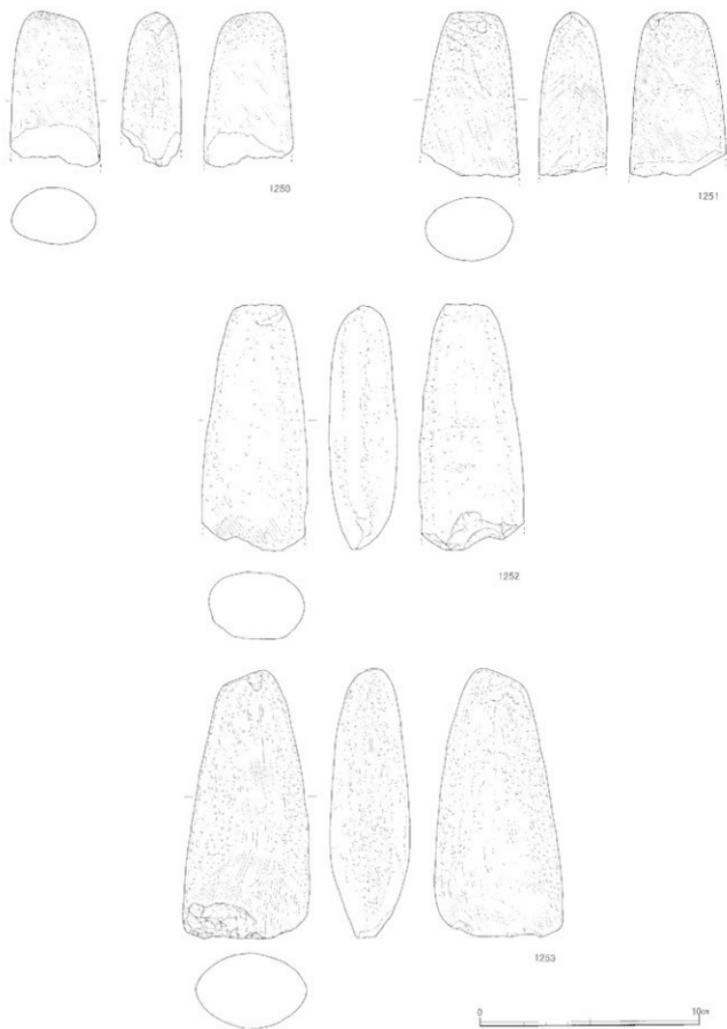
1221～1234は、槌石としたものである。1221～1223は、礫の一端に敲打痕の集中が面を為して形成され、その周囲の側面には剝離面が形成される。

1221は小型の完形品。1222は、扁平な礫の一端に敲打痕が形成される半欠品である。1223は、厚手楕円礫の一端が破損面となり、その周囲に剝離面が形成される。

1224～1229は、扁平な楕状礫を素材とするものである。1224・1225は、共に一端を欠き、同様の性状を示す。残る一端に近い偏った位置に敲打による凹み形成され、端部にも敲打痕がみられる。1226も



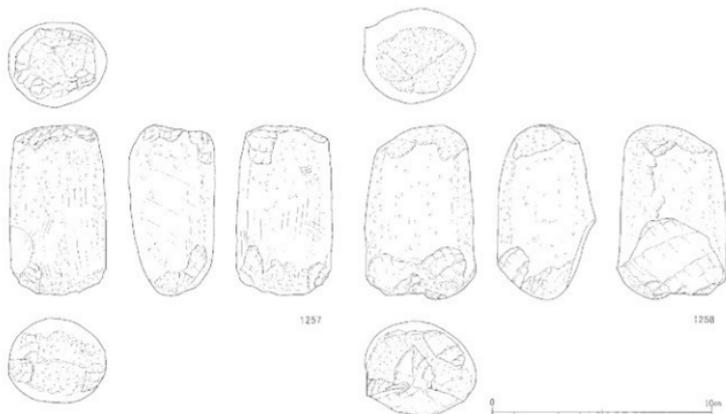
第107図 出土石器・石製品実測図22(1:4)



第108図 出土石器・石製品実測図23(1:2)



第109圖 出土石器・石製品実測圖24(1:2)



第110図 出土石器・石製品実測図25(1・2)

はほぼ同様のものの破損品である。1227は、完形でやはり一端側へ偏った位置の両面に敲打痕による回みが形成される。1229は図上端部に近い側縁に加撃による剥離が形成され、下端にはそれに対応すると考えられる小剥離と潰れ痕が形成されている。礫器としたものの中にも近似した例がみられる。

1228・1230～1233は、すべて砂岩を素材とする。1228は、小型の整った楕円礫を素材とし、両端に敲打の集中による小さな面を形成する。1230は、厚手の円礫を素材とし、一端には粗い敲打による広い面が集中される。両面の中央にも敲打痕が形成される。1231は、やはり厚手の亜円礫を素材とし、一端には敲打による面が形成され、それに付随する剥離がその周囲に構成される。1232・1233は、いずれも卵形の小型自然礫を素材とし、両端部のみ敲打による面が形成される。特に1233は、一部を欠損するものの多面体状となる。

1234は、波紋岩製の円柱状の長楕円礫を素材とし、一端側の偏った位置に2カ所の敲打痕が形成され、長軸の両端にも敲打痕が残る。炭化物の付着がみられる。

(10) 磨石 (第106図 1235～1242)

礫石と同様の楕円礫を素材とし、使用痕が磨面の

みによって構成されるものを本器種とした。形態によって分類したため、植物質食料の製粉具である磨石と赤色顔料の加工具である磨石をここでまとめて記述するが、組成の検討では、分離して記述する。36点のうち、8点を図示した。うち2点が赤色顔料付着磨石である。石材は、8点のうち6点が砂岩、1238・1241の2点が波紋岩である。砂岩主体の傾向は図示しなかったものを含めても変わらない。

1235は整った形態をもつが、磨面の形成は弱い。1236も整った厚手楕円形の自然礫を素材とする。磨面の形成は、全体がわずかに摩耗している程度である。1237は、一部を欠損する。両面には平滑な磨面が形成されている。

1238・1239の2点は赤色顔料の付着が確認され、水銀朱の粉化に用いられたと推定される。1238は、側縁のかなり広い範囲に赤色顔料の付着が点状に確認され、本来はその範囲全体が機能面となっていたと推定される。1239も、側縁の一部に赤色顔料が付着する。赤色顔料の痕跡は、側縁の一部に斑状に残る。1240は、やはり側面に広く変色部が残り、赤色顔料の可能性が想定される。しかし、全体にくすんだ紫色を呈し、他の資料とは付着の状況が異なることから、断定はできない。



第111図 出土石器・石製品実測図26(1:4)

1241は、不整形な楕円礫を用い、両面に磨面が形成される。図下縁には敲打痕状の部分が広くみられるが、礫本来の自然面である。1242は、約2分の1を残す破損品である。割れ面は一見礫器の刃部のようにも見えるが、平坦面にみられる剥離面も含めて、意図的なものか判断できない。

(11) 磨製石斧 (第107～110図 1243～1258)

18点がある。礎石への転用品2点を含めた16点を図示した。組成上は、転用品＝礎石を本器種には含めない。石材は、閃緑岩が大半を占め、選択的に使用されていた可能性が高い。小型の「定角式」石

斧には珩岩が使用されている。他に変成岩・砂岩・チャート製がある。第109図は、側縁に面を形成するいわゆる「定角式」の一群である。

1243は、小型斧の刃部側約2分の1の破片である。両面及び利用側縁には、製作時の研磨痕が、刃部周辺には使用時の擦痕が、刃部縁には微細な剥離痕が観察される。図右面右縁には、擦切り分割の痕跡とも考えられる施溝が残る。1244は、緑色岩を素材とし、刃部の破損後に剥離面が形成されている。この2点は珩岩を用いている。1245・1246は、共に基部端をわずかに欠くものの、ほぼ全長を残す資料である。いずれも器幅が器長の2分の1を上回る幅広品であり、着柄が不可能となって、廃棄されたと考えられる。1246は図中の白抜き部分が、火はね状の剥落痕となっているが、受熱によるものか否かは判断できない。1247は、器体のほぼ中央で折損し、そのまま廃棄されたと考えられる破損品である。1248も、同様の破片である。折損面とその周囲に敲打痕が形成される。1249は、堅緻な石材を用いており、全体に光沢が観察される。石材鑑定では、チャートとされている。現状の長さから勘案して、刃部の再研磨を繰り返した結果、着柄して使用することが不可能になり、その後「楔」として転用された可能性が考えられる。基部周辺と刃部に形成された新しい剥離は、それに伴うものであろう。

第108～110図は、横断面が楕円形からほぼ正円形を呈する一群である。

1250～1253は、基部端を直線的に整形するものである。1250は、基部側約2分の1の破片である。全体に整形時の研磨痕が観察される。1251は、1250とほぼ同様の形態を呈するが、研磨はやや粗く、整形時の敲打痕がより多く残っている。1252は、ほぼ全長を残すが、刃部に新しい剥離痕が形成されている。1250・1251の元の形態もこのようなものであろう。

1253も同様のほぼ完形品である。基部側には製作時の敲打痕が多く残るが、刃部周辺には使用時の線状痕が明瞭に残り、残存する刃縁の潰れ・摩耗も著しい。1254は、全体が円柱状を為し、断面形はほぼ正円形を呈する形態をもつ。1255は、1254と同様の形態を呈するものの刃部側約2分の1の破損品で



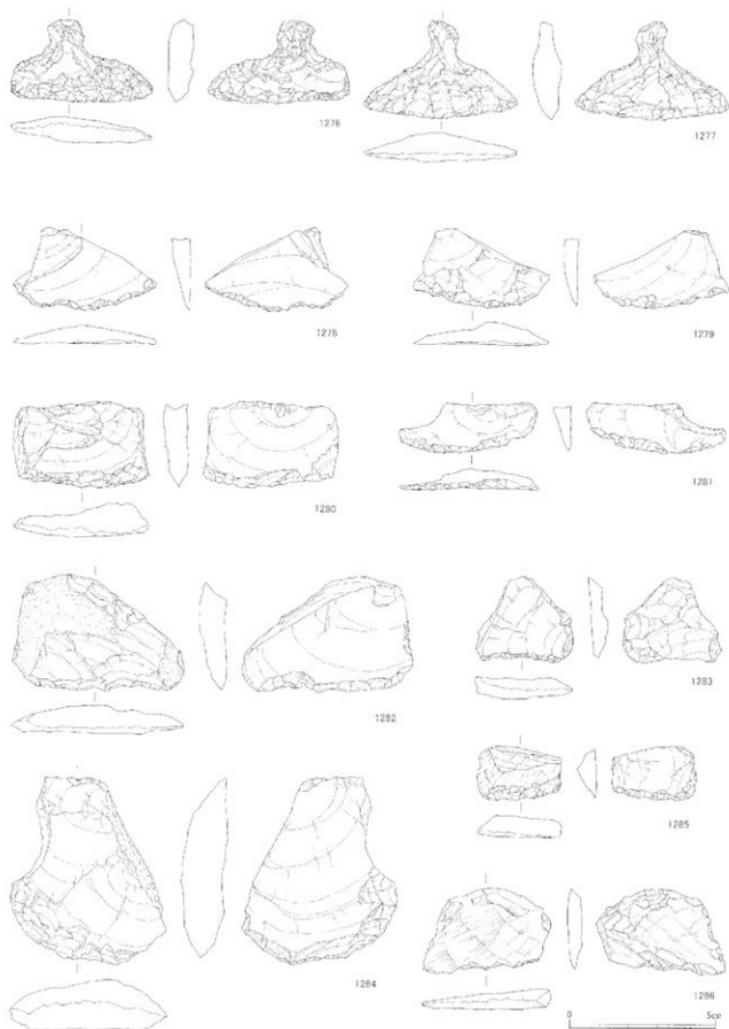
第112図 出土石器・石製品実測図27(2・3)

ある。使用時の加撃、再利用のための加工、もしくは使用によって、刃縁からの一面の剝離により折損している。1256は、横断面形は正円形に近いが、基部端が尖る形態を呈する。

1257・1258は、断面形が円形を呈する磨製石斧の破損品を転用したと推定される礎石である。前述のように、敲打痕の周縁に加撃による剝離痕が形成されたり、敲打面が多面体状を為す敲石=礎石と同様に植物質食料の製粉具ではなく、その他の加工活動に使用されたと考えられる。

(12) 礎石 (第111図 1259～1261)

4点を本器種とし、うち3点を図示した。1259は約半分を欠損する小型品である。断面形は不整形な隅丸三角形を呈し、3面とも研磨面が形成される。うち2面には浅く溝状を為す部分が一条ずつみられる。1260は、一方の面の中央に敲打痕をもち、もう一面には平滑な研磨面が形成される。研磨面の性状から本器種としたが、石皿として判断すべきものかもしれない。1261は、不整形な長楕円礎を用い、3面に研磨面が形成される。(大下 明)



第113圖 出土石器・石製品実測圖28(2・3)



第114圖 出土石器・石製品実測図29(2・3)

(13) 石鏃 (第112図 1262~1275)

加工により錐状の機能部を作り出したものを本器種とした。1262・1263は明瞭なつまみ部をもち、ほぼ全体に加工を行って、棒状で長く尖鋭な機能部を作り出すものである。1263のつまみ部には打面・パルプが残置する。1264は明瞭なつまみ部をもち、ほぼ全体に加工を行って短い機能部を作り出す。

1265~1268は明瞭なつまみ部をもち、全体形が長身細身で棒状(針状)となるものである。1265は入念な加工がなされ断面が三角形を示す。1267は楔形石器の削片を利用したもので腹面側にわずかながら加工を行う。1268は両面とも片側加工のため断面が平行四辺形状となる。

1269~1271・1273~1275は明瞭なつまみ部をもち、全体形が二等辺三角形(1269~1271・1273)もしくは正三角形(1274・1275)を示すものである。

1272は素材の一端に加工を施し機能部を作り出したもので、小型の横長削片を用いる。

(14) 石匙 (第113図 1276・1277)

つまみ部をもち、他の縁辺に加工を行い、刃部を作り出すものである。1276はB I 区出土で表裏面に一次面を残し、身部は横長で細身である。石材は赤珪岩である。1277はA I 区出土で表面に残る礫表皮以外は表裏面から調整を行う。裏面中央には一次面が残る。身部は横長の三角形を示し、刃部表面側は奥にのびる剥離となっている。石材はサヌカイトである。

(15) 削器 (第113・114図 1278~1291)

縁辺に連続した加工を行い、安定した刃部を作り出すものである。

一辺にのみ刃部を作り出すものには、凸刃となる1278~1280・1284・1288・1291、直刃となる1285、凹刃となる1283・1287がある。1278は細かな剥離面が表裏面に連続するものである。1280は礫面を打面とする横長削片の長辺に、1283はチャートのすつまり削片の側縁腹面側に細かな加工を施す。1284は礫面を打面とする幅広削片に両面加工を行い凸刃とするものである。1285は縦長削片の側縁に表裏面から加工を行う。1287は礫面を打面とする不定型な削片の長辺に背腹両面から加工がなされる。1288

は小型の幅広削片の長辺に加工を行う。1291は片面が礫表皮に覆われた厚手の削片に急角度の加工を行う。

二辺以上に刃部(加工部)を作り出すものには1281・1282・1286・1289・1290がある。1281は小型の横長削片の長辺に刃部を形成し、打面側縁辺にも腹面側から加工を行う。1282は一辺にややいびつな刃部を形成するとともに対辺の背面側にも短い範囲に加工を行う。1286は相対する二辺を凸状と直線状に片面加工するものである。1289は打面側と側縁に背腹両面から凸状・直線状の加工を行う。1290は横長削片を素材とし、礫面の打面部以外に背腹両面からの加工を施す。

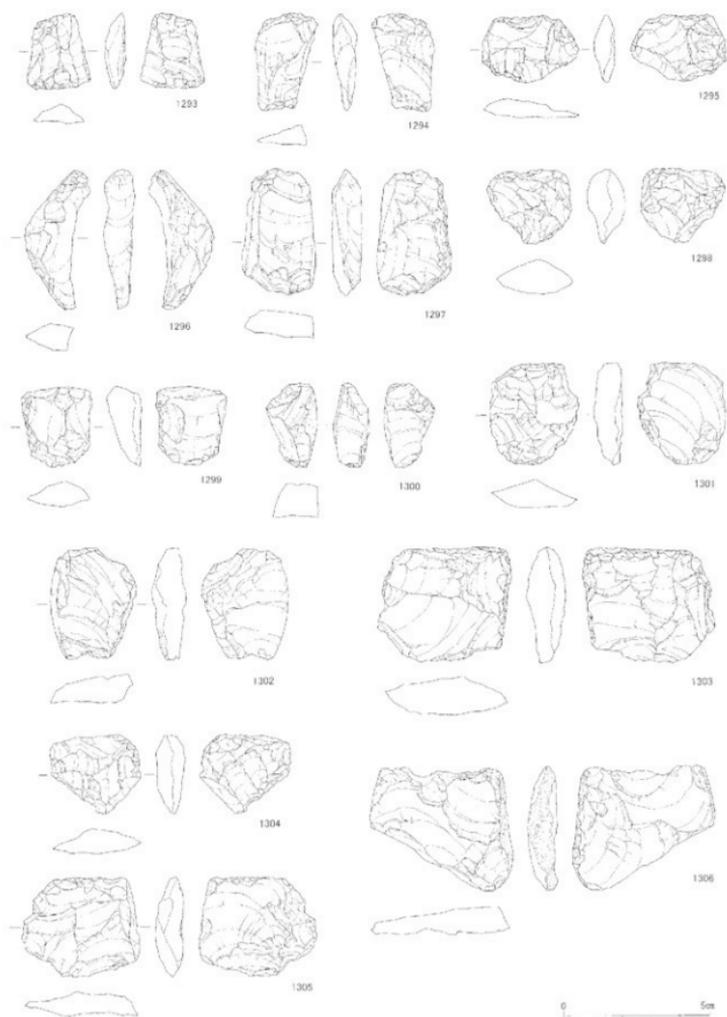
石材は1282・1291が硬砂岩、1283がチャート、それ以外の11点と未実測2点の計13点はサヌカイトである。

(16) 楔形石器 (第114~116図 1292~1311)

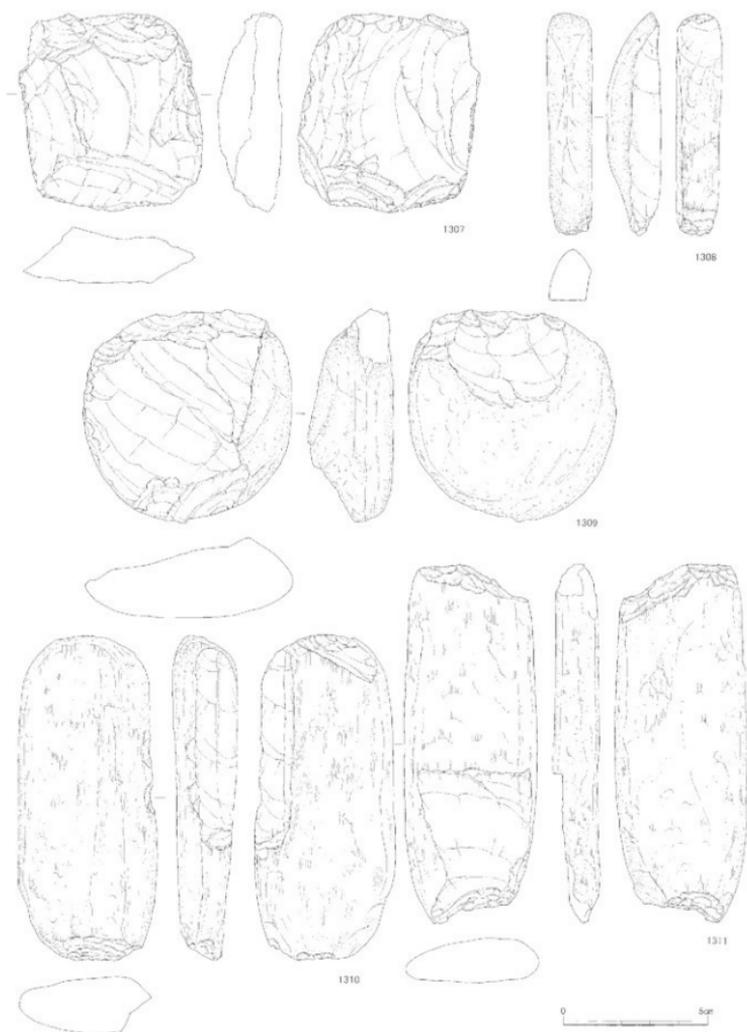
相対する二辺、あるいは上下・左右の四辺に細かな剥離痕、階段状剥離痕、つぶれ状の剥離痕、奥に延びる平坦な剥離痕をとどめるもので、截断面(加撃方向に沿う剥離面)や加撃方向に違う折れ面をもつ場合が多い。

出土した64点の石材の内訳は、サヌカイト38点、下呂石14点、チャート5点、頁岩2点、砂岩1点、緑泥片岩1点、片岩3点となり、サヌカイトが最も多いが、下呂石も目立って存在している。

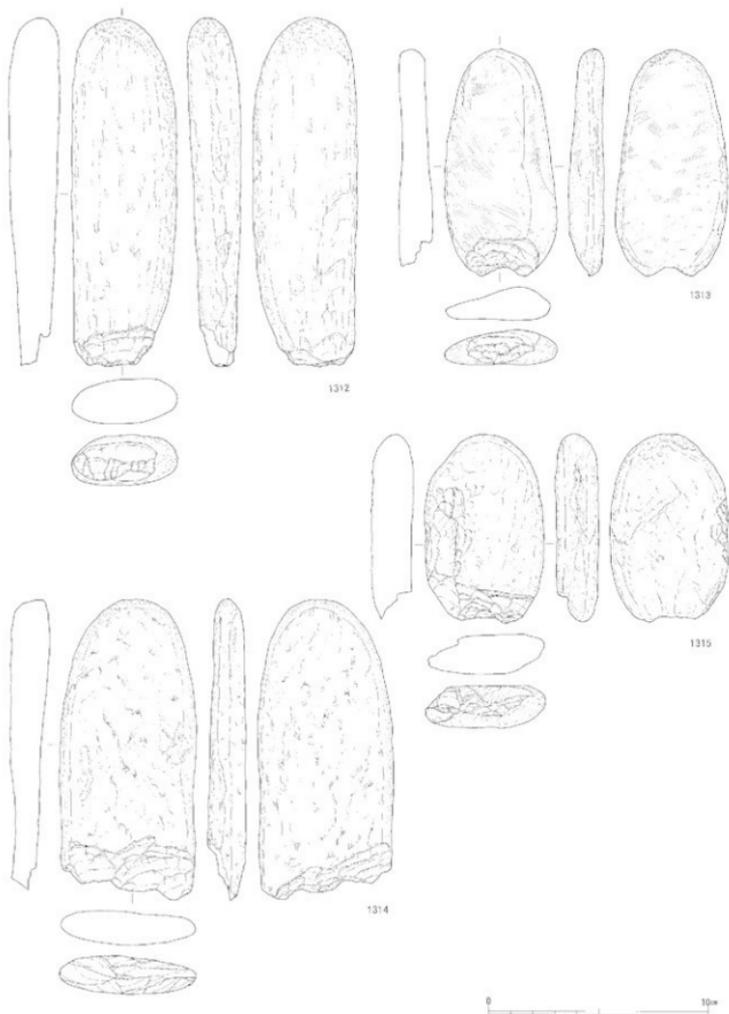
1292・1293は上下端から奥に延びる平坦な剥離が1294は上下端からの剥離と一つの折れ面で構成される。1295・1301・1304も上下端からの剥離によるものであるが、45度ほど軸を移動させているため五角形状となっている。1296は削片状のものである。1297は上下端から剥離が中心で、左右は截断面となっているがそこから剥離もなされている。1298は四辺からの剥離痕をとどめるもので、大きさの割に厚みがありずんぐりとした感がある。1299は三辺に剥離痕をとどめるが、その剥離痕の状態から本器種認定に躊躇したもので削器の可能性がある。1300は上下端からの加撃を中心とし、截断面等で柱状を呈する。1302・1305は上下端からの加撃による剥離面で構成され、それぞれ上下端に抜ける截断面をもつ。1303・1307は四方から剥離がなされ正四角



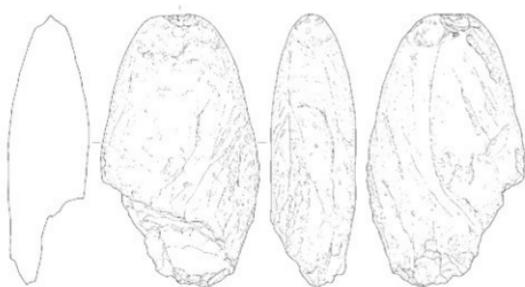
第115圖 出土石器・石製品実測圖30(2・3)



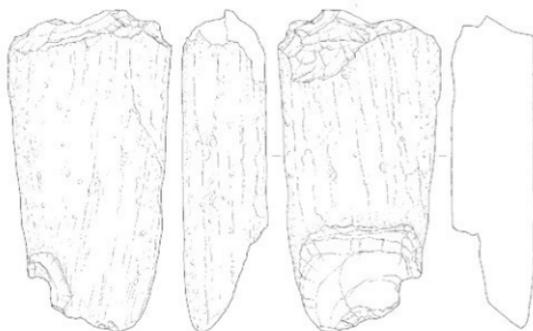
第116圖 出土石器・石製品実測圖31(2:3)



第117圖 出土石器・石製品実測圖32(2:3)



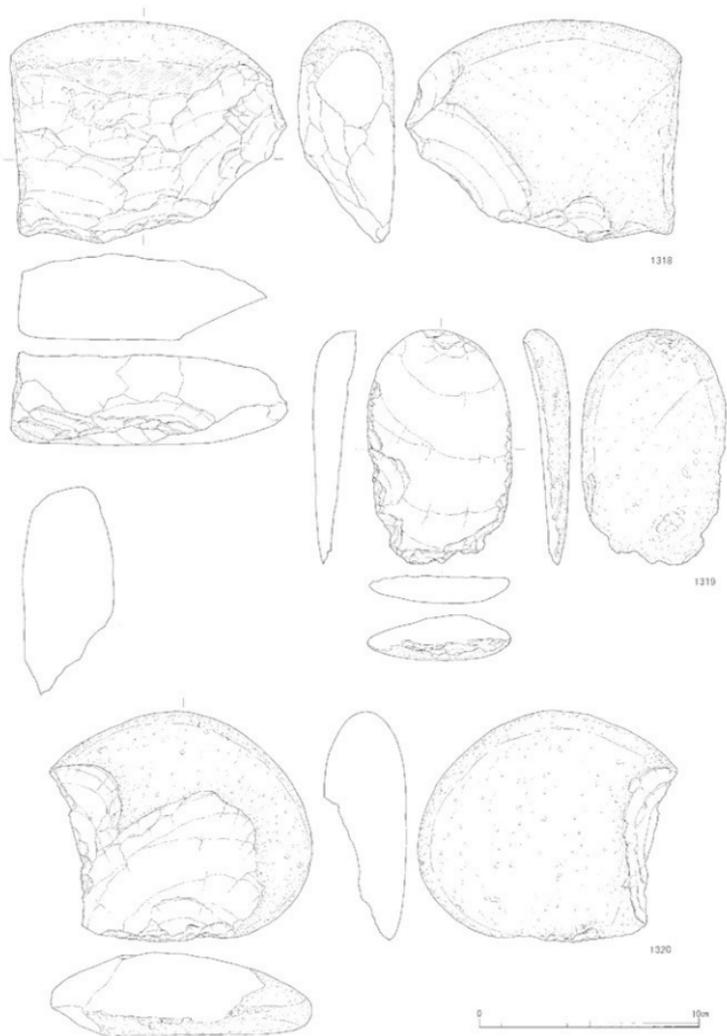
1316



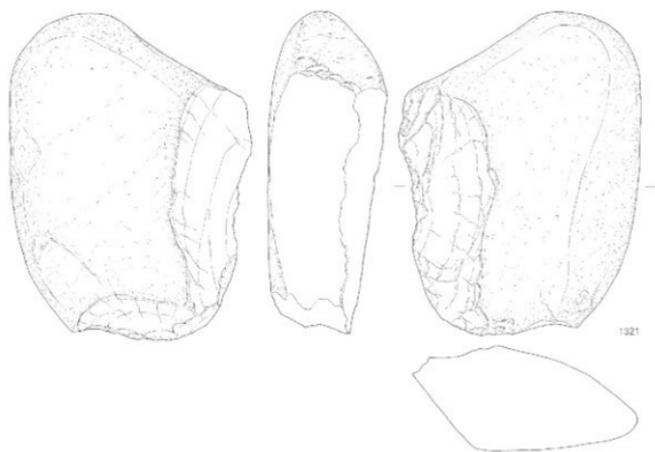
1317



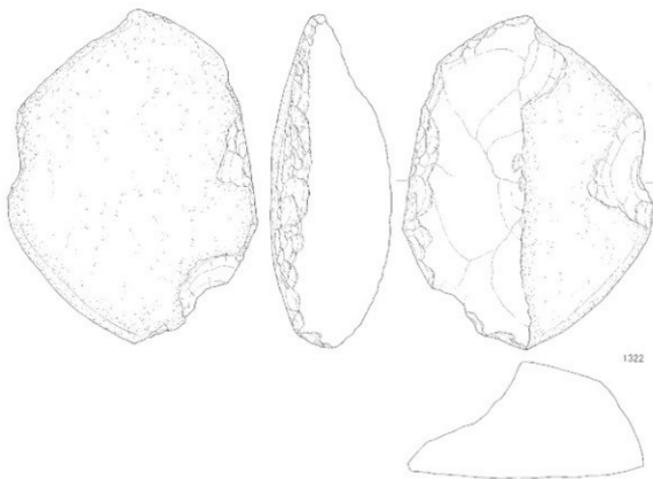
第118圖 出土石器・石製品実測圖33(1・2)



第119圖 出土石器・石製品実測圖34(1:2)



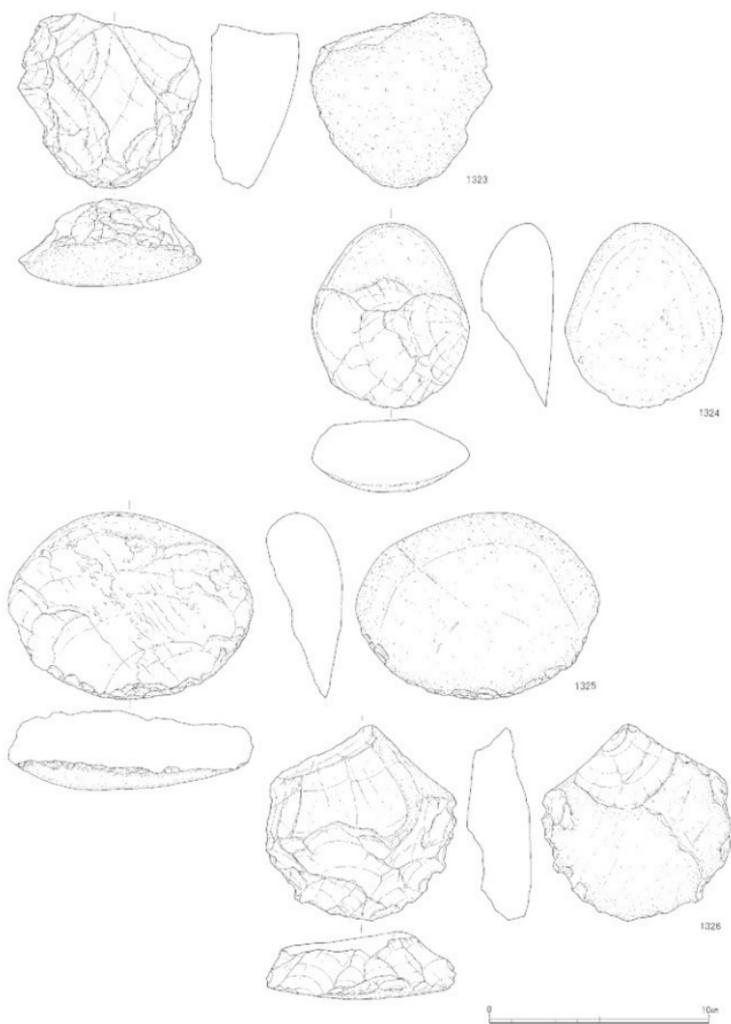
1321



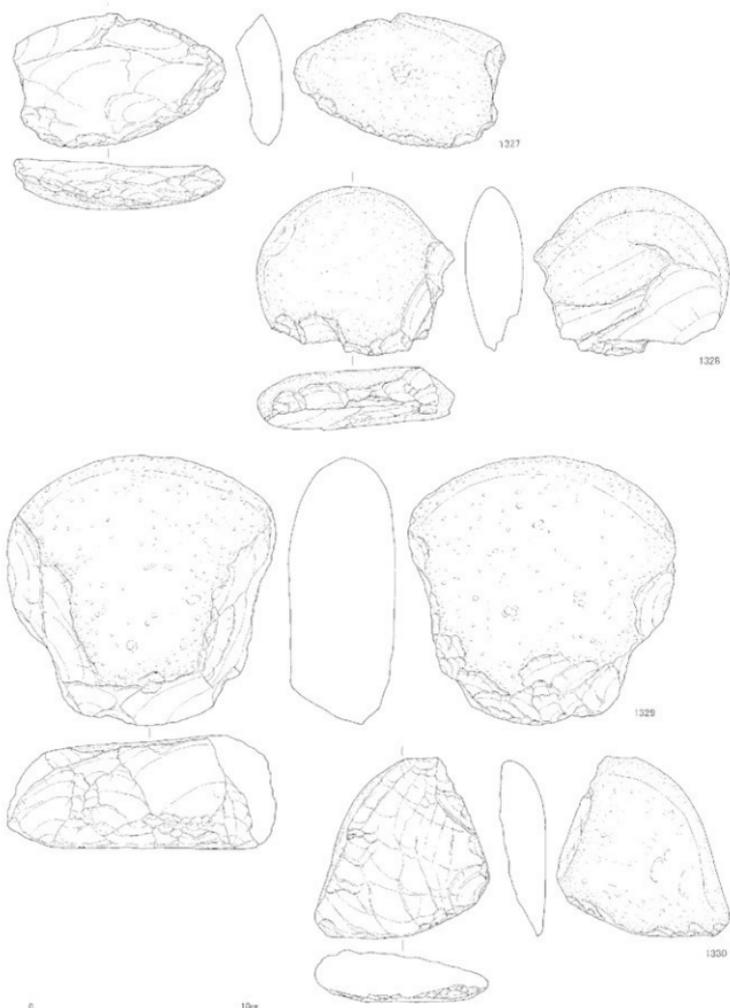
1322



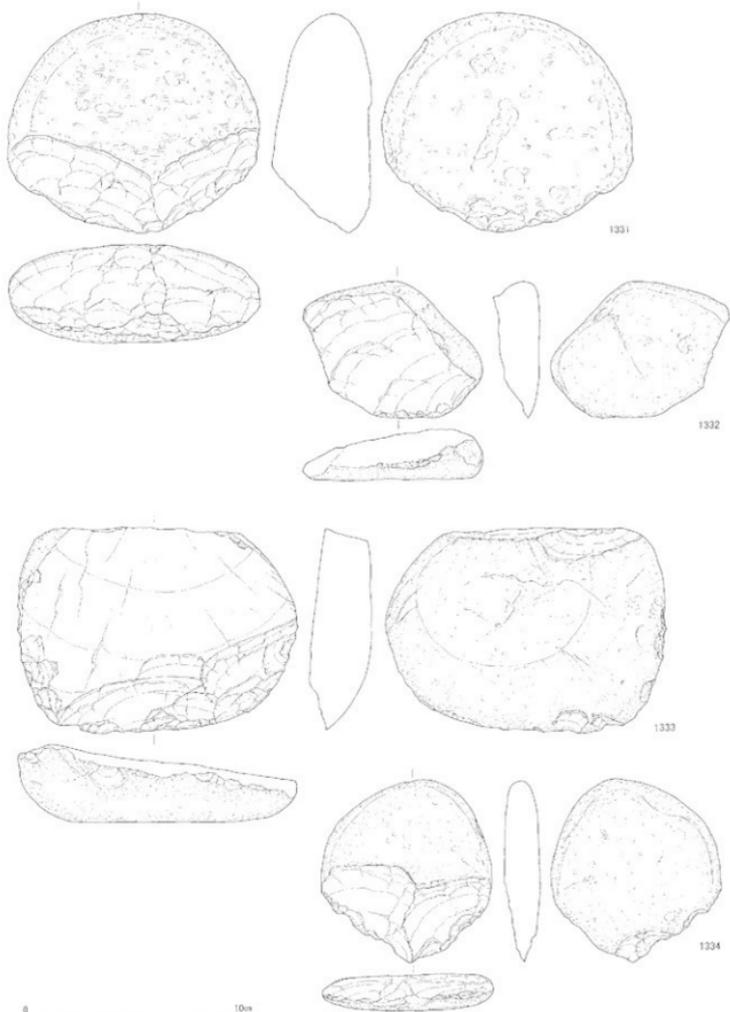
第120圖 出土石器・石製品実測圖35(1:2)



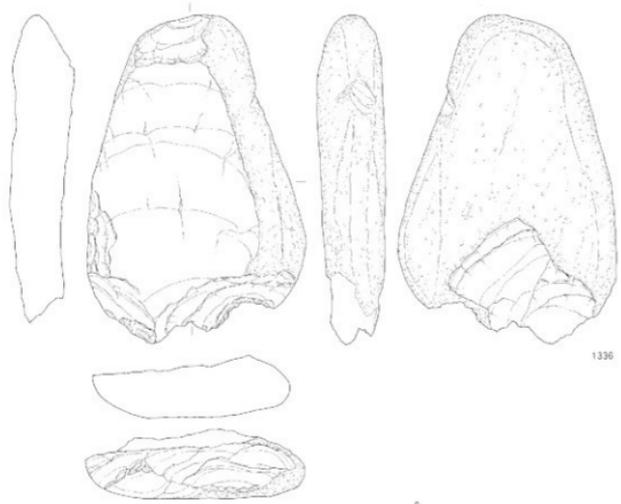
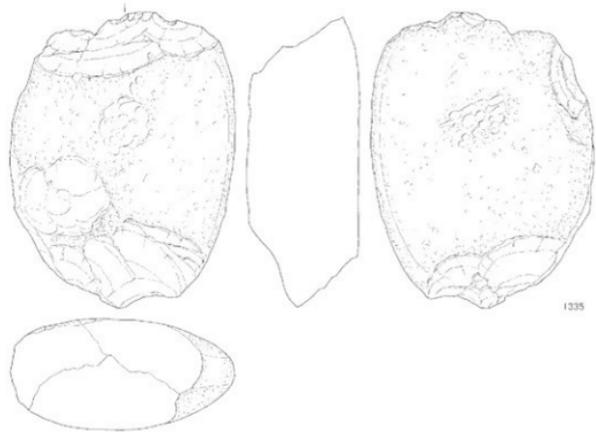
第121圖 出土石器・石製品実測圖36(1:2)



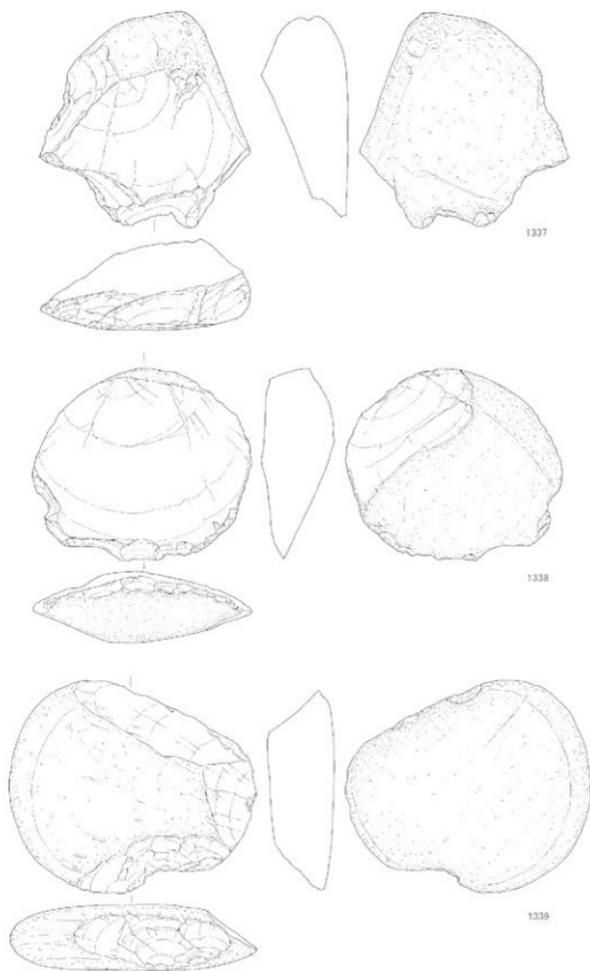
第122圖 出土石器・石製品実測圖37(1:2)



第123圖 出土石器・石製品実測図38(1:2)



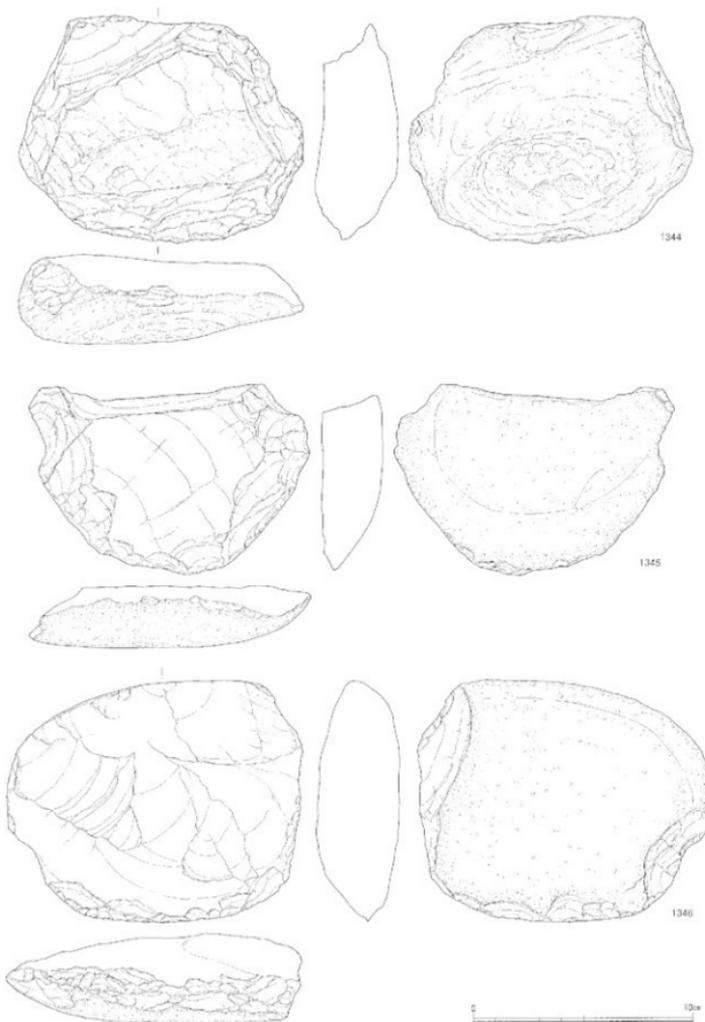
第124图 出土石器·石製品実測図39(1:2)



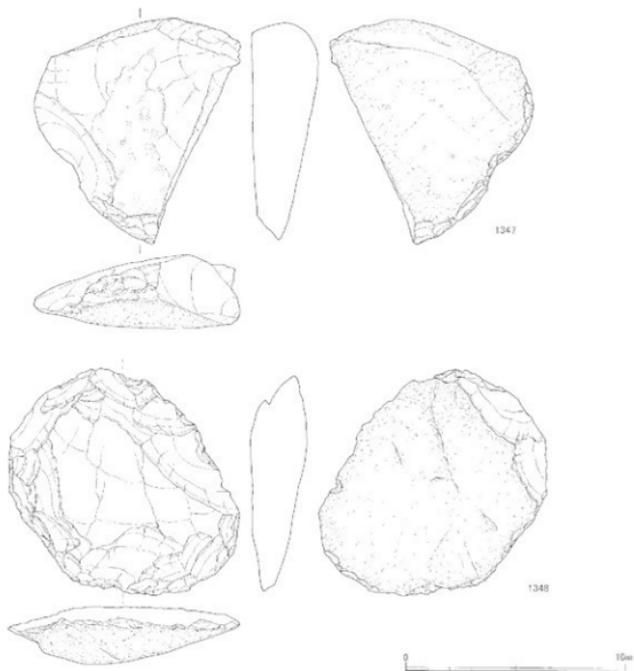
第125圖 出土石器・石製品実測圖40(1:2)



第126図 出土石器・石製品実測図41(1:2)



第127圖 出土石器・石製品実測圖42(1:2)



第128図 出土石器・石製品実測図43(1:2)

形状を呈す。1306は側面に礫表をとどめるもので、下端を折損するおそらく上下端を器軸とするものであろう。1308～1311は自然礫を素材とするものである。1308は円形状礫素材のスポールで截断面には研磨痕をとどめる。1309は円形状の礫に上下方向の剝離を行う。1310・1311は楕円形状の扁平礫の長軸に上下方向の剝離をとどめる。石材は1292・1294・1297・1302～1306が下呂石、1295・1301がチャート、1307・1308は頁岩、1309が砂岩、1310が緑泥片岩、1311が片岩である。

(17) 礫器 (第117～128図 1312～1348)

円礫や楕円礫、分割礫などを素材とし、粗い加工を加えたものを本器種とした。加工範囲は多様で、

一辺を直線状・弧状に加工するもの、二辺にまたがってU状・V状に加工するもの、全周に及ぶものがある。

使用石材は(硬)砂岩38点、片岩7点、凝灰岩3点、閃緑岩4点、安山岩・花崗岩・片麻岩・緑色片岩・泥岩各1点である。

礫器は一般的には片刃礫器(チョッパー)と両刃礫器(チョッピングツール)に分類されるが、これとは別に礫石器と礫核石器に二分する考えもある。ここでは、便宜的に前者の分類で記述する。ただし、「両面に剝離面をもつものでも、片面側の剝離が、その下方の礫面や平坦面と角度をなすことなく連なるものは片刃礫器の範疇に含めるものとする」という

定義を採用する。

片刃礫器は1312・1313・1315・1317・1319・1322～1327・1329～1334・1336～1341・1343～1345・1347・1348が該当する。1312・1313・1315・1341は長楕円形・楕円形状自然礫の長軸の一端に1枚～数枚の剥離を行い刃部とするものである。1319・1323・1325・1327・1330・1332・1333・1338・1343～1345・1347・1348は、片面がすべて剥離面で構成されるもの、あるいは片面の一部に自然礫の端部を取り込む以外は剥離面で構成されるもので、礫片または分割礫を素材としていると考えられる。1322・1324・1326・1329・1331・1334・1336・1337・1339・1340は両面に礫表をとどめ、自然礫本体そのものに加工を行った状態を呈すものである。

両刃礫器は1314・1316・1318・1320・1321・1328・

1335・1342・1346が該当する。1314・1316は長楕円形・楕円形状自然礫の長軸の一端に数枚の剥離を行い刃部とするものである。1342・1346は礫片を素材とするもの、1318・1320・1321・1328・1335は自然礫本体に加工を行ったものである。

(18) 異形石器 (第129図 1349)

四辺から剥離がなされる小型品で楔形石器に似るが、三辺が凹状になっていることから本器種とした。サヌカイト製。

(19) 二次加工痕有剥片

典型的な石器に分類することが躊躇されるものを一括した。図示していないが、29点出土しており、石材の内訳はサヌカイト24点、チャート5点である。

(20) 使用痕有剥片 (第129図 1350)

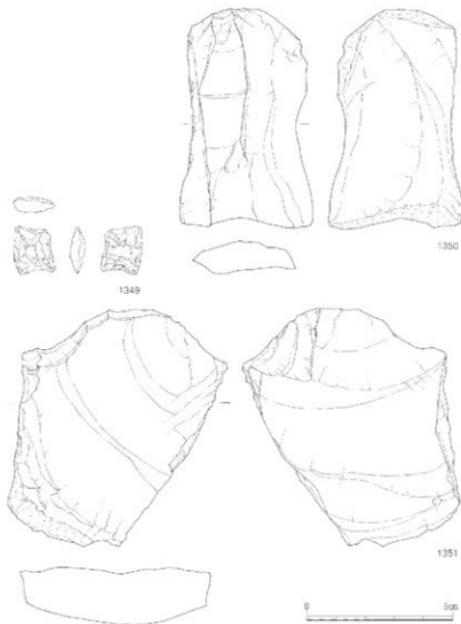
49点の石材内訳は、サヌカイト38点、チャート14点、下呂石7点となる。図示した1350には腹面側の両側面に礫表をとどめる剥片の長辺に微細な剥離痕が残る。サヌカイト製。

(21) 剥片 (第129図 1351)

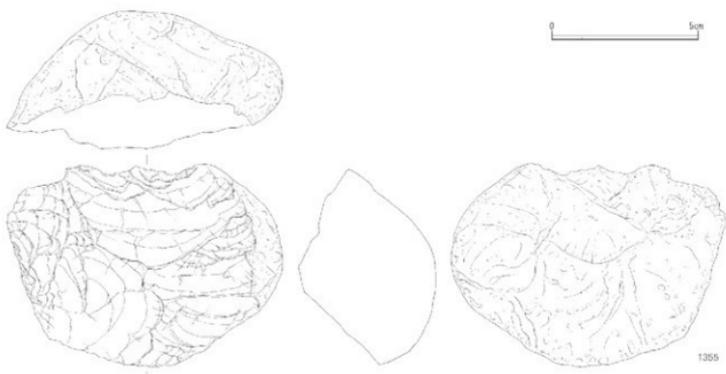
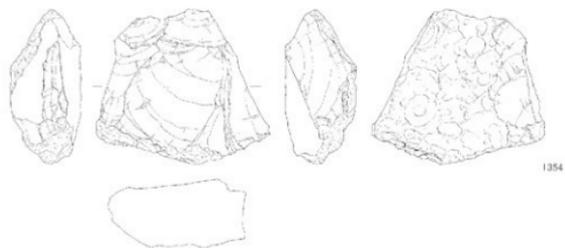
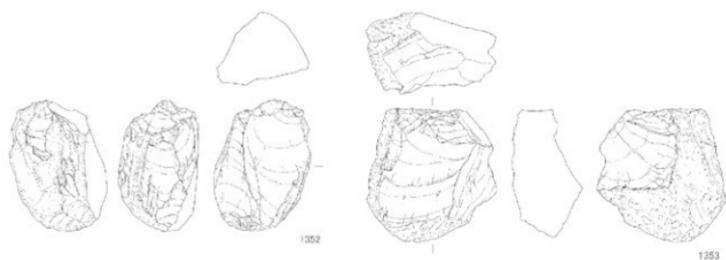
2201点出土した。石材の内訳はサヌカイト2121点、チャート30点、下呂石47点、石英2点、緑色岩1点となる。1351の1点のみを図示した。背腹面ともリングが波打つような厚手の剥片で、背面の末端には礫表をとどめる。一部にクラック状の剥離がみられる。本遺跡における最大の下呂石製石器である。

(22) 石核 (第130・131図 1352～1358)

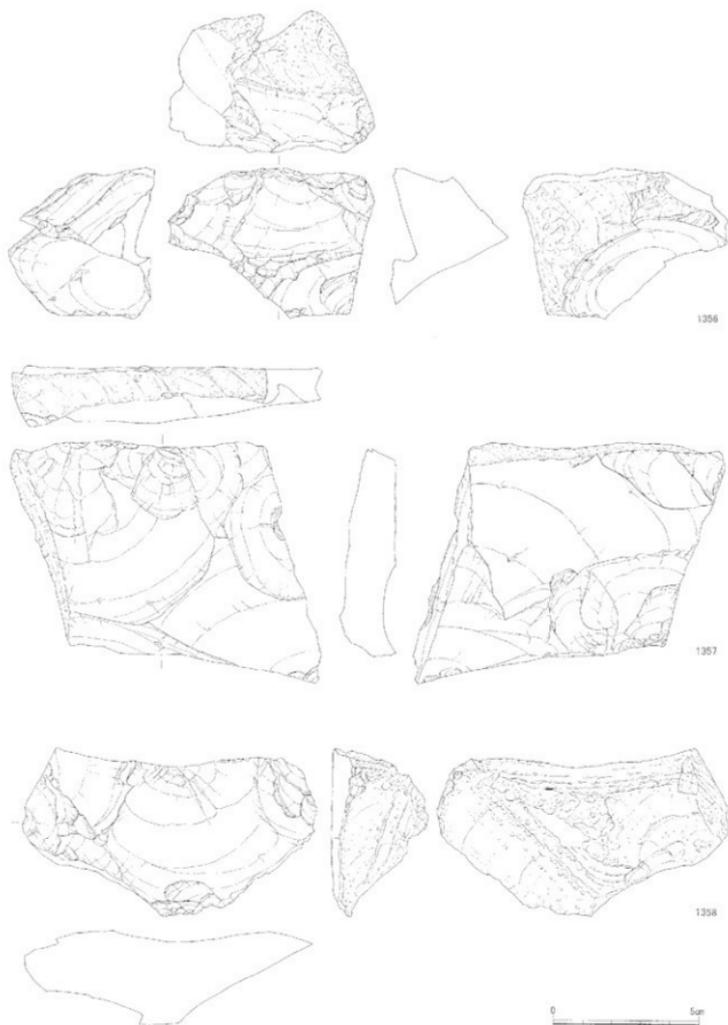
32点の石材内訳は、サヌカイト18点、チャート14点である。1352は図の正面から側面にかけて上下方向の剥離痕がみられるもので、上下端は楔形石器の特徴を呈するが、全体的な形状から本器種に含めた。1353は正面・裏面ともに1枚以上の一定サイズの剥片を剥離している。1354は正面上からの剥離を中心とし両側面が折れ面状を呈するものである。1355は拳大の円礫を素材とし、剥片剥離作業面以外はすべて



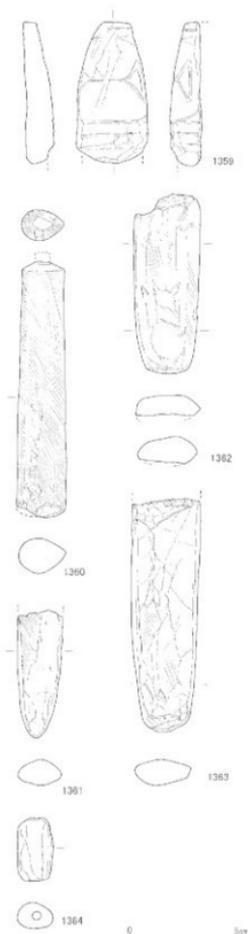
第129図 出土石器・石製品実測図44(2・3)



第130圖 出土石器・石製品実測圖45(2:3)



第131圖 出土石器・石製品実測圖46(2:3)



第132図 出土石器・石製品実測図47(1:2)

種である。作業面は上方と左方からの剥離がなされている。1356は正面を剥片剥離作業面とし、上下左にそれぞれ剥離による打面を形成している。1357は板状の剥片を素材とするもので、四方の側面は種表および折れ面で構成されている。1358は正面のみを作業面とし、中央の大きな剥離面と小さな数枚の剥離面で構成される。

図示した7点の石材は1355がチャート、それ以外はサヌカイトである。(久保勝正)

(23) 石刀・同未成品 (第132図 1359~1363)

1359は、把頭部の節理に沿って縦に半截した破片である。石材は、灰白色を呈する肌理の細かい片岩を用いている。現状の上端は、把頭の頂部端面を残し、下端は身部との括れ部で折損している。表面の一部が剥落している。紋様は、上下にそれぞれ1本ずつの直線を施し、その間を横方向に展開する3段の三叉紋で充填している。3段の三叉紋のうち、上下は一对の三叉紋がそれぞれ側面に表され、中央は表裏に一对ずつの連続する三叉紋が1mmほどの繊細な線で陰刻されている。側面の上下で三叉紋が連結するか否かは、現状では判断できない。身部は全く不明だが、同様の柄頭部をもつ類例から、石刀になると推定した。把頭部の復元厚は、身部との括れに近い最も厚い部分で3cm弱を測ると考えられる。全体の復元長は、30cm以上を測る大型の精品である。

紋様構成や石材と大きさから勘案して、主要分布域の影響を強く受けつつも、在地で製作されたと理解される。

1360~1363は、いずれも刀身部の破片である。

1360は、刀身部のほぼ全体を残す破片である。上端は、6方向以上からの摺り切りによって中心部のみを細く残す加工を施して括れ部を作出しており、この部分で折損している。この括れは把頭部と身部との境界を為すものであろう。身部の末端は、一部に剥離痕がみられるもの完結しており、いわゆる切っ先にはならず、面を形成している。

1361は刃部を明瞭に作出していることから、完成品の破片と考えられる。刀身部の末端には面が形成されている。1362は、泥岩製の刀身部末端破片である。表面が広く剥落し、線状痕を示した部分のみ残存している。刃の形成はみられず、断面形は紡錘形

を呈する。

1363も刀身部下半の破片である。表面の一部に線状痕がみられるものの、大半は剝離面によって構成されており、未成品の可能性が高い。

以上の刀身部の形状は、その側縁の形状から、すべて反りをもたない直身を呈するものと判断される。また、出土した石製遺物全点を精査することができなかったため断言はできないが、1362・1363の存在から本遺跡内でこうした刀剣形石製品が製作されていた可能性も考えられる。

(24) 玉 (第132図 1364)

1364の1点のみが出土した。平面形は、長幅比がほぼ2:1の隅丸方形を呈し、古墳時代の藁玉に似た形態をもつ。横断面形はやや偏った楕円形を呈する。縦断面が図示されていないが、穿孔は両側からの回転穿孔である。石材はくすんだ飴色を呈し、変成岩類(大理石?)もしくは火成岩類?と同定されている。垂飾として用いられたものであろうか。

(大下 明)

【註】

- ①山内清男・佐藤達夫「縄紋土器文化のはじまる頃」(『古代文化』第30集、1960年)において、五期区分から六期区分になることを述べている。
- ②晩期編年については、増子康誠による一連の研究がある。
「愛知県馬見塚遺跡の縄文式土器」(『考古学手帖』19、1963年)。
「尾張平野における縄文晩期後半期の編年の研究」(『古代学研究』40、1965年)。
「三河新城市大宮町大ノ木遺跡の縄文晩期中葉(西之山式土器)について」(『信濃』第19号4、1967年)。
「東三河における縄文晩期末・晩期文化の再検討(1)」(『古代人』35、1979年)。
「東三河における縄文晩期末・晩期文化の再検討(2)」(『古代人』36、1980年)。
「東海地方西部の縄文文化」(『東海先史文化の諸段階 本文編・補足改訂版』、1981年)。
「愛知県を中心とする縄文晩期後半土器型式と関連する土器群の研究」(『はいつめ道跡』岐阜県教育委員会、1985年)。
- 山田編年については、
山田猛「伊勢の突帯文土器一野ヶ田遺跡と蛇亀遺跡を中心にして」(『いちのみや考古』終刊号(通巻No.20)一宮考古学会 2006年)を参照した。
- ③土師器類については下記の文献に拠った。
伊藤裕徳「中世南伊勢系の土師器に関する一試論」

- (『Mie history』vol.1、三重歴史文化研究会、1990年)。
伊藤裕徳「伊勢の中世漁用土器から東海を見る」(『銅と糞そのデザイン』第4回東海考古学フォーラム、1996年)。
④陶器山茶椀・山皿については下記の文献に拠った。
藤澤良祐「山茶椀研究の現状と課題」(『研究紀要』第3号、三重県埋蔵文化財センター、1994年)。
⑤欠番。
⑥第1回東海考古学フォーラム豊橋大会実行委員会 突帯文土器研究会「突帯文土器から糸帯文土器へー伊勢湾周辺地域における縄文文化の解体和弥生文化の始まりー」(1993年)に拠った。
⑦以下の文献に拠った。
山内清男「所謂亀ヶ岡式土器の分布と縄紋式土器の終末」(『考古学』1、1930年)。
中島栄一・渡邊明和「浮城網紋式土器様式」(『縄文土器大観』4、1989年)。
⑧以下の文献による。
泉雄二「斎宮跡の土器様相」(『記念シンポジウム 斎宮の土器・みやこの土器』斎宮歴史博物館、2000年)。
斎宮歴史博物館「斎宮跡の土器」(斎宮跡発掘調査報告1内院地区の調査) 斎宮歴史博物館、2001年)。
⑨網谷克彦「北白川下層式土器様式」(『縄文土器大観』1、1989年)に拠っている。
⑩⑨と同じ。
⑪泉 拓良「船元・里木土器様式」(『縄文土器大観』3、1989年)に拠っている。
⑫以下の文献に拠っている。
泉 拓良「中期末縄文土器の分析」(『京大大学埋蔵文化財調査報告 Ⅲ 北白川追分町縄文遺跡の調査』京大大学埋蔵文化財研究センター、1985年)。
泉 拓良「咲畑・醍醐式土器様式」(『縄文土器大観』3、1989年)。
⑬玉田芳英「中津・福田Ⅱ土器様式」(『縄文土器大観』4、1989年)に拠っている。
⑭泉 拓良「近畿の土器」(『縄文文化の研究』4、縄文土器Ⅱ 1981年)に拠っている。
⑮末永雅雄「榎原」(『奈良県史蹟名勝天然記念物調査報告』17、1961年)。
⑯精製という文言を使用することについては、問題があらうかと思うが、科学的な精製という意味ではなく、辰砂原石の粉砕化等の工程も含むものとして考えている。
⑰三重県埋蔵文化財センター「新寺遺跡発掘調査報告」(1997年)に拠った。出土例としては、土師器杯や皿のような器形のものである。
⑱三重県埋蔵文化財センター「大石遺跡」(平成3年度農業基盤整備事業地域 埋蔵文化財発掘調査報告 第一分冊Ⅰ、1992年)に拠った。
⑲細橋「縄文時代後期前半期における無文系土器の製作と変容」(『考古学フォーラム』181、考古学フォー

ラム、2005年)に無文系土器の定義を詳細に述べている。

◎石井 寛「堀之内2式土器の研究(予察)」(『調査研究収録』第5冊 港北ニュータウン埋蔵文化財調査団、1984年)等の先行研究に拠った。

◎縄文時代中期、東海系土器については、以下に一連の研究がある。

拙稿「三重県における縄文時代中期前半東海系土器群について」(『研究紀要』第8号 三重県埋蔵文化財センター、2000年)

拙稿「三重県における縄文時代中期前半東海系土器群の変遷」(『かにかくに』、2003年)

加藤賢二「遠江地方における縄文中期中央の非勝板式土器」(『静岡県考古学会シンポジウム4』、1980年)

増子康眞「ままとめと考察」(『クダリヤマ遺跡』稲武町教育委員会、1995年)

山下勝年「加多半島における中期前半東海系土器」(『縄文時代中期前半の東海系土器群・予稿集』静岡県考古学会、1998年)

中山真治「縄文中期初頭の西関東・中部高地における東海系土器」(『東京考古』、1998年)

◎以下の文献に拠った。

山内清男「加曾利E式土器」(『日本先史土器図譜』、1939年)

鈴木保彦・山本暁久「加曾利E式土器様式」(『縄文土器大観』2、1989年)

◎谷と同一。

◎谷と同一。

◎織笠明「日本列島における片刃種器と丹生1-B地点北区第2群石器の位置付け」(『大分県丹生石器群の研究』古代学協会、1994年)

【参考文献】

土器等関連

度会町遺跡調査会「森部遺跡発掘調査概報Ⅱ」(1988年)

鈴木克彦「伊勢湾沿岸地方における凸帯文深鉢の様相—伊勢地方からの視点—」(『三重県史研究』第6号 三重県、1990年)

三重県教育委員会「蛇亀橋遺跡」(昭和56年度県営園地整備事業地域埋蔵文化財調査報告、1982年)

能登川町教育委員会「今安楽寺遺跡」(1990年)

南知多町教育委員会「林ノ峰貝塚Ⅰ」(1993年)

石井 寛「堀之内1式土器群に関する問題」(『牛ヶ谷・華藏台南遺跡』(財)横浜ふるさと歴史財団、1993年)

佐野 元「突帯文土器出現以前—所謂「稲荷山式」「板井式」の評価—」(『突帯文土器から条痕文土器へ—伊勢湾周辺地域における縄文文化の解体と弥生文化の始まり—』第1回東海考古学フォーラム豊橋大会実行委員会 突帯文土器研究会 1993年)

野口哲也「突帯文土器」(『突帯文土器から条痕文土器へ—伊勢湾周辺地域における縄文文化の解体と弥生文化の始まり—』第1回東海考古学フォーラム豊橋大会

実行委員会 突帯文土器研究会 1993年)

兵庫県教育委員会「佃遺跡」(1998年)

縄文時代文化研究会「縄文時代」第10号(1999年)

(財)大阪府文化財調査研究センター「向出遺跡」(2000年)

名古屋市教育委員会「下川原遺跡第3次調査概要」(2000年)

(財)愛知県教育サービスセンター・愛知県埋蔵文化財センター「牛牧遺跡」(2001年)

勢和村教育委員会「片野殿垣内遺跡」(2001年)

三重県埋蔵文化財センター「志知南遺跡発掘調査報告」(2008年)

石器等関連

石川日出志「伊勢湾沿岸における縄文時代晩期・弥生時代の石器組成」(『条痕文系土器』文化をめぐる諸問題)研究編、愛知考古学談話会、1988年)

石黒立人「突帯文土器期から条痕文系土器期の石器について」(『第1回東海考古学フォーラム・豊橋大会 突帯文土器から条痕文土器へ—伊勢湾周辺地域における縄文文化の解体と弥生文化の始まり—』同大会実行委員会・突帯文土器研究会、1993年)

大下 明「近畿地域(大阪府・兵庫県・京都府・奈良県・和歌山県)の集積と概要」(『縄文・弥生移行期の石製呪術具2』小林青樹編、2001年)

大下 明「関西における縄紋時代後・晩期石器群の概要」(『縄文時代の石器—関西の後期・晩期—』関西縄文文化研究会、2004年)

大下 明「兵庫県三田市内神下井沢遺跡出土石剣の復元的検討」(『山下秀樹氏追悼考古論集』山下秀樹氏追悼論文集刊行会、2004年)

大下 明・久保勝正「Ⅱ考察(3)石器・石製品」(『天白遺跡』三重県埋蔵文化財センター、1995年)

久保勝正「縄文時代後期・晩期の石織について」(『縄文時代の石器—関西の後期・晩期—』関西縄文文化研究会、2004年)

後藤信裕「縄文時代後期の刀剣形石製品について(上)」(『考古学研究』第33巻第3号、考古学研究会、1986年)

後藤信裕「縄文時代後期の刀剣形石製品について(下)」(『考古学研究』第33巻第4号、考古学研究会、1987年)

西井幸雄「静岡県西部における縄文時代の磨製石斧」(『転機』第5号、転機同人会、1994年)

西脇対名夫「石剣ノート」(『野村崇先生選歴記念論文集 北方の考古学』同刊行会、1998年)

早川正一「磨製石斧」(『縄文文化の研究』第7巻—道具と技術—、雄山閣、1983年)

報告 番号	調査 区画	実測書 番号	調査区	アプ レ	遺構・層位	器 種	分類	残存数	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石材	備考
1038	86	251-02	A組	E-8 石造構	石造	1A組	瓦形	2,253	0.933	0.32	0.53		中スカイト	
1039	86	251-03	A組	D-7 下層P11-2	石造	1A組	瓦形	1,661	1.411	0.40	0.7		中スカイト	
1040	86	248-03	A組	B-2 石造構	石造	1A組	瓦端欠	1,70	1.41	0.35	0.7		中スカイト	
1041	86	248-04	A組	B-7 SK17	石造	1A組	瓦端欠	1,98	1.888	0.36	0.8		中スカイト	
1042	86	248-04	A組	B-4 下層P11-6	石造	1A組	瓦形	2,09	1.81	0.36	1.0		中スカイト	
1043	86	254-02	A組	B-6 SK22	石造	1A組	瓦端欠	1,71	1.853	0.35	0.9		中スカイト	
1044	86	248-01	A組	B-8 石造構	石造	1A組	瓦形	1,91	1.666	0.37	0.9		中スカイト	
1045	86	248-01	A組	B-6 SK23	石造	1A組	瓦端欠	1,71	1.81	0.37	0.9		中スカイト	
1046	86	248-02	A組	同手	石造	1A組	瓦形	2,31	1.50	0.47	1.1		中スカイト	
1047	86	248-01	A組	D-6 SX15	石造	1A組	瓦形	2,20	1.35	0.36	1.0		中スカイト	
1048	86	254-03	A組	B-5 石造構	石造	1A組	瓦形	2,60	2.01	0.44	1.7		中スカイト	
1049	86	248-02	A組	B-5 石造構	石造	1A組	瓦形	2,11	1.71	0.32	0.8		中スカイト	
1050	86	241-01	A組	D-4 石造構	石造	1A組	瓦形	2,05	1.65	0.33	0.7		中スカイト	
1051	86	253-01	A組	同手	石造	1A組	瓦形	1,94	2.27	0.38	1.0		中スカイト	
1052	86	258-03	A組	E-2 SK17	石造	1A組	瓦形	2,08	1.62	0.35	0.7		中スカイト	
1053	86	251-04	B-1	I-4 SZ101	石造	1A組	瓦端欠	1,73	1.45	0.30	0.9		中スカイト	
1054	86	253-01	A組	D-4 石造構	石造	1A組	瓦形	2,31	1.46	0.32	0.7		中スカイト	
1055	86	259-02	A組	B-7 石造構	石造	1A組	瓦形	2,32	1.64	0.37	0.9		中スカイト	
1056	86	259-03	A組	C-4 石造構	石造	1A組	瓦形	2,15	1.67	0.38	1.0		中スカイト	
1057	86	259-03	A組	C-4 石造構	石造	1A組	瓦端欠	2,28	1.67	0.43	1.0		中スカイト	
1058	86	259-03	A組	E-5 下層石造構	石造	1A組	瓦形	2,28	1.67	0.43	1.0		中スカイト	
1059	86	259-03	A組	D-8 石造構	石造	1A組	瓦端欠・右側欠	2,63	1.73	0.44	1.0		中スカイト	
1060	86	259-03	A組	D-7 下層石造構	石造	1A組	瓦端欠	2,74	1.42	0.44	0.8		中スカイト	
1061	86	259-03	A組	C-2 P11-3	石造	1B組	瓦形	2,17	1.19	0.35	0.8		中スカイト	
1062	86	259-04	A組	D-7 下層石造構	石造	1B組	瓦形	1,88	1.05	0.30	0.5		中スカイト	
1063	86	254-04	A組	E-7 石造構	石造	1B組	瓦形	2,28	1.70	0.35	1.0		中スカイト	
1064	86	254-02	A組	C-4 SX18	石造	1B組	瓦端欠	2,45	1.24	0.41	0.9		中スカイト	
1065	86	253-04	A組	D-5 P11-6	石造	1B組	瓦形	1,92	1.52	0.35	1.0		中スカイト	
1066	87	262-04	A組	D-8 P11-2	石造	1C組	瓦形	1,80	1.50	0.38	0.5		中スカイト	
1067	87	252-01	A組	C-2 石造構	石造	1C組	瓦形	1,93	1.53	0.39	0.5		中スカイト	
1068	87	259-04	A組	C-7 下層石造構	石造	1C組	瓦端欠	2,40	2.68	0.56	1.6		中スカイト	
1069	87	259-04	A組	E-4 下層石造構	石造	1C組	瓦形	2,50	1.97	0.37	1.0		中スカイト	
1070	87	252-04	A組	E-6 下層石造構	石造	1D組	瓦形	2,68	1.70	0.45	1.2		中スカイト	
1071	87	264-01	A組	D-6 SX15	石造	1D組	瓦形	1,73	1.48	0.40	0.7		中スカイト	
1072	87	264-01	A組	B-7 下層石造構	石造	1D組	瓦形	1,80	1.50	0.35	0.7		中スカイト	
1073	87	263-02	A組	C-6 P11-2	石造	1D組	瓦形	2,25	1.89	0.40	1.0		中スカイト	
1074	87	258-02	A組	C-9 石造構	石造	1D組	瓦形	2,46	1.62	0.40	1.2		中スカイト	
1075	87	256-03	A組	D-5 SX28	石造	1D組	瓦端欠	3,82	2.05	0.47	2.1		中スカイト	
1076	87	256-03	A組	B-7 P11-6	石造	1D組	瓦端欠	2,97	1.95	0.45	1.9		中スカイト	
1077	87	263-01	A組	D-5 SX28	石造	1D組	瓦端欠	2,93	2.13	0.38	1.6		中スカイト	
1078	87	256-01	A組	一 破砕	石造	1D組	瓦端欠	2,58	1.49	0.42	1.0		中スカイト	
1079	87	260-01	A組	C-5 下層P11-7	石造	1D組	瓦形	1,79	1.43	0.36	0.7		中スカイト	
1080	87	259-03	A組	B-4 石造構	石造	1D組	瓦形	1,35	1.29	0.30	0.5		中スカイト	

第37表 石器・石製品一覧表1

報告 補図 番号 番号	美濃寄 身	調査区	シリン ド	遺構・層位	器 種	分類	残存数	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (mm)	重量 (g)	石材	備考
1081	87	200-03	AⅡ	G 6 包合層	石鏡	1DⅡ	不明	1.87	1.36	0.30	0.7	浮岩分片	
1082	87	200-02	B 1	G 6 SKⅢ	石鏡	1DⅡ	不明	2.07	1.53	0.41	1.1	浮岩分片	
1083	87	200-04	AⅡ	C 7 P11.9	石鏡	1DⅡ	不明	2.14	1.56	0.37	0.9	浮岩分片	
1084	87	201-03	AⅡ	E 8 包合層	石鏡	1DⅡ	不明	2.26	1.70	0.50	1.4	浮岩分片	
1085	87	205-03	AⅡ	C 7 SKⅢ	石鏡	1DⅡ	不明	2.46	1.77	0.41	1.2	浮岩分片	
1086	87	209-04	AⅡ	B 2 包合層	石鏡	1DⅡ	不明	2.29	1.37	0.40	1.0	浮岩分片	
1087	87	205-03	AⅡ	D 9 包合層	石鏡	1DⅡ	不明	2.20	1.48	0.35	1.2	浮岩分片	
1088	87	205-01	AⅡ	C 9 包合層	石鏡	1DⅡ	不明	2.94	1.34	0.40	0.8	浮岩分片	
1089	87	201-02	AⅡ	C 7 包合層	石鏡	1DⅡ	不明	2.63	1.39	0.41	1.0	浮岩石	
1090	87	201-04	AⅡ	B 7 P11.3	石鏡	1DⅡ	不明	3.11	1.17	0.38	1.4	浮岩石	
1091	87	204-02	AⅡ	E 3 P11.4	石鏡	1DⅡ	不明	2.52	1.52	0.41	1.3	浮岩分片	
1092	88	246-01	AⅡ	B 7 包合層	石鏡	1AⅡ	不明・石鏡欠	1.82	1.69	0.50	1.3	浮岩分片	
1093	88	246-01	AⅡ	B 7 包合層	石鏡	1AⅡ	不明	1.82	1.69	0.50	1.3	浮岩分片	
1094	88	246-04	AⅡ	C 6 P11.3	石鏡	1AⅡ	不明	1.84	1.68	0.49	1.2	浮岩分片	
1095	88	246-02	AⅡ	SKⅦ 包合層	石鏡	1AⅡ	不明	2.12	1.76	0.44	1.5	浮岩分片	
1096	88	258-02	AⅡ	C 9 包合層	石鏡	1DⅡ	不明	1.54	1.55	0.33	0.5	浮岩分片	
1097	88	254-01	AⅡ	C 8 SKⅦ	石鏡	1DⅡ	不明	1.97	1.35	0.32	0.7	浮岩分片	
1098	88	205-02	AⅡ	B 2 包合層	石鏡	1DⅡ	不明	1.97	1.35	0.32	0.7	浮岩分片	
1099	88	243-01	AⅡ	B 7 SKⅦ	石鏡	1DⅡ	不明	2.29	1.17	0.39	1.2	浮岩分片	
1100	88	259-01	AⅡ	B 7 P11.6	石鏡	1DⅡ	不明	2.29	2.03	0.74	4.7	浮岩分片	
1101	88	259-02	B 1	J 3 P11.1	石鏡	1DⅡ	不明	3.11	2.15	0.95	6.6	浮岩分片	
1102	88	243-01	AⅡ	D 4 包合層	石鏡	VAⅡ	不明	2.13	1.63	0.42	0.9	浮岩分片	
1103	88	243-02	AⅡ	C 2 SKⅥ	石鏡	VAⅡ	不明	2.16	1.32	0.41	0.7	浮岩分片	
1104	88	243-03	AⅡ	C 2 SKⅥ	石鏡	VAⅡ	不明	3.15	2.22	0.84	3.7	浮岩分片	
1105	88	243-03	AⅡ	C 1 P11.2	石鏡	VAⅡ	不明	2.66	1.50	0.36	0.6	浮岩分片	
1106	88	243-02	AⅡ	C 2 包合層	石鏡	VAⅡ	不明	2.41	2.22	0.56	2.0	浮岩分片	
1107	88	243-04	AⅡ	D 2 包合層	石鏡	V DⅡ	不明	1.89	1.24	0.44	0.9	浮岩分片	
1108	88	243-03	AⅡ	SKⅧ 11階 2 上面	石鏡	V DⅡ	不明	1.80	1.24	0.49	1.0	浮岩分片	
1109	88	243-04	AⅡ	B 6 P11.3	石鏡	V DⅡ	不明	2.64	1.30	0.44	1.0	浮岩分片	
1110	88	244-01	AⅡ	D 6 P11.1	石鏡	V DⅡ	不明	3.06	1.90	0.56	1.8	浮岩分片	
1111	88	243-01	AⅡ	D 5 SKⅧ	石鏡	V DⅡ	不明	2.81	1.76	0.48	1.6	下段石	
1112	88	245-02	B 1	J 5 包合層	石鏡	V DⅡ	不明	2.58	1.54	0.63	1.5	下段石	
1113	89	195-07	B 1	F 10 P11.1	石鏡	V DⅡ	不明	2.80	3.40	1.50	14.0	彫痕	
1114	89	191-06	AⅡ	C 4 SKⅨ	石鏡	V DⅡ	不明	4.90	2.80	0.80	17.6	緑色片岩	
1115	89	191-03	AⅡ	C 4 下層包合層	石鏡	V DⅡ	不明	4.00	3.00	1.30	20.4	彫痕	
1116	89	196-03	B 1	J 18 SKⅩ	石鏡	V DⅡ	不明	4.90	3.50	1.10	23.6	片岩	
1117	89	194-01	B 1	F 5 SKⅩ	石鏡	V DⅡ	不明	5.20	3.20	1.30	27.7	片岩	
1118	89	191-09	AⅡ	B 5 下層包合層	石鏡	V DⅡ	不明	5.40	3.40	1.60	31.3	砂岩	
1119	89	191-07	AⅡ	B 8 SKⅩ	石鏡	V DⅡ	不明	5.50	3.10	1.30	33.4	緑色片岩	
1120	89	191-05	AⅡ	B 9 包合層	石鏡	V DⅡ	不明	5.50	3.30	1.50	36.3	砂岩	
1121	89	195-02	AⅡ	C 4 包合層	石鏡	V DⅡ	不明	5.05	4.40	1.40	35.2	彫痕	

第38表 石器・石製品一覧表2

片岩打製による同様の測
量少。

報告種別 番号	調査区 番号	調査区 名	調査区 名	シリアル 番号	遺構・層位	器種	分類	残存数	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石材	備考
1122	89	194-01	AⅢ	D-3	包込層	打次石鉢	空形	5.10	4.10	1.10	35.2	砂岩		
1123	89	196-05	BⅡ	F15	包込層	打次石鉢	空形	3.20	3.40	1.00	38.9	凝灰岩		
1124	89	195-01	AⅢ	D-5	包込層	打次石鉢	空形	3.00	3.60	1.60	40.2	チャート		
1125	89	194-05	BⅡ	J-4	包込層	打次石鉢	空形	4.90	4.20	1.50	42.6	砂岩		
1126	89	196-04	BⅡ	F16	包込層	打次石鉢	空形	3.80	3.70	1.50	48.6	砂岩		
1127	89	195-04	BⅡ	J-5	包込層	打次石鉢	一部欠損	6.10	4.20	1.50	53.6	砂岩		
1128	90	194-04	AⅢ	D-6	包込層	打次石鉢	空形	9.40	4.40	1.30	46.3	砂岩		
1129	90	194-06	AⅢ	D-6	包込層	打次石鉢	空形	7.00	3.90	1.30	37.9	凝灰岩		
1130	90	194-08	AⅢ	B-3	埋込層	打次石鉢	空形	7.65	4.00	1.90	63.2	凝灰岩		
1131	90	194-03	BⅡ	H16	SZ104	打次石鉢	空形	7.20	4.20	3.60	63.5	凝灰岩		
1132	90	194-04	BⅡ	J-2	包込層	打次石鉢	空形	6.10	4.20	2.40	115.6	凝灰岩		
1133	90	194-06	BⅡ	F-2	包込層	打次石鉢	空形	6.80	4.20	2.40	115.6	凝灰岩		
1134	90	196-01	AⅢ	E-9	SK13	打次石鉢	空形	5.00	6.20	1.40	134.8	砂岩		
1135	91	195-02	BⅡ	L-3	包込層	打次石鉢	空形	5.70	2.70	0.70	16.9	凝灰岩		
1136	91	195-02	BⅡ	L-3	包込層	打次石鉢	空形	6.70	2.70	1.20	26.5	凝灰岩		
1137	91	195-02	BⅡ	J-4	包込層	打次石鉢	空形	7.20	3.60	1.10	43.2	砂岩		
1138	91	194-02	BⅡ	J-5	包込層	打次石鉢	一部欠損	8.20	2.50	1.20	44.2	砂岩		
1139	91	196-01	BⅡ	F-2	埋込層	打次石鉢	一部欠損	8.00	3.20	1.40	44.9	砂岩		
1140	91	195-03	BⅡ	I-4	P11-1	打次石鉢	空形	8.20	2.90	1.30	61.9	砂岩		
1141	91	196-02	BⅡ	—	下層包込層	打次石鉢	空形	7.60	3.00	1.40	51.3	緑色片岩		
1142	91	196-04	AⅢ	B-7	包込層	打次石鉢	空形	8.00	2.70	1.60	61.8	凝灰岩層		
1143	91	196-05	AⅢ	B-8	P11-4	打次石鉢	空形	10.70	2.80	1.50	68.6	砂岩		
1144	91	193-02	BⅡ	I-5	包込層	打次石鉢	空形	8.50	4.00	1.40	73.0	片岩		
1145	91	196-02	AⅢ	—	埋込層	打次石鉢	空形	10.20	3.50	1.90	108.2	片岩		
1146	91	196-03	AⅢ	C-8	SK71	打次石鉢	空形	5.10	3.10	1.50	41.1	砂岩		
1147	92	193-05	BⅡ	I-6	包込層	打次石鉢	空形	5.00	3.10	1.50	44.5	砂岩		
1148	92	193-06	BⅡ	I-4	包込層	打次石鉢	空形	5.00	5.15	1.30	44.5	砂岩		
1149	92	192-04	AⅢ	B-6	包込層	打次石鉢	空形	5.00	5.00	1.30	48.6	砂岩		
1150	92	195-03	BⅡ	H14	SZ104	打次石鉢	空形	5.20	5.00	1.90	56.2	火砕岩(火道積砂岩)		
1151	92	195-05	BⅡ	I-6	SZ104	打次石鉢	空形	5.40	4.00	1.90	63.5	砂岩		
1152	92	193-04	BⅡ	J-5	包込層	打次石鉢	空形	7.70	3.20	2.20	86.6	緑色片岩		
1153	92	192-03	AⅢ	B-8	包込層	打次石鉢	空形	6.20	5.00	2.00	94.8	砂岩		
1154	92	193-01	BⅡ	J-4	包込層	切目欠損	空形	5.05	3.80	0.90	22.9	緑色片岩	ツブレ状の痕跡	
1155	92	184-03	AⅢ	C-2	包込層	有蓋石鉢	空形	6.80	1.40	0.80	11.6	片岩		
1156	93	202-01	AⅢ	D-6	埋込層	打次石鉢	空形	7.55	5.79	1.06	42.9	ホルンフェルス		
1157	93	201-01	AⅢ	D-6	埋込層	打次石鉢	空形	9.40	4.58	2.31	81.1	凝灰岩		
1158	93	202-02	BⅡ	H-5	包込層	打次石鉢	空形	6.71	4.38	1.27	35.2	凝灰岩		
1159	93	203-01	AⅡ	—	埋込層	打次石鉢	空形	9.55	4.74	1.55	72.5	凝灰岩		
1160	93	206-01	AⅢ	B-4	包込層	打次石鉢	一部欠損	12.25	4.85	2.83	183.2	凝灰岩		
1161	93	206-01	AⅢ	E-7	包込層	打次石鉢	一部欠損	13.12	5.20	1.84	212.8	凝灰岩		
1162	94	209-01	AⅢ	SX28	包込層	打次石鉢	空形	13.26	6.01	1.66	205.4	片岩		
1163	95	345-01	AⅢ	C-2	SK36	埋込層打石鉢	空形	5.85	6.44	1.38	73.3	凝灰岩		

第39表 石器・石製品一覧表3

報告 種別 番号 番号	調査区 美濃藩 身	調査区 シリア 名	遺構・部位	器 種	分類	残存数	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石材	備考
1651	95	342-01	A Ⅲ	B-3 包合層	須賀崎片石部	不明	5.78	7.53	1.33	76.2	硬砂岩	
1653	95	425-02	B Ⅰ	H-5 SZ 041	須賀崎片石部	不明	7.00	7.20	1.10	64.8	砂岩	
1661	95	425-03	B Ⅰ	H-4 SZ 041	須賀崎片石部	不明	7.90	3.30	0.60	20.2	花崗岩	
1671	95	425-04	A Ⅲ	B-6 包合層	須賀崎片石部	不明	8.80	5.20	1.10	51.2	砂岩	
1681	95	425-04	A Ⅲ	B-9 包合層	須賀崎片石部	不明	10.10	7.10	0.90	96.3	砂岩	
1689	96	233-01	A Ⅲ	B-9 包合層	存石	不明	16.10	19.50	4.80	2170.0	安山岩	
1710	96	234-01	A Ⅲ	B-8 包合層	存石	不明	20.80	18.70	6.80	3700.0	安山岩	
1711	96	235-01	A Ⅲ	B-5 包合層	存石	不明	24.30	20.30	5.60	2925.0	安山岩	
1712	97	208-01	A Ⅲ	C-2 SK 06	石皿	一部欠損	26.10	23.90	8.90	1773.0	花崗岩	
1713	98	235-01	A Ⅲ	D-6 包合層	存石	約1/2残存	10.60	17.20	5.90	1100.0	安山岩	
1714	98	224-01	A Ⅲ	D-6 包合層	存石	約1/2残存	14.70	18.10	5.60	2200.0	安山岩	
1716	98	249-01	A Ⅲ	D-3 包合層	存石	一部欠損	12.70	20.50	6.30	1050.0	砂岩	
1717	98	249-01	A Ⅲ	C-2 包合層	存石	一部欠損	15.30	24.50	4.80	1050.0	砂岩	
1717	99	228-01	A Ⅲ	C-2 包合層	台石	一部欠損	10.30	14.20	4.80	426.0	砂岩	赤色顔料付着
1718	99	228-01	A Ⅲ	B-9 立石	石皿	一部欠損	17.60	11.50	9.00	2060.0	砂岩	
1719	99	241-01	B Ⅱ	— T-4 第1層	石皿	一部欠損	20.90	14.60	6.50	2700.0	硬砂岩	付石とて使用し、産地に外まわりを割っている?
1880	100	238-02	A Ⅲ	E-5 包合層	石皿	約1/2残存	11.10	13.40	5.60	1150.0	花崗岩	
1881	100	238-01	B Ⅰ	H-6 包合層	石皿	約1/2残存	12.70	13.70	8.00	1660.0	砂岩	
1882	100	228-01	A Ⅲ	D-6 包合層	台石	約1/2残存	10.80	14.10	5.80	1360.0	花崗閃緑岩	くぼみ部をもつ石皿の可能性がある?
1883	100	239-01	B Ⅰ	I-5 包合層	石皿	約3/4残存	23.00	16.00	6.80	2640.0	砂岩	
1884	101	217-01	A Ⅲ	— 酒罍	磁石	不明	8.50	8.10	5.00	475.0	安山岩	
1885	101	223-01	B Ⅱ	I-5 包合層	磁石	不明	13.00	11.40	4.20	925.0	安山岩	
1886	101	221-01	A Ⅲ	C-3 包合層	磁石	不明	11.00	8.80	6.90	906.0	砂岩	
1887	101	229-01	A Ⅲ	B-3 包合層	磁石	不明	12.30	9.60	7.70	1240.0	砂岩	
1888	101	221-02	A Ⅲ	— 酒罍	磁石	不明	12.30	8.40	6.20	846.0	花崗岩	
1889	101	218-01	A Ⅲ	B-5 包合層	磁石	不明	10.10	8.40	6.80	796.0	花崗岩	縦断による産層か?
1890	101	198-01	A Ⅲ	B-8 包合層	磁石	約2/3残存	8.20	10.30	4.90	566.0	砂岩	全体に腐つか
1911	101	217-02	A Ⅲ	C-2 P11-1	磁石	不明	8.50	8.00	5.40	506.0	安山岩	
1921	101	216-02	A Ⅲ	C-2 P11-1	磁石	不明	10.60	7.70	4.20	536.0	閃緑岩	
1934	102	199-02	A Ⅲ	E-5 包合層	磁石	不明	12.50	11.60	4.20	1040.0	砂岩	赤色顔料付着
1935	102	208-03	A Ⅲ	C-3 包合層	磁石	一部欠損	10.20	6.10	6.00	656.0	砂岩	産面に融け付着
1936	102	207-01	A Ⅲ	— 酒罍	磁石	不明	12.30	6.70	3.40	325.0	安山岩	
1937	102	218-01	A Ⅲ	D-9 SK12	磁石	不明	9.10	9.60	4.20	486.0	花崗岩	
1938	102	218-02	A Ⅲ	B-5 下層包合層	磁石	不明	10.20	6.70	3.40	486.0	安山岩	
1939	102	218-02	A Ⅲ	D-3 包合層	磁石	不明	9.00	10.20	4.80	506.0	安山岩	
1940	102	224-01	B Ⅱ	— 下層包合層	磁石	約5/6残存	9.20	7.10	5.40	475.0	安山岩	産面は変態により融け
1941	102	224-01	B Ⅱ	— 下層包合層	磁石	不明	11.50	9.00	7.30	1050.0	砂岩	腐付着
1942	102	208-02	A Ⅲ	D-3 包合層	磁石	不明	8.00	9.50	5.20	596.0	安山岩	変化物付着
1943	102	204-02	A Ⅲ	D-6 包合層	磁石	不明	10.00	9.10	4.80	606.0	安山岩	変化物付着
1943	102	206-01	A Ⅲ	D-7 包合層	磁石	不明	7.40	6.20	4.40	296.0	安山岩	変化物付着
1944	103	208-01	A Ⅲ	D-7 包合層	磁石	不明	6.20	6.00	5.20	246.0	安山岩	変化物付着

第40表 石器・石製品一覧表4

報告 番号	採国 番号	測程 歩	調査区	シリ シ	遺構・部位	器 種	分 類	残 存 数	長さ (cm)	幅 (cm)	厚 さ (cm)	重 量 (g)	石 材	備 考
1295	103	205-02	A	B5	P13.4	磁石	一部欠損	約20残存	9.00	8.40	6.30	456.0	花崗岩	
1296	103	216-01	A	B7	包合層	磁石	一部欠損	一部欠損	12.30	8.20	5.30	706.0	安山岩	
1297	103	216-02	A	C5	P13.1	磁石	変形	変形	11.00	7.50	4.20	525.0	砂岩	
1298	103	214-02	A	B6	陶器片	磁石	変形	変形	11.00	7.50	5.00	536.0	ファイカイト	
1299	103	221-03	B	B3	包合層	磁石	変形	変形	8.70	7.30	4.10	366.0	安山岩	
1300	103	212-01	A	E3	T層包合層	磁石	変形	変形	12.80	11.00	7.40	1300.0	砂岩	炭化物付着、顕微鏡変化
1311	103	21E-01	A	D4	包合層	磁石	変形	変形	14.00	9.40	6.50	1100.0	花崗岩	
1312	104	214-01	A	D7	包合層	磁石	変形	変形	12.30	10.50	3.80	706.0	大野河(花崗岩)砂岩	
1313	104	237-02	A	E9	S1111	磁石	一部欠損	一部欠損	11.30	13.10	4.70	726.0	花崗岩	
1314	104	237-01	B1	J4	包合層	磁石	変形	変形	13.80	7.40	6.20	766.0	砂岩	
1315	104	229-01	B1	J5	包合層	磁石	一部欠損	一部欠損	13.80	9.00	4.80	825.0	花崗岩質砂岩	
1316	104	205-01	A	F6	包合層	磁石	変形	変形	10.50	8.60	5.20	608.0	砂岩	
1317	104	203-03	A	D9	S18.12	磁石	約1/2残存	約1/2残存	10.30	9.50	4.20	548.0	砂岩	
1318	104	212-01	A	D1	陶器片	磁石	一部欠損	一部欠損	17.00	9.20	6.20	1400.0	安山岩	
1319	104	238-02	A	E9	S1111	磁石	一部欠損	一部欠損	11.10	9.00	8.80	1300.0	砂岩	
1320	105	203-02	A	D3	埋込層	磁石	変形	変形	6.80	4.80	3.10	165.0	砂岩	
1321	105	206-03	A	F6	T層包合層	磁石	一部欠損	一部欠損	6.40	8.60	2.60	206.0	安山岩	
1322	105	205-02	A	C9	包合層	磁石	変形	変形	11.00	8.10	5.50	690.0	砂岩	
1323	105	205-02	A	F4	包合層	磁石	変形	変形	15.30	5.90	2.40	306.0	砂岩	
1324	105	218-01	A	C7	S18.19	磁石	小片	小片	15.30	5.20	1.10	125.0	片岩	
1325	105	209-01	A	D3	包合層	磁石	一部欠損	一部欠損	14.90	5.00	1.90	218.0	片岩	
1326	105	209-02	A	D3	包合層	磁石	変形	変形	21.20	6.10	3.40	718.0	片岩	
1327	105	209-03	A	D3	包合層	磁石	変形	変形	8.10	5.60	4.20	250.0	砂岩	
1328	105	241-01	B1	T3第1層	磁石	変形	変形	変形	16.99	4.83	2.18	296.0	凝灰岩	
1329	105	206-02	A	E5	包合層	磁石	変形	変形	7.80	7.40	5.00	450.0	砂岩	
1331	105	205-01	A	B4	包合層	磁石	変形	変形	8.60	8.20	3.60	380.0	砂岩	
1332	105	207-02	A	E1	包合層	磁石	変形	変形	4.20	3.60	2.80	50.0	砂岩	
1333	105	207-03	A	E1	包合層	磁石	変形	変形	6.40	5.50	3.60	150.0	砂岩	
1334	105	211-01	A	E3	包合層	磁石	変形	変形	14.00	7.20	6.00	1125.0	凝灰岩	炭化物付着
1335	106	198-02	A	B2	SX85	磨石	変形	変形	7.20	6.90	3.80	290.0	砂岩	全体に磨粒不明瞭
1336	106	197-01	A	C5	包合層	磨石	約7/8残存	約7/8残存	11.50	9.40	6.70	1010.0	砂岩	全体に磨粒不明瞭
1337	106	197-02	A	E1	東壁	磨石	変形	変形	11.40	10.70	5.60	920.0	砂岩	前面と上に滑るか
1338	106	199-01	A	E9	S1111	磨石	変形	変形	9.40	6.40	5.30	400.0	砂岩	朱付着
1339	106	201-01	B1	J4	包合層	磨石	変形	変形	10.90	7.70	5.60	660.0	砂岩	
1340	106	209-02	A	E1	東壁	磨石	変形	変形	9.50	8.80	6.80	700.0	砂岩	
1341	106	202-01	A	D2	包合層	磨石	変形	変形	11.20	10.90	4.90	900.0	凝灰岩	
1342	106	201-02	A	E3	包合層	磨石	変形	変形	7.20	10.00	6.00	440.0	砂岩	約1/2残存
1343	107	185-02	B1	J2	S18.13	磨製石斧	一部欠損	一部欠損	3.00	2.20	0.60	6.8	片岩	
1344	107	187-01	A	C2	包合層	磨製石斧	変形	変形	8.35	4.10	2.60	93.0	緑色岩	
1345	107	187-02	A	C8	包合層	磨製石斧	変形	変形	6.70	4.40	1.60	77.5	(花崗岩)片岩	

第41表 石器・石製品一覧表5

報告 採区 番号 番号	実測書 番号	調査区	シリア マ	遺構・層位	器 種	分類	残存度	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石材	備考
1246	107	186-03	A 皿 D 4	包合層	磨製石斧	ほぼ完整	ほぼ完整	7.70	5.05	2.30	136.7	閃緑岩	
1247	107	186-01	B 1	I 3	SZ 041	打刃器片	打刃器片	3.20	4.50	2.10	73.9	燧石	
1248	107	186-04	A 皿 E 3	挿入層	磨製石斧	刃部の残存	刃部の残存	0.40	5.20	3.10	106.0	閃緑岩	
1249	108	186-02	A 皿 E 3	包合層	磨製石斧	一部欠損	一部欠損	7.00	4.60	2.70	123.4	閃緑岩	上面部より打刃部は磨製 全体は高銅合金に着色
1250	108	186-01	A 皿 D 3	包合層	磨製石斧	一部欠損	一部欠損	7.40	4.60	3.10	145.4	閃緑岩	
1251	108	186-04	A 皿 D 3	包合層	磨製石斧	一部欠損	一部欠損	11.30	4.70	3.10	246.0	閃緑岩	
1252	108	186-03	A 皿 B 7	包合層	磨製石斧	一部欠損	一部欠損	12.30	5.70	3.60	386.0	包合層	
1253	109	186-02	A 皿 B 4	包合層	磨製石斧	一部欠損	一部欠損	12.40	5.70	4.70	316.0	玄武岩	
1254	109	187-03	A 皿 E 9	包合層	磨製石斧	完整	完整	9.90	5.90	4.40	406.0	包合層	
1255	109	188-01	A 皿 E 6	包合層	磨製石斧	一部欠損	一部欠損	10.20	5.90	3.85	316.0	閃緑岩	
1257	110	185-03	A 皿 B 6	包合層	部分磨製石斧	完整	完整	7.80	4.55	3.90	248.1	閃緑岩	緑石に着色
1258	110	185-04	A 皿 B 6	包合層	部分磨製石斧	完整	完整	8.00	5.00	4.40	285.0	磨製燧岩	緑石に着色
1259	111	228-07	A 皿 E 9	包合層	磨製石斧	一部欠損	一部欠損	7.80	5.00	2.00	300.0	砂岩	保存着
1260	111	228-01	A 皿 E 9	包合層	磨製石斧	一部欠損	一部欠損	35.30	10.50	6.90	2460.0	砂岩	
1261	111	228-01	B 1	J 5	包合層	完整	完整	2.90	2.42	0.50	2.6	玄武岩	
1262	112	287-01	A 皿 D 3	包合層	石籠	磨製石斧	磨製石斧	4.68	2.06	0.84	5.2	玄武岩	
1263	112	287-02	A 皿 B 7	下層包合層	石籠	完整	完整	2.41	1.78	0.62	1.9	玄武岩	
1264	112	287-03	A 皿 C 1	下層包合層	石籠	完整	完整	3.90	1.16	0.75	3.1	玄武岩	
1265	112	290-02	A 皿 B 8	P11.3	石籠	磨製石斧	磨製石斧	2.04	0.62	0.44	0.6	玄武岩	
1267	112	289-01	A 皿 D 8	包合層	石籠	磨製石斧	磨製石斧	3.42	0.80	0.77	1.7	玄武岩	
1268	112	297-04	A 皿 D 3	包合層	石籠	磨製石斧	磨製石斧	2.67	0.93	0.60	1.3	玄武岩	
1269	112	290-01	A 皿 D 9	包合層	石籠	磨製石斧	磨製石斧	2.42	1.07	0.59	1.1	玄武岩	
1270	112	290-04	A 皿 D 9	SJK12	石籠	磨製石斧	磨製石斧	2.45	1.09	0.56	1.3	玄武岩	
1271	112	288-02	B 1	J 5	包合層	磨製石斧	磨製石斧	2.64	1.26	0.69	1.7	玄武岩	
1272	112	288-03	A 皿 D 8	包合層	石籠	磨製石斧	磨製石斧	2.76	1.22	0.67	1.5	玄武岩	
1273	112	291-01	A 皿 B 6	包合層	石籠	磨製石斧	磨製石斧	5.21	2.08	0.90	8.6	玄武岩	
1274	112	288-01	A 皿 B 6	包合層	石籠	磨製石斧	磨製石斧	2.84	2.08	0.87	4.1	玄武岩	
1275	112	288-04	A 皿 D 3	包合層	石籠	磨製石斧	磨製石斧	1.94	1.84	0.72	2.1	玄武岩	
1276	113	268-01	B 1	I 4	包合層	磨製石斧	磨製石斧	2.87	4.80	0.92	9.5	赤柱岩	
1277	113	267-01	A 1	B 6	包合層	磨製石斧	磨製石斧	3.42	5.25	1.00	10.4	玄武岩	
1278	113	273-02	A 皿 C 8	下層包合層	磨製石斧	磨製石斧	磨製石斧	2.87	4.85	0.67	6.9	玄武岩	
1279	113	276-01	A 皿 E 8	下層包合層	磨製石斧	磨製石斧	磨製石斧	2.75	4.61	0.83	6.1	玄武岩	
1280	113	276-02	A 皿 C 5	包合層	磨製石斧	磨製石斧	磨製石斧	2.99	4.62	1.18	16.9	玄武岩	
1281	113	272-01	A 皿 C 6	包合層	磨製石斧	磨製石斧	磨製石斧	1.75	4.71	0.75	4.2	玄武岩	
1282	113	275-01	A 皿 C 9	包合層	磨製石斧	磨製石斧	磨製石斧	4.04	5.83	1.00	23.6	硬砂岩	
1283	113	275-02	A 皿 C 9	包合層	磨製石斧	磨製石斧	磨製石斧	2.98	3.32	0.78	6.4	チャート	
1284	113	275-01	A 皿 D 6	包合層	磨製石斧	磨製石斧	磨製石斧	6.52	5.28	1.83	57.2	玄武岩	
1285	113	276-02	B 1	H 5	SZ 04	磨製石斧	磨製石斧	1.89	2.87	0.79	4.4	玄武岩	
1286	113	273-01	A 皿 C 6	包合層	磨製石斧	磨製石斧	磨製石斧	2.96	4.38	0.74	8.9	玄武岩	
1287	114	269-01	A 皿 B 8	包合層	磨製石斧	磨製石斧	磨製石斧	4.68	9.05	2.15	54.4	玄武岩	
1288	114	271-02	A 皿 D 3	下層包合層	磨製石斧	不明	不明	2.63	3.30	0.93	5.8	玄武岩	

第42表 石器・石製品一覽表6

報告 番号	採掘 場所	実測 寸法	調査区	シフト	遺構・部位	器種	分類	残存数	長さ(m)	幅(m)	厚さ(m)	重量(g)	石材	備考
1290	114	271-01	A	B.6	下層P11	石器	空形	空形	3.67	6.88	1.63	30.4	片岩	
1291	114	276-01	A	B.2	包石等	石器	空形	空形	3.68	7.01	1.04	25.3	片岩	
1291	114	274-01	A	B.4	包石等	石器	空形	空形	6.40	9.02	2.09	89.3	硬砂岩	
1292	114	278-01	A	E.9	包石等	石器	空形	空形	4.97	3.63	1.36	24.2	下石	
1294	115	278-03	A	B.6	包石等	石器	空形	空形	2.62	2.17	0.72	3.5	片岩	
1294	115	279-01	A	E.9	SH11	石器	空形	空形	3.39	2.13	0.83	4.7	下石	
1296	115	285-02	A	B.6	包石等	石器	空形	空形	2.31	3.29	0.73	8.6	片岩	
1296	115	286-01	A	B.6	包石等	石器	空形	空形	4.84	2.22	1.05	8.0	片岩	
1297	115	278-02	A	C.5	包石等	石器	空形	空形	6.26	2.54	1.03	13.7	片岩	
1298	115	281-02	A	D.4	包石等	石器	空形	空形	2.26	2.89	1.30	8.5	片岩	
1299	115	277-01	A	E.9	SH11	石器	空形	空形	2.74	2.44	1.18	7.0	片岩	
1300	115	284-01	B	I.4	SK02	石器	空形	空形	2.07	1.13	1.20	6.3	片岩	
1301	115	285-01	A	B.6	包石等	石器	空形	空形	3.32	3.04	1.08	11.3	片岩	
1302	115	285-02	A	B.5	P12	石器	空形	空形	3.96	2.52	1.29	11.2	片岩	
1303	115	288-02	A	E.6	包石等	石器	空形	空形	3.99	4.52	1.02	21.6	片岩	
1305	115	288-02	A	E.6	包石等	石器	空形	空形	3.43	3.42	0.98	7.1	片岩	
1306	115	288-01	A	C.2	包石等	石器	空形	空形	4.33	4.87	1.02	19.7	下石	
1307	116	285-01	A	D.2	包石等	石器	空形	空形	6.90	6.23	2.20	101.1	片岩	
1308	116	285-02	A	C.5	下層包石等	石器	空形	空形	7.66	1.58	2.03	31.8	片岩	
1309	116	284-02	B	I.5	SZ 04	石器	空形	空形	7.35	7.08	2.95	173.0	硬砂岩	
1310	116	286-01	A	D.7	P113	石器	空形	空形	11.22	4.84	2.24	192.9	緑泥片岩	
1311	116	286-02	B	I.5	SZ 04	石器	空形	空形	12.41	4.54	1.63	127.6	片岩	
1312	117	328-01	A	E.2	包石等	石器	片刃	空形	16.16	4.77	2.40	274.2	片岩	
1313	117	325-01	A	B.3	包石等	石器	片刃	空形	10.41	5.11	1.59	198.2	片岩	
1314	117	328-01	A	B.3	包石等	石器	片刃	空形	13.73	6.20	1.75	221.8	片岩	
1315	117	328-01	B	I.6	包石等	石器	片刃	空形	8.65	5.41	1.96	144.1	片岩	
1316	118	328-01	A	C.5	P112	石器	空形	空形	12.02	2.16	3.84	405.4	硬砂岩	
1317	118	337-01	B	J.5	包石等	石器	空形	空形	14.79	2.44	3.88	453.6	片岩	
1318	119	308-01	A	D.4	包石等	石器	空形	空形	10.22	12.53	4.36	271.8	硬砂岩	
1319	119	324-01	A	D.5	包石等	石器	空形	空形	10.72	6.55	2.13	140.6	硬砂岩	
1320	119	307-01	A	D.4	包石等	石器	空形	空形	11.09	11.80	3.78	553.3	硬砂岩	
1321	120	304-01	A	B.7	包石等	石器	空形	空形	11.60	14.90	4.80	1038.4	硬砂岩	
1322	120	305-01	A	C.3	包石等	石器	空形	空形	11.27	15.31	5.49	805.7	硬砂岩	
1323	121	318-01	A	E.1	包石等	石器	空形	空形	7.99	8.25	4.36	274.2	硬砂岩	
1324	121	326-01	B	I.10	包石等	石器	空形	空形	8.53	7.14	3.36	202.6	硬砂岩	
1325	121	340-01	B	J.6	包石等	石器	空形	空形	8.59	11.03	3.69	336.1	硬砂岩	
1326	121	329-01	A	E.9	包石等	石器	空形	空形	8.98	8.55	3.15	252.0	硬砂岩	
1327	122	327-01	A	C.7	包石等	石器	空形	空形	6.15	9.54	2.34	136.9	硬砂岩	
1328	122	322-01	A	C.2	包石等	石器	空形	空形	7.73	8.88	2.80	261.1	硬砂岩	
1329	122	308-01	A	B.2	包石等	石器	空形	空形	12.40	12.15	4.80	1050.1	硬砂岩	
1330	123	335-01	B	I.4	包石等	石器	空形	空形	8.33	7.84	2.43	178.9	硬砂岩	
1331	123	310-01	A	J.4	包石等	石器	空形	空形	10.69	11.41	4.53	642.1	硬砂岩	

第43表 石器・石製品一覧表/

報告 番号	調査 番号	調査区 名	シリア 名	遺構・層位	器 種	分類	残存数	長さ(m)	幅(m)	厚さ(m)	重量(g)	石材	備考
1332	123	338-01	B.1	J.3	包蓋	片方	不明	6.29	8.14	2.35	115.0	硬砂岩	
1333	123	338-01	B.1	J.4	包蓋面層	片方	不明	9.46	12.68	3.61	355.6	硬砂岩	
1334	123	332-01	A.Ⅲ	E.3	包蓋骨	片方	不明	8.41	7.15	1.70	136.4	硬砂岩	
1335	124	311-01	A.Ⅲ	—	包蓋骨	両方	不明	13.36	10.17	5.00	974.6	硬砂岩	
1336	124	319-01	A.Ⅲ	D.3	包蓋骨	片方	不明	15.10	9.93	3.17	337.1	硬砂岩	
1337	123	327-01	A.Ⅲ	B.3	包蓋骨	片方	不明	9.93	9.32	4.22	268.2	硬砂岩	
1338	123	312-01	A.Ⅲ	C.9	包蓋骨	片方	不明	8.79	9.87	3.29	274.3	硬砂岩	
1339	123	312-01	A.Ⅲ	B.6	包蓋骨	片方	不明	6.72	11.18	3.04	154.8	硬砂岩	
1340	126	325-01	A.Ⅲ	C.4	P11.1	片方	不明	9.36	6.11	2.94	187.6	硬砂岩	
1341	126	331-01	A.Ⅲ	E.3	包蓋骨	片方	不明	3.09	5.23	2.41	254.9	片岩	
1342	126	335-01	B.1	H.5	SZ.001	片方	不明	8.00	8.89	3.45	494.9	片岩	
1343	127	332-01	B.1	H.4	SZ.001	片方	不明	10.94	10.16	3.14	236.9	硬砂岩	
1344	127	306-01	A.Ⅲ	D.6	包蓋骨	片方	不明	10.38	12.82	5.12	206.2	硬砂岩	
1345	127	314-01	A.Ⅲ	B.6	包蓋骨	片方	不明	11.79	12.56	4.18	208.8	硬砂岩	
1346	127	314-01	A.Ⅲ	C.7	包蓋骨	片方	不明	11.09	13.38	3.44	245.8	硬砂岩	
1347	128	314-01	A.Ⅲ	D.4	包蓋骨	片方	不明	10.33	16.36	2.71	267.0	硬砂岩	
1348	129	264-01	A.Ⅲ	B.2	包蓋骨	片方	不明	4.10	7.40	1.40	55.2	硬砂岩	
1349	129	264-01	A.Ⅲ	B.4	包蓋骨	片方	不明	4.10	7.40	1.40	55.2	硬砂岩	
1350	129	273-03	A.Ⅲ	B.4	包蓋骨	片方	不明	8.30	4.50	1.90	117.1	下層石灰土	
1351	129	273-01	A.Ⅲ	E.6	包蓋骨	片方	不明	4.31	3.32	2.60	44.0	硬砂岩	
1352	130	297-01	A.Ⅲ	C.4	SX.88	片方	不明	4.64	4.39	2.82	62.0	硬砂岩	
1353	130	291-02	A.Ⅲ	E.3	包蓋骨	片方	不明	5.33	5.92	2.42	76.7	硬砂岩	
1354	130	292-01	A.Ⅲ	D.7	P11.3	片方	不明	7.04	9.35	4.73	318.3	片岩	
1355	130	292-01	B.1	—	遺土層面	不明	不明	5.25	7.00	4.90	133.5	硬砂岩	
1356	131	294-01	A.Ⅲ	C.2	包蓋骨	片方	不明	5.33	5.92	2.42	194.8	硬砂岩	
1357	131	293-01	A.Ⅲ	E.5	包蓋骨	片方	不明	5.33	5.92	2.42	194.8	硬砂岩	
1358	131	296-01	A.Ⅲ	C.7	包蓋骨	片方	不明	6.65	9.95	3.99	164.3	硬砂岩	
1359	132	008-03	A.1	B.2	包蓋骨	片方	不明	6.50	3.20	1.45	42.6	片岩	
1360	132	184-06	A.Ⅲ	D.7	下層P11.2	片方	不明	11.70	2.20	1.60	83.4	片岩	
1361	132	184-05	A.Ⅲ	E.7	包蓋骨	片方	不明	5.90	2.00	1.20	21.22	片岩	
1362	132	184-02	A.Ⅲ	D.3	包蓋骨	片方	不明	8.30	3.00	1.20	46.32	片岩	
1363	132	184-04	A.Ⅲ	B.8	包蓋骨	片方	不明	10.70	3.10	1.20	71.35	片岩	
1364	132	184-01	A.Ⅲ	C.5	SX.33	不明	不明	2.90	1.60	1.20	10.0	包蓋骨(大層) 硬砂岩(岩?)+包蓋骨(小層)	量少な 写真参照
1365					瓦								
1366					包蓋骨								
1367					包蓋骨								
1368					包蓋骨								
1369					包蓋骨								
1370					包蓋骨								
1371					包蓋骨								
1372					包蓋骨								

報告者 氏名	採掘区 番号	英調査 番号	調査区 番号	シリアル 番号	遺構・層位	器種	分類	残存数	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石材	備考
1373	A	E6	P2	石鏃	一部欠損	IA短	1	2.81	1.15	0.27	0.74	半又方石		
1374	A	E6	P2	石鏃	一部欠損	IA短	1	2.81	1.15	0.27	0.74	半又方石		
1375	A	E6	P2	石鏃	一部欠損	IA短	1	2.81	1.15	0.27	0.74	半又方石		
1376	A	B5	包壳層	石鏃	約1/2残存	IA短	1	3.24	1.09	0.31	0.87	半又方石	断面録	
1377	A	B5	包壳層	石鏃	約1/2残存	IA短	1	3.24	1.09	0.31	0.87	半又方石	断面録	
1378	A	D7	下層包壳層	石鏃	一部欠損	IA短	1	2.98	1.00	0.31	0.61	半又方石		
1379	A	D7	下層包壳層	石鏃	一部欠損	IA短	1	2.98	1.00	0.31	0.61	半又方石		
1380	A	D9	包壳層	石鏃	一部欠損	IC短	1	2.56	1.21	0.30	0.92	半又方石	未成品?	
1381	A	D4	包壳層	石鏃	一部欠損	IA短	1	2.57	1.50	0.29	1.00	半又方石		
1382	A	D4	包壳層	石鏃	一部欠損	IA短	1	2.57	1.50	0.29	1.00	半又方石		
1383	A	C9	包壳層	石鏃	一部欠損	VD短	1	2.00	1.35	0.36	0.98	半又方石		
1384	A	C7	P4	石鏃	約1/2残存	VD短	1	1.95	1.25	0.52	1.15	下石		
1384	A	一	排土	石鏃	約1/2残存	VD短	1	1.90	1.35	0.45	0.62	半又方石	写真裏方面	
1385	A	B4	包壳層	石鏃	一部欠損	IA短	1	1.67	1.41	0.43	0.96	半又方石		
1386	A	B4	包壳層	石鏃	一部欠損	IA短	1	2.02	0.84	0.32	0.67	半又方石		
1387	A	B6	包壳層	石鏃	一部欠損	IA短	1	1.74	1.10	0.45	0.67	半又方石		
1388	A	E6	P2	石鏃	一部欠損	IA短	1	1.74	1.10	0.45	0.60	半又方石		
1389	A	E8	P2	石鏃	一部欠損	IA短	1	2.44	1.24	0.30	0.92	半又方石		
1390	A	B5	P4	石鏃	一部欠損	IA短	1	1.46	1.43	0.29	0.47	半又方石		
1391	A	D3	下層P9	石鏃	一部欠損	IA短	1	1.62	1.03	0.32	0.53	半又方石	写真裏方面	
1392	A	B6	SK23	石鏃	一部欠損	IA短	1	1.79	1.52	1.28	0.92	半又方石		
1393	A	C6	包壳層	石鏃	一部欠損	IA短	1	1.95	1.55	0.23	0.60	半又方石		
1394	B	1	6 SZ 104	石鏃	一部欠損	IA短	1	1.42	1.10	0.29	0.35	半又方石		
1395	B	1	4	包壳層	約1/2残存	IA短	1	2.29	1.45	0.35	1.22	半又方石		
1396	A	B7	下層包壳層	石鏃	一部欠損	IA短	1	1.93	1.84	0.41	1.26	半又方石		
1397	A	D4	下層P16	石鏃	一部欠損	ID短	1	2.08	1.58	0.34	0.90	半又方石		
1398	A	C7	包壳層	石鏃	一部欠損	ID短	1	2.05	1.93	0.25	1.33	半又方石		
1399	A	D9	包壳層	石鏃	一部欠損	ID短	1	1.94	1.84	0.32	0.78	半又方石		
1400	A	B6	包壳層	石鏃	約1/2残存	I短	1	3.30	2.10	0.35	1.69	半又方石	断面録	
1402	A	E9	SH11	石鏃	約1/2残存	ID短	1	3.33	1.22	0.35	1.50	半又方石		
1403	A	D7	下層P3	石鏃	約1/2残存	ID短	1	2.28	1.97	0.36	1.32	半又方石		
1404	A	D4	包壳層	石鏃	一部欠損	一	1	2.02	1.64	0.51	1.19	半又方石		
1405	A	B7	P6	石鏃	一部欠損	ID短	1	2.18	2.07	0.39	1.38	半又方石		
1406	A	B2	包壳層	石鏃	ID短	ID短	1	1.75	1.05	0.29	0.61	半又方石		
1407	A	B6	SK23	石鏃	一部欠損	ID短	1	1.66	1.20	0.32	0.54	半又方石		
1408	A	B5	P10	石鏃	一部欠損	ID短	1	2.17	2.01	0.41	1.26	半又方石		
1409	A	C7	SK5	石鏃	約1/2残存	I短	1	1.83	1.15	0.40	1.52	半又方石		
1410	A	D4	包壳層	石鏃	一部欠損	A短	1	2.01	1.96	0.39	1.17	半又方石		
1411	A	一	排土	石鏃	一部欠損	ID短	1	2.57	1.37	0.43	1.54	半又方石		
1412	A	MS18G	中法2	石鏃	一部欠損	ID短	1	1.59	1.38	0.36	0.71	半又方石		
1413	A	E6	P4	石鏃	一部欠損	I短	1	1.73	1.50	0.33	1.03	半又方石		
1414	A	C7	SK19	石鏃	約1/2残存	I短	1	1.28	1.93	0.34	1.04	半又方石		
1415	A	C3	SK52	石鏃	約1/2残存	I短	1	1.53	2.11	0.59	1.72	半又方石		
1416	A	C2	包壳層	石鏃	約1/2残存	I短	1	1.78	1.81	0.31	0.96	半又方石		

第45表 石器・石製品一覧表1

報告者 番号	調査区 番号	調査区 名	シリア 名	遺構・層位	器種	分類	残存数	長さ(m)	幅(m)	厚さ(m)	重量(g)	石材	備考
1317	AⅡ	B4	陶器Ⅱ	石蔵	石蔵	I D組	約1/2残存	1.42	1.83	0.43	1.02	中ヌカイト	
1318	AⅡ	D2	石蔵Ⅱ	石蔵水産品	石蔵水産品	I 組	一部欠損	1.83	2.18	0.44	1.82	中ヌカイト	
1319	AⅡ	D3	包合層	石蔵	石蔵	I 組	約1/2残存	1.73	2.00	0.46	1.47	中ヌカイト	
1320	AⅡ	D4	包合層	石蔵	石蔵	I 組	約1/2残存	1.30	1.48	0.32	0.63	中ヌカイト	左側縁が断片状
1322	AⅡ	E8	包合層	石蔵	石蔵	I 組	約1/2残存	1.77	2.14	0.32	1.15	中ヌカイト	
1323	AⅡ	B7	SK17	石蔵	石蔵	I 組	一部欠損	1.98	1.85	0.33	0.92	中ヌカイト	
1324	AⅡ	C7	SK14	石蔵	石蔵	I 組	約1/2残存	1.46	1.86	0.30	0.75	中ヌカイト	
1325	AⅡ	D3	包合層	石蔵	石蔵	I 組	約1/2残存	1.62	1.66	0.33	0.88	中ヌカイト	
1330	AⅡ	B4	包合層(瓦葺部)	石蔵	石蔵	I 組	一部欠損	1.61	1.89	0.31	0.87	中ヌカイト	
1327	AⅡ	E3	下層P17	石蔵	石蔵	I 組	約1/2残存	1.15	1.73	0.31	0.58	下呂石	
1328	AⅡ	D7	包合層	石蔵	石蔵	A 組	約1/2残存	2.10	1.60	0.32	0.93	中ヌカイト	
1329	AⅡ	D7	包合層	石蔵	石蔵	A 組	約1/2残存	2.01	1.48	0.47	0.69	中ヌカイト	
1331	AⅡ	B3	下層包合層	石蔵	石蔵	B 組	一部欠損	2.16	1.88	0.31	0.83	中ヌカイト	
1332	AⅡ	D5	SK28	石蔵	石蔵	B 組	一部欠損	1.46	1.49	0.32	0.76	中ヌカイト	
1333	AⅡ	C9	包合層	石蔵	石蔵	D 組	約1/2残存	1.46	0.93	0.28	0.30	中ヌカイト	
1334	AⅡ	C2	SK26	石蔵	石蔵	D 組	一部欠損	2.43	1.52	0.35	1.41	中ヌカイト	
1335	AⅡ	C2	P3	石蔵	石蔵	D 組	約1/2残存	1.27	1.81	0.41	0.92	下呂石	断片状
1336	AⅡ	B4	下層P5	石蔵水産品	石蔵水産品	D 組	一部欠損	1.83	1.86	0.48	1.35	下呂石	破面残存
1337	AⅡ	E5	P1	石蔵水産品	石蔵水産品	V 組	变形	2.24	1.95	0.51	1.84	中ヌカイト	
1338	AⅡ	C9	包合層	石蔵水産品	石蔵水産品	V 組	一部欠損	2.67	1.52	0.65	2.18	中ヌカイト	
1339	AⅡ	C9	包合層	石蔵水産品	石蔵水産品	V 組	一部欠損	2.31	1.86	0.41	1.54	中ヌカイト	表面に断片の高まり
1340	AⅡ	D4	下層包合層	石蔵水産品	石蔵水産品	-	一部欠損	2.26	2.09	0.71	2.66	中ヌカイト	
1341	AⅡ	F9	SH11	石蔵水産品	石蔵水産品	-	一部欠損	2.90	1.19	0.58	0.56	中ヌカイト	
1342	AⅡ	B3	包合層	石蔵水産品	石蔵水産品	-	一部欠損	3.19	1.70	0.43	0.54	中ヌカイト	
1343	AⅡ	B3	下層包合層	石蔵水産品	石蔵水産品	-	一部欠損	3.32	2.03	0.49	3.78	中ヌカイト	
1344	AⅡ	B8	包合層	石蔵水産品	石蔵水産品	-	一部欠損	3.12	1.98	0.88	3.78	中ヌカイト	表面に断片の高まり
1346	AⅡ	B7	下層包合層	石蔵水産品	石蔵水産品	-	一部欠損	1.90	1.54	0.35	0.91	中ヌカイト	
1347	AⅡ	B7	P6	石蔵水産品	石蔵水産品	-	一部欠損	2.52	2.00	0.52	2.41	中ヌカイト	
1348	AⅡ	C1	P2	石蔵水産品	石蔵水産品	-	变形	2.44	2.90	0.62	2.60	中ヌカイト	表面に断片の高まり
1349	AⅡ	D4	陶器Ⅱ	石蔵水産品	石蔵水産品	-	变形	2.58	1.60	0.55	2.28	中ヌカイト	
1350	AⅡ	E6	包合層	石蔵水産品	石蔵水産品	-	变形	2.51	1.70	0.57	2.08	中ヌカイト	写真裏方向
1351	AⅡ	B8	SK72	石蔵	石蔵	I B 組	变形	1.98	1.49	0.32	1.08	中ヌカイト	
1352	AⅡ	E8	下層P1	石蔵水産品	石蔵水産品	-	变形	1.93	1.19	0.25	0.72	中ヌカイト	
1353	AⅡ	E3	下層P9	石蔵水産品	石蔵水産品	-	一部欠損	2.18	1.38	0.48	1.09	中ヌカイト	
1354	AⅡ	E8	SK10	石蔵水産品	石蔵水産品	-	一部欠損	2.09	1.83	0.30	0.56	中ヌカイト	
1355	AⅡ	B7	下層包合層	石蔵水産品	石蔵水産品	-	一部欠損	3.62	2.70	1.05	10.93	中ヌカイト	
1356	AⅡ	B4	包合層	石蔵水産品	石蔵水産品	-	一部欠損	3.72	2.51	0.52	1.72	中ヌカイト	表面に断片の高まり
1358	AⅡ	D2	包合層	石蔵水産品	石蔵水産品	-	变形	2.95	1.96	0.65	3.87	中ヌカイト	
1359	AⅡ	D3	陶器Ⅱ	石蔵水産品	石蔵水産品	-	变形	2.31	1.39	0.52	1.43	中ヌカイト	
1360	AⅡ	D6	SK25	石蔵水産品	石蔵水産品	-	一部欠損	1.86	1.39	0.29	0.86	中ヌカイト	
1361	AⅡ	D4	包合層	石蔵水産品	石蔵水産品	-	一部欠損	2.55	2.15	0.45	2.22	中ヌカイト	

第46表 石器・石製品一覧表10

報告 番号	調査 番号	調査区 名	シタ 名	遺構・層位	器種	分類	残存数	長さ(m)	幅(m)	厚さ(m)	重量(g)	石材	備考
1862	AⅢ	B7	P1	石甕瓦製品	—	不明	全部	3.02	2.11	0.65	3.82	歩又カイド	
1863	AⅢ	E4	SX52	石甕瓦製品	—	不明	全部	3.33	1.95	0.58	3.52	歩又カイド	
1864	AⅢ	B8	SX52	石甕瓦製品	—	不明	全部	3.44	2.11	0.85	5.53	歩又カイド	表面に磨状の高まり
1865	AⅢ	B8	SX68	石甕瓦製品	I B類	不明	全部	2.97	2.48	0.95	5.89	歩又カイド	表面残
1866	AⅢ	B7	下層P7	石甕瓦製品	—	不明	全部	3.75	1.16	0.53	2.51	歩又カイド	
1867	AⅢ	B8	P3	石甕瓦製品	—	不明	全部	1.74	1.27	0.32	0.65	歩又カイド	
1868	AⅢ	B3	包袋層(花笠部)	石甕瓦製品	—	不明	一部欠損	1.93	1.70	0.57	1.49	歩又カイド	
1869	AⅢ	B6	包袋層	石甕瓦製品	—	不明	一部欠損	2.25	1.38	0.54	2.48	歩又カイド	
1870	AⅢ	C6	包袋層	石甕瓦製品	I D類	不明	一部欠損	2.34	2.05	0.53	2.19	歩又カイド	
1871	AⅢ	B8	SX70	石甕瓦製品	—	不明	全部	2.20	1.93	0.58	2.24	歩又カイド	
1872	AⅢ	E6	P3	石甕瓦製品	II D類	不明	全部	2.08	1.59	0.45	1.17	歩又カイド	
1873	AⅢ	B8	包袋層	石甕瓦製品	—	不明	全部	1.93	1.25	0.30	0.73	歩又カイド	
1874	AⅢ	C7	包袋層	石甕瓦製品	—	不明	全部	1.78	0.93	0.30	0.52	歩又カイド	
1875	AⅢ	C6	包袋層	石甕瓦製品	—	不明	全部	1.78	0.93	0.30	0.52	歩又カイド	
1876	AⅢ	C6	包袋層	石甕瓦製品	—	不明	全部	1.78	0.93	0.30	0.52	歩又カイド	
1877	BⅠ	B15	SZ104	物置	—	不明	全部	3.18	2.53	0.50	2.49	歩又カイド	右側縁に三股
1878	AⅢ	E4	P1	石甕瓦製品	—	不明	全部	3.18	2.53	0.70	4.25	下呂石	
1879	AⅢ	B2	包袋層	石甕瓦製品	—	不明	一部欠損	1.93	0.54	0.31	0.78	歩又カイド	
1880	AⅢ	D4	包袋層	石甕瓦製品	石甕瓦?	不明	一部欠損	1.84	1.68	0.50	1.30	歩又カイド	
1881	AⅢ	B3	包袋層(花笠部)	横形石甕	—	不明	一部欠損	2.25	1.19	0.67	1.65	下呂石	表面残
1882	AⅢ	D6	SX45	横形石甕	—	不明	一部欠損	3.42	3.01	0.94	11.70	下呂石	表面残
1883	AⅢ	B2	包袋層	横形石甕	—	不明	一部欠損	2.39	1.83	0.43	2.37	下呂石	表面残
1884	AⅢ	E8	P5	横形石甕	—	不明	全部	3.45	2.28	0.70	7.08	下呂石	
1885	AⅢ	B3	包袋層	横形石甕	—	不明	全部	2.45	1.74	0.66	2.73	下呂石	
1886	AⅢ	B6	包袋層	横形石甕	横状残	不明	全部	1.30	3.12	1.74	143.51	下呂石	
1887	AⅢ	B6	包袋層	横形石甕	横状残	不明	全部	2.27	4.59	0.66	29.76	下呂石	
1888	AⅢ	E2	P2	横形石甕	—	不明	全部	2.46	2.59	0.85	5.93	歩又カイド	
1889	AⅢ	D4	下層包袋層	横形石甕	—	不明	全部	2.78	2.44	1.03	7.47	(胎)歩又カイド	
1890	AⅢ	E7	SX73	横形石甕	—	不明	全部	2.85	2.30	0.84	4.81	歩又カイド	
1891	AⅢ	C7	包袋層	横形石甕	—	不明	全部	2.21	2.22	0.83	4.17	歩又カイド	
1892	BⅠ	T5	包袋層	横形石甕	—	不明	全部	1.95	1.38	0.46	1.47	歩又カイド	
1893	AⅢ	E5	包袋層	横形石甕	—	不明	全部	2.64	1.55	1.18	4.04	歩又カイド	
1894	BⅠ	T5	包袋層	横形石甕	—	不明	全部	2.64	1.55	1.18	4.04	歩又カイド	
1895	AⅢ	E3	包袋層	UF	—	不明	全部	4.48	3.94	0.72	13.27	(胎)歩又カイド	
1896	AⅢ	B7	包袋層	UF	—	不明	全部	4.39	3.87	0.85	14.73	歩又カイド	
1897	AⅢ	E3	包袋層	UF	—	不明	全部	4.34	3.15	0.89	13.21	歩又カイド	同一母質
1898	AⅢ	B7	包袋層	UF	—	不明	全部	4.85	4.34	0.94	20.21	歩又カイド	同一母質
1899	AⅢ	C8	包袋層	UF	—	不明	全部	4.65	4.21	0.84	11.4	歩又カイド	
1900	AⅢ	C8	包袋層	UF	—	不明	全部	5.69	4.72	0.84	11.4	歩又カイド	
1901	AⅢ	E5	SX72	UF	—	不明	全部	3.99	3.27	0.98	11.12	下呂石	
1902	AⅢ	E2	包袋層	UF	—	不明	全部	2.66	1.69	0.60	2.50	歩又カイド	
1903	AⅢ	C3	下層包袋層	UF	—	不明	全部	3.50	1.96	0.40	2.19	歩又カイド	
1904	AⅢ	C2	下層包袋層	UF	—	不明	全部	4.45	1.50	0.76	3.94	歩又カイド	
1905	AⅢ	C5	SX33	UF	—	不明	全部	2.46	0.98	0.20	0.49	歩又カイド	
1906	AⅢ	D4	P4	UF	—	不明	全部	2.83	1.95	0.50	2.04	歩又カイド	

第47表 石器・石製品一覧表1

報告 番号	採出国 番号	実測器 番号	調査者	ドリッ ク	遺構・層位	器 種	分 類	残存数	長さ (m)	幅 (m)	厚さ (m)	重量 (g)	石材	備考
1297	A	B	D6	下部区底層	UF		一部欠損小	2.48	1.36	0.51	1.65	伊又カイト		
1298	A	B	D8	SK69	UF		一部欠損小	3.53	1.54	0.41	0.76	伊又カイト		
1300	A	B	SK69		UF		一部欠損小	3.52	1.54	0.42	0.76	伊又カイト		
1310	B	1	1.5	底層	UF		一部欠損小	2.35	1.12	0.59	0.99	伊又カイト		
1311	B	1	1.4	底層	UF		一部欠損小	4.00	1.42	0.80	3.92	伊又カイト		
1312	B	1	1.5	底層	UF		一部欠損小	1.90	1.55	0.36	0.76	伊又カイト		
1313	B	1	1.4	SZ 106	UF		一部欠損小	2.87	1.33	0.28	1.14	伊又カイト		
1314	B	1	1.5	底層	UF		一部欠損小	5.66	3.19	0.88	5.32	伊又カイト		
1315	B	1	J 10	底層	UF		一部欠損小	5.00	2.44	0.55	7.80	伊又カイト		
1316	B	1	1.5	底層	UF		一部欠損小	2.70	1.89	0.23	1.63	伊又カイト		
1317	B	1	J 3	底層	UF		一部欠損小	1.82	2.06	0.45	2.21	伊又カイト	受取で陶器	
1318	B	1	I 13	P 5	UF		一部欠損小	2.82	3.02	0.55	4.81	伊又カイト		
1319	A	B	E 5	底層	UF		一部欠損小	1.74	1.46	0.26	0.98	伊又カイト		
1320	A	B	D 3	P 2	UF		一部欠損小	3.87	2.50	0.51	2.05	伊又カイト		
1321	A	B	C 3	SK 63	UF		一部欠損小	3.23	2.51	0.57	4.85	伊又カイト		
1322	A	B	D 5	下部区底層	UF		一部欠損小	2.71	3.12	1.44	8.41	伊又カイト		
1323	A	B	B 2	SX 65	UF		一部欠損小	1.26	0.43	1.05	伊又カイト			
1324	B	1	1.8	底層	UF		一部欠損小	3.89	2.10	0.56	5.30	伊又カイト		
1326	B	1	J 10	底層	UF		一部欠損小	4.40	2.29	0.75	6.44	伊又カイト		
1327	B	1	H 5	SZ 104	UF		一部欠損小	2.35	1.64	0.59	1.66	伊又カイト		
1328	B	1	G 9	SK 63	UF		一部欠損小	3.55	3.19	0.85	8.56	伊又カイト		
1329	A	B	—	底層	UF		一部欠損小	3.99	3.45	0.59	6.57	伊又カイト		
1330	A	B	C 7	底層	UF		一部欠損小	2.48	2.35	0.61	3.02	下阿石		
1331	A	B	D 1	底層	UF		一部欠損小	4.02	3.22	0.70	8.64	下阿石		
1332	A	B	G 1	SX 44	UF		一部欠損小	3.53	2.14	0.63	4.52	下阿石		
1334	B	1	J 3	底層	UF		一部欠損小	3.72	1.95	0.49	3.04	下阿石		
1335	A	B	D 3	底層	UF		一部欠損小	3.19	2.84	1.12	12.94	(他)伊又カイト		
1336	A	B	D 6	底層	RF		一部欠損小	5.19	2.62	0.96	12.74	伊又カイト		
1337	A	B	C 6	底層	RF		一部欠損小	7.16	4.90	0.68	27.92	(他)伊又カイト		
1338	A	B	E 9	SH 11	RF		一部欠損小	2.79	2.05	0.52	2.86	(他)伊又カイト		
1339	A	B	B 2	底層	RF		一部欠損小	2.93	1.90	0.45	2.55	伊又カイト		
1340	A	B	E 5	底層	RF		一部欠損小	2.27	2.21	0.55	3.96	伊又カイト		
1341	A	B	E 5	底層	RF		一部欠損小	1.70	0.84	0.29	0.54	伊又カイト		
1342	A	B	C 7	SK 73	RF		一部欠損小	2.73	1.12	0.28	0.72	伊又カイト		
1343	A	B	D 7	SK 27	RF		一部欠損小	2.11	1.67	0.31	1.20	伊又カイト		
1344	A	B	D 3	SK 2 6	RF		一部欠損小	0.89	1.47	0.40	1.53	伊又カイト		
1345	A	B	E 4	底層	RF		一部欠損小	3.85	1.84	0.31	2.28	伊又カイト		
1346	A	B	C 2	底層	RF		一部欠損小	3.82	1.20	0.35	0.65	伊又カイト		
1347	A	B	J 6	底層	RF		一部欠損小	2.84	1.63	0.78	3.14	伊又カイト		
1348	A	B	E 9	SH 11	石鏡		一部欠損小	8.74	6.79	3.90	202.30	(他)伊又カイト		
1349	A	B	B 8	底層	石鏡		一部欠損小	3.42	2.88	1.49	17.84	伊又カイト		
1350	B	1	T 4	第1層	石鏡蓋片		一部欠損小	9.18	6.07	4.19	224.58	黒色土器	当初は伊又カイトと判断	
1351	B	1	T 4	第1層	石鏡蓋片		一部欠損小	9.18	6.07	4.19	224.58	黒色土器		

第48表 石器・石製品一覧表12

報告 番号	採掘 箇所	実測高 身	調査区 別	シリ ンク	遺構・層位	器 種	分類	残存数	長さ(m)	幅(m)	厚さ(m)	重量(g)	石材	備考
1352	A	C.4	覆瓦層	A	相模川石塔	相模川石塔	一部欠損小	1	6.21	5.02	1.26	37.48	砂岩	(旧相模川石塔)
1353	A	B.7	13.4層	A	相模川石塔	相模川石塔	一部欠損小	1	7.31	7.52	1.06	106.88	砂岩	(旧相模川石塔)
1354	A	B.7	13.4層	A	相模川石塔	相模川石塔	一部欠損小	2	2.32	2.52	2.16	106.88	砂岩	(旧相模川石塔)
1355	A	D.6	15.6層	A	相模川石塔	相模川石塔	一部欠損小	6	6.74	3.66	1.09	19.80	砂岩	(旧相模川石塔)
1356	A	D.6	15.6層	A	相模川石塔	相模川石塔	一部欠損小	4	4.60	3.49	0.92	16.72	砂岩	(旧相模川石塔)
1357	A	B.3	15.6層	A	相模川石塔	相模川石塔	一部欠損小	8	8.89	5.82	1.46	100.34	砂岩	(旧相模川石塔)
1358	B.1	1.5	15.6層	A	相模川石塔	相模川石塔	一部欠損小	5	5.33	4.36	0.90	37.39	砂岩	(旧相模川石塔)
1359	A	B.6	下層包高層	A	礎石	礎石	一部残存	1	11.17	5.84	2.48	254.55	砂岩	礎石-基材
1360	A	B.4	15.6層	A	礎石	礎石	一部残存	6	6.66	5.66	2.15	123.38	砂岩	
1361	A	B.2	15.6層	A	礎石	礎石	一部残存	7	7.29	4.31	2.66	137.17	砂岩	
1362	A	E.5	15.6層	A	礎石	礎石	一部残存	6	6.75	6.25	1.33	94.83	赤岩	
1363	A	D.3	SX.31	A	礎石	礎石	一部欠損	11	11.07	8.51	3.13	389.17	閃緑岩	
1364	A	D.4	15.6層	A	礎石	礎石	一部欠損	12	12.81	8.23	3.99	372.08	砂岩	
1365	A	D.2	15.6層	A	礎石	礎石	一部欠損	11	11.38	9.52	1.13	913.90	砂岩	
1366	A	D.3	15.6層	A	礎石	礎石	一部欠損	9	9.82	8.16	1.13	312.80	砂岩	
1367	A	C.3	下層包高層	A	礎石	礎石	一部残存	13	13.65	8.10	2.81	262.80	砂岩	
1368	A	B.3	15.6層	A	礎石	礎石	一部残存	9	9.53	5.27	5.04	369.64	砂岩	
1369	A	B.6	15.6層	A	礎石	礎石	一部残存	9	9.70	5.73	2.66	192.38	砂岩	
1370	A	B.2	15.6層	A	礎石	礎石	一部残存	5	5.42	3.17	2.66	72.98	砂岩	
1371	B.1	1.4	S.K.02	A	礎石	礎石	一部欠損	10	10.88	5.19	4.81	339.25	砂岩	
1372	B.1	1.5	S.Z.04	A	礎石	礎石	一部欠損	7	7.12	5.80	3.05	199.13	砂岩	
1373	A	D.4	15.6層	A	礎石	礎石	一部欠損	10	10.14	9.19	3.78	469.16	安山岩	
1374	A	D.6	15.6層	A	礎石	礎石	一部欠損	9	9.29	3.58	1.42	105.59	閃緑岩	
1375	A	B.4	15.6層	A	礎石	礎石	一部欠損	10	10.84	6.62	4.49	357.09	閃緑岩	
1376	A	D.3	15.6層	A	礎石	礎石	一部欠損	10	10.02	5.13	2.12	175.52	砂岩	
1377	A	D.9	S.K.12	A	礎石	礎石	一部欠損	10	10.15	7.52	4.68	328.11	片麻岩	
1378	A	D.9	S.K.12	A	礎石	礎石	一部欠損	13	13.38	8.52	4.68	196.09	片麻岩	
1379	A	C.2	15.6層	A	礎石	礎石	一部欠損	3	3.30	3.52	3.71	200.24	花崗岩	
1380	A	—	東壁	A	打敷石	打敷石	一部欠損	7	7.84	5.00	0.86	48.69	緑色岩	
1381	A	E.4	15.6層	A	礎石	礎石	一部欠損	1	—	—	—	—	細粒花崗岩	
1382	A	D.4	15.6層	A	礎石	礎石	一部欠損	1	—	—	—	—	閃緑岩	
1383	A	D.2	P.4	A	石礎	石礎	一部欠損	1	—	—	—	—	—	—
1384	A	C.1	下層P.1	A	石礎	石礎	一部欠損	1	—	—	—	—	—	—
1385	A	D.3	15.6層	A	礎石	礎石	一部欠損	10	10.57	10.47	5.14	834.81	砂岩	
1386	A	B.8	15.6層	A	礎石	礎石	一部欠損	12	12.12	8.36	5.42	790.11	安山岩	
1387	A	—	東壁	A	礎石	礎石	一部欠損	10	10.05	9.08	2.69	383.23	安山岩	
1388	A	D.9	15.6層	A	礎石	礎石	一部欠損	5	5.24	4.07	3.38	93.01	安山岩	
1389	A	B.4	15.6層	A	礎石	礎石	一部欠損	7	7.68	6.57	3.72	241.68	安山岩	
1390	A	D.10	15.6層	A	礎石	礎石	一部欠損	6	6.49	8.14	2.52	409.19	安山岩	
1391	A	D.10	15.6層	A	礎石	礎石	一部欠損	6	6.49	8.14	2.52	409.19	安山岩	
1392	A	E.3	15.6層	A	礎石	礎石	一部欠損	9	9.16	5.30	1.45	110.04	花崗岩	
1393	A	—	東壁	A	礎石	礎石	一部欠損	11	11.08	11.11	6.14	1136.00	花崗岩	
1394	A	B.7	15.6層	A	礎石	礎石	一部欠損	11	11.34	5.42	2.68	290.40	砂岩	
1395	A	D.4	15.6層	A	礎石	礎石	一部欠損	12	12.52	7.07	6.08	821.83	砂岩	
1396	A	C.4	15.6層	A	礎石	礎石	一部欠損	9	9.96	7.17	4.17	453.81	砂岩	
1397	A	C.8	下層包高層	A	礎石	礎石	一部欠損	7	7.10	5.02	4.67	279.67	砂岩	

第49表 石器・石製品一覧表13

番号 並身番号	種別 並身	英測器 並身	調整 並身	ドリ 並身	機構・部位	器種	分類	残存数	長さ(m)	幅(m)	厚さ(m)	重量(g)	石材	備考
1098	A	C7	下層包合層	磁石	一部残存	一部残存	磁石	6.69	4.50	4.62	251.07	砂岩		
1099	A	B8	包合層	磁石	一部残存	一部残存	磁石	6.13	3.94	3.44	244.05	砂岩		
1600	A	C2	包合層	磁石	一部残存	一部残存	磁石	4.34	3.11	1.19	233.12	砂岩	磨り面有	
1601	A	B4	(不明包)	磁石	一部残存	一部残存	磁石	7.71	7.31	3.96	246.24	砂岩		
1602	A	E3	下層包合層	磁石	一部残存	一部残存	磁石	4.95	4.45	1.95	56.42	砂岩		
1603	A	D6	下層包合層	磁石	一部残存	一部残存	磁石	11.46	5.64	2.48	161.17	砂岩		
1604	A	E9	SH11	磁石	一部残存	一部残存	磁石	9.09	6.51	5.45	203.31	砂岩		
1605	A	B7	包合層	磁石	一部残存	一部残存	磁石	11.42	6.16	4.57	375.31	砂岩		
1606	A	D3	包合層	磁石	一部残存	一部残存	磁石	5.88	5.98	3.62	175.69	砂岩		
1607	A	B8	包合層	磁石	一部残存	一部残存	磁石	4.85	3.82	3.01	88.08	砂岩		
1608	A	D5	SX28	磁石	一部残存	一部残存	磁石	11.35	7.91	4.06	468.80	砂岩		
1609	A	E7	下層包合層	磁石	一部残存	一部残存	磁石	3.03	6.50	3.80	408.40	砂岩		
1610	A	D6	SX15	磁石	一部残存	一部残存	磁石	11.35	6.97	4.29	408.40	砂岩		
1611	A	B6	包合層	磁石	一部残存	一部残存	磁石	13.87	3.87	3.87	306.01	砂岩		
1612	A	D7	包合層	磁石	一部残存	一部残存	磁石	13.87	5.11	4.62	513.07	砂岩		
1613	A	D7	SK87	磁石	一部残存	一部残存	磁石	11.67	2.12	5.56	645.85	砂岩		
1614	A	B15	下層包合層	磁石	一部残存	一部残存	磁石	10.43	6.51	3.51	366.28	砂岩		
1615	A	C4	包合層	磁石	一部残存	一部残存	磁石	12.88	9.98	4.51	881.93	花崗岩		
1616	A	B3	包合層	磁石	一部残存	一部残存	磁石	11.96	7.81	6.32	905.07	花崗岩		
1617	A	B7	腕足層	磁石	一部残存	一部残存	磁石	6.74	4.77	3.26	133.17	花崗岩	磨り面有	
1618	A	C7	下層包合層	磁石	一部残存	一部残存	磁石	7.66	6.12	3.71	212.16	花崗岩	受熱	
1619	A	C2	包合層	磁石	一部残存	一部残存	磁石	10.84	7.57	4.52	491.40	安山岩		
1620	A	D9	包合層	磁石	一部残存	一部残存	磁石	12.39	8.07	4.55	785.22	安山岩		
1621	A	C3	包合層	磁石	一部残存	一部残存	磁石	17.00	4.19	2.82	360.79	片岩		
1622	A	D5	包合層	磁石	一部残存	一部残存	磁石	3.49	4.11	2.46	219.06	片岩		
1623	A	E7	腕足層	磁石	一部残存	一部残存	磁石	15.90	3.71	2.26	299.94	片岩		
1624	B1	1.4	包合層	磁石	一部残存	一部残存	磁石	13.30	4.70	3.95	455.79	片岩		
1625	B1	1.9	包合層	磁石	一部残存	一部残存	磁石	11.69	4.49	1.66	147.32	緑色片岩		
1626	A	E4	包合層	磁石	一部残存	一部残存	磁石	9.58	5.91	4.89	399.70	砂岩		
1628	A	D7	P.3	磁石	一部残存	一部残存	磁石	5.40	3.79	1.25	23.11	砂岩		
1629	A	E4	包合層	磁石	一部残存	一部残存	磁石	6.90	5.24	4.04	209.62	砂岩		
1630	A	B4	包合層	磁石	一部残存	一部残存	磁石	9.47	6.32	2.73	290.50	砂岩		
1631	A	D8	包合層	磁石	一部残存	一部残存	磁石	12.01	3.73	1.74	94.51	砂岩		
1632	A	C7	SK23	磁石	一部残存	一部残存	磁石	6.38	5.33	2.99	141.08	安山岩		
1633	A	—	腕足層	磁石	一部残存	一部残存	磁石	6.40	5.90	4.29	204.99	安山岩		
1634	A	D4	包合層	磁石	一部残存	一部残存	磁石	6.37	5.96	5.85	204.65	安山岩		
1635	A	B9	SH11	磁石	一部残存	一部残存	磁石	9.85	2.97	1.43	108.34	片岩		
1636	A	B2	包合層	磁石	一部残存	一部残存	磁石	11.24	8.93	8.67	1249.00	砂岩		
1638	A	B2	下層包合層	磁石	一部残存	一部残存	磁石	12.34	8.89	5.73	914.12	砂岩		
1639	A	B6	包合層	磁石	一部残存	一部残存	磁石	15.80	10.01	3.44	900.27	砂岩		
1640	B1	J.5	包合層	磁石	一部残存	一部残存	磁石	11.33	11.50	4.97	900.99	砂岩		
1641	B1	1.4	SK.04	磁石	一部残存	一部残存	磁石	9.89	9.08	4.21	643.13	磨り面有		
1642	B1	J.6	包合層	磁石	一部残存	一部残存	磁石	12.80	10.30	2.40	1206.00	砂岩		

第50表 石器・石製品一覧表14

報告 番号	採出 場所	測程区 番号	シリ ンク 名	遺構・部位	器 種	分 類	残存数	長さ(m)	幅(m)	厚さ(m)	重量(g)	石材	備考
1643		AⅡ	D-9	SK12	礫石	一部残存	1	7.83	3.99	3.69	241.59	砂岩	
1644		AⅡ	F-3		礫石	一部残存	10	10.15	3.11	3.44	104.83	砂岩	
1645		AⅡ	F-6		礫石	一部残存	3	6.82	3.61	3.61	204.83	砂岩	
1646		AⅡ	F-6		礫石	一部残存	3	3.83	3.69	3.69	166.14	砂岩	
1647		AⅡ	B-6	縄文層	礫石	一部残存	6	6.23	4.56	3.60	119.32	砂岩	
1648		AⅡ	E-9	縄文層	礫石	一部残存	7	7.13	6.08	2.06	120.04	砂岩	受熱
1649		AⅡ	B-6	縄文層	礫石	一部残存	6	6.33	3.51	1.75	40.67	砂岩	
1650		AⅡ	D-7	下部縄文層	礫石	約1/2残存	7	7.65	7.00	2.07	186.35	砂岩	
1651		AⅡ	E-3	縄文層	礫石	一部残存	9	9.33	6.77	5.13	512.90	砂岩	
1652		AⅡ	C-6	縄文層	礫石	一部残存	6	6.77	4.71	1.90	72.67	安山岩	
1653		AⅡ	D-2	下部縄文層	礫石	一部残存	6	6.34	5.99	2.55	114.50	安山岩	
1654		AⅡ	C-5	P-8	礫石	一部残存	6	6.18	3.50	2.00	34.23	安山岩	
1655		AⅡ	D-7	SK7	礫石	一部残存	5	5.40	1.34	1.41	9.01	砂岩	
1656		BⅠ	J-3	縄文層	礫石	一部残存	10	10.85	7.08	3.45	309.10	砂岩	
1657		BⅠ	J-3	縄文層	礫石	一部残存	12	12.02	7.08	3.45	309.10	砂岩	
1658		BⅠ	H-6	縄文層	礫石	一部残存	8	8.02	5.75	3.50	239.02	砂岩	
1659		AⅡ	C-3	SK53	礫石	一部残存	10	10.88	2.55	4.10	484.40	安山岩	
1660		AⅡ	D-9	SK12	礫石	全部	12	12.14	5.81	3.34	364.72	安山岩	
1661		AⅡ	B-4	縄文層	礫石	約1/2残存	8	8.09	8.30	4.82	470.75	安山岩	
1662		AⅡ	D-6	縄文層	礫石	全部	8	8.97	6.24	4.35	337.50	安山岩	
1663		BⅠ	J-4	SZ104	礫石	全部	6	6.30	5.50	5.50	221.20	安山岩	
1664		AⅡ	D-2	縄文層	礫石	全部	9	9.34	7.10	4.13	393.75	安山岩	
1665		AⅡ	D-2	縄文層	礫石	全部	10	10.61	9.83	4.99	713.59	花崗斑岩	
1666		BⅠ	J-5	縄文層	右皿	一部残存	10	10.30	5.60	5.20	705.19	砂岩	
1667		AⅡ	D-4	下部P16	右石	一部残存	9	9.86	5.73	5.61	174.25	砂岩	
1668		AⅡ	D-6	縄文層	右石	一部残存	9	9.22	4.62	4.30	407.84	砂岩	
1669		AⅡ	D-2	下部縄文層	右石	一部残存	9	9.22	4.88	5.15	655.81	砂岩	
1670		AⅡ	E-9	SK13	右石	一部残存	12	12.50	12.10	4.50	1150.00	砂岩	受熱
1672		AⅡ	D-6	縄文層	右石	一部残存	15	15.00	7.10	4.50	960.00	砂岩	
1673		AⅡ	E-5	SX22	右石	一部残存	17	17.00	9.20	4.00	4040.00	砂岩	
1674		AⅡ	D-9	SK12	右石	一部残存	9	9.59	5.58	2.45	154.28	砂岩	
1675		AⅡ	D-9	SK12	右石	一部残存	9	9.47	4.90	4.74	212.18	砂岩	
1676		AⅡ	D-9	SK12	右石	一部残存	14	14.20	13.40	7.80	3200.00	花崗岩	
1677		AⅡ	E-9	SH11	右石	一部残存	17	17.40	16.20	4.70	2300.00	花崗岩	
1678		AⅡ	D-2	縄文層	右石	一部残存	18	18.50	8.60	5.20	1200.00	花崗岩	
1679		AⅡ	D-3	縄文層	右石	一部残存	14	14.80	13.20	2.50	1740.00	花崗岩	
1680		AⅡ	D-6	縄文層	右石	一部残存	9	9.40	10.40	1.00	240.00	花崗岩	
1681		AⅡ	D-7	SK7	右石	一部残存	14	14.00	13.40	1.00	140.00	花崗岩	
1682		AⅡ	D-7	SK7	右石	一部残存	14	14.37	7.98	5.93	912.30	花崗岩	
1683		AⅡ	C-3	SK53	右石	全部	34	34.50	23.20	13.20	11850.00	花崗岩	
1684		AⅡ	D-6	SK24	右石	一部残存	10	10.63	8.17	4.77	643.50	花崗岩	
1685		AⅡ	D-6	SX25	右石	一部残存	13	13.45	10.28	4.96	973.63	花崗岩	
1686		AⅡ	C-5	縄文層	右石	一部残存	7	7.50	11.00	5.20	2710.00	花崗岩	
1687		AⅡ	D-5	縄文層	右石	一部残存	15	15.30	12.60	3.80	1190.00	片状花崗岩	
1688		AⅡ	D-7	SK27	右石	一部残存	15	15.30	12.60	3.80	1190.00	片状花崗岩	

第51表 石器・石製品一覧表15

報告 採出 番号 番号	実測箇 身	調査区	シリ 石	遺構・部位	器 種	分 類	残 存 数	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石材	備 考
1689	A Ⅲ D 5	包込層	存在箇?	存在箇?	一部残存	一部残存	14.80	11.20	5.40	1265.00	花崗閃長岩		
1691	A Ⅲ D 5	包込層	存在箇?	存在箇?	一部残存	一部残存	10.30	10.30	3.60	626.00	花崗閃長岩		
1692	A Ⅲ B 5	包込層	存在箇?	存在箇?	一部残存	一部残存	27.40	15.90	3.60	6125.00	花崗閃長岩		
1693	A Ⅲ B 5	包込層	存在箇?	存在箇?	一部残存	一部残存	18.80	15.40	1.80	2366.00	花崗閃長岩		
1694	A Ⅲ D 2	包込層	存在箇?	存在箇?	一部残存	一部残存	8.40	6.20	3.20	290.00	花崗閃長岩		
1695	A Ⅲ C 5	包込層	存在箇?	存在箇?	一部残存	一部残存	24.60	17.70	2.60	3218.00	花崗閃長岩		
1696	A Ⅲ B 5	包込層	存在箇?	存在箇?	一部残存	一部残存	11.20	6.20	5.80	494.00	花崗閃長岩		
1697	A Ⅲ C 9	包込層	存在箇?	存在箇?	一部残存	一部残存	18.20	14.20	2.20	2126.00	花崗閃長岩		
1698	A Ⅲ D 9	SK12	存在箇?	存在箇?	約1/2残存	約1/2残存	14.60	11.40	3.60	950.00	花崗閃長岩		
1699	A Ⅲ	一階	存在箇?	存在箇?	一部残存	一部残存	9.20	5.20	6.00	390.00	凝灰岩		
1700	A Ⅲ B 9	SX14	存在箇?	存在箇?	一部残存	一部残存	47.30	16.40	3.40	1070.00	凝灰岩		
1701	A Ⅲ C 2	F層包込層	存在箇?	存在箇?	一部残存	一部残存	7.01	3.81	2.21	137.43	凝灰岩		
1702	A Ⅲ C 2	SK40	存在箇?	存在箇?	一部残存	一部残存	14.80	11.40	3.60	1405.00	凝灰岩		
1703	A Ⅲ D 7	包込層	存在箇?	存在箇?	一部残存	一部残存	14.80	15.60	6.20	2406.00	凝灰岩		
1704	A Ⅲ C 4	包込層	存在箇?	存在箇?	一部残存	一部残存	13.80	11.80	10.60	2896.00	凝灰岩		
1705	A Ⅲ D 7	包込層	存在箇?	存在箇?	一部残存	一部残存	20.20	21.40	9.70	6550.00	ダイヤモンド		
1706	A Ⅲ D 4	包込層	存在箇?	存在箇?	一部残存	一部残存	7.97	7.15	4.15	297.65	凝灰岩		
1707	A Ⅲ D 3	下層包込層	石刀?	存在箇?	一部残存	一部残存	24.40	4.57	4.49	840.76	片岩		
1708	A Ⅲ D 3	下層包込層	石刀?	存在箇?	一部残存	一部残存					緑色岩	石巻産同一石材	
1709	A Ⅲ E 9	SK13	硬面片	硬面片	一部欠損小	一部欠損小					緑色岩	石巻産同一石材	
1710	A Ⅲ E 9	SH11	硬面片	硬面片	一部欠損小	一部欠損小	9.42	7.05	1.34	103.55	砂岩		
1711	A Ⅲ D 6	SX25	硬面片	硬面片	一部欠損小	一部欠損小	7.33	6.05	1.48	58.34	砂岩		
1712	A Ⅲ E 9	SK15	硬面片	硬面片	一部欠損小	一部欠損小	10.39	3.22	1.27	31.09	砂岩		
1713	A Ⅲ C 6	P 4	硬面片	硬面片	一部欠損小	一部欠損小	8.35	3.25	1.13	24.72	砂岩		
1714	A Ⅲ B 6	包込層	硬面片	硬面片	一部欠損小	一部欠損小	8.32	6.24	1.83	107.81	砂岩		
1715	A Ⅲ B 6	包込層	硬面片	硬面片	一部欠損小	一部欠損小	6.97	5.77	2.21	118.47	砂岩		
1716	A Ⅲ B 6	包込層	硬面片	硬面片	一部欠損小	一部欠損小	7.67	6.02	2.57	126.93	砂岩		
1717	A Ⅲ E 9	包込層	硬面片	硬面片	一部欠損小	一部欠損小	7.05	6.33	4.34	215.43	砂岩		
1719	A Ⅲ C 2	包込層	硬面片	硬面片	一部欠損小	一部欠損小	7.91	5.97	3.17	141.00	砂岩		
1721	A Ⅲ B 6	包込層	硬面片	硬面片	一部欠損小	一部欠損小	6.51	5.24	1.89	70.94	砂岩		
1722	B 1 J 2	包込層	硬面片	硬面片	一部欠損小	一部欠損小	9.20	3.47	2.02	55.91	砂岩		
1723	B 1 H 4	SZ104	硬面片	硬面片	一部欠損小	一部欠損小	4.25	3.83	0.68	11.93	砂岩		
1724	B 1 J 4	P 4	硬面片	硬面片	一部欠損小	一部欠損小	9.80	4.91	1.99	126.07	砂岩		
1725	B 1 L 5	包込層	硬面片	硬面片	一部欠損小	一部欠損小	6.10	3.98	0.90	39.39	砂岩		
1726	B 1 J 3	包込層	硬面片	硬面片	一部欠損小	一部欠損小	8.11	5.79	1.61	75.16	砂岩		
1727	B 1 L 4	包込層	硬面片(片?)	硬面片(片?)	一部欠損小	一部欠損小	6.44	3.68	1.00	24.25	砂岩		
1728	B 1 J 4	包込層	硬面片	硬面片	一部欠損小	一部欠損小	11.26	4.33	2.31	78.41	砂岩		
1729	A Ⅲ B 3	包込層	硬面片	硬面片	一部欠損小	一部欠損小	6.01	5.31	1.12	37.71	片岩		
1730	A Ⅲ E 9	SH11	硬面片	硬面片	一部欠損小	一部欠損小	8.64	5.60	1.26	60.35	花崗閃長岩		
1731	A Ⅲ B 7	SK18	硬面片	硬面片	一部欠損小	一部欠損小	6.28	6.48	2.42	373.32	片岩		
1732	B 1 J 4	包込層	石片等	石片等	一部欠損小	一部欠損小							

第52表 石器・石製品一覧表16

報告 採回 番号 番号	実測高 身	調査区 別	ゾリッ ポ	遺構・部位	器 種	分 類	残存数	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石材	備考
1733		B.1	G10	包苜器	石臼等	一部欠損小	10.89	2.45	2.51	98.41		片岩	
1734		B.1	J10	包苜器	石臼等	一部欠損小	11.07	6.18	8.38	207.8		チャート	
1735		B.1	F10	包苜器	石臼等	一部欠損小	12.30	5.52	5.22	202.8		チャート	
1736		B.1	F10	包苜器	石臼等	一部欠損小	17.30	9.21	4.13	966.34		赤土質砂岩	
1737		B.1	J2	包苜器	受熱皿	一部欠損小	7.32	3.77	2.10	66.47		赤土質砂岩	
1738		B.1	J4	包苜器	受熱皿	一部欠損小	7.59	5.96	1.63	73.53		砂岩	
1739		B.1	J10	包苜器	受熱皿	一部欠損小	7.48	5.86	1.77	97.61		砂岩	
1740		B.1	H5	包苜器	受熱皿	一部欠損小	8.26	4.28	1.76	51.24		砂岩	
1741		B.1	I5	包苜器	受熱皿	一部欠損小	9.15	8.24	5.90	865.59		砂岩	
1742		B.1	H5	SZ104	受熱皿	一部欠損小	9.63	7.16	4.23	430.30		砂岩	
1743		B.1	I5	SZ104	受熱皿	一部欠損小	14.64	6.30	3.81	535.05		砂岩	
1744		B.1	F7	包苜器	受熱皿	一部欠損小	5.49	5.01	2.26	82.76		赤土質砂岩	
1745		A.11	D6	包苜器	受熱皿	一部欠損小	10.00	8.71	3.17	308.90		砂岩	
1746		A.11	D3	包苜器	受熱皿	一部欠損小	7.19	5.72	4.00	171.8		砂岩	
1747		A.11	B4	包苜器	受熱皿	一部欠損小						片岩	
1748		A.11	C2	—	立石 (長楕円形)	一部欠損小	25.59	11.70	5.50	4606.00		チャート	
1749		A.11	D3	—	立石 (扁平円形)	一部欠損小						チャート	
1750		A.11	D4	包苜器	立石(長楕円形)半 立石(長楕円形)半	一部欠損小	8.50	15.00	11.10	5506.00		凝灰岩	
1751		A.11	E6	—	立石(立方体)	一部欠損小	27.40	10.80	7.50	3706.00		凝灰岩	
1752		A.11	D6	SX45	立石(長楕円形)半 立石(長楕円形)半	一部欠損小	29.50	10.00	8.20	3706.00		凝灰岩	
1753		A.11	D7	—	配石 (長楕円形)	一部欠損小	31.59	12.50	8.40	7056.00		凝灰岩	
1754		B.1	D6	包苜器	受熱皿	一部欠損小	4.79	3.77	1.58	23.85		砂岩	
1755	07	A.11	D7	包苜器	受熱皿	一部欠損小	12.70	19.50	6.30	3509.0		チャート	赤色顔料付着
1756		B.1	I4	包苜器	石臼等	一部欠損小	8.84	7.81	5.05	520.00		チャート	
423-02		A.11	B6	包苜器	礎石	一部欠損小	10.50	4.10	2.30	123.4		砂岩	

第53表 石器・石製品一覽表17

V 自然科学分析

1 はじめに

大原塚遺跡（松阪市広瀬町字大原塚他所在）は、藤田川の中流域左岸の河岸段丘上に立地する。本遺跡は、縄文時代中期～晩期を中心とする遺跡であるが、特に晩期後半の一時期には墓域が形成される。今回の分析では、有機物が多い包含層を中心とした花粉分析を実施し、当時の古植生に関する情報を得る。併せて、墓域と推定される遺構から検出された骨片の同定、また骨片が認められない遺構についてはリン酸分析を実施し、遺体埋納に関する検討を行う。また、墓とされる遺構について、微細植物片分析を行うことにより、副葬品等に関する情報を得る。

2 試料

花粉分析用試料は、AⅢ地区東壁から採取した6点である（試料番号1～6）。分析試料のうち、試料番号2が縄文時代晩期後半の墓域の土壌、試料番号4は中期～晩期の遺構が検出される土壌である。骨同定は、S X38、S X45、S K73、S K74、第2検出面D 4 Pit 3、第2検出面E 6 Pit 2、第2検出面D 7 Pit 2、第2検出面D 7 Pit 7の各遺構から検出された骨片9点である。リン酸分析と微細植物片分析は、S X48（3点あり）、S X50（3点あり）、S X29、S X31、S X37、S X39、S X40、S X43、S K56の計13点を分析する。これらは骨片が見られた遺構と見られない遺構が含まれているが、両者の比較を行う目的で行っている。また、S X48とS X50は3点あるが、遺構内の試料はそれぞれ1点のみで、あとは遺構の外から採取された対照試料である。

3 分析方法

(1) 花粉分析

試料約10gについて、水酸化カリウムによる泥化、節別、重液（臭化亜鉛：比重2.3）による有機物の分離、フッ化水素酸による鉱物質の除去、アセトリンス（無水酢酸9：濃硫酸1の混合液）処理の順に物理・化

学的処理を施して花粉を濃集する。残渣をグリセリンで封入してプレパラートを作成し、光学顕微鏡下でプレパラート全面を走査し、出現する全ての種類（Taxa）について同定・計数する。

結果は、木本花粉は木本花粉総数を、草本花粉・シダ類孢子は総数から不明花粉を除いたものをそれぞれ基数として、百分率で出現率を算出し図示する。図表中で複数の種類のハイフオンで結んだものは、種類間の区別が困難なものである。

(2) 微細植物遺体分析

土壌試料200ccを水に一晩液浸し、試料の泥化を促す。0.5mmの篩を通して水洗し残渣を集め、双眼実体顕微鏡下で観察し、同定可能な植物遺体等を抽出する。植物遺体の形態的特徴と当社所有の現生標本との比較から種類を同定・計数をおこなう。なお、細片のため個体数推定が困難である種類は、表中に「破」と表示した。

(3) 骨同定

試料を肉眼で観察し、その形態的特徴から種と部位の同定を行う。計測は、デジタルノギスを用いて測定する。なお、同定および解析には金子浩昌先生の協力をお願いし、結果を署名原稿として頂いた。

(4) リン酸分析

分析は硝酸・過塩素酸分解－パナドモリブデン酸比色法で実施する。土壌試料を風乾後、軽く粉砕して2.00mmの篩を通過させる（風乾細土試料）。風乾細土試料の水分を加熱減量法（105℃、5時間）により測定する。風乾細土試料の一部を粉砕し、0.5mmφのふるいを全通させる（微粉砕試料）。風乾細土試料2.00gをケルダール分解フラスコに秤量し、硝酸約5mlを加えて加熱分解する。放冷後、過塩素酸約10mlを加えて再び加熱分解を行う。分解終了後、水で100mlに定容してろ過する。ろ液の一定量を試験管に採取し、リン酸発色液を加えて分光光度計によりリン酸（P205）濃度を測定する。測定と加熱減量法で求めた水分量から乾土あたりのリン酸含量（P205mg/g）を求める。

4 結果

(1) 花粉分析

結果を第54表に示す。分析を行った試料は、花粉化石の産出量は少なく、また保存も悪かった。試料番号1・2はシダ類胞子が多く認められるもの、他の試料では、花粉化石・シダ類胞子ともに検出量が少ない。

(2) 微細植物遺体分析

結果を第55表に示す。微細な炭化材が若干認められる程度で、同定可能な植物遺体は見あたらない。また、微細な骨片が認められるが、種類を特定できるものではなかった。

(バリノ・サーヴェイ株式会社)

(3) 骨同定

検出された分類群の一覧を第56表に、同定結果を第57表に示す。いずれも被熱して白色に変色し、ひび割れによって細片化している骨である。大半の試料は、その形状から獣骨と判断され、サイズからイノシシあるいはニホンジカの骨と思われる。ただし、破損が著しく種類・部位を特定できるものが少ない。種類部位を確認できる標本は、C2グリッドSK56、D6グリッドSX45、D4グリッド第2検出面Pit3に限られる。それぞれは、C2グリッドSK56の出土骨がニホンジカ鹿角片と中節骨遠位端片、D6グリッドSX45の出土骨がイノシシ右距骨、D4グリッド第2検出面Pit3の出土骨が種類不明の跗骨片である。中でも、イノシシ右距骨は、破損しているが、唯一原形をうかがえる標本である。推定全長30.0mmとみられる。比較的骨質の頑丈な骨であるため、多くの亀裂が入ったにも係らず原形を保ち得たと考えられる。現在ではみない大形のイノシシの骨である。本遺跡は縄文期の墓域と考えられているが、検出された骨は人骨ではなかった。これらの獣骨は、別の目的で、別の場所で焼かれたものと思われる。こうした焼骨の検出例は多く、はっきりとした意図的な骨を焼いた跡の検出例もある。

(金子浩昌)

(4) リン酸分析

結果を第58表に示す。いずれの試料もリン酸含量が高く、約10mg/g以上を示す試料が多い。また、遺

構外から採取した比較試料についても7~8mg/g程度の値を示す。なお、SK56は極端に値が高いが、これは、分析試料中に肉眼で骨片が認められた試料である。

5 考察

(1) 古植生

分析の結果、花粉化石の保存は全体的に悪かった。浅い場所(試料番号1~2)ではシダ類胞子が多くみられたが、深くなるほど花粉化石の保存が悪くなり、遺構が構築された層では、花粉化石、シダ類胞子ともにほとんどみられない。シダ類胞子や針葉樹花粉は、広葉樹花粉に比べて風化に強いと考えられており、広葉樹花粉の多くに風化の痕跡が認められるような試料は、花粉分析に不適であるときとされている。花粉化石は、好気的環境下における風化に弱いことから、今回のような段丘堆積物ではその大部分が消失し、分解に強いシダ類胞子のみが残ったと考えられる。したがって、今回得られた花粉化石群集は、当時の植生環境を表しているとは言えないため、考察は差し控える。なお、現在本遺跡周辺は耕地、植林、市街地などに利用されており、自然度の高い植生は残っていないが、潜在自然植生は、シイ・カシなどの常緑樹林で、山間部には温帯針葉樹林が発達すると考えられている。縄文時代の遺跡周辺の古植生もこれに近いものであったと思われるが、花粉化石の保存が悪いため不明である。台地上では古植生に関する情報は得られにくいだが、跡や消失した居る炭化材同定、植物珪酸体分析など植物利用に関する検討を行うことは可能である。また、河川沿いの低湿地遺跡での花粉分析などは古植生に関する情報を得るには効果的である。このような、古植生に関する情報蓄積が今後の課題である。

(2) 遺構の性格

土壌中に自然に存在するリン酸含量すなわち天然賦存量は、Bowen(1983)、Bolt and Bruggenwert(1980)、川崎ほか(1991)、天野ほか(1991)などを参考にすると3.0mg/gで、最大でも5.0mg/gと推定される。一方、自然状態における土壌中のある範囲内(単層中など)では、土壌理化学的特性は均質になる。これは、自然条件の中では均質の方が物理・化

学的に安定だからである。ところが、人為的な遺体埋納などによって、この状態がくずれると局所的な濃集が起これ、土壤中の元素含量にばらつきが生じると考えられる。今回の結果をみると、リン酸含量は上記の値を大きく上回っているほか、試料毎のばらつきが大きくなっており、分析を行ったいずれの遺構においても骨が埋納されていたことが推測される。特に微細植物片分析で、骨片が出土した試料は、いずれも高い値になっている。一方、対照試料においても、天然試存量を大きく上回っている。リン酸は地下水による粘土粒子の移動によって移動すると考えられていることから、遺構内に多量の骨が投棄されたため、リン酸が遺構外にも拡散していったと考えられる。また、骨は遺構外にも投棄された可能性もある。検出された骨は人骨ではなく、シカやイノシシなどの獣骨であった。検出された骨はいずれも焼骨であるが、山梨県の金生遺跡では、焼けたイノシシの下顎骨が多量に検出されおり、供儀の痕跡と考えられている。今回も何らかの儀礼的要素が考えられる。(バリノ・サーヴェイ株式会社)

【引用文献】

- ①土壌養分測定法委員会編『土壌養分分析法』(養賢堂 1981年) 44p
土壌標準分析・測定法委員会編『土壌標準分析・測定法』(博友社 1986年) 35-4p
 - ②徳永重元・山内輝子「花粉・胞子」(『化石の研究法』共立出版株式会社 1971年) p.50-73
 - ③中村純「花粉分析」(古今書院 1967年) 232p
 - ④宮脇昭編著『日本植生誌 近畿』(至文堂 1984年) 596p
 - ⑤Bowen,H.J.M.(浅見舞男・茅野充男訳)『環境無機化学 - 元素の循環と生化学-』(博友社 1983年) 297p [Bowen,H.J.M.(1979) Environmental Chemistry of Elements]
 - ⑥Bolt,G.H.・Bruggenwert,M.G.M.(岩田進午・三輪 憲太郎・井上隆弘・堀達行訳)『土壌の化学』(学会出版センター 1980年) 309p [Bolt,G.H. and Bruggenwert,M.G.M.(1976) SOIL CHEMISTRY] p.235-236
 - ⑦川崎弘・吉田啓・井上恒久「九州地域の土壌型別蓄積リンの形態別計量」(『土壌蓄積リンの再生循環利用技術の開発』農林水産省農林水産技術会議事務局編 1991年) 149p. : p.23-27
 - ⑧天野洋司・太田健・草場敬・中井信「中部日本以北の土壌型別蓄積リンの形態別計量」(『土壌蓄積リンの再生循環利用技術の開発』農林水産省農林水産技術会議事務局編 1991年) p.28-36
 - ⑨ジナ・バーンズ、ルール・ブラント、サイモン・ケナ、デイビット・ロリガー、西田史朗「日本の土壌中での有機物の挙動」(『考古学と自然科学 19』1986年) p.57-68
 - ⑩丹羽百合子「解体・分配・調理」(加藤晋平・小林達雄・藤本強編『縄文時代の研究 2 生業』雄山閣 1994年) p.103-121
- ・馬場悠男・茂原信生・阿部修二・江藤盛治「根古屋遺跡出土の人骨・動物骨」(『霊山根古屋遺跡の研究 - 福島県霊山町根古屋における再葬墓群-』福島県霊山町教育委員会 1986年) p.93-113
- ・『新版標準土色帖』(農林省農林水産技術会議事務局監修 1967年)
- ・ペドロジスト懇談会編『土壌調査ハンドブック』(博友社 1984年) 156p

種 類	原料番号	A値					
		1	2	3	4	5	6
草木花類							
ツバキ属	1	1					
マツ属							
スギ属		1	2			1	
ハンノキ属							
コナラ属コアラ亜属							1
コナラ属アカガシ亜属							1
カエデ属	1						
トドナキ属				1			
草木花類							
ゴケ属							
オキナグサ属	1						
イネ科	14		1	1			
カヤツリグサ目	6		1	4			
キンポウゲ目	1						
アブラナ科	4						
バラ科					1		
セリ科	3	2					
アスター目	14	4	1	2			
キタギク科	1	2					
タンポポ目科		2					
木蘭目科		2		3	3		
シダ類種子							
ヒカワノカスラ属	15	4					
ゼンマイ属	1						
イノモトノ科	38	8					
他のシダ類種子	409	81	11	3	3		
合 計							
草木花粉		2	2	2	1	2	3
草木花粉		47	10	4	7	1	1
キノコ花粉		20	0	3	6	0	0
シダ類種子		454	84	11	3	3	0
総計(空箱を除く)		503	108	17	11	6	4

第54表 花粉分析結果

地区	グリッド	遺標	採取地点	番号	種属	部位	左右	部分	数値	備考
A口地区	B4	S438	土師町四上	10	銀葉	鱗片		1-		
		S440	土師町四上	10	銀葉	鱗片		7-		
	D6	S445	埋土	14	イノシシ	頭骨	右		1	標準全長30.0mm
	C2	S006	埋土	15	ニホンジカ	膝骨		破片	1	1片破片!
	C7	S473	埋土	16	野郎	骨節			32	
		S474	埋土	17	野郎	鱗片			8	やや大きい鱗片
	D3	S475	埋土	18	銀葉	鱗片		鱗片	1	
	D6	S445	埋土	19	銀葉	鱗片			3	2mm以内の鱗片12
	E0	S476	埋土	20	銀葉	鱗片			5	
		S477	埋土	21	銀葉	鱗片			5+	
	D7	S478	埋土	22	銀葉	鱗片			16+	

〔注〕 数字の+は、他に鱗片が存在することを示す

第57表 骨同定結果

番号	産地	遺標番号	採取地点	性別	十色	P205 (㎍/g)
1	土師町	S448	埋土	LIC	1983/2	黒猫 8.72
2		S438	A地点(築地地点)	LIC	1983/2	黒猫 6.34
3		S438	B地点(築地地点)	LIC	1983/2	黒猫 6.34
4	十津基	S450	埋土	LIC	1983/2	黒猫 10.33
5		S450	A地点(築地地点)	LIC	1983/2	黒猫 8.67
6		S450	B地点(築地地点)	LIC	1983/2	黒猫 7.32
7	土師町	S429	埋土	LIC	1983/2	黒猫 11.24
8	土師町	S431	埋土	LIC	1983/2	黒猫 7.85
9	土師町	S437	埋土	LIC	1983/2	黒猫 10.73
11	十津基	S449	埋土	LIC	1983/2	黒猫 16.41
12	十津基	S440	埋土	LIC	1983/2	黒猫 15.13
13	十津基	S443	埋土	LIC	1983/2	黒猫 10.49
15	東石井	S400	埋土			71.88

〔注〕 (1) 十色 マンゴシ表色系に準じた前歯骨上十色粘(農林省農水産技術会誌第9巻, 1987)による。

(2) 十色: 二環状金ハンズブック(ペドロロスと黒澤会編, 1984)の附外十色による。

LIC: 野子土(粘+25~40%, シルト0~5%, 砂10~5%)

第58表 リン酸分析結果

番号	遺標の 特性	遺標 番号	採取地点	分析品 (cc)	炭素 %	窒素 %	リン %
1	土師町	S448	埋土	200	-	-	-
2		S448	A地点(築地地点)	100	+	+	+
3		S448	B地点(築地地点)	200	+	+	+
4	十津基	S450	埋土	200	-	-	-
5		S450	A地点(築地地点)	200	+	+	+
6		S450	B地点(築地地点)	200	-	-	-
7	土師町	S431	埋土	200	-	-	-
8	土師町	S437	埋土	200	-	-	-
9	土師町	S439	埋土	200	-	-	-
11	十津基	S449	埋土	200	+	+	+
12	十津基	S440	埋土	200	+	+	+
13	十津基	S443	埋土	200	+	+	+
15	東石井	S400	埋土	200	-	-	-

〔注〕 +は鱗片を含むため総数推定が困難である塩類を示す

第55表 微細遺物分析結果

不動物物群: Platan Vertebrata
 階級: Class: Sauria
 ウツロ(銀葉目) Order: Anolis
 シカ科 Family: Cervidae
 ニホンジカ Genus: nippon
 イノシシ科 Fam.: Suidae
 イノシシ Sus scrofa

第56表 検出動物分類群

器では中津式～北白川上層Ⅰ式期までの前半期の土器も出土している。一方で、後半期の土器は末葉に所属する可能性がある土器は少量出土しているものの、ほぼ空白期といつてよい状況である。当遺跡の北東約400mの標高60m余に位置する出郷遺跡では後～晩期の小形定角弁が出土している。王子広遺跡では後期初頭～前葉が最盛期と考えられ、当該期の竪穴住居や掘立柱建物が検出されている。掘立柱建物の柱穴から出土した後期初頭の土器片には水銀朱と思われる赤色顔料が付着しており、朱彩土器としては国内最古級のものとして特筆される。

晩期 大原堀遺跡では、AⅢ地区で多数の遺構と多様な遺物が出土した。当遺跡の今回調査で主体となる時期である。遺構では晩期後半の土器棺墓14基、土壇墓14基が検出され、後述のように立石により墓域が設定されたと推定される遺構群が確認された。出土遺物も今回調査では当期のものが大部分を占め、石刀等の祭祀関連遺物をはじめとする多様な石器類も出土している。縄文系や大洞式系の東日本の真系統土器も比較的多く出土しており、特筆される。特に、縄文系土器は個体数が9個体を数え、県内の1遺跡における出土数は最多となる。このことから、晩期後葉における三重県の中部域と東日本との交流を示す貴重な資料となる。また、朱付着の小形土器(455)については、所属時期は不明ながら、朱の精製若しくは保存に使用された可能性があり、晩期の浅鉢を中心とした朱彩土器も出土している。隣接の王子広遺跡においても後期初頭の段階で水銀朱が使用されており、当遺跡周辺地域において当該期の朱の生産及び使用が認められよう。

②古代～中世

奈良時代 大原堀遺跡ではAⅢ地区で竪穴住居SH11が検出されている。当遺跡の当期の遺構はこれのみで、遺物もほとんど出土していない。今のところ隣接遺跡でも当期の遺構は確認されていないが、当遺跡の北方約400mの標高約70mの位置に、白鳳期から奈良時代後半期まで存続したと推定されている御麻生園庵寺があり、SH11はこの寺院を支えた集落の一部の可能性が想定される。

平安時代 大原堀遺跡では、AⅠ地区でSBⅠ、BⅠ地区でSB108、SK101・102・103・105、BⅡ地

区でSK111・113・116・122・126、SA128、SZ120等が検出されている。住居跡として掘立柱建物がSBⅠ・108の2棟検出されており、SA128検出部周辺のピット集中部にも建物跡が存在した可能性が高い。また、特筆される遺構としては、「東」と墨書された土師器杯と鉄製紡錘車が出土したBⅠ地区SK105が挙げられる。近隣遺跡では、上ノ広遺跡で当期の火葬墓と木棺墓が検出されている。前章でも触れたが、BⅠ地区SK91・95は時期不明ながら上ノ広遺跡で確認された平安時代の火葬墓に遺構や埋土の状況が類似しており、当該期の墓もしくはその関連遺構の可能性は残しておきたい。

鎌倉時代 大原堀遺跡では、AⅠ地区で溝SD4が検出されている。これ以外に明確な当期の遺構は検出されておらず、遺物も少量の出土に留まる。隣接遺跡においても当期の遺構は確認されていないが、中世においては伊勢神宮領の御園が周辺部にあったとされる。

(2) 縄文時代晩期の埋葬遺構について

今回の調査では、AⅢ地区において多数の埋葬遺構が検出された。ここでは検出された埋葬遺構の整理を行い、若干の考察を行った。

①土器棺墓について

埋設土坑 今回の調査で検出した土器棺墓は総数14基であるが、土器棺の検出前に埋設土坑を検出したものは皆無で、土器棺検出後にこれを囲む位置で判然としない状態で土坑のラインを検出したのが実情であるため、明確な埋設土坑が検出できたものは無い。包含層と判断した層の掘削時に土器棺を検出していることから、調査技術の問題から検出できなかったのか、もしくはそもそも土坑に埋設したのではなく、地表面に土器棺を置いた上に、または浅い土坑を掘削し、土器棺を固定した後盛土を行って埋設した可能性も考えられる。

構造・埋位・方向・配置等 今回の調査で検出した土器棺総数14基の内、3基が複合構造の土器棺で、その他はすべて単棺である。単棺のうち、SX42は土器棺の開口部を別個体の土器片で閉塞した事例であり、蓋が検出されなかったその他の単棺についても有機物で蓋をしていた可能性が考えられる。複合構造の土器棺の内訳は2個体の土器の口縁部同士を

合わせたいむゆる合口棺が1基（S X 44）、合口棺の一方の底部にさらにもう一個体を接続したものが1基（S X 43）、詳細不明ながら複合構造の可能性が高いものが1基（S X 38）である。この内、S X 43については、視乱溝によって土器棺の破損が著しいものの、鉢と深鉢の合口棺の深鉢底部側に浅鉢をさらに付加する3個体の土器を組み合わせた土器棺であることが確認された。桑名市志知南浦遺跡S X 109が合口棺（ともに深鉢）の一方の底部が欠損し、口縁部を逆位に置いた別個体の深鉢半身で当該部を閉塞しており、類似と考えられよう。また、S X 38については詳細不明ながら可能性として以下のような解釈を前章で行った。

- 1 時期を違えて同一地点に埋設
- 2 個々の土器棺を同時に同一地点に埋設
- 3 破損した18上半部の閉塞目的で17を埋設

1の場合、2個体の土器には明確な時期差は認められず、また、同一地点に偶然もしくは意図して埋置する可能性は低いと思われる。一方、2の場合は可能性としては考えられるが、それを裏付けるような根拠が無く、単なる想像の域を超えない。次に3の場合であるが、18の土器棺の口縁部残存度が1/6であることから、埋設当初から欠損していた可能性が高く、18上半部の欠損部分を閉塞する目的で上部に17が置かれた可能性は認められよう。

次に埋位についてであるが、検出総数14基の内、横位が10基（S X 25・28・29・30・31・42・43・44・46・59）、斜位が4基（S X 38・39・40・41）となっており、正位・逆位は無い。

埋設方向については第1表に示しているが、合口棺（S X 43・44）以外は口縁部の向きを第134図に示した。概観する限り、埋設方向に明確な規則性は感じられない。しかし、近接するS X 30・31の主軸方位（口縁部方向）はともにN153° E、S X 42・43はN77° E・N69° Eで主軸方位がほぼ揃う。さらにS X 29・59の主軸方位の角度は112°、S X 38・40の主軸方位の角度は72°となり、直交に近い方位で配置されたものも見る事ができる。これら近接した土器棺墓の主軸方位は概ね同一もしくは直交方位となっており、埋位もS X 29・59、S X 30・31、S X 42・43は横位埋設、S X 38・40は斜位埋設で、各

組合せで同一埋位となっている。これらは、一定の埋葬原理が働いていた可能性を示唆するものと言えよう。また、合口棺以外の埋設方向（口縁部の方向）は、概ね北・東・南を向けており、西向きに埋設したものが無いことも指摘できる。

埋設位置（配置）については、前述の近接して配置された小群での傾向以外で概観する限り明確な規則性は感じられない。ただし、複合構造や斜位埋設の土器棺は調査区北半部に偏在する傾向がある。

所属時期 検出した土器棺については、器形の全容が判断できるものがある一方、口縁部や底部を欠失するものもある。以下では、個々の器形や施文・調整などを検討し、時期を把握したい（遺構番号の後の括弧付きの番号は遺物番号と対応）。

当該期の時期を把握する指標として突帯の有無が挙げられるが、突帯が付与されたものはS X 28の(25)、S X 44の(20・21)、S X 43の(23)、S X 59の(29)で、いずれも深鉢である。S X 28の(25)については突帯及び口唇部にキザミが施される。S X 44の(20・21)は、ともに突帯にキザミが施されるが、口唇部にキザミを施すのは(20)で、(21)は面取りのみでキザミはなされない。S X 43の(23)はS X 28の(25)同様、突帯及び口唇部にキザミが施される。S X 59の(29)は素文の突帯が口縁部下に3条付され、口唇部は丸く収められ、やや外反する。伊勢地方の突帯文土器を整理した鈴木克彦氏・山田猛氏の編年で所属時期を検討すると、S X 59の(29)が鈴木編年ではIV期、山田編年は3 b期、それ以外は鈴木編年・山田編年ともに概ねI期と考えられる。次に突帯の付されない土器棺についてであるが、現状では伊勢地方の編年は無いため、佐野元氏の種類に従って、時期の検討を行いたい。突帯の付されない深鉢としてS X 30の(10)、S X 31の(13)、S X 39の(14)、S X 42の(15)、S X 29の(16)、S X 38の(17・18)、S X 40の(19)がある。これらは頭部がくびれる所謂「変形」を呈し、器面に二枚貝条痕もしくはケズリ調整を施したものである。この内、S X 30の(10)・S X 31の(13)は口唇部にキザミが施されないが、その他には口唇部にキザミが施される。これらは佐野氏の種類では西日本系粗製土器とされたⅢC～D類に概ね相当し、近畿地方の滋賀里里b

式に見られるものとされる³⁰。その他の器種としてS X 43の浅鉢があるが、佐野氏³¹の分類では西日本系精製土器VI A類に相当するか。最後に、口縁部や底部の欠失したS X 25・41・46の土器箱を検討する。これらはいずれも頭部がくびれる「甕形」深鉢と推定され、体部は二枚貝条痕もしくはケズリ調整が施される。S X 25の(26)は口縁部下半が残存しており、横位条痕が施され、頭部に弱い段が生じている。S X 41・46の底部は、尖底もしくは尖底に近い小径の平底である。突帯の有無や口縁部形態は不明であるが、佐野氏の分類でいうⅢ D類もしくはV類と推定される。

以上、個々の土器箱の検討を行ったが、突帯文土器も含めて佐野元氏・野口哲也氏の編年³²に従いこれらの所属時期を検討すると、S X 59を除けば概ね突帯文1期1～2段階の範疇に収まると考えられ、S X 59は2期2段階に概ね相当する。

土器箱出土の骨片について 棺内埋土や棺内出土の骨片について微細遺物分析及び骨同定を行った。詳細は前章の通りであるが、微細遺物分析ではS X 29・39・40・43で微細な骨片が検出されたが種類が特定できるものではなかった。また、S X 38・40では被熱して白色に変色した状態の骨片が出土しているが、種類や部位を特定できるものはなかった。土器棺内から出土した骨片については焼状骨片であり、人骨は検出されていない。

②土壌墓について

規模・構造・方向・配置等 今回の調査で検出・認定した土壌墓は総数で14基である。土壌墓の認定基準については前章の通りであるが、かねてから土壌墓の認定は埋葬人骨の出土がない限り困難であり、現在までに各地で報告されてきた土壌墓は、認定基準の曖昧なものが少なくないとも言われる。今回の調査では後述の通り埋葬人骨は全く出土しておらず、また、三重県内では現在までに明確な縄文期の埋葬人骨は出土していない。当報告でも前述のような曖昧な基準に基づいて認定したものも少なからずあるが、ここではその規模や構造等を整理し、墓壇の規模について以下の5類型に分類して検討したい。

・1類：長軸1.6～2.0m、短軸0.6～0.7m

S X 33・48・50・54・85の5基（S X 54は残存状

況から推定）がある。検出面からの深さはS X 85が他の4基に比べて深い。平面形態は隅丸長方形もしくは長楕円形を呈する。この内、S X 50については前章で記述の通り、出土土器のあり方から甕被葬の可能性のあるものである。また、S X 33については玉が出土していることから、遺体への装着もしくは副葬品と考えられよう。この2基については埋葬人骨の出土はないものの、墓である可能性は高いと考えられる。これらから類推すると、他の3基は平面形態や規模がほぼ同一であることから、墓である蓋然性が高い。S X 48・50の自然科学分析結果やS X 54・85の墓標想定線もこれを補強する。墓壇の主軸はS X 33・50・54がN73° E～N77° E、S X 48・85がN21° W・N34° Wで、多少のずれはあるものの、主軸が揃えられたとも想定できる。また、S X 33・50・54の配置は、等間隔に配置されたようにも見て取れる。さらに、近接するS X 54・85、S X 48・50は、それぞれ主軸方位の角度が111°・94°となり、直交に近い方位で配置されている。従って、主軸方位の揃うS X 33・50・54及びS X 48・85、あるいは近接して主軸方位が直交するS X 54・85及びS X 48・50の小群が設定できる。何らかの意図の基に墓壇が配置された可能性も想定されよう。

・2類：長軸1.5～1.6m、短軸0.8～0.9m

S X 15・32の2基がある。平面形態は不整隅丸長方形もしくは不整楕円形を呈する。墓壇の主軸はN 59° W・N 60° Wで、ほぼ一致する。ともに墓壇の周縁部で複数の礎が検出されており、墓標が想定される。また、出土遺物として石鏃や刺片が出土している点でも共通する。

・3類：長軸1.1～1.3m、短軸0.5～0.8m

S X 14・81・82の3基がある。平面形態は不整楕円形もしくは不整長楕円形を呈する。墓壇の主軸は揃わないが、概ね東西方向と言えよう。他の要素に共通点は認められない。

・4類：長軸0.9m、短軸0.5m

S X 45・70の2基がある。平面形態は不整楕円形を呈する。ともに墓壇の南側に立石が設置され、墓壇の主軸はそれぞれN 3° W、N 23° Wでややずれがあるが、概ね南北方向であることが言える。出土遺物として石鏃や刺片が出土している点でも共通す

る。S X45ではイノシシの右距骨も出土している。

・5類：その他

墓塚の規模で分類した1～4類に分類できないものを5類とした。S X37・60の2墓がある。S X37は墓塚を検出しておらず、包含層と判断した層を掘削中に口縁部1/4分の底部を欠失した深鉢片(44)が外面を上部的にして横位の状態で出土した。この土器片は人為的に伏せたような出土状況であり、S X14と同様の出土状況と言える。当遺構が墓とすると、墓塚が検出されなかったのは、土器棺墓の埋設土坑が検出できなかったと同様に盛土が行われた可能性も否定できない。当遺構及びS X14は、前田清彦氏の土器棺墓分類でいうⅡ型Eに相当するとも考えられ、土壇墓・土器棺墓の定義の問題もあるが、土壇墓の範囲に入れることも再考する必要があるのかもしれない。また、S X50と重複していることも解釈上問題が残る。S X50埋葬後一定期間においてS X37が造営されたとも解釈できるが、あるいは両(被葬)者に血縁等、何らかの関係が想定できるのかもしれない。S X60は径0.5mで不整形を呈し、立石を伴う。立石を墓標と想定し土壇墓と推定したが、推定した墓域範囲を大きく外れる点や規模・出土遺物等からも墓の可能性は低いのもかもしれない。何らかの単独標識か他の性格を持った遺構の可能性も否定できない。ただし、伊勢湾東岸地域の晩期の貝塚遺跡で検出されているイヌの埋葬土壇が不整形を呈し、長軸が0.5m程度に集中しているとされており、当遺構もイヌの埋葬遺構の可能性も想定される。推定した墓域範囲を大きく外れるのは埋葬対象が関係するのかもしれない。

以上、墓塚の規模を基にして5類型に分類・検討を行ったが、これから推定される埋葬姿勢や被葬者の年齢を瀬川拓郎氏と山田康弘氏の分析を基に検討したい。

瀬川氏の分析に拠れば土壇の長幅比の値が0.5以上が屈葬、0.4未満が伸展葬で、屈葬のうち土壇長が80cm以下、伸展葬のうち土壇長が100cm以下のものが幼児埋葬であるとす。この基準で埋葬姿勢を推定すれば1類の5墓及び3類のS X81の計6墓が伸展葬でそれ以外が屈葬となる。土壇長から幼児埋葬と推定されるのは5類のS X60のみであるが、前

述の通りヒトの墓以外の可能性もあるため、幼児埋葬と推定できるものは無い。次に山田氏の分析による埋葬姿勢による土壇長の分析から伸展葬と推定される1類の5墓は概ね壮年～熟年期(概ね21～60歳未満)となり、3類のS X81は概ね思春期(概ね13～16歳程度)の年齢と推定される。また、山田氏の種類で言えば1類の5墓は「大人」、S X81は「子供」の墓ということになる。次に屈葬と推定されるその他の土壇墓についてであるが、2類は概ね壮年期以降(概ね21歳以上)、3類は概ね青年期以降(概ね17歳以上)、4類は概ね小児期以降(概ね6歳以上)とそれぞれ推定される。これらのことから、今回検出・認定した土壇墓は、解釈が困難な5類の2墓を除くと、被葬者が幼児期段階以下(山田氏の種類で言う5歳程度以下)と考えられるものは認められない。

所属時期 検出した14基の内、出土した土器が確実に墓に伴うのはS X14・37・50の3基のみである。S X14の(34)は口縁部及び底部が欠失しているが、頸部がくびれる「壘形」深鉢と推定され、体部は二枚目による条痕調整が施される。佐野氏の種類でいうⅢD類もしくはV類と推定される。S X37の(44)は口唇部にキザミの施されない刻目突帯文土器である。概ね鈴木編年Ⅱ期・山田編年Ⅱa 2期に相当する。S X50は頸部がくびれる「壘形」深鉢で口唇部にキザミが施される(30・31)と、口唇部にキザミが施される刻目突帯文土器(32・33)がある。前者は佐野氏の種類でいうⅢD類で、後者は鈴木編年・山田編年ともに1期である。以上の3基は佐野氏・野口氏の編年に従えば、概ね突帯文Ⅰ期1～2段階に相当すると考えられる。その他の土壇墓で出土した混入と思われる土器についても、前記時期の範囲を大きく外れることはないと考えられる。

土壇墓出土の骨片について 出土した骨片について微細遺物分析及骨同定を行った。詳細は前章の通りであるが、微細遺物分析ではS X48・50で微細な骨片が検出されたが種類が特定できるものはなかった。また、S X45では被熱して白色に変色したイノシシ右距骨片が出土した。埋土から出土した骨片については鹿骨片であり、人骨は検出されていない。**集石土坑について** AⅢ地区で検出・認定した5基

の内、S K56・73・77が晩期の集石土坑である。規模は長軸0.8～1.1m、短軸0.6～0.7mの(不整)楕円形を呈する。これらの土坑は前章で記述したように石器製作に関わる遺構の可能性も考えられるが、土壌墓の可能性も十分考えられる。当報告では他の可能性も考慮し集石土坑として一括したが、土壌墓と仮定すると、その規模から前述の分類では3・4類に分類され、小児期以降(概ね6歳以上)の屈葬墓と想定される。いずれも推定墓域内に概ね位置することから、土壌墓の可能性は高いのかもしれない。なお、中期末と考えられるS K83・84は、推定を含む規模が長軸0.9～1.0m、短軸0.5～0.6mの(不整)楕円形を呈するが、これらも埋葬遺構を想定できるであろう。

③墓域について

ここでは、今回の調査で検出した埋葬遺構と配石・立石遺構の関係から、墓域について検討したい。前章で認定した4基の立石(S S62～65)は、人為的に石材が地表(遺構)面に垂直方向に設置されたと考えられるもので、その下部には土坑等の遺構は無い。また、隣接する遺構との関連性は認められず、地表(遺構)面に単独で設置されたものと判断したものである。これらを一種の「地上標識」と評価した場合、各立石を結び調査区内に半円形のエリアを設定できる。このようなエリアを設定した場合、当調査区で検出した土器棺墓・土壌墓からなる埋葬遺構群は一部外れるものもあるが、概ねこのエリア内に収まることが指摘できる(第134図)。

次に、先に設定したエリアに近接する位置に長さ40～50cm程の楕円体礎2個体と立石が弧状に配置され、平面的に半円形を形成する配石(S S61)がある。この配石も人為的に設置されたことは確実で、何らかの行為を行う「場」を設定した標識とも想定できる。また、当調査区では、ほぼ全面に遺構が検出されているものの、この配石を含んだ南北方向の幅3m程度の帯状範囲は遺構密度が疎であり、空地地とも考えられる。

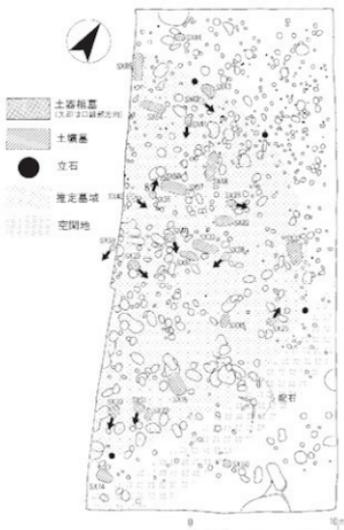
以上、埋葬遺構と立石・配石遺構の配置から調査区全体を俯瞰した場合、立石によって埋葬地の指定(一定範囲に埋葬する規制)をしていた、つまり、墓域が設定されていた可能性が指摘できる。また、こ

の墓域の東側に位置する空地地は、例えば居住域等とのいわば緩衝地帯のようなエリアだったのかも知れない。さらにこの空地地に配置された配石は、全くの推測になるが、祭祀的な行為が行われる場として設定された場所とも想定される。

④まとめ

土器棺墓・土壌墓・墓域について考察を行ったが、最後にこれらを整理し、まとめたい。

大原堀遺跡において墓が営まれた時期は概ね突帯文I期1～2段階と考えられ、土器棺墓SX59のみや時期が隔絶し、2期2段階となる。三重県における晩期の動向として、前半期は遺跡自体も少なく実態不明な空白期である一方、後半の突帯文土器の時期になると、土器棺墓を検出する遺跡が急増し、集団墓地の様相を呈する土器棺墓群の検出が目立つようになる。当該期の住居跡の検出は稀で、聖穴式ではなく平地式などの別形式の住居が使用されたため発掘調査でも検出されにくいのではと推定されて



第134図 AⅢ地区縄文晩期墓域推定図(1:300)(第1～3検出面を合成して作図。縄文晩期以外は除いた。)

いる。当該期の住居跡については、東海地方の傾向として土器棺墓盛行期には住居跡が不明瞭になっており、同様の様相を見ず。大原塚遺跡においても今回調査では墓が営まれた時期の住居跡は検出されおらず、周辺地域の動向と一致する。しかしながら住居跡を想定できるようなまとまりは認められなかったものの、多数のピットや焼土が検出されており、また、調査区全域において多量の土器・石器類が出土している。東海地方の縄文晩期の土器棺墓を多く検出する遺跡では遺物包含層で検出されることが多く、この遺物包含層は土器・石器などの遺物を多量に包含し、土器棺墓が検出されない区域からも多量の遺物や焼土が検出される場合が多いことから、この遺物包含層に土構が多く存在する可能性が指摘されている。今回調査では墓域と居住域等との分離を推定したが、平地式住居等の可能性も否定できず、今後の課題となろう。

次に、個々の埋葬遺構についてであるが、今回調査で土墳墓と認定したものの中には墓ではないものが含まれている可能性もあり、一方で土墳墓と認定しなかった性格不明土坑の中に土墳墓が含まれている可能性も否定できない。埋葬骨の出土が無い現状では認定作業にも限界があるが、土墳規模の検討から今回検出した土墳墓は幼児よりも上の年齢に適用された葬法であると推定した。そうであるならば、同一墓域に混在する土器棺墓は土墳墓に埋葬されない年齢である幼児期段階以下の葬法と想定される。土器棺墓は、伊勢湾東岸地域では基本的に3歳児以下の乳幼児の単葬を対象とした葬法と考えられている一方、近畿地方では新生児から成人までの埋葬骨が出土しており、成人の再葬も存在するとされる。大原塚遺跡で検出された土墳墓は再掘削された形跡が認められなかったため、土墳墓を一次埋葬墓、土器棺墓を再葬墓として関連付けることはできない。前述のような検討結果からも、伊勢湾東岸地域と同様の区分原理があったものと推定される。各埋葬遺構の配置については、SX37・50以外は墓の切り合い（重複）が認められないことから、従前から指摘されているように、各墓に墓標等の地上標識が設置されていた可能性がある。また、唯一例外的に重複関係のあるSX37・50は(被葬)者に血縁等、何

らかの関係が想定できるのかもしれない。

三重県内の縄文晩期土器棺墓検出遺跡は管見の限り大原塚遺跡を含め18遺跡を数え、県内の最も早い段階に位置付けられる名張市下川原遺跡では滋賀里Ⅲa～Ⅳ式期(Ⅲb式期が最盛期)の土器棺墓が26基検出されており、今のところ県内最多の検出数を誇る。大原塚遺跡の14基はこれに次ぐ検出数となり、時間的にも一基を除けば概ねこの後続段階に位置付けられる。検出数で見れば桑名市志知南浦遺跡で五貫森式期の7基、松阪市中谷遺跡で馬見塚式～榎王式期の6基と続く。これ以外の土器棺墓検出遺跡は、1～4基の検出に留まり、群集化するものと単独もしくは少数のものとの二様があることが分かる。また、前者の土器棺墓群集遺跡については当該集落の規模にもより一概には言えないが、時期を追って縮小傾向となることも指摘できよう。大原塚遺跡においても未末期に位置付けられるものがSX59の1基であり、同一遺跡内でも同様の傾向が窺える。近畿地方では晩期中葉に多く認められる土器棺墓が晩期末にかけて減少傾向をたどり、晩期末には十数基で群集化する墓地と単独もしくは2・3基で構成される墓地の二通りのあり方に分かれるとされており、近畿地方の消長に通ずるものがあると言えよう。無論、調査区の関係で遺跡全体が調査されていないれば早計なことは言えない。大原塚遺跡について言えば、推定墓域が正しければ調査区西側でさらに土器棺墓が多数検出される可能性があり、唯一時期が隔絶したSX59と同様の時期の土器棺墓が複数検出される可能性も否定できないが、現状では前述のような傾向を提示するに留め、今後の資料の蓄積を待ちたい。

大原塚遺跡における晩期後半の埋葬遺構について若干の考察を行ったが、調査区が限定されており、推定した墓域のすべてが確認できたわけではない。しかしながら、近畿地方や東海地方の周辺地域と類似する点も認められ、両地方の結節点に位置する伊勢湾西岸地域の三重県における当該期墓制を考察する上で、貴重な資料が得られたと言えよう。

(小山憲一)

2 大原堀遺跡出土縄文土器群の様相と傾向

大原堀遺跡第2・3次調査で出土した晩期土器群について検討を加えてみたいと思う。

(1) 縄文時代晩期土器群の様相

当該期の現時点での、土器編年研究の現状と課題を再認識していきたい。前代の後期も含めて述べたいと思う。なお、対象地域については、現在の行政区画でいうところの近畿地方は兵庫・大阪・京都・和歌山・滋賀・奈良、東海地方は愛知・岐阜・三重・静岡県西部を想定している。なお、東海地方については、伊勢湾岸として捉えていく方が都合が良いと考えている。

近畿地方では、中津ⅠⅡ式、福田ⅡⅢ式、四ッ池式・八瀬土壇40段階(芥川式・新徳寺式)、北白川上層式(Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ期)、一乗寺Ⅱ式、元住吉ⅠⅡⅢ式、宮滝式、滋賀ⅠⅡⅢⅣ式、船橋式、長原式が一般的な後・晩期の変遷である。なお、家根祥多や大塚達朗の両氏はそれぞれの視点から滋賀ⅠⅡⅢⅣ式が後期に遡ることを指摘している。しかしながら、滋賀ⅠⅡⅢⅣ式に後期的な要素の有無が問題といえよう。

東海地方の後期から晩期の編年に目を転じてみれば、後期が林ノ峰ⅡⅢ式、咲畑Ⅱ式、林ノ峰Ⅳ式、天子神社式、下内田式、八王子式、西北出式、観塚ⅡⅢ式、長谷式、吉田ⅡⅢ式、馬場ⅡⅢ式(吉胡ⅡⅢ式・馬見塚ⅡⅢ式)、伊川津ⅠⅡ式・寺津下層式、伊川津ⅡⅢ式・下別所式、晩期に入ると吉胡ⅡⅢ式・寺津式、保美ⅡⅢ式・木刈谷式、稲荷山式・桜井式、西之山式、五貫森式、馬見塚式の設定がなされている。東海地方の晩期土器については、後期後半にいわゆる緑帯文系の深鉢が多数を占め器種単純化の傾向がみられるようになり、晩期前半には地域色がみられるようになるといわれている。晩期後半期には近畿を含んだ汎西日本土器圏に編入されることになる。東海地方の編年については、土坑資料といった良好な資料の増加により土器編年が補完されることが待たれるところである。三重県における突帯文土器群の研究については、鈴木克彦、山田登の論考があげられる。これらの編年観については第59表に示してある。

三重県においても晩期土器を考えると、良好な資料が増加している。松原市天白遺跡(後期後葉か

ら晩期初頭の土器群)、度会町森添遺跡(四線文系土器群以降晩期にわたる大量の資料)、松原市大原堀遺跡(晩期後半期の良好な土器群)、多気町ホソダ遺跡(晩期後半五貫森式が中心)など、当地方の基準となりえる資料群であると評価できる。

(2) 大原堀遺跡出土晩期土器の傾向

Ⅳ章でも述べたように、Ⅰ～Ⅴ期に時期区分している。ここでは、各時期の器種構成を比較検討したいと思う。時期が明確におかざる525点を対象とした。器種認定は、第135図のように深鉢、鉢、浅鉢、その他(壺・注口土器・小形土器を含む)である。

縄文時代晩期土器群全体の器種構成としては、深鉢84.6%(444点)、鉢1.1%(6点)、浅鉢12.8%(67点)、その他1.5%(8点)である。その他の内訳としては、壺0.6%(3点)、注口土器0.4%(2点)、小形土器0.6%(3点)という統計結果が出ている(第136図参照)。

各期の出土量については、Ⅰ期が1.9%(10点)、Ⅱ期が26.9%(141点)、Ⅲ期が14.1%(74点)、Ⅳ期が42.7%(224点)、Ⅴ期が14.5%(76点)であった。Ⅱ期以降土器点数の増加が確認できるとともに、縄文時代晩期が当遺跡の中心的な時期であることがわかる(第138図参照)。

Ⅰ期(縄文時代晩期、元刈谷式併行)

当期の器種構成としては、深鉢100.0%(10点)を確認している。深鉢以外の器種については、確認できなかった。

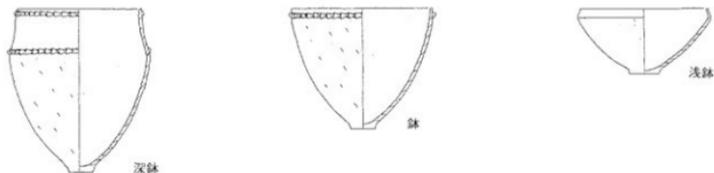
Ⅱ期(縄文時代晩期、稲荷山式・桜井式併行)

当期の器種構成としては、深鉢97.9%(138点)、鉢0.7%(1点)、浅鉢1.4%(2点)という統計結果が出ている。その他の器種については、確認できなかった。

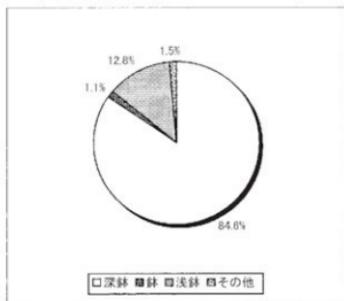
Ⅲ期(縄文時代晩期、西之山式併行及び山田編年Ⅰ期)

当期の器種構成としては、深鉢100.0%(74点)を確認している。深鉢以外の器種については、確認できなかった。

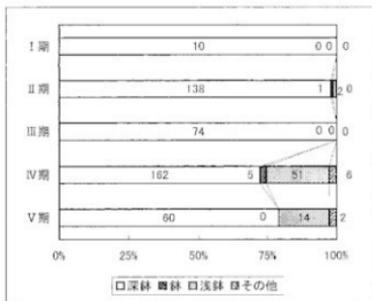
Ⅳ期(縄文時代晩期、五貫森式併行及び山田編年Ⅱa1・a2・b期)



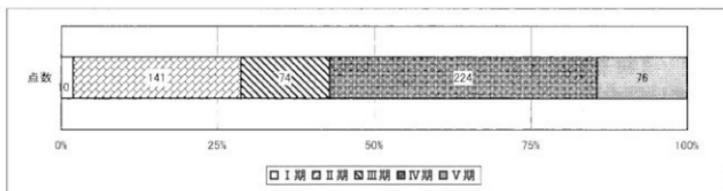
第135図 器種認定概念図



第136図 縄文時代晩期土器群の器種構成



第137図 縄文時代晩期土器群の時期別器種構成



第138図 縄文時代晩期土器群の出土量

近畿	伊勢湾西岸		大原湖遺跡	伊勢湾東岸	東北
激貫型b式・糠原式			I期	元刈弁式	大原B1式
激貫型c式		山田・I期	II期	稲荷山式・桜井式	大原C1式
口前弁式	鈴木・I期	山田・II前期	III期	河之山式	
船橋式	鈴木・II期	山田・II前期	IV期	五野倉式	大原C2式
		山田・II後期			
長原式	鈴木・III期	山田・III前期	V期	高尾塚式	大原A式
	鈴木・IV期	山田・III後期			
		山田・IV期		磯工式	大原A'式

第59表 縄文時代晩期土器群併行関係

当期の器種構成としては、深鉢72.3% (162点)、鉢2.2% (5点)、浅鉢22.8% (51点)、その他2.6% (6点)である。その他の内訳としては、壺1.3% (3点)、小形土器1.3% (3点)という統計結果が出ている。注口土器については、確認できなかった。

V期 (馬見塚式併行及び山田編年Ⅲa・b期)

当期の器種構成としては、深鉢78.9% (60点)、浅鉢18.4% (14点)、注口土器18.4% (14点)という統計結果が出ている。その他2.6% (2点)である。その他の内訳としては、注口土器2.6% (2点)が確認できた。鉢、壺、小形土器については、確認できなかった(第137図参照)。

統計結果から、各期とも深鉢が主体となる器種構成であることが判明した。I～III期はほとんどが深鉢という器種構成であることが統計結果から読み取れる。当該期の土器群については、浅鉢が増加する傾向がみられるのだが、それはIV期以降にそのような傾向となるようである。三重県(伊勢湾西岸域)では、他遺跡での統計が取られていないこともあり、

比較ができない状況である。時間的な制約もあり、これまで、発掘調査により蓄積された資料を活用することができなかった。今後、資料の活用とデータの増加を待ちたいと思う。

(3) 今後の課題

「どこまでが縄文土器(時代)で、どこからが弥生土器(時代)になるのか。」という問題は、これまでにも多くの論考により諸説提示されている。朝鮮無文土器から弥生土器へ変遷などがそれにあたる。縄文から弥生への様々な問題は、日本列島内だけではなく、今後は、朝鮮半島もふくめた大陸との比較検討が必要となるのかもしれない。近年、三重県(伊勢湾西岸域)において、縄文時代晩期土器の資料が充実してきている。今後、これらの資料を活用し型式設定が試み、できるだけ小さい範囲の地域で編年を整理していき、それらの併行関係を整理していけば、最終的には広域の編年網が完成することになる。このことについては、今後、別稿を期したいと思う。(小濱 学)

3 大原堀遺跡出土石器群の検討と分析

(1) 器種構成と石器組成

本遺跡から出土した石器群は、総数2965点に及ぶ。本遺跡は三重県下で近年調査された晩期後半の遺跡としては屈指の内容を有し、石器も大半が当該期の所産と判断される。

器種構成については、形態記述の冒頭に各器種名と出土点数を示した。石器組成の検討に際しては、本来ならば各土器型式ごとに点数と比率を対象とすべきだが、前述のようにそれらを正確に分離することはできない。そのため定量的な検討は各器種の点数の提示に留め、形態的特徴や出土位置などの在り方から中～後期に所属するものを適宜判断し、以下の記述を進めていく。

組成上、最も多数を占めるのは石鏃である。完成品及びその破損品149点、未成品54点の合計203点がある。但し、後述するように、形態的特徴から中期末葉から後期前葉に属するものを含むと考えられる。それらを除いても、一般に指摘されている晩期における石鏃の組成上における優位性は、本遺跡でも確認される¹⁶⁾。

続いて多数を占めるのは、台石・石皿・蔽石・磨石の植物質食料の調理加工具である。4者を合わせた合計は182点となるが、蔽石のうち15点は、石器製作具としての礎石として分離した。また、台石1点・石皿1点・蔽石(礎石)1点・磨石2点の計5点は、水銀朱付着の資料であることから、その精製具として除外され、これらを差し引いた162点を植物質食料の調理加工具として理解したい。

次に多くみられるのは、石錘である。打欠き石錘40点・切目石錘2点・有溝石錘1点がある。但し、切目石錘は切目の形成が明瞭ではなく、有溝石錘とした資料も典型的なものでないことから、打欠き石錘が漁網錘の主体として使用されているといえる。中・後期のものを一部含むとしても、出土地点と層位から判断して、晩期後半のものが一定数あると判断される。筆者らは、かつて天白遺跡(松阪市・旧埴野町)で後期後葉を主体とする土器群に伴う石器群を検討した際に、後期後葉以降における石錘の稀少性を指摘し、貝塚を多く形成する地域との分業の可能性も提示したが、本遺跡の状況を見ると、そう

した単純な理解は難しく、改めて個々の遺跡の様相を精査する必要性を痛感した。

楔形石器も64点とまとまった点数が出土している。今回剥片剥離との関係について検討を行うことができなかったが、個々の性状については形態記述の中で観察をおこなっている。

石器は、縄文時代の石器群の中で十分な注意が払われてこなかった器種だが、筆者らが三重県下の石器群を整理・検討する中で、どの時期にも一定数が含まれていることを確認することができた。本遺跡でも、単独の器種としては第4位の57点が確認されている。多様な素材・形態をもつものが存在し、後述するように幅広い用途を担うものが含まれていると考えられる。

槌石は、上述の15点と磨製石斧破損品の転用品2点の計17点を認定した。

最後に、本遺跡出土の石器群を最も特徴付けるのは、水銀朱と考えられる赤色顔料の付着した台石・石皿・蔽石（槌石）・磨石がまとまって出土していることだといえよう。本地方の縄文時代における水銀朱の利用については、奥義次氏が精力的に探求され、最新の成果がまとめられている。それを見ても、本遺跡における朱付着石器の出土点数は、多数出土例といえる。土器棺墓群の形成や他の遺物の在り方から推察して、本遺跡を形成した人々は、本地域から他地域へ朱を供給する中心的役割を担っていたとも考えられる。

(2) 石材

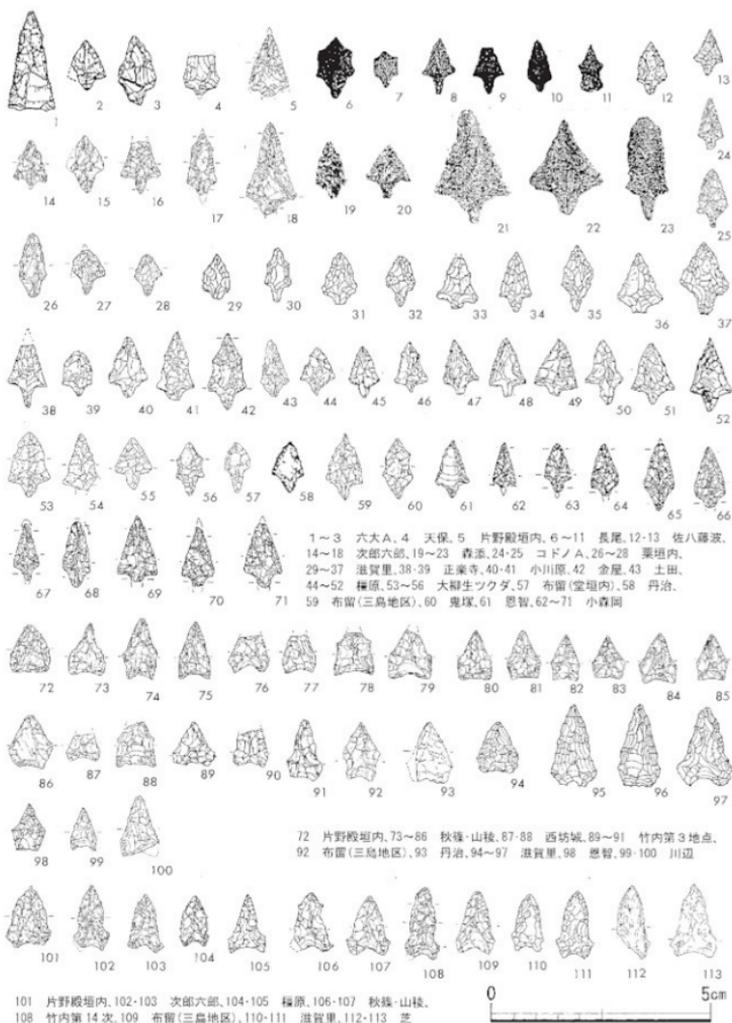
ここでは剥片石器に多用されるサヌカイト、下呂石、チャートの使用傾向を簡単にみておく。先ずサヌカイトは石織184点、石匙1点、削器13点、石錐17点、楔形石器38点、異形石器1点、二次加工有剥片14点、使用痕有剥片28点、剥片・砕片2121点、石核18点の計2445点と剥片石器全体の約93%を占めている。ついでチャートは石織3点、石匙1点、削器1点、楔形石器5点、二次加工有剥片5点、使用痕有剥片14点、剥片・砕片30点、石核14点の計73点、下呂石は石織16点、楔形石器14点、使用痕有剥片7点、剥片・砕片47点の計84点で、それぞれ約3%の占有率にとどまる。その他、頁岩・砂岩・片岩・花崗岩あわせて25点（約1%）みられる。

本遺跡の剥片石器における石材の特徴は、(f) サヌカイトが圧倒的多数を占めること、(g) 楔形石器には約38%の割合で下呂石が用いられていること、(h) 石織には約8%の割合で下呂石が用いられ特定形態との強い結びつきがうかがわれること、(i) 下呂石の楔形石器・剥片には比較的多く礫表が残されており、その礫表のあり方からその多くが円礫素材と思われるものの、大型剥片が1点のみ出土していること、(j) チャートは定型的な石器にほとんど用いられていないこと、などである。

(f) (h) に関して、三重県内の石材利用状況として、後期になると全般的に石織などの剥片石器類に在地的なチャートを利用することが著しく後退し、サヌカイトにはほぼ全面的にとってかわっていくことが奥義次氏によって既に指摘されている¹⁰⁾。後期後半を中心とする天白遺跡、下沖遺跡、櫛田川流域・富川流域の後期以降の遺跡の様相はそれを如実に物語るている。

このような後期以降の西からのサヌカイトの流れは、割合で他の石材を圧倒しただけではなく、著しい量的増加を大きな特徴とする。このような大きな西からの波は三重県内に留まらず、伊勢湾を経て渚美半島以東にも及び、その最盛期は後期から晩期にあるという小島隆氏の指摘から分かるように、社会的な状況変化は広範なものである。大下が述べたように「石材の動きと石器器種や土器・遺構などの動きとがどのように関係しているか」を詳細に検討すべきであろうし、そのためには「個々の遺跡の在り方、特に遺構の性格と形成過程をよく見極めることがまず必要」である。

(i) (j) に関しては、松田順一郎氏が製作実験を通して馬場川遺跡の楔形石器資料を石織製作のための楔形両極石核とする見解に照らし合わせるならば、本遺跡の下呂石製楔形石器と下呂石製石織の強い関係を想定することが可能である。例えば、天白遺跡では下呂石253点の内訳が、石織20点、石錐4点、削器5点、楔形石器59点、二次加工有剥片13点、使用痕有剥片55点、剥片・砕片91点、石核6点となり、定型的な石器のなかでは楔形石器が最も多い。(k) にあげたように本遺跡の下呂石を見る限り、下呂石を石核素材とする剥片剥離工程の存在を積極



第139図 近畿地方における晩期の特徴的な石鏃(1:2, 但し19~23は大きき不明)

的に示す資料はなく、また剥片・砕片の数も少ないことから、今のところ楔形石器と石鐮の関係については十分な検討を行っていないこととあわせて、大下が示したように別の観点もあり、解釈は保留しておきたい。

(3) 器種別検討

石鐮

未成品を含む203点の多くはAⅢ区から出土している。既に述べたようにAⅢ区下層包含層・遺構からは中期末葉～後期前葉の土器が出土し、量的には全体の3分の1ほどを占めている。AⅢ区では約6分の1が下層包含層・遺構から出土しているが、完成品をみる限り明らかに晩期に属するものが幾らか含まれていることから、下層包含層・遺構出土品の一部を除き同時期に帰属するものと考えられる。また、BⅠ区出土の1082・1112も形態的特徴からAⅢ地区と同様に捉えることができよう。

晩期の指標となる石鐮形態・技術のうち、ここでは平面形態に着目し、なかでも(7)有茎鐮、(8)身部中央付近あるいは身部下側に屈曲点をもつ楔形形状の無茎五角形鐮、(9)脚部が鈍る感じとなり端部を角張らすもの＝「角脚鐮」を取り上げ概観する。

以下の内容からは、石鐮形態のあり様は象徴的に取り上げられる東からの有茎鐮に収斂されるものではなく、湯浅利彦氏の西日本における五角形鐮の検討結果にも示されているように「西から」の観点なり、「近畿内」の観点が必要であることが理解できる。

①有茎鐮(有茎三角形鐮・有茎五角形鐮、第139図1～71)

東海地方の有茎鐮については鈴木道之助氏の先駆的な論考がある。鈴木氏は有茎鐮が東北地方から西に波及し、東海地方では、「後期の段階では……東海のいずれの地域に於いても初現は見られるもの」「晩期中葉より普及を開始し、末葉に至るとやはり大きなウエイトを占めるようになる」とする。そして、晩期初頭にさかのぼる可能性もあるとしながら、晩期中葉に普遍的に存在する無茎五角形鐮と受容した有茎鐮が合わさって、いわゆる「飛行機鐮」が東海地方で発生し、その分布は「東海・中部地方のほぼ全域、および関東・北陸地方の一部に限定される」とい

う。鈴木氏の論考発表当時の分布の西限は愛知・岐阜・富山3県ラインであったが、その30年後の関西縄文文化研究会による後期・晩期石器の集成によって、先の3県に隣接する福井・滋賀・三重3県、そして奈良県・大阪府で無茎五角形鐮の出土が確認され、また、川添和曉氏によって東海地方の後晩期石鐮の数量的傾向・平面形態・多量化・法量変化・製作・部分磨製石鐮の位置づけ・使用石材・他地域との比較など多岐にわたった検討がなされている。

本遺跡では未成品3点を含む20点が出土し、その石材はササカイト15点・下呂石5点となっている。有茎鐮は身部が概ね三角形を呈するVA・VC類＝有茎五角形鐮と概ね五角形状を呈するVD類＝有茎五角形鐮に大別できるが、後者に分類される8点の石材をみると、ササカイト5点・下呂石3点となる。一方、有茎鐮以外の未成品を含めた183点の石材別点数をみると、ササカイト169点・下呂石11点・チャート3点で、このうち1D類＝回基五角形鐮41点の石材をみるとササカイト37点・下呂石4点となる。他の下呂石製7点は1類・1A類・1B類・D類各1点、成品で不明1点、未成品で不明2点である。以上のことから、本遺跡での下呂石利用のあり方は有茎五角形鐮・回基五角形鐮と強く結びつくと理解される。

三重県内で晩期のものと思われる、あるいはその可能性のある有茎五角形鐮が出土しているのは、本遺跡以外で北一色遺跡・六次A遺跡(弥生時代の可能性あり)・天保遺跡・ホソダ遺跡・下宮前A遺跡・佐八幡波遺跡・長尾遺跡・次部六部遺跡群・ヒゲノ森遺跡・登茂山東麓遺跡などである。分布状況を見ると、北一色遺跡が鈴鹿川流域に、六次A遺跡が志登茂川流域に、天保遺跡が中村川流域に、大原堀遺跡・ホソダ遺跡・下宮前A遺跡が櫛田川流域に、佐八幡波遺跡が宮川流域に、長尾遺跡・次部六部遺跡群・ヒゲノ森遺跡・登茂山東麓遺跡が志摩半島に位置しており、「伊勢湾を隔てた愛知県渥美半島でのササカイト利用率が高い状況を考えあわせると、ササカイト石材が二上川→(古野川流域)→櫛田川・宮川流域およびその周辺、志摩半島→渥美半島付近という交流ルートで流れる一方、晩期後半には逆に渥美半島付近→櫛田川・宮川流域およびその周辺、

志摩半島に有茎五角形織がもたらされた可能性が高い。天保遺跡・大原堀遺跡・長尾遺跡では下呂石製が存在しており、東から西へ先ずは製品がもたらされ、それをサマカイトで模倣したのかも考えられる。有茎五角形織以外の有茎織は、……(略)……、宮川流域の森添遺跡、時期ははっきりしないが柳田川流域のいくつかの遺跡でも確認され、下呂石製もみられることから、有茎五角形織と同様に晩期における伊勢湾を介しての東から西への流れを見て取れる。ただし、これはあくまでも1つのルートであり、当然北からのルートも今後良好な遺跡情報蓄積が進めば明確になろう。」と見通しを述べた。その際、触れることはできなかったが、採集資料である先のヒゲノ森遺跡・登茂山東麓遺跡も下呂石製であり、また明和町の栗垣内遺跡(中期～晩期後半)で「石織は百数十点を超えて採集されており……、凸基有茎石織が少量みられる。……下呂石は有茎石織の大半に使用されている」とあるように、有茎織と下呂石は有意な関係にあるといえよう。

中勢・南勢・志摩地域への有茎織の波及は、有茎織が下沖遺跡(北白川上層3式～滋賀里Ⅲ式期)や天白遺跡(一乗寺K式～滋賀里Ⅱ式期)で出土していないこと、突帯文期の本遺跡・ホソダ遺跡で出土していることから、現時点において確実に言えることは滋賀里Ⅳ式期になってからとなる。有茎五角形織と有茎三角形織の波及時期が同時なのか、異なるのかについては、「東海地域において両者の出現時期の差は現状では把握できず、ほぼ同時に出現したようである」とされ、筆者もそれ以上の知見を今のところ持ち合わせていない。

ここで三重県以西の滋賀里・奈良県・兵庫県・大阪府・京都府・和歌山県の様子をみておきたい。

滋賀県では滋賀里遺跡で9点以上、小川原遺跡・正楽寺遺跡で各2点、金屋遺跡・土田遺跡(晩期後半)で各1点の有茎織が出土し、そのうち小川原遺跡・金屋遺跡各1点に有茎五角形織である。また詳細は分からないが北仰西海道遺跡(晩期中～末)で有茎三角形織、福満遺跡(晩期後半)で有茎五角形織が少なくとも1点は出土している。滋賀里遺跡のⅢD区では有茎織が灰褐色泥土層(滋賀里Ⅱ式期主体)にみられず、黒色砂泥土層のみでも滋賀里Ⅳ～Ⅴ

式期を主体的に含む「表面から-30cm」から出土している。金屋遺跡の1点は下呂石製の有茎五角形織で、三重県と同様に岐阜県一滋賀県湖東地域への製品の流入が見て取れる例と考える。小川原遺跡・正楽寺遺跡はともに後期前半の遺跡であり、これらの有茎織が混入でないとすれば、時間的な隔りから今のところ晩期の有茎織につながる初現的なものと見なすことはできない。

奈良県では権原遺跡で55点、大柳生ツクダ遺跡で複数出土しているが晩期のどの時期か分からない。布留遺跡三島地区(滋賀里Ⅱ・Ⅲ式期)1点、丹治遺跡(滋賀里Ⅲ式期)1点、宮堂遺跡(晩期後半)2点が写真や図で示されている。しかし、秋穂・山陵遺跡(滋賀里Ⅲ式期中心)や西坊城遺跡(滋賀里Ⅱ～Ⅲa期中心)では有茎織は出土しておらず、しかも、三重県の下沖遺跡(北白川上層3式～滋賀里Ⅲ式期)や天白遺跡(一乗寺K式～滋賀里Ⅱ式期)でも出土していないことから、久保は「奈良県内の有茎織出現の時期は、早くとも滋賀里Ⅲ式(下線部は「Ⅳ期」の間違ひ…筆者註)前後あたりとみることもできる」とした。

兵庫県では篠原A遺跡で有茎織1点が出土している他、小森岡遺跡(後期初頭主体)発掘調査区から40m離れた第2地点で有茎五角形織が10点採集されている。いずれも凸基式、身部は長幅比1.5程度の二等辺三角形形状を呈す均整のとれたもので、報告した大下は形態的特徴や近畿以西の日本海側での石器素材・屈折土偶のあり方を踏まえ、日本海沿岸ルートによる東からの流入を考え、時期について正確には判断し得ないとしながら晩期前半以降とする。

大阪府は鬼塚遺跡(晩期後半)で有茎五角形織1点、恩智遺跡第4層(滋賀里Ⅲb式主体、Ⅳ式・船橋式・長原式あり)で有茎五角形織1点、和歌山県は溝ノ口遺跡で1点出土したにとどまり、時間的に限定性をもつのは鬼塚遺跡例のみで京都府も明確な晩期の有茎織は出土していない。

このような状況から、近畿地方での有茎織の出現は大下が述べたように「滋賀里Ⅲ式期よりも遅れて突帯紋出現期以降になる可能性が今のところ考えられ」、その「主要分布域は伊勢湾沿岸に留まり、琵琶湖南部から奈良盆地まで散在して分布し、それより西

への波及は、ほぼみられない」といえよう。

② 身部中央付近あるいは身部下方に屈曲点をもつ将棋駒形・逆ホームベース形の無茎五角形鏝 (第139図 72~100)

無茎五角形鏝については、「後期前半・後半のⅠD類は新徳寺遺跡や天白遺跡にみられるように、先端部付近に側縁の屈曲点をもつやや細身のものが中心となっているが、晩期になると秋篠・山陵遺跡・榎原遺跡・馬見塚遺跡にみられるように、屈曲点が基部方向に下がり、将棋駒形を呈するものが目立ってくる」と簡単な時期的な変化を述べた。本遺跡の無茎五角形鏝についてもこの時期的な特徴に符合する。

ここでは、長さの上方3分の1あたりに屈曲点をもつ将棋駒形状の無茎五角形鏝ではなく、身部中央付近あるいは身部下方に屈曲点をもつ将棋駒形・逆ホームベース形の無茎五角形鏝に限定して概観する。

この形態は本遺跡では図示した1082と図示していない1399の計2点が出土している。三重県では他に森添遺跡・片野殿垣内遺跡・北一色遺跡など晩期の遺跡で出土しているが、細かな時期や出土数は分からない。

奈良県では秋篠・山陵遺跡 (滋賀里Ⅲ式期中心) や榎原遺跡でまとまった出土がみられる他、竹内遺跡 (試掘第3地点包含層、滋賀里Ⅲ式期)・布留遺跡三島地区 (滋賀里Ⅲ・Ⅱ式期)・西坊城遺跡でも確認できる。秋篠・山陵遺跡では屈曲点位置が最大幅となるものが目立って存在している。

滋賀県では滋賀里遺跡・北仰西海道遺跡・福満遺跡で出土しているが詳細は分からない。大阪府では思智遺跡第5層 (滋賀里Ⅲb式主体、Ⅳ式あり) で1点、和歌山県では川辺遺跡Ⅶ区 (晩期後半) で2点出土している。

目を東に転じて伊勢湾を隔てた愛知県側をみると、牛牧遺跡・馬見塚遺跡等に散見されるが明確なものはまともなものはなさそうである。

このように、身部中央付近あるいは身部下方に屈曲点をもつ将棋駒形・逆ホームベース形の無茎五角形鏝の分布の中心は三重県以西にあるようで、屈曲点位置が最大幅となるような無茎五角形鏝はほぼ三重県以西に限定されるのではないかと想像、今のところ奈良県で確認例が多い。

③ 脚部が跳ねる感じとなり端部を角張らすもの＝「角脚鏝」(第139図101~113)

大下が五角形鏝の「類似形態として、上半部が五角形ないし屈曲点をもたない釣鐘形を呈し、基部直上に突出部を形成することにより、角張った脚部を作出するもの (仮称「角脚鏝」) と表現したものに相当し、以前より滋賀里土器との関係が漠然と指摘されていた。「脚部が跳ねる感じ」とは側縁が脚部に至るところで内に張る (膨らむ) 状態を指しており、この形態は先に述べた、「身部中央付近あるいは身部下方に屈曲点をもつ将棋駒形・逆ホームベース形の無茎五角形鏝」のなかでも、身部下方に屈曲点をもつものと明確に区別できない場合がある。また、各遺跡でどれほどの数が出土しているか明確でない。

本遺跡で角脚鏝とされるのは、図示したなかでは1068~1071・1073~1975・1077・1078、写真図版の1377・1378・1402・1403・1405などである。三重県内では他に片野殿垣内遺跡・北一色遺跡・森添遺跡・次郎六郎遺跡群・登茂山西岸A遺跡で出土している。

奈良県では秋篠・山陵遺跡・榎原遺跡・布留遺跡三島 (木守) 地区・竹内遺跡第14次調査・芝遺跡 (滋賀里Ⅲ式期)・曲川遺跡 (藤原系~長原系) 大柳生ツグダ遺跡・宮滝遺跡などでみられる。

滋賀県では滋賀里遺跡・北仰西海道遺跡、大阪府では思智遺跡土器集積Ⅰ (滋賀里Ⅲb式期)・長原遺跡で出土し、兵庫県側の榎原遺跡では「石積約百点 (うち特有の翼状のもの六〇点) とかなり多く出土しているようである。

このようにみえてくると、角脚鏝は先に述べた身部中央付近あるいは身部下方に屈曲点をもつ将棋駒形・逆ホームベース形の無茎五角形鏝以上により西側にスライドした分布域、すなわち伊勢湾以西に分布域を形成しているように思われ、(i) の形態同様に時期的には晩期全般にみられるようである。また、(i) (ii) の平面形態は有肩石鏝と呼称されるものとも重複する部分があり、整理したうえで取り上げるべきであったができなかった。

対象とした細部にわたる検討が必要と思われるが、ここでは極めて中途半端なものとなった。遺漏・誤解をお許しいただき今後新たな検討を期したい。

敲石

従来一般的に植物質食料、とりわけ堅果類の穀割り・粉砕具として考えられてきた。但し、主に石器製作用具である槌石との区分が問題となる。筆者は敲打痕の性状、位置と共に、磨面を複合しているか否かが大きな判断基準となると考えているが、ここでは詳論しない。

また、本遺跡をはじめとする三重県下の縄文時代後半の事例のように、水銀朱の精製に使用された特殊な例も存在し、用途の区分や粉化対象の特定については、形態分類や使用石材の差異といった考古学的検討だけではなく、近年積極的に進められている付着炭化物や土壌の分析が判断の一助となると考えられ、今後形態や使用痕の性状と合わせて検討を進める機会をもちたい。

磨石

基本的には大半が植物質食料を中心とした食料の製粉具・押し潰し具と理解して問題ないといえよう。また、土器胎土の製粉などの食品加工以外に使用されたものが含まれる可能性も否定できない。さらに、水銀朱の精製も含まれている。敲石と同様に考古学的手法と自然科学的分析の双方からの検討が必要である。

槌石

17点を抽出した。植物質食料の調理加工具として認識されてきた敲石の一部に石器製作用の槌石を含むことは従来から想定されてきた。近年、磨製石斧や石棒など特定の石器・石製品を製作する遺跡において、その敲打作業用具としての槌石が注意されるようになり、筆者も、かつて近畿地方唯一の確実な大型石棒製作遺跡として注目された見織岡遺跡（兵庫県豊岡市・田竹野町）の槌石を報告する機会を得た。それらの使用痕の性状や他遺跡での在り方から判断して、今回の報告では従来敲石と記述されていたものの一部を、石器製作用の槌石として記述した。本遺跡では、その製作対象物を明確し得なかったが、主にサヌカイトを素材とする剥片石器の製作は盛んに行われている。他に未成品が確認されているものとして石剣があり、磨製石斧も製作されていた可能性があると考えている。

周辺地域では、麻生田大橋遺跡などでも磨製石斧

製作に伴う槌石が確認されている。また、同遺跡では磨製石斧転用品の槌石ないし「楔」も出土している（第105図）。

磨製石斧

磨製石斧は、縄文時代を代表する器種の1つであり、その在り方はやはり縄文文化の象徴ともいえるべき木工技術と密接な関係をもつ。縄文時代から弥生時代の移行期にあつては、いわゆる「大陸系磨製石斧」が導入されると、技術体系が一変するかのような印象を与えるが、縄文系の技術を継承した石斧が一定数残存することが知られている。

筆者は、近畿地方と静岡県を除く東海地方の縄文時代石器群を時期ごとに概観する中で、磨製石斧についても若干の考察を行ったことがある。後・晩期の磨製石斧の検討に当たって、筆者は「A類＝定角式石斧」・「B類＝乳棒状石斧」・「C類＝自然産の形状をほぼそのまま利用し、刃部のみを作出するもの」の三者に大別し、検討を加えた。その結果、後期には伐採斧・加工斧ともに「A類」が使用され、晩期に至ると「B類」が主体となることを指摘した。この時点では「B類」を「乳棒状石斧」として、多様な形態をもつものを一括で理解していた。しかし、本遺跡資料の観察を通じて、今回改めて検討を行った結果、以下のように再整理することとしたい。

筆者が、定角式石斧に代わって晩期になって盛行すると理解している形態は、「乳棒状石斧」のなかでも、断面形が主として楕円形を為し、最大幅を刃部付近ないし器体下半にもち、基部に向かって幅を狭め、基部端は尖るかわずかに面を形成するという形態のもので、正円形に近い真正の乳棒状石斧とはやや異なるものである。このような形態的特徴をもつ石斧については、西井幸雄氏が東海地方と関東地方の後・晩期に属する磨製石斧の比較検討を行う中で、関東地方前期の黒浜式や中期の全面磨製の大型石斧といった従来の遠州式磨製石斧に対して、「乳棒状石斧の一型式とし、東海地方西部に於ける縄文時代後期後葉～晩期にみられる基部に敲打痕を残し刃部付近にのみ人念な研磨を施す磨製石斧」を“遠州型磨製石斧”と呼称することを提唱している。筆者の「B類」としたのもほぼこれに近い理解であるといえる。

伊勢湾岸における当該期の磨製石斧については、佐藤由紀夫氏が詳細な検討を加えている。⁵⁰佐藤氏は、麻生田大橋遺跡報告書のうち、豊橋市調査分の分類基準を単純化して用い、平面形態を4類に分類している(第141図左上)。「A類」は、身部に敲打整形痕を残し、刃部のみを研磨によって作出するもの。「B類」は、器体を剥離によって作出し、刃部に研磨を施すものである。「A類」は、さらに3細分されており、「A1類」は「厚さが最大幅の2分の1以上の乳棒状の形態であり、遠州型磨製石斧(西井1994)と呼ばれるもの」、「A2類」は「乳棒状であるものの、細身・小型化し、形態も指状を呈するもの」、「A3類」を「厚さが最大幅の2分の1以下の扁平な形態のもの」としている。しかし、佐藤氏が分類模式図に「A1類」の代表例として図示された、側縁が基部から刃部までほぼ平行となり、器幅の変わらない形態は、縄文時代の磨製石斧の形態としては一般的ではなく、逆に類例がほとんどないものである。

また、麻生田大橋遺跡の磨製石斧は製作遺跡であることを反映しているためか平面形態の変異が大きく、他の同時期の遺跡の様相も合わせて勘案すると、「A1類」の中でもさらに細分が可能であると筆者は考えている。翻って、麻生田大橋遺跡の市報告書での分類をみると、その「A1類」は「頭部の細い乳棒状をなし、断面は楕円形をなす。(中略)側縁形は刃部で幅の広まるもの、側縁がほぼ平行するもの、中央部で幅の広まるものなど多様であるが、これは主として一次工程による素材の姿により定まる要素であろう。」(傍点部は下大)としている。この記述をみると、市報告の分類では、きちんとその特徴を明示し(傍点部)、その上で多様性を指摘し、その原因も述べており、正論を射た記述であったと理解されよう。⁵¹

本遺跡出土の磨製石斧をみると、第108図の1250~1253がこの形態に相当する。断面がほぼ円形を為す1254~1256は、より古い様相を示すものともいえる。さらに、佐藤氏が「A2類」とした細身の石斧がみられないことが注意される。一方、志知南浦遺跡では存在するという事実から、この形態の石斧は、五貫森式段階ではまだ出現しておらず、馬

見塚式段階にいたって出現し、麻生田大橋遺跡にみられるように条痕紋系土器段階に盛行すると理解されることを指摘しておきたい。

他に、後期まで磨製石斧の主体的形態であった「定角式」石斧も、第107図に示したように一定数が出土し、1249のような大型の伐採斧もみられるが、これらの大半は出土位置などから土器群の約3割を占める中期末から後期前葉の土器に伴うものと理解される。⁵²

本遺跡の周辺で、同時期の資料をみてみよう。幅のある土器群に伴うものが多いが、その中で、上箕田遺跡(鈴鹿市)では、西之山式の新しい部分ないしは五貫森式の古い部分という限定された時期の土器に伴って、本遺跡例と極めて近似する資料が1点(第141図1)出土している。また、周辺の岡田遺跡でもほぼ同形態の資料(第141図2)が採集されており、上箕田と同時期と理解されている。上箕田例についても佐藤氏は、「A1類」としている。

前述のように、筆者は近畿地方全体でもこうした石斧が、晩期に再び増加することをすでに指摘している。土谷崇夫氏も近畿地方から中部地方の磨製石斧について検討する中で、同様の傾向を導き出している。また、中村健二氏は滋賀県下の磨製石斧について講演で触れた際に、若干の言及を行っている。

縄文晩期から弥生前期の磨製石斧の在り方について、より西側の地域に目を転じてみると、紀伊半島西岸の壱田遺跡(和歌山県御坊市)では在地の片岩系石材を用いた挿入柱状片刃石斧や扁平片刃石斧が製作・使用されており、遅くとも前期Ⅰ様式中段階の時期に、そうした石斧を単なる搬入品としてではなく、製作技術体系も合わせて受容している様子を見ることができよう。一方、豊元洋氏によれば、東海地方において大陸系磨製石斧が揃うのは、中期中葉の瓜部式段階まで下がるという。⁵³

さらに、福岡田住男氏は石斧柄の分析から、「直柄Ⅰ類」とした形態を「縄紋時代から弥生時代早期に確認されることから、縄紋系の斧柄」として捉えている。さらに、「大型始刃石斧を装着できる直柄ⅡA類が成立するのは、弥生前期初頭から前半の時期」として、縄紋~弥生時代の過渡期の「斧」には、縄紋斧(直柄Ⅰ類+縄紋石斧)、折衷斧(過渡的な直柄

ⅡA類+縄紋石斧、弥生斧（直柄ⅡA類+弥生石斧）の三者があると指摘している。こうした石斧柄の在り方からみても、この時期には縄文系の石斧が依然として優勢であったことがわかる。

以上のような石斧や石斧柄の在り方から、同じ敲打整形の磨製石斧でも、伊勢湾沿岸地域で共通してみられ、西井氏が遠州型磨製石斧と呼ぶ、基部がすぼまり、楕円形の断面形をもつものと、その他のものとは明らかに分離すべきであり、この形態こそが当該期の主体であると理解される。一方、佐藤氏が「A1類」の典型例として図示した、側縁が平行し、長方形に近い平面形をもつ形態は、太形始刃石斧がそうであるように、いわゆる「弥生斧」的な特徴であり、そうした視点からこの石斧をみると、これが樫王遺跡の出土品であることは示唆的である。

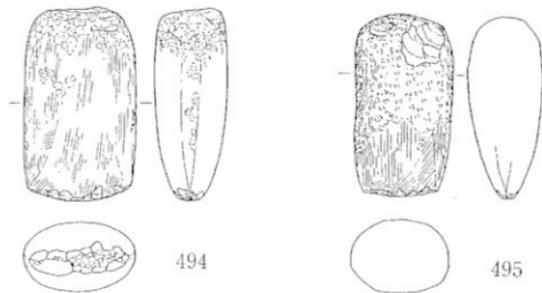
晩期にいたって「定角式」石斧がほぼ消滅し、「先祖返り」ともいふべき敲打整形斧が主体となることは、伊勢湾沿岸においては、伐採斧が技術的には「敲打整形」を残すという縄文時代以来の在り方を維持しながら、徐々に弥生化していく様子が、ここに表現されていると理解したい。但し、こうした敲打整形痕を残す磨製石斧が、西井氏が指摘されるように東からの影響によって出現している可能性が考えられることは、今後詳細に検討する必要があるだろう。また、こうした石器製作にみられる変化が、他の要素

とどのように関係しているのかを有機的に検討することが、今後の課題だといえる。本稿は一遺跡のみ検討で、紙幅も限られているため、今後改めて、当該期の磨製石斧について検討する機会をもちたい。

礮器

礮器は和歌山県高山寺貝塚で注目され、大分県早水台遺跡の調査以降、賀川光夫氏や橘昌信氏などによって検討されることとなる。そして、縄文時代早期にみられる特徴的な石器の一つとして理解されとともに、縄文時代全時期を通して存在することも指摘され、多様な機能・用途が想定された。

九州地方では主に大分県を中心とする縄文時代早期の遺跡から礮器が出土している。近年の論考をみると、荻幸二氏が大分県野出土の礮器を取り上げ、種々の検討から礮器の機能を「切断・折断・圧潰・裁ち割り・裁ち切りなど」と予察し、「どちらかという縄文早期のうちでも「礮器文化」は前半期に盛行し、後半期には減少の傾向を見せ、中期以降衰退すると考えられる」とする。そして、早期に礮器がまともに出土する背景として、他時期に「一定以上の数量の認められる石斧が、早期の段階には余り目立たないという事実が介在している」ことを想定している¹⁰。また、清水宗昭氏によれば「九州においては、後期旧石器から縄文早期後葉に至るまで連続と礮器の伝統は継続され」「その断絶は、磨製石



第140図 磨製石斧転用槌石・「楔」(1・2) ※註42文献・石器実測図(17)より。原兵器種名は磨製石斧

斧が急速に増加する縄文時代前期に置かれるものと考えられる。」という。そして、「片刃礮器がとくに樹木の伐倒等の粗い作業に使用された可能性が大きいことから、それに替わる磨製石斧の定着と盛行は、必然的に機能が重複する礮器類の衰微につながっていったものと推定」している。³²

なお、両論考には参考文献として取り上げられていないが、鈴木重治氏が早期押型土器に伴出する礮器の理解として「縄文時代の早期につづく前期以後の遺跡で普遍的に出土する石器のうち、工具としての磨製石斧や土掘り具としての打製石斧などの一般に石斧と呼ばれる石器の出土がきわめて稀であり、まず無いということである。」と1988年にすでに論じている。³³

中国・四国地方については、飯賀啓一郎氏が縄文時代草創期～晩期の石器組成分析を行うなかで示された主要遺跡の石器組成一覧表が参考になる。³⁴これによれば、礮器の出土遺跡はわずかで、例えば早期は23遺跡のうち西ガガラ遺跡第1地点と帝釈弘法滝洞窟で各1点出土しているのみで、前期は14遺跡中1遺跡2点、中期は7遺跡中なし、後期は35遺跡中3遺跡で7点（平城貝塚）・4点・2点、晩期は27遺跡中なしである。ただし、一覧表以外の遺跡での出土例もある。例えば、早期では上黒岩岩陰・宝伝岩陰遺跡・江川中軌遺跡・黄島貝塚などである。

近畿地方では1939年に高山寺貝塚の報告で注目され、1988年に鈴木重治氏が近畿地方も含めた西日本の押型土器伴出の石器のなかで礮器を論じて以来、積極的な形で検討の道に上がることはなかった。とはいえ三重県内では、礮器が中勢・南勢地域、志摩半島から熊野灘にかけての沿岸部・河川流域の遺跡で、発掘調査での出土のみならず、郷土史家によって1950年代以降採集されていたことが知られていた。しかし、かつてヨナゴ浜出土の「礮核石器」が「わが国最古の石器」の見出しで新聞報道されたことが象徴するように、礮器は原始的特徴ゆえに時期の比定が難しい石器であり、これが積極的な評価がなされなかった一つの理由かと思われる。

1990年代に入り、鴻ノ木遺跡（早期前半）で442点と大量に出土したことから、その報文において筆者らは県内縄文時代早期の遺跡を取り上げながら少し

ばかりの検討を行った。鴻ノ木遺跡ではいろいろな制約があるなか、調査担当者の判断により発掘調査区内のすべての石が回収され、整理段階でその膨大な量の石のなかから石器を選び出す作業や遺構埋土の水洗選別を行い、多くの石器類を抽出することができた。同様な調査法によって、前期後半の山添遺跡で10点、後期前半の新徳寺遺跡で5点の礮器が確認されている。晩期後半の本遺跡でも58点もの出土をみた。

今のところ三重県内でのあり方は地域的・時間的な出土数の多寡はあろうが、早期から晩期にかけて構成される石器といえる。愛知県・岐阜県についても、近年の集積結果から同様の状況を読み取ることができると見られる。

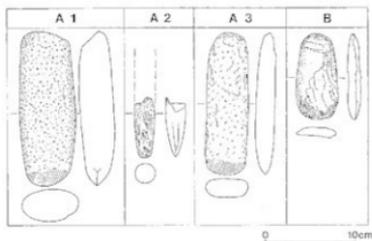
今回、本遺跡資料の十分な検討を行っていないことから若干の特徴を述べることはできない。それは、(7) 片刃礮器が大部分で両刃礮器は僅かであること、(8) 棒状礮や大型剥片を素材とする少数例を除けば、大多数は一定の厚みをもつ円礮・楕円礮に加工を行い、掌中に収まるようなサイズに仕上げていること、(9) 刃部（加工部位）の平面・断面形態はどの程度の機能・用途差、使用段階の違いを示すのか分からないが一様でないこと、(10) 加工部位を肉眼観察すると、つぶれ・微小剝離（刃こぼれ）・折れなどが幾らか確認できるが、使用石材が砂岩を中心としており、製作時の痕跡か使用時の痕跡か分別し得ていないこと、(11) 磨石・敲石類を転用して製作している例がみられること、などである。これら諸特徴は同じ徳田川流域に位置し時期の異なる鴻ノ木遺跡と比べても特に相違点を見いだせない。

今後、礮器をもつ遺跡とまたない遺跡の石器組成、河川流域や沿岸部など立地差における礮器形態、礮器の属性、使用痕、などそのあり方を検討していく必要がある。

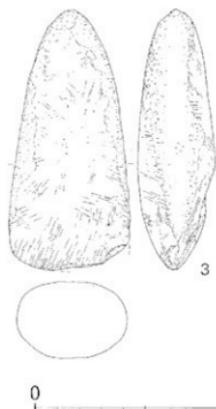
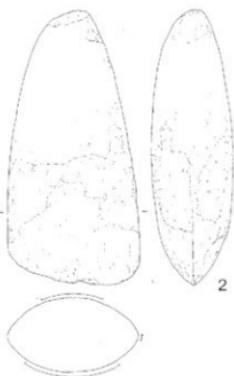
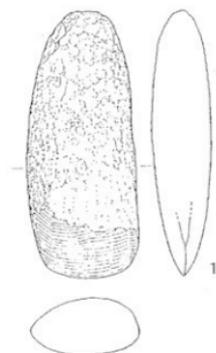
石刀

今回の調査では、把頭部破片1点・身部破片2点・身部未成品破片2点の合計5点が確認された。このうち把頭部の破片は、三重県下の同形態の資料としては初の有紋品であり、分布論的にも重要な位置を占めるものである。

今回出土した有紋把頭部の破片は、身部を欠損す



佐藤由紀男氏による磨製石斧分類 (佐藤 1999)
 (A 1—檜玉遺跡, A 2・B—麻生田大橋遺跡,
 A 3—五貫森遺跡)



(1—麻生田大橋遺跡, 2—上箕田遺跡, 3—岡田遺跡)

第141図 佐藤由紀男氏による磨製石斧分類と各地の磨製石斧(1:2)

るが石刀の把頭部であると推定される。また、他の
身部破片もその断面形から石刀であることがわか
る。出土資料に対する具体的検討の前に、まず石刀
をはじめとする石製品、とりわけ今回出土したよ
うな形態の石刀の出自の問題を中心として、筆者の基
本的理解を述べておきたい。

縄文時代の磨製棒状石製品のうち、後期以降に急
増する小型品について、断面が円形を呈するものを
「石棒（小型石棒）」とし、一方の側縁に刃部を形成
する「くさび形」の断面形をもつ「石刀」、鏃を形成
する菱形ないし扁平な楕円形を呈する「石剣」と
いう三分法が一般に使用されている。筆者は、この
断面形による三分法は、単なる断面形の三区区分とい
う意味では踏襲するが、同じ理解を採らない。つまり、
旧稿でも述べたように、ほぼ円形を呈するものを
「石棒」とは理解・呼称しないということである。
ここで改めて、三者の関係を次のように整理する。

まず、現在こうした石製品の理解の基礎となっ
ている論考として、後藤信裕氏が、「小型石棒」・「石
刀」・「石剣」を総称して「刀剣形石製品」と呼ぶこ
とを提唱されたものがある。これに対して、筆者は従
来「小型石棒」と呼ばれていた、断面が円形を呈
するものうち、両端に突出した可飾を付すものは、
刀剣の「着柄形態」と理解し、一方の端部に把頭
の表現と理解される可飾をもち、身部の断面形が「刀
形」もしくは「剣形」をとるものは、刀剣の「抜き身」
状態をそれぞれ表現したものと考え、「抜き身形態」
と呼称する。

後藤氏はそれらを細分する中で、断面が丸く両端
ないしは一端に可飾をもつ形態を「興野型」石棒と
呼んで、型式設定している。但し、その標式となっ
た遺跡名から「成興野型」が正しいことは、すでに
西脇対名夫氏をはじめ筆者らが指摘したところであ
る。

西脇氏は、こうした形態の石棒は、中国大陸の青
銅製剣が日本に渡来し、それをモデルとして、石剣
（後藤氏の「興野型」）が成立したというモデル論と
その後の同形態の展開に対する理解を提示された。

筆者もかつてこの形態の刀剣形石製品について、
若干の検討を加えたことがある。

まず、近畿地方の縄文・弥生移行期を中心とした

石製品の集成を行った際には、「成興野型」石棒とい
う名称で各資料を概観した。その後、兵庫県下の採
集資料を検討する中で、前述の西脇氏による大陸の
青銅製刀剣を模倣したとするモデル論を踏まえ、直
身であることから「剣」として捉えて、改めて「成
興野型石剣」として呼称し、その理解を提示した。

こうした刀剣形石製品は、主として東日本を中心
に分布するが、三重県下はその西縁にあたると思
われている。さらに「成興野型石剣」をはじめとす
る把頭部を作出する刀剣形石製品は、滋賀県以西の
近畿地方では、極めて少ない。特に「成興野型石剣」
はごく一部の搬入品と推定される事例を除いては出
土しておらず、主要分布域ではないことは、すでに
指摘したとおりである。加えて、それ以西の地域で
は、五指に満たない出土点数であり、その資料の評
価についても、若干の言及を行っている。

さて、本遺跡で出土した資料は、後期後葉に出現
したと考えられる「成興野型石剣」が各地で変容す
ることによって成立した形態である頭部を形成する
「石刀」の一種だと、筆者は考えている。前出の後藤
氏の分類では「小谷型」石刀と呼称されている形態
に相当する。

出土資料は、把頭部が石理に沿って縦に半載した
破片で、推定される全形は、残存部の長さや傾斜か
ら判断して、形態記述の項でも述べたように30cm前
後を測る。石材は片岩質であり、在地で製作された
と理解しておきたい。

次に、紋様構成を観察してみよう。主要分布域の
類例は、一組の三叉紋を縦方向に連結するものが多
いが、本資料は形態記述でも述べたように、側面
の状況が破損のため不明であるものの、少なくとも
表裏面では、3段の連続三叉紋が横方向に展開して
いることが観察される。こうした紋様構成の差異は、
分布の縁辺部に存在していることが反映されている
可能性が考慮されよう。

三重県下では、本形態の石刀は従来知られておら
ず、本遺跡と相前後して調査された前述の志知南浦
遺跡において、土器棺墓群域から把頭部無紋の同型
品が出土している。本遺跡例が把頭部の破片のみで
あるのに対して、南浦例は、切っ先をわずかに欠く
ものの、ほぼ全形をうかがうことができる資料であ

る(第142図)。石材は緑色片岩である。本遺跡例が、身部の破片も含めてシャープな作りであるのに対して、南浦例は全体にぼってりとした印象を受ける。南浦遺跡の土器群は、前出のように本遺跡よりも新しい時期を主体とするもので、南浦例が無敵である点や形態差は、時期差を反映している可能性もある。

第142図に本遺跡とその周辺地域の資料によって、後期後葉以降の刀剣形石製品の変遷案を示してみた。本地域は、縄文時代後半期に日本列島の東半に卓越する刀剣形石製品の主要分布域の西に接する外縁部にあたるかと理解され、出土例はこの図に示したものがほぼ全てといっても過言ではない状況である。

また、所属時期については、後藤氏は「小谷型」石刀を晩期の中葉としているが、本事例はそれよりもやや下がる時期のもので、南浦例がそれよりも更に新しくなる可能性があることから、同形態の石刀の継続時期は、後藤氏が想定したよりも終末が下降する可能性がある。

ここでは、一遺跡の報告の中での考察という制限もあり、今後本形態の石刀を含む本地域の刀剣形石製品について、今少し検討を進めてみたい。

遺構構成礫と石器・石製品

筆者らは先に述べた鴻ノ木遺跡での石器・石製品の選別作業に関わるなかで認識するに至ったことの1つは、遺構構成礫といえども石器・石製品と無関係とは限らないということである。通常、縄文時代の遺跡ではいわゆる川原石が多く出土するが、それらは集石等の遺構構成礫と認定されないかぎり、消極的ながらも何らかの意味づけがなされることはほぼないといえよう。

久保は平成15年4月27日に初めて本遺跡の「石」をみる機会を得、翌日調査担当者に簡単なコメントを送信した。その内容の一部をそのまま抜き出すと、「②単独で現場で取り上げられた礫の一部は、遺構として取り上げられた礫との類似性から、本来的には遺構(集石、配石、立石、土墳墓など)に関係するものであった可能性が高い。

③単独で現場で取り上げられた礫には割れ面をもつものが多くみられ、その面の観察から大部分は意図的に割られたものと思われる。また、火はげけによ

るものと思われる剥落痕跡もみられる。ただし、表面が赤化した礫については、受熱による赤化と脱水等で鉄分の沈着による赤化があり、注意が必要である。

④意図的に割られた面をもつ礫には、敲石、磨石、石皿・台石類も含まれる。

⑤したがって、「礫を割る行為」が何らかの意味をもつ行為であると考えられる。このような同様の行為は晩期のみならず、例えば早期の鴻ノ木遺跡、後期の天白遺跡でもみられる。

⑥立石・配石と認定された礫は、角柱状のもの、長楕円形(なまこ形、フランスパン形)状のもの、円盤状のもの、まな板状のものなど、多様である。

⑦立石の中には、角柱状を呈し、石皿・台石類の機能部の一部と思われる平滑面を留めるものがある。

⑧したがって、「礫を割る行為」の1つは、石器を遺構構成礫に転用するという行為であるが、何故に石器を転用するのかという意味づけが課題となる。

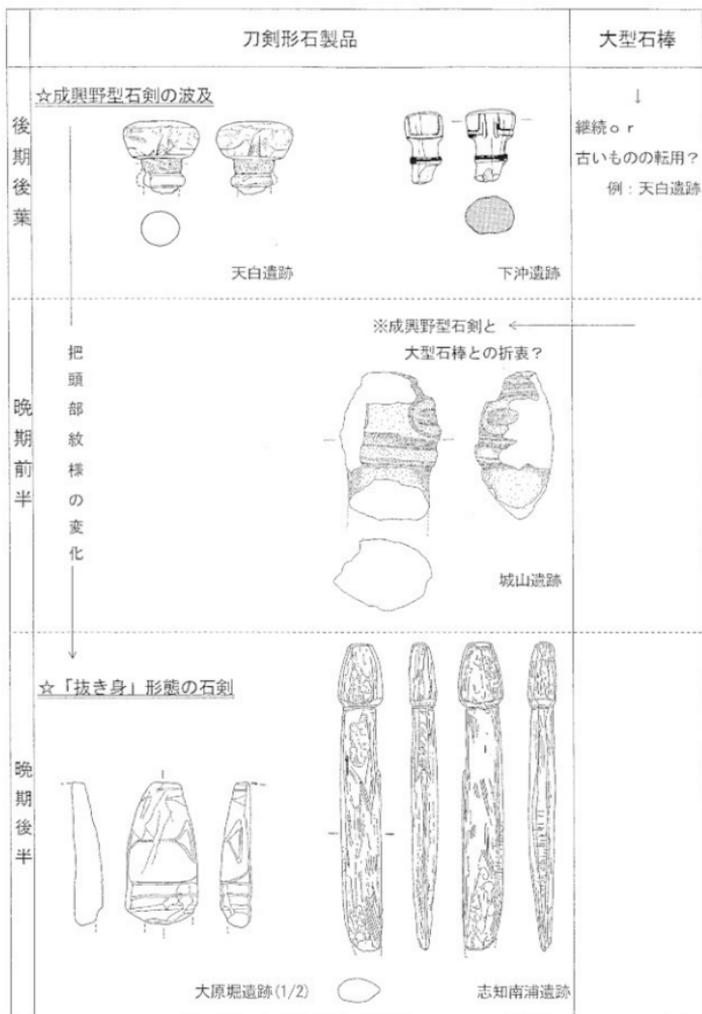
⑨黄白色のまな板状の割れた礫が異なるグリッド間で接合した。「礫を割る行為」を考える上で、時間的な問題等はあるが、特徴的な外観を呈する割れた礫の接合作業を試みることも意味があると考える。

⑩礫片の中には刃こぼれ状の剥離痕がみられたり、縁辺が摩耗した感があったり、腹面中央部に研磨痕(あるいは砥石の機能部)を留めているものなど、石器として使用がみられる。

以上である。他に参考となる遺跡に奈良県宮の平遺跡(早期中心)がある。ここでは772点ある磨石・敲石類や石皿類の大半が集石遺構・堅穴住居の可能性のある遺構から出土している。筆者らが調査現場を訪れた際、鴻ノ木遺跡での経験から集石遺構に注視したところ、構成礫に意図的な剥離痕跡をもつものが幾らか含まれていることが確認できた。

本遺跡において具体的には石皿1178が立石SS65、台石1755が立石SS63に転用されており、今後、遺構構成礫や一見遺構構成礫と思われぬものについても「石器が含まれる」という意識をもって観察する必要がある。

本遺跡の今回の調査成果は、これまでまとまった石器群が少なかった晩期後半の資料として、良好な石器・石製品を得ることができたことである。小稿



第142図 三重県の後期後葉～晩期の石剣形石製品変遷表(試案)(大原堀遺跡以外は1:4)

が遺跡の理解に対する一助となれば、幸いである。

最後に、志知南浦遺跡の石刀への言及と図の使用

許可を頂いた調査担当者に感謝申し上げます。

(大下 明・久保勝正)

4 自然科学分析からえられた知見

大原堀遺跡第2・3次調査において、花粉分析、微細植物遺体分析、骨同定、リン酸分析を行った。各分析の目的と結果については、以下に述べたいと思う。

(1) 花粉分析

古植生に関する情報をえて、遺跡の古環境を復元することにある。結果としては、遺構が確認できた層で、花粉化石やシダ類胞子がほとんどみられないことが判明した。今回の分析は、縄文時代の植生環境を表しているとは言い難いものであった。今後、周辺の古植生の情報の蓄積が待たれるところである。

(2) 微細植物遺体分析

墓とされる遺構の土壌試料を水洗すること、肉眼では確認できない遺物等を確認することにある。墓と考えられる遺構、S X29・31・37・39・40・43・48・50、S K56を対象とした。結果としては、炭化材・動物遺骸を微量確認することができたものの、種類を特定するには至らなかった。

(3) 骨同定

墓と想定されている遺構の、遺体埋納の検討を行うためである。墓と考えられる遺構、S X38・40・45、S K56・73・74、Pitを対象とした。同定の結果、人骨は確認されず、イノシシ、ニホンジカ、獣骨の骨片であることが判明した。S X45出土骨は、現在ではみられないような大形のイノシシであることが判明した。また、いずれの骨片も被熱しているもの

であり、儀礼的な何かに使用されていた可能性があるのかもしれない。松阪市天白遺跡でも骨片の出土が確認されている。縄文時代の精神世界を考える上で、情報の蓄積に貢献するものといえよう。

(4) リン酸分析

骨同定と同様に、墓と想定される遺構の、遺体埋納の検討を行うためである。墓と考えられる遺構、S X29・31・37・39・40・43・48・50、S K56を対象とした。すべての土壌から、自然状態よりリン酸の濃集を確認することができた。いずれの遺構にも骨が埋納されていた可能性があることが判明した。ただ、先述にもあるように、骨は人骨ではなく、一概に遺構の性格が墓とは言い難い状況と思われる。遺跡周辺から持ち込まれた骨が遺構埋土に混入した可能性もあり、獣類の埋納も考えられなくもないが、断定はできないと思われる。

(5) 発掘調査と科学的な手法

このように、発掘調査からえられる情報が、科学的な手法を導入することにより、飛躍的に増加したことは、紛れもない事実である。実際、発掘調査からえられた試料から、科学的な手法を介して大きな成果がえられる場合も多いといえる。しかしながら、安易に科学的手法に依存し、結果を盲信するのは良い状況とはいえない。目的を明確にもち、情報を確実に読み取る努力を怠らないことが肝要ではないだろうか。(小濱 学)

5 総括

大原堀遺跡第2・3次調査の成果としては、以下のことがあげられる。列記して総括としたい。

- ① 藤田川中流域の河岸段丘上に立地し、遺構検出面が複数存在する複雑な土層堆積状況を呈する遺跡であることが判明した。
- ② 縄文時代前期から晩期、奈良時代(8世紀)～中世(15世紀)の遺構あるいは遺物を確認することができた。
- ③ 縄文時代晩期の土器棺墓、土壇墓や立石を多数確

認することができた。調査地点については、縄文時代晩期には墓域である可能性とともに、当時の埋葬の状況や墓域と居住域との位置関係、当時の人々の住居形態を考える上で、多くの情報を得ることができた。

④ 縄文時代前期から晩期の土器が多数出土した。特に、晩期土器群については、西日本系、東海系、東日本系の土器が確認でき、当該期土器群の拡散状況から、日本列島の広範囲で地域間の交流が当時行わ

れていた可能性がある。

⑤大量の縄文時代石器群を確認することができた。石材については、ササカイトや下呂石の使用が確認でき、晩期土器群と同様に当時の人々の汎日本列島における地域間交流を窺える。

⑥縄文時代晩期土器群にみられる朱彩土器や縄文時代晩期のものと思われる朱付着の石器の存在から、縄文時代晩期には、中央構造線に近接する辰砂産出地域という地理的な特徴を生かした朱の生産と使用が大原遺跡では認められる。

【註】

- ①三重県教育委員会「上ノ広遺跡」（『近畿自動車道（久居～勢和）埋蔵文化財発掘調査報告書第1分冊1～1』1989年）
- ②前掲註①
- ③松阪市史編さん委員会『松阪市史第二巻史料篇考古』（1978年）
- ④前掲註①
- ⑤前掲註①
- 松阪市教育委員会『王子広遺跡発掘調査報告書』（1990年）
- ⑥前掲註⑤下段文獻
- ⑦前掲註⑤下段文獻
- ⑧勢和村史編集委員会『勢和村史 通史編』（1999年）
- ⑨縄文晩期の土器群が多く検出される遺跡の多くは当遺跡と同様の状態で、「土盛り」が行われた可能性が下記の文獻等で想定されている。
- 中村健二「縄文晩期土器群の調査方法について—近畿地方の場合—」（『紀要』第9号 財団法人滋賀県文化財保護協会 1996年）
- 川岳和峻「東海地域における「墓場」の様相」（『墓場の考古学』第13回東海考古学フォーラム実行委員会 2006年）
- ⑩前田清彦「土壌墓の性格」（小杉康他編『縄文時代の考古学9 死と弔い—葬制—』同成社 2007年）
- ⑪酒井巳紀子「結語 2 縄文時代の調査成果」（『志知南浦遺跡発掘調査報告書』三重県埋蔵文化財センター 2008年）
- ⑫伊勢湾東岸地域で検出された土器群墓について、近接する土器群墓の主軸方位が同一か逆方位、あるいは直交方位である事例が認められており、同様の傾向があることが指摘されている（前掲註文獻）。
- ⑬鈴木克彦「伊勢湾沿岸地域における古帯文深鉢の様相—伊勢地方からの視点—」（『三重県史研究』第6号 三重県 1990年）
- 山田猛「伊勢の突帯文土器—野々田遺跡と蛇亀橋遺跡を中心に—」（『いちのみや考古』終刊号（通巻No.20）

⑭自然科学分析を行うことで、肉眼では観察できない土壌に含まれるリン酸の濃度から対象の縄文時代遺構群が墓の可能性があると判明した。

⑮縄文時代遺構等から出土した骨片の骨同定を行ったことで、骨片のすべてが被熱のみられる獣骨であり何らかの儀礼に使用されていることが判明し、縄文時代晩期の儀礼の一端が窺える情報を考古学的手法以外のアプローチからえることができた。

（小濱 学）

—宮考古学会 2006年）

⑯佐野 元「突帯文土器出現以前—所謂「扇荷山式」板井式」の評価—」（『突帯文土器から条痕文土器へ—伊勢湾周辺地域における縄文文化の解体と弥生文化の始まり—』第1回東海考古学フォーラム豊橋大会実行委員会 突帯文土器研究会 1993年）

⑰前掲註⑯

⑱前掲註⑯

野口哲也「突帯文土器」（『突帯文土器から条痕文土器へ—伊勢湾周辺地域における縄文文化の解体と弥生文化の始まり—』第1回東海考古学フォーラム豊橋大会実行委員会 突帯文土器研究会 1993年）

⑲伊勢湾周辺地域で検出された晩期の土壌墓（埋葬人骨）について、近接して埋葬された人骨の主軸方位（頭位方向）が同一か逆方位、あるいは直交方位である事例が多く、貝塚遺跡で認められることが指摘されている（前掲註文獻）。

⑳前掲註⑲文獻。

㉑前掲註⑲文獻。

㉒瀬川拓郎「環状土庫の成立と解体」（『考古学研究』第27巻第3号 考古学研究会 1980年）

山田康弘「縄文人の埋葬属性と土壌長」（『筑波大学先史学・考古学研究』第10号 筑波大学歴史・人類学系 1999年）

以下、本文での分析は上記の文獻による。

㉓前掲註⑲の山田論文では、伸展葬の事例が幼児・小児・青年期の段階でないもの、思春期と壮年期以降で±0.3mほどの差があり、年齢段階が上がるにつれて土壌長が連続的に大きくなることが指摘されている。従って、近似するデータのある思春期段階と推定した。

㉔前掲註⑲の山田論文では、埋葬遺体の種及び膝関節の角度が土壌長に直接的な影響を与えるとして、埋葬に關して3パターンのデータを提示しているが、ここではこれらのデータに近似した年齢段階に推定した。

㉕前掲註⑲

㉖前掲註⑲

㉗前掲註⑲

- ㉔前掲註5
 ㉕前掲註5
 ㉖田村隆一「縄文集落の立地と規模—伊勢湾西岸地域の場合—」(関西縄文文化研究会編『関西縄文時代の集落・墓地と生業 関西縄文論集1』六—書房 2003年)
 ㉗前掲註5 川添論文
 ㉘前掲註5 川添論文
 ㉙前掲註5
 ㉚中村健二「墓制の変遷」(第2回関西縄文文化研究会発表要旨集『関西の縄文墓地—葬り葬られた関西縄文人—』関西縄文文化研究会 2000年)
 ㉛名古屋市教育委員会「下川原遺跡第3次調査概要」(2000年) 前記文献では総数26基のうち、濠貫Ⅲa式が8基、同Ⅲb式が17基、同Ⅳ式が1基とされている。
 ㉜前掲註5 文獻
 ㉝三重県埋蔵文化財センター「丸戸・中谷遺跡発掘調査報告」(2003年)
 ㉞中村健二「西日本の葬・墓制」(小杉康他編『縄文時代の考古学9 死と葬い—葬制—』同成社 2007年)
 ㉟若川日出志「伊勢湾沿岸における縄文時代晩期・弥生時代の石器組成」(『柔飯文系土器』文化をめぐる諸問題』研究編、愛知考古学談話会、1988年)
 石黒文人「突帯文土器期から柔飯文系土器期の石器について」(『第1回東海考古学フォーラム・豊橋大会 突帯文土器から柔飯文系土器へ—伊勢湾周辺地域における縄文時代の解体と弥生文化の始まり—』同大会実行委員会・突帯文土器研究会、1993年)
 ㊱大下 明・久保勝正「Ⅷ考察 (3) 石器・石製品」(『天白遺跡』三重県埋蔵文化財センター、1995年)
 ㊲奥 義次「朱の生産と供給」(『縄文時代の考古学6 ものづくり—道具製作の技術と組織—』同成社、2007年)
 ㊳奥 義次「第一章 原始」(『飯高町郷土誌 飯高町郷土誌編纂委員会、1986年)
 ㊴豊川市教育委員会「麻生大田橋遺跡発掘調査報告書」(1993年)
 ㊵大下明「関西における縄文時代後・晩期石器群の概要」(『縄文時代の石器Ⅲ—関西の縄文後期・晩期—』関西縄文文化研究会、2004年)
 ㊶松田順一郎「楔形兩極石核の分割に関する実権—縄文時代晩期サヌカイト製打製石核製作技術の復元に向けて—」(『光陰如矢—筑田昭次先生古稀記念論集—』光陰如矢 刊行会、1999年)
 ㊷同。同。
 ㊸同。同。
 ㊹湯浅利彦「五角形核」小考—西日本における縄文時代晩期を中心とした打製石核の素描—(『真朱』創刊号 徳島県埋蔵文化財センター、1992年)
 ㊺鈴木木道「縄文時代晩期における石核小考—所携飛行機機と晩期石核について—」(『古代文化』26—7 古代学協会、1974年)
 ㊻川添和靖「東海地域における縄文時代晩期の石核について」(『関西縄文時代における石器・集落の諸相 関西縄文論集2』関西縄文文化研究会、2005年)
 ㊼小川憲一「大原遺跡出土の石器」(『縄文時代の石器Ⅲ—関西の縄文後期・晩期—』関西縄文文化研究会、2004年)
 ㊽旧稿において遺漏・誤認があり、有名称の出土遺跡例も板方表面採集資料を含め新たに加えている。ただし、旧稿での主旨が基本的に変更はない。久保勝正「縄文時代後期・晩期の石核について」(『縄文時代の石器Ⅲ—関西の縄文後期・晩期—』関西縄文文化研究会、2004年)、久保勝正「近畿地方の黒曜石・下呂石」(『関西縄文時代における石器・集落の諸相 関西縄文論集2』関西縄文文化研究会、2005年)
 ㊾森田幸伸ほか「第1章 旧石器・縄文時代」(『明和町史 史料編 第一巻 自然、考古』明和町史編さん委員会、2004年)
 ㊿同。同。
 ㊿久保邦江・久保勝正「奈良県における縄文時代後期・晩期の石器群について」(『縄文時代の石器Ⅲ—関西の縄文後期・晩期—』関西縄文文化研究会、2004年)
 ㊿野野町教育委員会「小森岡遺跡」(1990年)
 ㊿同。同。
 ㊿久保勝正「縄文時代後期・晩期の石核について」(『縄文時代の石器Ⅲ—関西の縄文後期・晩期—』関西縄文文化研究会、2004年)
 ㊿渋谷綾子「(史料紹介) 佃遺跡・更良岡山遺跡の石皿および三宅宅遺跡の土器付着物における残存デンプン」(『古代文化』第59巻第2号、財団法人古代学協会、2007年)
 ㊿大下 明「石器および石製品」(『見聞遺跡 其の二』竹野町教育委員会、1997年)
 ㊿豊橋市教育委員会「麻生大田橋遺跡発掘調査報告書、1993年)
 ㊿大下 明「関西における縄文時代草創期・早期石器群の概要」(『縄文時代の石器—関西の草創期・早期—』関西縄文文化研究会、2002年)
 ㊿大下 明「関西における縄文時代前・中期石器群の概要と石器組成の検討」(『縄文時代の石器 関西の前期・中期』関西縄文文化研究会、2003年)
 ㊿大下 明「関西における縄文時代後・晩期石器群の概要」(『縄文時代の石器 関西の後期・晩期』関西縄文文化研究会、2004年)
 ㊿西井幸雄「静岡県西部における縄文時代の磨製石斧」(『板機』第5号、板機同人会、1994年)
 ㊿徳他に製作段階で4分類し、両者を組み合わせているが、ここでは平面形態のみを採り上げる。佐藤由紀男「第6章 伊勢湾周辺の突帯紋系・柔飯紋系土器期における磨製石斧の生産と流通」(『縄文弥生移行期の土器と石器』雄山閣、1999年)
 ㊿文献参照

和園西縄文化研究会第6回研究会の際には、佐藤氏が「A2期」とした細身の石斧が、大原塚遺跡と出土していると述べたが(注文献・大下2004)、同時期に遺物を実見した志知南浦遺跡と混同して、誤認していた。研究会の際にその誤認に気付いたが、訂正できなかったため、この場を借りてお詫び申し上げ、訂正しておきたい。

④例えば、筆者らが石器群を検討した後期後葉の天白遺跡(松阪市・田畑野町)では、24点の磨製石斧のうち、自然礫の形態を生かして刃部のみを研磨で作出したイレギュラーなもの1点と破片刃部などの破片5点を除くと、形態を判断できるものは、すべてが「定角式」石斧によって占められている。

大下 明・久保勝正「Ⅶ考察(3)石器・石製品」(『天白遺跡』三重県埋蔵文化財センター、1995年)

⑤⑥文献のうち、大下2004参照。

土谷崇夫「関西地方の後晩期における磨製石斧の地域性—形態・石材・大きさを主に—」(『縄文時代の石器—関西の後・晩期』関西縄文文化研究会、2004年)・中村健二「湖辺の縄文時代遺跡」(『丸木舟の時代』サンライズ出版、2006年)。

⑦御坊市教育委員会・御坊市文化財調査会「堅田遺跡—弥生時代前期集落の調査—」(2002年)。遺物の実見に際して、お世話になった中村貞史・久貝健・川崎雅史・立岡和人の各氏に感謝申し上げます。

⑧賀元洋「伊勢湾岸における弥生時代前期の土器様相」(『編機』第5号、転載同人会、1994年)

⑨福宜田住夫「伐採石斧の柄」(『国家形成期の考古学—大阪大学考古学研究会10周年記念論集—』(大阪大学考古学研究室、1999年)。

⑩萩幸二「縄文時代早期の大分平野出土の石器に関する一考察(2)」(『利根川』24・25 利根川同人、2003年)

⑪清水宗昭「九州における石器の伝統と展開」(『史学論叢』第36号 別府大学、2006年)

⑫鈴木重治「埋蔵土器伴出の石器—西日本を中心に—」(『縄文早期を考える—埋蔵土器の諸問題—』帝塚山考古学研究所、1988年)

⑬敬賀啓一郎「IV 石器組成分析による縄文時代生産活動の復元—中国、四国地方を中心に—」(『常磐遺跡群発掘調査室年報XVI』広島大学大学院文学研究科常磐遺跡群発掘調査室、2002年)

⑭中日新聞 昭和41年10月8日付、伊藤秋男「五ヶ所湾の先史時代—第一次調査・相賀南、磯浦両地区を中心として—」(『南伊勢五ヶ所湾総合学術調査報告』三重県郷土資料刊行会、1967年)

⑮大下明「兵庫県三田市内神下井沢遺跡出土石剣の復元的検討」(『山下秀樹氏追悼考古論集』山下秀樹氏追悼論文集刊行会、2004年)。

⑯後藤信裕「縄文時代後晩期の刀剣形石製品について(上)」(『考古学研究』第33巻第3号、考古学研究会、1986年)・後藤信裕「縄文時代後晩期の刀剣形石製品

について(下)」(『考古学研究』第33巻第4号、考古学研究会、1987年)。

⑰⑱文献参照。

⑳大下明「近畿地域(大阪府・兵庫県・京都府・奈良県・和歌山県)の集成と概要」(『縄文・弥生移行期の石製技術具2』小林青樹編、2001年、西脇対名夫「石剣—ト」(『野村崇先生選集記念論文集 北方の考古学』同刊行会、1998年)、池田淳子「D 成興野型石棒の変遷と分布について」(『奥三面ダム関連発掘調査報告書XIV 元屋敷遺跡II(上段)』新潟県旭村教育委員会、2002年)

㉑⑳文献と同じ。

㉒⑳文献と同じ。

㉓⑳文献と同じ。但し、本来の意図としては着替状態の「刀」を表現しようとしていた可能性も否定されるものではない。

㉔⑳・㉑文献で、各遺物の評価や西日本の様相についての概略を整理している。

㉕⑳は次の各文献から引用した。一部改題したものもある。大下明・久保勝正「Ⅶ考察(3)石器・石製品」(『天白遺跡』三重県埋蔵文化財センター、1995年)・福野町教育委員会「下沖遺跡発掘調査報告書」(2000年)・明和町史編さん委員会『明和町史』史料編・第一巻—自然・考古—(2004年)。

天白遺跡の大型石棒については、報告書執筆の時点で、古い段階の石棒の再利用である可能性を指摘した。しかし、近年の資料的状況から判断すると、後期末までこうした大型石棒が残存する可能性もあると考えているが、詳細に検討する段階には至っていない。

【参考文献】

- 遺構・土器
三重県教育委員会「蛇亀橋遺跡」(昭和56年度県営園場整備事業地域埋蔵文化財調査報告)、1982年)
『日本歴史地名大系第24巻 三重県の地名』(平凡社、1983年)
川崎志乃「水銀朱精製に関する予察—天白遺跡出土遺跡を中心に—」(『研究紀要 第9号 一特集 三重の生産遺跡—』三重県埋蔵文化財センター、2000年)
森川幸雄「三重県の縄文墓址」(『研究紀要 第11号 一特集 三重の縄文時代—』三重県埋蔵文化財センター、2002年)
鈴木克彦「伊勢湾沿岸地方における凸帯文深鉢の様相—伊勢地方からの視点—」(『三重県史研究』第6号 三重県、1990年)
佐野元「突帯文土器出現以前—所謂「稲荷式」「板井式」の評価—」(『突帯文土器から突帯文土器へ—伊勢湾周辺地域における縄文文化の解体和弥生文化の始まり—』第1回東海考古学フォーラム豊橋大会実行委員会 突帯文土器研究会 1993年)
野口哲也「突帯文土器」(『突帯文土器から突帯文土器へ

- 一伊勢湾周辺地域における縄文文化の解体と弥生文化の始まり」第1回東海考古学フォーラム豊橋大会実行委員会 突帯文土器研究会 1993年)
- 戸沢充則編『縄文時代研究事典』(1994年)
- 三重県埋蔵文化財センター「太白遺跡」(1995年)
- 名張市教育委員会『下川原遺跡 5次調査の概要』(1997年)
- 兵庫県教育委員会「佃遺跡」(1998年)
- 縄文時代文化研究会『縄文時代』第10号(1999年)
- (財)大阪府文化財調査研究センター「向出遺跡」(2000年)
- 名張市教育委員会「下川原遺跡第3次調査概要」(2000年)
- (財)愛知県教育サービスセンター・愛知県埋蔵文化財センター「牛牧遺跡」(2001年)
- 勢和村教育委員会「片野城垣内遺跡」(2001年)
- 三重県埋蔵文化財センター「丸野・中谷遺跡発掘調査報告」(2003年)
- 三重県埋蔵文化財センター「志知南浦遺跡発掘調査報告」(2008年)
- 石器
- 末永雅雄「宮瀧の遺跡」(1944年)
- 小島俊次「吉野川流域の古文化について」『奈良県総合文化財調査報告書 吉野川流域』(奈良県教育委員会、1954年)
- 嶋正央「奥熊野の縄文式文化一尾鷲市曾根遺跡・熊野市釜平遺跡を中心として」(尾鷲市教育委員会・熊野市教育委員会、1959年)
- 奈良県教育委員会「榎原」(1961年)
- 鈴鹿市教育委員会「北一色遺跡発掘調査概要報告」(1968年)
- 澄田正一ほか『新編 一宮市史 資料編一』(一宮市、1970年)
- 滋賀県教育委員会「湖西線関係遺跡調査報告書」(1973年)
- 鈴木道之助「縄文時代晩期における石鏃小考一所謂飛行機鏃と晩期石鏃について」『古代文化』26-7 古代学協会、1974年)
- 大場篤久「第一編 原始・古代」『鈴鹿市史 第一巻』鈴鹿市教育委員会、1980年)
- 早川正一「磨製石斧」『縄文文化の研究』第7巻-道具と技術-、雄山閣、1983年)
- 奈良県立橿原考古学研究所「竹内遺跡試掘調査概報」(奈良県遺跡調査概報 1984年度) 1985年)
- 今津町教育委員会「今津町文化財調査報告 第5集」(1986年)
- 後藤信裕「縄文時代後晩期の刀剣形石製品について(上)」『考古学研究』第33巻第3号、考古学研究会、1986年)
- 桜井市教育委員会「大輪中学校改築にともなう発掘調査報告書」(1987年)
- 奈良県立橿原考古学研究所「竹内遺跡第14・15次発掘調査概報」(奈良県遺跡調査概報 1997年度) 1998年)
- 後藤信裕「縄文時代後晩期の刀剣形石製品について(下)」『考古学研究』第33巻第4号、考古学研究会、1987年)
- 海南市教育委員会「溝ノ口遺跡Ⅱ」(1987年)
- 八尾市教育委員会「八尾市内遺跡昭和61年度発掘調査報告書Ⅰ一恵智遺跡の調査」(1987年)
- 度会町遺跡調査会「森添遺跡発掘調査概要Ⅰ」(1987年)
- 度会町遺跡調査会「森添遺跡発掘調査概要Ⅱ」(1988年)
- 石川日出志「伊勢湾沿岸における縄文時代晩期・弥生時代の石器組成」(『奈良文系土器』文化をめぐる諸問題) 研究編、愛知考古学談話会、1988年)
- 西藤対名夫「石剣・石刀」(『考古資料図録』財団法人辰馬考古資料館、1988年)
- 中川道典・服部信博「宮川下流域の縄文遺跡」(『歩跡』第4号 泉學館大学考古学研究会、1989年)
- 埋蔵文化財天理教調査団「布留遺跡三島(木寺)地区・豊田(三反田)地区発掘調査報告」(1989年)
- 河合町教育委員会「宮堂遺跡Ⅱ 第3次発掘調査概要報告」(1995年)
- 竹野町教育委員会「小森間遺跡」(1990年)
- 三重県教育委員会「天保遺跡Ⅱ地区」(1991年)
- 多湖敬樹「藤原遺跡」(『兵庫県史 考古資料編』兵庫県史編集専門委員会、1992年)
- 大下明「第Ⅳ章11 佐々木武門氏収集資料の調査」(『紀伊半島の文化史的研究 考古学編』関西大学文学部考古学研究室、1992年)
- 湯浅利彦「五角形鏃小考一西日本における縄文時代晩期を中心とした打製石鏃の素描」(『真珠』創刊号 徳島県埋蔵文化財センター、1992年)
- 鈴鹿市教育委員会・鈴鹿市「上箕田遺跡」(鈴鹿市埋蔵文化財調査報告12、1993年)
- 石黒入人「突帯文土器期から条文系土器期の石器について」(『第1回東海考古学フォーラム・豊橋大会 突帯文土器から条文系土器へ一伊勢湾周辺地域における縄文文化の解体と弥生文化の始まり』同大会実行委員会・突帯文土器研究会、1993年)
- 豊川市教育委員会「麻生田大橋遺跡発掘調査報告書」(1993年)
- 贊元洋「伊勢湾岸における弥生時代前期の土器様相」(『転機』第5号、転機同人会、1994年)
- 西井幸雄「静岡県西部における縄文時代の磨製石斧」(『転機』第5号、転機同人会、1994年)
- 田村陽一「佐々木武門考古資料図録」(大王町教育委員会 1994年)
- 大下明・久保勝正「Ⅱ考察 (3) 石器・石製品」(『太白遺跡』、三重県埋蔵文化財センター 1995年)
- 吉村公男「宮堂遺跡Ⅱ 第3次発掘調査概要報告」(河合町教育委員会、1995年)
- 菅栄太郎「石鏃資料の型式および製作技法の編年の検討」(『良原・瓜破遺跡発掘調査報告Ⅱ』大阪市文化財協会(1995年))
- 和歌山県文化財センター「川辺遺跡発掘調査報告書」8 (1995年)
- 三重県埋蔵文化財センター「太白遺跡」(1995年)

- 前田清彦ほか「座談会 石器の変化からわかること」(『縄文・弥生 変換期の考古学-第1回東海考古学フォーラム・豊橋大会の記録-』東海考古学フォーラム、1995年)
- 能登川町教育委員会「正楽寺遺跡」(1996年)
- 滋賀県教育委員会「小川遺跡3」(1996年)
- 東大阪市文化財協会「鬼原遺跡第8次発掘調査報告書」(1997年)
- 西脇対名夫「石剣ノート」(『野村崇先生選別記念論文集 北方の考古学』同刊行会、1998年)
- 奈良県立橿原考古学研究所「大柳生ツクダ遺跡 現地説明会資料」(1998年)
- 森川実・岡田恵一「秋篠・山陵遺跡」(奈良大学文学部考古学研究室、1998年)
- 奈良県立橿原考古学研究所「竹内遺跡第14・15次発掘調査概報」(『奈良縣遺跡調査概報 1997年度』(1998年)
- 佐藤由紀男「第6章 伊勢湾周辺の突帯紋系・条痕紋系土器期における磨製石斧の生産と流通」(『縄文弥生移行期の土器と石器』雄山閣、1999年)
- 彌宮田佳男「伐採石斧の柄」(『国家形成期の考古学-大阪大学考古学研究会10周年記念論集-』大阪大学考古学研究室、1999年)
- 滋賀県教育委員会「金屋遺跡」(2000年)
- 姫野町教育委員会「下神遺跡発掘調査報告」(2000年)
- 勢和村教育委員会「片野塚内遺跡」(2001年)
- 大下 明「近畿地域(大阪府・兵庫県・京都府・奈良県・和歌山県)の集落と概要」(『縄文・弥生移行期の石器製作術具2』小林青樹編、2001年)
- 川添和雄「東海地域における縄文時代晩期の石鏃について」愛知県埋蔵文化財センター『牛牧遺跡』(2001年)
- 大下 明「関西における縄文時代草創期・早期石器群の概要」(『縄文時代の石器-関西の草創期・早期-』関西縄文文化研究会、2002年)
- 田村篤一「三重県津ノ木遺跡の発掘調査へ石器を中心に」(『縄文時代の石器-関西の縄文草創期・早期-』関西縄文文化研究会、2002年)
- 奈良県立橿原考古学研究所「宮の平遺跡Ⅱ」(2002年)
- 奈良県立橿原考古学研究所附属博物館「橿原遺跡」(2002年)
- 三重県埋蔵文化財センター「六次A遺跡発掘調査報告書」(2002年)
- 川添和雄「磨製石斧」(『縄文時代の石器 関西の前期・中期』関西縄文文化研究会、2003年)
- 阿児町教育委員会「長尾遺跡発掘調査報告書」(2003年)
- 大下 明「関西における縄文時代前・中期石器群の概要と石器組成の検討」(『縄文時代の石器 関西の前期・中期』関西縄文文化研究会、2003年)
- 奈良県立橿原考古学研究所「西坊城遺跡Ⅱ」(2003年)
- 森田幸伸ほか「第1章 旧石器・縄文時代」(『明和町史 史料編 第一巻 自然・考古』明和町史編さん委員会、2004年)
- 多賀町教育委員会「土田遺跡-第4次調査・第5次調査-」(2004年)
- 土谷崇夫「関西地方の後晩期における磨製石斧の地域性-形態・石材・大きさを主に-」(『縄文時代の石器 関西の後期・晩期』関西縄文文化研究会、2004年)
- 大下 明「関西における縄文時代後・晩期石器群の概要」(『縄文時代の石器 関西の後期・晩期』関西縄文文化研究会、2004年)
- 大下 明「兵庫県三田市内神下井沢遺跡出土石剣の復元的検討」(『山下秀樹氏追悼考古論集』山下秀樹氏追悼論文集刊行会、2004年)
- 平谷欣太ほか「かしの歴史をさぐる 11」(橿原市千塚資料館、2004年)
- 鈴木康二「複形石器」(『縄文時代の石器Ⅲ-関西の縄文後期・晩期-』関西縄文文化研究会、2004年)
- 久保勝正「縄文時代後期・晩期の石鏃について」(『縄文時代の石器Ⅲ-関西の縄文後期・晩期-』関西縄文文化研究会、2004年)
- 久保邦江・久保勝正「奈良県における縄文時代後期・晩期の石器群について」(『縄文時代の石器Ⅲ-関西の縄文後期・晩期-』関西縄文文化研究会、2004年)
- 久保勝正「近畿地方の黒曜石・下呂石」(『関西縄文時代における石器・集落の諸様相 関西縄文論集2』関西縄文文化研究会、2005年)
- 関西縄文文化研究会「関西縄文時代における石器・集落の諸様相 関西縄文論集2」(2005年)
- 三重県埋蔵文化財センター「式ノ坪遺跡発掘調査報告書」(2005年)
- 小玉道明「考古の社会史-伊賀・伊勢・志摩・東紀州考古記録-」(光出版、2006年)
- 滋賀県立安土城考古博物館「原状地の考古学-愛知・犬上の古代文化-」(2006年)
- 中村健二「湖辺の縄文時代遺跡」(丸木舟の時代)サンライズ出版、2006年)
- 馬場伸一郎「打製石製品の分析」(『朝日遺跡Ⅶ 第2分冊 出土遺物』愛知県埋蔵文化財センター、2007年)
- 渋谷綾子「史料紹介 御遺跡・更良岡山遺跡の石皿および三宅西遺跡の土器付着物における共存デンプン」(『古代文化』、第59巻第2号、財団法人古代学協会、2007年)

写真図版



A1地区調査前状況（北西から）



A1地区調査区全景（北西から）

写真図版2



A1地区SB1 (北から)



A1地区A5グリッドF111遺物出土状況 (南から)



AⅢ・AⅣ地区調査前状況（北西から）

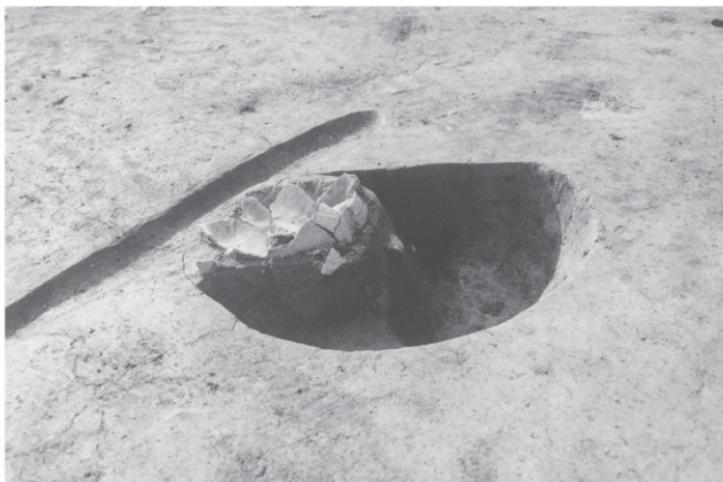


AⅢ地区第1検出面調査区全景（北から）

写真図版 4



AⅢ地区S X25土器棺出土状況（西から）



AⅢ地区S X28土器棺出土状況（東から）

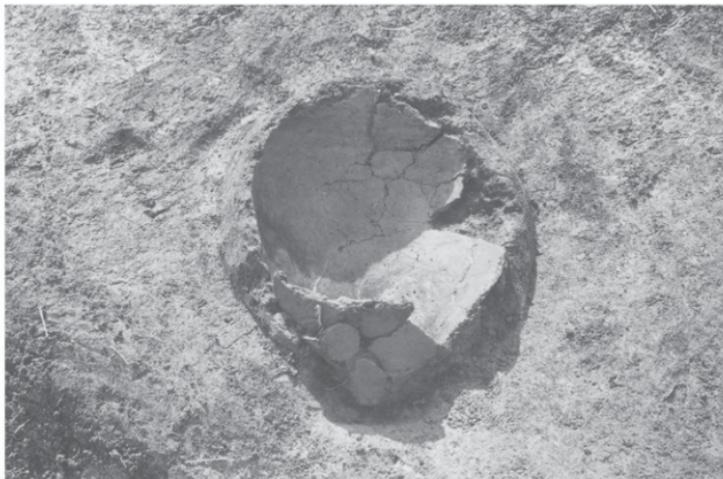


AⅢ地区S X29土器棺出土状況（南から）



AⅢ地区S X46土器棺出土状況（南から）

写真図版 6



AⅢ地区S X59土器棺出土状況（北から）



AⅢ地区S X39土器棺出土状況（北から）



AⅢ地区S X38土器棺出土状況（南から）



AⅢ地区S X40土器棺出土状況（南から）

写真図版 8



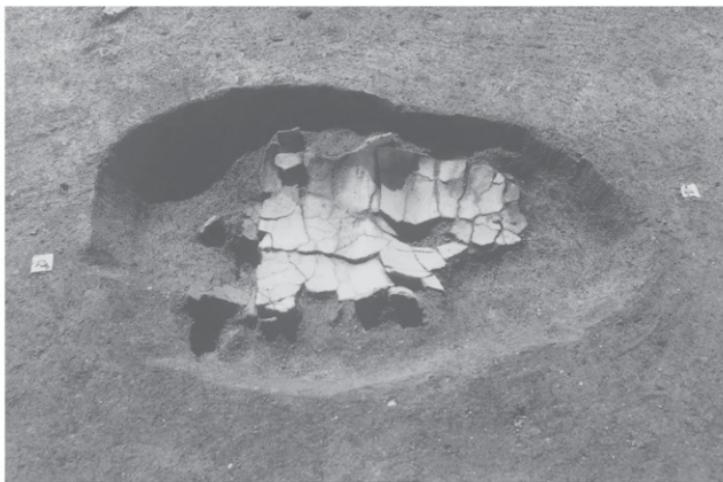
AⅢ地区S X41土器棺出土状況（西から）



AⅢ地区S X44土器棺出土状況（北から）



AⅢ地区S X 43土器棺出土状況（北から）

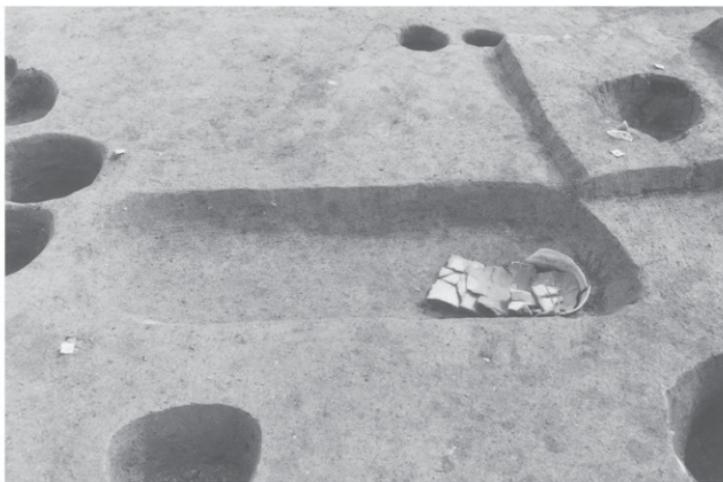


AⅢ地区S X 43土器棺上半部取上後状況（北から）

写真図版10



AⅢ地区S X42土器出土状況（南から）



AⅢ地区S X50遺物出土状況（北から）



AⅢ地区S X50遺物出土状況（東から）

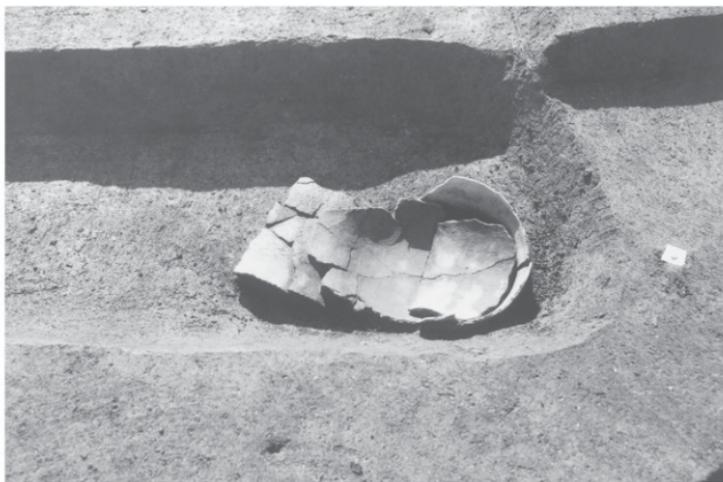


AⅢ地区S X50遺物出土状況近景（東から）

写真図版12



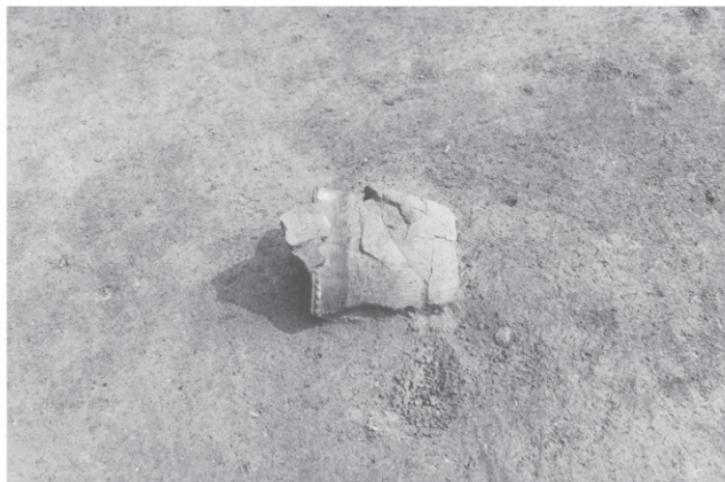
A III地区S X 50遺物出土状況近景（南から）



A III地区S X 50上部土器小片取上後状況近景（北から）



AⅢ地区S X50上部土器小片取上後状況近景（東から）



AⅢ地区S X37遺物出土状況（西から）

写真図版14



AⅢ地区S X32 (北から)



AⅢ地区S X56 (東から)



A III地区 S S61 (南から)



A III地区 S S61 (西から)

写真図版16



AⅢ地区SS62（東から）



AⅢ地区SS64（東から）



A III地区 S S65 (南から)



A III地区 S H11 (北から)

写真図版18



AⅢ地区SHⅡカマド痕跡（北から）



AⅢ地区SHⅡカマド痕跡遺物出土状況（北から）



AⅢ地区SH11完掘状況（北から）



AⅢ地区第2・3検出面調査区全景（北から）

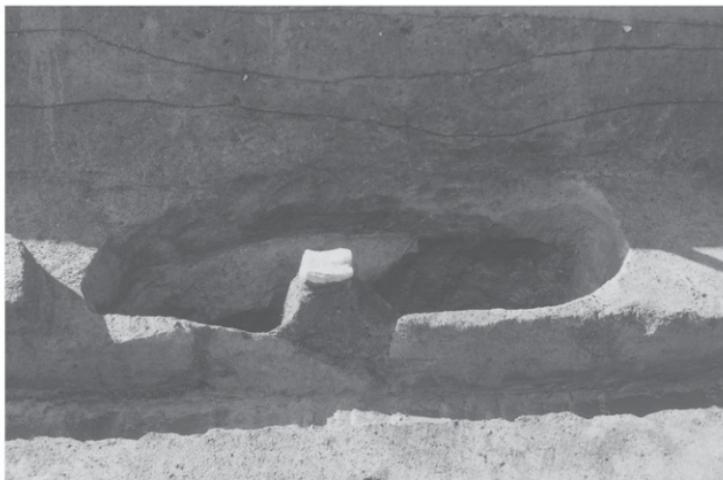
写真図版20



AⅢ地区S K83遺物出土状況（北から）



AⅢ地区S K84遺物出土状況（西から）



AⅢ地区S X85 (東から)



AⅢ地区S X70 (北から)

写真図版22



AⅢ地区SK77 (北から)



AⅢ地区SK73 (西から)



B I・B II 地区調査前状況遠景（北西から）



B I 地区第1検出面調査区全景（南から）

写真図版24



B I 地区第 2 検出面調査区全景（南から）



B I 地区SK100遺物出土状況（北から）

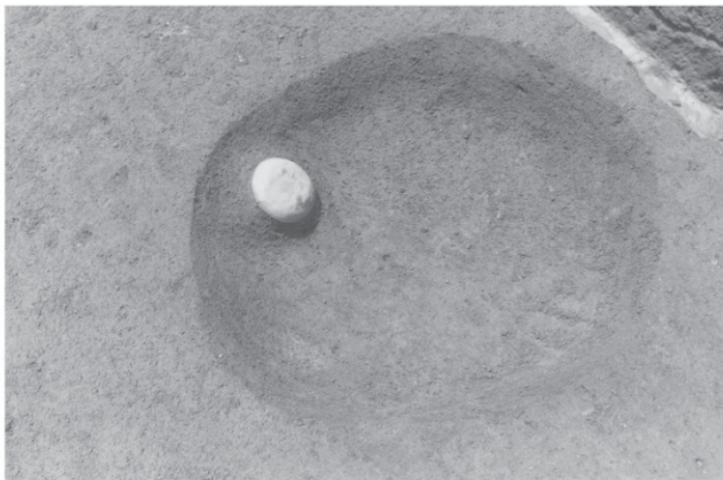


B I地区SK91 (東から)



B I地区SK95 (東から)

写真図版26



B I 地区 S K 105 遺物出土状況（北から）



工事完成後（北から）

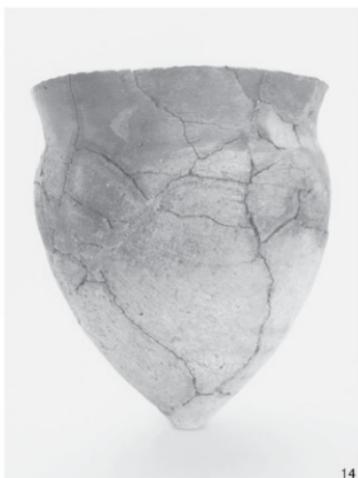


出土遺物I

写真図版28



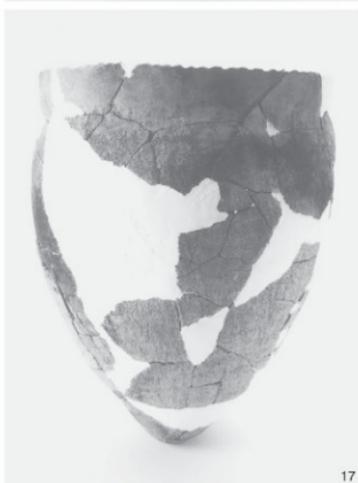
13



14



16



17

出土遺物2



写真図版30



26



27



28



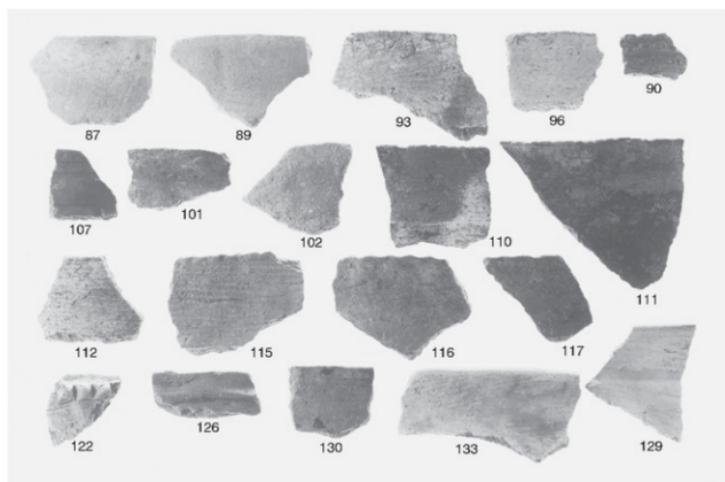
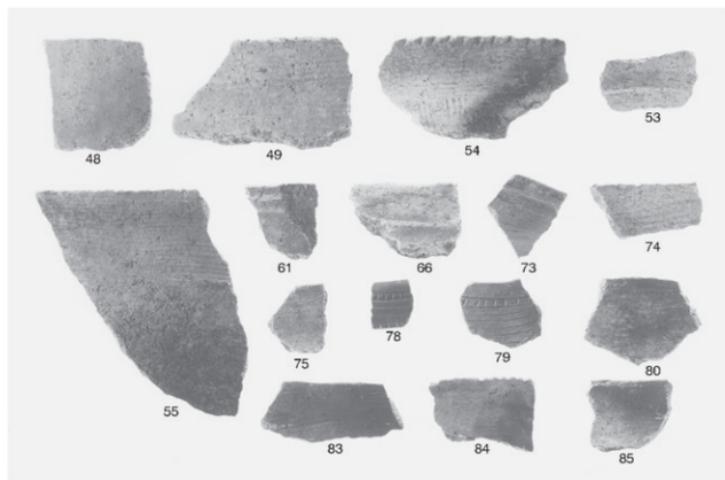
29

出土遺物4

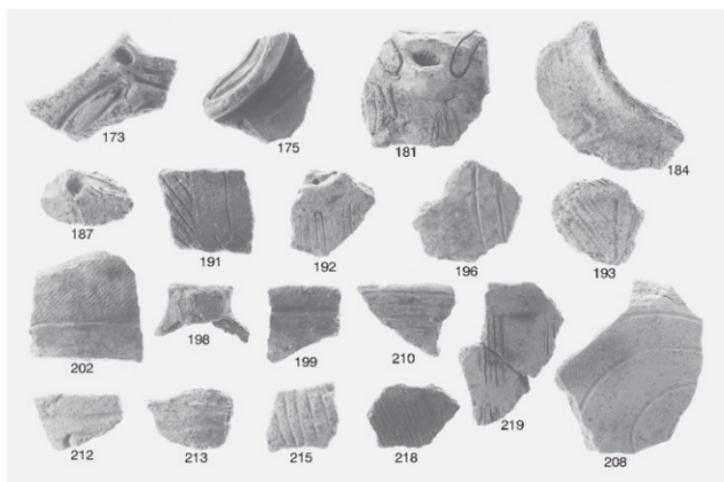
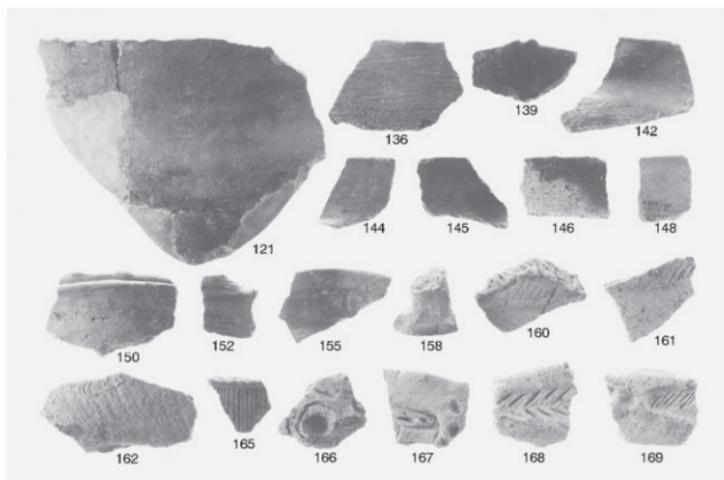


出土遺物5

写真図版32

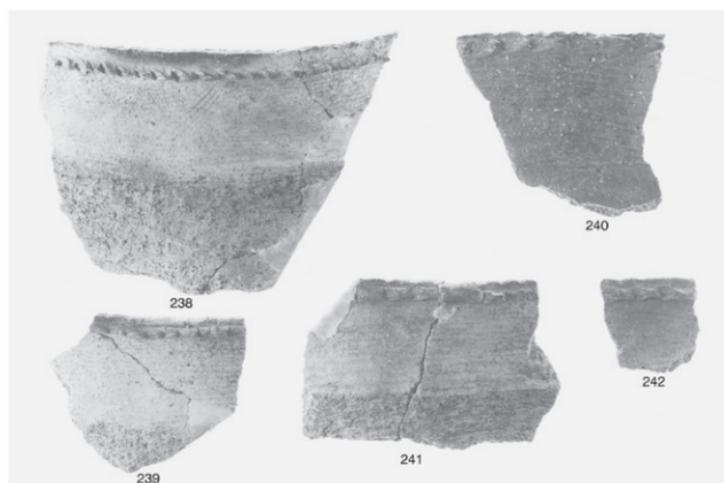
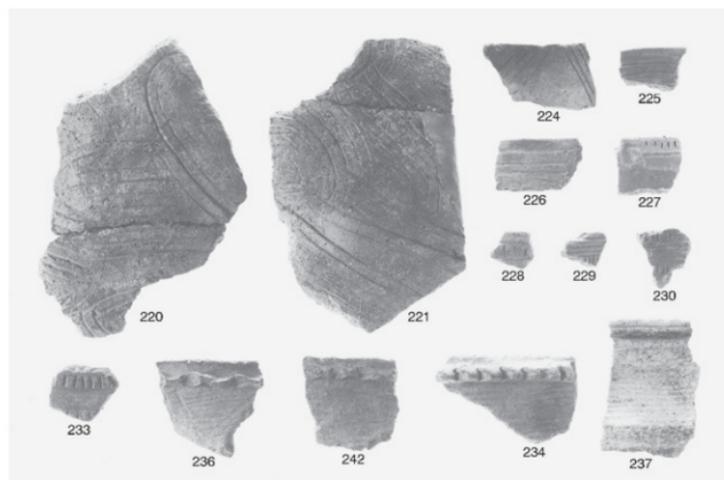


出土遺物6

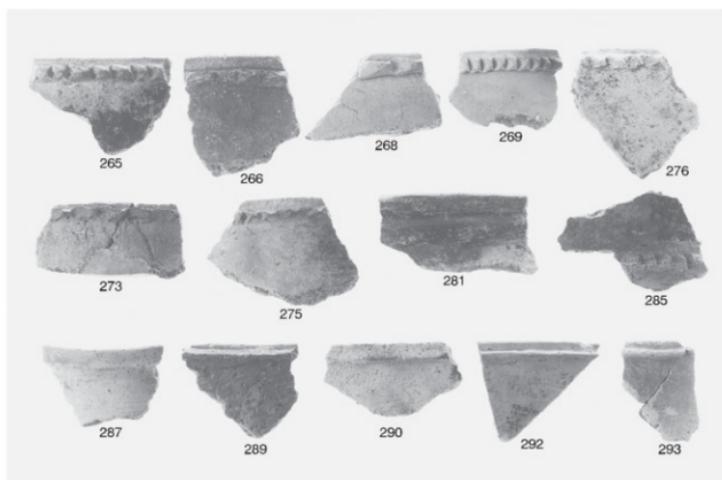
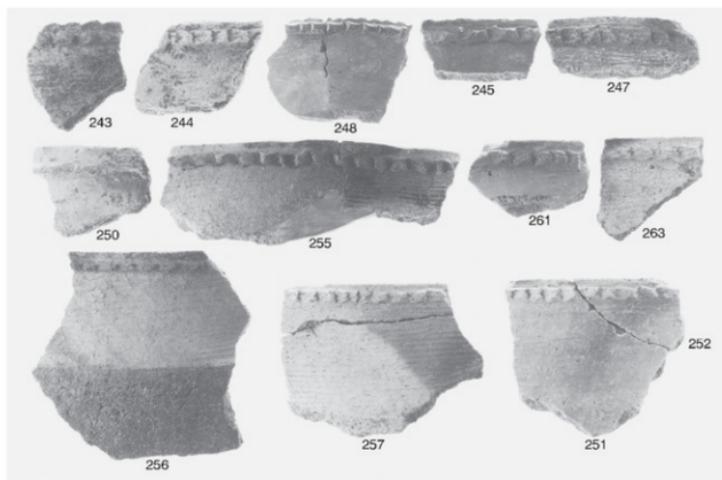


出土遺物7

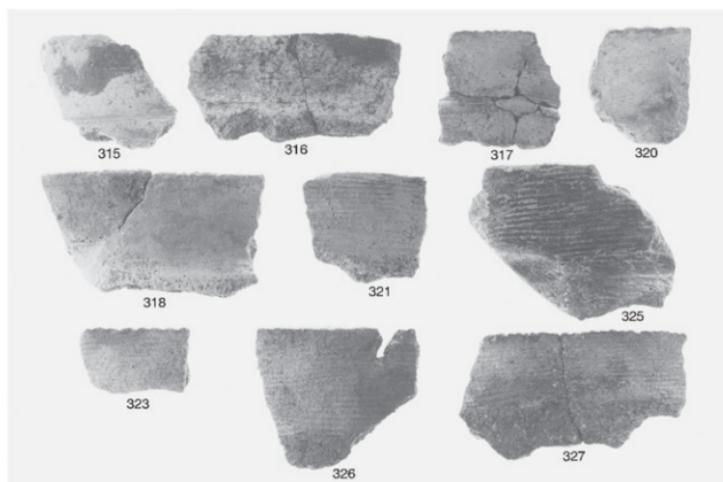
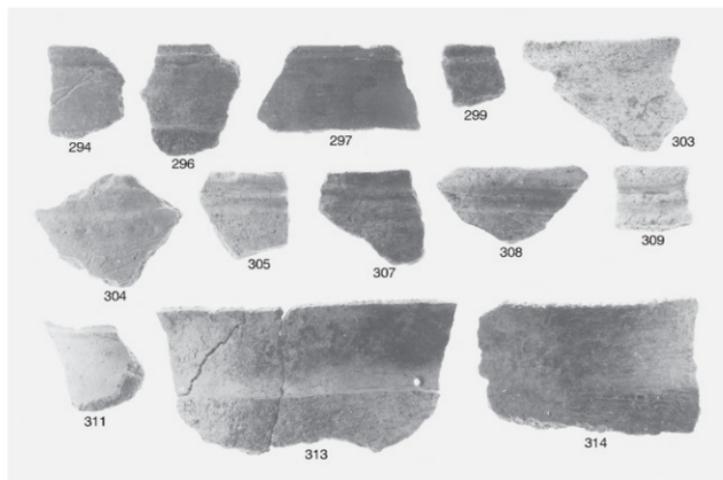
写真図版34



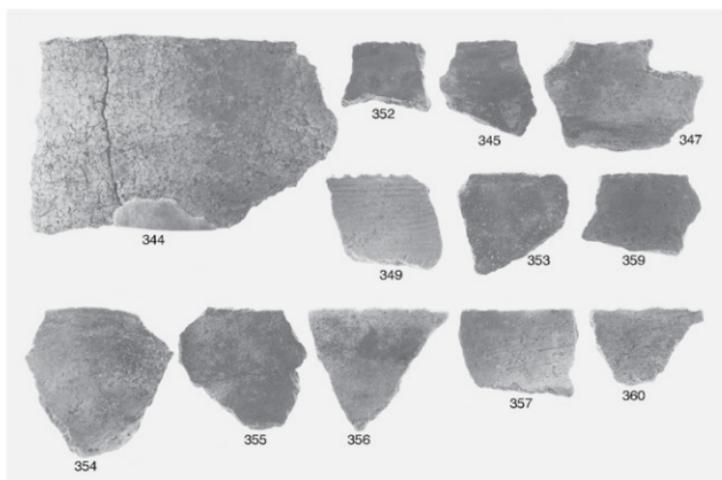
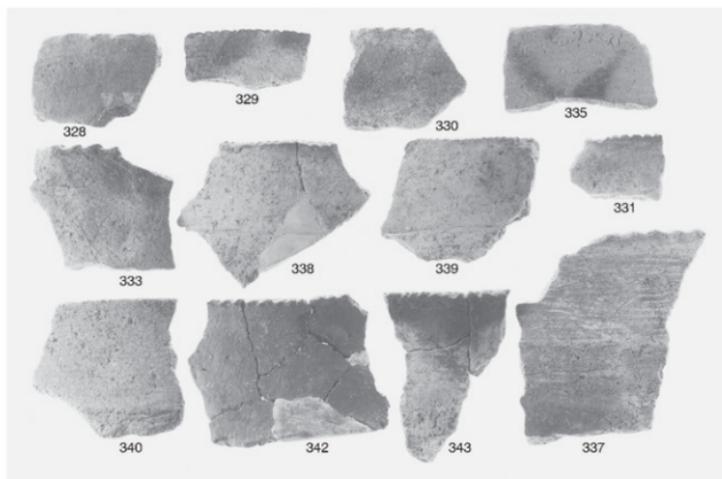
出土遺物8



写真図版36

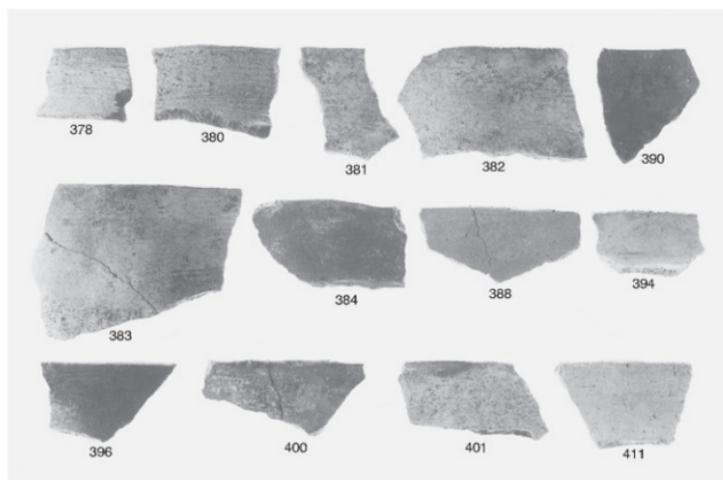
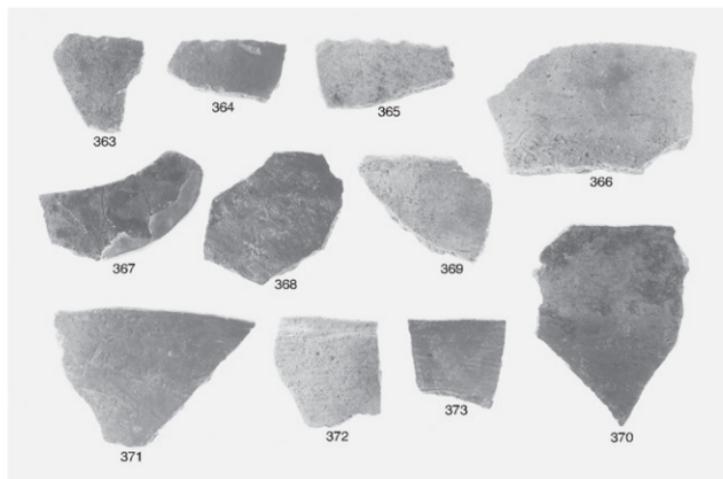


出土遺物10

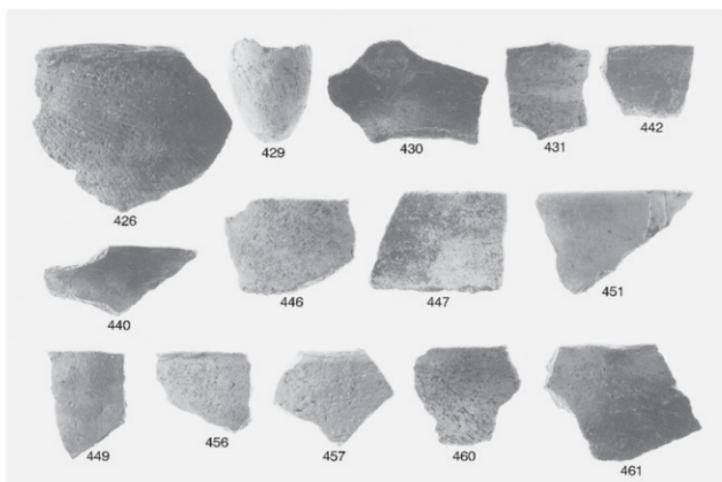
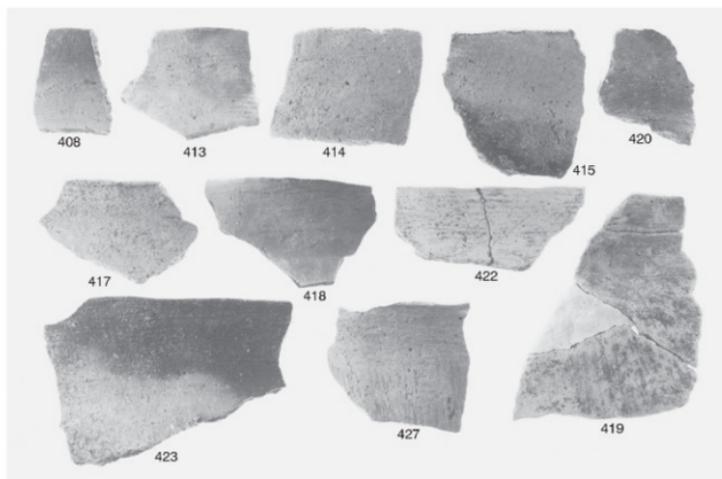


出土遺物11

写真図版38

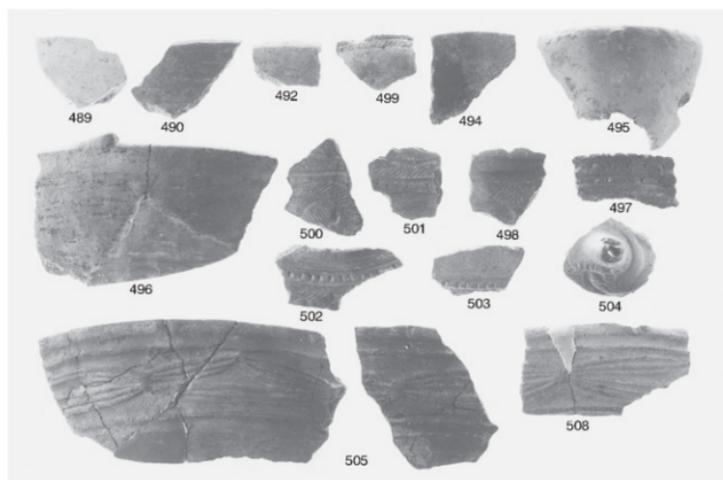
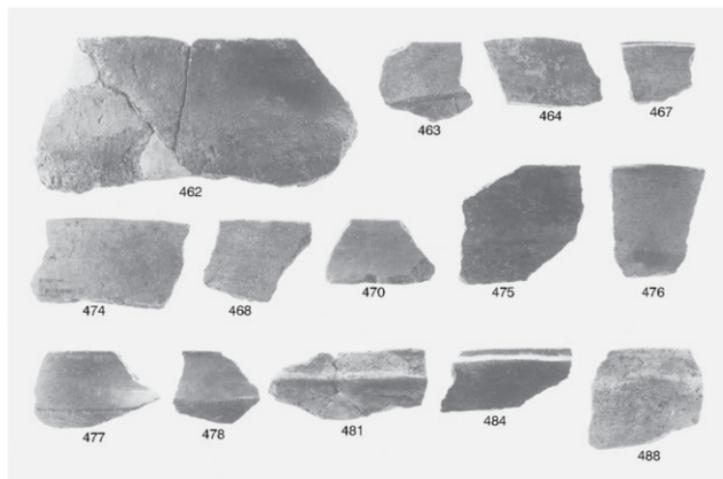


出土遺物12

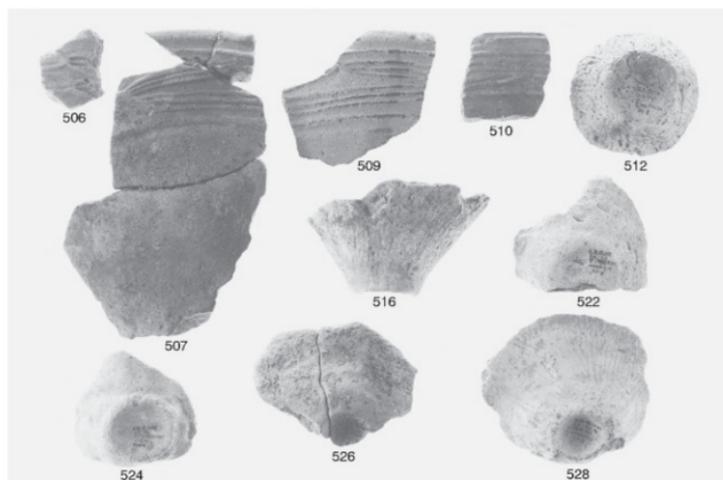


出土遺物13

写真図版40

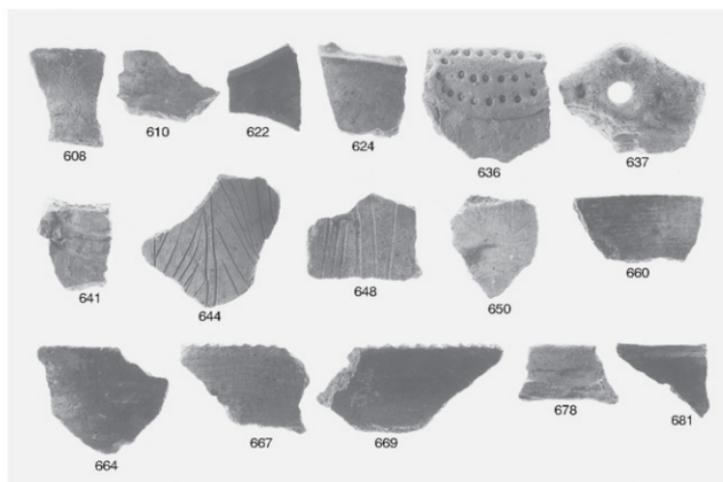
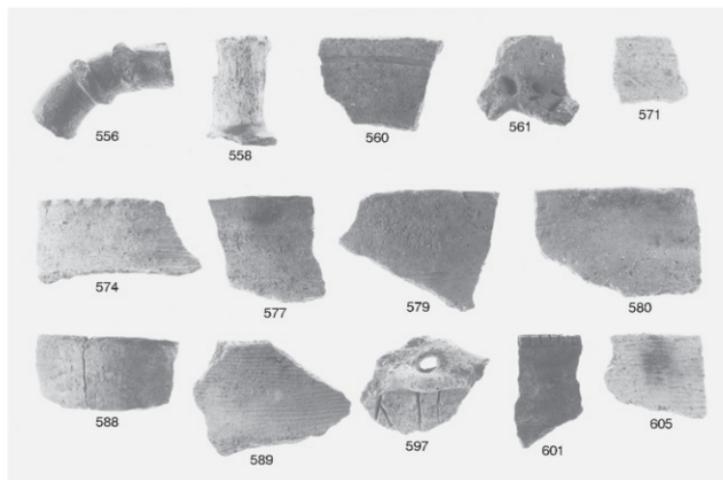


出土遺物14

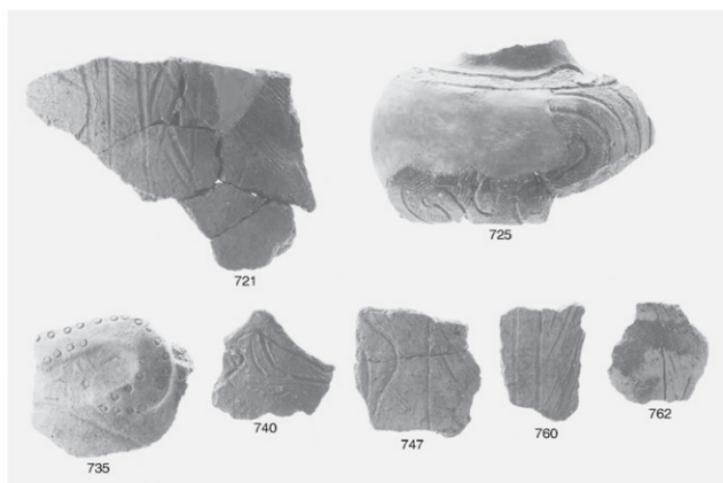
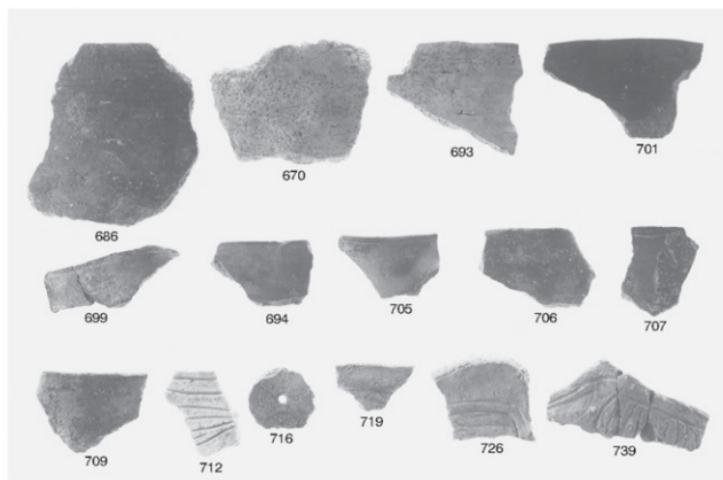


出土遺物15

写真図版42

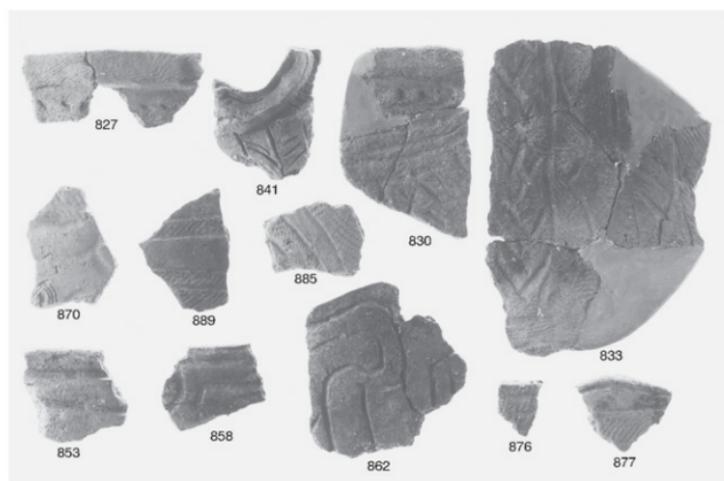
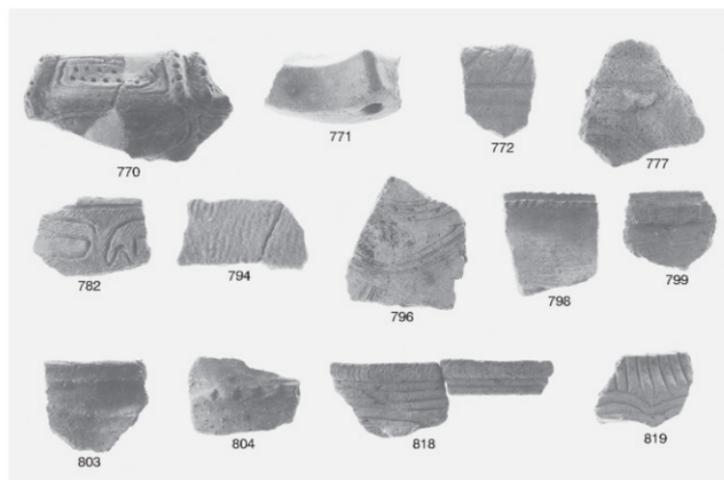


出土遺物16

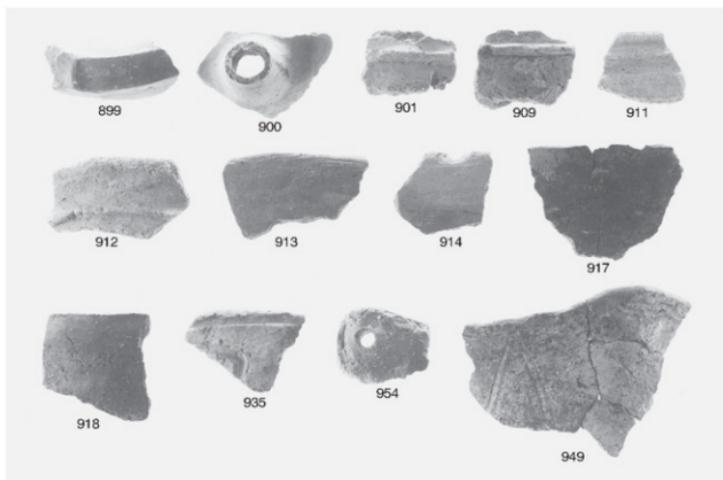


出土遺物17

写真図版44



出土遺物18



出土遺物19

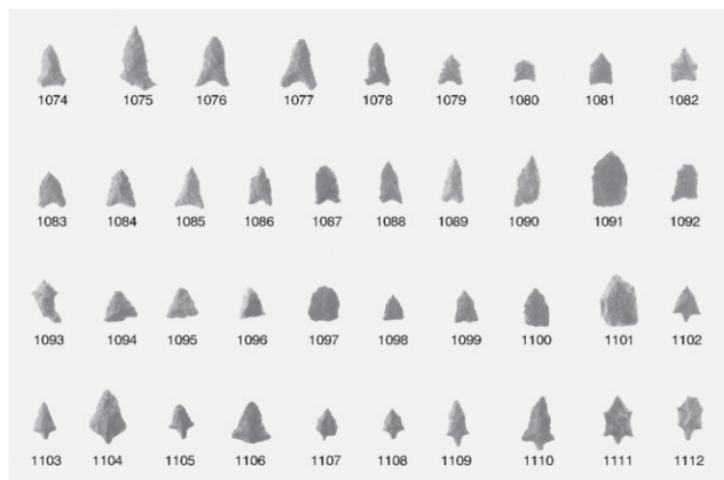
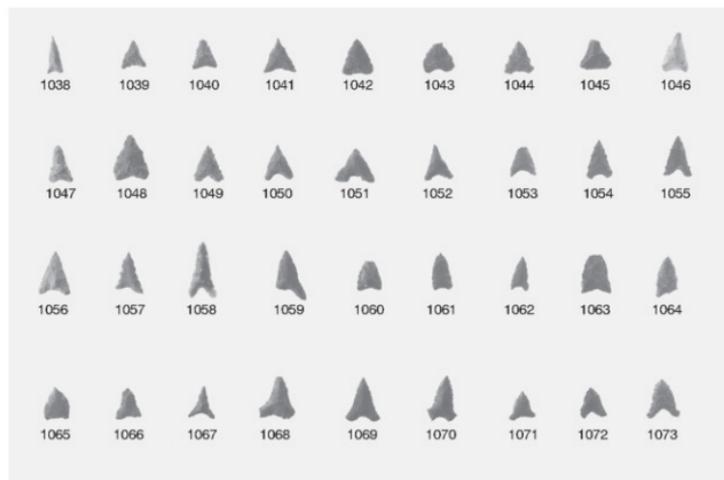
写真図版46



出土遺物20



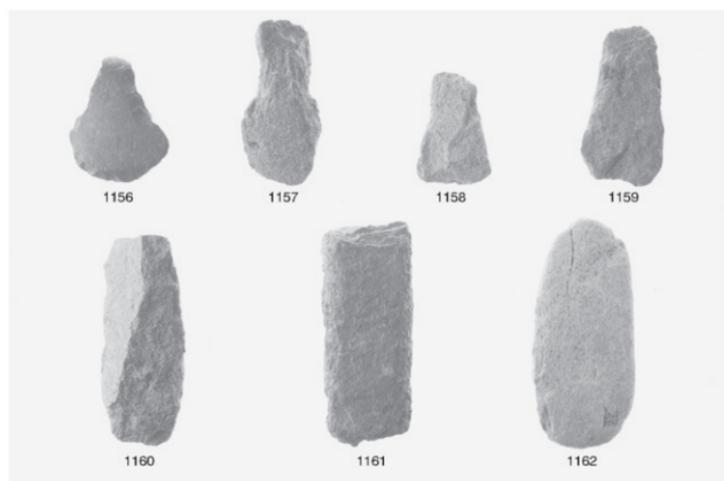
写真図版48



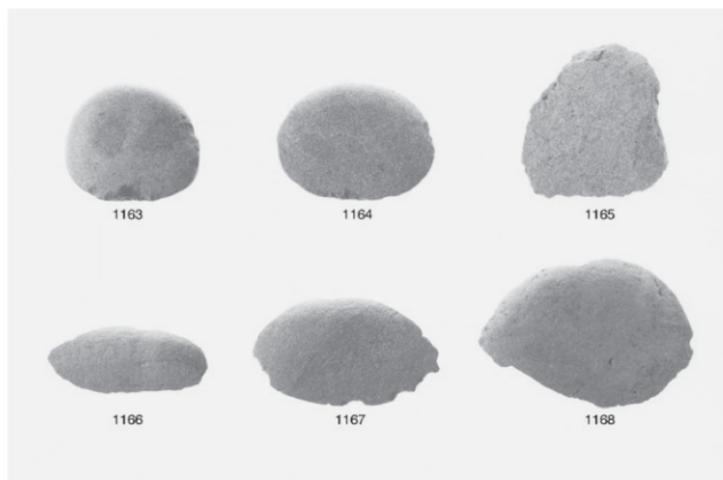
出土遺物22



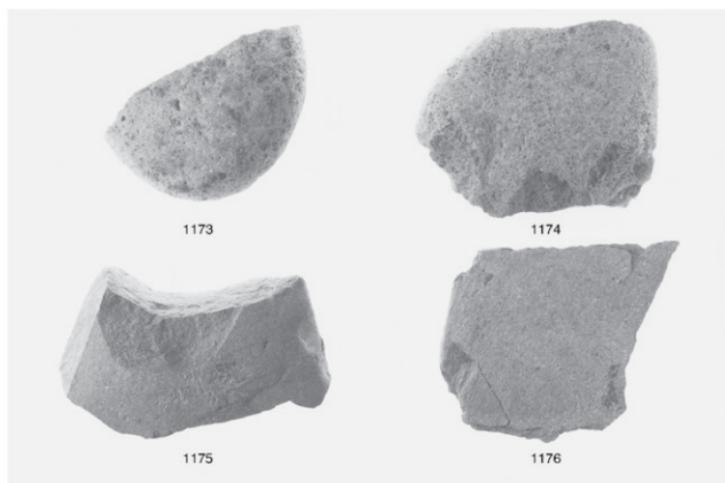
写真図版50



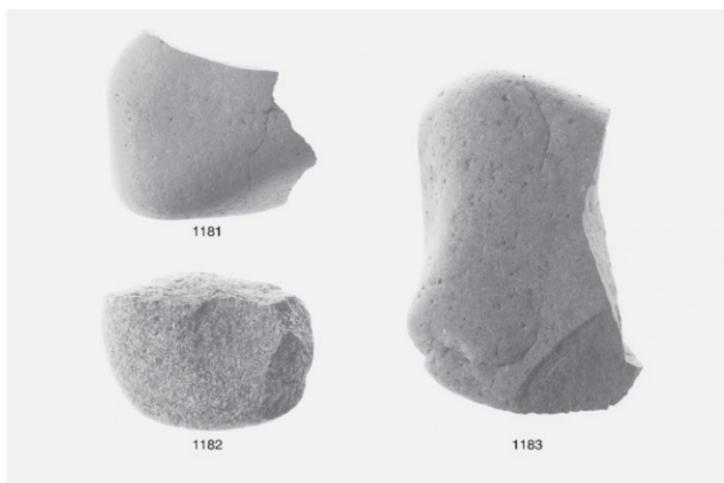
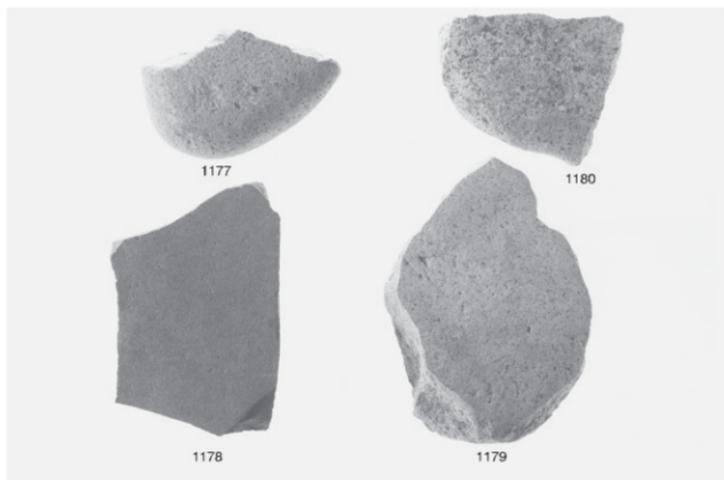
出土遺物24



写真図版52

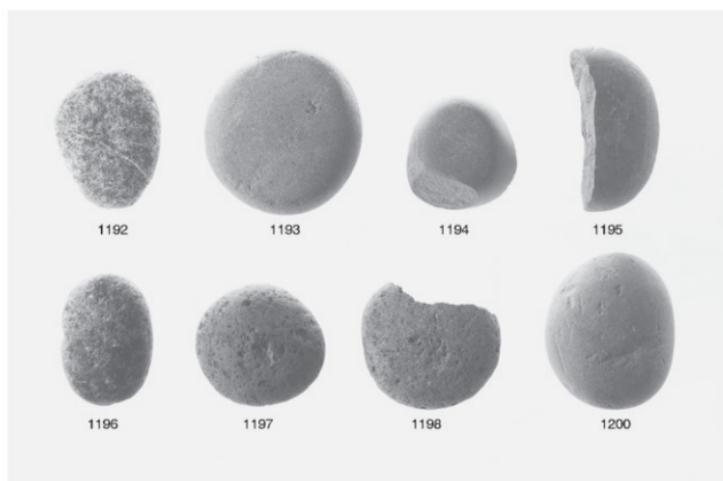
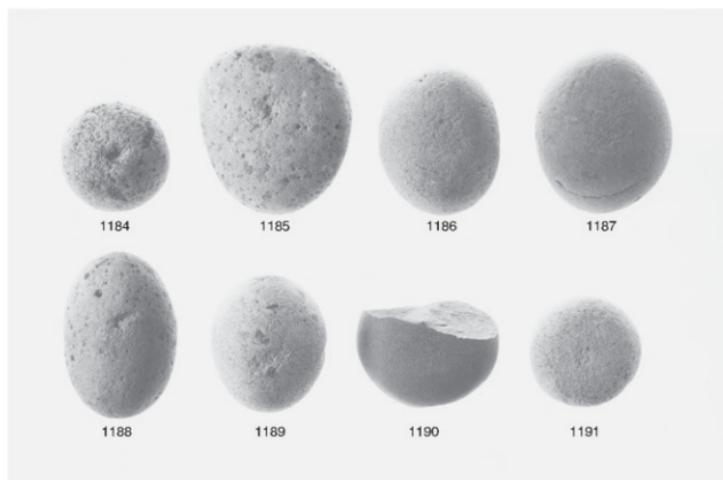


出土遺物26



出土遺物27

写真図版54

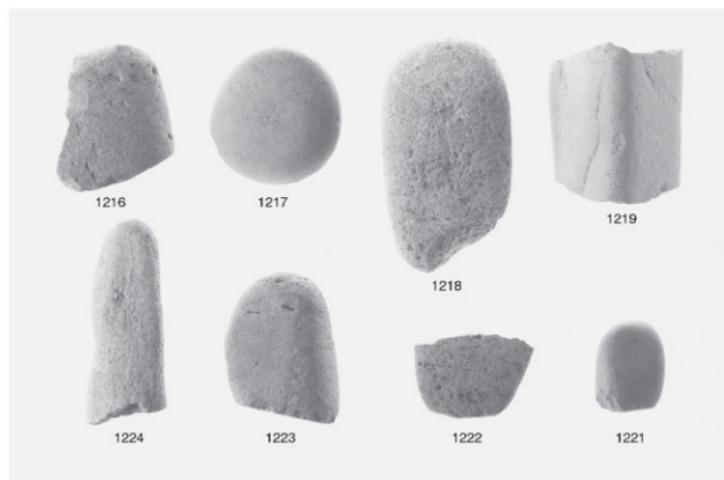


出土遺物28

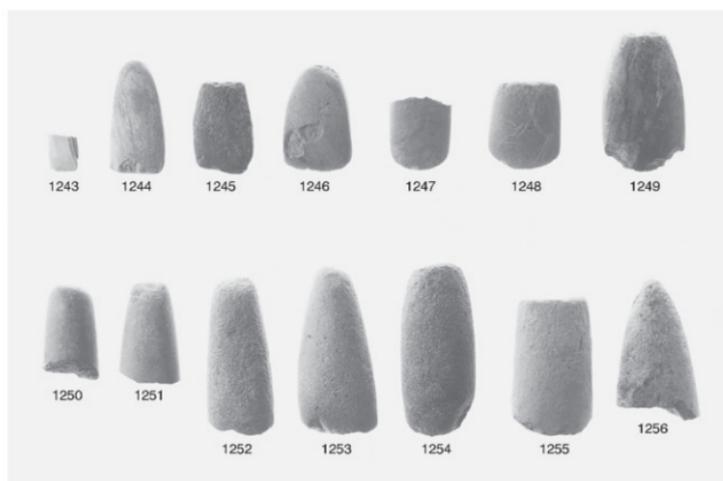
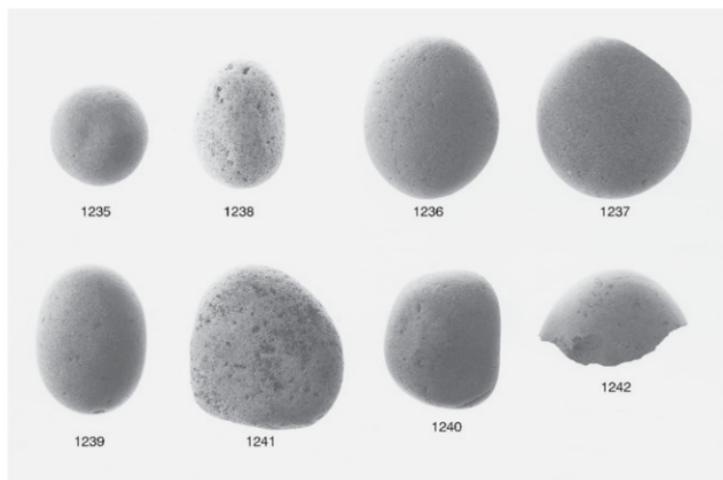


出土遺物29

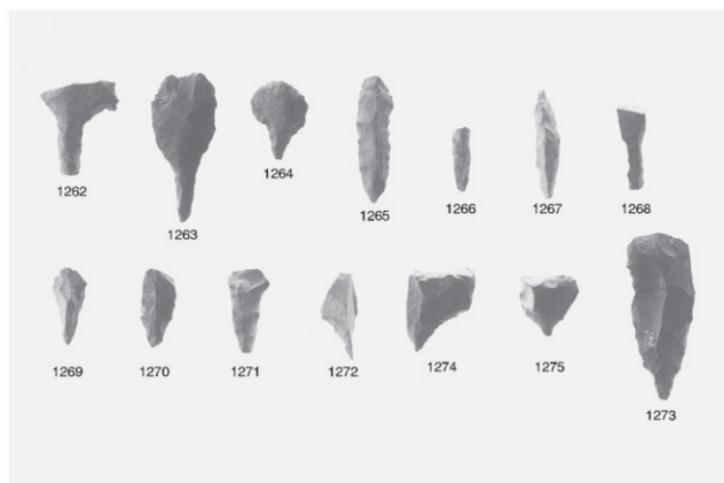
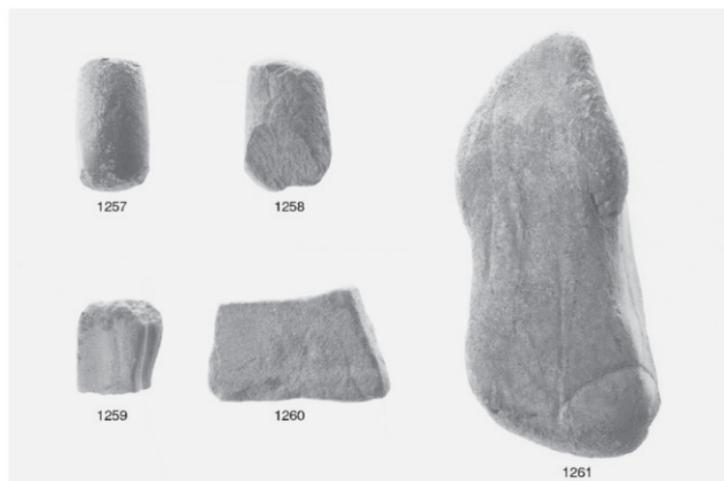
写真図版56



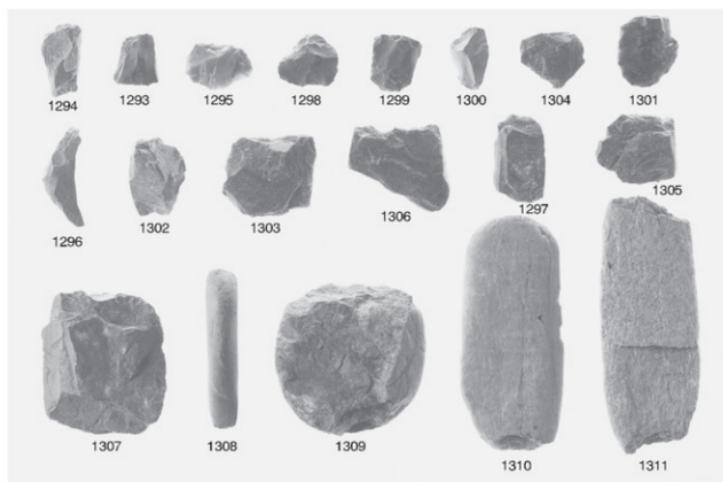
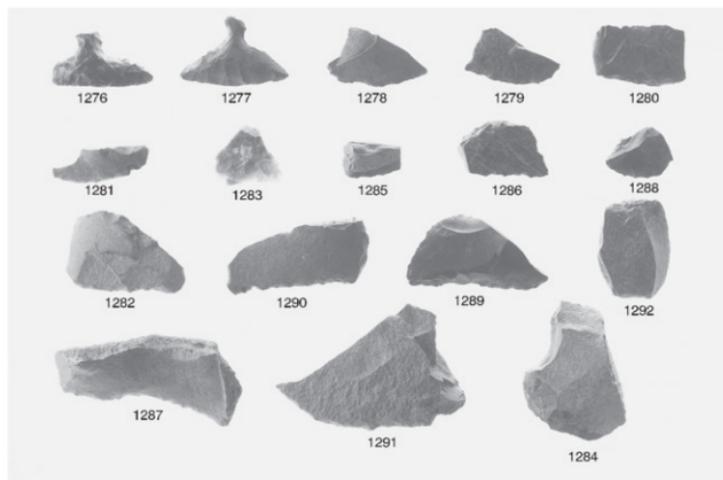
出土遺物30



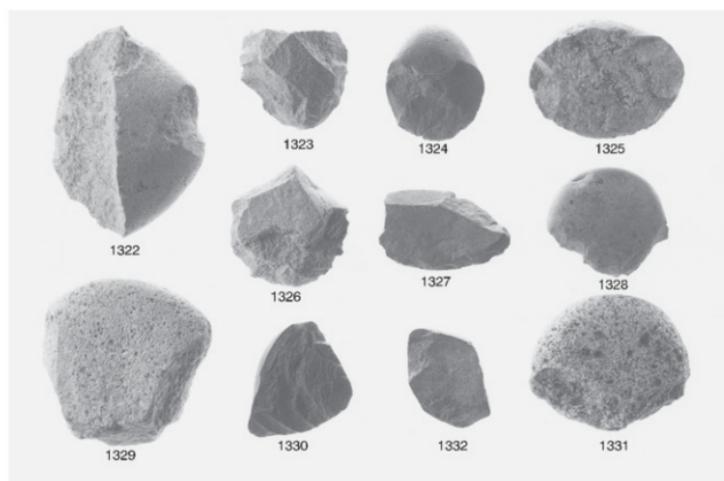
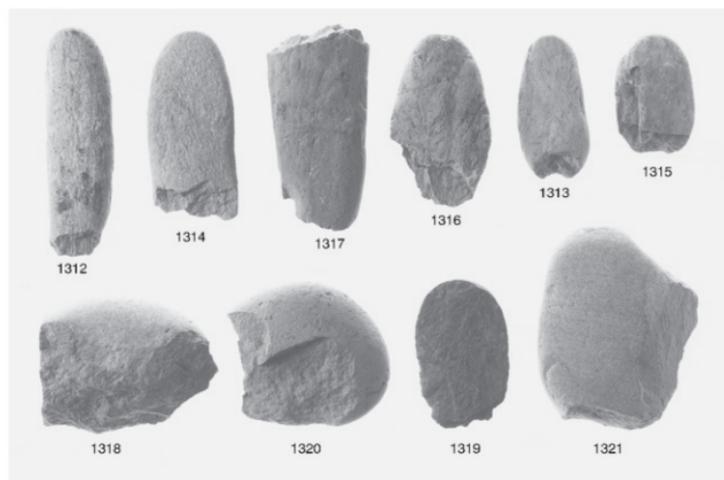
写真図版58



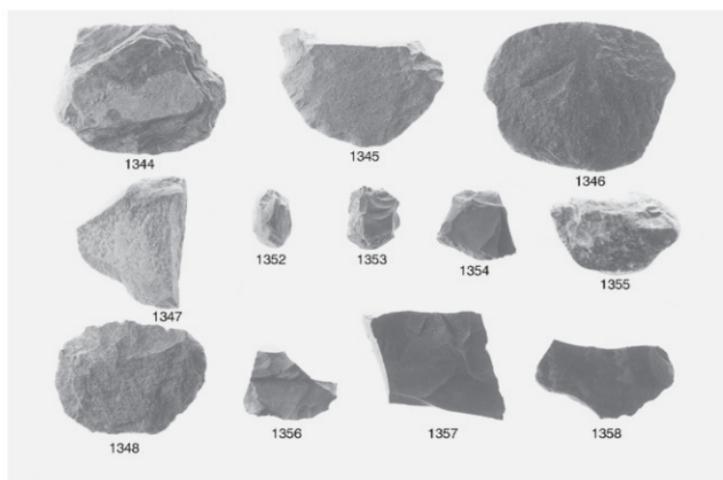
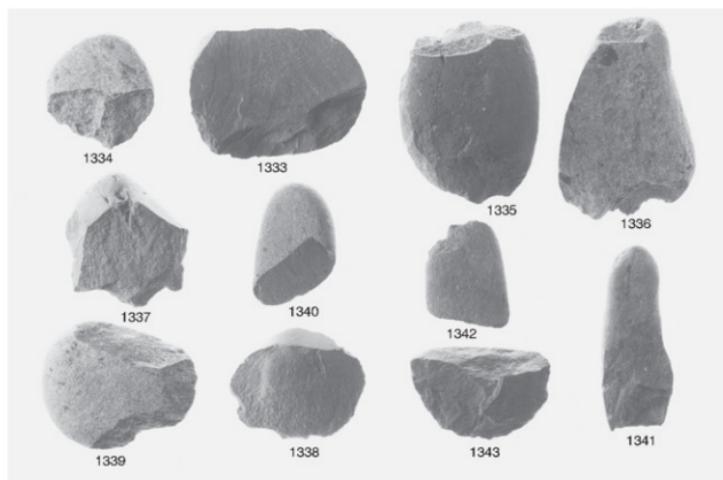
出土遺物32



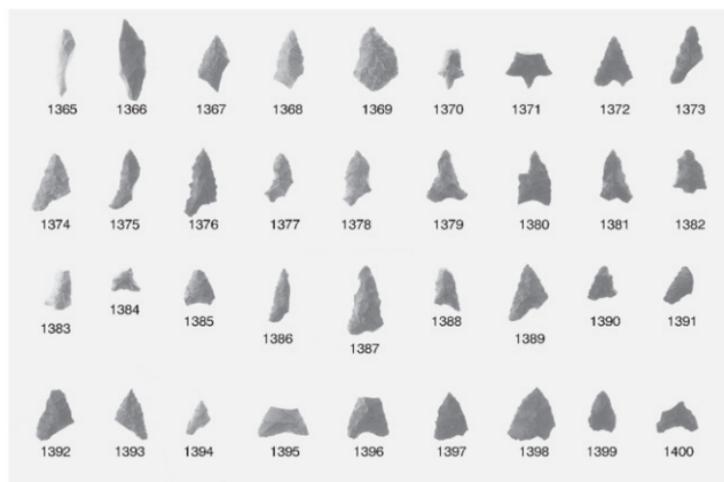
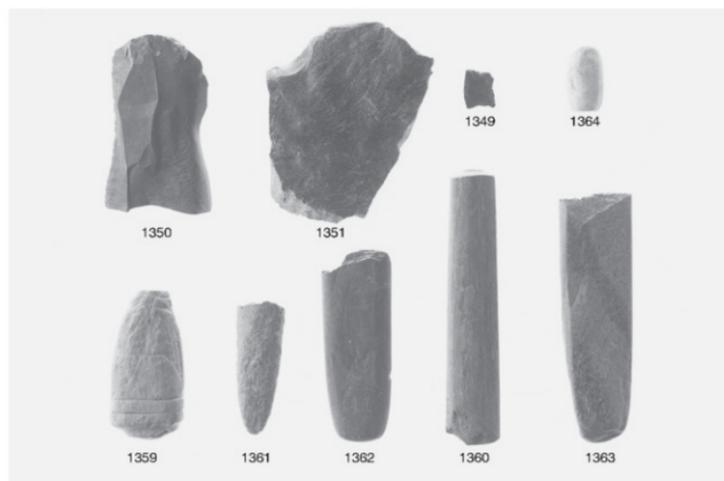
写真図版60



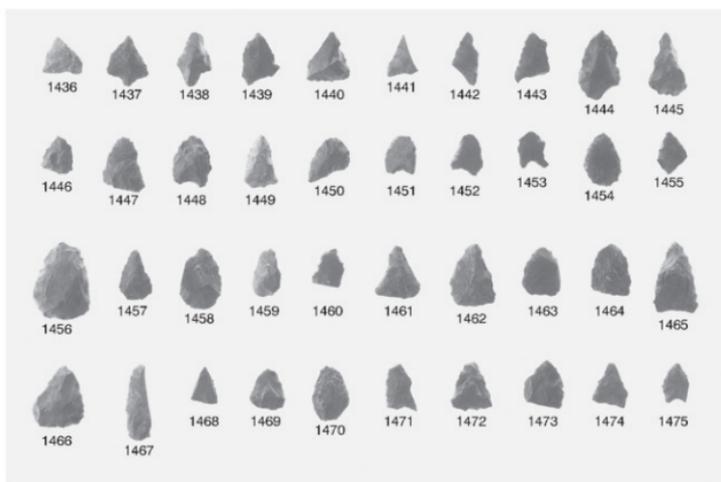
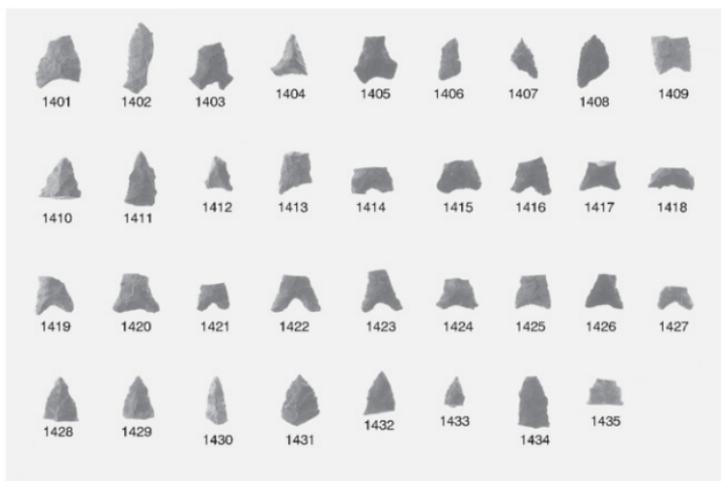
出土遺物34



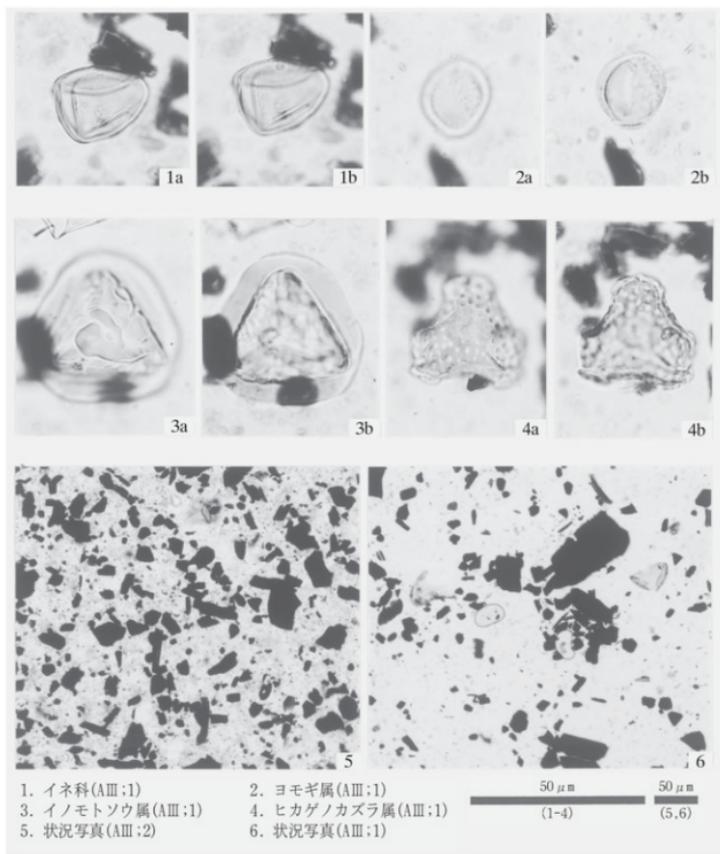
写真図版62



出土遺物36



写真図版64



報告書抄録

ふりがな	おおはらぼりいせきはつくつちようさほうこく だいにじ・さんじちようさ						
書名	大原堀遺跡発掘調査報告 ー第2・3次調査ー						
副書名							
巻次							
シリーズ名	三重県埋蔵文化財調査報告						
シリーズ番号	295						
編著者名	小山憲一、川崎志乃、小濱 学、大下 明、久保勝正						
編集機関	三重県埋蔵文化財センター						
所在地	〒515-0325 三重県多気郡明和町竹川503 TEL0596-52-1732						
発行年月日	西暦2008年3月31日						
ふりがな	ふりがな	コード	北緯 ° ′	東経 ° ′	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地						
大原堀遺跡	三重県松阪市広 瀬町字大原堀・ 西大原堀・山ノ 下	市町村	34 30 22	136 29 35	20020709 ～ 20021224 20030616 ～ 20030811	4,620㎡	平成14・15 年度中山間 事業（茅広 江地区）広 瀬工区下茅 原ほ場整備
	204						
	遺跡番号						
	555						
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
大原堀遺跡	墓跡 集落跡	縄文時代 中期・晩期 奈良時代 平安時代	土器 棺 墓 土 壙 墓 配石 遺構 土 坑 集石 土坑	縄文土器（前期～ 晩期） 石器・石製品（石 鏃・磨製石斧・石錘・ 石刀等）			
要旨	奈良～平安時代の集落跡及び縄文時代晩期の墓跡等を確認。縄文時代晩期の墓跡は立石で区分された土器棺墓、土壙墓からなる墓域を検出した。また、赤色顔料付着の磨石や台石、赤彩土器等が出土し、三重県内では出土が稀な東日本の浮線文系や大洞式系の土器も出土した。						

三重県埋蔵文化財調査報告295

大原堀遺跡発掘調査報告

—第2・3次調査—

2008（平成20）年3月

編集・発行 三重県埋蔵文化財センター

印刷 株式会社アイブレーン

